(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第337集

萩　原　遺　跡
新井大田関遺跡

北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域
埋蔵文化財発掘調査報告書第２７集

２００４

日　本　道　路　公　団
(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団

(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第337集

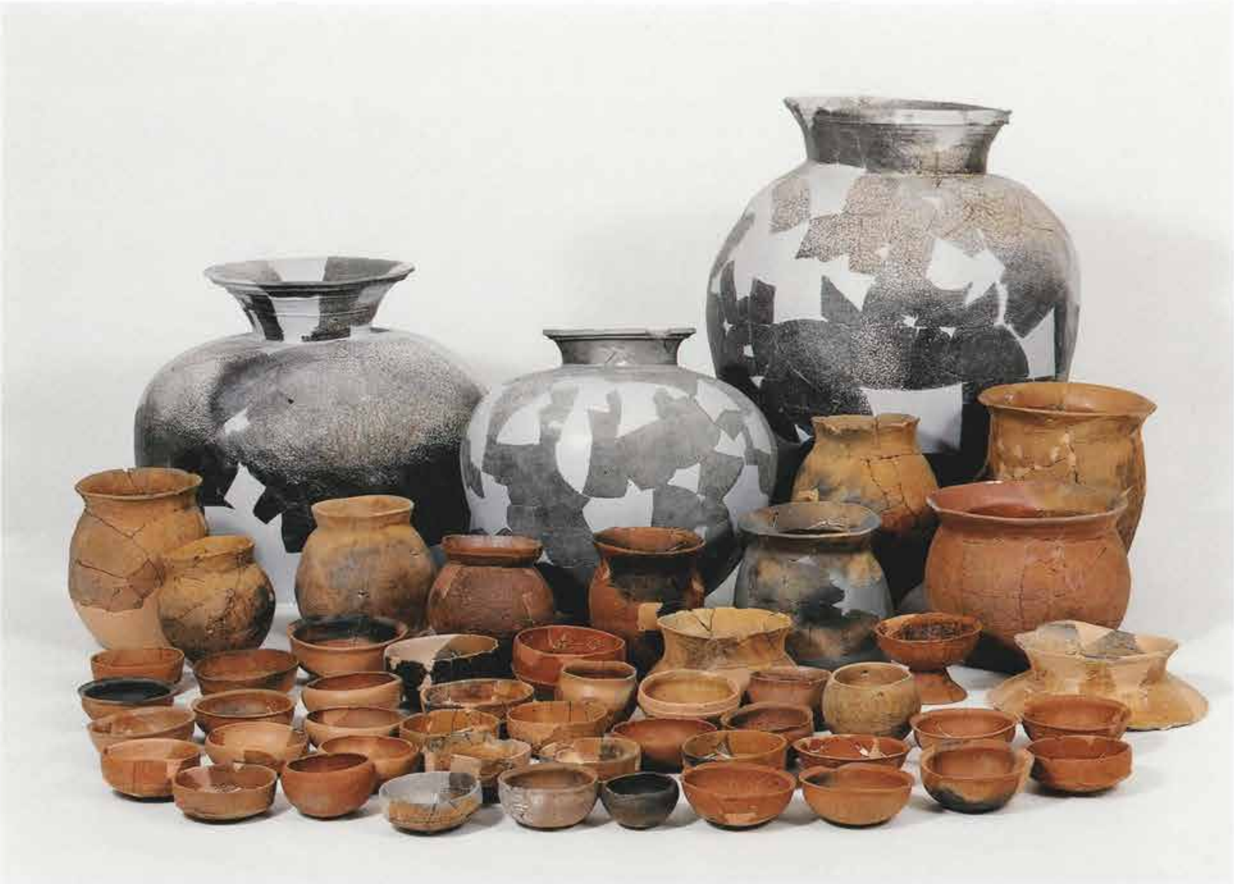
萩　原　遺　跡
新井大田関遺跡

北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域
埋蔵文化財発掘調査報告書第２７集

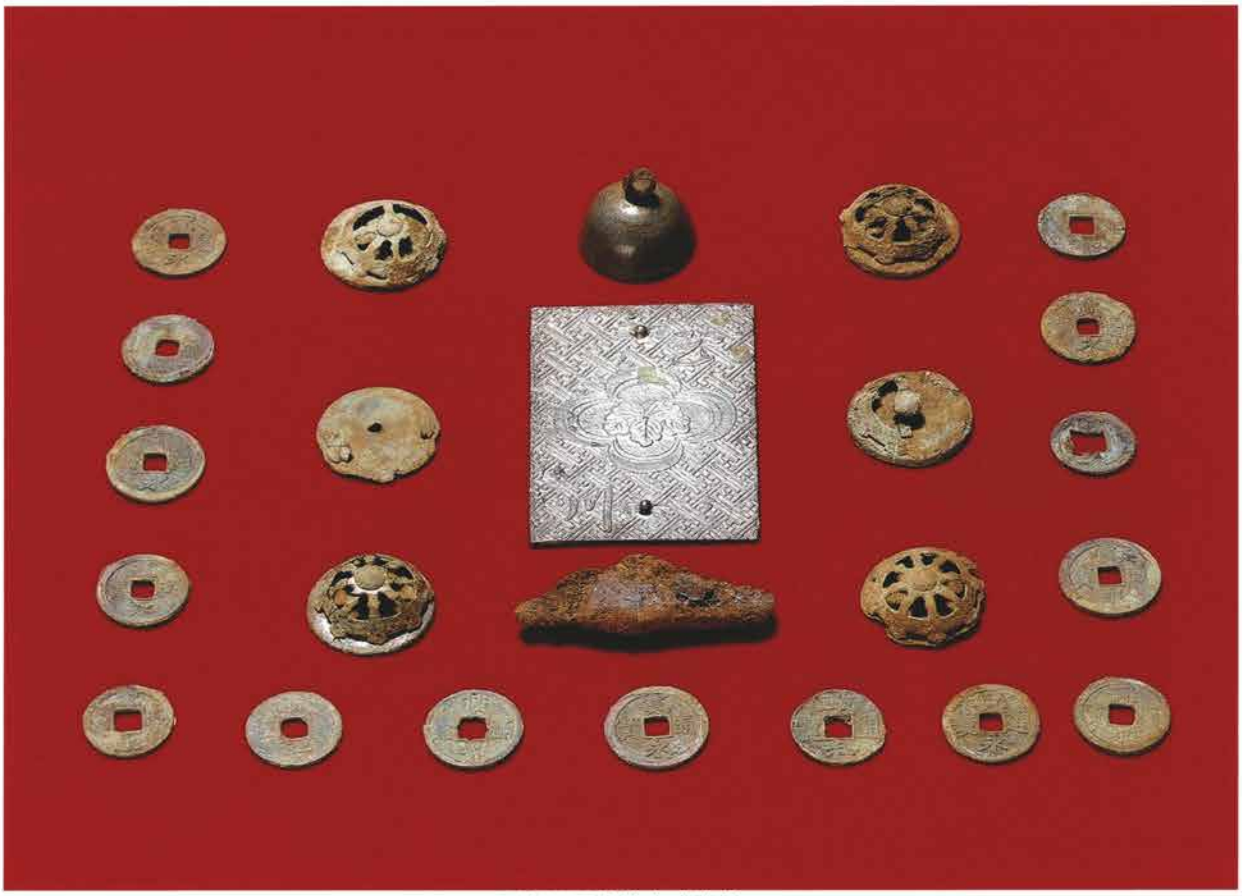
２００４

日　本　道　路　公　団
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団

萩原遺跡全景（西から）



A区32号住居跡出土遺物



D区23号土坑出土遺物

序

北関東自動車道は、本県高崎市の関越自動車道から分岐し、茨城県那珂湊にいたる延長約150kmの高速自動車道であります。その間、群馬・栃木・茨城各県の主要都市及び東北自動車道・常磐自動車道を結び、地域社会の発展に大きな役割を果たすものと期待されています。

この北関東自動車道の高崎～伊勢崎間15kmの建設に先立って、平成７年６月から36の遺跡で発掘調査が行われましたが、当事業団ではその内、31遺跡の発掘調査を担当致しました。

また、それらの整理作業は平成10年度から実施しており、本書『萩原遺跡・新井大田関遺跡』はその第337集として刊行するものです。

萩原遺跡は前橋市二之宮町内に所在し、発掘調査は平成８年度から11年度に、整理は平成15年度に行った。新井大田関遺跡は前橋市新井町に所在し、発掘調査は平成８年度に、整理は平成16年度に行いました。その結果、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代の住居跡、平安時代の火山灰に覆われた水田跡、縄文時代の土坑や陥穴、中世の溝跡や墓壙、近世の溝や墓廣などの遺構や遺物が発見されました。遺跡が発見されたこの辺りは、赤城山南麓の荒砥川や神沢川などの河川によって微高地状と低地が複雑に形成されており、微高地上では集落、低地では水田が営まれていたことが判明致しました。

この様に、地形の特質を生かして各遺構が構築されている状況は、群馬県平野部における古代の人々の生活や生活エリアを考える上で貴重な資料のひとつになるものと確信しております。

最後になりましたが、日本道路公団東京建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会文化課、前橋市教育委員会文化財保護課、地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行まで終始ご協力を賜り、心から感謝の意を表すとともに、発掘調査に携わった担当者、作業員の労をねぎらい序と致します。

平成16年12月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長　小野　宇三郎

例　言

1　本書は、北関東自動車道建設に伴い事前調査された萩原遺跡（KT－170）と新井大田関遺跡（KT－180）の発掘調査報告書である。本書における報告は、両遺跡より検出された縄文時代から近世に至る遺構・遺物を対象とする。

2　萩原遺跡は、群馬県前橋市二之宮町地内に所在する。地番は下記の通りである。

前橋市二之宮町　266-1　266-2　267-1　267-3　268-2　270-1　270-2　276　277
2132-1　2132-2　2133-1　2134-1　2135-1　2146-1　2146-2
2146-3　2148-3　2157-1　2157-2　2157-3　2162-1　2164
2165　2186　2187　2188　2189　2190　2191

新井大田関遺跡は、群馬県前橋市新井町地内に所在する。地番は下記の通りである。

前橋市新井町　158　159

3　萩原遺跡及び新井大田関遺跡の遺跡名は、主体となる区域の町名を冠し、小字名「萩原」「新井大田関」の地元呼称である「はぎわら」「あらいおおたぜき」を採用して遺跡名とした。

4　平成８年度・９年度・10年度・11年度の発掘調査は、日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施されたものである。平成15年度・16年度の整理事業は、日本道路公団から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が委託を受けて実施したものである。

5　発掘調査期間、整理期間は次の通りである。

萩原遺跡発掘調査	平成８年度調査	平成８年11月１日～平成９年３月31日
	平成９年度調査	平成９年４月１日～平成９年６月31日
	平成10年度調査	平成10年12月１日～平成11年３月31日
	平成11年度調査	平成11年４月１日～平成11年８月31日
整理事業	平成15年度	平成15年４月１日～平成16年３月31日
新井大田関遺跡発掘調査	平成８年度調査	平成８年12月１日～平成９年３月31日
整理事業	平成16年度	平成16年７月１日～平成16年９月31日

6　発掘調査及び整理事業の体制は次のとおりである。

菅野　清　小野宇三郎　原田恒弘　赤山容造　吉田　豊　住谷永市　神保侑史　住谷　進
渡辺　健　萩原利通　矢崎俊夫　水田　稔　能登　健　平野進一　真下高幸　右島和夫　中束耕志
相京建史　小渕　淳　丸岡道雄　坂本敏夫　大島信夫　笠原秀樹　井上　剛　国定　均　小山健夫
高橋房雄　竹内　宏　須田朋子　吉田有光　柳岡良宏　宮崎忠司　岡嶋伸昌　片岡徳雄　田中賢一
森下弘美　阿久沢玄洋　栗原幸枝　佐藤聖行　今井もと子　内山佳子　若田　誠　佐藤美佐子
本間久美子　北原かおり　狩野真子　松下次男　吉田　茂　大澤友治

萩原遺跡調査担当

平成８年度　綿貫邦男　坂口　一　間庭　稔　井上哲男　津島秀章

平成９年度　坂口　一　須田貞崇

平成10年度　飯田陽一　蜂須賀里佳　齋藤幸男

平成11年度　飯田陽一　伊平　敬　安藤剛史　吉田和夫　内田敬久

整理担当　伊平　敬

新井大田関遺跡調査担当

坂口　一　津島秀章　須田貞崇

整理担当　須田　正久

7　本書作成の担当はつぎのとおりである。

編　集　伊平　敬　須田　正久

本文執筆	Ⅰ	発掘調査と遺跡の概要	調査に至る経緯	中東耕志
	Ⅱ	萩原遺跡の調査	検出された遺構と遺物（7）	大木紳一郎
			検出された遺構と遺物（9）	麻生敏隆
			検出された遺構と遺物（10）	
			遺物観察表・縄文石器	麻生敏隆
			遺物観察表・縄文土器	山口逸弘
			遺物観察表・弥生土器	大木紳一郎
			上記以外	伊平　敬
	Ⅲ	新井大田関の調査	検出された遺構と遺物（1）～（4）	坂口　一
			遺物観察表	坂口　一
			上記以外	須田　正久

遺構写真撮影　各調査担当者

遺物写真撮影　佐藤元彦

金属器保存処理　関　邦一　小材浩一　土橋まり子　高橋初美

機械実測　富沢スミ江　伊東博子　岸　弘子　廣津真希子　田中精子　酒井史恵

石器実測　星野春子　牧野裕美　市田武子　高橋美穂子　船津博子　安藤美奈子

萩原遺跡整理補助　伊藤淳子　山崎由起枝　尾田正子　飯田文子　小久保ヒロミ　高橋初美

新井大田関遺跡整理補助　伊籐淳子　星野春子　吉沢やよい　猪野熊洋子　船津博子

8　石材鑑定は群馬県地質研究会の飯島静男氏にお願いした。

9　基準測量及び遺構実測の一部・空中写真撮影を技研測量設計株式会社に委託した。

10　自然科学分析のうち、プラント・オパール分析は株式会社古環境研究所、炭化材の木材同定は株式会社パレオ・ラボに委託した。

11　出土遺構、出土遺物のトレースを株式会社測研に一部委託した。

12　発掘調査資料、出土遺物は群馬県埋蔵文化財調センターに保管している。

13　発掘調査及び報告書作成では、以下の方にご協力・ご指導いただいた。記して感謝の意を表したい。
(順不同　敬称略)　群馬県教育委員会　前橋市教育委員会　足利市教育委員会　山岸良二　中島直樹

凡　　例

1　遺構図に使用した方位は、国家座標の北を表している。国家座標は日本測地系を使用している。

2　挿図に使用したグリッドポイントは、国家座標の［南北軸・東西軸］を表す。呼称は南北を前に、東西を後にし、本文または表中のグリッド標記は南東隅にくるグリッドを記載した。

3　遺構断面実測図、等高線に記した数値は標高を表し、単位はｍを用いた。

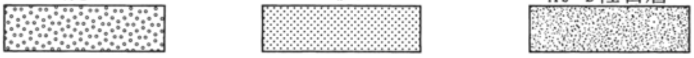
4　遺構名称は各調査区で遺構の種類毎に通し番号を付け、調査区・番号・種類で呼称した。

5　遺構図については基本的に下記の縮尺で掲載したが、一部縮尺の異なるものがあるので各挿図中にスケールを貼付してある。また、各遺構の主軸方向は、下記の基準で計測した。住居の主軸方向は竈の敷設された辺に直行する辺の角度を計測した。竈の検出されなかった住居は、長軸・短軸のうち長軸を主軸方向とした。角度は真北を基準に、東西両方位振角を採用した。

竪穴住居1/60　住居竈1/30　掘立柱建物1/60　溝1/250　畑1/250　水田1/250（断面図1/60）
土坑1/40　井戸1/40（断面図1/40）　遺構全体図1/400（断面図1/100）

6　遺構図中のスクリーントーンは、下記の通りである。

焼土　　灰　　As-B軽石層



7　遺物図の縮尺は下記の通りである。一部縮尺の異なるものは各挿図中にスケールを貼付してある。

土器及び陶磁器（縄文・弥生・土師器等の土器片1/2、1/3　青磁片・パレス壺片・墨書土器片2/3
杯・椀・皿・灯明具・土器1/3　鉢・壺類・甕類・内耳鍋・擂鉢1/4　須恵大甕1/8）
石器（打製石鏃1/1　削器・石核・打製石斧1/2）　土製遺物（瓦1/3　土錘・銅鏡模造品1/2）
金属製遺物（鎌・鉄鏃1/3　鉄滓1/2　古銭・飾り金具・鏡・鈴・櫛2/3）
石製遺物（紡錘車1/2　石製模造品1/2　砥石・磨石・敲石1/3　石皿・石臼1/6　五輪塔1/6）

8　遺物図中に使用したスクリーントーンは、下記のとおりである。

灰釉　　青磁、陶磁器釉範囲　　煤範囲　　布　　擦石使用面

9　遺物写真は、遺物実測図と基本的にほぼ同じ縮尺で掲載してある。（但し破片資料については多少拡大）

10　本書で使用した地形図は下記のとおりである。

国土地理院　1:25,000「前橋」

11　遺物観察表の土器の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色貼」に拠った。

12　本書では、テフラの呼称として下記の記号を用いる。

テフラ等の名称	略　語	年　代	テフラ等の名称	略　語	年　代
浅間Ａ軽石	As-A	1783年（天明３年）	榛名二ッ岳渋川テフラ	Hr-FA	６世紀初頭
浅間Ｂ軽石	As-B	1108年（天仁元年）	浅間間Ｃ軽石	As-C	４世紀初頭

目　次

口絵
序
例言
凡例
目次
抄録

Ⅰ　発掘調査と遺跡の概要
　1　調査に至る経緯 ……1
　2　遺跡の地理的環境 ……2
　3　遺跡の歴史的環境 ……4

Ⅱ　萩原遺跡の調査
　1　調査方法と調査経過 ……10
　2　基本土層 ……11
　3　検出された遺構と遺物 ……12
　（1）　遺跡の概要 ……12
　（2）　竪穴住居跡 ……16
　（3）　掘立柱建物跡 ……100
　（4）　水田・畑 ……102
　（5）　溝 ……108
　（6）　土坑・墓壙 ……116
　（7）　縄文晩期～弥生初頭の土坑 ……150
　　　（土器埋置）
　（8）　井戸 ……151
　（9）　遺構外出土遺物 ……153
　（10）　遺物観察表 ……167
　（11）　掲載外遺物 ……211
　（12）　自然科学分析 ……214

Ⅲ　萩原遺跡成果とまとめ ……224

Ⅳ　新井大田関遺跡の調査
　1　調査方法と調査経過 ……229
　2　基本土層 ……230
　3　検出された遺構と遺物 ……231
　（1）　遺跡の概要 ……231
　（2）　第1面 ……231
　（3）　第2面 ……235
　（4）　第3面 ……241
　（5）　遺物観察表 ……245
　（6）　自然科学分析 ……249

Ⅴ　新井大田関遺跡の調査成果 ……259

写真図版
萩原遺跡
新井大田関遺跡
萩原遺跡付図

挿図目次

第１図　萩原遺跡・新井大田関遺跡位置図 ……1
第２図　地形分布図（『前橋市史』『伊勢崎市史』自然編） ……2
第３図　明治18年迅速測図（萩原、新井大田関周辺） ……3
第４図　萩原遺跡・新井大田関遺跡周辺の遺跡位置図 ……5
第５図　周辺遺跡（縄文、弥生） ……8
第６図　周辺遺跡（古墳、奈良・平安、中世、近世） ……9
第７図　基本土層模式図 ……11
第８図　検出遺構全体分布図 ……12
第９図　縄文時代・弥生時代の検出遺構分布図 ……12
第10図　古墳時代の検出遺構分布図 ……13
第11図　平安時代の検出遺構分布図 ……13
第12図　中世の検出遺構分布図 ……14
第13図　近世・近代・時期不明の検出遺構分布図 ……14
第14図　検出遺構全体分布図（Ａ・Ｂ・Ｄ・Ｅ区） ……15
第15図　Ａ区４号住居跡、出土遺物 ……16
第16図　Ａ区11号住居跡、出土遺物 ……17
第17図　Ａ区37号住居跡、出土遺物 ……18
第18図　Ａ区13号住居跡、出土遺物 ……19
第19図　Ａ区13号住居跡掘り方、出土遺物 ……20
第20図　Ａ区14号住居跡、出土遺物 ……21
第21図　Ａ区14号住居跡掘り方 ……22
第22図　Ａ区25号住居跡 ……22
第23図　Ａ区25号住居跡出土遺物 ……23
第24図　Ｄ区１号住居跡 ……23
第25図　Ｄ区１号住居跡掘り方 ……24
第26図　Ｄ区１号住居跡出土遺物 ……25
第27図　Ｄ区２号住居跡、掘り方 ……26
第28図　Ｄ区２号住居跡出土遺物 ……27
第29図　Ｄ区３号住居跡 ……27
第30図　Ｄ区３号住居跡掘り方、出土遺物 ……28
第31図　Ｄ区４号住居跡、出土遺物 ……29
第32図　Ｄ区４号住居跡出土遺物 ……30
第33図　Ｄ区５号住居跡、出土遺物 ……30
第34図　Ｄ区５号住居跡出土遺物 ……31
第35図　Ｄ区12号住居跡 ……31
第36図　Ｄ区12号住居跡出土遺物 ……32
第37図　Ｄ区13号住居跡、出土遺物 ……32
第38図　Ｄ区13号住居跡出土遺物 ……33
第39図　Ｄ区14号住居跡、出土遺物 ……33
第40図　Ｅ区２号住居跡、掘り方、出土遺物 ……34
第41図　Ａ区１号住居跡竈 ……35
第42図　Ａ区１号住居跡 ……36
第43図　Ａ区１号住居跡出土遺物 ……37
第44図　Ａ区１号住居跡出土遺物 ……38
第45図　Ａ区２号住居跡 ……38
第46図　Ａ区２号住居跡出土遺物 ……39
第47図　Ａ区３号住居跡 ……40
第48図　Ａ区３号住居跡竈、出土遺物 ……41
第49図　Ａ区６号住居跡 ……42
第50図　Ａ区６号住居跡遺物出土地点 ……43
第51図　Ａ区６号住居跡竈、出土遺物 ……44
第52図　Ａ区６号住居跡出土遺物 ……45
第53図　Ａ区６号住居跡出土遺物 ……46
第54図　Ａ区７号住居跡、出土遺物 ……47
第55図　Ａ区７号住居跡竈、出土遺物 ……48
第56図　Ａ区29号住居跡、竈、出土遺物 ……49
第57図　Ａ区29号住居跡出土遺物 ……50
第58図　Ａ区32号住居跡 ……51
第59図　Ａ区32号住居跡竈、土師器出土地点 ……52
第60図　Ａ区32号住居跡須恵器大甕52、53、54出土地点 ……53
第61図　Ａ区32号住居跡掘り方、出土遺物 ……53
第62図　Ａ区32号住居跡出土遺物 ……54
第63図　Ａ区32号住居跡出土遺物 ……55
第64図　Ａ区32号住居跡出土遺物 ……56
第65図　Ａ区32号住居跡出土遺物 ……57
第66図　Ａ区34号住居跡出土遺物 ……57
第67図　Ａ区34号住居跡 ……58
第68図　Ａ区35号住居跡出土遺物 ……58
第69図　Ａ区35号住居跡、掘り方、出土遺物 ……59
第70図　Ａ区35号住居跡出土遺物 ……60
第71図　Ａ区36号住居跡 ……60
第72図　Ａ区36号住居跡出土遺物 ……61
第73図　Ａ区10号住居跡 ……61
第74図　Ａ区10号住居跡竈、出土遺物 ……62
第75図　Ａ区12号住居跡、竈 ……63
第76図　Ａ区12号住居跡出土遺物 ……64
第77図　Ａ区15号住居跡、出土遺物 ……65
第78図　Ａ区16号住居跡、掘り方、出土遺物 ……66
第79図　Ａ区16号住居跡出土遺物 ……67
第80図　Ａ区19号住居跡、出土遺物 ……67
第81図　Ａ区22号住居跡、出土遺物 ……68
第82図　Ａ区24号住居跡、掘り方、出土遺物 ……69
第83図　Ａ区24号住居跡出土遺物 ……70
第84図　Ａ区26号住居跡、出土遺物 ……70
第85図　Ａ区27号住居跡、掘り方、出土遺物 ……71
第86図　Ａ区27号住居跡出土遺物 ……72
第87図　Ａ区28号住居跡 ……72
第88図　Ａ区28号住居跡出土遺物 ……73
第89図　Ａ区30号住居跡 ……73
第90図　Ａ区30号住居跡掘り方、出土遺物 ……74
第91図　Ａ区33号住居跡 ……74
第92図　Ａ区33号住居跡出土遺物 ……75
第93図　Ｂ区１号住居跡 ……75
第94図　Ｂ区１号住居跡掘り方、出土遺物 ……76
第95図　Ｂ区２号住居跡、出土遺物 ……77
第96図　Ｂ区２号住居跡出土遺物 ……78
第97図　Ｄ区６号住居跡出土遺物 ……78
第98図　Ｄ区６号住居跡、出土遺物 ……79
第99図　Ｄ区７号住居跡、出土遺物 ……80
第100図　Ｄ区７号住居跡出土遺物 ……81
第101図　Ｄ区８号住居跡 ……81
第102図　Ｄ区８号住居跡出土遺物 ……82
第103図　Ｄ区９号住居跡、出土遺物 ……82
第104図　Ｄ区９号住居跡出土遺物 ……83
第105図　Ｄ区10号住居跡、出土遺物 ……84
第106図　Ｄ区11号住居跡 ……84
第107図　Ｄ区11号住居跡出土遺物 ……85
第108図　Ａ区５号住居跡出土遺物 ……85
第109図　Ａ区５号住居跡、竈、出土遺物 ……86
第110図　Ａ区５号住居跡出土遺物 ……87
第111図　Ａ区８号住居跡、出土遺物 ……87
第112図　Ａ区９号住居跡、出土遺物 ……88
第113図　Ａ区17号住居跡、掘り方、出土遺物 ……89
第114図　Ａ区17号住居跡出土遺物 ……90
第115図　Ａ区18号住居跡、出土遺物 ……90
第116図　Ａ区18号住居跡出土遺物 ……91
第117図　Ａ区20号住居跡、出土遺物 ……91
第118図　Ａ区20号住居跡出土遺物 ……92
第119図　Ａ区21号住居跡 ……92
第120図　Ａ区21号住居跡掘り方、竈、出土遺物 ……93
第121図　Ａ区21号住居跡出土遺物 ……94
第122図　Ａ区23号住居跡、出土遺物 ……94

第123図　Ａ区23号住居跡出土遺物 ……………………………95
第124図　Ａ区31号住居跡、出土遺物 …………………………95
第125図　Ａ区31号住居跡出土遺物 ……………………………96
第126図　Ａ区39号住居跡、出土遺物 …………………………96
第127図　Ａ区39号住居跡出土遺物 ……………………………97
第128図　Ｂ区３号住居跡、出土遺物 …………………………97
第129図　Ａ区38号住居跡、出土遺物 …………………………98
第130図　Ｂ区４号住居跡 ………………………………………99
第131図　Ｅ区１号住居跡 ………………………………………99
第132図　Ｅ区１号掘立柱建物 …………………………………100
第133図　Ｅ区１号掘立柱建物エレベーション ………………101
第134図　Ｅ区２号掘立柱建物 …………………………………101
第135図　Ｂ－３区東壁、南壁セクション ……………………103
第136図　Ｂ－４区東壁、南壁セクション ……………………104
第137図　Ｂ－６区南壁セクション、水口エレベーション……104
第138図　As-B下水田 ……………………………………………105
第139図　第１面畑跡 ……………………………………………107
第140図　Ｄ、Ｅ区溝 ……………………………………………111
第141図　Ｂ区１、２、３、４、５、６、７号溝 ……………113
第142図　溝出土遺物（1） ……………………………………114
第143図　溝出土遺物（2） ……………………………………115
第144図　Ａ区３号土坑 …………………………………………116
第145図　Ａ区４号土坑 …………………………………………116
第146図　Ｄ区５号土坑 …………………………………………116
第147図　Ａ区２号土坑、出土遺物 ……………………………117
第148図　Ａ区８号土坑 …………………………………………117
第149図　Ａ区８号土坑出土遺物 ………………………………118
第150図　Ａ区10号土坑、出土遺物 ……………………………118
第151図　Ａ区14号土坑、出土遺物 ……………………………119
第152図　Ａ区16号土坑 …………………………………………119
第153図　Ａ区17号土坑、出土遺物 ……………………………120
第154図　Ｂ－２区６号土坑 ……………………………………120
第155図　Ｂ－２区８号土坑、出土遺物 ………………………121
第156図　Ｂ－２区９号土坑 ……………………………………121
第157図　Ｂ－２区10号土坑 ……………………………………121
第158図　Ｄ区６号土坑 …………………………………………121
第159図　Ｄ区６号土坑出土遺物 ………………………………122
第160図　Ｄ区55号土坑 …………………………………………122
第161図　Ｄ区60号土坑、出土遺物 ……………………………122
第162図　Ｄ区61号土坑 …………………………………………122
第163図　Ｄ区61号土坑出土遺物 ………………………………123
第164図　Ｄ区62号土坑、出土遺物 ……………………………123
第165図　Ｂ－５区１号土坑 ……………………………………123
第166図　Ｂ－５区２号土坑 ……………………………………123
第167図　Ｂ－５区２号土坑出土遺物 …………………………124
第168図　Ｄ区８号土坑、出土遺物 ……………………………124
第169図　Ｄ区11号土坑、出土遺物 ……………………………125
第170図　Ｄ区17、18号土坑 ……………………………………125
第171図　Ｄ区17号土坑出土遺物 ………………………………125
第172図　Ｄ区18号土坑出土遺物 ………………………………125
第173図　Ｄ区22号土坑、出土遺物 ……………………………126
第174図　Ｄ区23号土坑 …………………………………………126
第175図　Ｄ区23号土坑出土遺物 ………………………………127
第176図　Ｄ区27号土坑、出土遺物 ……………………………128
第177図　Ｄ区31号土坑、出土遺物 ……………………………128
第178図　Ｄ区33号土坑 …………………………………………128
第179図　Ｄ区33号土坑出土遺物 ………………………………129
第180図　Ｄ区35号土坑、出土遺物 ……………………………129
第181図　Ｄ区37号土坑、出土遺物 ……………………………130
第182図　Ｄ区38号土坑 …………………………………………130
第183図　Ｄ区38号土坑出土遺物 ………………………………131
第184図　Ｄ区42号土坑、出土遺物 ……………………………131
第185図　Ｄ区43号土坑、出土遺物 ……………………………132
第186図　Ｄ区44号土坑、出土遺物 ……………………………132
第187図　Ｄ区52号土坑、出土遺物 ……………………………133
第188図　Ｄ区53号土坑、出土遺物 ……………………………133
第189図　Ｄ区57号土坑、出土遺物 ……………………………134
第190図　Ｄ区58号土坑、出土遺物 ……………………………134
第191図　Ｄ区59号土坑、出土遺物 ……………………………135
第192図　Ａ区７号土坑 …………………………………………135
第193図　Ａ区９号土坑 …………………………………………135
第194図　Ａ区13号土坑 …………………………………………136
第195図　Ｂ－２区１号土坑 ……………………………………136
第196図　Ｂ－２区２、３号土坑 ………………………………136
第197図　Ｂ－２区７号土坑 ……………………………………136
第198図　Ｂ－５区３号土坑 ……………………………………137
第199図　Ｂ－５区４、５号土坑 ………………………………137
第200図　Ｂ－５区６号土坑 ……………………………………138
第201図　Ｂ－５区７号土坑 ……………………………………138
第202図　Ｂ－５区８号土坑 ……………………………………138
第203図　Ｂ－５区９号土坑 ……………………………………138
第204図　Ｂ－５区10号土坑 ……………………………………139
第205図　Ｂ－５区11号土坑 ……………………………………139
第206図　Ｂ－５区12号土坑 ……………………………………139
第207図　Ｂ－６区１号土坑 ……………………………………140
第208図　Ｂ－６区２号土坑 ……………………………………140
第209図　Ｂ－６区３号土坑 ……………………………………140
第210図　Ｂ－６区４号土坑 ……………………………………140
第211図　Ｂ－６区５号土坑 ……………………………………140
第212図　Ｂ－６区６号土坑 ……………………………………140
第213図　Ｂ－６区７号土坑 ……………………………………141
第214図　Ｂ－６区８号土坑 ……………………………………141
第215図　Ｄ区２号土坑 …………………………………………141
第216図　Ｄ区１号土坑 …………………………………………141
第217図　Ｄ区３号土坑 …………………………………………141
第218図　Ｄ区４号土坑 …………………………………………142
第219図　Ｄ区７号土坑 …………………………………………142
第220図　Ｄ区９号土坑 …………………………………………142
第221図　Ｄ区10号土坑 …………………………………………142
第222図　Ｄ区12号土坑 …………………………………………142
第223図　Ｄ区14号土坑 …………………………………………143
第224図　Ｄ区15号土坑 …………………………………………143
第225図　Ｄ区16号土坑 …………………………………………143
第226図　Ｄ区19号土坑 …………………………………………143
第227図　Ｄ区20号土坑 …………………………………………144
第228図　Ｄ区21号土坑 …………………………………………144
第229図　Ｄ区24号土坑 …………………………………………144
第230図　Ｄ区25号土坑 …………………………………………144
第231図　Ｄ区26号土坑 …………………………………………145
第232図　Ｄ区28、29号土坑 ……………………………………145
第233図　Ｄ区30号土坑 …………………………………………146
第234図　Ｄ区32号土坑 …………………………………………146
第235図　Ｄ区34号土坑 …………………………………………146
第236図　Ｄ区36号土坑 …………………………………………146
第237図　Ｄ区39号土坑 …………………………………………147
第238図　Ｄ区45号土坑 …………………………………………147
第239図　Ｄ区46号土坑 …………………………………………147
第240図　Ｄ区47号土坑 …………………………………………147
第241図　Ｄ区48号土坑 …………………………………………147
第242図　Ｄ区49号土坑 …………………………………………147
第243図　Ｄ区50号土坑 …………………………………………148
第244図　Ｄ区51号土坑 …………………………………………148
第245図　Ｄ区54号土坑 …………………………………………148
第246図　Ｄ区56号土坑 …………………………………………148
第247図　Ｅ区１号土坑 …………………………………………148
第248図　Ｅ区２号土坑 …………………………………………149
第249図　Ｅ区３号土坑 …………………………………………149
第250図　Ｅ区４号土坑 …………………………………………149

第251図　Ｅ区５号土坑……………………………………………149
第252図　Ｃ区１号土坑、出土遺物…………………………………150
第253図　Ｄ区１号井戸……………………………………………151
第254図　Ｅ区１号井戸……………………………………………152
第255図　遺構外遺物（1）　………………………………………154
第256図　遺構外遺物（2）　………………………………………155
第257図　遺構外遺物（3）　………………………………………156
第258図　遺構外遺物（4）　………………………………………157
第259図　遺構外遺物（5）　………………………………………158
第260図　遺構外遺物（6）　………………………………………159
第261図　遺構外遺物（7）　………………………………………160
第262図　遺構外遺物（8）　………………………………………161
第263図　遺構外遺物（9）　………………………………………162
第264図　遺構外遺物（10）…………………………………………163
第265図　遺構外遺物（11）…………………………………………164
第266図　遺構外遺物（12）…………………………………………165
第267図　遺構外遺物（13）…………………………………………166
第268図　Ｂ区テフラ分析サンプル採取地点………………………214
第269図　Ｂ区テフラ検出分析結果…………………………………216
第270図　Ｂ区プラント・オパールサンプル採取地点……………217
第271図　Ｂ区プラント・オパール分析結果………………………220
第272図　Ａ区６号住居跡遺物出土地点……………………………226
第273図　Ａ区32号住居跡遺物出土地点　…………………………226
第274図　新井大田関遺跡調査区範囲図……………………………229
第275図　基本土層位置図……………………………………………230
第276図　新井大田関遺跡基本土層模式図…………………………230
第277図　７号溝、出土遺物…………………………………………232
第278図　新井大田関遺跡第１面（平安時代１面）　……………233
第279図　水田耕作土出土遺物………………………………………235
第280図　１・２号住居跡、出土遺物………………………………236
第281図　１号住居跡、出土遺物……………………………………237
第282図　３号住居跡、出土遺物……………………………………237
第283図　３号住居跡、出土遺物……………………………………238
第284図　４号住居跡、出土遺物……………………………………238
第285図　５号溝、出土遺物…………………………………………239
第286図　新井大田関遺跡第２面（平安時代２面）　……………240
第287図　６号溝、出土遺物…………………………………………241
第288図　遺構外出土遺物……………………………………………241
第289図　新井大田関遺跡第３面（平安時代３面）　……………242
第290図　新井大田関遺跡全体図……………………………………243
第291図　テフラ分析サンプル採取地点……………………………249
第292図　テフラ検出分析結果………………………………………251
第293図　プラント・オパール採取地点……………………………253
第294図　A地点におけるプラント・オパール分析結果　………256
第295図　古墳時代前期の６号溝……………………………………259
第296図　水田及び水田造成による段差……………………………260
第297図　As-B下面の水田　………………………………………260
第298図　調査面のコンピュータ・グラフィック…………………261
第299図　９世紀面のコンピュータ・グラフィック………………262
第300図　萩原遺跡全体図……………………………………………263
第301図　萩原・新井大田関遺跡の竪穴住居変遷図………………263
第302図　今井神社古墳周辺の竪穴住居変遷図……………………264
第303図　関連遺跡位置図……………………………………………264

表目次

第１表　周辺遺跡一覧表　……………………………………………6
第２表　水田計測表…………………………………………………102
第３表　掲載外遺物一覧表…………………………………………211
第４表　Ｂ区低地部テフラ検出分析結果…………………………216
第５表　Ｂ区低地部プラント・オパール分析結果………………219
第６表　プラント・オパール識別一覧表…………………………221
第７表　Ａ区１号住居跡出土炭化材一覧表………………………223
第８表　新井大田関遺跡のテフラ検出分析結果…………………251
第９表　新井大田関遺跡におけるプラント・オパール分析結果…255
第10表　プラント・オパール識別一覧表…………………………257

写真図版目次

口絵　１　萩原遺跡全景（西から）
口絵　２　Ａ区32号住居跡出土遺物
　　　　　Ｄ区23号土坑出土遺物
萩原遺跡Ｂ区プラントオパール顕微鏡写真………………………221
Ａ区１号住居跡出土炭化材走査電子顕微鏡写真…………………223
新井大田関遺跡Ａ区プラントオパール顕微鏡写真　………257･258

萩原遺跡写真図版
ＰＬ１　検出遺構
　Ａ区全景（北から）
　Ｄ区全景（東から）
ＰＬ２　検出遺構
　Ａ区４号住居跡全景（西から）
　Ａ区４号住居跡掘り方全景（西から））
　Ａ区11号住居跡全景（北から）
　Ａ区37号住居跡全景（南西から）
ＰＬ３　検出遺構
　Ａ区13号住居跡遺物出土状況
　Ａ区13号住居跡遺物出土近接
　Ａ区13号住居跡遺物出土近接
　Ａ区13号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
　Ａ区13号住居跡掘り方全景
ＰＬ４　検出遺構
　Ａ区14号住居跡全景
　Ａ区14号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
　Ａ区14号住居跡掘り方全景
　Ａ区25号住居跡セクション（南から）
　Ａ区25号住居跡出土遺物近接
ＰＬ５　検出遺構
　Ａ区25号住居跡全景（南から）
　Ｄ区１号住居跡全景
ＰＬ６　検出遺構
　Ｄ区１号住居跡柱穴
　Ｄ区１号住居跡掘り方全景
　Ｄ区２号住居跡全景
　Ｄ区２号住居跡掘り方全景
　Ｄ区２号住居跡調査風景
ＰＬ７　検出遺構
　Ｄ区３号住居跡全景

Ｄ区３号住居跡セクション
Ｄ区３号住居跡出土遺物近接
Ｄ区３号住居跡柱炭化物
Ｄ区３号住居跡掘り方全景
ＰＬ８　検出遺構
Ｄ区４号住居跡全景
Ｄ区４号住居跡セクション
Ｄ区４号住居跡出土遺物近接
Ｄ区４号住居跡出土遺物近接
Ｄ区４号住居跡掘り方全景
ＰＬ９　検出遺構
Ｄ区５号住居跡全景
Ｄ区５号住居跡出土遺物近接
Ｄ区５号住居跡掘り方全景
Ｄ区12号住居跡セクション
Ｄ区12号住居跡遺物出土状況
ＰＬ10　検出遺構
Ｄ区12号住居跡全景（西から）
Ｄ区12号住居跡出土遺物近接
Ｄ区12号住居跡出土遺物近接
Ｄ区13号住居跡遺物出土状況
Ｄ区13号住居跡出土遺物近接
ＰＬ11　検出遺構
Ｄ区13号住居跡全景（北から）
Ｄ区14号住居跡全景（北から）
ＰＬ12　検出遺構
Ｄ区14号住居跡セクション（南から）
Ｄ区14号住居跡遺物出土状況
Ｅ区２号住居跡全景
Ａ区１号住居跡遺物出土状況（南から）
Ａ区１号住居跡竈全景（西から）
ＰＬ13　検出遺構
Ａ区１号住居跡全景（南から）
Ａ区１号住居跡貯蔵穴セクション
Ａ区１号住居跡掘り方全景（西から）
Ａ区２号住居跡遺物出土状況（西から）
Ａ区２号住居跡竈全景（西から）
ＰＬ14　検出遺構
Ａ区２号住居跡全景（西から）
Ａ区２号住居跡セクション（西から）
Ａ区２号住居跡掘り方全景（西から）
Ａ区３号住居跡竈セクション（南から）
Ａ区３号住居跡竈全景（西から）
ＰＬ15　検出遺構
Ａ区３号住居跡全景
Ａ区３号住居跡貯蔵穴セクション（南から）
Ａ区３号住居跡掘り方全景（西から）
Ａ区６号住居跡遺物出土状況（西から）
Ａ区６号住居跡西壁出土遺物近接
ＰＬ16　検出遺構
Ａ区６号住居跡全景（西から）
Ａ区６号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
Ａ区６号住居跡竈全景（西から）
Ａ区６号住居跡竈掘り方遺物出土状況
Ａ区６号住居跡掘り方全景（西から）
ＰＬ17　検出遺構
Ａ区７号住居跡全景（西から）
Ａ区７号住居跡セクション（南から）
Ａ区７号住居跡竈全景（西から）
Ａ区７号住居跡竈掘り方出土遺物近接（西から）
Ａ区７号住居跡掘り方全景（西から）
ＰＬ18　検出遺構
Ａ区29号住居跡全景（西から）
Ａ区29号住居跡出土遺物近接
Ａ区29号住居跡竈セクション（南から）
Ａ区29号住居跡竈全景（西から）
Ａ区29号住居跡掘り方全景（西から）
ＰＬ19　検出遺構
Ａ区32号住居跡全景（南から）
Ａ区32号住居跡遺物出土状況
Ａ区32号住居跡炭化物出土状況（南から）
Ａ区32号住居跡炭化物近接
Ａ区32号住居跡竈全景（南から）
ＰＬ20　検出遺構
Ａ区32号住居跡貯蔵穴セクション
Ａ区32号住居跡１号ピットセクション
Ａ区32号住居跡杭状炭化物近接（白丸）
Ａ区32号住居跡掘り方全景（南から）
Ａ区34号住居跡全景
ＰＬ21　検出遺構
Ａ区34号住居跡貯蔵穴遺物出土状況（南から）
Ａ区34号住居跡竈全景
Ａ区34号住居跡竈出土遺物近接
Ａ区34号住居跡竈袖セクション（南から）
Ａ区35号住居跡全景（南から）
ＰＬ22　検出遺構
Ａ区35号住居跡竈全景（南から）
Ａ区35号住居跡竈出土遺物近接
Ａ区35号住居跡竈袖セクション
Ａ区35号住居跡掘り方全景（南から）
Ａ区36号住居跡全景
ＰＬ23　検出遺構
Ａ区36号住居跡セクション（南から）
Ａ区36号住居跡竈セクション
Ａ区36号住居跡竈全景
Ａ区36号住居跡竈出土遺物近接
Ａ区10号住居跡全景（西から）
ＰＬ24　検出遺構
Ａ区10号住居跡竈セクション
Ａ区10号住居跡竈全景（西から）
Ａ区10号住居跡竈掘り方
Ａ区10号住居跡掘り方全景（西から）
Ａ区12号住居跡全景（西から）
ＰＬ25　検出遺構
Ａ区12号住居跡遺物出土状況
Ａ区12号住居跡床下土坑セクション
Ａ区12号住居跡竈全景（西から）
Ａ区12号住居跡掘り方全景（西から）
Ａ区15号住居跡全景
ＰＬ26　検出遺構
Ａ区15号住居跡竈セクション
Ａ区15号住居跡竈全景
Ａ区15号住居跡竈掘り方
Ａ区15号住居跡掘り方全景（西から）
Ａ区16号住居跡全景
ＰＬ27　検出遺構
Ａ区16号住居跡竈セクション
Ａ区16号住居跡竈全景
Ａ区16号住居跡竈出土遺物近接
Ａ区16号住居跡掘り方全景
Ａ区19号住居跡全景（西から）
ＰＬ28　検出遺構
Ａ区19号住居跡出土遺物近接
Ａ区19号住居跡出土遺物近接
Ａ区19号住居跡遺物出土状況
Ａ区19号住居跡竈全景（西から）
Ａ区22号住居跡全景（西から）
ＰＬ29　検出遺構

Ａ区22号住居跡遺物出土状況
Ａ区22号住居跡竈セクション
Ａ区22号住居跡竈全景（西から）
Ａ区22号住居跡掘り方全景（西から）
Ａ区24号住居跡全景（西から）
ＰＬ30　検出遺構
Ａ区24号住居跡セクション
Ａ区24号住居跡床下土坑セクション
Ａ区24号住居跡掘り方全景
Ａ区24号住居跡竈掘り方
Ａ区26号住居跡全景（西から）
ＰＬ31　検出遺構
Ａ区26号住居跡竈全景
Ａ区26号住居跡竈全景
Ａ区27号住居跡全景
Ａ区27号住居跡出土遺物近接
Ａ区27号住居跡竈全景
ＰＬ32　検出遺構
Ａ区27号住居跡掘り方全景
Ａ区27号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
Ａ区28号住居跡全景
Ａ区28号住居跡セクション
Ａ区28号住居跡竈全景
ＰＬ33　検出遺構
Ａ区28号住居跡竈セクション
Ａ区28号住居跡掘り方全景
Ａ区30号住居跡全景（西から）
Ａ区30号住居跡セクション（南から）
Ａ区30号住居跡竈全景（西から）
ＰＬ34　検出遺構
Ａ区30号住居跡掘り方出土遺物近接
Ａ区30号住居跡掘り方全景
Ａ区33号住居跡全景（西から）
Ａ区33号住居跡セクション
Ａ区33号住居跡竈全景（西から）
ＰＬ35　検出遺構
Ａ区33号住居跡竈
Ａ区33号住居跡竈セクション
Ｂ区１号住居跡全景（東から）
Ｂ区１号住居跡出土遺物近接（鉄滓）
Ｂ区１号住居跡出土遺物近接
ＰＬ36　検出遺構
Ｂ区１号住居跡竈全景
Ｂ区１号住居跡掘り方全景
Ｂ区２号住居跡全景
Ｂ区２号住居跡竈全景（西から）
Ｂ区２号住居跡竈セクション
ＰＬ37　検出遺構
Ｂ区２号住居跡竈出土遺物近接
Ｂ区２号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
Ｄ区６号住居跡全景
Ｄ区６号住居跡セクション
Ｄ区６号住居跡竈全景
ＰＬ38　検出遺構
Ｄ区６号住居跡竈遺物出土状況
Ｄ区６号住居跡竈セクション
Ｄ区７号住居跡全景
Ｄ区７号住居跡竈全景
Ｄ区７号住居跡出土遺物近接
ＰＬ39　検出遺構
Ｄ区８号住居跡全景
Ｄ区８号住居跡セクション
Ｄ区８号住居跡竈
Ｄ区９号住居跡セクション
Ｄ区９号住居跡出土遺物近接
ＰＬ40　検出遺構
Ｄ区９号住居跡全景
Ｄ区10号住居跡全景
ＰＬ41　検出遺構
Ｄ区10号住居跡セクション
Ｄ区10号住居跡竈全景
Ｄ区11号住居跡全景
Ｄ区11号住居跡遺物出土状況
Ｄ区11号住居跡竈セクション
ＰＬ42　検出遺構
Ｄ区11号住居跡出土遺物近接
Ｄ区11号住居跡竈全景
Ａ区５号住居跡全景
Ａ区５号住居跡セクション
Ａ区５号住居跡遺物出土状況
ＰＬ43　検出遺構
Ａ区５号住居跡竈セクション
Ａ区５号住居跡掘り方全景
Ａ区８号住居跡全景（西から）
Ａ区８号住居跡掘り方全景
Ａ区９号住居跡竈遺物出土状況
ＰＬ44　検出遺構
Ａ区９号住居跡全景
Ａ区17号住居跡全景
ＰＬ45　検出遺構
Ａ区17号住居跡竈セクション
Ａ区17号住居跡竈全景
Ａ区17号住居跡床下土坑セクション
Ａ区17号住居跡掘り方全景（西から）
Ａ区18号住居跡全景（西から）
ＰＬ46　検出遺構
Ａ区18号住居跡竈セクション
Ａ区18号住居跡竈セクション
Ａ区18号住居跡遺物出土状況
Ａ区18号住居跡出土遺物近接
Ａ区20号住居跡全景
ＰＬ47　検出遺構
Ａ区20号住居跡セクション
Ａ区20号住居跡遺物出土状況
Ａ区20号住居跡出土遺物近接
Ａ区20号住居跡竈全景
Ａ区21号住居跡全景（西から）
ＰＬ48　検出遺構
Ａ区21号住居跡竈全景
Ａ区21号住居跡セクション
Ａ区21号住居跡掘り方全景
Ａ区21号住居跡竈
Ａ区23号住居跡全景
ＰＬ49　検出遺構
Ａ区23号住居跡遺物出土状況
Ａ区23号住居跡竈セクション
Ａ区23号住居跡竈セクション
Ａ区23号住居跡竈全景
Ａ区31号住居跡全景
ＰＬ50　検出遺構
Ａ区31号住居跡出土遺物近接
Ａ区31号住居跡出土遺物近接
Ａ区39号住居跡全景
Ａ区39号住居跡セクション
Ａ区39号住居跡竈全景
ＰＬ51　検出遺構
Ｂ区３号住居跡全景（西から）
Ｂ区３号住居跡遺物出土状況

Ｂ区３号住居跡出土遺物近接
Ｂ区３号住居跡出土遺物近接
Ａ区38号住居跡掘り方全景
ＰＬ52　検出遺構
Ｂ区４号住居跡全景
Ｅ区１号住居跡全景
Ｅ区１号掘立柱建物全景
Ｅ区２号掘立柱建物全景
Ｂ－２区As-B下水田全景（東から）
ＰＬ53　検出遺構
Ｂ－３・４区As-B下水田全景（北から）
Ｂ－３区As-B下水田全景（西から）
Ｂ－４区As-B下水田全景（北から）
Ｂ－４区As-B下水田全景（南から）
Ｂ－５・６区As-B下水田全景（西から）
ＰＬ54　検出遺構
Ｂ－５・６区As-B下水田全景（北から）
As-B下水田畦畔
As-B下水田水口
As-B下水田水口
As-B下水田水口
As-B下水田水口
Ｂ－３区南壁セクション（全体）
Ｂ－３区南壁セクション（部分）
ＰＬ55　検出遺構
Ｂ－３区東壁セクション
Ｂ－３区第１面畑サク跡確認状況
Ｂ－３区第１面畑サク跡全景（西から）
Ｂ－４区第１面畑サク跡全景
ＣＸＤ区境現道下掘削工事作業風景（谷）
Ｄ区１号溝全景
Ｂ区１号溝（左）５号溝（右）全景（北から）
ＰＬ56　検出遺構
Ｄ区２号溝全景
Ｄ区３号溝全景
Ｄ区５号溝全景
Ｄ区６号溝全景
Ｄ区７号溝全景
Ｅ区１号溝全景
Ｅ区１号溝セクション
Ｅ区３号溝全景
ＰＬ57　検出遺構
Ｅ区２号溝全景
Ｅ区６号溝全景
Ｂ区２号、３号、４号溝全景（北から）
Ｂ区２号、３号溝セクション
Ｂ区６号、７号溝全景（北西から）
Ｅ区４号溝セクション
ＰＬ58　検出遺構
Ｄ区土坑群全景
Ａ区３号土坑全景
Ａ区４号土坑セクション
Ｃ区１号土坑セクション
Ｄ区５号土坑全景
ＰＬ59　検出遺構
Ａ区２号土坑遺物出土状況
Ａ区８号土坑全景
Ａ区10号土坑遺物出土状況
Ａ区10号土坑全景
Ａ区14号土坑全景（西から）
Ａ区16号土坑全景（北から）
Ａ区17号土坑全景（西から）
Ａ区17号土坑出土遺物近接
ＰＬ60　検出遺構
Ｂ区６号土坑全景
Ｂ区８号土坑全景
Ｄ区６号土坑遺物出土状況
Ｄ区６号土坑出土遺物近接
Ｄ区55号土坑全景
Ｂ－５区１号土坑全景
Ｂ－５区２号土坑遺物出土状況
Ｄ区８号土坑全景
ＰＬ61　検出遺構
Ｄ区８号土坑出土遺物近接
Ｄ区11号土坑遺物出土状況（東から）
Ｄ区11号土坑出土遺物近接
Ｄ区17、18、19号土坑全景
Ｄ区17号土坑出土遺物近接
Ｄ区17、18号土坑セクション（南から）
Ｄ区22号土坑遺物出土状況（北から）
Ｄ区22号土坑出土遺物近接
ＰＬ62　検出遺構
Ｄ区23号土坑セクション（南から）
Ｄ区23号土坑出土遺物近接
Ｄ区26、27号土坑全景（南から）
Ｄ区31号土坑遺物出土状況
Ｄ区33号土坑遺物出土状況
Ｄ区33号土坑遺物出土状況
Ｄ区35号土坑セクション（南から）
Ｄ区37号土坑遺物出土状況（西から）
ＰＬ63　検出遺構
Ｄ区37号土坑出土遺物近接
Ｄ区38号土坑全景
Ｄ区38号土坑出土遺物近接
Ｄ区42号土坑セクション（南から）
Ｄ区43号土坑遺物出土状況
Ｄ区44号土坑セクション（北から）
Ｄ区52号土坑セクション（南から）
Ｄ区53号土坑セクション（南から）
ＰＬ64　検出遺構
Ｄ区57号土坑セクション（南から）
Ｄ区58号土坑全景（西から）
Ｄ区58号土坑出土遺物近接
Ｄ区59号土坑遺物出土状況
Ｄ区59号土坑出土遺物近接
Ａ区７号土坑全景（南から）
Ｂ－２区１号土坑全景
Ｂ－２区２号土坑全景
ＰＬ65　検出遺構
Ｂ－２区３号土坑全景
Ｂ－２区７号土坑全景（東から）
Ｂ－２区９号土坑全景（東から）
Ｂ－２区10号土坑全景（南から）
Ｂ－５区３号土坑遺物出土状況（西から）
Ｂ－５区４、５号土坑全景（西から）
Ｂ－５区６号土坑全景（西から）
ＰＬ66　検出遺構
Ｂ－５区６号土坑セクション（西から）
Ｂ－５区11号土坑全景（南から）
Ｂ－５区12号土坑全景（南から）
Ｂ－６区１号土坑遺物出土状況
Ｂ－６区２号土坑全景（南から）
Ｂ－６区３号土坑全景（南から）
Ｂ－６区４号土坑全景（南から）
Ｂ－６区５号土坑全景（南から）
ＰＬ67　検出遺構
Ｂ－６区６号土坑全景（南東から）
Ｂ－６区７号土坑セクション

Ｂ－６区８号土坑セクション（東から）
Ｄ区１号土坑セクション
Ｄ区２号土坑全景
Ｄ区３号土坑全景（南から）
Ｄ区４号土坑全景（南から）
Ｄ区７号土坑セクション（西から）
ＰＬ68　検出遺構
Ｄ区９号土坑全景（西から）
Ｄ区10号土坑遺物出土状況
Ｄ区10号土坑出土遺物近接
Ｄ区12号土坑セクション（南から）
Ｄ区12号土坑全景（南から）
Ｄ区14号土坑全景（南から）
Ｄ区16号土坑全景（東から）
Ｄ区19号土坑セクション（南から）
ＰＬ69　検出遺構
Ｄ区20号土坑セクション（南から）
Ｄ区20号土坑遺物出土状況（南から）
Ｄ区21号土坑全景（南から）
Ｄ区24号土坑全景（南から）
Ｄ区25号土坑セクション
Ｄ区28、29号土坑全景（南から）
Ｄ区32号土坑遺物出土状況
Ｄ区36号土坑セクション（西から）
ＰＬ70　検出遺構
Ｄ区39号土坑全景（西から）
Ｄ区45号土坑セクション（南から）
Ｄ区46号土坑全景（西から）
Ｄ区47号土坑全景（西から）
Ｄ区48号土坑全景（西から）
Ｄ区49号土坑全景（南から）
Ｄ区50号土坑全景
Ｄ区51号土坑全景（南から）
ＰＬ71　検出遺構
Ｄ区54号土坑全景（東から）
Ｄ区56号土坑全景（西から）
Ｅ区１号土坑全景
Ｅ区５号土坑全景
Ｅ区２、３、４号土坑全景
Ｄ区１号井戸全景（南から）
Ｅ区１号井戸セクション
ＰＬ72　出土遺物
ＰＬ73　出土遺物
ＰＬ74　出土遺物
ＰＬ75　出土遺物
ＰＬ76　出土遺物
ＰＬ77　出土遺物
ＰＬ78　出土遺物
ＰＬ79　出土遺物
ＰＬ80　出土遺物
ＰＬ81　出土遺物
ＰＬ82　出土遺物
ＰＬ83　出土遺物
ＰＬ84　出土遺物
ＰＬ85　出土遺物
ＰＬ86　出土遺物
ＰＬ87　出土遺物
ＰＬ88　出土遺物
ＰＬ89　出土遺物
ＰＬ90　出土遺物
ＰＬ91　出土遺物
ＰＬ92　出土遺物
ＰＬ93　出土遺物
ＰＬ94　出土遺物
ＰＬ95　出土遺物
ＰＬ96　出土遺物
ＰＬ97　出土遺物
ＰＬ98　出土遺物
ＰＬ99　出土遺物
ＰＬ100　出土遺物
ＰＬ101　出土遺物
ＰＬ102　出土遺物
ＰＬ103　出土遺物
ＰＬ104　出土遺物
ＰＬ105　出土遺物
ＰＬ106　出土遺物
ＰＬ107　出土遺物
ＰＬ108　出土遺物
ＰＬ109　出土遺物
ＰＬ110　出土遺物
ＰＬ111　出土遺物
ＰＬ112　出土遺物
ＰＬ113　出土遺物
ＰＬ114　出土遺物
ＰＬ115　出土遺物
ＰＬ116　出土遺物
ＰＬ117　出土遺物

新井大田関遺跡写真図版

ＰＬ118　As-B下全景（南から）
ＰＬ118　As-B下水田全景（南西から）
ＰＬ119　As-B下水田全景（南東から）
ＰＬ119　A区西台地部水田耕作下セクション（北から）
ＰＬ120　１号溝全景（南から）
ＰＬ120　２、３号溝全景（南から）
ＰＬ120　４号溝全景（南から）
ＰＬ120　７号溝全景（南から）
ＰＬ120　８号溝全景（南から）
ＰＬ120　７号溝セクション（南から）
ＰＬ121　９世紀面全景（南から）
ＰＬ121　９世紀面全景？（南から）
ＰＬ122　現在の水田と道路の段差
ＰＬ122　東微高地部段差
ＰＬ122　西微高地部段差
ＰＬ122　西微高地部段差
ＰＬ122　A区１、２号住居跡全景（西から）
ＰＬ122　A区１、２号住居跡全景（北西から）
ＰＬ122　A区３号住居跡全景（西から）
ＰＬ122　A区４号住居跡全景（西から）
ＰＬ123　５号溝全景（南から）
ＰＬ123　５、６号溝セクション（北から）
ＰＬ123　As-C下面全景（南から）
ＰＬ124　As-C下面全景（南から）
ＰＬ124　６号溝全景（南から）
ＰＬ124　南壁土層断面（北から）
ＰＬ124　５、６号溝セクション（北から）
ＰＬ125　７号溝・９世紀耕土・１号住居跡出土遺物
ＰＬ126　１、３、４号住居跡・５号溝出土遺物
ＰＬ127　５、６号溝・As-C下出土遺物

報告書抄録

書名ふりがな	はぎわらいせき
書名	萩原遺跡
副書名	北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	27
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	337
編著者名	伊平敬
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20041217
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784-2
遺跡名ふりがな	はぎわらいせき
遺跡名	萩原遺跡
所在地ふりがな	まえばししにのみやまち
遺跡所在地	前橋市二之宮町
市町村コード	10201
遺跡番号	00456
北緯（日本測地系）	362111
東経（日本測地系）	1391015
北緯（世界測地系）	362122
東経（世界測地系）	1391003
調査期間	19961101-19970331/19970401-19970631/19981201-19990331/19990401-19990831
調査面積	17002
調査原因	北関東自動車道建設工事に伴う事前調査
種別	集落/水田/墓廣
主な時代	縄文/弥生/古墳/奈良平安/中近世
遺跡概要	陥穴-縄文-縄文土器+石器/集落-弥生-竪穴住居3-弥生土器/集落-古墳-竪穴住居22-土師器+須恵器/集落-奈良平安-竪穴住居31-土師器+須恵器 /生産-奈良平安-水田/中近世-溝・墓廣-陶器+古銭/中近世-墓-陶磁器+鉄器+古銭
特記事項	弥生時代中期後半の竪穴住居及び出土土器

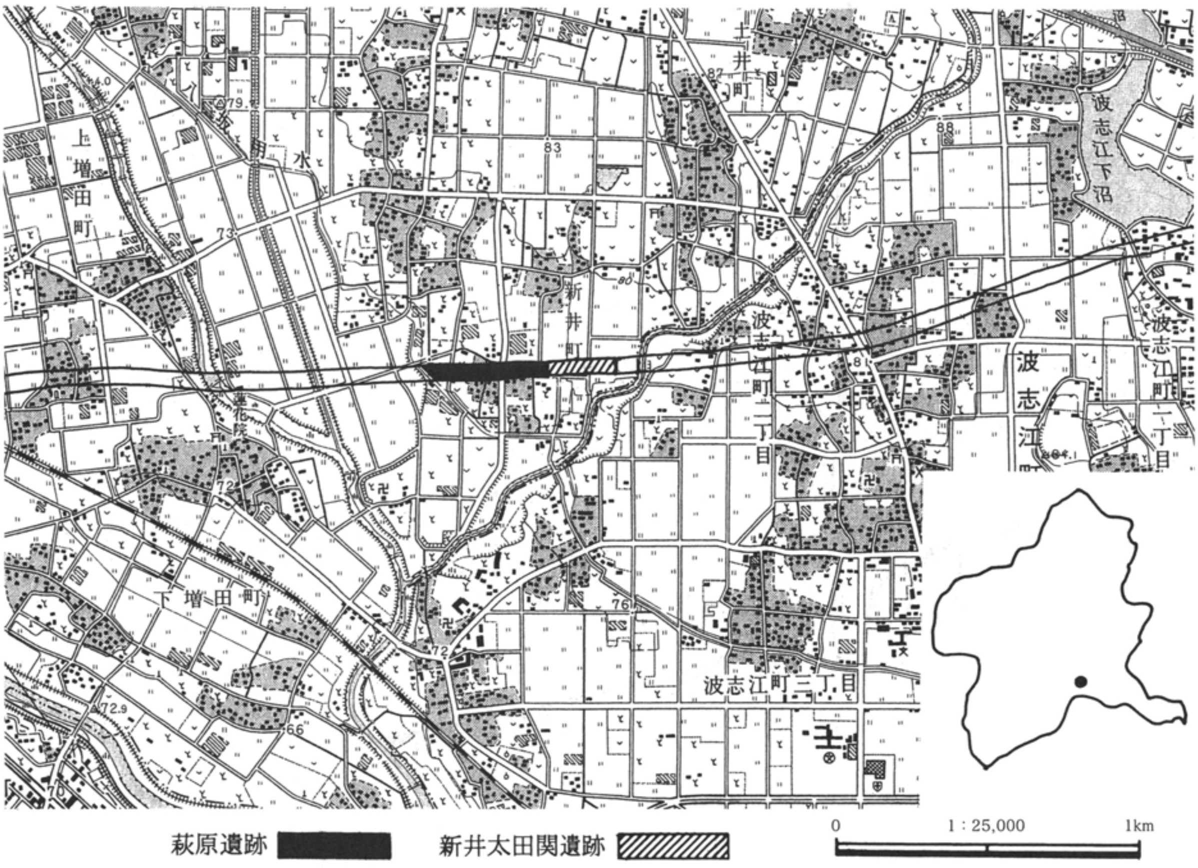
書名ふりがな	あらいおおたぜきいせき
書名	新井大田関遺跡
副書名	北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	27
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	337
編著者名	坂口一/須田正久
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20041217
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784-2
遺跡名ふりがな	あらいおおたぜきいせき
遺跡名	新井大田関遺跡
所在地ふりがな	まえばししあらいまち
遺跡所在地	前橋市新井町
市町村コード	10201
遺跡番号	00460
北緯（日本測地系）	362109
東経（日本測地系）	1391045
北緯（世界測地系）	362120
東経（世界測地系）	1391033
調査期間	19961201-19970331
調査面積	5800
調査原因	北関東自動車道建設工事に伴う事前調査
種別	集落/水田
主な時代	奈良平安/古墳
遺跡概要	古墳-溝-土師器台付甕/集落-奈良平安-竪穴住居4-土師器+須恵器/生産-奈良平安-水田
特記事項	平安時代における水田域の拡大

I　発掘調査と遺跡の概要

1　調査に至る経過

本遺跡の発掘調査は、平成８年７月16日に県教育委員会文化財保護課（現文化課）が実施した試掘調査を受け、本事業団が同年11月より実施した。萩原遺跡は高崎起点STA96+70からSTA100+30付近の約360m、また新井太田関遺跡はSTA100+30からSTA102+80付近の約250mの間を調査対象地として実施することになった。萩原遺跡は丘陵上に立地する遺跡であり、縄文時代から平安時代の集落、及び平安時代の畠、中・近世の屋敷跡等、７面余りの文化層が想定された。調査予定として、八坂用水および市道の付け替え工事等に関連し、本遺跡の西側に位置する下増田越渡遺跡側の高崎起点STA96+70からSTA97+25付近のＡ区から着手しすることになり、次に用地が解決していた本遺跡の東部分に相当する畑及び水田であった高崎起点STA99+10からSTA100+30付近のＤ・Ｅ区の調査が予定された。なお、本遺跡の中心部は宅地等になっていたために、用地の収去が遅れ用地が解決した部分から暫時調査を実施することになり、第Ⅱ期調査は平成10年12月１日に調査を再開し、平成11年８月31日で本遺跡の調査の全調査を終了した。

新井大田関遺跡は平成８年11月に試掘調査をおこなった結果、本遺跡の東側の神沢側右岸には遺構が確認されず、萩原遺跡よりの部分で平安時代の集落と、中間部分での平安時代の水田跡が検出された。よって、同年12月から本調査に着手した。

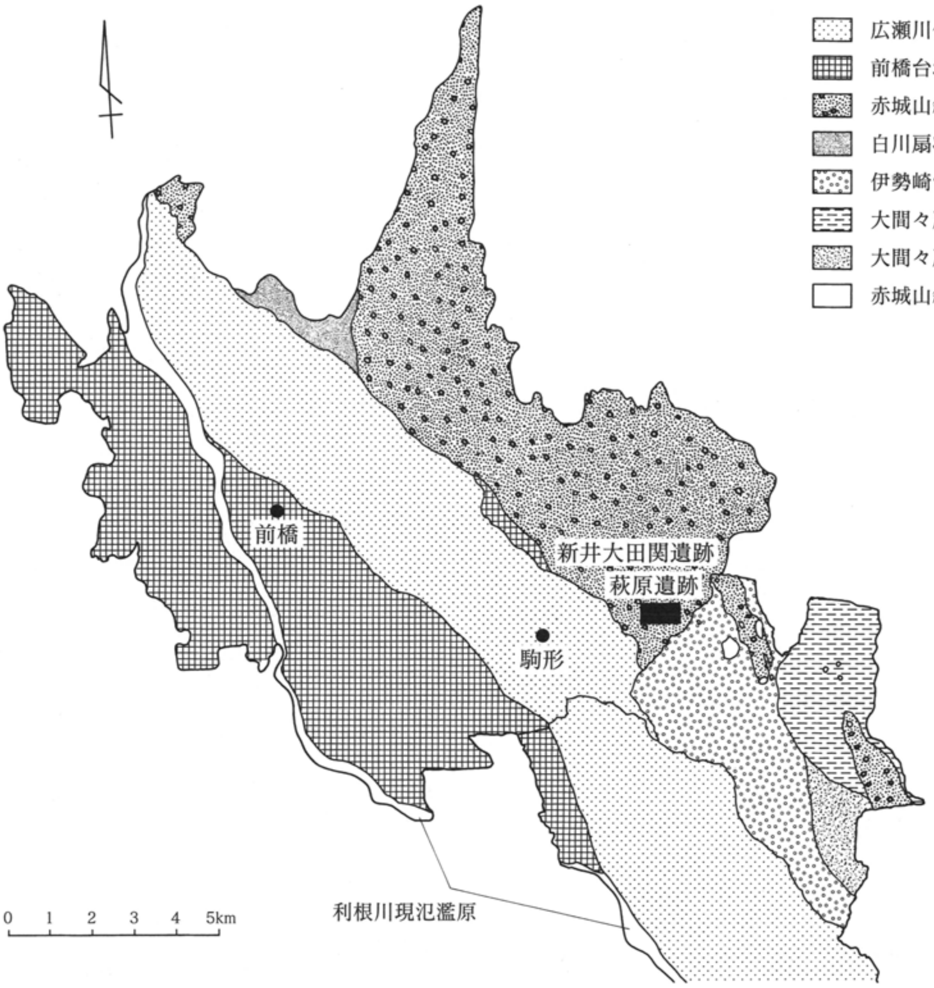


第１図　萩原遺跡・新井太田関遺跡位置図

2　遺跡の地理的環境

萩原遺跡及び新井大田関遺跡は前橋市二之宮町と前橋市新井町に所在する。前橋市は群馬県の中央部よりやや南、関東平野の北部を占め、市域東は勢多・佐波両郡及び伊勢崎市に、西は北群馬・群馬の両郡及び高崎市に、北は勢多・北群馬両郡に、南は佐波郡に接する。上毛三山の赤城山は北、榛名山は西に聳え、妙義山は遙か西南に眺めることができる。奥利根に源を発し、市中央やや西寄りを北から南東へ流れる利根川は、前橋市の基盤となる前橋泥流層を深く浸食し恰も中流域の様相を呈する。本州のほぼ中央に位置する本市は関東と上信越、表日本と裏日本を結ぶ要地・要衝として往古より発展してきた土地でもある。本市は地形・地質的には赤城火山斜面・前橋大地・広瀬川低地帯・現利根川氾濫原の４つに区分され、二之宮町は巨視的には４区分のうち赤城火山斜面の末端に位置し、萩原遺跡、新井太田関遺跡ははこの斜面上に発見された。両遺跡の西には勢多郡宮城村湯之沢地区を水源とする荒砥川が、東には勢多郡宮城村三夜沢橋で荒砥川から分水する神沢川が流れており、この神沢川が本市と伊勢崎市との市境となっている。

赤城火山斜面は、約40万年～20万年前に噴火活動を開始した赤城山の裾野を形成していた部分である。斜面は主に成層火砕岩類からなり関東ローム層により覆われているが、南麓斜面は500m付近で山地帯から丘陵性台地への地形変換がみられ、200m



第２図　地形分布図（『前橋市史』『伊勢崎市史』自然編）

より下では低台地化している。この低台地地域では藤沢川・荒砥川・神沢川・荒口川・桂川等の中・小河川や山麓端部からの湧水によって開析が進むと同時に、斜面上の砂質物質は大量に運搬・堆積され、端部は複雑に入り組んだ沖積地が形成されている。尚、開析谷は比較的浅いものが多く、谷底部はかなり高いところまで水田化されている。明治18年作成の迅速測図には、萩原遺跡及び新井太田関遺跡周辺は大部分を畑、谷間の一部を水田として利用されており、灌漑用の溜池が遺跡北側斜面上に数多く点在している様子が記載されている。

第３図　明治18年迅速測図（萩原、新井大田関周辺）

●：萩原遺跡　■：新井大田関遺跡

荒砥川の西に広がる広瀬川低地帯は、赤城火山斜面と前橋台地との間に挟まれた約２km～３kmの区間で、前橋市の北西部から南東部に帯状にのびている。この低地帯は旧利根川の氾濫原で一般的に上部ローム層の堆積は認められず、過去の利根川の氾濫原堆積物である沖積砂礫からなっている。低地帯の中には自然堤防あるいは小扇状地と見なせる微高地が点在し複雑な地形となっている。これらの微高地上には集落遺跡が存在することが確認されている。現在この低地帯には桃の木川や広瀬川、その他の小河流や用水が合流あるいは分流しつつ地形に制約を受けながら南東流している。尚、現在の広瀬川の河道に近いところは、利根川が今の河道に大移動する直前の河床にあたっていたと考えられている。

広瀬川低地帯の西側に広がる前橋台地は、浅間山の山体崩壊が起源とされる泥流堆積物が本市を中心に利根川に沿って堆積し形成されたもので、層厚は10数mと推察されている。泥流が形成された時期は、泥流層下位に始良カルデラの火山灰が確認できること、泥流層を挟み板鼻褐色軽石群のテフラが確認できることから、21,000～17,000年前位と考えられている。現在の前橋台地にはこの前橋泥流の上に層厚数10cm～1mを測る黒色土壌が堆積している。堆積している黒色土中には約13,000年前の板鼻黄色軽石、４世紀初頭のAs-C、６世紀初頭のHr-FA、1108年のAs-B、1183年のAs-A、等の火山灰や軽石が層位毎に確認でき、黒色土が腐食化の進行と同時に、それと平行して母材の累積が行われたことが分かる。また、前橋泥流下には、洪積世の利根川の扇状地堆積物と考えられるている層厚100m以上の前橋砂礫層が存在している。

現利根川氾濫原は広瀬川低地帯を流れていた利根川が現利根川に流れを変えできた地域である。流路を変えた原因については、応永26年（1419年）、応永27年（1420年）、応永34年（1427年）、正長元年（1428年）、文明14年（1482年）、天文年間（1532年～1554年）等の洪水により運ばれた大量の土砂が旧河道を塞ぎ、溢れた水が他の小河川に流れ込み河道を押し広げ新しい河道をつくったという説や、人為的に河川の掘削が行われたという説もある。何れにせよ、前橋台地上を新たに流れることになった利根川に削られてできたのが現氾濫原である。氾濫原は大渡橋付近を境に上流と下流で様相が異なり、上流の田口付近では河幅が700m以上にも達するのに対し、前橋台地に入り込んでからは河幅は急減し100～200mとなる。

3　遺跡の歴史的環境

萩原遺跡、新井大田関遺跡は数時期に渡る遺構や遺物が発見された複合遺跡である。遺跡の所在する前橋市二之宮町周辺は、上武国道、圃場整備、北関東自動車道等の建設に関わる発掘調査で旧石器時代から近世に至る数多くの遺跡が発見されており、荒砥川、神沢川、広瀬川が南流する本地域が古より居住地として良好な条件を有していたことが窺える。以下、本遺跡周辺の歴史的環境を時代毎に概略する。

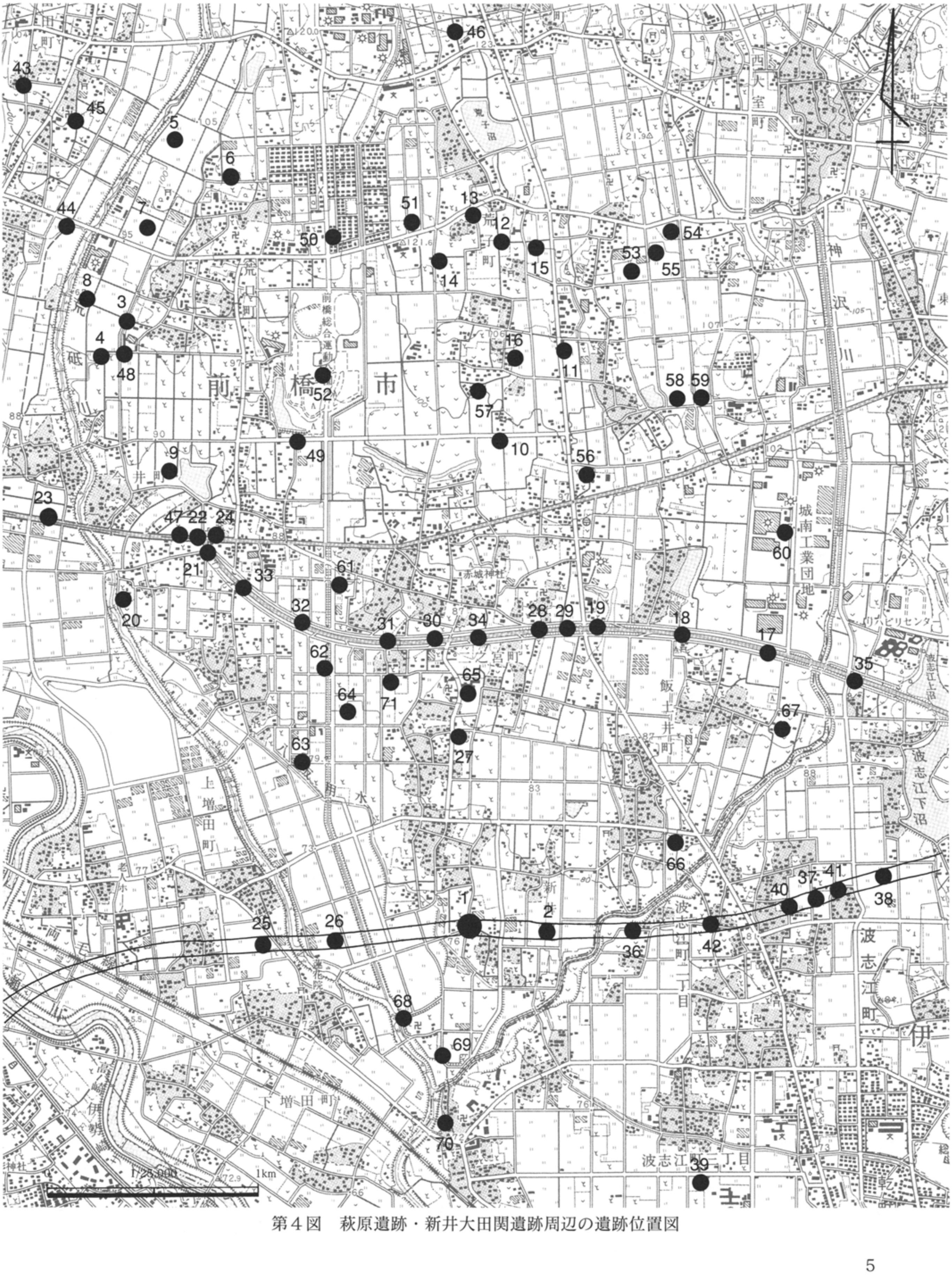
縄文時代　縄文時代の遺跡は中・小河川や湧水地を臨む台地上に多く点在しておりその数は30を数える。黒浜式や諸磯期を中心とした前期の集落は、荒砥北原(4)、荒砥上ノ坊(10)等の遺跡で発見されているが何れも小規模集落である。中期の遺跡は荒砥前原(70)、荒砥二之堰(68)、二本松(61)、波志江中野面(36)等の遺跡で集落が発見されている。特に荒砥前原(70)では、加曽利Ｅ３式期の住居跡から出土した多量の土器により加曽利Ｅ式後半の土器の変遷を具体的に把握する好資料を得ると同時に、加曽利E式期において住居形態が円形住居から柄鏡形敷石住居に変化することが把握できた。後期の遺跡は堀之内式期の柄鏡形敷石住居形が発見された荒砥二之堰(68)がある。晩期の遺跡では配石遺構や安行・大洞式土器が出土した八坂遺跡(71)がある。

弥生時代　弥生時代の遺跡は少なく僅か７遺跡に過ぎない。何れも沖積地を臨む台地縁辺や微高地上に立地している。中期後半から後期に掛けての住居跡が発見された荒砥前原(70)では、東北地方南部や東関東系の土器も出土しており当該地との関連が強く示唆された。また中期から中期後半にかけて居住地点を移動している状況が把握できた。その他、鶴谷遺跡群(53)、荒砥島原(65)、上蛭沼(60)等でも中期の住居跡が発見されている。後期の住居跡が発見されたのは荒砥上ノ坊(10)、鶴谷遺跡群(53)、荒砥大日塚(50)等の遺跡がある。古墳時代前期の土器と共伴する住居等も確認されており弥生時代から古墳時代への移行過程を考察する好資料を得ている。

古墳時代　古墳時代になると一転して遺跡数が増大し55を数える。もっともこれは下増田常木(25)、下増田越渡(26)等の遺跡における低地部に展開される水田や微高地における畠等の生産域の発見が多くなっていることも一因と考えられる。前期の遺跡からはパレス式土器やＳ字状口縁台付甕に代表される外来東海系の土器が在来土器に混じり多数出土している。また、大型の墓址となる方形周溝墓が荒砥北原(4)、荒砥宮田(7)、荒砥二之堰(68)、荒砥島原(65)、波志江中野面(36)、波志江西屋敷(42)等の遺跡で発見されており小地域を統括する権力者の存在が想起される。中期の遺跡としては５世紀後半の今井神社古墳(20)や方形区画を持つ遺構が発見された荒砥荒子(11)があるが住居跡が発見された遺跡は意外に少ない。逆に後期の住居跡が発見された遺跡は多く集落の規模も大きくなる。

奈良・平安時代　この時代の遺跡は54を数え、古墳時代後期の遺跡と同様なちらばりを見せ連続的な繋がりが窺える。集落規模は古墳時代後期より更に大きくなり製鉄関連遺構などの生業に関する遺構の検出も増加し赤城山南麓地域の開発が進む様相を呈する。遺跡で発見される住居跡の数は増え荒砥天之宮(72)では、100軒もの奈良・平安時代の竪穴住居跡が発見されている。その他、荒砥上ノ坊(10)、飯土井二本松(17)、二之宮宮下東(29)、下増田常木(25)等の遺跡においても集落を確認している。As-B下水田は女堀(1)、下増田越渡(26)、下増田常木(25)二之宮谷地(33)等の遺跡で発見されており基本的に前期の水田を踏襲する。

中・近世　中・近世の遺構が発見された遺跡は20を数える。その内、二之宮宮下東(34)では堀内側に土坑340基、井戸44基、竪穴状遺構10基が密集して発見されており龍泉窯系青磁や白磁等が出土している。また、今井道上道下(21)では両側に幅約１m、深さ約１mの側溝を持ち「T」字状に交差する鎌倉時代の道跡が発見されている。



第４図　萩原遺跡・新井大田関遺跡周辺の遺跡位置図

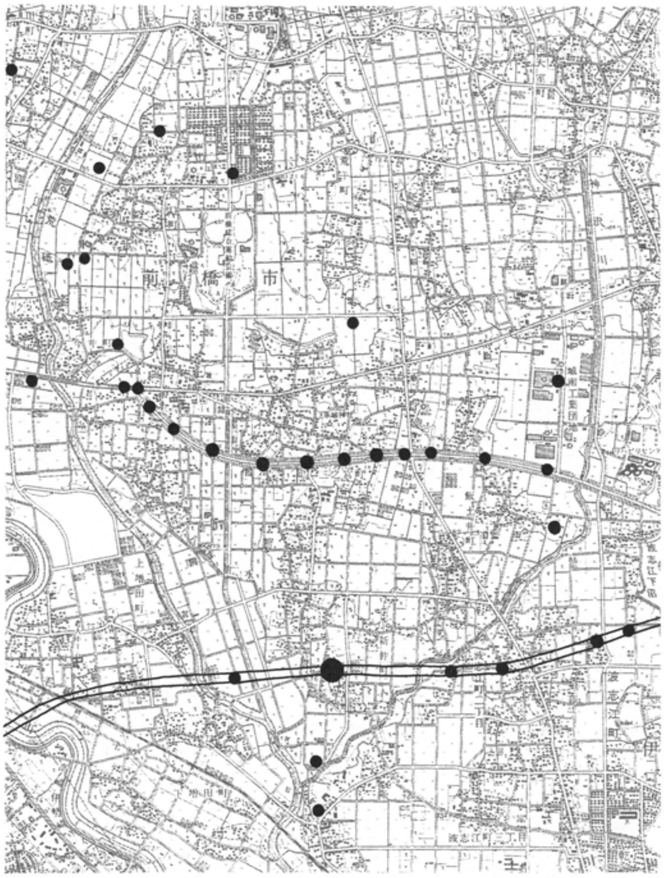
第１表　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	遺　跡　の　概　要	文　献　等
1	萩原遺跡	前橋市二之宮町	縄文時代の土器・陥穴。弥生時代の竪穴住居。古墳時代の竪穴住居。奈良・平安時代の竪穴住居。中世の溝。近世の溝・土坑・土坑墓・畑。	本書
2	新井大田関遺跡	前橋市新井町	古墳時代の溝。奈良・平安時代の水田・竪穴住居・溝。	『年報16』群埋文　1997
3	女堀遺跡	前橋市荒口町	奈良・平安時代の大溝・As-B下水田。	『女堀』群埋文　1984
4	荒砥北原遺跡	前橋市荒口町	縄文時代の竪穴住居12軒。古墳時代前期の方形周溝簿１基・土坑・溝・ピット。	『荒砥北原』群埋文　1981
5	荒砥諏訪西遺跡	前橋市荒口町	古墳時代の竪穴住居。奈良・平安時代の竪穴住居・水田。	『荒砥諏訪西遺跡』群埋文 1978
6	荒砥諏訪遺跡	前橋市荒口町	縄文時代の土器・石器。古墳時代の方形周溝墓・畠。奈良・平安時代の竪穴住居。	『荒砥諏訪遺跡』群埋文 1978
7	荒砥宮田遺跡	前橋市荒口町	縄文時代の竪穴住居。古墳時代の竪穴住居・方形周溝墓。奈良・平安時代の竪穴住居。	『荒砥宮田遺跡』群埋文 1978
8	荒砥前田II遺跡	前橋市荒口町	古墳時代の竪穴住居・掘立柱建物・溝。平安時代の水田。中世の溝。	『年報20』群埋文　2001
9	荒砥北三木堂II遺跡	前橋市荒口町	旧石器時代の結晶片岩剥片を暗色帯下部より出土。縄文時代後期の石器・土器・陥穴。古墳時代中期の竪穴住居・石製模造品・土器・水田。平安時代の竪穴住居・水田。	『年報21』群埋文　2002
10	荒砥上ノ坊遺跡	前橋市荒子町	縄文時代の竪穴住居。弥生時代の竪穴住居。古墳時代の竪穴住居。奈良・平安時代の竪穴住居・畠跡・女堀。	『荒砥上ノ房遺跡Ⅰ～Ⅳ』群埋文 1995～1998
11	荒砥荒子遺跡	前橋市荒子町	古墳時代５世紀の方形区画の溝とその内側にたてられた竪穴住居。奈良・平安時代の竪穴住居。	『荒砥荒子遺跡』群埋文 2000
12	荒砥中屋敷II遺跡	前橋市荒子町	古墳時代の竪穴住居。円墳。奈良・平安時代の竪穴住居・小鍛冶跡・溝・水田。	『荒砥中屋敷II遺跡・荒砥下押切II遺跡』群埋文　1999
13	荒砥下押切II遺跡	前橋市荒子町	古墳時代の竪穴住居・円墳。奈良・平安時代の竪穴住居・小鍛冶跡・溝・水田。	13に同じ
14	荒砥下押切Ｉ遺跡	前橋市荒子町	奈良・平安時代の竪穴住居・土坑。	『年報２』群埋文　1983
15	舞台西遺跡	前橋市荒子町	奈良・平安時代の竪穴住居・土坑。	『下境Ｉ・天神』県教委　1990
16	荒砥中屋敷Ｉ遺跡	前橋市荒子町	奈良・平安時代の竪穴住居・土坑。	『年報２』群埋文　1983
17	飯土井二本松遺跡	前橋市飯土井町	旧石器時代の石器・剥片。縄文時代の竪穴住居。古墳時代の竪穴住居。奈良・平安時代の竪穴住居。	『文化財調査報告書13集』前橋市教委　1983
18	飯土井中央遺跡	前橋市飯土井町	旧石器時代の石器群。縄文時代の竪穴住居・陥穴・土坑。古墳時代の竪穴住居。中・近世の溝・土坑。	『飯土井中央遺跡』群埋文 1991
19	飯土井上組遺跡	前橋市飯土井町	縄文時代の竪穴住居・土坑・溝。古墳時代の竪穴住居・掘立柱建物・井戸・土坑・溝・畠。	『飯土井上組遺跡・波志江中峰岸遺跡』群埋文　1995
20	今井神社古墳群	前橋市今井町	長さ300尺の前方後円墳の今井神社古墳を中心とする27基の古墳群	『女堀遺跡・前田遺跡・北原遺跡・北三木堂遺跡・今井神社古墳群・青柳遺跡』群埋文　1981
21	今井道上道下遺跡	前橋市今井町	旧石器時代の石器・剥片。縄文時代の土器・石器・集石。古墳時代の竪穴住居・粘土採掘坑・掘立柱建物。奈良・平安時代の竪穴住居・掘立柱建物・井戸・溝・石敷き井戸・鍛冶遺構。中・近世の道跡・屋敷堀。	『年報７』群埋文　1988
22	今井道上遺跡 国道50号線拡幅部	前橋市今井町	縄文時代の石器・剥片。古墳時代の竪穴住居。奈良・平安時代の竪穴住居・溝。中世の道状遺構。	『年報７』群埋文　1988
23	今井白山遺跡	前橋市今井町	縄文時代の竪穴住居・土坑・溝。古墳時代の竪穴住居。奈良・平安時代の竪穴住居。平安時代の地震跡。	『今井白山遺跡』群埋文
24	今井道上遺跡	前橋市今井町	古墳時代の竪穴住居。中世の竪穴状遺構・地下式土坑・溝。	『今井道上遺跡』群埋文
25	下増田常木遺跡	前橋市下増田町	古墳時代の竪穴住居・水田。平安時代の水田・溝・井戸・竪穴住居。中・近世の掘立柱建物・水田・土坑。	『下増田常木遺跡』群埋文 2004
26	下増田越渡遺跡	前橋市下増田町	縄文時代の土器。古墳時代の水田。奈良・平安時代の水田２面・竪穴住居・掘立柱建物・井戸・大溝・粘土採掘坑・土坑。中・近世の井戸・溝。	『下増田越渡遺跡』群埋文 2003
27	青柳遺跡	前橋市二之宮町	古墳時代から平安時代の竪穴住居４軒・溝・土坑・井戸。	20に同じ
28	二之宮宮東B	前橋市二之宮町	縄文時代の土坑。中世の板碑・掘立柱建物・溝。	『年報５』群埋文　1986
29	二之宮宮東遺跡	前橋市二之宮町	縄文時代の土坑。古墳時代の溝・土坑。奈良・平安時代の竪穴住居・掘立柱建物・溝・土坑・水田・畠・池・小鍛冶・祭祀遺構。中・近世の掘立柱建物・溝・土坑・畠・井戸。	『二之宮宮東遺跡』群埋文 1994
30	二之宮宮下西遺跡	前橋市二之宮町	旧石器時代の石器。縄文時代の陥穴。古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居・水田・中世の館・地下式土坑・溝・井戸。	『二之宮宮下西遺跡』群埋文 1995

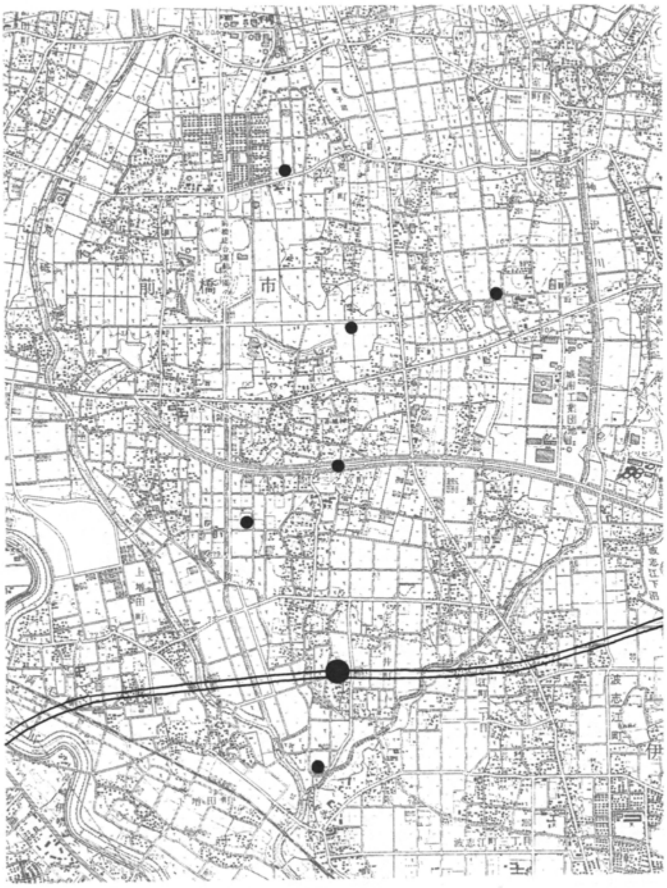
番号	遺跡名	所在地	遺　跡　の　概　要	文　献　等
31	二之宮千足遺跡	前橋市二之宮町	旧石器時代の石器。縄文時代の埋甕・土坑・陥穴。古墳時代の水田。奈良・平安時代の竪穴住居・鍛冶・土坑。中世の墓。中・近世の溝・土坑・墓・井戸。	『二之宮千足遺跡』群埋文 1992
32	二之宮洗橋遺跡	前橋市二之宮町	縄文時代の土器・石器。古墳時代の水田。奈良・平安時代の竪穴住居・水田・掘立柱建物・墨書土器。中世の館堀・土坑・井戸。	『二之宮洗橋遺跡』群埋文 1994
33	二之宮谷地遺跡	前橋市二之宮町	旧石器時代の礫群・石器・剥片。縄文時代の土器・石器。古墳時代の竪穴住居。平安時代の竪穴住居・墓坑・掘立柱建物。平安時代の水田。近世の井戸・溝。	『二之宮谷地遺跡』群埋文
34	二之宮宮下東遺跡	前橋市二之宮町	縄文時代の石器。弥生時代の土器。古墳時代の竪穴住居・水田。奈良・平安時代の竪穴住居。平安時代の水田。中世の館堀・土坑・掘立柱建物・井戸・水田。	『二之宮宮下東遺跡』群埋文 1994
35	波志江今宮遺跡	伊勢崎市波志江町	円墳。帆立貝形古墳。古墳時代の竪穴住居。奈良・平安時代の竪穴住居。平安時代の水田。近代の炭窯。	『波志江今宮遺跡』群埋文 1995
36	波志江中野面遺跡	伊勢崎市波志江町	縄文時代の竪穴住居・埋甕・土器・石器。古墳時代の竪穴住居・方形周溝墓・井戸・溝。平安時代の竪穴住居。近世の土坑・溝・井戸。	『波志江中野面遺跡』群埋文 2000・2001
37	波志江中屋敷西遺跡	伊勢崎市波志江町	古墳時代の溝・水田。平安時代の井戸・溝・竪穴住居As-B。中世の水田・館跡・柱穴・掘立柱建物・土坑墓。	『年報17』群埋文　1998
38	波志江中屋敷東遺跡	伊勢崎市波志江町	縄文時代の土器。古墳時代の水田。平安時代の水田・馬蹄痕。	『波志江中屋敷東遺跡』群埋文 2002
39	中組遺跡	伊勢崎市波志江町	古墳時代の竪穴住居・土坑。奈良時代の竪穴住居。	『中組遺跡』群埋文　2001
40	岡屋敷遺跡	伊勢崎市波志江町	旧石器時代の石器・剥片・礫群。古墳時代の竪穴住居・鍛冶。奈良・平安時代の竪穴住居。中・近世の環濠屋敷・掘立柱建物・竪穴状遺構・井戸・土坑墓。	『年報18』群埋文　1999
41	波志江中屋敷遺跡	伊勢崎市波志江町	縄文時代の土器・石器・竪穴住居。古墳時代の水田。平安時代の竪穴住居・溝・土坑・井戸。中・近世の環濠屋敷・ピット・土坑・掘立柱建物。	『年報18』群埋文　1999
42	波志江西屋敷遺跡	伊勢崎市波志江町	縄文時代の土器・石器。古墳時代の竪穴住居・掘立柱建物・方形周溝墓。奈良・平安時代の竪穴住居・掘立柱建物・溝。中・近世の火葬土坑・ピット・土坑・掘立柱建物・屋敷跡。	『波志江西屋敷遺跡』群埋文 2002
43	富田高石遺跡	前橋市富田町	旧石器時代の石器・剥片。縄文時代の陥穴。古墳時代前期の竪穴住居・方形周溝墓。平安時代の道状遺構。中世の掘立柱建物・大溝。中世以降の土坑。鉄砲玉１個。	『年報21』群埋文　2002
44	富田細田遺跡	前橋市富田町	平安時代の水田。中世の溝。近世の掘立柱建物。	『年報19』群埋文　2000
45	富田宮下遺跡	前橋市富田町	旧石器時代の石器・剥片。古墳時代の竪穴住居。平安時代の水田・竪穴住居。中世の溝・屋敷跡。	『年報19』群埋文　2000
46	荒砥上西原遺跡	前橋市下大屋町	奈良・平安時代の竪穴住居・掘立柱建物・溝・土坑。	『試掘、泉沢谷津遺跡、荒砥上西原遺跡』群埋文　1984
47	今井道上II遺跡	前橋市今井町	旧石器時代の安山岩や頁岩の剥片。縄文時代前期の竪穴住居跡・陥穴。古墳時代後期の竪穴住居跡。	『年報21』群埋文 2002
48	荒砥北原II遺跡	前橋市今井町	縄文時代の土器・石器数10点。	『年報21』群埋文　2002
49	荒砥大日塚遺跡	前橋市二之宮町	古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居。平安時代のAs-B下水田。	『荒砥大日塚遺跡』群埋文 1994
50	下鶴ヶ谷遺跡	前橋市荒子町	旧石器時代の石器・剥片。縄文時代の集石遺構、竪穴住居・土坑。奈良・平安時代の竪穴住居・炭窯・掘立柱建物。	『柳久保遺跡群Ⅳ・Ⅴ』前橋市教委　前橋市埋文発掘調査団 1987・1988
51	頭無遺跡	前橋市荒子町	弥生時代中期の竪穴住居。古墳時代の竪穴住居。平安時代の竪穴住居。近代の墨窯。	『昭和59年度荒砥北部遺跡群発掘調査概報』群馬県教委　1984
52	鶴谷遺跡群	前橋市荒口町	弥生時代の竪穴住居。古墳時代の竪穴住居。奈良・平安時代の竪穴住居。中世の墓坑。	『鶴谷遺跡群』『鶴谷遺跡群II』前橋市教委 1980・1981
53	舞台遺跡	前橋市荒子町	古墳３基。１基は帆立貝型古墳。	『舞台・西大室丸山』県教委 1991
54	荒子の砦跡	前橋市荒子町	中・近世の城館跡。	山崎一『群馬県古城塁址の研究』上巻 1971
55	稲荷山II遺跡	前橋市西大室町	平安時代の竪穴住居。近世の溝。	『年報10』群埋文　1991
56	元屋敷遺跡	前橋市荒子町	古墳時代から平安時代の竪穴住居。地震による地割れ跡。	『舞台・西大室丸山』県教委 1991
57	新屋遺跡	前橋市荒子町	古墳時代の竪穴住居。	井上唯雄『前橋市城南地区の土師使用遺跡』荒砥史談会 1968
58	天神遺跡	前橋市西大室町	古墳時代から平安時代の竪穴住居。古墳２基。溝。	『下境Ｉ・天神』県教委　1990

番号	遺跡名	所在地	遺　跡　の　概　要	文　献　等
59	上蛭沼遺跡	前橋市荒子町	弥生時代中期の竪穴住居。古墳。古墳時代の竪穴住居。	『舞台・西大室丸山』付図県教委　1991
60	二本松遺跡	前橋市飯土井町	縄文時代の竪穴住居。古墳時代の竪穴住居。平安時代の竪穴住居・掘立柱建物。	『文化財調査報告書13集』前橋市教委1983
61	荒砥宮西遺跡	前橋市二之宮町	古墳時代から平安時代の竪穴住居・井戸・土坑・溝。	『荒砥洗橋遺跡・荒砥宮西遺跡』群埋文　1989
62	荒砥宮川遺跡	前橋市二之宮町	古墳時代から平安時代の竪穴住居・掘立柱建物。円墳４基。平安時代の道・水田。	『荒砥宮川・宮原遺跡』群埋文1984
63	荒砥宮原遺跡	前橋市二之宮町	古墳時代の竪穴住居・円墳４基。	61に同じ
64	荒砥島原遺跡	前橋市二之宮町	弥生時代中期の竪穴住居。古墳時代の竪穴住居・方形周溝墓。奈良・平安時代の竪穴住居・水田。	『荒砥島原遺跡』群埋文1984
65	荒砥青柳遺跡	前橋市二之宮町	奈良・平安時代の竪穴住居・溝・土坑。	『荒砥北原遺跡・今井神社古墳・荒砥青柳遺跡』群埋文　1986
66	赤石城址	前橋市飯土井町	中世の城郭。	『荒砥前原遺跡・赤石城址』群埋文1985
67	荒砥二之堰遺跡	前橋市飯土井町	縄文時代の前期・中期・後期の竪穴住居。古墳時代の竪穴住居・方形周溝墓。古墳21基。	『荒砥二之堰遺跡』群埋文1985
68	新土塚城址	前橋市新井町	東西150m、南北250mの土台を占めた城跡。	山崎一『群馬県古城塁址の研究』上巻 1971
69	荒砥前原遺跡	前橋市二之宮町	縄文時代中期の竪穴住居・埋設土器・土坑。弥生時代中期・後期の竪穴住居・竪穴状遺構。古墳時代の竪穴住居・円墳１基。	『荒砥前原遺跡・赤石城址』群埋文1985
70	八坂遺跡	伊勢崎市波志江町	縄文時代後期中葉の配石遺構。遺物包含層から縄文中期～晩期に掛けての土器片、石器、土偶、耳飾り、獣骨出土。	『伊勢崎市史』通史編Ⅰ1987
71	荒砥天之宮遺跡	前橋市二之宮町	古墳時代中期～平安時代の竪穴住居206軒、溜井４基、As-B下水田。	『荒砥天之宮遺跡』群埋文1988

縄文時代の遺跡

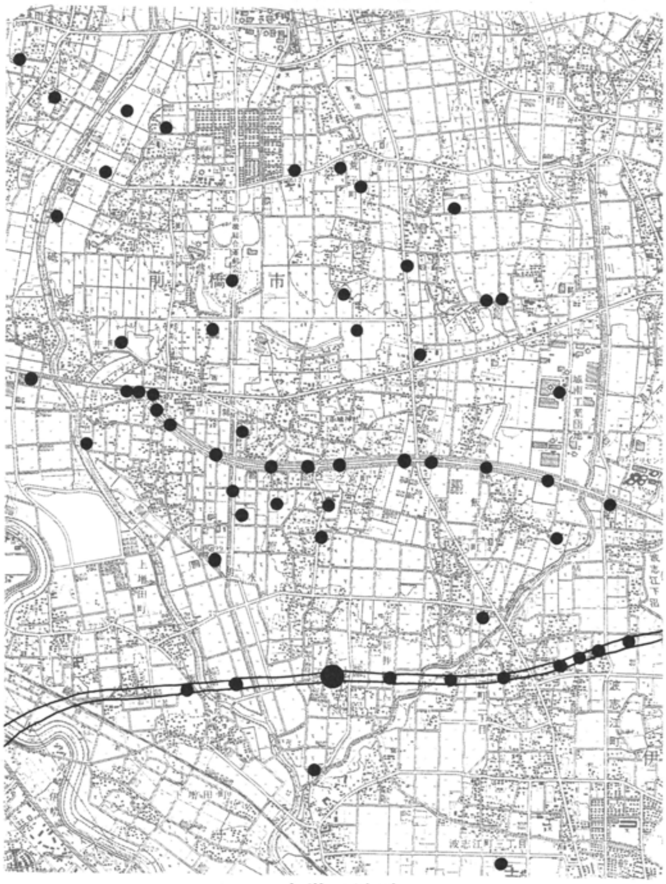


弥生時代の遺跡

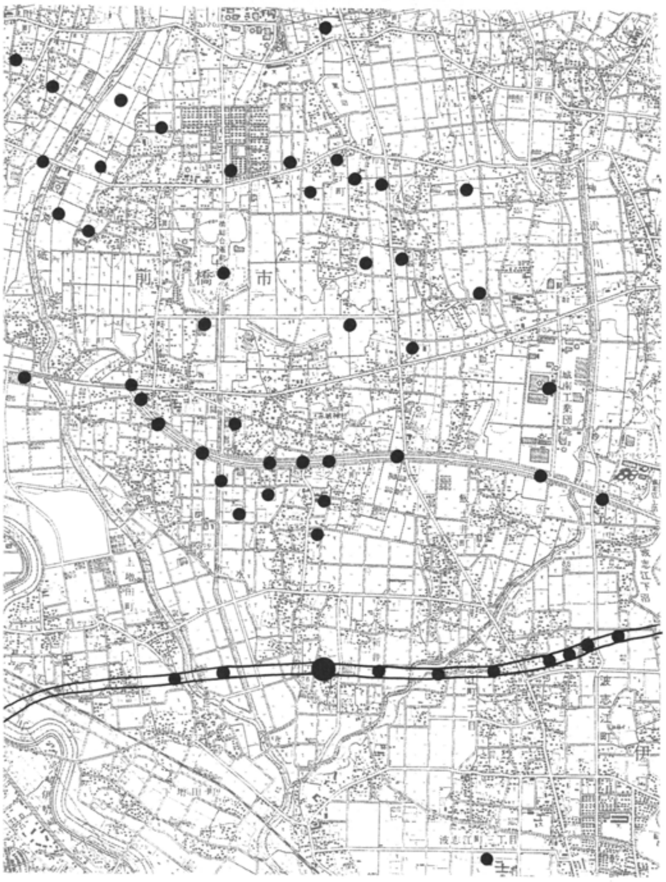


第５図　周辺遺跡（縄文、弥生）

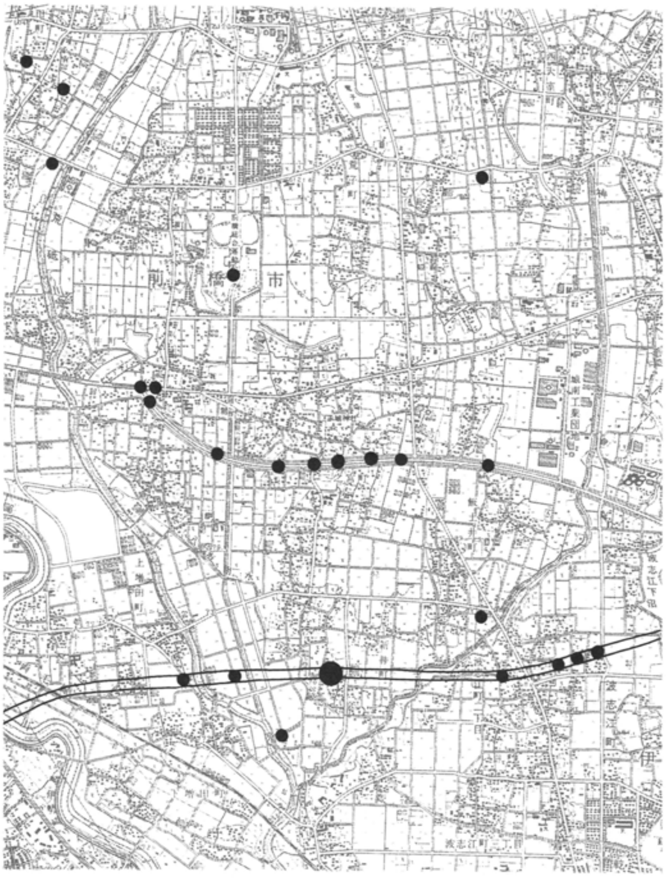
古墳時代の遺跡



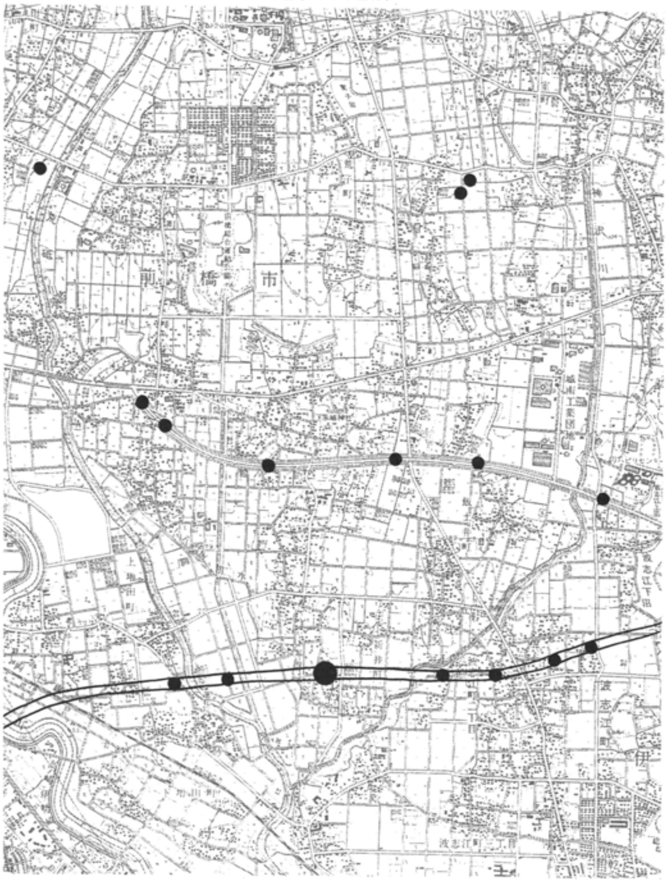
奈良・平安時代の遺跡



中世の遺跡



近世の遺跡



第6図　周辺遺跡（古墳、奈良・平安、中世、近世）

II　萩原遺跡の調査

1　調査方法と調査経過

調査にあたっての方眼設定には、国家座標第11系を用い10mを基準とした。各方眼の名称は、南東隅の座標値で表し、X＝860・Y＝470のように標記した。本遺跡の調査は複数年次に渡ることが予想されたため、対象地区を便宜的にA～E区に分けて実施した。更に、農道や用地買収状況等により調査区が分断される場合にはB－1区・B－2区等と細分した。遺構名称は基本的に各調査区のアルファベットを冠し、遺構の種類別に算用数字を用いた通番とした。遺物注記は遺跡番号であるKT－170を使用した。

1　平成8年度（調査面積　5,795㎡）

前橋市二ノ宮地区内の本線北側に事務所用地を借地し調査事務所を開設、11月25日からA区の表土除去作業を開始、引き続きD区、E区の表土削平を行った。A区は農作業のトレンチャー跡が縦横に入り遺構確認は困難を極め、D区・E区は昭和50年代に行われた圃場整備による削平が激しく遺構残存状況は芳しくなかった。現表土除去後の遺構確認面はA区、D区、E区共に、赤城山の山体崩壊黄褐色砂質土面とし、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑跡・井戸跡の遺構を確認した。尚、調査期間が短いため本年度調査はA区のみとし、弥生時代から平安時代の竪穴住居跡11基と縄文時代から近世の土坑数基の調査を実施した。また、旧石器調査の試掘も行ったが旧石器は未検出であった。

2　平成9年度（調査面積　2,566㎡）

本年度の調査は昨年度の継続でA区、D区、E区を行った。A区は昨年度調査済みの11軒を除く28軒の竪穴住居跡の調査を実施した。竪穴住居跡は昨年度同様弥生時代から平安時代至る時期が主体であったが、昨年度に比べ平安時代の竪穴住居跡の比率が高かった。圃場整備による深い削平と数十基の墓の移転を行ったD区は調査面積に比し遺構が少なく、古墳時代から平安時代に至る数基の竪穴住居跡、中世の溝跡や屋敷堀跡と思われる溝跡、近世の墓廣を調査した。D区同様遺構残存状況の悪いE区では、古墳時代の竪穴住居跡、D区より延長する溝跡、近世の土坑を調査した。尚、A区とD区の間にあるB区・C区の調査を残し本年度調査は一時中断した。

3　平成10年度（調査面積　1,919㎡のべ3,519㎡）

本年度は、D区の未調査部及び新たにB区の調査を実施した。調査は緩やかな低地部にあたるB区の西半分より始め、As-B層下に平安時代の水田と水田耕作土下に同じく平安時代の竪穴住居跡と土坑跡を検出した。各遺構はA区とB区の間にある現道下に大部分掛かることから現道を除去し調査を行った。水田耕作土下層には部分的なFP混じりの層As-C混土層が確認され、各層位毎に調査を行ったが水田等の明瞭な遺構は確認できず、縄文土器、石皿・石鏃等の石製品を若干出土するのみであった。低地部となるこのB区のみ2面調査を行い、昨年度からの継続であるD区では古墳時代の竪穴住居跡と中・近世の墓廣を調査した。

4　平成11年度（調査面積　6,722㎡のべ8,164㎡）

本年度は、当初2班体制で6月中旬より1班体制でB区東半分及びC区の調査を実施した。平成10年度調査ではB区のAs-B層下を第1面としたが、As-B層上に水平に堆積する明褐色微砂質土層が存在していることから、その面を追加調査することにし、調査第1面を粘質土が混入する褐灰色土とした。結果、B区東半分では、第1面で軸方向を異にする畠サク跡を検出した。第2面となるAs-B層下では、昨年度検出した水田の続きを確認し、引き続き調査面を下げていったが、竪穴住居跡等の遺構は確認できなかった。C区は昭和50年代に行われた圃場整備による影響であろうか検出遺構は少なく、僅かに数基の倒木跡と縄文晩期と視察される土坑を検出するのみであった。最終的に微高地となるC区は1面、低地となるB区は3面の調査を行った。

2　基本土層

本遺跡の所在する前橋市二之宮町は赤城山南麓の端部に位置する。この付近の斜面は、赤城山から南流する荒砥川や神沢川、更に山麓端部からの湧水によって開析が進み複雑に入り組んだ地形となっている。そこを東西に横断する形で発見された萩原遺跡は微高地と低地とが交互に現れることとなり、調査地区により基本土層はかなり異なる。更に、昭和50年代に広範囲に行われた圃場整備により旧地形は大きく損なわれ、微高地部は深く削られ低地部は厚く盛土されており、調査前はA・D・E区は畑地、B・C区は宅地として利用されていた。旧地形において微高地となるA・C・D・E区は、現表土直下が赤城山体崩壊砂質土となっており１面調査を実施した。低地となるB区は、現表土下に明褐色微砂質土、As-B一次堆積層、Hr-Fa混土層、As-C混土層が確認でき、各層位毎の調査を実施したがAs-B下水田や時期不明の畑耕作痕以外明瞭な遺構把握には至らなかった。尚、C区とD区の間にある現道下は大量の土砂により埋没する深く狭小な谷地で地形確認のみで調査は行っていない。以下、本遺跡の基本土層として微高地部ではC区を、低地部ではB区を代表として示す。

〈C区：微高地〉

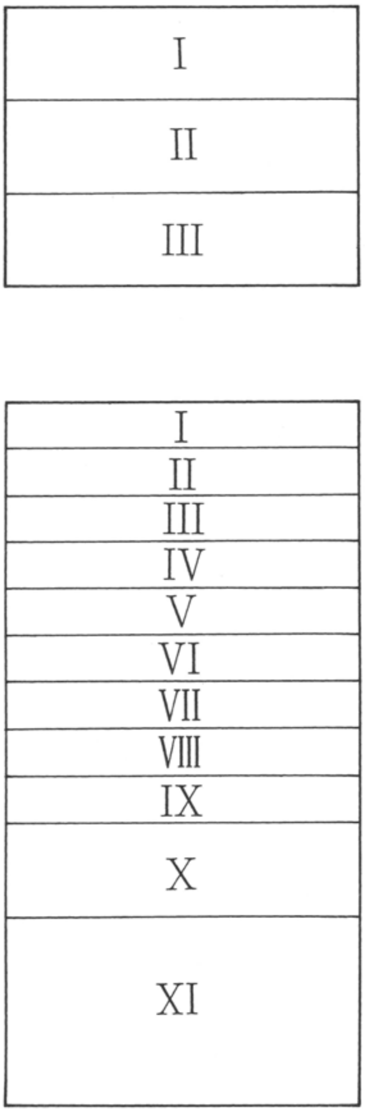
Ⅰ層	鈍い褐色砂質土	現耕作土
Ⅱ層	黄褐色砂質土	赤城山山体崩に起因（※１）
Ⅲ層	褐色砂質土	

（※１）：調査第１面（竪穴住居跡・土坑・溝等検出）

〈B区：低地部〉

Ⅰ層	鈍い褐色砂質土	現耕作土
Ⅱ層	明褐色微砂質土	細質
Ⅲ層	褐灰色土	粘質土混じる（※２）
Ⅳ層	青灰色細粒火山灰	As-kk一次堆積
Ⅴ層	成層テフラ層	As-B一次堆積
Ⅵ層	暗褐色土粘質土	水田耕作土（※３）
Ⅶ層	灰褐色土弱粘質土	Hr-FA混じる
Ⅷ層	黄色細粒火山灰	Hr-FA一次堆積（部分的）
Ⅸ層	暗灰色土	As-C軽石混じる（※４）
Ⅹ層	黒灰色粘質土	砂・小礫混じる
Ⅺ層	暗褐色粘質土	砂・小礫混じる

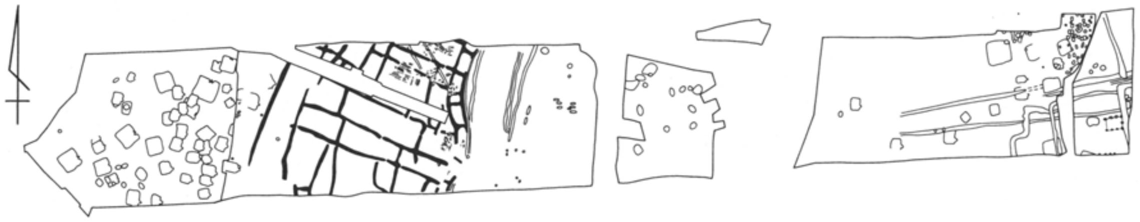
（※２）：平成11年度　調査第１面（畑検出）
（※３）：平成11年度　調査第２面（水田検出）
　　　　平成10年度　調査第１面（水田検出）
（※４）：平成11年度　調査第３面（溝検出）



第７図　基本土層模式図

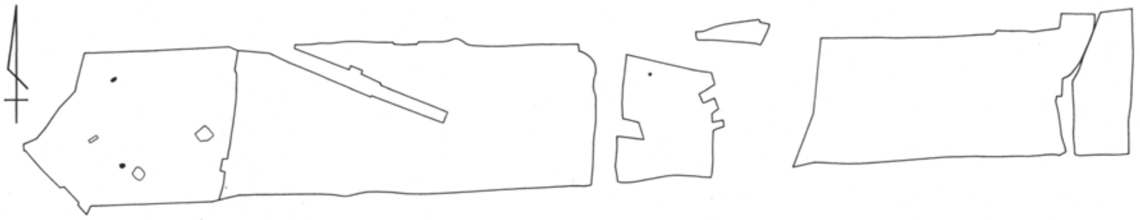
3　検出された遺構と遺物

（1）遺跡の概要



第８図　検出遺構全体分布図（1/2500）

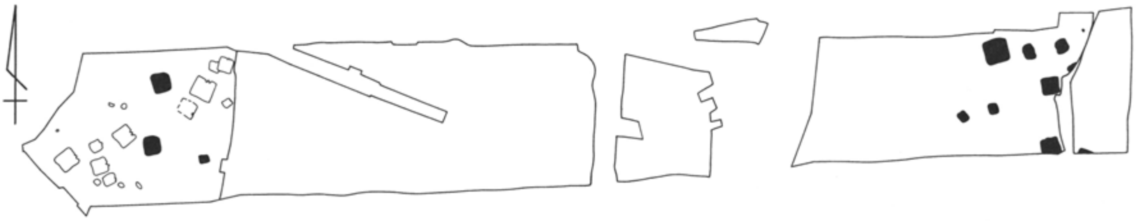
東西に調査区が広がる本遺跡では微高地と低地が交互に確認された。微高地はＡ区、Ｂ区、Ｃ区、Ｄ区、Ｅ区、低地はＢ区の一部とＣ区とＤ区の間を南北に走る現道下であった。昭和50年代に行われた圃場整備は本来起伏のある旧地形を大きく変えることとなり、大きく削平された微高地は、表土下が地山黄褐色砂質土となっており１面調査を、圃場整備の影響の少ない低地部は３面調査を行った。各調査区の検出遺構は、Ａ区では竪穴住居跡39軒、土坑11基、Ｂ区では竪穴住居跡４軒、溝７状、土坑26基、Ｃ区では縄文晩期～弥生初頭と推察される土坑、Ｄ区では竪穴住居跡14軒、溝６状、土坑54基、井戸１基、Ｅ区では竪穴住居跡１軒、掘立柱建物２軒、溝６状、土坑５基、井戸１基である。３面調査となったＢ区の低地部では畑、水田、２状の溝を検出し、Ｃ・Ｄ区境の現道下は南北に走る狭小な谷となり、大量の土砂により埋没している状況が確認されるのみで、遺構の検出には至らなかった。発見された遺構の時期は縄文時代から近世までと幅広く、本遺跡の大部分となる微高地部が古より良好な居住域として利用されていたことが窺えた。以下、各遺構を時代毎に整理し概略を述べる。



第９図　縄文時代・弥生時代の検出遺構分布図（縄文時代の遺構は黒）（1/2500）

縄文時代の遺構はＡ区で２基の陥穴、Ｃ区で縄文晩期から弥生初頭と推察される土坑が検出されている。陥穴からは出土遺物は無く詳細な時期は不明である。遺構は伴わないまでも各調査区では縄文時代の石器や土器片が遺構覆土や表採として多数発見されており、時期も草創期から晩期に渡り幅広い。遺物点数はＡ区が圧倒的に多く、中でも微高地西縁に当たる付近が多い。Ａ区６号竪穴住居跡覆土からは草創期の撚糸文土器片が、同じくＡ区14号竪穴住居跡からは前期の爪形文土器片が出土している。また、Ｄ区では後期の注口土器がほぼ完形の状態で表採遺物として取り上げられており何らかの遺構があった可能性は高い。弥生時代の遺構としてはＡ区４号、11号、37号の３軒の竪穴住居跡がある。竪穴住居跡は３軒とも中期前半の時期に当たり赤城南面の弥生時代の遺構として良好な資料を得た。竪穴住居跡の形状は縦長長方形を基本とし他時期の竪穴住居跡に比し掘り込みは浅い。このＡ区では11号竪穴住居跡のすぐ北側でほぼ完形の弥生時代後期の樽式小型壺が表採遺物として取り上げられており、弥生時代後期の遺構が存在した可能性が窺える。尚、遺構は確認されないもののＣ・Ｅ区においても弥生

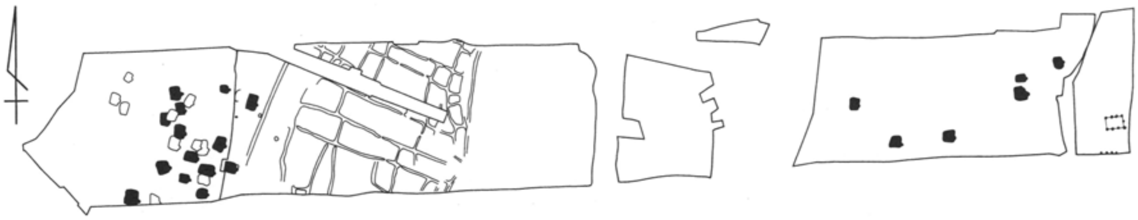
初頭から後期に至る土器片が出土しており、遺構が存在した可能性は否定できない。



第10図　古墳時代の検出遺構分布図（古墳時代前期の遺構は黒）（1/2500）

古墳時代の遺構は古墳時代前期の３世紀末～４世紀代の竪穴住居跡と土坑、古墳時代後期６世紀代の竪穴住居跡と土坑が発見された。古墳時代前期の竪穴住居跡はＡ区中央付近とＤ区東側からＥ区に掛けての地区に集中して発見された。どの住居もほぼ正方形を呈し他時期の住居跡に比べ全般的に掘り込みは深く、大型の住居跡には床４隅に柱穴が確認できた。検出された11軒の竪穴住居跡の内、Ｄ区１号住居跡からは銅鏡を模した土製品や体部に意図的に孔を穿った坩等、やや特殊な遺物が出土している。

古墳時代後期の竪穴住居跡はＡ区にのみ検出され、南西部と北西部に２分されている様相が窺えた。検出された竪穴住居跡は10を数え６世紀前半の竪穴住居跡が主体を成す。どの住居も竈は住居内に大きく張り出し竈構築材として粘質土が利用されていた。その内、焼失家屋が２軒あり、１号住居跡は焚き口天井材や袖材として安山岩が利用されている状況が明瞭に把握できる等、良好な残存状況を呈した。32号住居跡は住居床に数本の間仕切り溝や炭化した杭が発見された他、１軒の住居跡としては驚く程の遺物があり３個体の須恵器大甕や丁寧なヘラ磨きを施す杯等が多量に出土した。また、６号住居跡では竈横の方形区画に甕を埋設し置き台として転用する状況が看取された。尚、焼失家屋の炭化材の樹種同定を行った結果、クヌギ節との鑑定を得ている。クヌギ節の材は現在は主要建材としては利用されていないが、県内においても古墳時代は代表的な建築材樹種として知られており、当遺跡の住居においても多用されていたことが確認された。これら居住域以外の水田等の生産域の遺構は、自然科学分析では可能性が高いという数値を得ているものの明確な遺構は確認できていない。

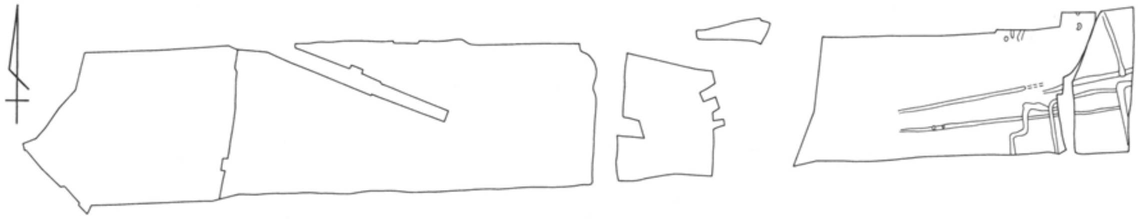


第11図　平安時代の検出遺構分布図（９世紀代の竪穴住居跡は黒）（1/2500）

平安時代の遺構は微高地上に竪穴住居跡、掘立柱建物、土坑、微高地縁辺部に溝、低地部に水田が発見された。まず竪穴住居跡から見ていく、９世紀代と10世紀代の２時期に大別され、９世紀代の竪穴住居跡はＡ区で12軒、Ｂ区で２軒、Ｄ区で６軒と東西に長い遺跡のほぼ全域に存在し、規模は南北に長軸を有するか東西に長軸を有するかで２分された。竈は全ての住居で東壁の中央かやや南寄りに構築され煙道は壁外に大きく張り出すのを基本としていた。全般的に掘り込みが浅いためトレンチャー等の攪乱の影響を受け竈等の残存状況は芳しくない。

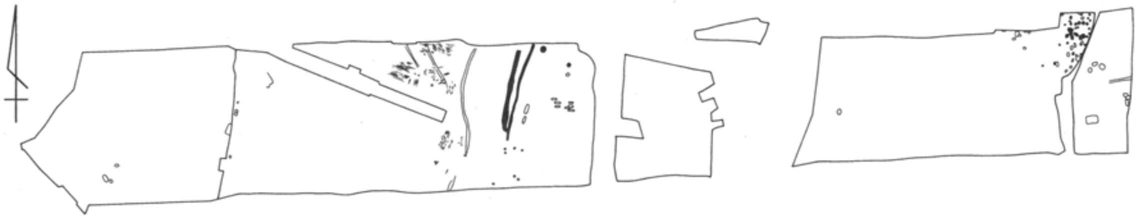
10世紀代の竪穴住居跡はＡ区にのみ検出され南北に長軸を有する長方形を基本とし９世紀代の住居跡に比しやや小型となる。東壁南寄りに構築された竈は９世紀代の住居跡同様、壁外に大きく張り出していた。この時代の住居跡も掘り込みは浅く攪乱等の影響で残存状況は悪い。また、Ｂ区の低地部で発見されたAs-B下水田は長方形を基本とする水田区

画を、縁辺部は小区画、最深部は大型と緩やかに窪む谷地地形に合わせ田面を階段状に巧みに構築していた。検出された畦畔は幅約80cm、高さ約８cmと幅広で低く降灰直前まで使用されていた水田とは考え難い状況であった。この水田耕作土下には９世紀代の竪穴住居跡が発見されており、時間的経過と伴に水田の拡張が図られていった様子が窺えた。水田は、９世紀代の竪穴住居跡に住む人々により開かれ、10世紀の竪穴住居跡に住み人へと受け継がれていったのであろう。微高地と低地の境界部で発見された溝は畦畔と並行するように緩やかに蛇行し、畦畔と重複、破壊しているている箇所もある。溝覆土には多量のAs-B軽石が含まれていることからAs-B軽石降灰後さほど時を経ず構築された溝と思われる。降灰以前同位置に溝があったかどうかは現状では不明である。



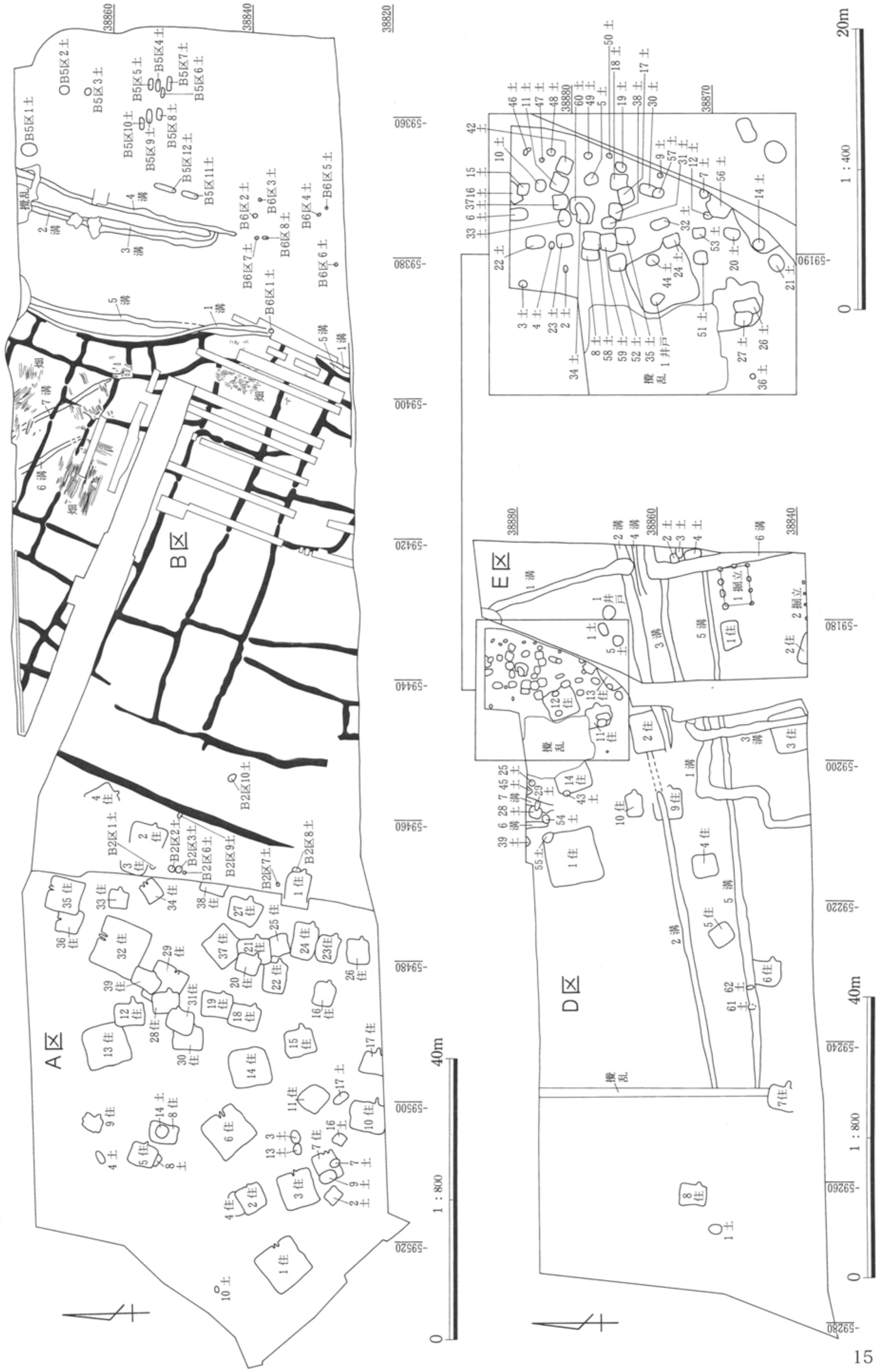
第12図　中世の検出遺構分布図（1/2500）

中世の遺構はＤ区からＥ区に掛けて溝と土坑が発見されている。圃場整備による削平の影響を受け、発見された溝は全体的に浅いが、直線或いは直角に折れる様相を呈し人為的に掘られた色合いが濃い。溝覆土からは15世紀前後の内耳鍋や擂鉢が出土している。溝の性格は不明な部分が多いが、直角に折れる状況から屋敷等の区画溝が想定される。特にＥ区東壁際で検出した６号溝は断面Ｖ字形の掘り込みの深い溝で屋敷外掘の可能性も考えられた。また、Ｄ区東側で検出された４基の土坑は南北に長軸を有する方形で、土坑からは人骨と供に治平元寳、洪武通寶といった北宋銭、明銭が出土しており墓壙と考えられる。



第13図　近世・近代・時期不明の検出遺構分布図（近世と思われる遺構は黒）（1/2500）

近世と思われる遺構はＤ区東側で発見された数十個に及ぶ土坑群である。１辺１ｍ前後の方形で垂直に深く掘り込まれた土坑底部には人骨と供に布が付着した状態で数十枚の寛永通寳が出土した。23号土坑では人骨と伴に寛永通寳・飾り金具・白銅製鏡が出土している。土坑形状や遺物等から判断して丸形座棺・方形座棺を埋葬した江戸時代の墓壙と考えられた。調査以前ここは現代の墓地であり、江戸時代更には中世よりこの辺りは墓域として利用されていた様相が窺えた。上記土坑以外ではB区微高地部で発見された南北に走る３条の溝がある。近代の遺構と思われるのはＢ区で検出された１壁が傾斜する方形の土坑である。調査担当の所見では農作物等の貯蔵用施設であろうとの見解を得ている。時期が不明な遺構として、Ｂ区低地部第１面で畑サク跡を検出している。サク跡は縦・横・斜めの３方向が確認でき少なくとも３時期の耕作が考えられた。また、Ｄ区で発見された土坑群の中には、形状は江戸時代の墓壙に酷似するも遺物が無く時期不明とした土坑も数多くある。



第14図　検出遺構全体分布図（A・B・D・E区）

(2) 竪穴住居跡

A区4号住居跡

位置　840－510グリッド

規模　南側は2号住居と重複しており、残存する住居範囲は僅かに北側部分のみである。住居北壁も現代の農耕具痕により殆ど消失している。計測値は東西3.5mを測るが南北長・床面積は不明である。

方位　N－66.5°－E

重複　南側が2号住居と重複しており、2号住居の方が新しい。

壁　残存壁高20cmと確認面より掘り方底面まで比較的深く、壁はやや斜状を呈する。また、住居覆土は黄褐色砂質土を粒状・ブ塊状に多量に含む暗褐色土等が所謂レンズ状堆積をしており自然埋没状況を呈する。

床面　住居南側は2号住居との重複で消失していたが、残存部分の床面はほぼ平坦であった。貼床は検出されず、地山である黄褐色砂質土を直接床とする。

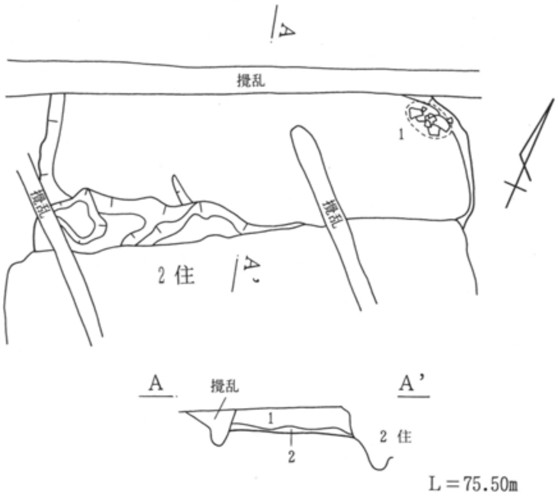
柱穴　なし

貯蔵穴　なし

竈　なし

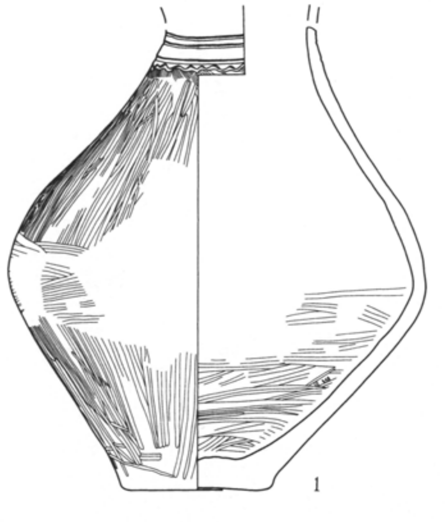
出土遺物　出土遺物は極めて少ない。住居北東隅床直上に弥生中期後半の壺の破片が集中して出土したのみで、それ以外の遺物の出土は無かった。本住居の時期は出土遺物より弥生時代中期後半と思われる。

掘り方　ほぼ平坦な面を呈する。



A区4号住居跡
1暗褐色土　黄褐色砂質土粒多く含む。黄褐色砂質土塊・白色軽石含む
2暗褐色土　黄褐色砂質土粒多く含む

0　1：60　2m



0　1：4　12cm

第15図　A区4号住居跡、出土遺物

A区11号住居跡

位置　830－490～820－490グリッド

規模　削平が深くトレンチャーによる攪乱も夥しいため、残存状況は極めて悪い。南北4.0mを測るが、東西長は壁に攪乱が入り計測不能。形状は長方形を呈するが床面積は不明である。

方位　N－136°－E

重複　なし

壁　残存壁高8cm前後と確認面より床面まで浅く殆ど削平されている。壁はやや斜状に掘り込む。

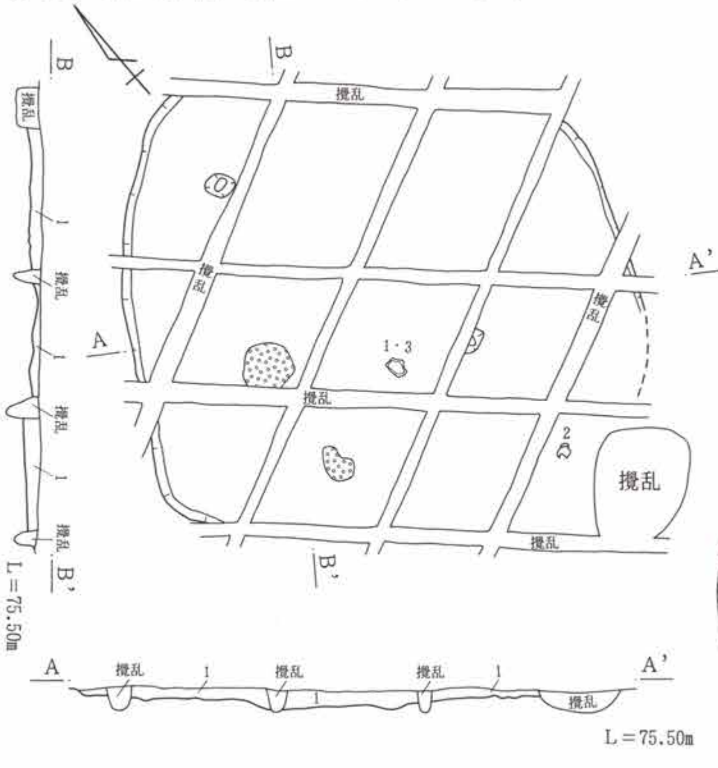
床面　貼床は無く掘り方を直接床としている。縦横に入るトレンチャーにより床面や壁は寸断されているが基本的にはほぼ平坦な床面である。住居北西隅と中央付近に検出されたピットは本住居に関わるものかは不明である。

柱穴　不明

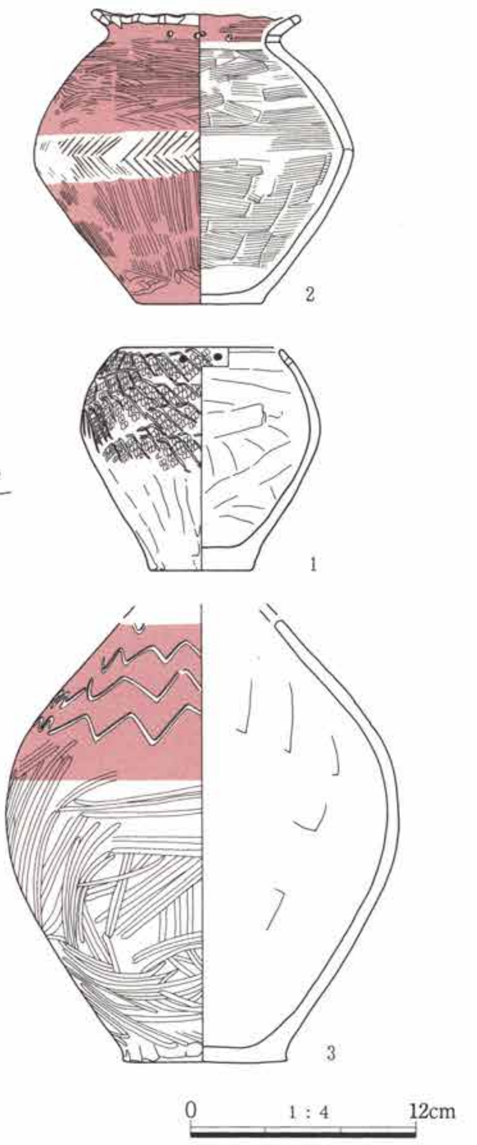
貯蔵穴　なし

出土遺物　出土遺物は少ないが床直上より弥生時代のほぼ完形な壺や胴部片を出土している。左記遺物以外の混入品は無く、本住居の時期は出土遺物より弥生時代中期後半と思われる。

掘り方　細かな凹凸が目立つがほぼ平坦である。



A区11号住居跡
1黒褐色土　土粒細かく締まりに欠ける、炭化物多く含む



第16図　A区11号住居跡、出土遺物

A区37号住居跡

位置　840－470グリッド

規模　長軸4.8m、短軸4.5mを計り、床面積20.6㎡（推定）のやや縦長な長方形を呈する。住居隅は丸味を欠き直角に近い。

方位　N－50°－E

重複　住居南隅が21号住居、20号住居と重複し、21号住居、20号住居の方が新しい。

壁　残存壁高10cm前後と確認面より床まで浅い、壁は斜状に掘り込まれる。

床面　殆ど削平されており貼床の確認は行えなかった。また、トレンチャーによる撹乱も夥しく住居覆土の分層も不可能であった。

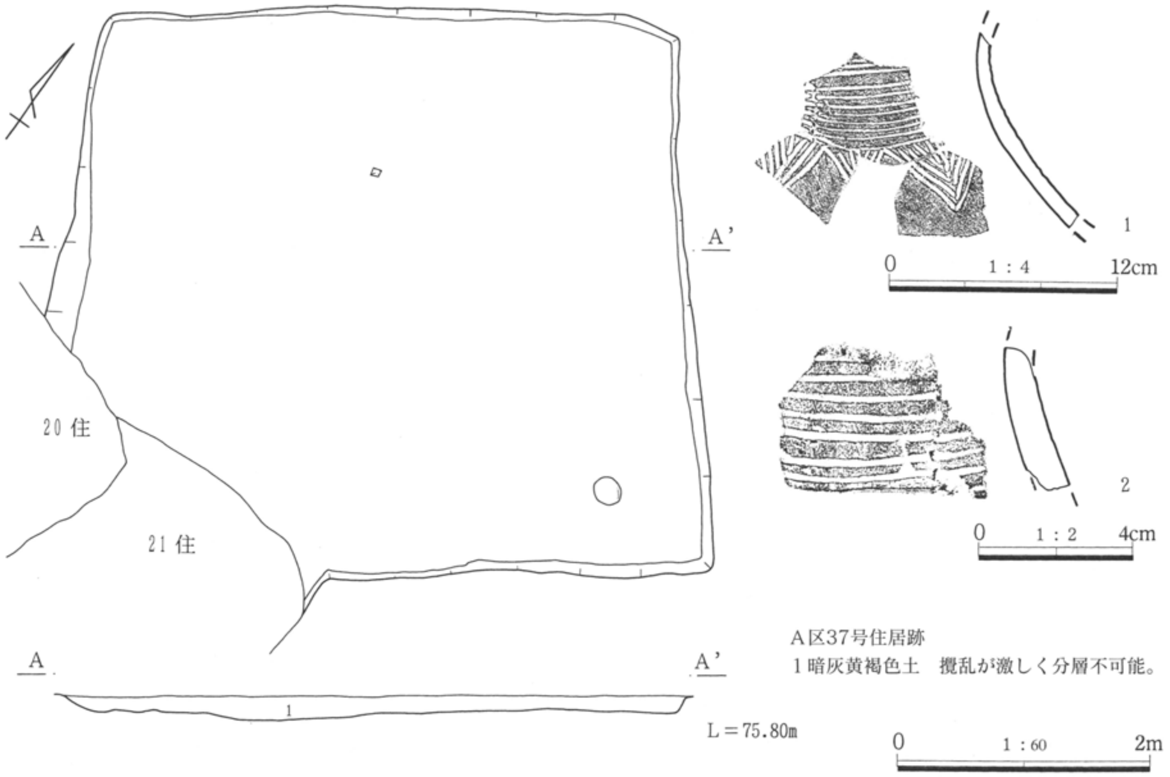
柱穴　なし

貯蔵穴　なし

炉　なし

出土遺物　出土遺物は少なく、弥生時代中期後半から平安時代に至る土器が混在して出土している。出土土器の主体をなす弥生時代中期後半の土器は甕胴部片が主で実測できるものは少ない。本住居の時期は、出土遺物の多くが弥生時代中期後半であること、竈が無くやや縦長長方形の住居プランとなること、等から判断し弥生時代中期後半と思われる。

掘り方　ほぼ平坦な掘り方を呈する。



第17図　A区37号住居跡、出土遺物

A区13号住居跡

位置　860－490～850－490グリッド

規模　長軸6.3m、短軸６mを測り、床面積34.8㎡（推定）のほぼ正方形を呈する。

方位　N－15°－W

重複　南東隅が12号住居と重複し、12号住居が新しい。

壁　残存壁高28cmと確認面より床面まで深く、壁は垂直に掘り込む。また住居覆土は、白色軽石や黄褐色砂質土塊を含む暗褐色土等が所謂レンズ状堆積をしており自然埋没状況を呈する。

床面　黄褐色砂質土を多量に含む土を貼床とし、全体的に締まりは良好、特に柱穴内側の踏み締まりが強い。住居北東隅床直上には塊状のベンガラを確認したが、中央付近に入る攪乱のため炉は確認できなかった。また、対角線上に柱穴と思われるピット４個、住居南東隅に円形の貯蔵穴を検出する。

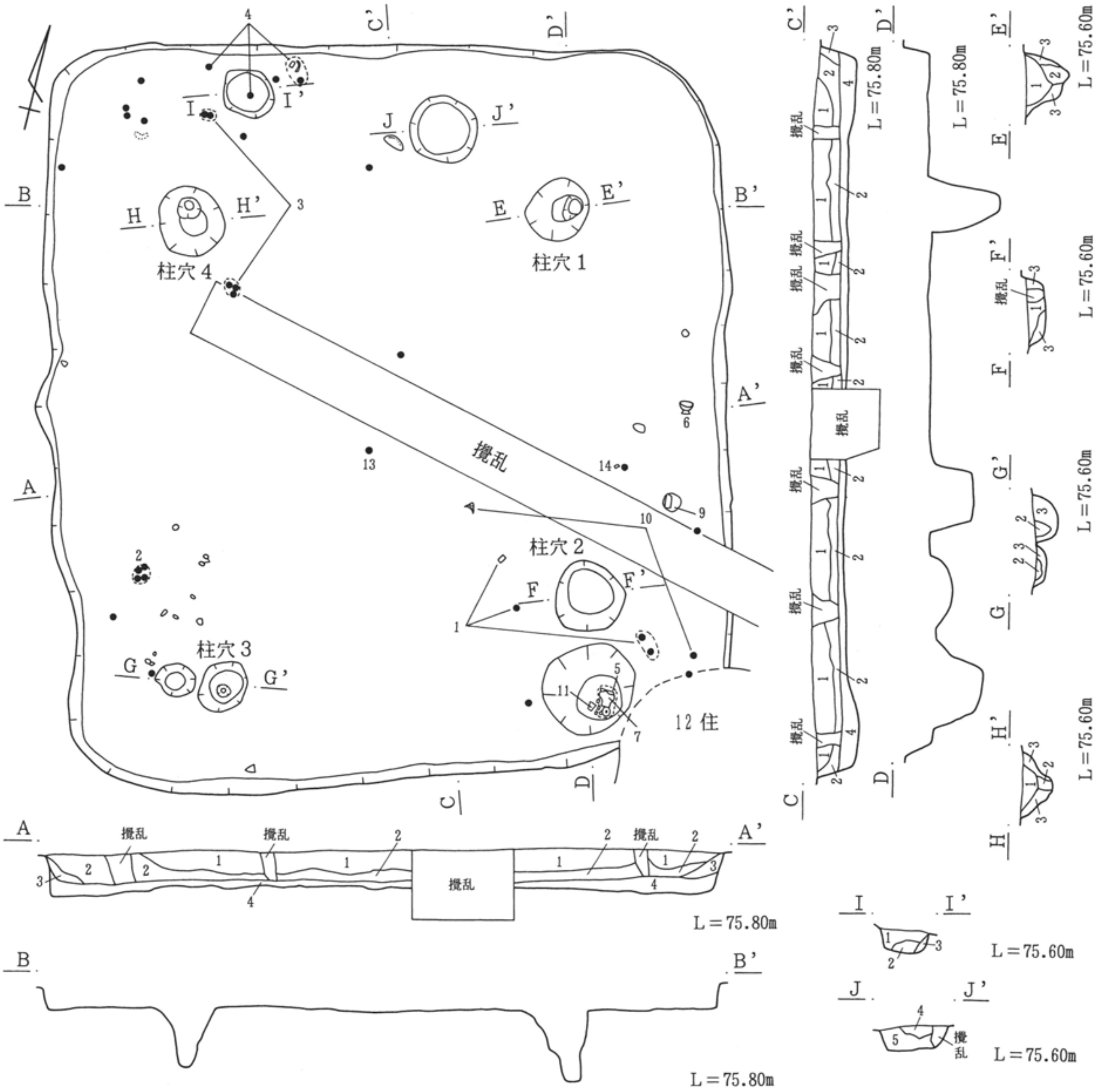
柱穴　ピットは７固検出されたが、柱穴と思われるものは１・２・３・４の４個である。１は上幅60×36cm、深さ64cm、２は上幅64×60cm、深さ32cm、３は上幅44×44cm、深さ20cm、４は上幅60×60cm、深さ52cmを測る。柱穴以外の３個のピットの用途は不明である。

貯蔵穴　住居南東隅に位置し上幅84×76cm、深さ44cmを測る。形状はほぼ円形を呈する。本貯蔵穴よりほぼ完形の台付甕等を出土する。

炉　確認できない

出土遺物　出土遺物は、小型器台、小型高坏、小型台付甕、赤色塗色された大形甕口縁部片、小形丸底坩、S字状口縁台付甕口縁部片、砥石等の古墳時代土師器が主体で種類・点数とも豊富で残存状況良好な遺物が多い。また、該期に関わらないが石器、石器剥片、弥生土器片、陶磁器片等が混入品として出土している。本住居の時期は出土遺物より古墳時代４世紀前半と思われる。

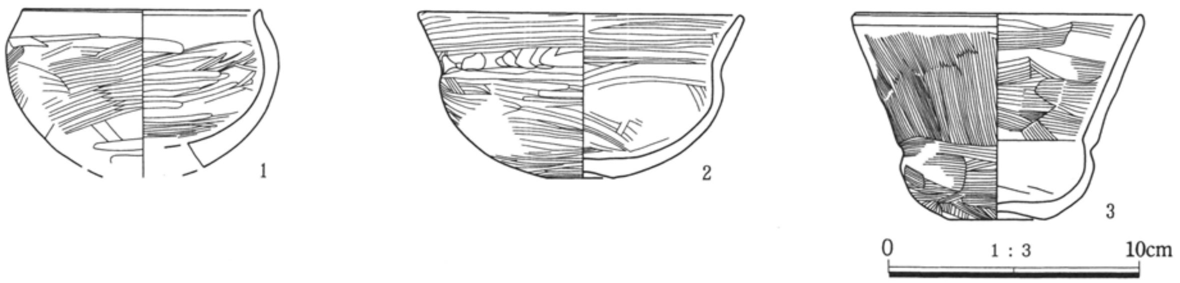
掘り方　中央部を高く、壁際が一段低い掘り方を呈する。



Ａ区13号住居跡
１暗褐色土　白色軽石多く含む、黄褐色砂質土粒少し含む
２暗褐色土　白色軽石少し含む、黄褐色砂質土塊多く含む
３暗褐色土　２層に類似、黄褐色砂質土塊の含有量が多い
４暗褐色土　黄褐色砂質土主体、炭化物少し含む

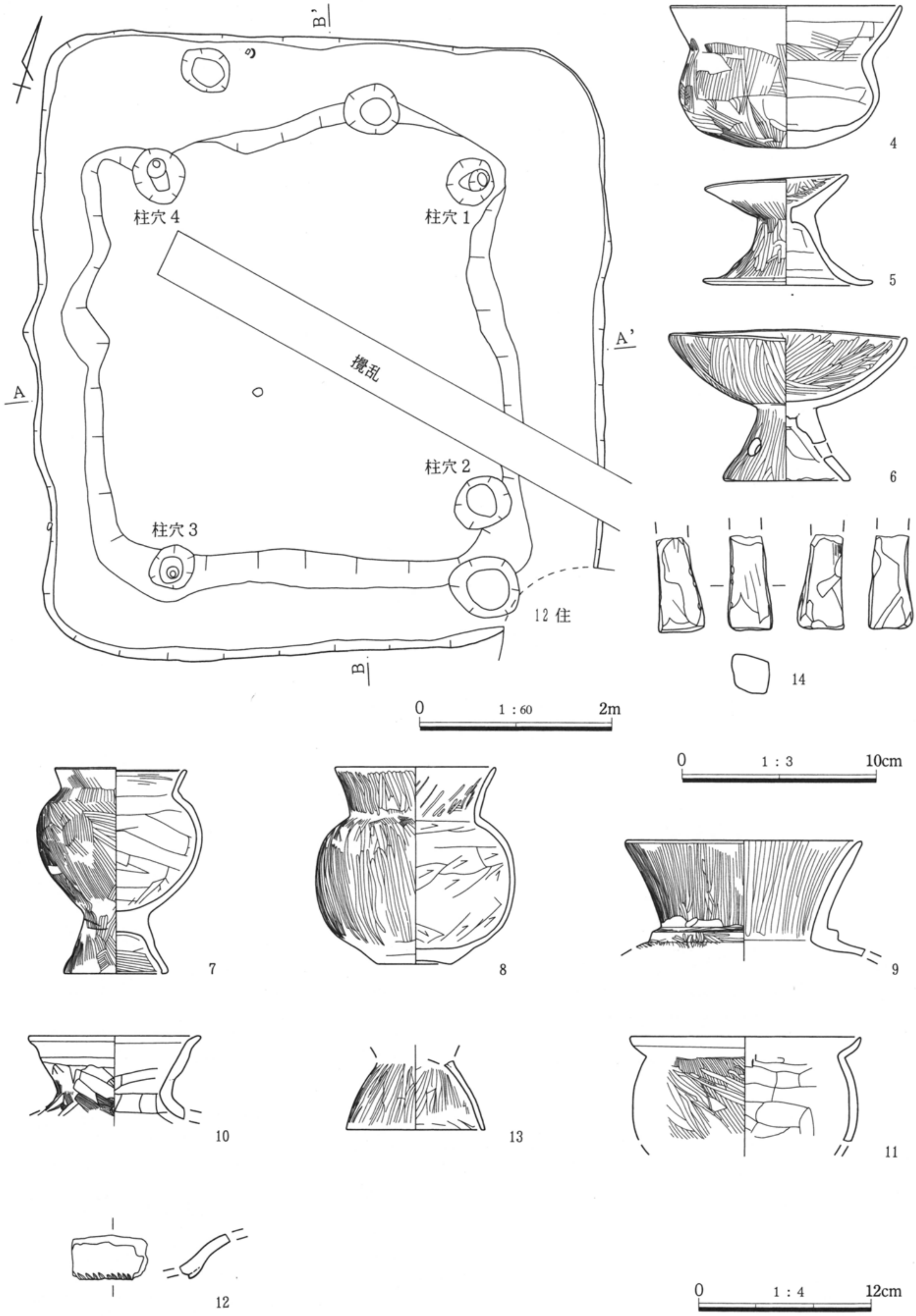
Ａ区13号住居跡柱穴
１暗褐色土　白色軽石・黄褐色砂質土塊
　　　　　　焼土粒含む、炭化物僅か含む
２暗褐色土　１層に類似、締まりに欠け炭化物も少ない
３暗黄褐色土　黄褐色砂質土粒・塊多く含む
４黒褐色土　黄褐色砂質土粒・白色軽石含む、色調が暗い
５黄褐色土　４層に類似、黄褐色砂質土粒の含有量が多い

0　1：60　2m



0　1：3　10cm

第18図　Ａ区13号住居跡、出土遺物



第19図　Ａ区13号住居跡掘り方、出土遺物

Ａ区14号住居跡

位置　840－490～830－490グリッド

規模　長軸5.6m、短軸5.4mを測り、床面積27.2㎡のほぼ正方形を呈す。

方位　Ｎ－11.5°－Ｗ

重複　なし

壁　残存壁高25cm前後と確認面より床面まで深く、壁は垂直に掘り込む。

床面　黄褐色砂質土を多量に含む土を貼床とし、全体的に締まりは良好、特に竈周辺及び柱穴内側の踏み締まりが強い。住居南東隅に円形の貯蔵穴を検出したが、住居中央付近に存在すると思われた炉は確認できなかった。また、西壁際の円形土坑状の穴は現代の攪乱である。

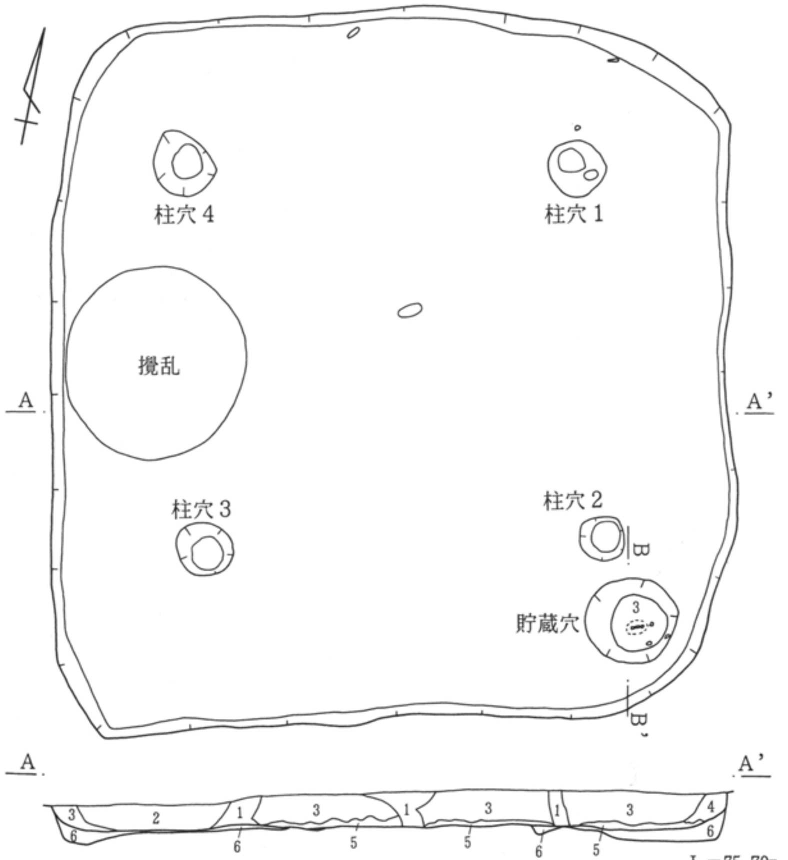
柱穴　住居対角線上に４本検出した。１は上幅44×44cm、深さ36cm、２は上幅36×32cm、深さ47cm、３は上幅44×44cm、深さ44cm、４は上幅56×52cm、深さ44cmを測る。

貯蔵穴　住居南東隅に位置し上幅76×68cm、深さ45cmを測り、ほぼ円形を呈する。

炉　確認できない

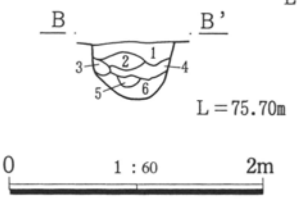
出土遺物　出土遺物は少ないが、貯蔵穴よりＳ字状口縁台付甕胴部片を数点出土する。該期に関わらないが石器、石器剥片、縄文草創期土器片、須恵器片等を混入品として出土する。本住居の時期は出土遺物より古墳時代４世紀頃と思われる。

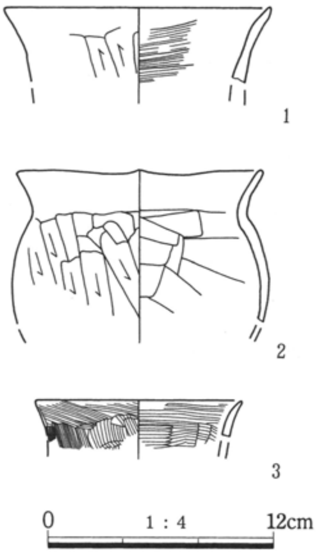
掘り方　中央部を高く、壁際は一段低い掘り方を呈する。



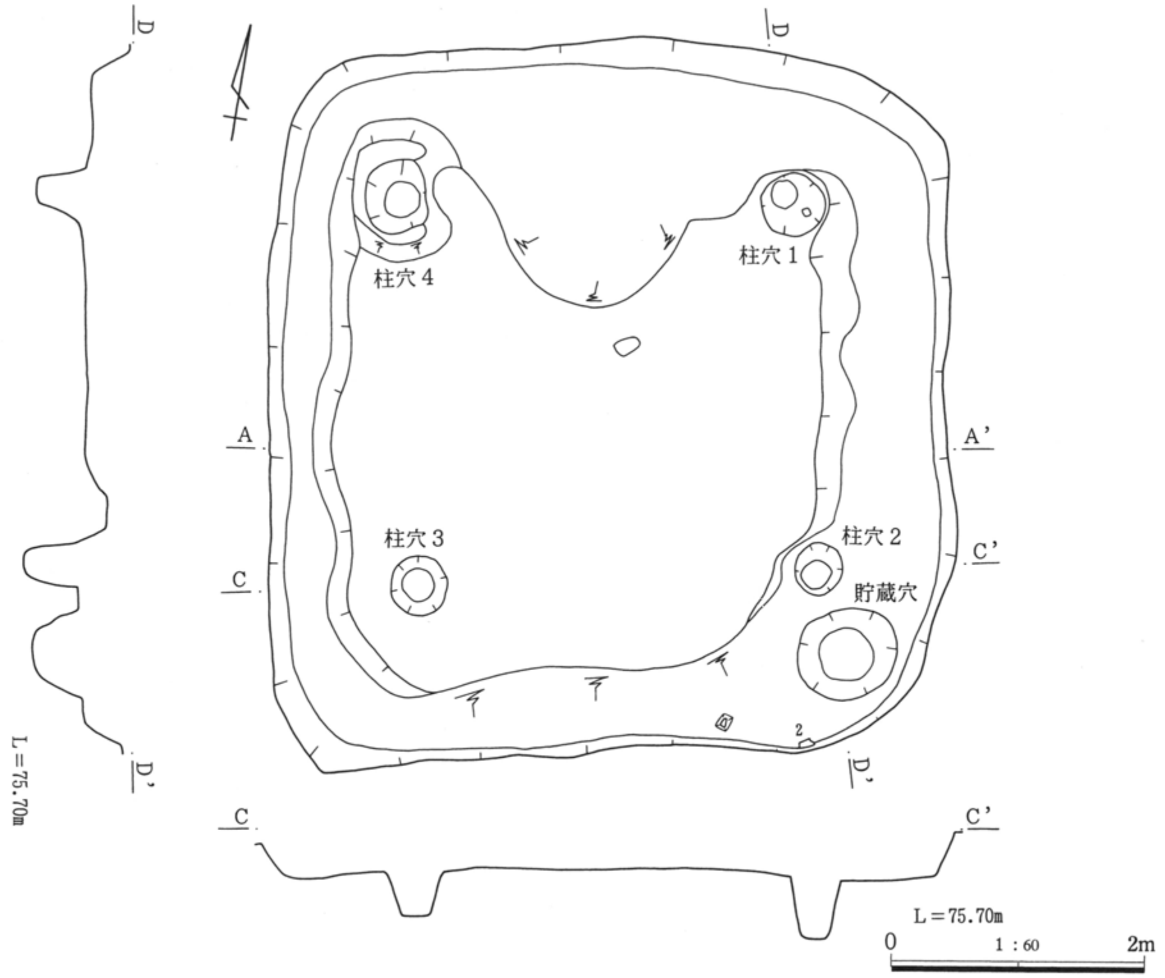
Ａ区14号住居跡
１攪乱
２攪乱
３暗褐色土　白色軽石少し含む、黄褐色砂質土少し混じる
４暗赤褐色土　白色軽石含む、黄褐色砂質土混じる
５暗褐色土　黄褐色砂質土多く混じる
６暗黄褐色土　黄褐色砂質土塊・黒褐色土塊の混土、白色軽石含む

Ａ区14号住居跡貯蔵穴
１褐色土　白色軽石少し含む
２黄褐色土　白色軽石含む
３褐色土　褐色土主体
４褐色土　褐色土主体、白色軽石含む
５黄褐色土　白色軽石含む
６褐色土　白色軽石少し含む





第20図　Ａ区14号住居跡、出土遺物



第21図　Ａ区14号住居跡掘り方

Ａ区25号住居跡

位置　830－470グリッド

規模　東西３ｍを測るが、北壁が21号住居と重複しており南北長、床面積は計測不能である。

方位　N－78°－E

重複　北側で21号住居と南側で24号住居と重複、21号住居、24号住居の方が新しい。

壁　残存壁高７cm前後と確認面より掘り方底部までは浅く、住居壁は垂直に掘り込まれる。

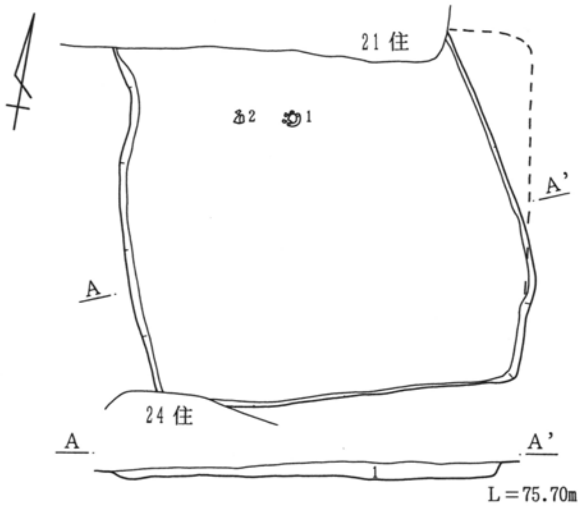
床面　殆ど削平されており床面の検出は出来なかった。

柱穴　なし

貯蔵穴　なし

炉　確認できない

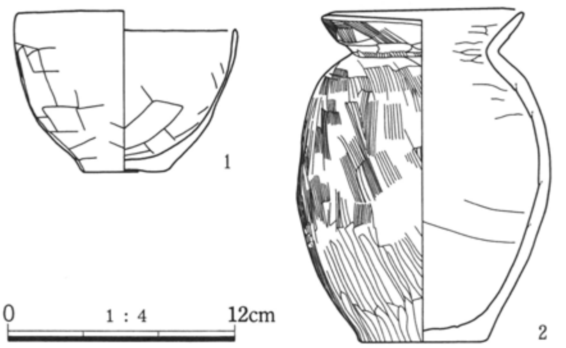
出土遺物　出土遺物は少なく、古墳時代前期の土師



第22図　Ａ区25号住居跡

器を主体とする。床直上に胴部外面に粗雑で不規則な刷毛目を施した小型甕や小型の鉢を出土した。本住居の時期は出土遺物から判断して古墳時代前期４世紀頃と思われる。

掘り方　ほぼ平坦で、掘り方でも柱穴、貯蔵穴等は検出できない。



第23図　Ａ区25号住居跡出土遺物

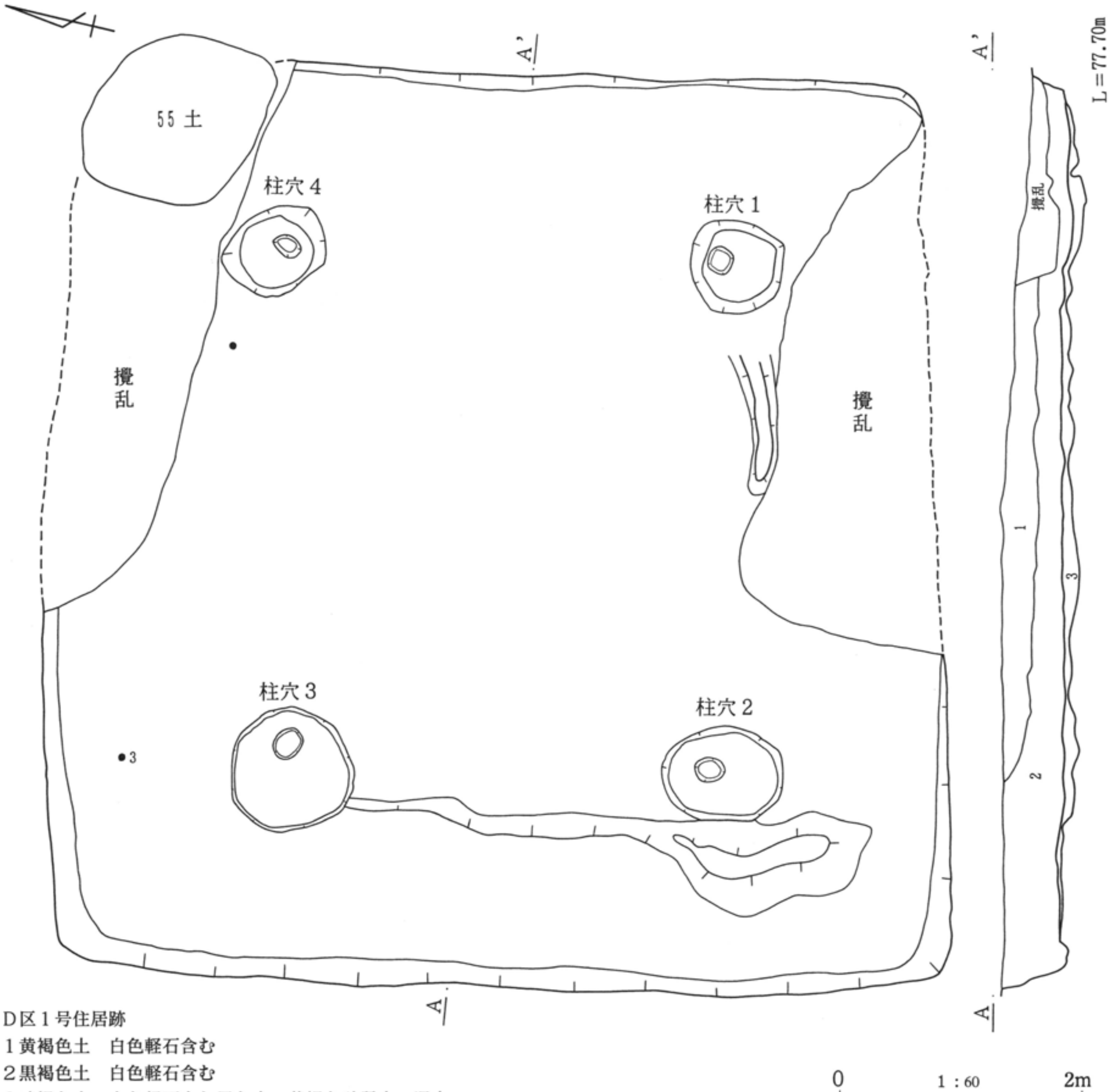
Ｄ区１号住居跡

位置　870－210～860－210グリッド

規模　長軸7.6m、短軸7.6mを測り、床面積52.9㎡（推定）のほぼ正方形を呈する。北壁・南壁の東側約半分は攪乱により消失している。

方位　Ｎ－11°－Ｗ

重複　なし

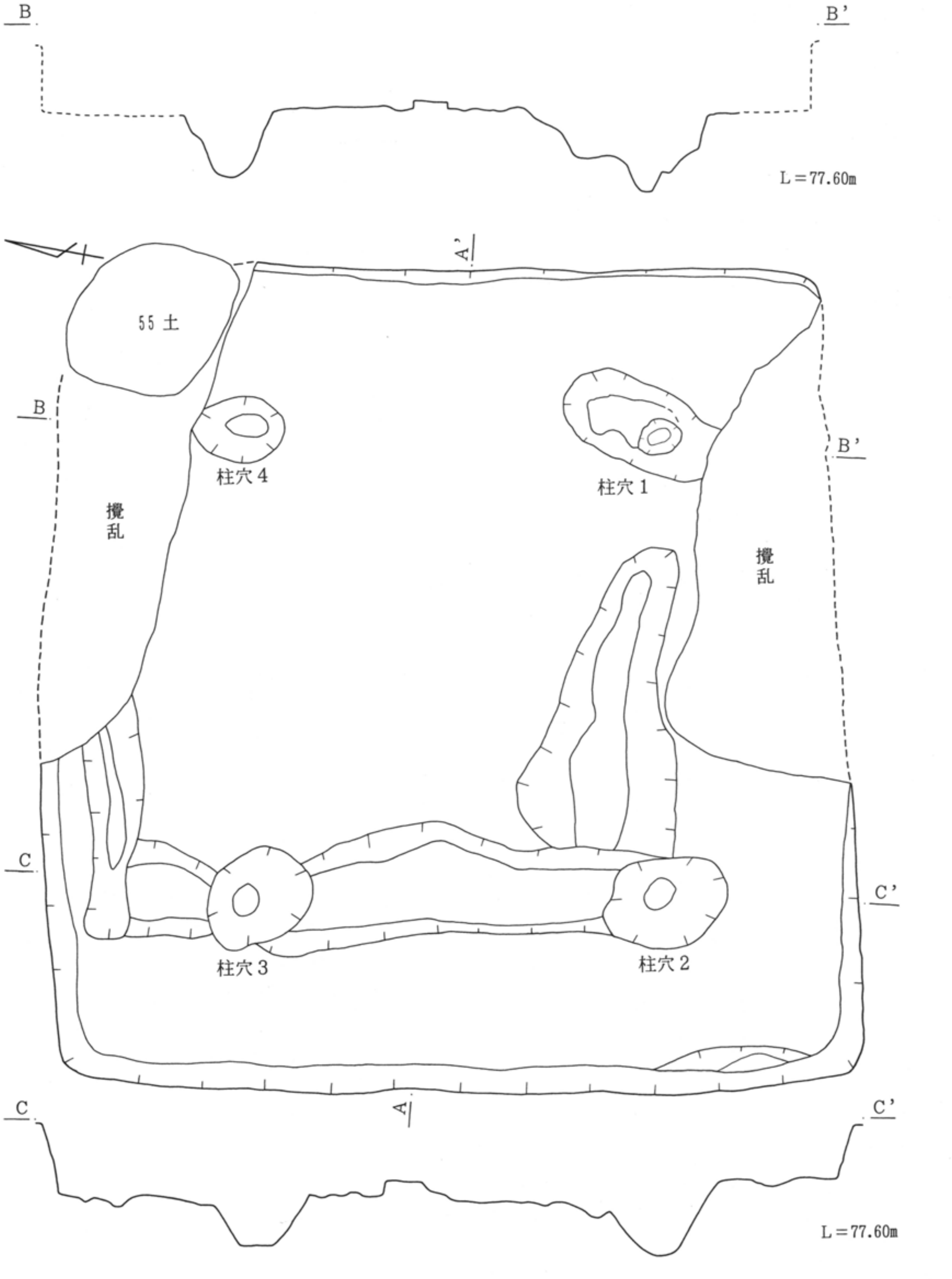


Ｄ区１号住居跡
１黄褐色土　白色軽石含む
２黒褐色土　白色軽石含む
３暗褐色土　白色軽石含む黒色土・黄褐色砂質土の混土

第24図　Ｄ区１号住居跡

壁　残存壁高44cm前後と確認面より床面まで深く、壁は垂直に掘り込む。また、住居覆土は黄褐色土・黒褐色土が所謂レンズ状堆積をしており自然埋没状況を呈する。

床面　黄褐色砂質土塊・暗褐色土塊を多量に含む土を貼床とし、全体的に締まりは良好で柱穴内側の踏み締まりが強い。西壁内側の柱穴間に床面との比高差約5cmを測る一段高い長方形状の平坦面を検出し



第25図　D区1号住居跡掘り方

た。

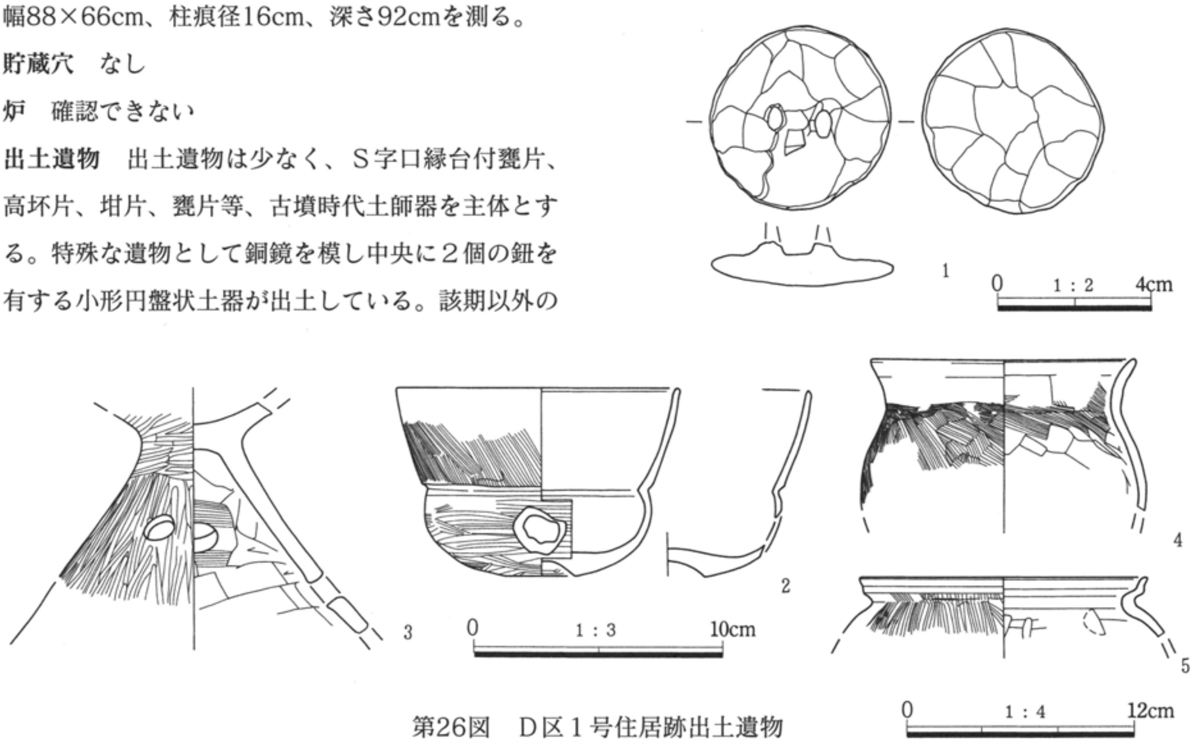
柱穴　住居対角線上に４本検出した。１は上幅80×76cm、柱痕径16cm、深さ100cm、２は上幅100×76cm、柱痕径20cm、深さ80cm、３は上幅100×100cm、柱痕径20cm、深さ64cm、４は上幅88×66cm、柱痕径16cm、深さ92cmを測る。

貯蔵穴　なし

炉　確認できない

出土遺物　出土遺物は少なく、Ｓ字口縁台付甕片、高坏片、坩片、甕片等、古墳時代土師器を主体とする。特殊な遺物として銅鏡を模し中央に２個の鈕を有する小形円盤状土器が出土している。該期以外の遺物としては縄文土器片、埴輪片、須恵器片等が数点出土している。本住居の時期は出土遺物より古墳時代４世紀頃と思われる。

掘り方　中央を高く、住居４壁内側が一段深い掘り方を呈する。



第26図　Ｄ区１号住居跡出土遺物

Ｄ区２号住居跡

位置　860－190～850－190グリッド

規模　長軸5.8m、短軸5.5mを測り、床面積26.6㎡（推定）のほぼ正方形を呈する。

方位　Ｎ－82°－Ｅ

重複　住居南側でＥ区２号溝の延長と思われる溝とと重複し、その溝が新しい。また、西壁はＤ区２号溝の延長と思われる溝と接しているが、２号住居跡を先行調査してしまい溝延長部分は未確認である。

壁　残存壁高15cm前後と確認面より床面まで浅く殆ど削平されている。壁はほぼ垂直に掘り込む。

床面　黄褐色砂質塊、黒色土塊を多量に含む土を貼床とし、全体的に締まりは良好、特に柱穴内側の踏み締まりが強い。幅16cm前後の壁溝が４壁下に巡る。

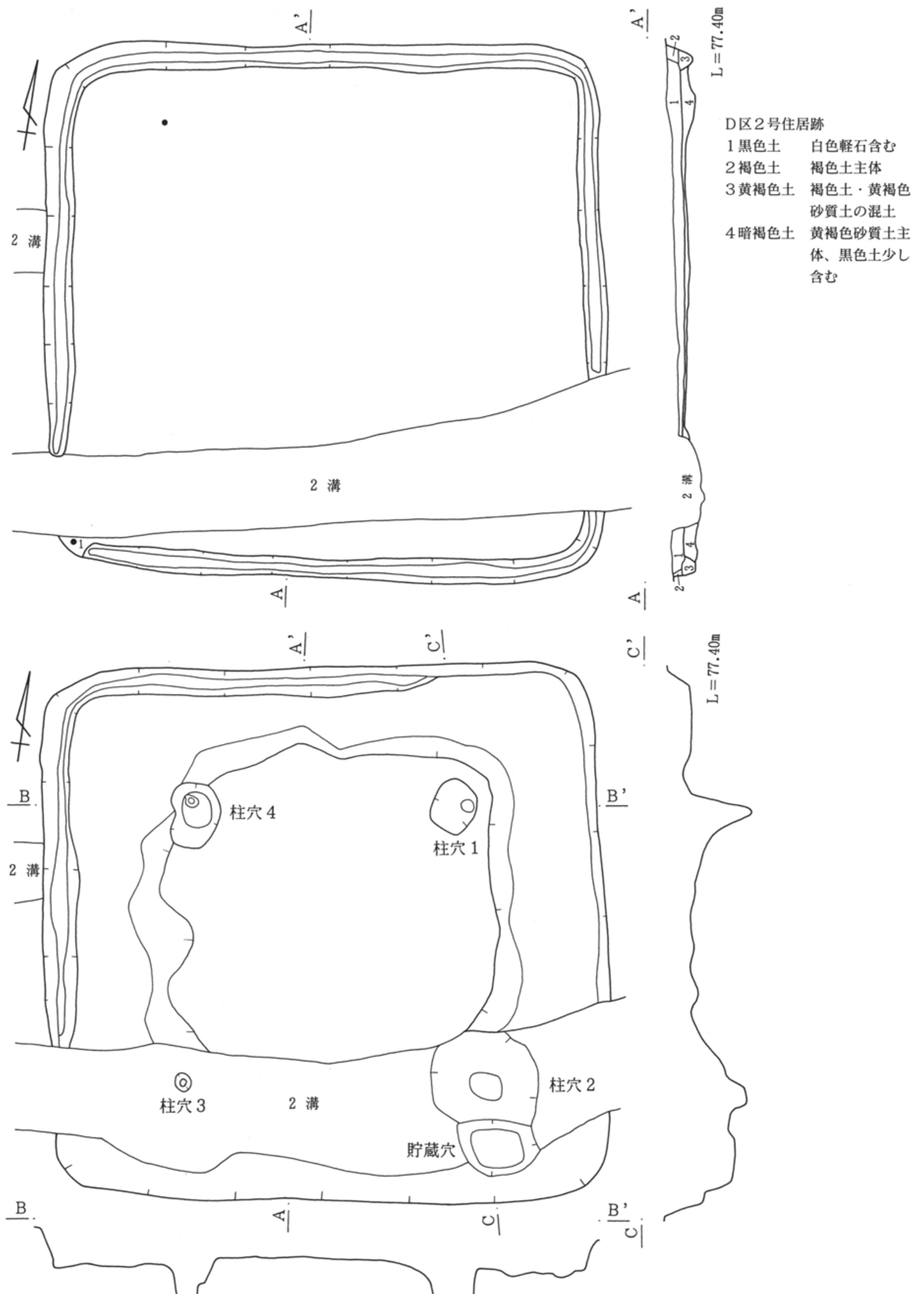
柱穴　使用面では確認できず、掘り方で住居対角線上に４本検出した。１は上幅68×48cm、深さ64cm、２は上幅60×48cm、深さ68cm、３は上幅36×36cm、深さ52cm、４は上幅20×16cm、深さ20cm、を測る。

貯蔵穴　使用面では確認できず、掘り方で検出する。住居南東隅に位置し長軸80cm、短軸60cm、深さ20cmを測る。形状はほぼ長方形を呈する。

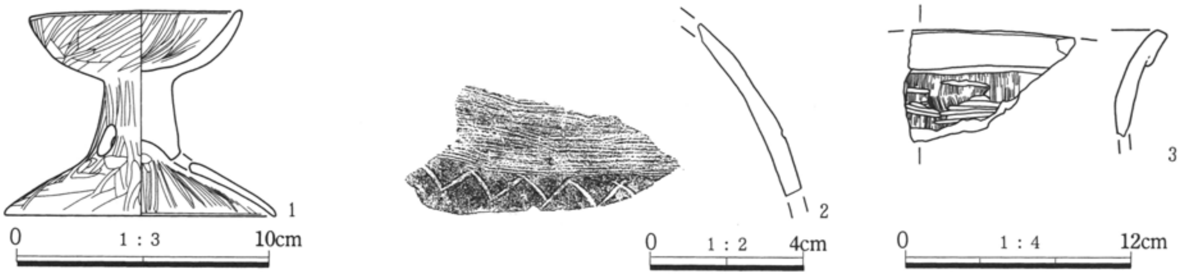
炉　確認できない

出土遺物　出土遺物は少なく、Ｓ字口縁台付甕片、パレススタイル壺片、壺・甕片等の古墳時代前期土師器片を主体とする。該期以外の遺物として須恵器杯片が数点出土している。本住居の時期は出土遺物より古墳時代４世紀頃と思われる。

掘り方　中央を高く、住居４壁内側が一段深い掘り方を呈する。



第27図　D区２号住居跡、掘り方



第28図　Ｄ区２号住居跡出土遺物

Ｄ区３号住居跡

位置　840－190～830－190グリッド

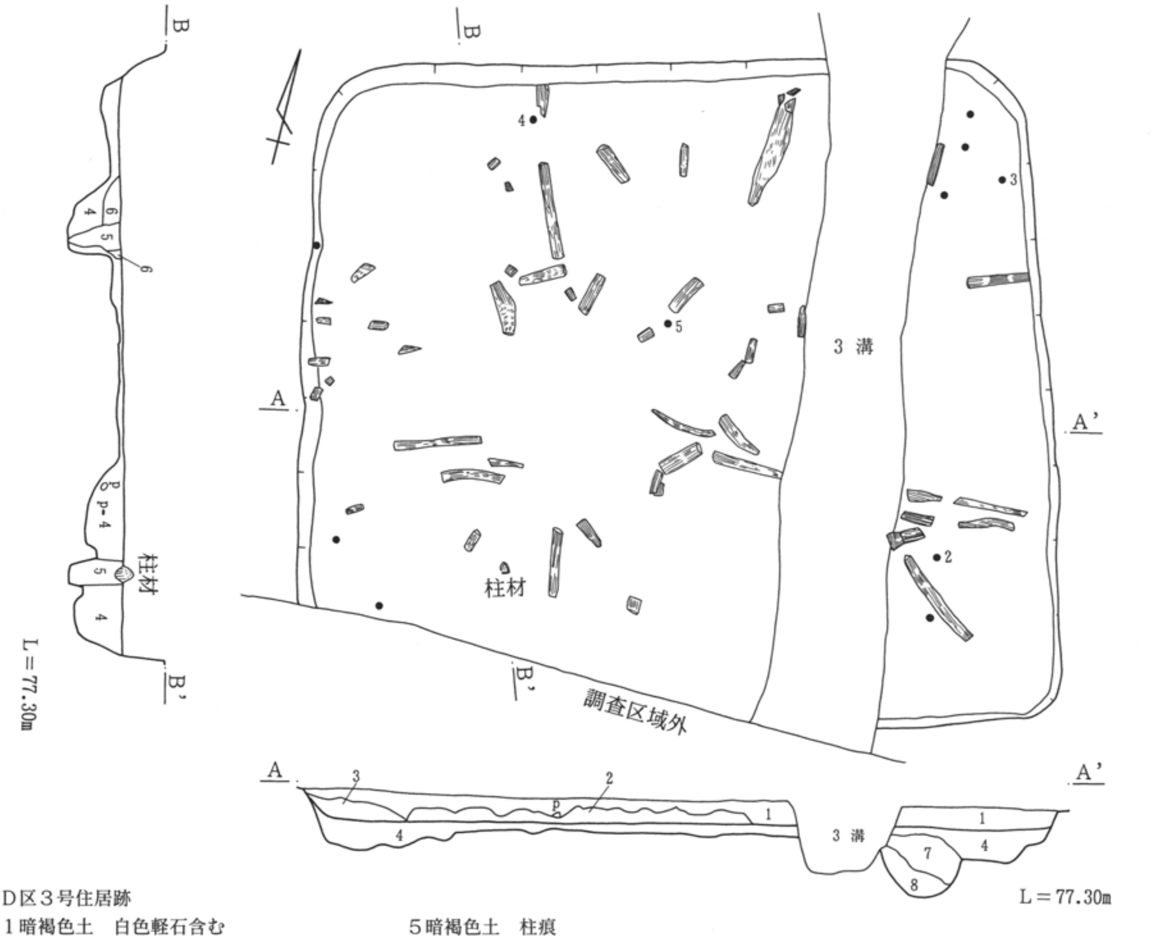
規模　長軸5.9m、短軸5.3mを測る。住居南西隅は調査区外となり床面積は計測不能であるが、住居プランはほぼ正方形を呈すると思われる。

方位　Ｎ－74°－Ｅ

重複　東側で３号溝と重複し、３号溝が新しい。

壁　残存壁高20cm前後と確認面より床面まで比較的深く、壁は垂直に掘り込む。重複する３号溝により北壁・南壁の一部を消失している。住居覆土は暗褐色土・褐色土が所謂レンズ状堆積をしており自然埋没状況を呈する。

床面　黄褐色砂質土塊、黒色土塊を多量に含む土を貼床とし、全体的に締まりは良好、特に柱穴内側の



Ｄ区３号住居跡
1暗褐色土　白色軽石含む
2黒褐色土　炭化物非常に多く含む
3黒褐色土　炭化物粒多く含む
4黄褐色土　白色軽石含む、黒色土塊含む
5暗褐色土　柱痕
6黄褐色土　白色軽石含む、黒色土多く含む
7暗褐色土　白色軽石多く含む
8黒褐色土　白色軽石多く含む

第29図　Ｄ区３号住居跡

踏み締まりが強い。床面には住居構築材と思われる炭化物が多量に散在しており焼失家屋であることを窺わせ、柱穴１には炭化柱材片が残存していた。

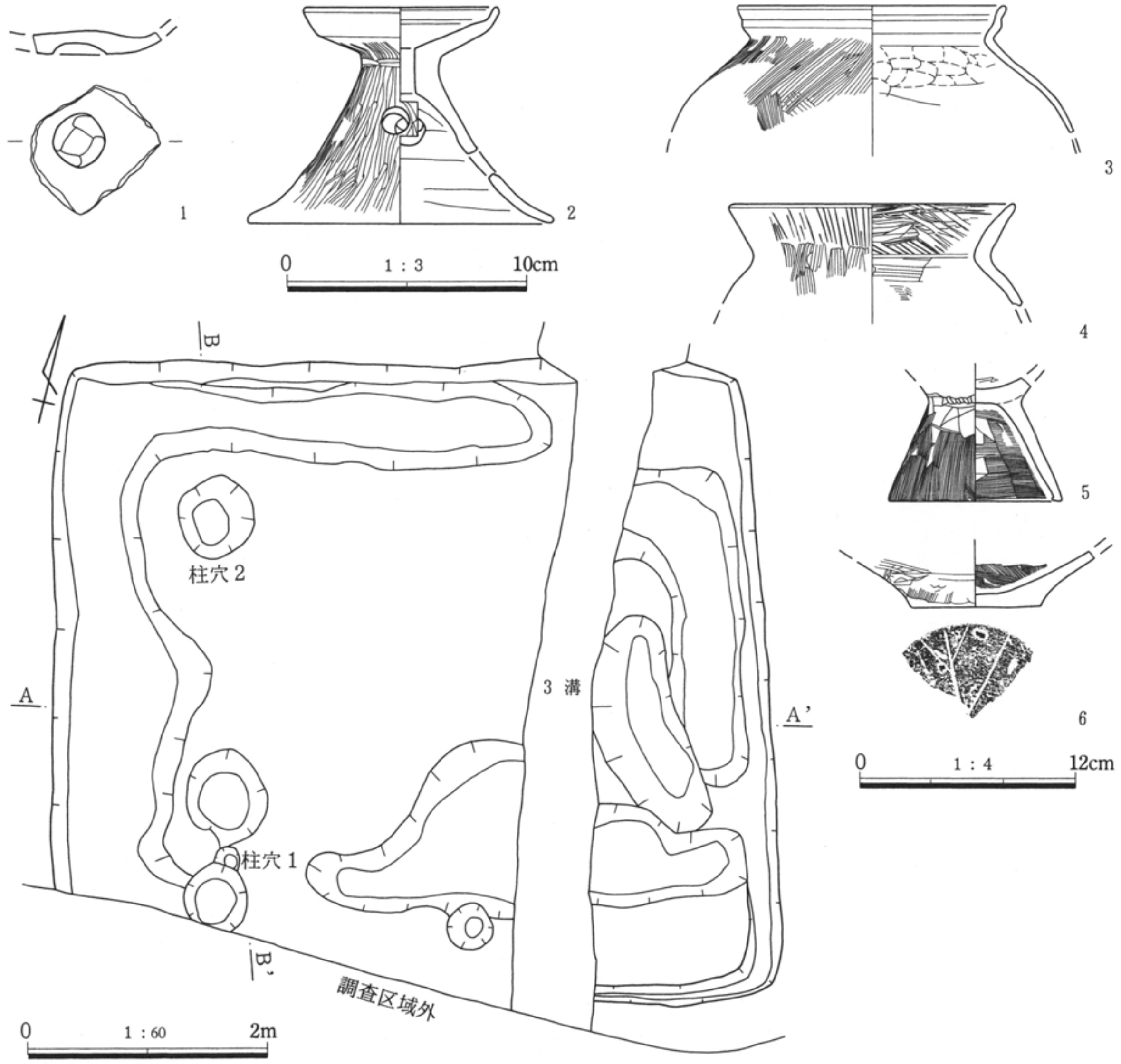
柱穴　確認できた柱穴は床面に柱材の一部が残存していた１と掘り方で検出した２の２本のみである。東側の２本は重複する３号溝により消失、確認できない。１は径８cmの炭化柱材が残存し、掘り方は幅20cm、深さ44cmを測る。掘り方で検出した２は上幅68×60cm、柱痕径20cm、深さ40cmを測る。

貯蔵穴　なし

炉　確認できない

出土遺物　出土遺物は少なく、古墳時代土師器を主体とする。床直上よりＳ字口縁台付甕片、器台等を出土している。該期以外の遺物は無く、本住居の時期は古墳時代４世紀頃と思われる。

掘り方　中央を高く、住居４壁内側が一段深い掘り方を呈する。柱穴以外に２個のピットを検出したが性格は不明である。



第30図　Ｄ区３号住居跡掘り方、出土遺物

Ｄ区４号住居跡

位置　850−210グリッド

規模　長軸3.5m、短軸3.3mを測り、床面積9.4㎡のほぼ正方形を呈する。

方位　N−10°−W

重複　なし

壁　残存壁高30cm前後と確認面より床面まで深く、壁はほぼ垂直に掘り込む。また、住居覆土は黄褐色土、黒褐色土等が所謂レンズ状堆積をしており自然埋没状況を呈する。

床面　黄褐色砂質土塊、黒褐色土塊を多量に含む土を貼床とし、全体的に締まりは良好である。

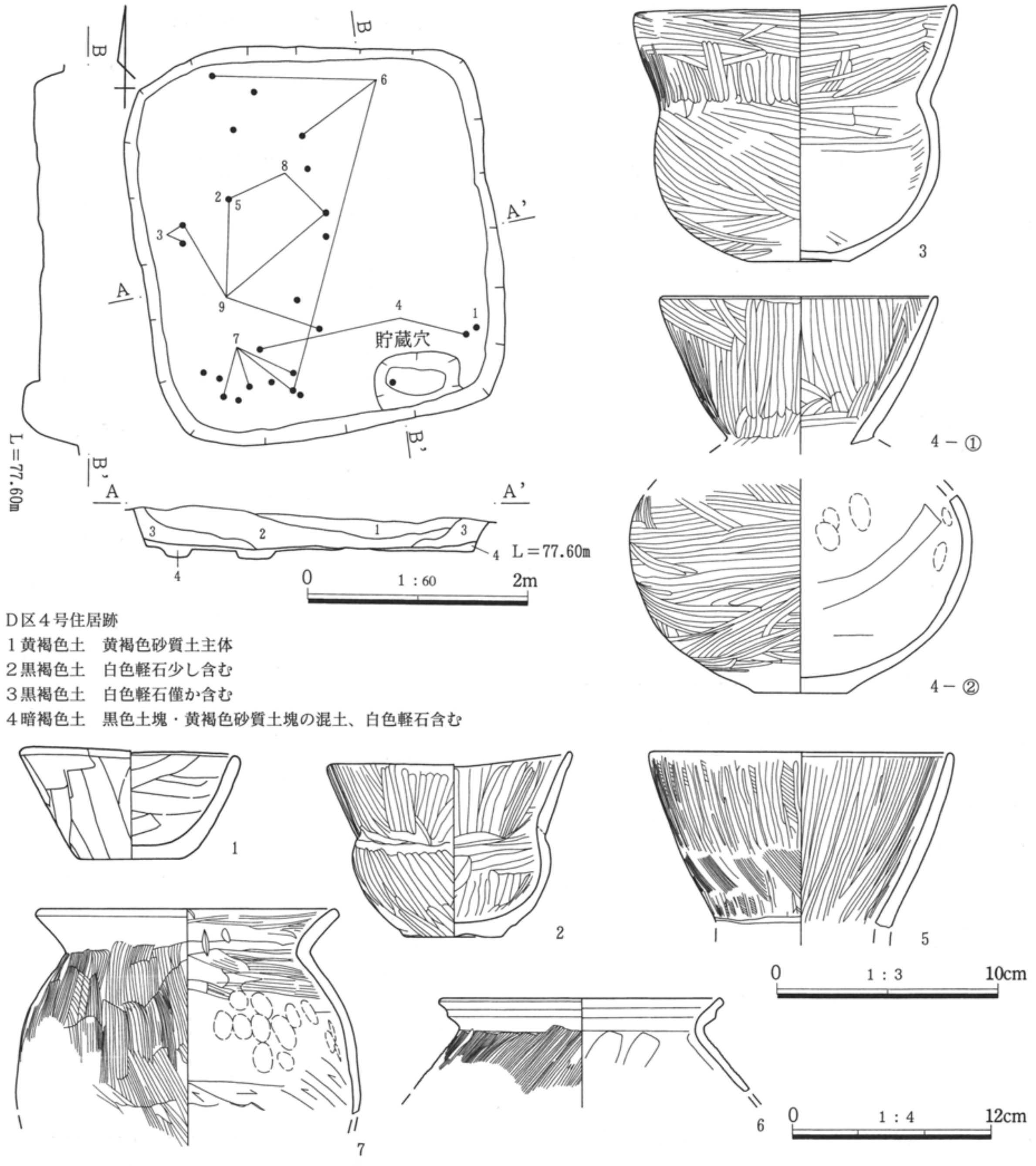
柱穴　なし

貯蔵穴　住居南東隅に位置し上幅80×44cm、深さ17cmを測る。形状は楕円形を呈する。

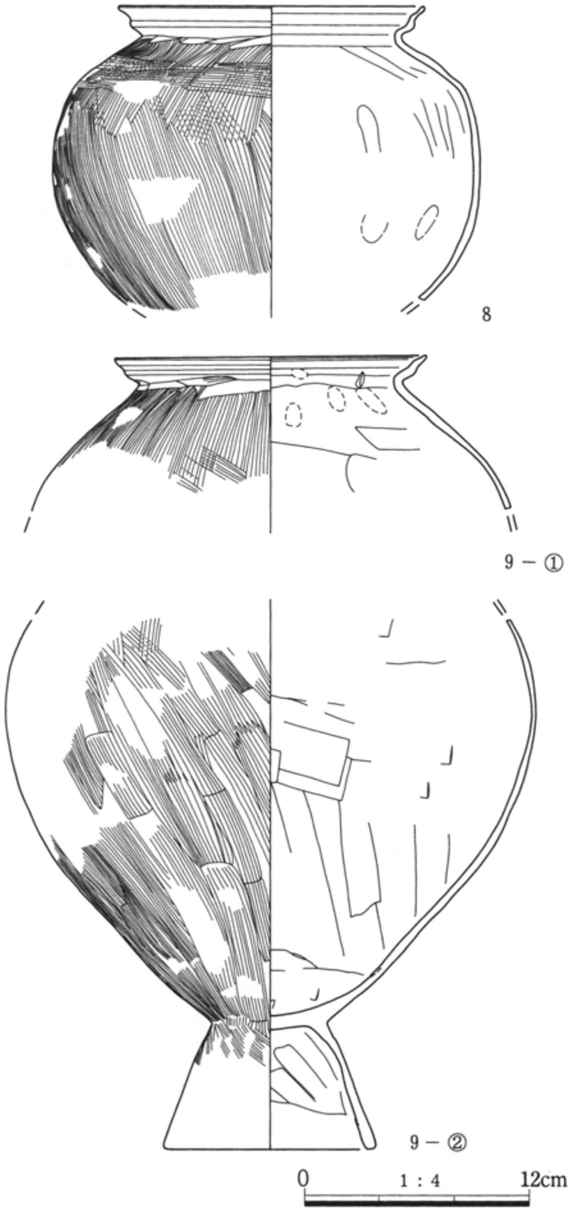
炉　確認できない

出土遺物　出土遺物は多く、古墳時代前期の土器片が主体を成す。床からは別個体となるＳ字口縁台付甕やほぼ完形の坩、掘り方からはほぼ完形の坩やＳ字甕口縁部片等を出土している。出土遺物の時期がほぼ限定されており、本住居の時期は古墳時代４世紀頃と思われる。

掘り方　住居中央部が高く、壁際がやや下がる掘り方を呈する。



第31図　Ｄ区４号住居跡、出土遺物



第32図　D区４号住居跡出土遺物

D区５号住居跡

位置　850－220～840－220グリッド

規模　長軸3.3m、短軸2.9mを測り、床面積7.9㎡のほぼ正方形を呈する。

方位　N－34°－W

重複　なし

壁　残存壁高20cm前後と確認面より床面まで比較的深く、壁は垂直に掘り込む。また、住居覆土は黒褐色土・暗褐色土が、所謂レンズ状堆積をしており自然埋没状況を呈する。

床面　黄褐色砂質土塊を含む土を貼床とし、全体的に締まりは良好である。

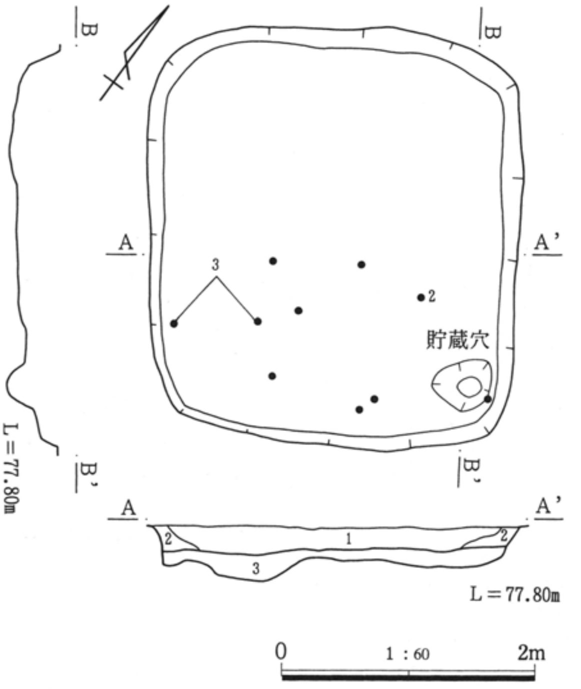
柱穴　なし

貯蔵穴　住居南東隅に位置し上幅44×40cm、深さ20cmを測る。形状は不整円形を呈する。

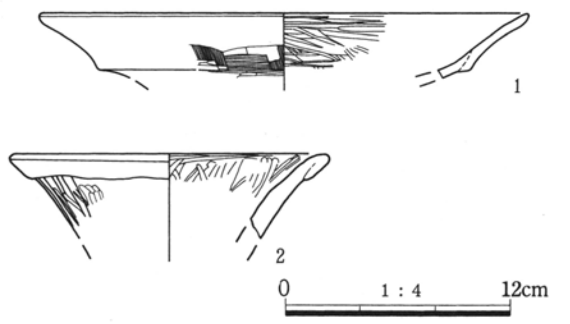
竈　確認できない。

出土遺物　出土遺物は少なく、土師器甕小片が主となる。床直上ではほぼ完形となるＳ字口縁台付甕や甕底部片等を出土している。本住居の時期は出土遺物より古墳時代前期４世紀頃と思われる。

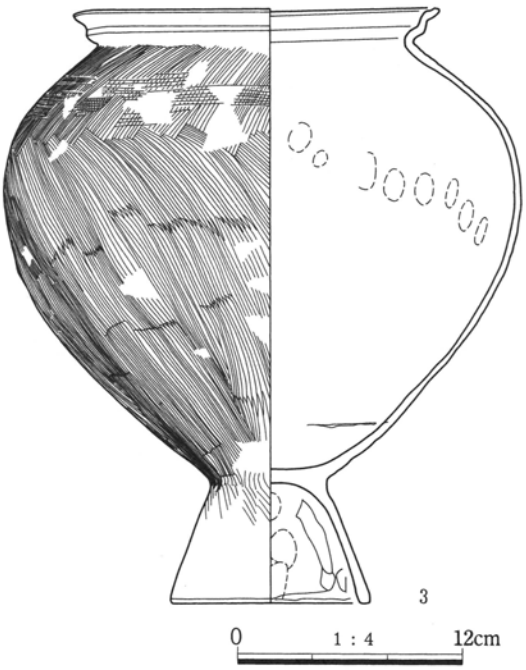
掘り方　中央部を高く壁際が一段深い掘り方を呈する。



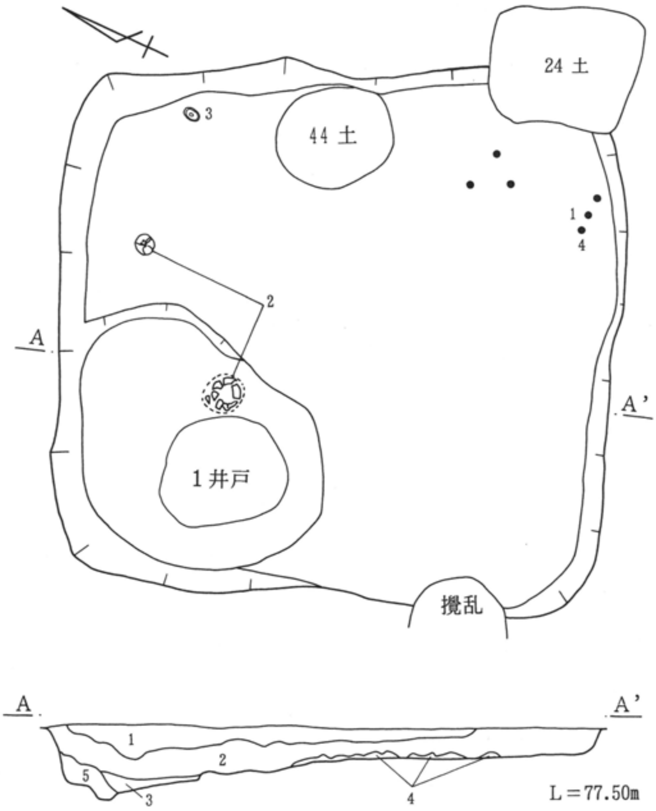
D区５号住居跡
１黒褐色土　白色軽石少し含む
２暗褐色土　白色軽石少し含む
３暗褐色土　黄褐色砂質土塊・黒色土の混土、白色軽石含む



第33図　D区５号住居跡、出土遺物



第34図　D区５号住居跡出土遺物



D区12号住居跡
１暗灰褐色土　砂質、白色軽石（浅間Ａ軽石）少し含む
２灰黄褐土　　やや砂質、黄褐色砂質土粒含む
３黒褐色土　　白色軽石含む、黄褐色砂質塊含む
４黄褐色土　　黄褐色砂質土粒・塊主体
５灰黄褐土　　やや砂質、黄褐色砂質土塊含む

0　1：60　2m

第35図　D区12号住居跡

D区12号住居跡

位置　870－190～870－180グリッド

規模　長軸4.2m、短軸4.1mを測り、床面積15.7㎡（推定）のほぼ正方形を呈する。

方位　N－24°－W

重複　東壁際は44土坑、南東部は24土坑、北西部は１号井戸と重複し、44土坑、24土坑、１号井戸共に住居より新しい。

壁　残存壁高20cm前後と確認面より床面まで比較的深く、壁はほぼ垂直に掘り込む。壁南東隅は重複する24土坑により消失している。住居覆土は暗褐色土、暗褐灰色土等が所謂レンズ状堆積をしており自然埋没状況を呈し、北西部の覆土は井戸埋土の自然沈降に伴い緩やかな窪みを看取できる。

床面　明瞭な貼床は確認できない。掘り方を直接床としており全体的に締まりは良好、特に柱穴内側の踏み締まりが強い。本住居より新しい１号井戸の崩壊・埋没の影響であろうか、本住居北西部の床は井戸を中心として逆円錐台状に緩やかに傾斜している。

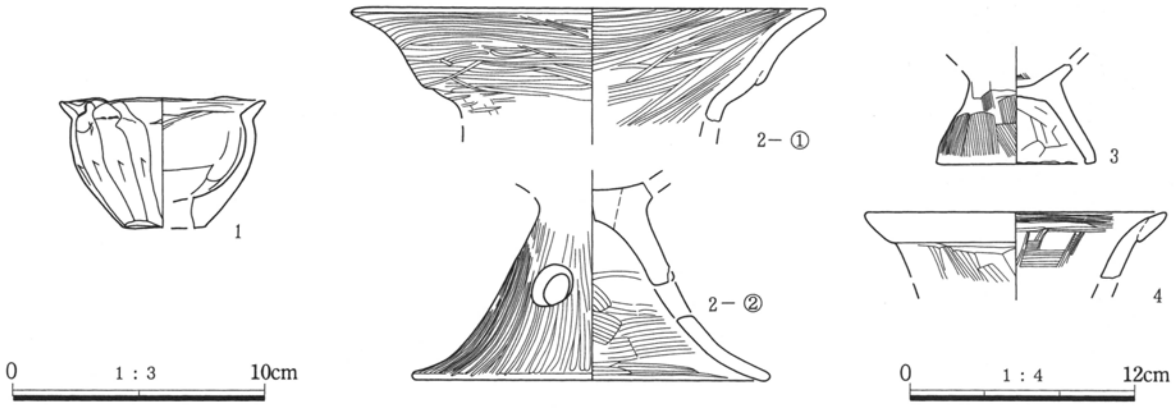
柱穴　なし

貯蔵穴　なし

炉　確認できない

出土遺物　出土遺物点数は少ないが、床上・床直上よりＳ字口縁台付甕片、高坏片、甕片、手ずくね土器片、蓋片等が出土しており種類は多い。該時以外の土器片の出土は無い。本住居の時期は出土遺物より古墳時代４世紀頃と思われる。

掘り方　堅緻な床面下はほぼ平坦な掘り方で、柱穴・貯蔵穴は検出できない。



第36図　D区12号住居跡出土遺物

D区13号住居跡

位置　860－180グリッド

規模　調査部分は住居北西隅の極一部で、大部分は東に隣接する現有道路下となるため東西長、南北長、床面積は計測不能である。

方位　N－59°－E

重複　北西隅が14号土坑と重複し、14号土坑が新しい。

壁　残存壁高20cm前後と確認面より床面まで比較的深く、壁はほぼ垂直に掘り込む。

床面　明瞭な貼床は確認できなかったが、床面はほぼ平坦で全体的に締まりは良好である。

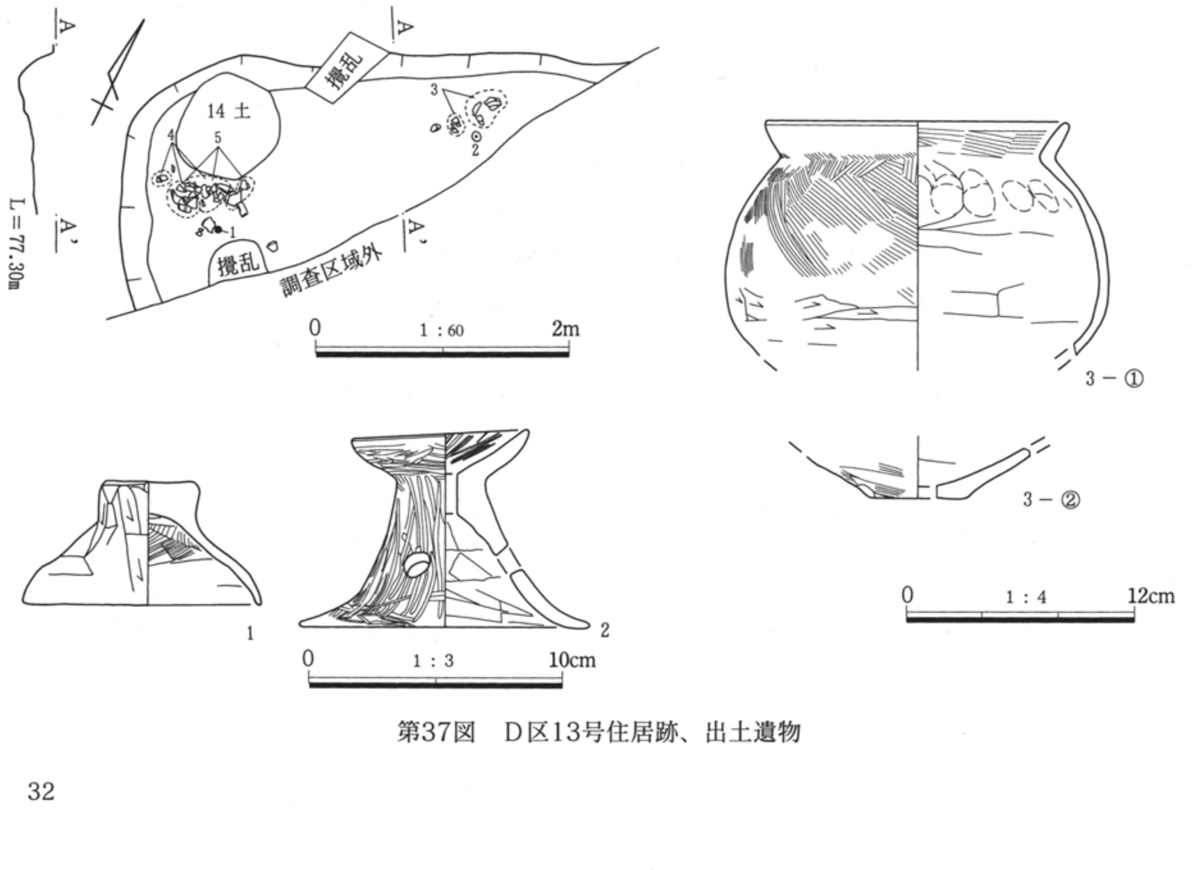
柱穴　確認できない

貯蔵穴　確認できない

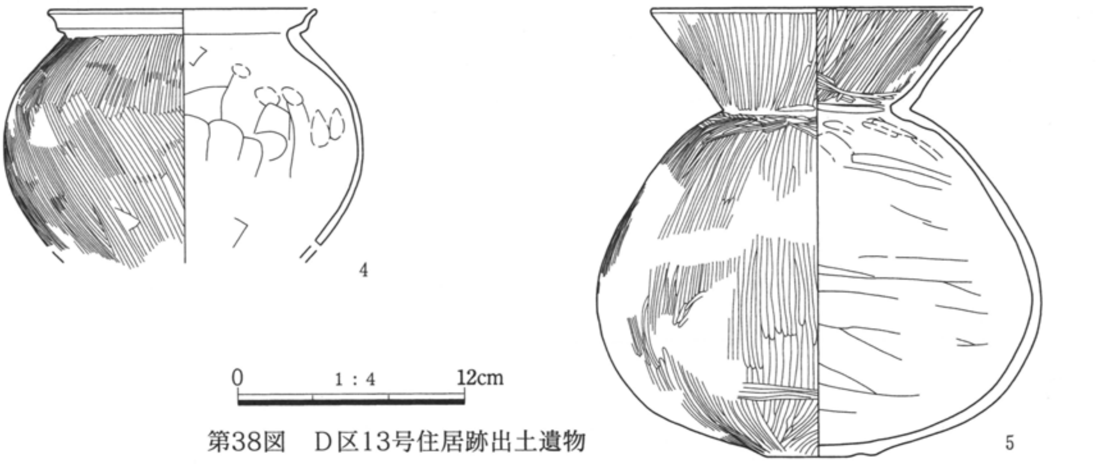
炉　確認できない

出土遺物　僅かな調査範囲の割には出土遺物は多い。覆土よりS字口縁台付甕片、甕片、ほぼ完形の器台等が出土している。本住居の時期は出土遺物より古墳時代４世紀頃半と思われる。

掘り方　柱穴・貯蔵穴は確認できない。



第37図　D区13号住居跡、出土遺物



第38図　Ｄ区13号住居跡出土遺物

Ｄ区14号住居跡

位置　870－200グリッド

規模　南北5.0mを測る。住居東側は攪乱により消失しており東西長、床面積は計測不能である。

方位　N－16.5°－W

重複　西壁が43土坑と重複し、43土坑が新しい。

壁　残存壁高30cm前後と確認面より床面まで深く、壁は垂直に掘り込む。

床面　明瞭な貼床は確認できなかったが、床面はほぼ平坦で全体的に締まりは良好である。

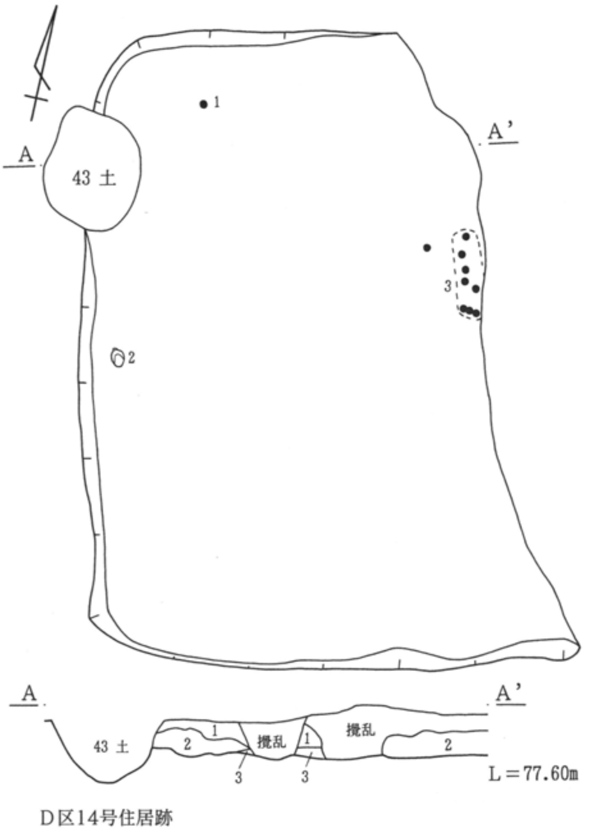
柱穴　なし

貯蔵穴　確認できない

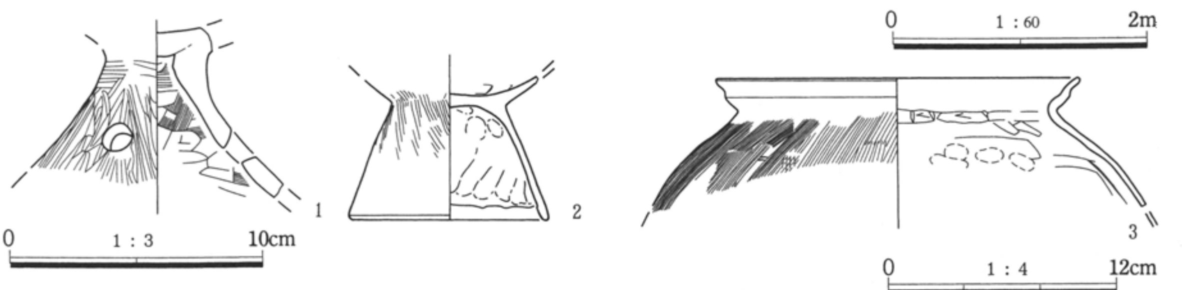
炉　確認できない

出土遺物　出土遺物は少ないが、床頂上や床上にＳ字口縁台付甕片、器台片等が出土している。該期以外の遺物としては現代の火鉢片、陶磁器片が数点出土している。本住居の時期は出土遺物より古墳時代４世紀頃と思われる。

掘り方　厚さ数cmの堅緻な床面下はほぼ平坦な地山となる。



Ｄ区14号住居跡
１黒褐色土　黄褐色砂質土塊含む
２暗褐色土　黒褐色土・黄褐色砂質土の混土、白色軽石・炭化物含む
３黒褐色土　１層に類似、炭化物やや少ない



第39図　Ｄ区14号住居跡、出土遺物

E区２号住居跡

位置　830－180グリッド

規模　確認・調査された範囲は住居北側の僅かな範囲である。大部分は調査区外となるため、長さ・床面積は計測不能である。

方位　N－73°－W

重複　なし

壁　残存壁高25cm前後と確認面より床面まで深く、壁はほぼ垂直に掘り込む。住居覆土は黒色土・黄褐色土、等が所謂レンズ状堆積をしており自然埋没状況を呈する。

床面　ほぼ平坦で堅緻な床面を確認する。住居中央部では２面の硬化面が検出でき、沈降等による貼床の再構築が窺えた。

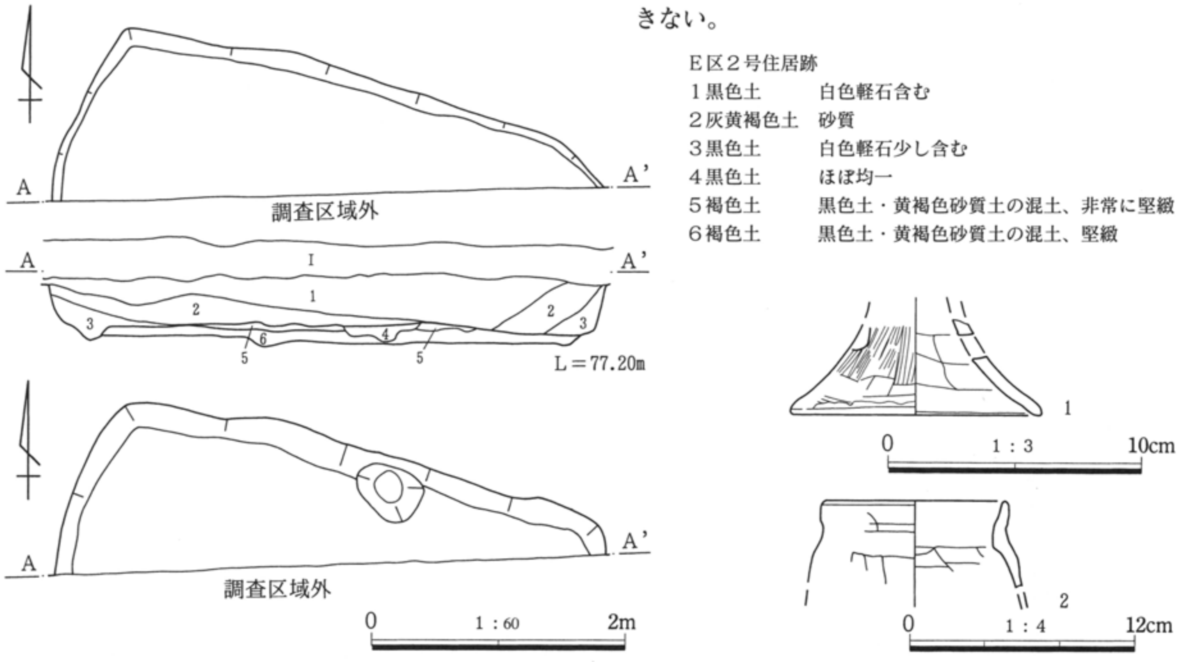
柱穴　確認できない

貯蔵穴　確認できない

炉　確認できない

出土遺物　出土遺物点数は少ないが、床上直上よりＳ字口縁台付甕片、器台脚部片等が出土している。該期以外の出土遺物は無く、本住居の時期は古墳時代４世紀頃と思われる。

掘り方　全体的に下がるが、柱穴・貯蔵穴は検出できない。



第40図　E区２号住居跡、掘り方、出土遺物

A区１号住居跡

位置　830－520～830－510グリッド

規模　長軸6.3m、短軸6.1mを測り、床面積33.7㎡のほぼ正方形を呈する。

方位　N－56°－E

重複　なし

壁　残存壁高40cmと確認面より床面まで深く、壁は垂直に掘り込む。また、住居覆土は暗褐色土・褐色土等が所謂レンズ状堆積をしており自然埋没状況を呈する。

床面　黄褐色砂質土を多量に含む土を貼床とし、全体的に締まりは良好、特に竈周辺・柱穴内側・東壁際側の踏み締まりが強い。北壁内側には本住居構築材の炭化物が多量に散在しており焼失家屋であることを窺わせた。尚、検出された炭化材は全てクヌギ材で、検出状況から住居垂木材として利用されていたと思われる。クヌギ材は古墳時代においては建築材樹種として県内では一般的に利用されていた材で、本住居でも積極的に使用されていたことが窺えた。また、幅13cm程の壁溝が竈・貯蔵穴周辺以外の４壁下に巡り、北壁溝内には上幅12cm程のピッ

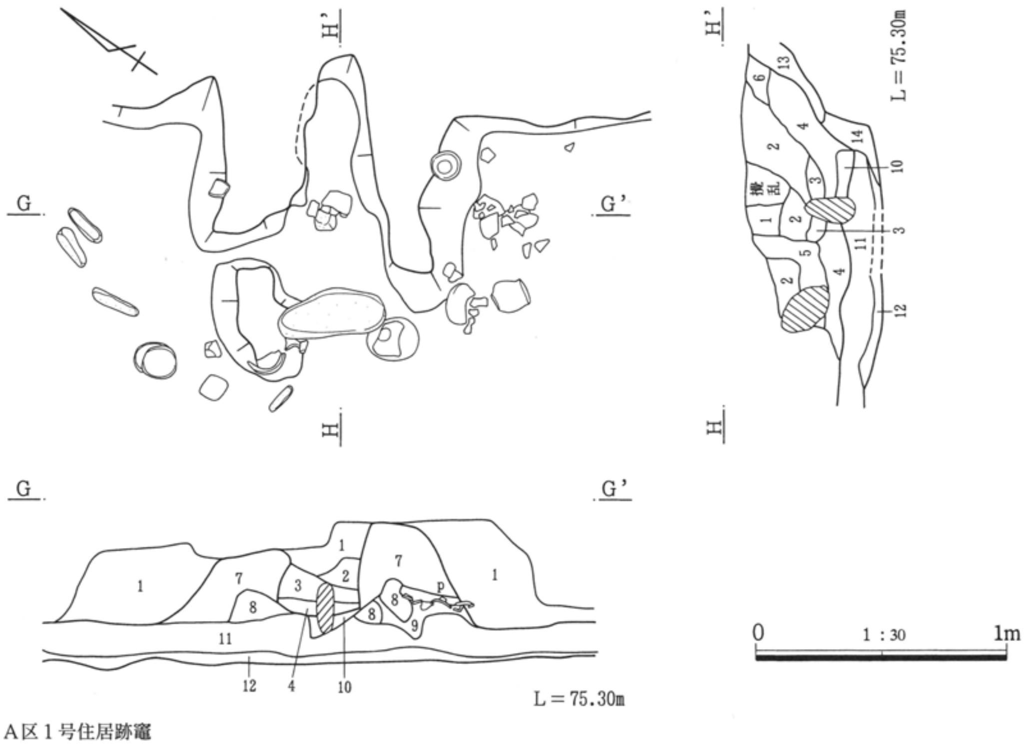
トが等間隔に検出された。

柱穴　住居対角線上に４本検出した。１は上幅32×20cm、柱痕径16cm、深さ52cm、２は上幅58×52cm、柱痕径16cm、深さ32cm、３は上幅60×48cm、柱痕径16cm、深さ52cm、４は上幅32×44cm、柱痕径16cm、深さ56cmを測る。

貯蔵穴　竈袖右側、住居南東隅に位置し上幅88×72cm、深さ44cmを測る。形状は不整円形を呈する。**竈**　東壁中央やや南寄りに付設され、煙道は壁外に20cm突出し、焚き口幅30cm、焚き口高５cm、奥行き1.3mを測る。現代の農作業痕が入り竈左袖は一部破壊されているが住居内側に約1.1mと長く張り出す。竈右袖は農作業痕で途中かなり破壊されているものの先端部の残存状況は良好で左袖同様住居内側に約1.1mと長く張り出す。焚き口天井材としては径40cm、長さ１m、大きな砲弾型丸礫を倒置し、袖芯材としては土師器丸底甕数個を入れ子状態で倒立させ、暗褐色土、褐色土、灰白粘質土を互層に被覆させている。また、焚き口より奥50cmの位置には径10cm、長さ20cm、地上長14cm、卵形丸礫を利用した支脚が貼床に据えられた状態で出土している。

出土遺物　出土遺物は完形品を含め種類、点数とも豊富である。特に竈及び貯蔵穴周辺に集中し杯、甕、壺、甑、等のほぼ完型品は10を数える。また、これら当該時期土器以外に石器剥片、縄文土器片、弥生土器片、須恵器片等が数多く出土している。本住居の時期は出土遺物より古墳時代６世紀前半と思われる。

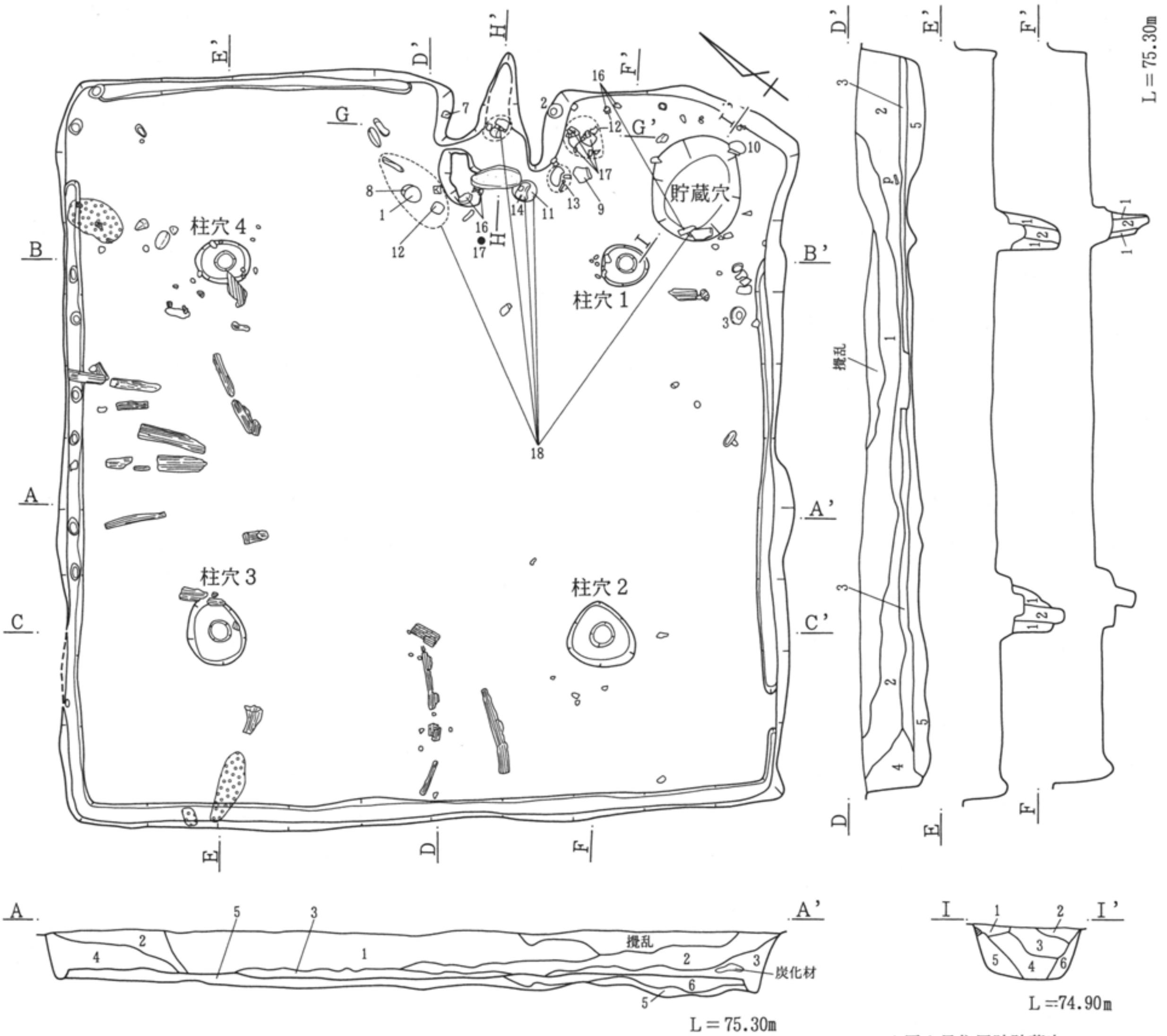
掘り方　全体的に一段下がるがほぼ平坦である。

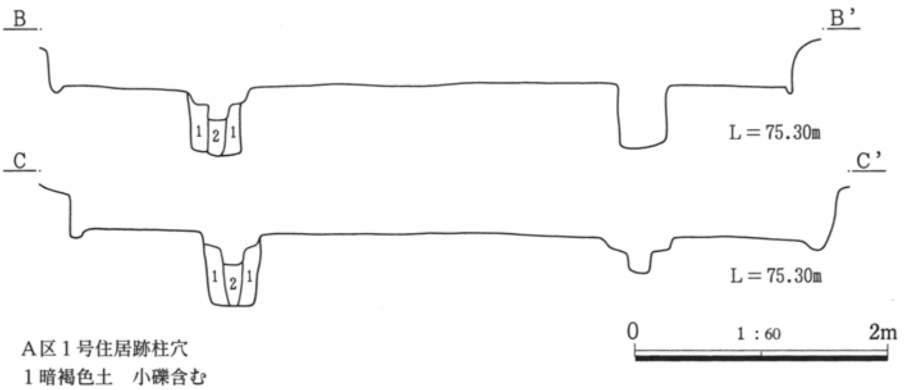


Ａ区１号住居跡竈

１暗褐色	焼土塊を多く含む
２灰色土	焼土塊・焼土粒を多く含む
３暗褐色土	焼土粒・軽石を多く含む
４褐色土	砂質、黄褐色砂質土粒を含む、軽石を極僅か含む
５暗褐色土	黄褐色砂質土粒・軽石を僅か含む
６暗褐色土	黄褐色砂質土粒を僅か含む
７褐色土	黄褐色砂質土粒を含む
８暗褐色土	黄褐色砂質土塊を僅か含む
９暗褐色土	黄褐色砂質土を多く含む、白色軽石を少し含む
10暗褐色土	灰・焼土粒を少し含む
11褐色土	黄褐色砂質土粒・塊を多く含む
12暗褐色土	白色軽石を僅か含む
13灰褐色土	黄褐色砂質土粒を含む
14暗褐色土	黄褐色砂質土粒・焼土粒を少し含む

第41図　Ａ区１号住居跡竈





A区１号住居跡貯蔵穴

１暗褐色土　焼土粒・黄褐色砂質土粒を少し含む

２暗褐色土　黄褐色砂質土粒を少し含む

３褐色土　黄褐色砂質土塊を含む

４暗褐色土　黄褐色砂質土塊黒色土塊を含む

５黒褐色土　やや粘性有り

６黒褐色土　黄褐色砂質土粒少し含む

A区１号住居跡柱穴

１暗褐色土　小礫含む

２暗褐色土　締まりに欠ける

A区１号住居跡

１暗褐色土　黄褐色砂質土をやや含み、径１mmの軽石を含む

２褐色土　３層に類似するが、上部に炭化物を多く含む

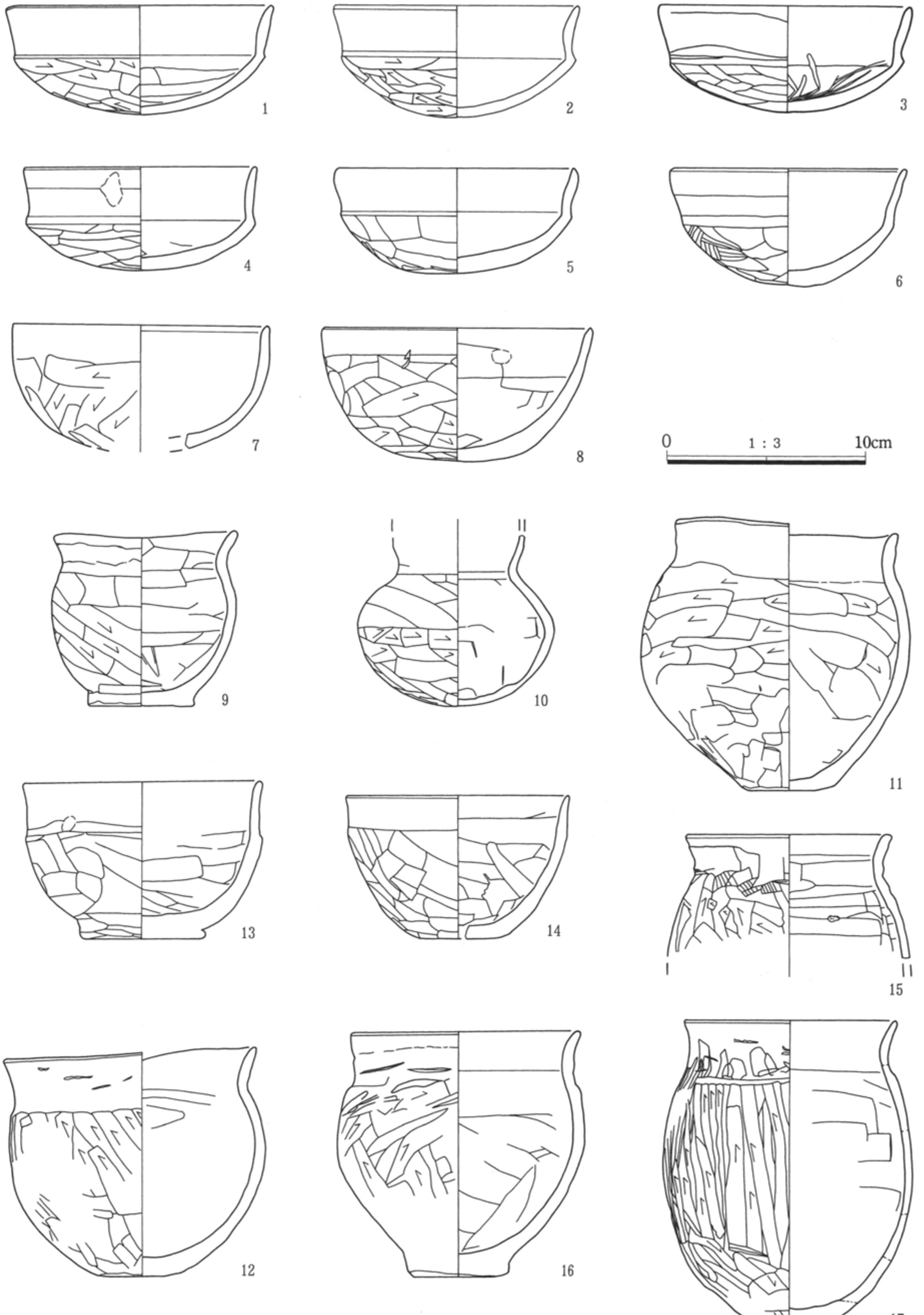
３黄褐色土　黄褐色砂質土・炭化物・焼土粒を含む

４褐色土　黄褐色砂質土粒を多く含み、径10mmの黄褐色砂質土塊を多く含む

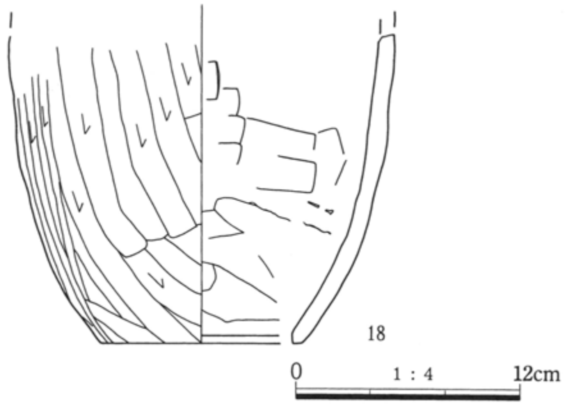
５褐色土　堅緻、黄褐色砂質土粒を多く含み、軽石・黄褐色砂質土塊を少し含む

６褐色土　非常に堅緻、黄褐色砂質土粒・炭化物・白色軽石を含む

第42図　A区１号住居跡



第43図　A区1号住居跡出土遺物



第44図　A区１号住居跡出土遺物

A区２号住居跡

位置　840－510～830－510グリッド

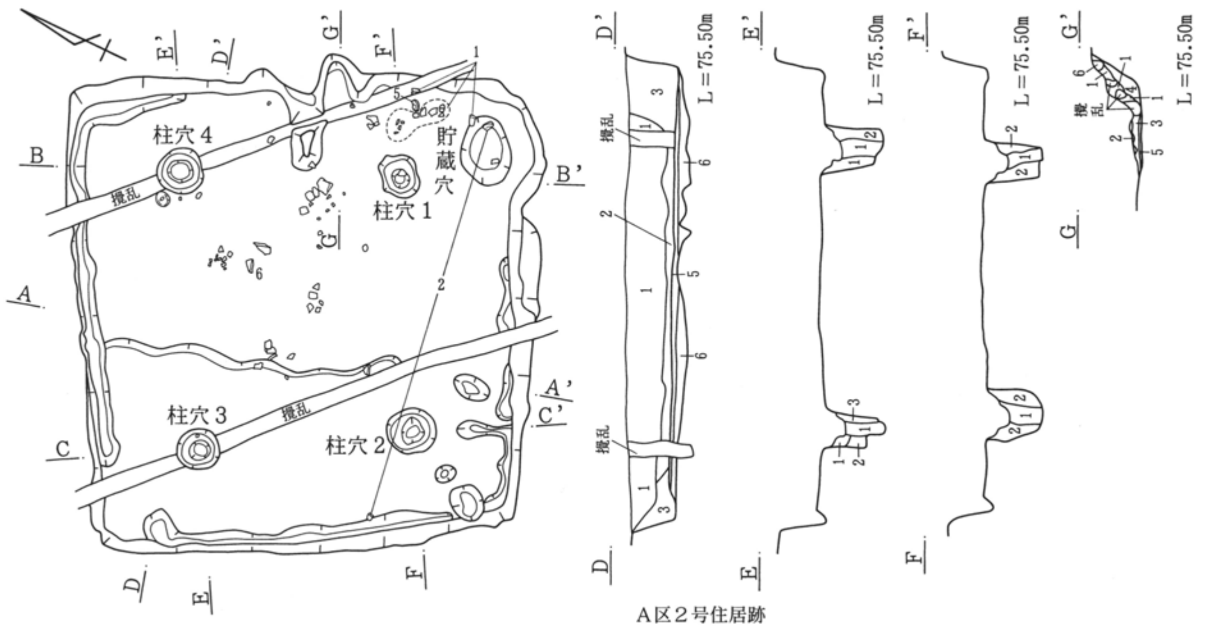
規模　長軸3.7m、短軸3.5mを測り、床面積11.0㎡のほぼ正方形を呈する。

方位　N－67°－E

重複　４号住居と重複し、４号住居の方が古い。

壁　残存壁高40cmと確認面より床面まで深く、壁は垂直に掘り込む。また、住居覆土は暗褐色土・褐色土等が所謂レンズ状堆積をしており自然埋没状況を呈する。

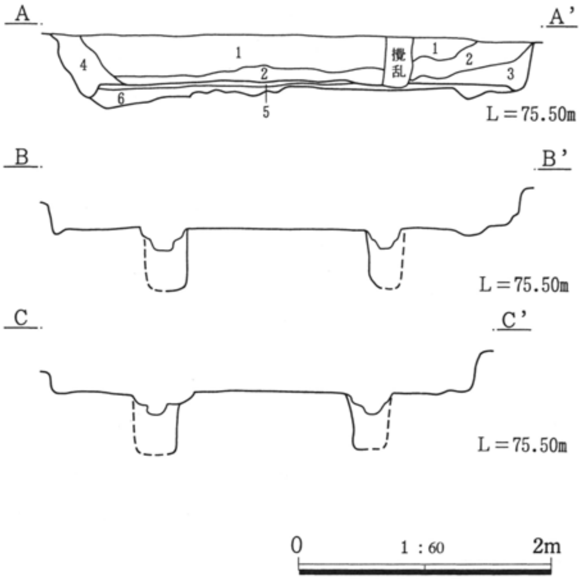
床面　黄褐色砂質土をブロック状に多量に含む土を



A区２号住居跡
１暗褐色土　黄褐色砂質土粒を多く含む、径５mmの黄褐色砂質土塊を含む、白色軽石を含む
２暗褐色土　１層に類似、径５mmの白色軽石を含む
３暗褐色土　黄褐色砂質土粒・塊を多く含む
４暗黒色土　黄褐色砂質土粒を少し含み、径３mmの白色軽石を多く含む
５褐色土　黄褐色砂質土塊・暗褐色土塊を多く含む、非常に堅緻
６褐色土　黄褐色砂質土塊・黒褐色土塊の混土、堅緻

A区２号住居跡柱穴
１暗褐色土　砂質、締まりに欠ける（柱痕）
２褐色土　砂質、礫少し混じる、黄褐色砂質土塊多く含む

A区２号住居跡竈
１褐灰色土　淡灰白色粘質土含む、焼土粒少し含む
２黒褐色土　炭化物主体
３赤褐色土　炭化物・焼土粒・灰の混土層
４褐灰色土　灰主体、上位に焼土塊混じる
５赤褐色土　地山黄褐色砂質土が比熱により赤褐色化
６黄褐色土　黄褐色砂質土塊



第45図　A区２号住居跡

貼床とし、全体的に締まりは良好、特に竈周辺及び柱穴内側の踏み締まりが強い。幅12cm前後の壁溝が竈・貯蔵穴周辺以外の４壁下に巡る。

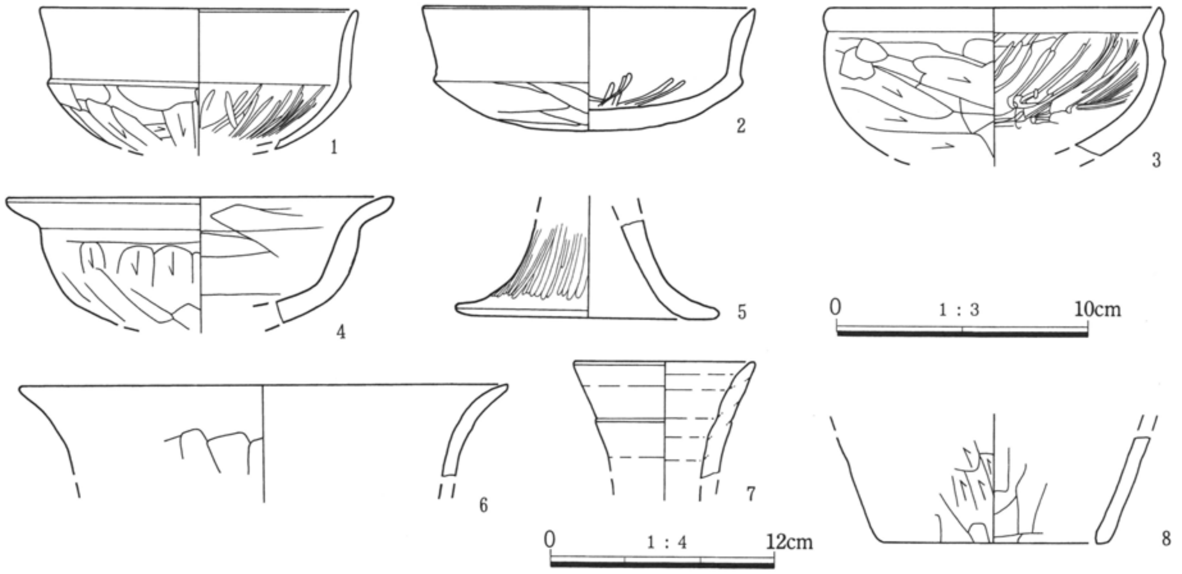
柱穴　住居の対角線上に４本検出した。１は上幅32×32cm、柱痕径12cm、深さ48cm、２は上幅36×36cm、柱痕径16cm、深さ48cm、３は上幅32×36cm、柱痕径12cm、深さ52cm、４は上幅36×36cm、柱痕径12cm、深さ52cmを測る。柱穴１の柱痕だけが住居内側にやや傾斜して検出された。

貯蔵穴　竈袖右側、住居南東隅に位置し、上幅56×40cm、深さ30cmを測る。形状は不整円形を呈する。

竈　東壁中央やや南寄りに付設され、煙道は壁外に28cm突出している。焚き口部付近からはまとまった炭化米が出土している。竈左袖は僅かに残存するが右袖は確認できないほど攪乱を受けていた。

出土遺物　出土品は小破片から完型品まで多数出土している。床直上でも多くの土器が出土し、ほぼ完形となる杯や甕は数点、大きさを異にする甑も数点出土した。また、該住居時期に直接関わらない石斧・石核・削器、等の製品や剥片、縄文前期土器片、須恵器、灰釉陶器といった混入品も多数出土した。本住居の時期は出土遺物より古墳時代６世紀前半と思われる。

掘り方　全体的に下がるがほぼ平坦な掘り方を呈する。



第46図　Ａ区２号住居跡出土遺物

Ａ区３号住居跡

位置　830－510～830－500グリッド

規模　長軸5.1m、短軸4.8mを測り、床面積19.3㎡のほぼ正方形を呈する。

方位　Ｎ－71°－Ｅ

重複　なし

壁　残存壁高40cmと確認面より床面まで深く、壁は垂直に掘り込む。また、住居覆土は暗褐色土・褐色土等が所謂レンズ状堆積をしており自然埋没状況を呈する。

床面　黄褐色砂質土塊を多量に含む土を貼床とし、全体的に締まりは良好、特に竈周辺及び柱穴内側の踏み締まりが強い。竈以外の４壁下には幅12cm前後の壁溝が巡る。

柱穴　住居対角線上に４本検出した。１は上幅36×36cm、柱痕径16cm、深さ48cm、２は上幅40×40cm、柱痕径12cm、深さ40cm、３は上幅38×36cm、柱痕径12cm、深さ40cm、４は上幅60×40cm、柱痕径12cm、深さ40cmを測る。

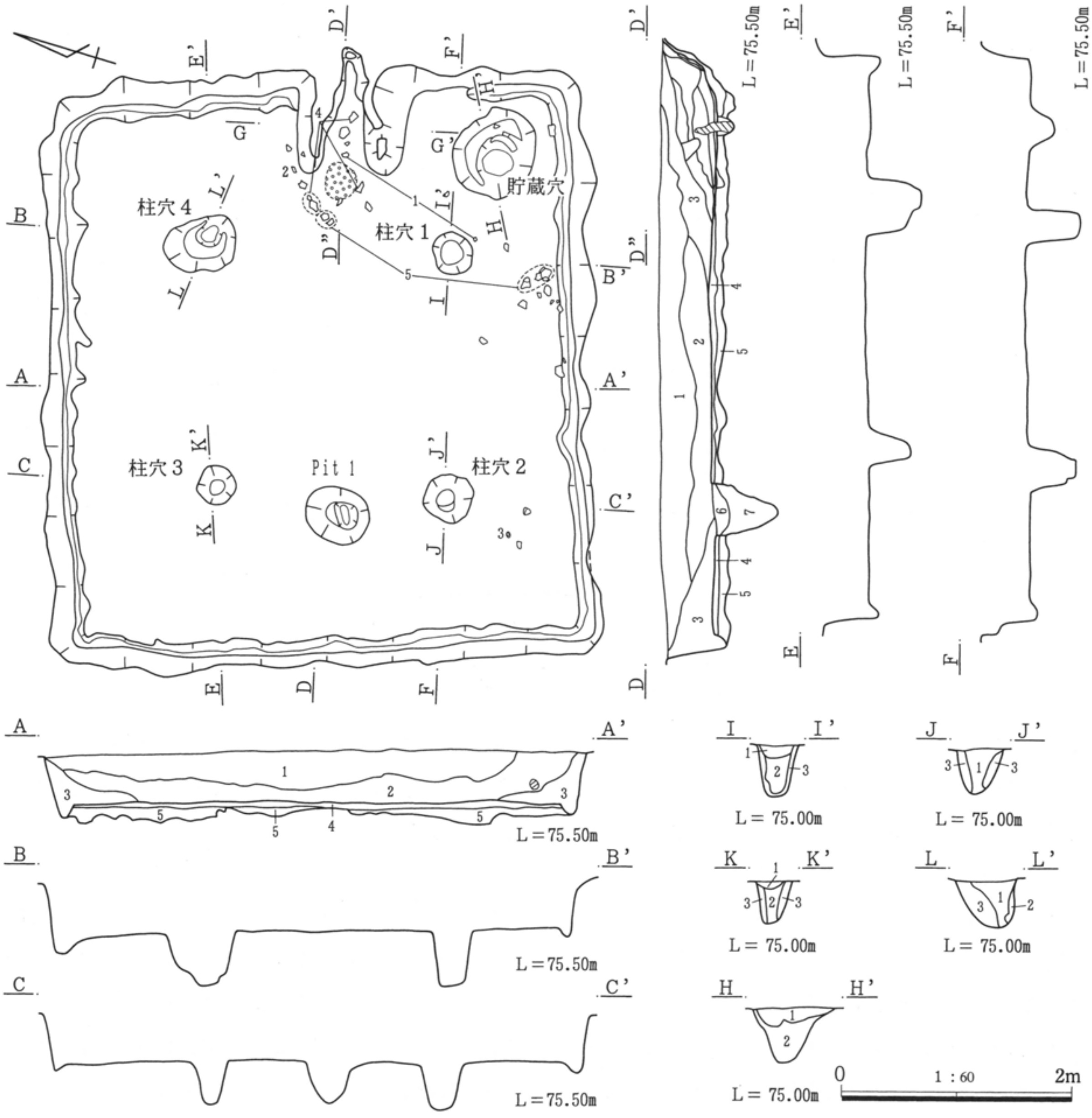
貯蔵穴　竈袖右側、住居南東隅に位置し上幅80×

76cm、深さ48cmを測る。形状はほぼ円形を呈する。

竈　東壁ほぼ中央に付設され、煙道は壁外に20cm突出し、焚き口幅40cm、奥行き1.16mを測る。竈右袖途中と竈左袖先には現代の農作業痕が入り一部破壊されているものの残存状況は良好で、住居内側に約76cmと長く張り出している。焚き口天井部及び袖先端部は残存していない。竈覆土には竈構築材として使用されている層厚な灰白色粘質土層が確認できた。また、焚き口より奥40cmの位置には径10cm、長さ34cm、地上長16cm、自然礫を利用した支脚が貼床に据えられた状態で出土している。

Ａ区３号住居跡
１暗褐色土　黄褐色砂質土粒を多く含む、白色軽石を少し含む
２暗褐色土　黄褐色砂質土粒・塊を含む
３褐色土　黄褐色砂質土粒を多く含む、黄褐色砂質土塊を含む
４黄褐色土　黄褐色砂質土塊を多く含む、暗褐色土塊を含む、非常に堅緻
５黄褐色土　黄褐色砂質土塊と暗褐色土塊の混土、堅緻
６暗褐色土　黄褐色砂質土粒多く含む、白色軽石は含まない（Pit１）
７黄褐色土　黄褐色砂質土粒多く含む、黄褐色砂質土塊少し含む（Pit１）

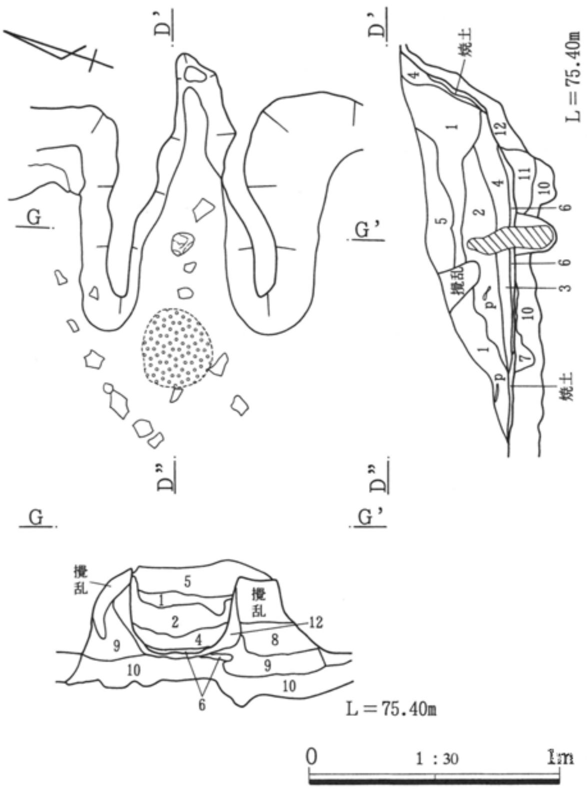
Ａ区３号住居跡柱穴
１暗褐色土　黄褐色砂質土粒を含む、焼土粒含む
２褐色土　黄褐色砂質土粒多く含む、黄褐色砂質土塊少し含む
３黄褐色土　黄褐色砂質土多く混じる



第47図　Ａ区３号住居跡

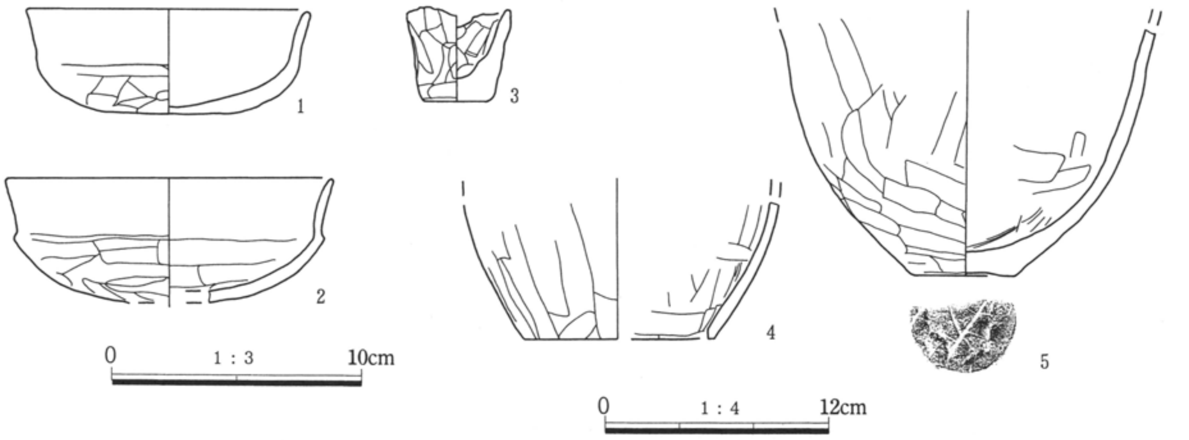
出土遺物　竈及び貯蔵穴周辺の床直上に土器片が散在する。小破片が主で完型品となる物は無く、６世紀代の土師器甕・甑・杯の破片が主体をなす。当該住居時期に関わらない石器剥片・縄文土器片・須恵器片が混入品として出土した。本住居の時期は出土遺物より古墳時代６世紀代と思われる。

掘り方　全体的に一段下がるがほぼ平坦である。



Ａ区３号住居跡竈

1	暗褐色土	焼土塊を含む
2	赤褐色土	焼土塊主体
3	灰褐色土	やや粘質、焼土塊・灰を含む、炭化物を多く含む
4	灰色土	灰主体、焼土粒少し含む
5	淡灰褐色土	粘質、焼土粒含む
6	黒色土	炭化物主体
7	暗褐色土	灰と焼土粒の混土
8	褐色土	焼土粒多く含む
9	灰褐色土	粘質土主体、焼土粒含む
10	黄褐色土	黄褐色砂質土主体、暗褐色土少し混じる
11	暗褐色土	焼土粒と灰の混土
12	赤褐色土	黄褐色砂質土が熱により赤色化



第48図　Ａ区３号住居跡竈、出土遺物

Ａ区６号住居跡

位置　840－500グリッド

規模　長軸5.9m、短軸5.8mを測り、床面積29.9㎡のほぼ正方形を呈する。

方位　Ｎ－49.5°－Ｅ

重複　なし

壁　残存壁高44cmと確認面より床面まで深く、壁は垂直に掘り込む。南壁中央付近は攪乱のため一部消失している。また、住居覆土は暗褐色土・褐色土等が所謂レンズ状堆積をしており自然埋没状況を呈する。

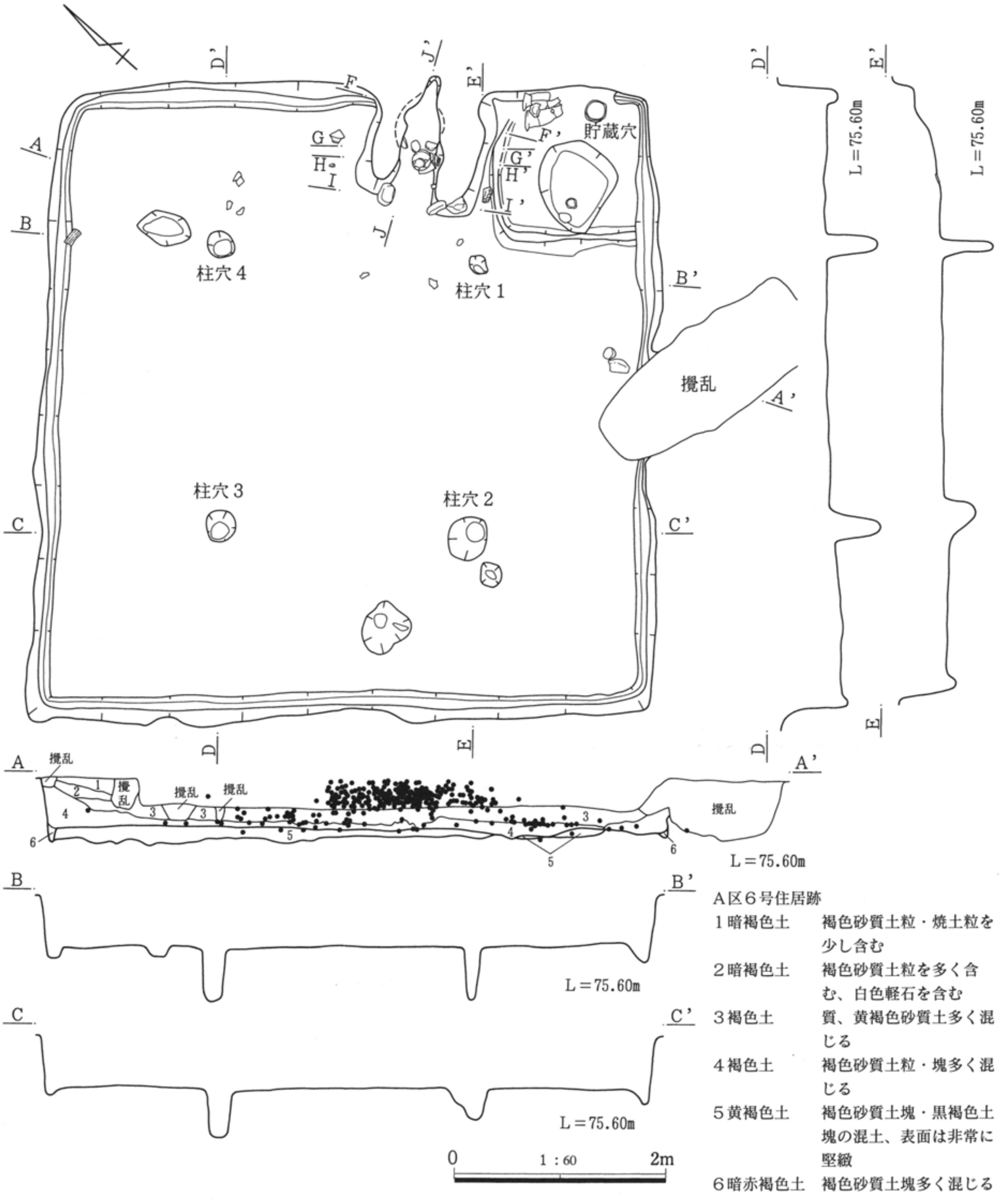
床面　黄褐色砂質土を多量に含む土を貼床とし、全体的に締まりは良好、特に竈周辺及び柱穴内側の踏み締まりが強い。また、竈右住居南東隅には幅16cm前後、高さ数センチメートルの土手状の高まりで囲まれた辺1.3mほぼ正方形の方形区画がある。区画内からは完形の甕が出土すると伴に貯蔵穴を検出した。幅12cm前後の壁溝が東壁の一部を除き４

壁下に巡る。

柱穴　ピットは７固検出されたが、柱穴と思われるものは１～４の４個である。１は上幅16×12cm、深さ48cm、２は上幅44×36cm、深さ32cm、３は上幅28×24cm、深さ44cm、４は上幅24×24cm、深さ48cmを測る。他３個のピットの用途は不明である。

貯蔵穴　方形区画内に構築された貯蔵穴は上幅90×70cm、深さ30cmの不整円形を呈し、内部より完形の杯を出土した。

竈　東壁中央やや南寄りに付設され、煙道は壁外に14cm突出し焚き口幅34cm、奥行き1.3mを測る。竈左袖は上部が一部消失しているものの住居内側に約１mと長く張り出すが、袖先端の構築材として利



A区６号住居跡

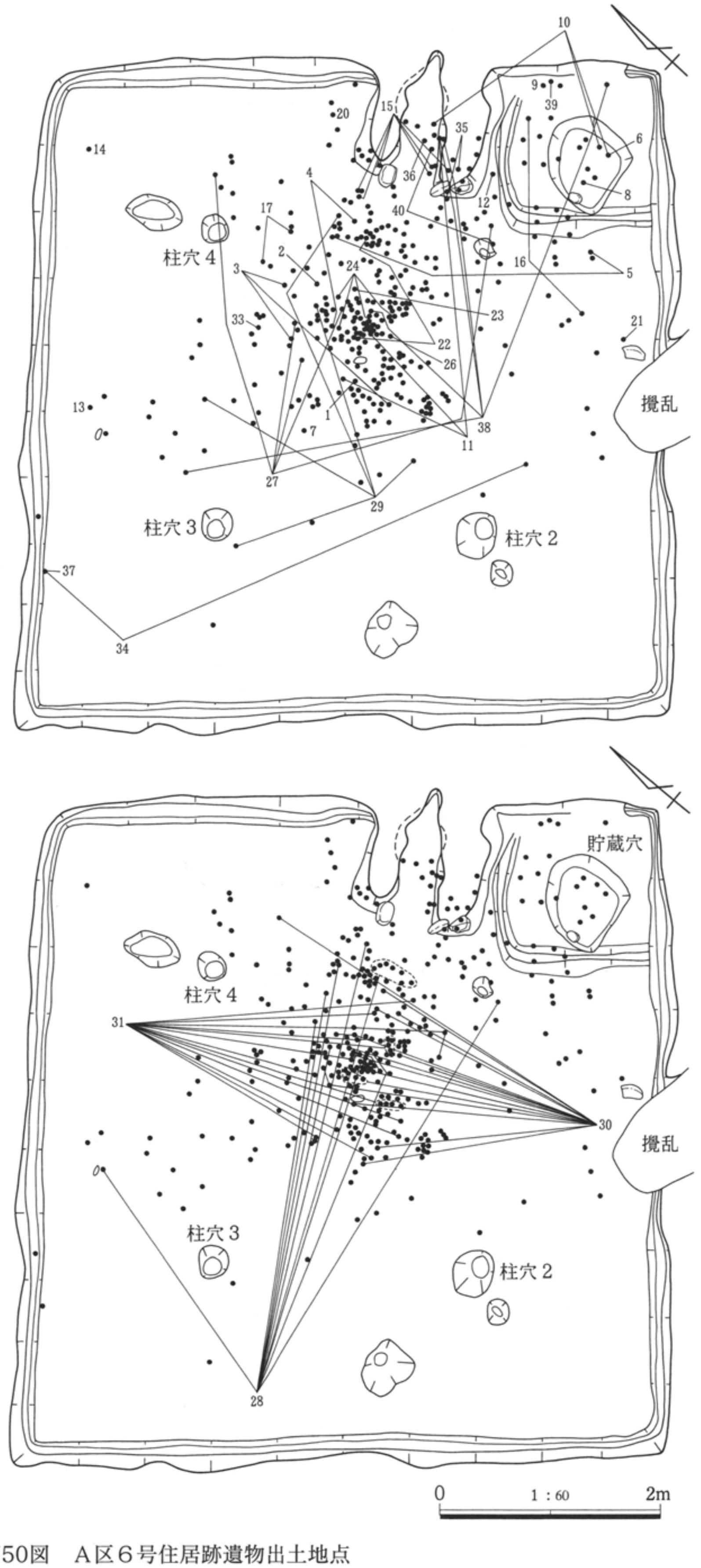
１暗褐色土	褐色砂質土粒・焼土粒を少し含む
２暗褐色土	褐色砂質土粒を多く含む、白色軽石を含む
３褐色土	質、黄褐色砂質土多く混じる
４褐色土	褐色砂質土粒・塊多く混じる
５黄褐色土	褐色砂質土塊・黒褐色土塊の混土、表面は非常に堅緻
６暗赤褐色土	褐色砂質土塊多く混じる

第49図　A区６号住居跡

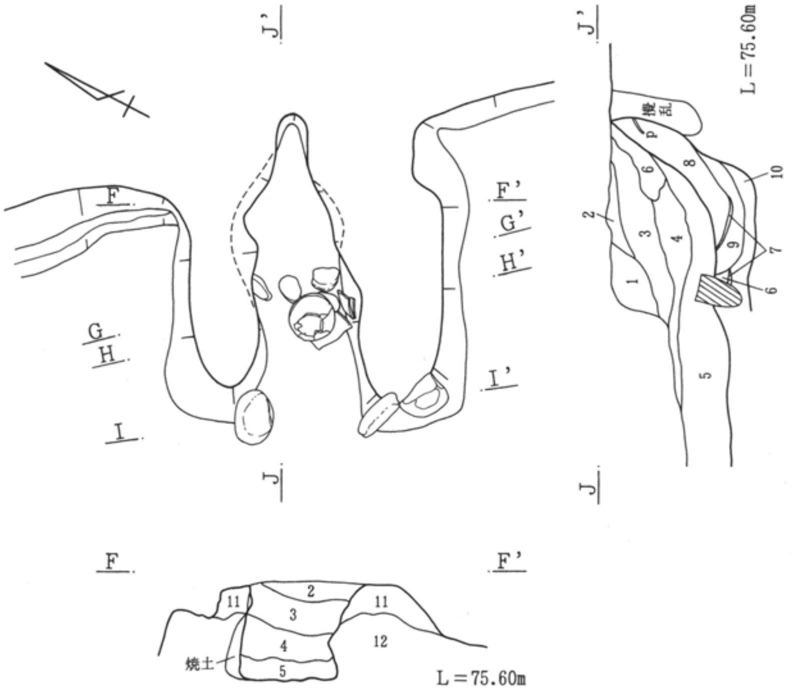
用されたと思われる丸礫は廃棄時に破壊され、上半分が竈右袖まで飛ばされた状態で発見された。竈右袖も住居内側に約1.2mと長く張り出すが、先端心材に利用されたと思われる丸礫は廃棄時の破壊により若干右側にずれていた。礫以外に袖芯材として土師器丸底甕を据え、暗褐色土、褐色土、灰白粘質土を互層に被覆させていた。また、焚き口より奥54cmの位置には径8cm、長さ20cm、地上長14cm、上部を水平に打ち欠く棒状丸礫を利用した支脚が貼床に据えられた状態で出土している。

出土遺物　遺物は種類・量とも多く、住居のほぼ中央、床より浮いた位置に集中して出土したが、完形・ほぼ完形となる遺物は少ない。竈内には小型甕、竈右側の方形平坦面には倒れた状態の甑や下部欠損の甕が埋設された状態で検出された。埋設部分の甕胴部は2ヶ1対凸状に意図的に打ち欠かれ、口縁部が床と水平になるよう垂直に設置されていた。状況から、甕を置き代等に転用していたとも考えられる。該期以外の遺物では石器、石器剥片・縄文前期土器片、須恵器片、灰釉陶器片、等が出土している。本住居の時期は出土遺物より古墳時代6世紀前半と思われる。

掘り方　全体的に一段下がるがほぼ平坦である。

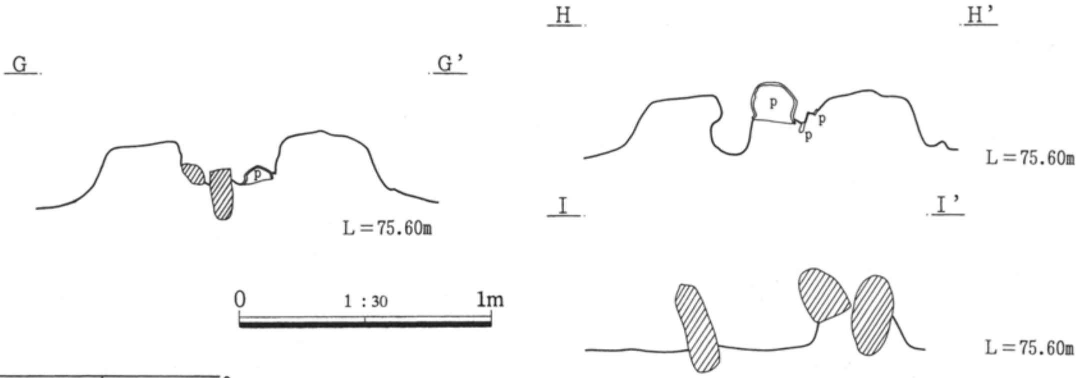


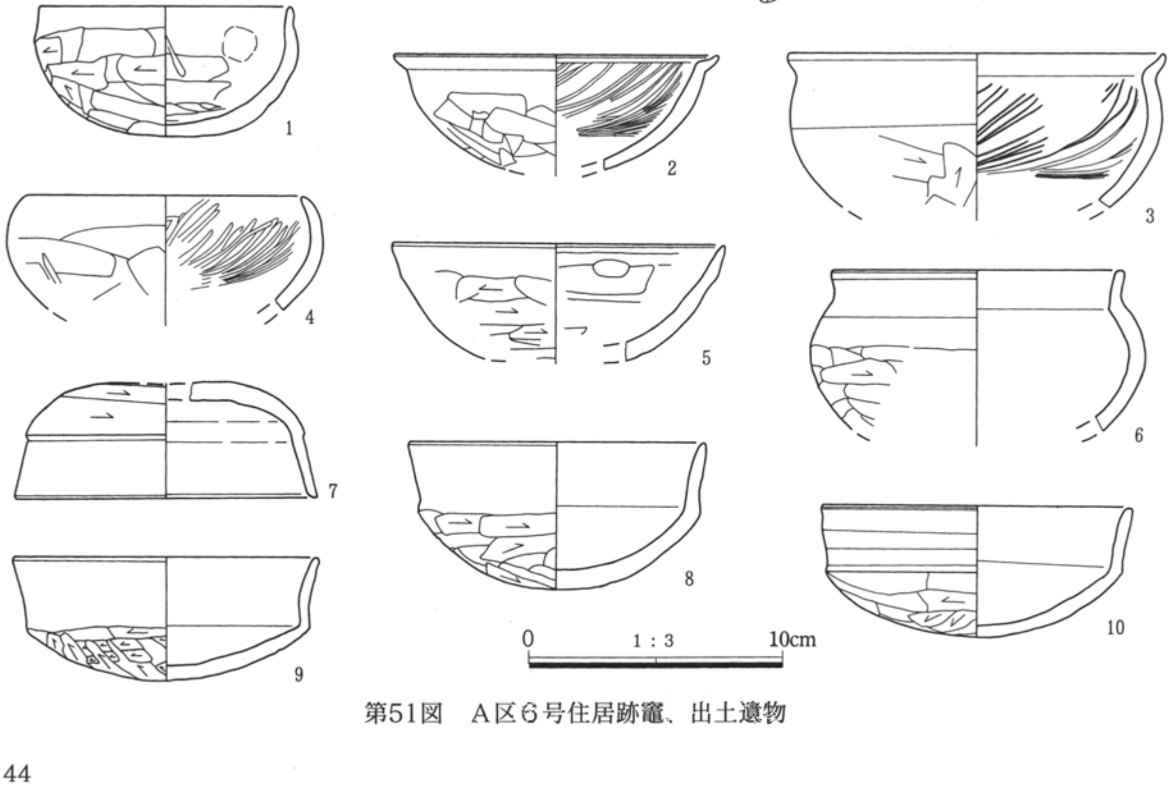
第50図　A区6号住居跡遺物出土地点



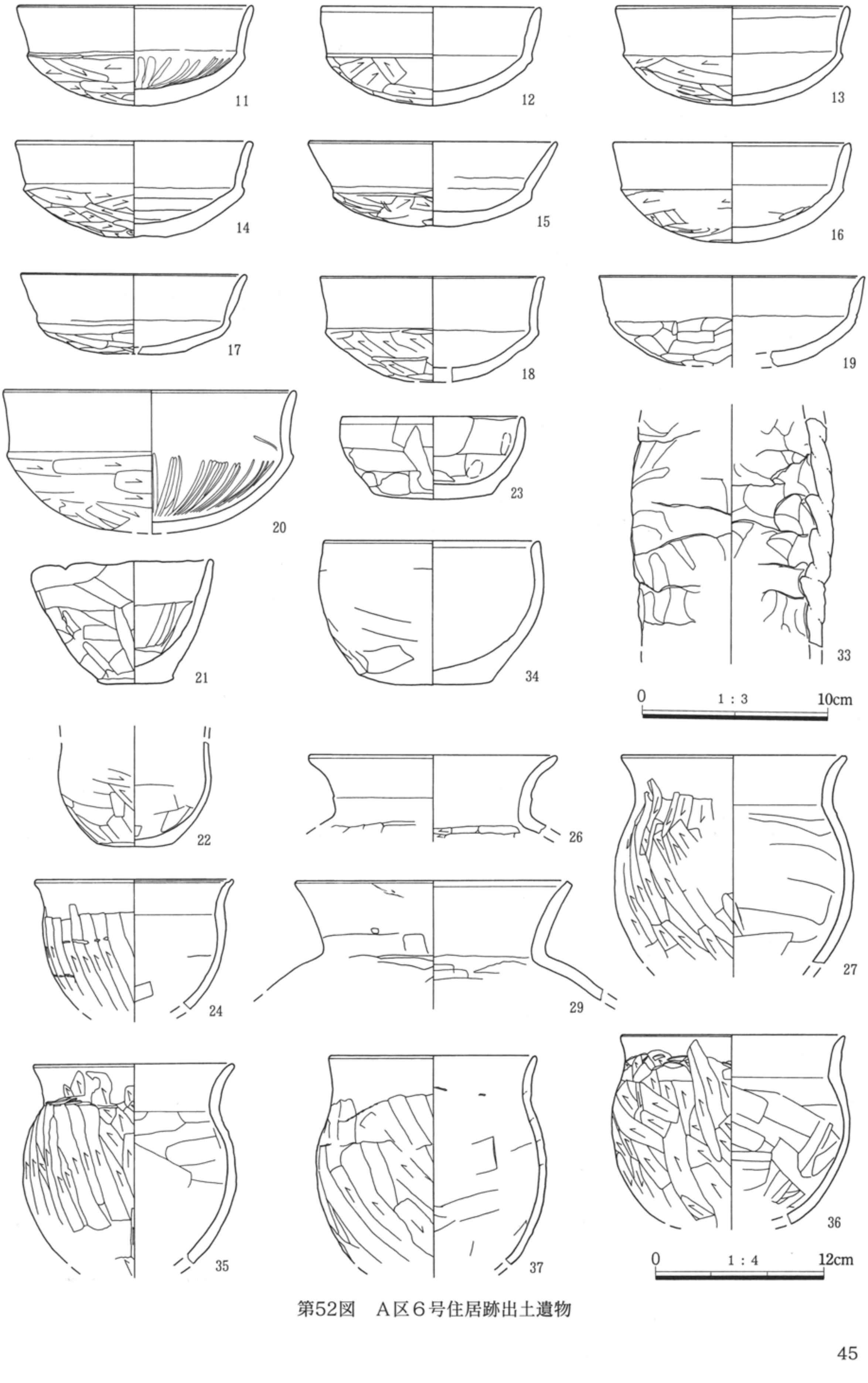
A区6号住居跡竈

1鷲鷹褐色土	焼土粒含む、全体に被熱
2淡赤褐色土	締まり強い、全体に被熱
3淡赤褐色土	焼土粒・炭化物含む全体に被熱
4赤褐色土	焼土塊主体
5赤褐色土	灰・焼土塊・焼土粒の混土
6赤褐色土	焼土塊多く含む
7灰色土	灰主体
8赤褐色土	焼土塊・黄褐色砂質土塊多く含む
9暗褐色土	黄褐色砂質土塊多く含む、焼土塊少し含む
10褐色土	黄褐色砂質土粒多く含む、焼土粒僅か含む
11暗褐色土	締まり強い、焼土粒少し含む
12灰褐色土	粘質、焼土粒少し含む

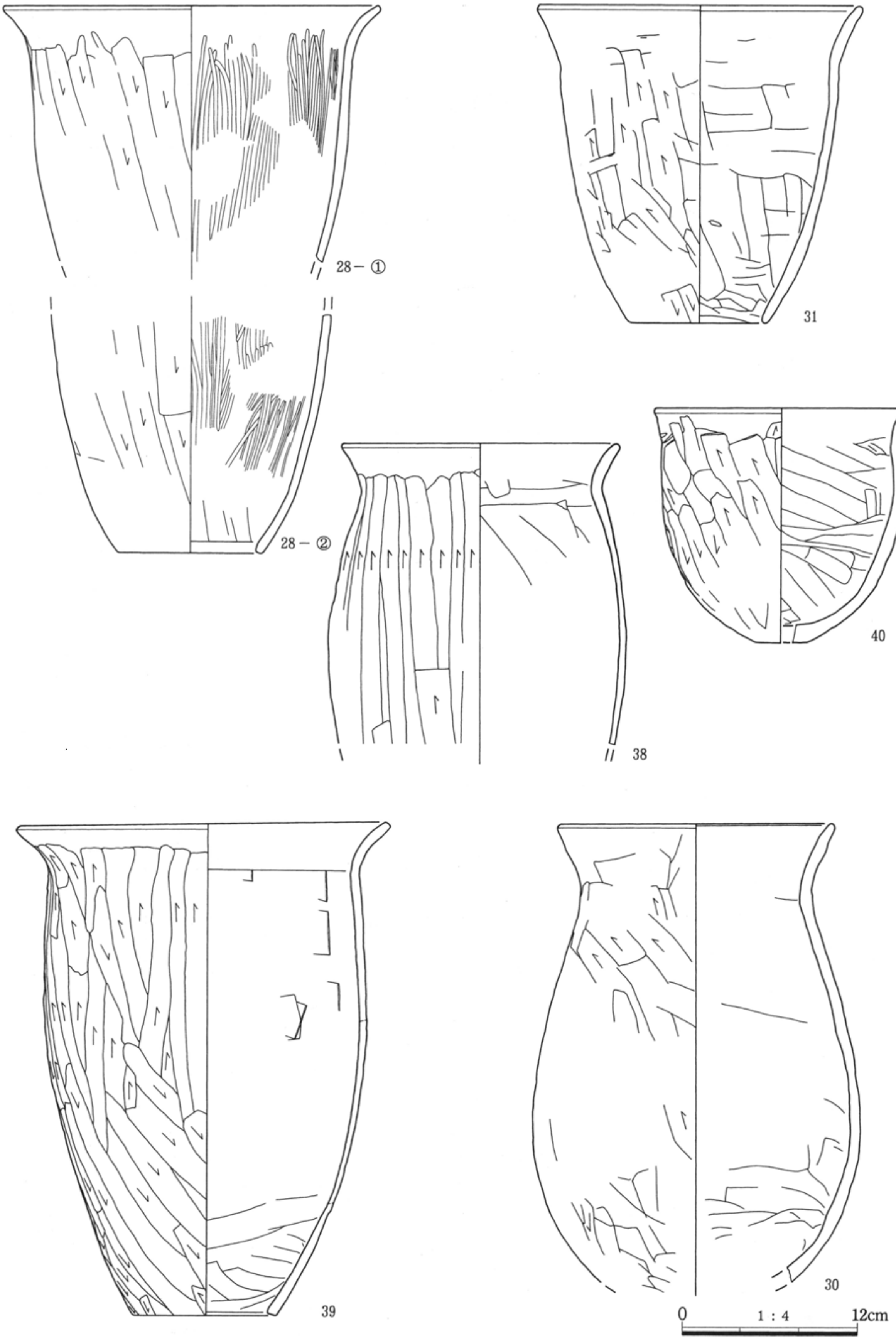




第51図　A区6号住居跡竈、出土遺物



第52図　A区６号住居跡出土遺物



第53図　A区６号住居跡出土遺物

A区７号住居跡

位置　830－510～820－500グリッド

規模　長軸4.2m、短軸3.5mを測り、床面積11.5㎡（推定）の長方形を呈する。

方位　N－69°－E

重複　７号土坑・９号土坑と重複し、７号土坑・９号土坑が新しい。

壁　残存壁高40cmと確認面より床面まで深く、壁は垂直に掘り込む。また、住居覆土は暗褐色土・褐色土等が所謂レンズ状堆積をしており自然埋没状況を呈する。

床面　黄褐色砂質土塊を多量に含む土を貼床とし、全体的に締まりは良好、特に竈周辺及び柱穴内側の踏み締まりが強い。部分的ではあるが竈以外の４壁下に幅８cm前後の壁溝が巡る。

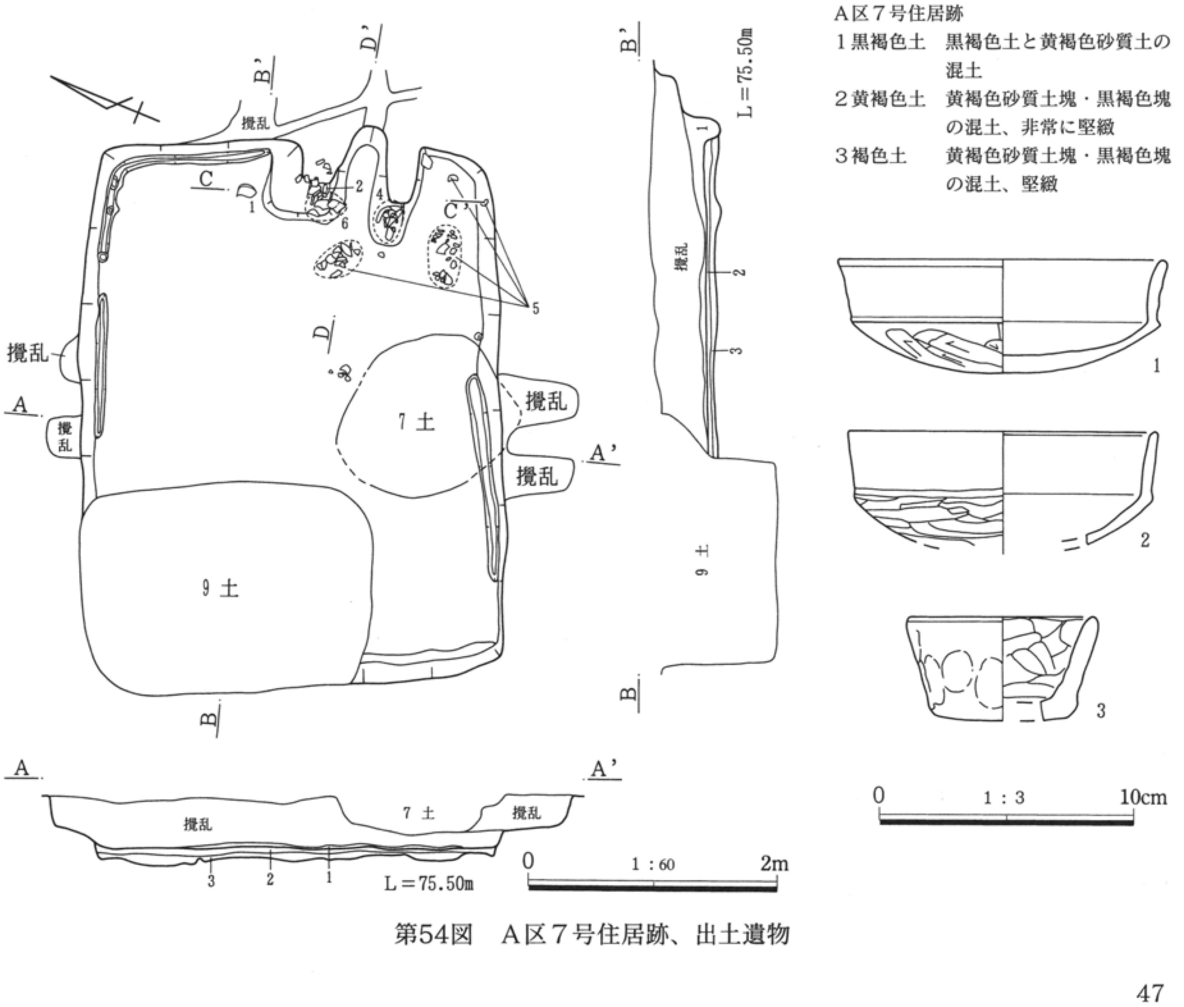
柱穴　なし

貯蔵穴　なし

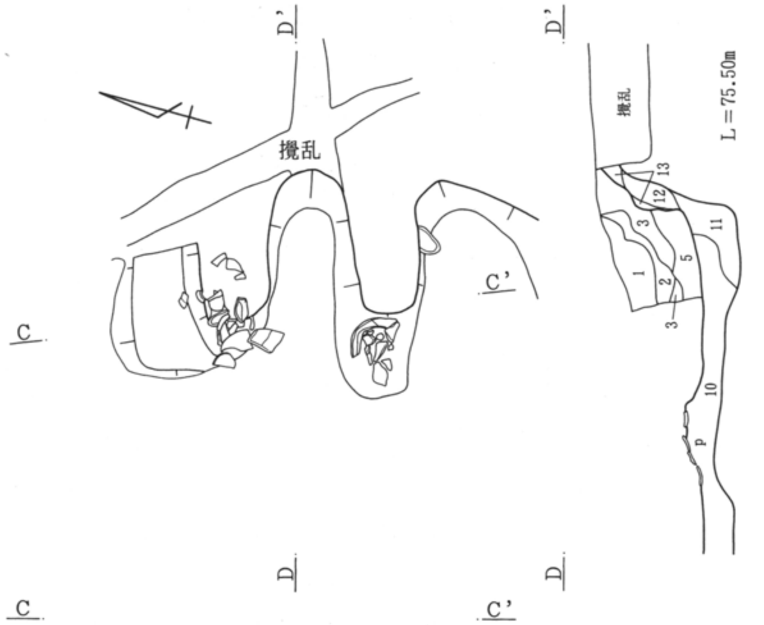
竈　東壁南側に寄って付設されるが、竈周辺はトレンチャーによる攪乱が激しく煙道・竈袖の一部を消失している。煙道先端は僅か残存する竈壁より範囲確認でき、壁外に12cm突出している。現状で焚き口幅28cm、奥行き80cmを測る。竈袖内に土器を倒置し褐色土・粘質土・暗褐色土を互層に被覆させ袖を構築しているが、左袖に使用された粘質土は左に大きく崩れている。

出土遺物　出土遺物は古墳時代の土師器片が主体をなす。竈周辺に土器が集中し、竈右袖脇と焚き口には長胴甕、竈左袖脇に完形の杯を出土している。該期に関わらないが縄文前期諸磯式の土器片、須恵器甕片・羽釜片等が混入品として出土している。本住居の時期は出土遺物より古墳時代６世紀前半と思われる。

掘り方　全体的に一段下がるがほぼ平坦である。

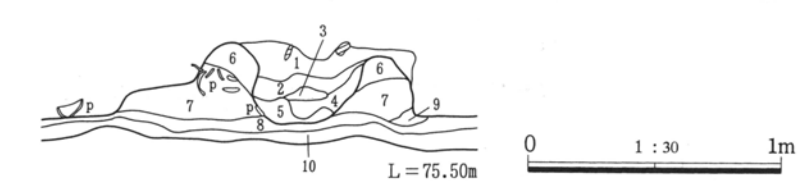


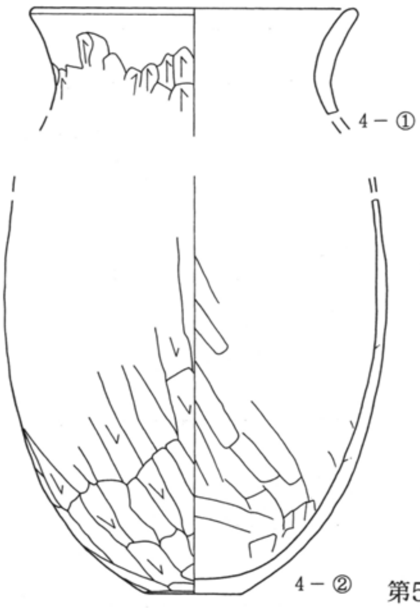
第54図　A区７号住居跡、出土遺物

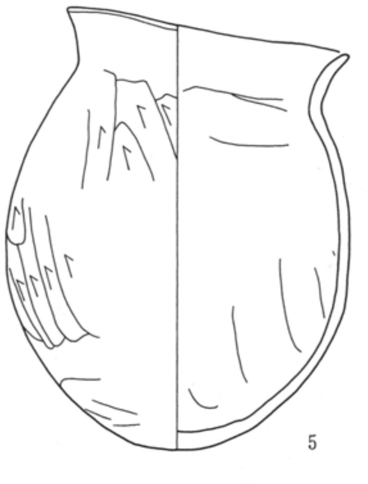


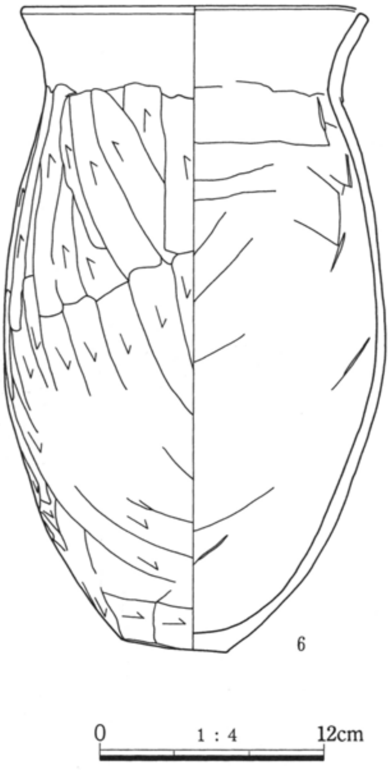
A区7号住居跡竈

1淡黄褐色土	砂質、小礫含む
2褐色土	締まり有り
3明褐色土	粘質、被熱により一部硬化
4淡黄褐色	褐色土混じる
5明褐色土	焼土粒・塊、灰主体
6褐色土	炭化物含む、締まり有り
7明褐色土	粘質、焼土粒多く含む
8黄褐色	黄褐色砂質土塊・黒褐色土塊の混土、非常に堅緻
9褐色土	灰・焼土の混土
10黄褐色	黄褐色砂質土粒・黒褐色土塊の混土、堅緻
11暗褐色土	黄褐色砂質土粒・白色軽石少し含む、焼土粒僅か含む
12褐色土	焼土塊多く含む、黄褐色砂質土多く含む
13赤褐色	焼土主体









第55図　A区7号住居跡竈、出土遺物

A区29号住居跡

位置　850－480～840－480グリッド

規模　長軸5.9m、短軸5.1mを測り、床面積27.2㎡（推定）のやや縦長な長方形を呈するが、重複により住居北側及び西側の一部を消失している。

方位　N－120°－E

重複　北壁は39号住居、南西隅は28号住居と重複し、39号住居・28号住居が新しい。

壁　残存壁高25cm前後と確認面より床面まで比較的深く、壁は垂直に掘り込む。

床面　ほぼ平坦で全体的に締まりは良好、特に竈周辺及び柱穴内側の踏み締まりが強い。明確な貼床は

確認できなかった。

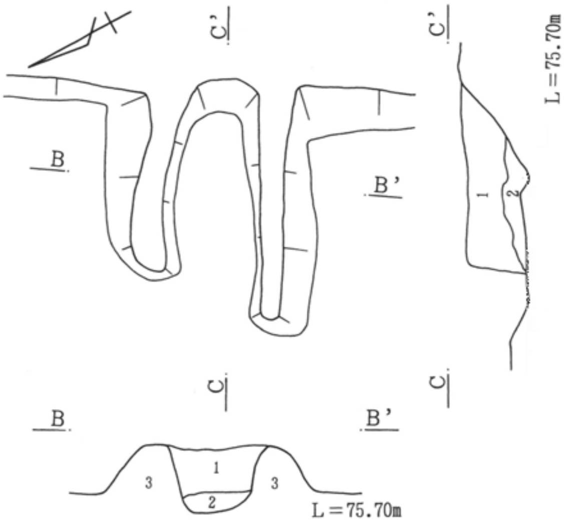
柱穴　なし

貯蔵穴　なし

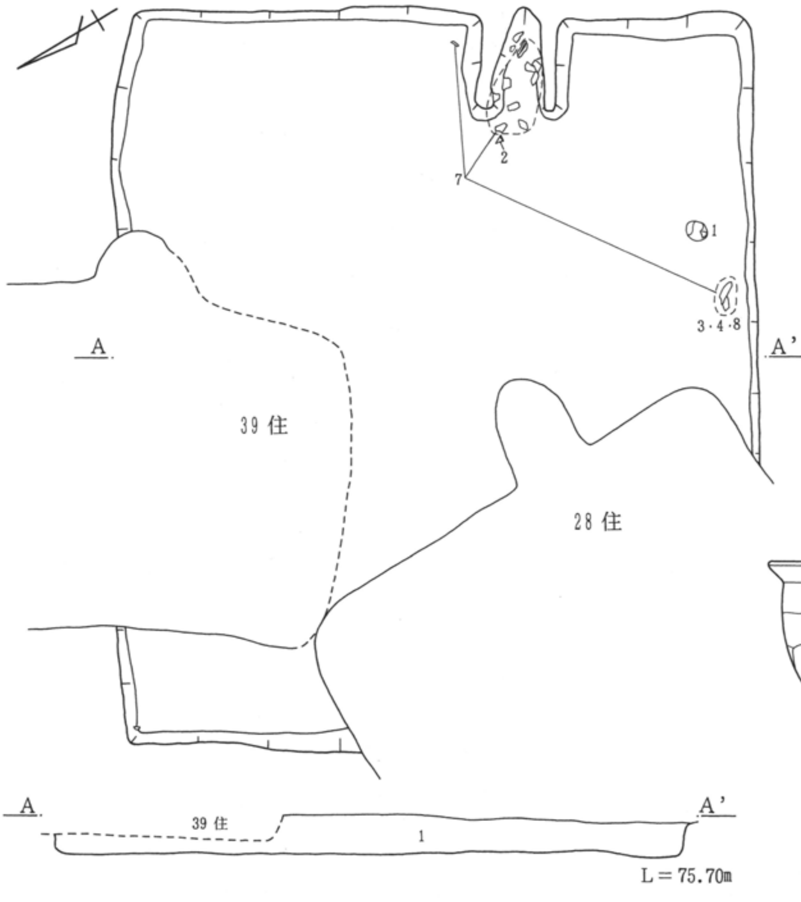
竈　東壁中央やや南寄りに付設され、煙道は壁外に僅か８cm突出し、焚き口幅30cm、奥行き90cm、を測る。竈左袖先端は一部欠損しているが住居内に約76cm、竈右袖も住居内に98cmと長く張り出す。袖構築材として灰白色粘質土が使用されており、煙道側壁には甕片が貼られている。

出土遺物　出土遺物は種類・点数とも多く、床直上や竈内より杯、長胴甕、暗文土器等が出土している。該期に関わらないが石器剥片が混入品として出土している。本住居の時期は出土遺物より古墳時代６世紀前半と思われる。

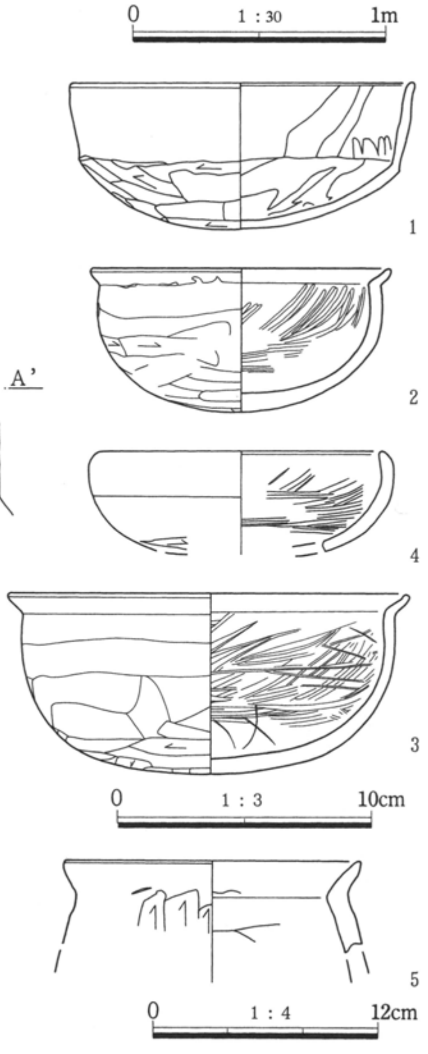
掘り方　竈焚き口付近が一段低く掘り込まれる。



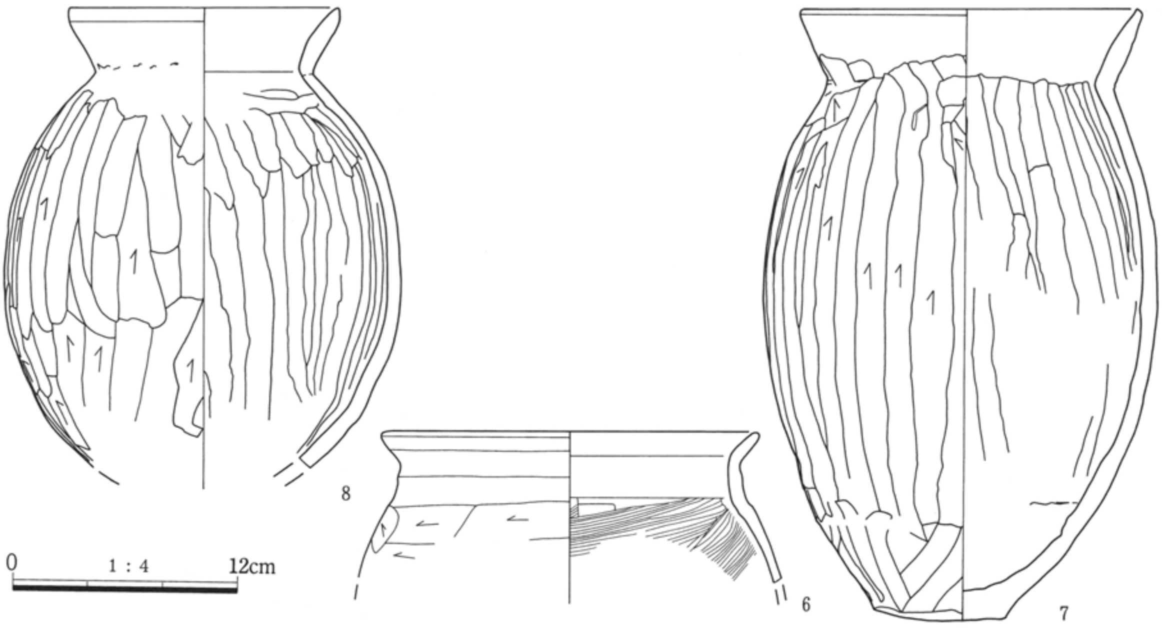
Ａ区29号住居跡竈
１暗黄褐色土　黒色土・黄褐色砂質土の混土、焼土・炭化物少し含む
２暗赤褐色土　焼土塊多く含む
３暗灰色土　粘質土主体、焼土・炭化物少し含む



Ａ区29号住居跡
１褐色土　砂質、黄褐色砂質土塊含む



第56図　Ａ区29号住居跡、竈、出土遺物



第57図　Ａ区29号住居跡出土遺物

Ａ区32号住居跡

位置　860－480～850－470グリッド

規模　長軸6.9m、短軸6.9mを測り、床面積44.3㎡のほぼ正方形を呈する。

方位　Ｎ－20°－Ｅ

重複　南壁が39号住居と重複し、39号住居が新しい。

壁　残存壁高40cm前後と確認面より床面まで深く、壁はほぼ垂直に掘り込む。また、住居覆土は暗褐色土、褐色土等が所謂レンズ状堆積をしており自然埋没状況を呈する。

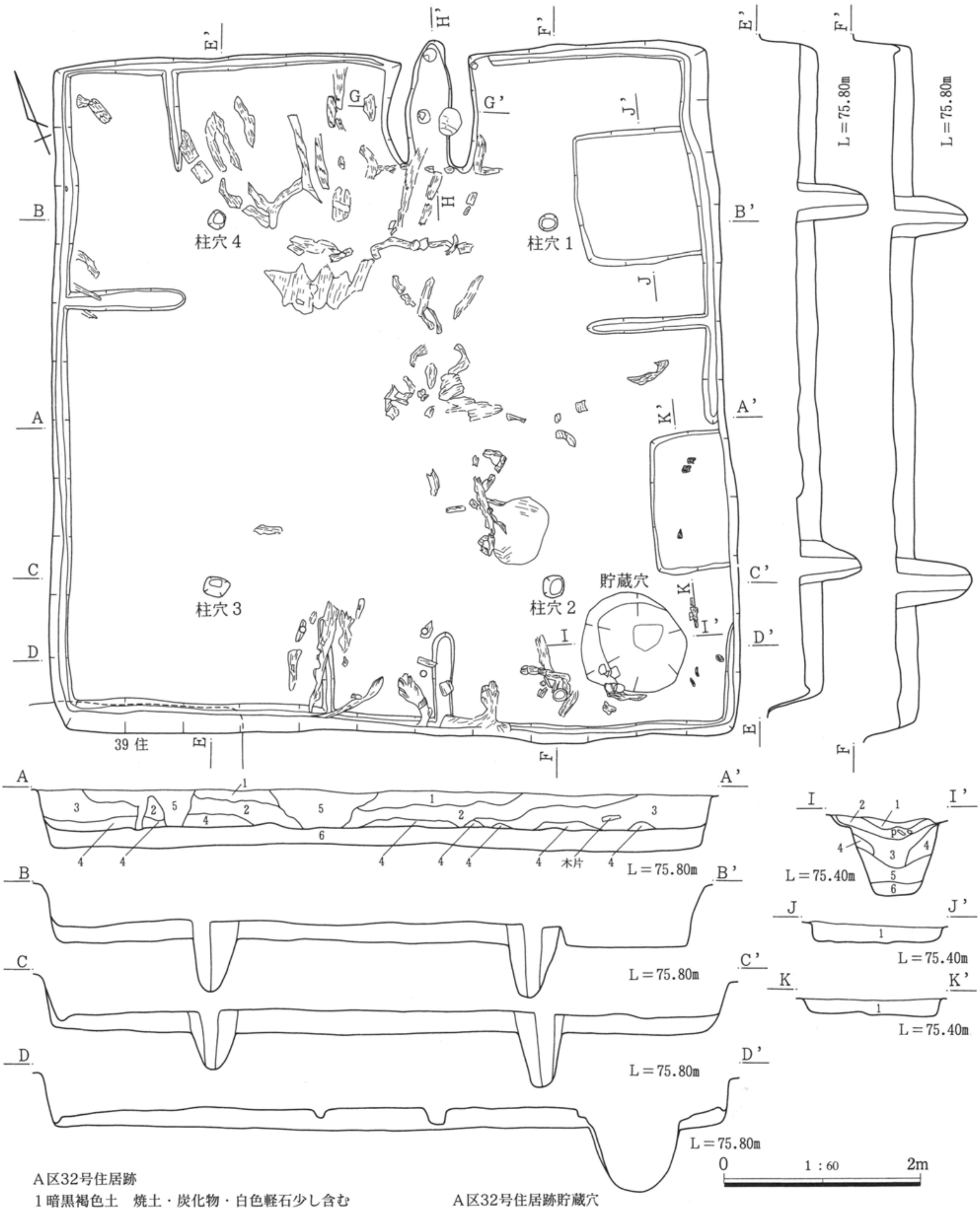
床面　黄褐色砂質土塊を多く含む貼床は厚く踏み締まりは全体的に良好である。床ほぼ全域に炭化物が散在しており焼失家屋であることを窺わせた。竈及び東壁の一部を除く４壁下には幅12cm前後の壁溝と４壁から垂直に住居内側に延びる幅16cm前後の間仕切り溝、東壁際には正方形や長方形を呈し床面より15cm前後下がる平坦な方形区画を検出した。尚、南壁の２本の間仕切り溝際には、炭化した３本の杭状の木材を床に打ち込まれた状態で検出した。

柱穴　住居対角線上に４本検出した。１は柱痕径20cm、深さ72cm、２は柱痕径20cm、深さ76cm、３は柱痕径16cm、深さ64cm、４は柱痕径16cm、深さ72cmを測る。

貯蔵穴　住居南東隅に位置し上幅1.1×1m、深さ80cmを測る。形状はほぼ円形を呈する。

竈　北壁中央やや東寄りに付設され、煙道は壁外に14cm突出し、焚き口幅38cm、奥行き1.38mを測る。焚き口天井及び竈袖上部は消失しているが袖先端は残存しており竈両袖共に住居内側に1.2mと長く張り出す。尚、灰白色粘質土を竈袖構築材として利用している点は検出された他の住居と共通しているが、袖心材として土器等が使用されたかは現状では分からない。また、焚き口より奥60cmの位置には支脚として利用された高坏が倒置した状態で出土している。

出土遺物　出土遺物は完形品を含め種類・点数とも非常に多く、古墳時代の杯、甕、壺、甑、高坏等が主体を成す。接合・復元の結果、実測しうる遺物となった物も多く掲載遺物は56点を数える。ほぼ完形となる須恵器大甕は、破片の大部分が床付近に集中しており住居と同時期の遺物と考えられる。掲載した須恵器大甕の胎土は全て異なり、共に丁寧な調整が施され青海波等の当て具痕は僅かに痕跡が見え



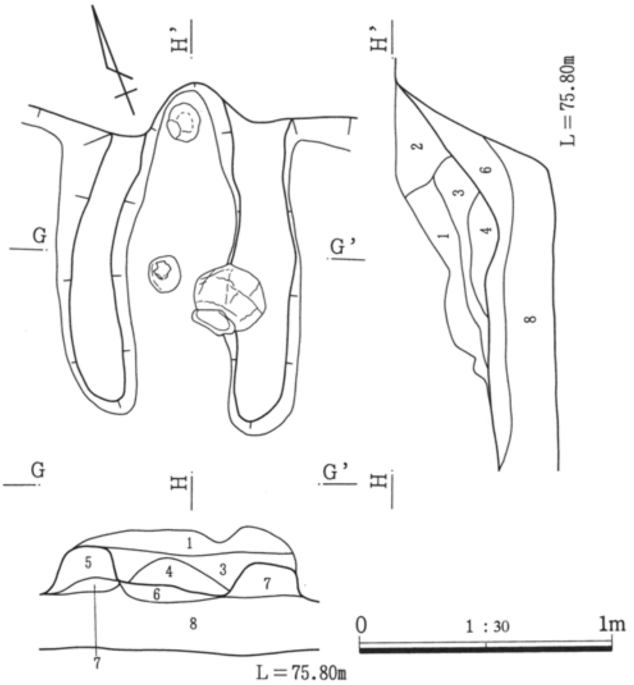
A区32号住居跡
1暗黒褐色土　焼土・炭化物・白色軽石少し含む
2暗黒褐色土　1層に類似、黄褐色砂質土多く含む
3暗赤褐色土　黄褐色砂質土・焼土・炭化物を塊状に含む、白色軽石少し含む
4暗赤褐色土　3層に類似、黄褐色砂質土多く含む
5攪乱
6暗黄褐色土　黄褐色砂質土塊・黒色土塊の混土

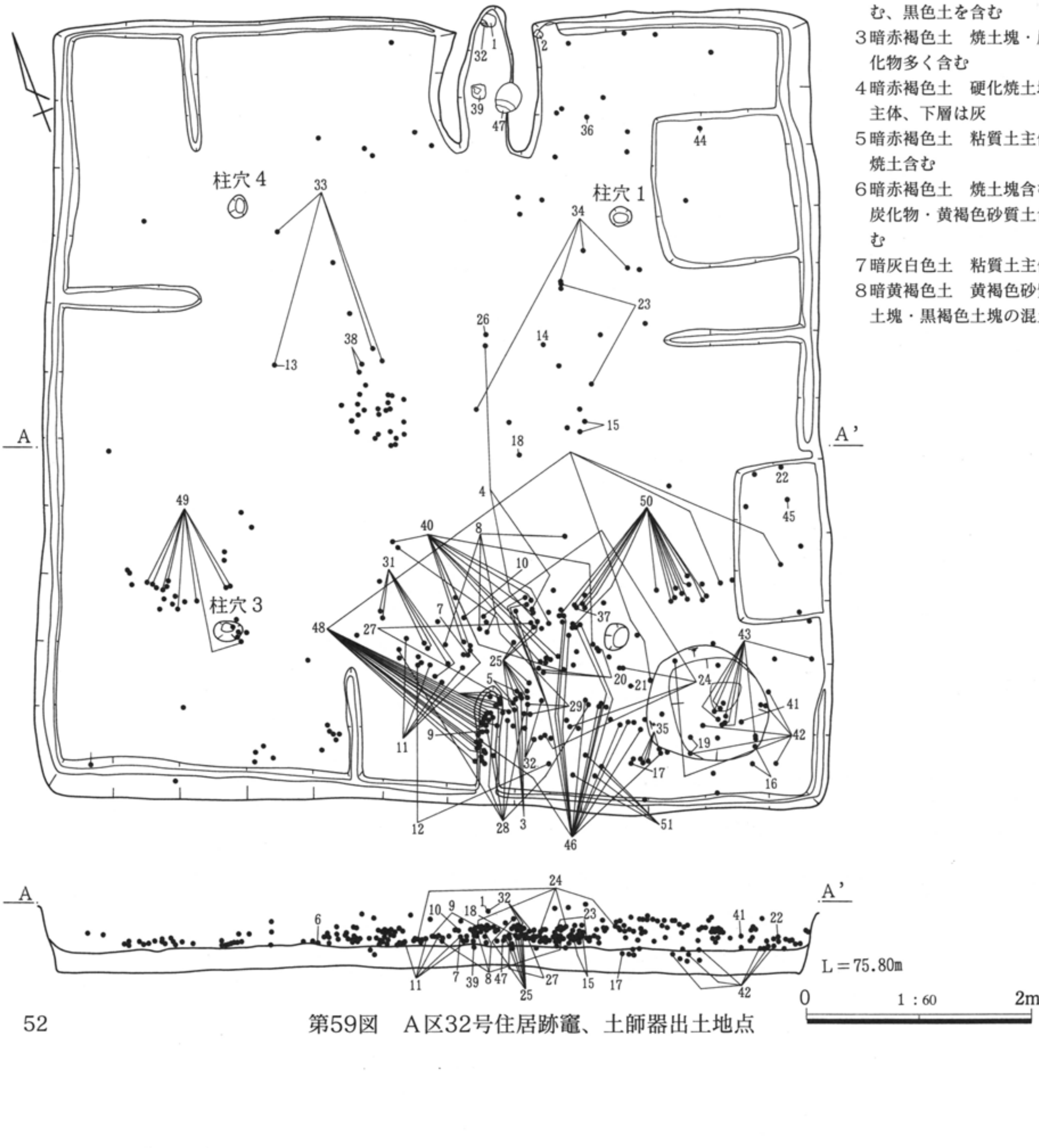
A区32号住居跡貯蔵穴
1暗黄褐色土　焼土・炭化物含む、遺物多量に出土
2暗黒褐色土　焼土・炭化物少し含む、須恵器片出土
3暗黄褐色土　黄褐色砂質土塊含む、炭化物を塊状に少し含む
4暗黄褐色土　3層に類似、黒色土の含有率が高い
5暗黄褐色土　3層に類似、粒子が細かい
6暗黒褐色土　3層に類似、黒色土が多く炭化物が少ない

第58図　A区32号住居跡

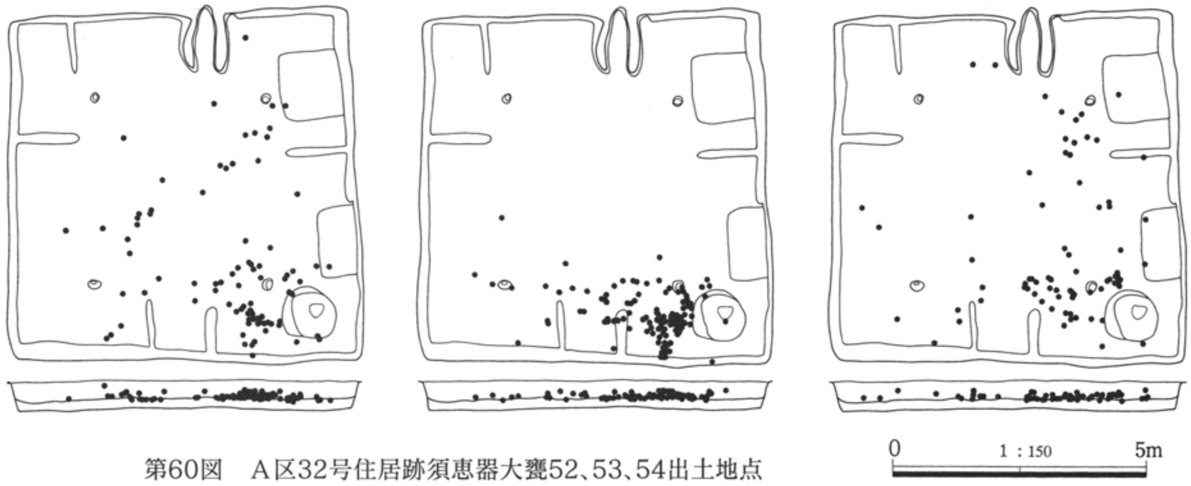
るだけであった。土師器片は貯蔵穴周辺の床上から覆土第２層・３層かけて集中する傾向を呈し、復元の結果、完形・ほぼ完形となった土器は多い。壁際に土器が集中する状況から、壁際に棚などの施設があり転落、散在したとも考えられる。土器以外では35号住居出土品と類似する滑石製石製模造品と砥石が出土している。該期に関わらない遺物として石器剥片、縄文土早期土器片、弥生中期後半土器片が混入品として出土している。本住居の時期は出土遺物から判断して６世紀前半と思われる。

掘り方　全体的に一段下がるがほぼ平坦である。

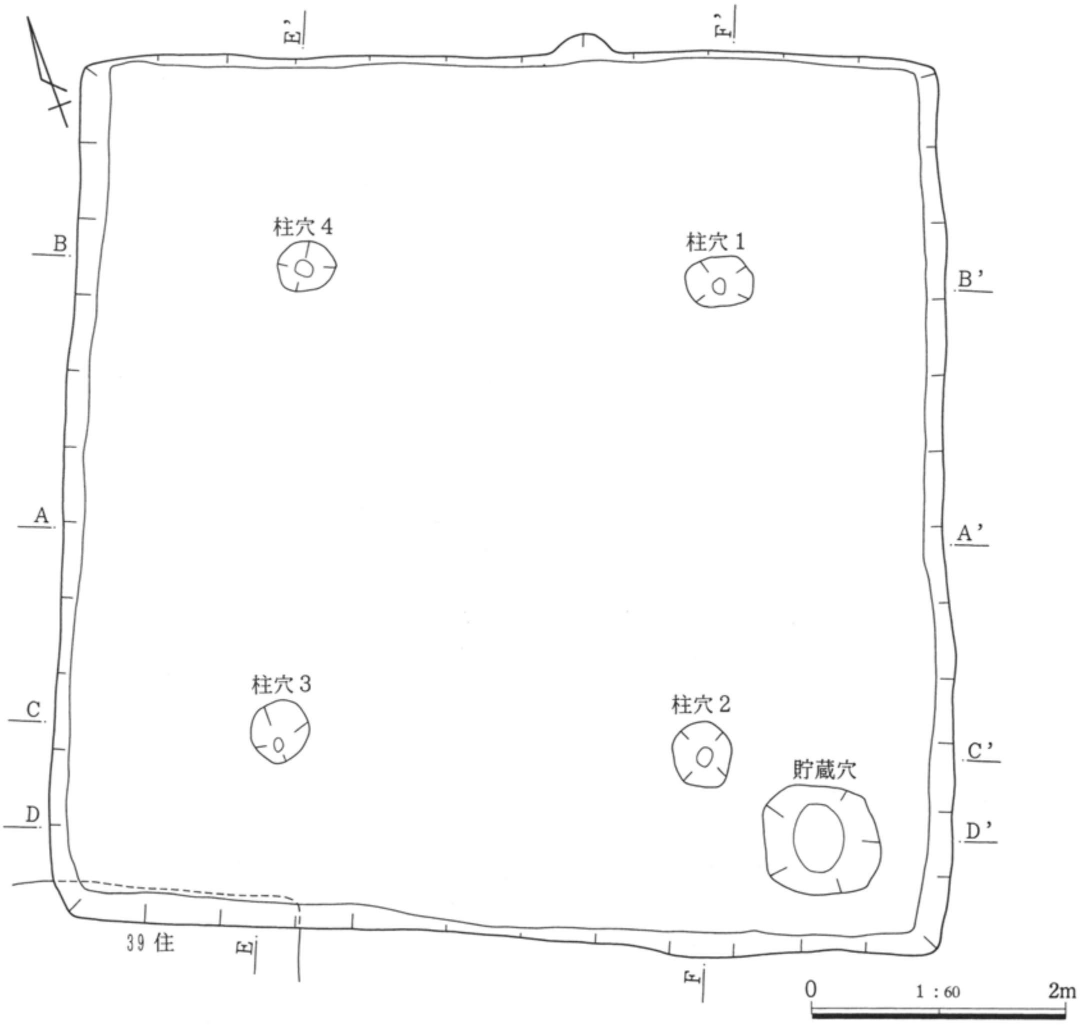


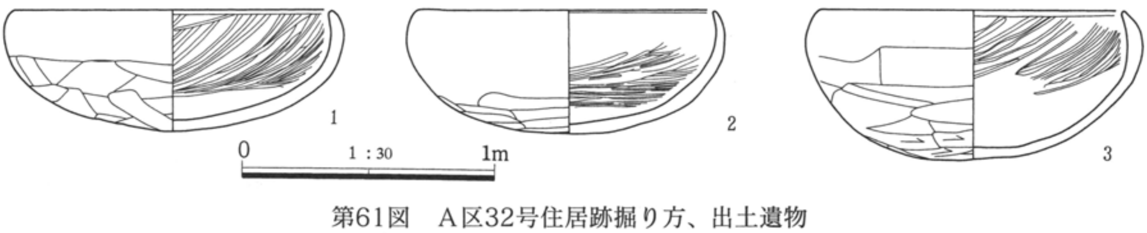


第59図　A区32号住居跡竈、土師器出土地点

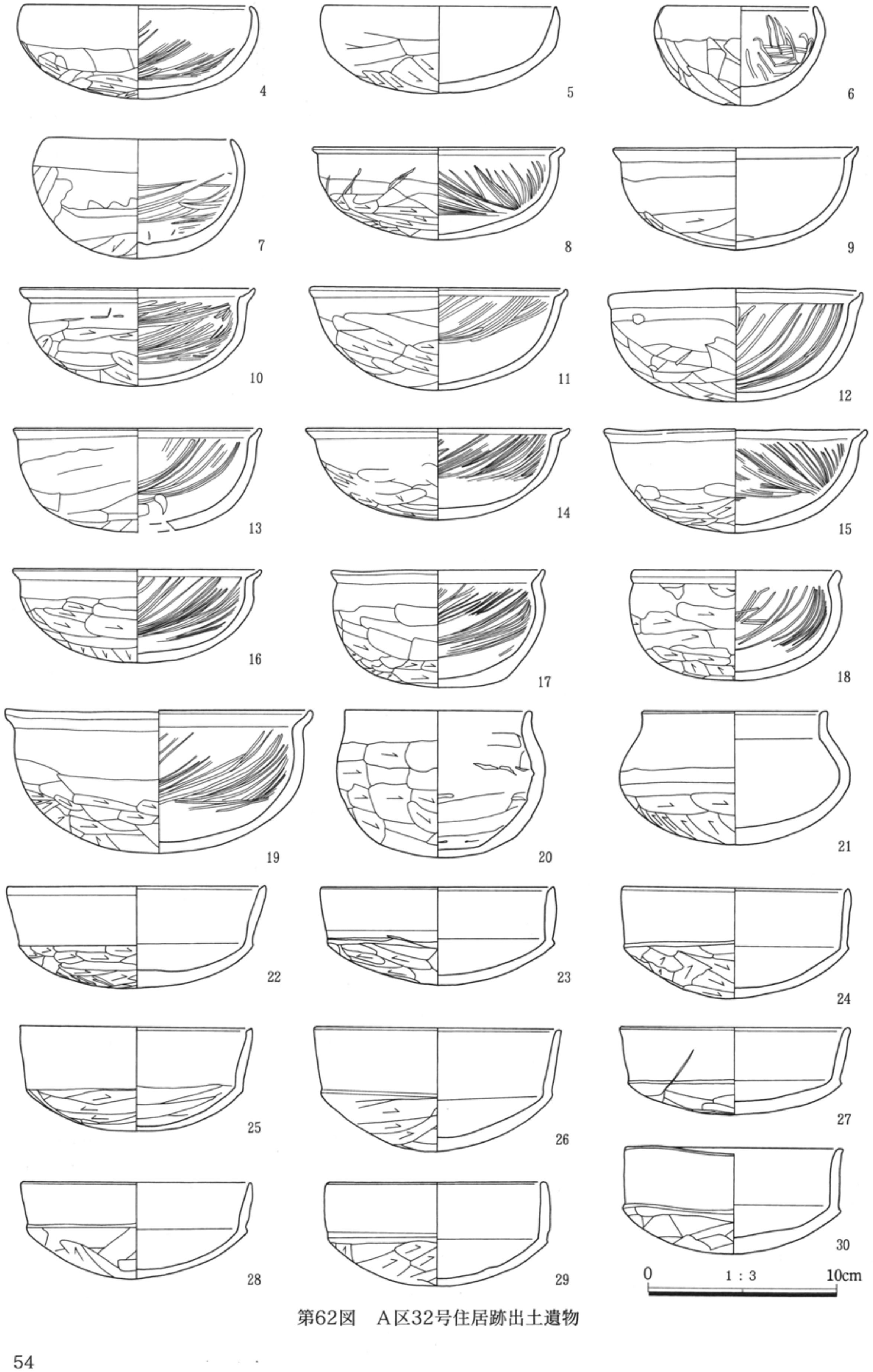


第60図　Ａ区32号住居跡須恵器大甕52、53、54出土地点

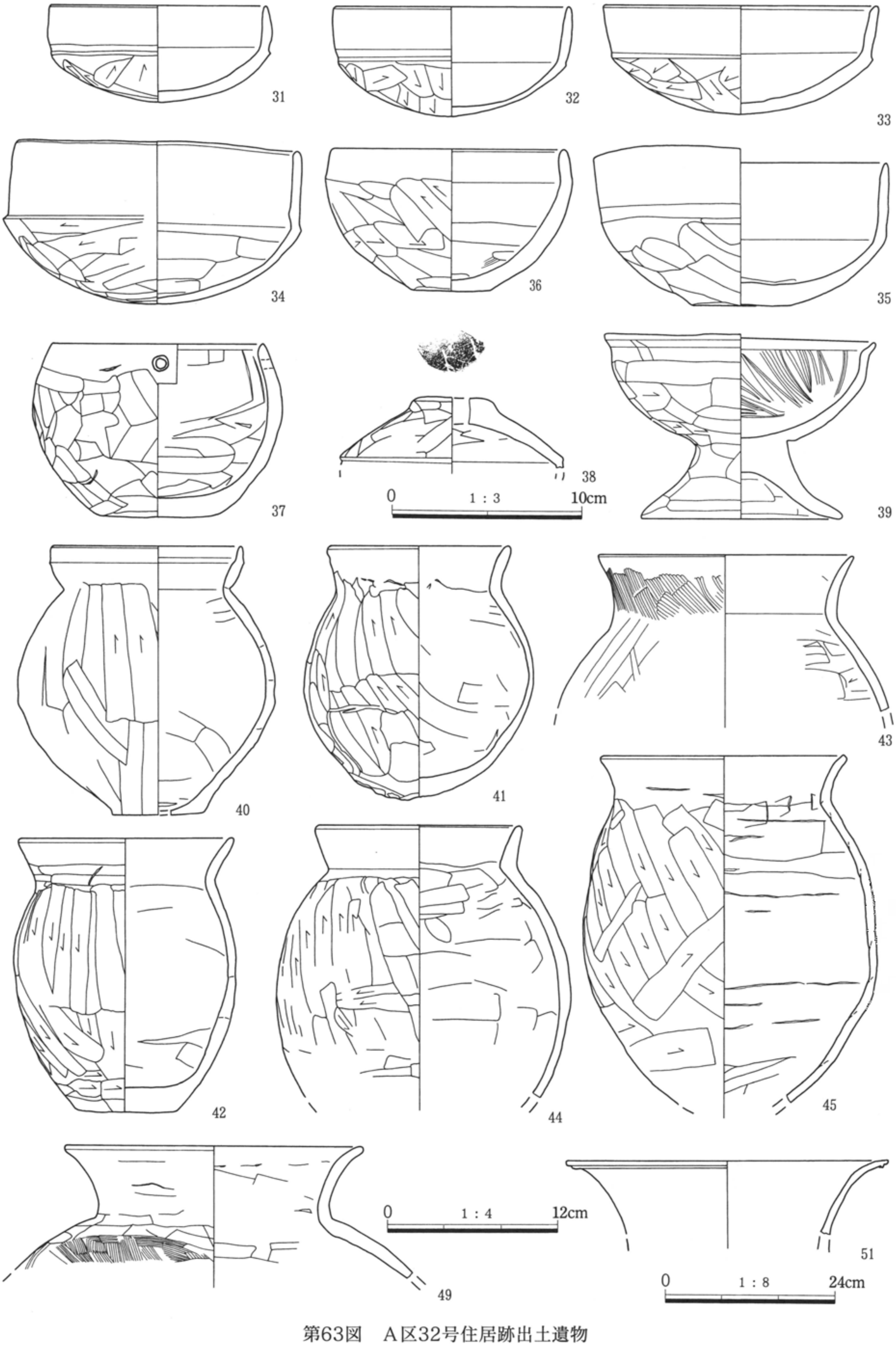




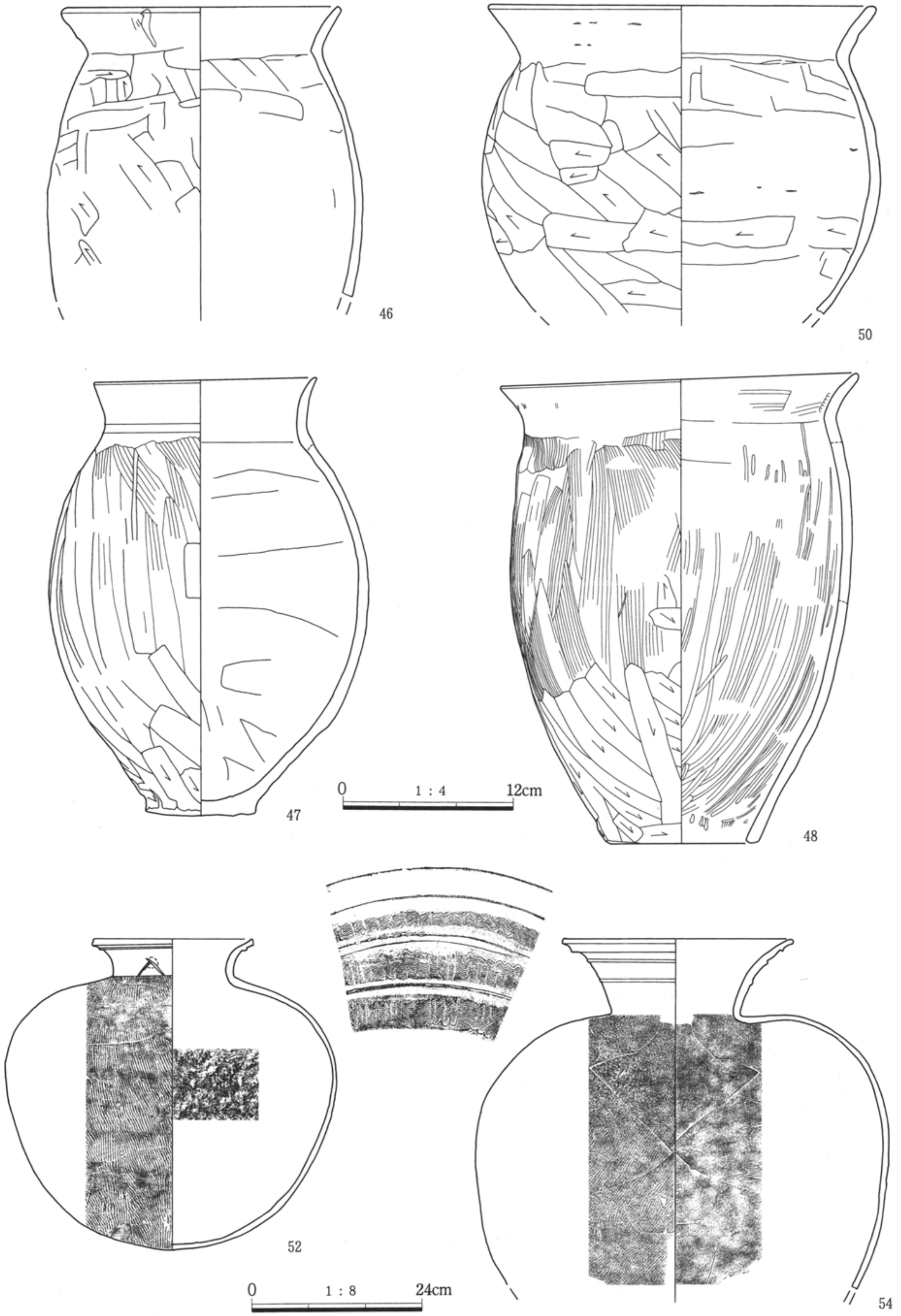
第61図　Ａ区32号住居跡掘り方、出土遺物



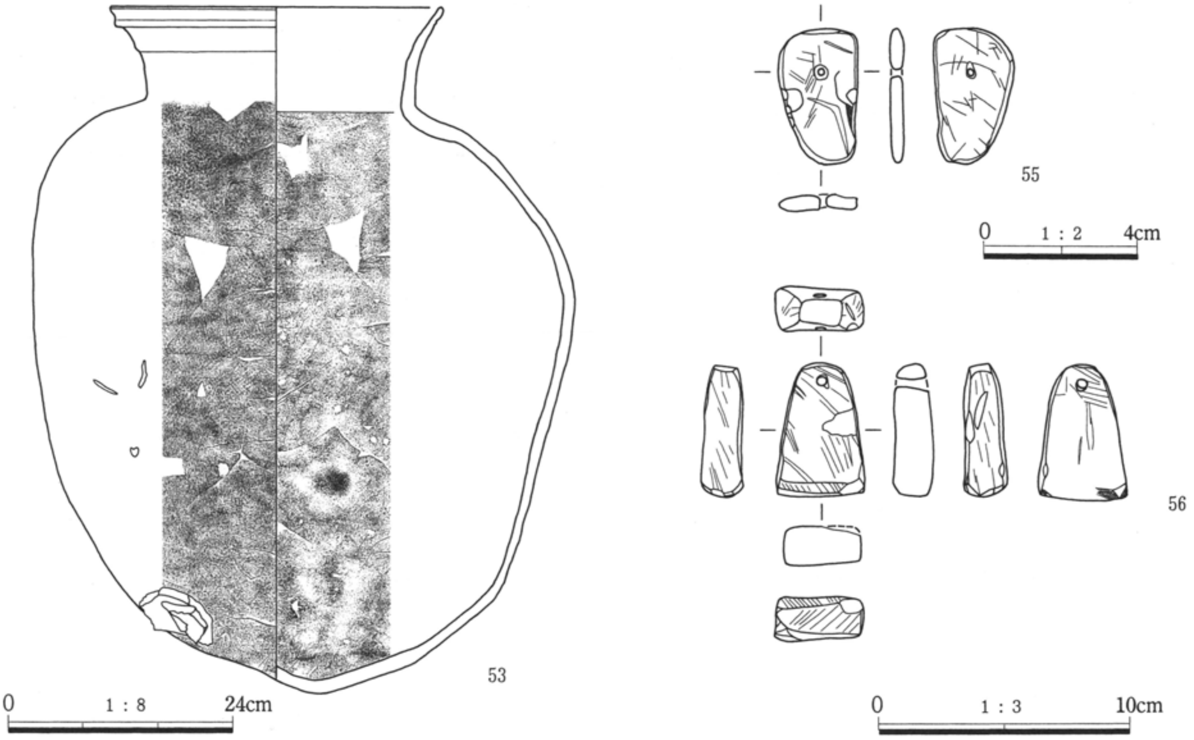
第62図　A区32号住居跡出土遺物



第63図　A区32号住居跡出土遺物



第64図　A区32号住居跡出土遺物



第65図　Ａ区32号住居跡出土遺物

Ａ区34号住居跡

位置　850－470～850－460グリッド

規模　長軸3.1m、短軸2.6mを測り、床面積7.2㎡（推定）の縦長長方形を呈する。

方位　Ｎ－48°－Ｅ

重複　なし

壁　残存壁高５cm前後と確認面より床面まで浅く殆ど削平されている。壁は垂直に掘り込む。

床面　黄褐色砂質土を塊状に含む土を貼床とし、ほぼ平坦で全体的に締まりは良好である。

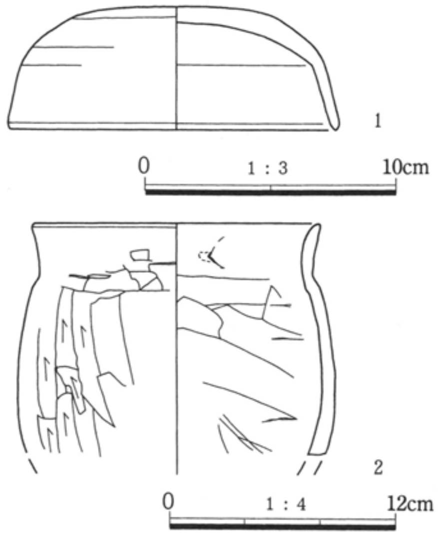
柱穴　なし

貯蔵穴　使用面では確認できなかったが、掘り方で検出する。竈右側、住居南東隅に位置し上幅50×50cm、深さ44cmを測る。形状はほぼ円形を呈する。

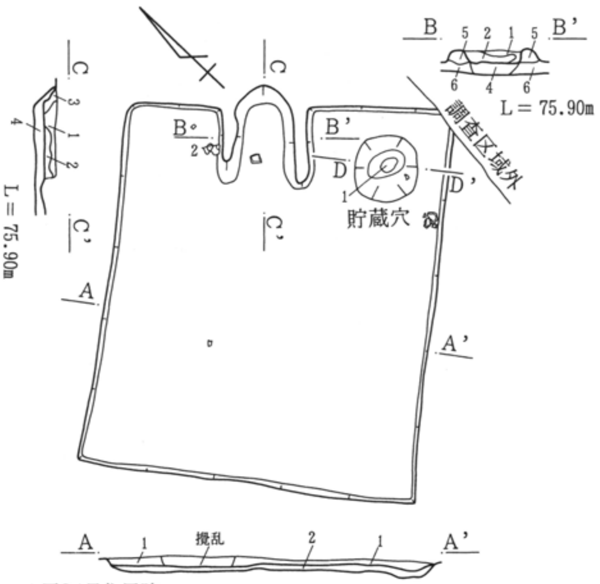
竈　東壁中央やや北寄りに付設され、煙道は壁外に16cm突出する。竈付近の削平も深いが灰白色粘質土を竈構築材として利用する竈袖はの残存状態は比較的良く、左袖は60cm、右袖は62cm住居内側に張り出す。

出土遺物　出土遺物は少ないが、竈内より土師器長胴甕胴部片、左袖際に土師器長胴甕口縁部片、床直上より土師器杯底部片、貯蔵穴より須恵器蓋等が出土している。本住居の時期は出土遺物より古墳時代６世紀後半と思われる。

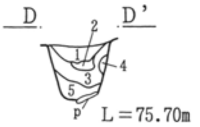
掘り方　ほぼ平坦で煙道部分が一段下がる掘り方を呈する。



第66図　Ａ区34号住居跡出土遺物



A区34号住居跡
1暗黒褐色土　焼土・炭化物を塊状に含む、黄褐色砂質土含む
2撹乱
A区34号住居跡貯蔵穴
1暗灰色土　灰・焼土・炭化物含む
2暗赤褐色土　焼土多く含む、炭化物含む
3暗黒褐色土　焼土・炭化物少し含む
4暗黒褐色土　3層に類似、黄褐色砂質土含む
5黄褐色土　黄褐色砂質土主体
A区34号住居跡竈
1暗褐色土　焼土・炭化物含む
2暗赤褐色土　焼土・炭化物を塊状に含む
3暗赤褐色土　2層に類似、黒色土が多い
4暗黄褐色土　黄褐色砂質土多く含む、焼土・炭化物を塊状に含む
5灰白色土　粘質土主体、焼土塊・黄褐色砂質土塊含む
6暗褐色土　黄褐色砂質土塊・黒褐色土塊の混土（住居跡床）



0　1：60　2m

第67図　A区34号住居跡

A区35号住居跡

本住居には36号住居以外に10世紀頃と思われる住居が重複していたようである。しかし、全域にトレンチャーによる撹乱が激しく明確な住居プランを把握できず平面調査は行えていない。35号住居覆土断面には未調査の住居床・壁・掘り方等のラインは確認できている。尚、この10世紀頃と推定される住居の掘り方は35号住居床面までは達しておらず35号住居床面は残存していた。

位置　860－470～860－460グリッド

規模　長軸4.9m、短軸4.8mを測り、床面積20.7㎡のほぼ正方形を呈する。

方位　N－12°－E

重複　西壁が36号住居と重複し、36号住居が古い。

壁　残存壁高30cm前後と確認面より床面まで深く、壁は垂直に掘り込む。

床面　ほぼ平坦、黄褐色砂質土を塊状に含む土を貼床とし、全体的に締まりは良好、特に竈周辺及び柱穴内側の踏み締まりは堅緻である。

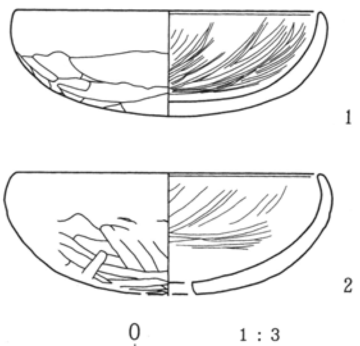
柱穴　なし

貯蔵穴　使用面では確認できず、掘り方で住居南東隅に検出する。不整円形を呈し上幅84×70cm、深さ65cmを測る。

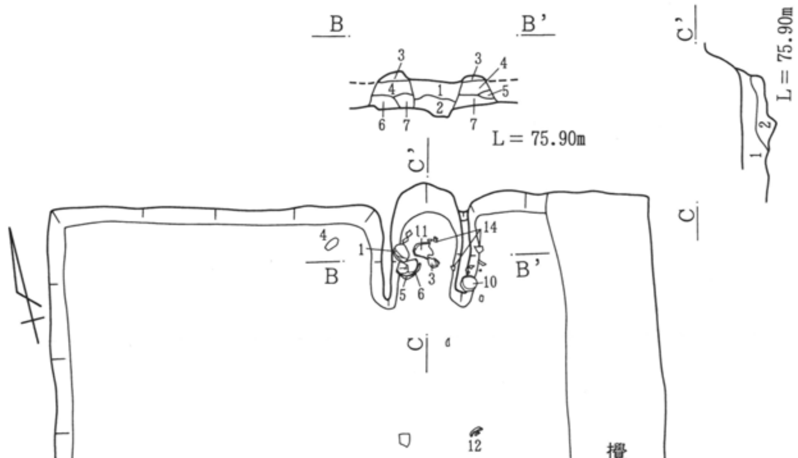
竈　北壁中央やや東寄りに付設され、煙道は壁外に14cm突出する。竈付近は激しく撹乱を受けているが、現状で焚き口幅44cm、奥行き80cmを測る。竈左袖上部は一部消失するが住居内側に約78cm張り出す。竈右袖は殆ど消失しており、袖構築材として利用されたと思われる杯が出土している。竈付近にはトレンチャーによる撹乱が激しく竈断面の実測は行っていない。

出土遺物　出土遺物は多く、竈周辺からは完形品も含め数種類の杯が出土している。特殊な遺物として滑石製石製模造品も1点出土している。また、該期に関わらないが羽釜、長胴甕等10世紀頃の遺物も多く出土しており、重複する遺構に関わるものと思われる。本住居の時期は出土遺物より古墳時代6世紀前半と思われる。

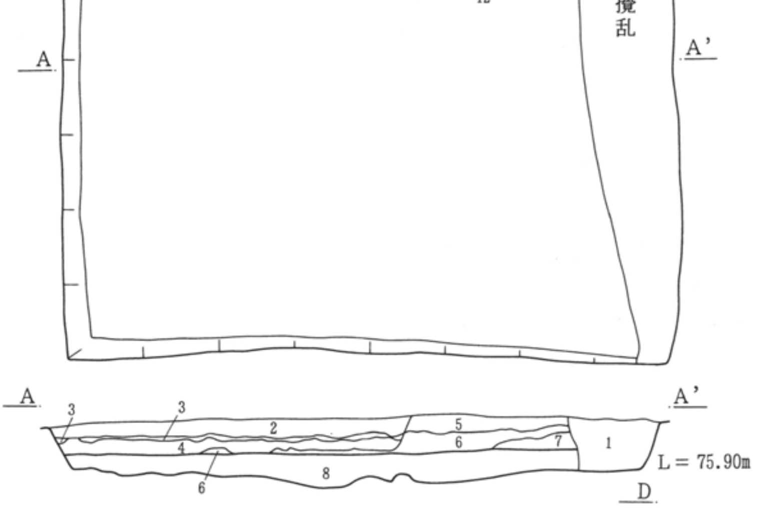
掘り方　全体的に一段下がるがほぼ平坦である。



第68図　A区35号住居跡出土遺物

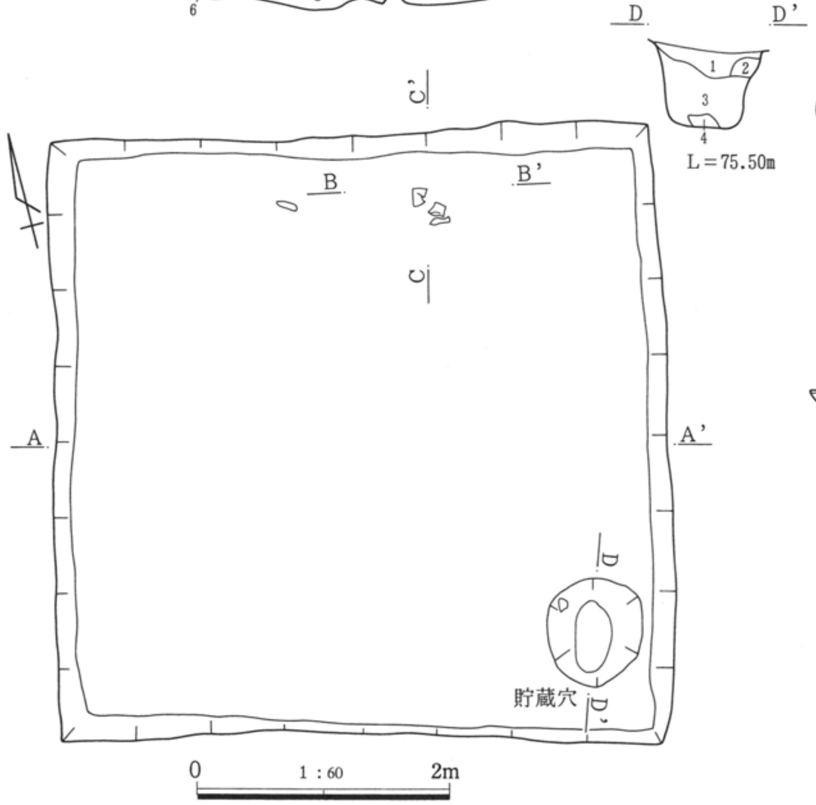


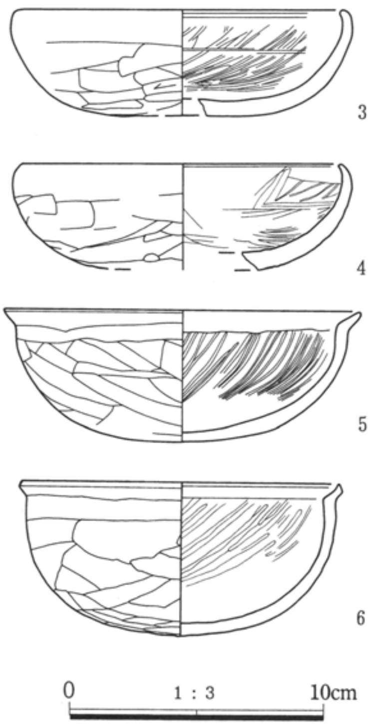
Ａ区35号住居跡
1撹乱
2暗黒褐色土　焼土粒・炭化物塊・黄褐色砂質土塊含む
3暗黄褐色土　焼土・炭化物含む
4明黄色土　黄褐色砂質土主体、焼土炭化物少し含む
5暗黒褐色土　焼土・炭化物少し含む
6暗黒褐色土　5層に類似、焼土・炭化物やや多い
7暗黄褐色土　5層に類似、黄褐色砂質土多い
8暗黄褐色土　黄褐色砂質土塊・黒褐色土塊の混土



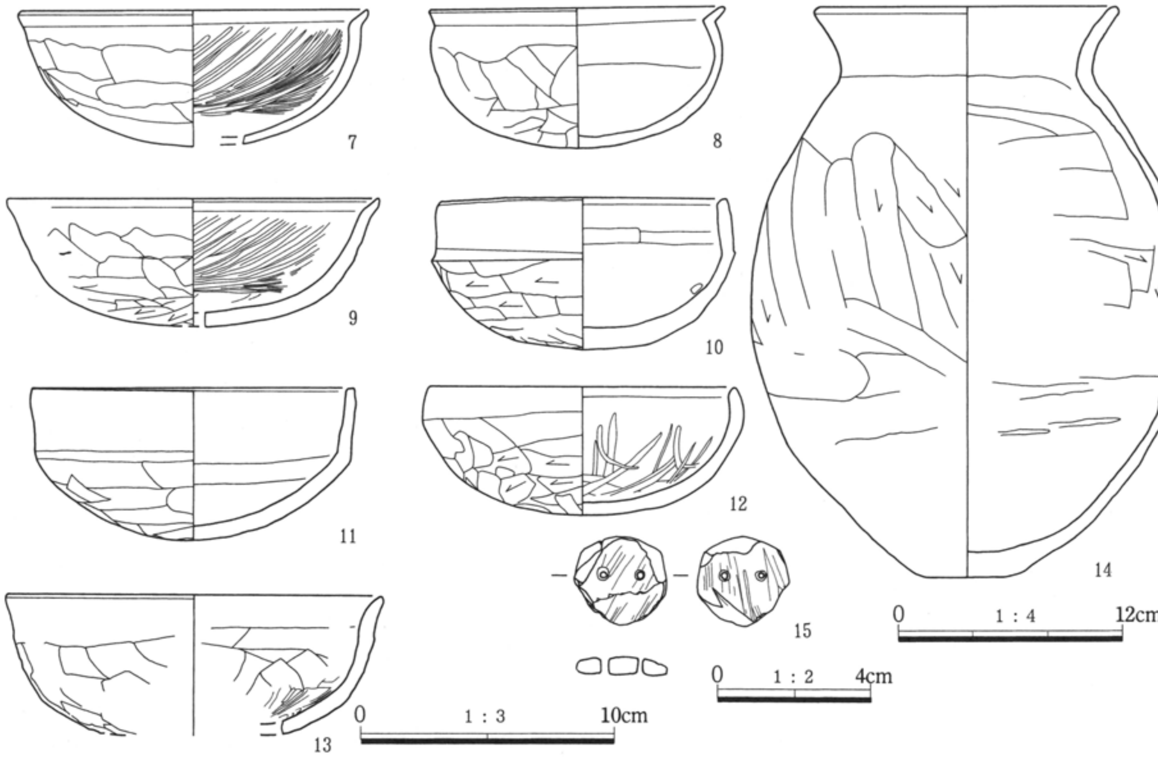
Ａ区35号住居跡竈
1暗黄褐色土　灰・焼土・炭化物含む、黄褐色砂質土塊含む
2暗赤褐色土　1層に類似、焼土・炭化物が多く塊状に含む
3赤褐色土　粘質土主体
4暗褐色土　黒色土塊・黄褐色砂質土塊の混土
5黒色土　黒色土主体
6黄褐色土　黄褐色砂質土主体、黒色土含む
7暗赤褐色土　焼土粒含む、黄褐色砂質土含む

Ａ区35号住居跡跡貯蔵穴
1暗黄褐色土　黒色土・黄褐色砂質土の混土
2明黄褐色土　1層に類似、黄褐色砂質土塊含む
3暗黄褐色土　1層に類似、黒色土少ない
4暗黄褐色土　3層に類似、粒子細かい





第69図　Ａ区35号住居跡、掘り方、出土遺物



第70図　A区35号住居跡出土遺物

A区36号住居跡

位置　860－470グリッド

規模　長軸3.5m、短軸3.4mを測り、床面積11.4㎡（推定）のほぼ正方形を呈する。

方位　N－15°－E

重複　東壁が35号住居と重複し、35号住居が新しい。

壁　残存壁高20cm前後と確認面より床面まで比較的深く、壁は垂直に掘り込む。

床面　ほぼ平坦,明瞭な貼床は確認できなかったが、全体的に締まりは良好であった。

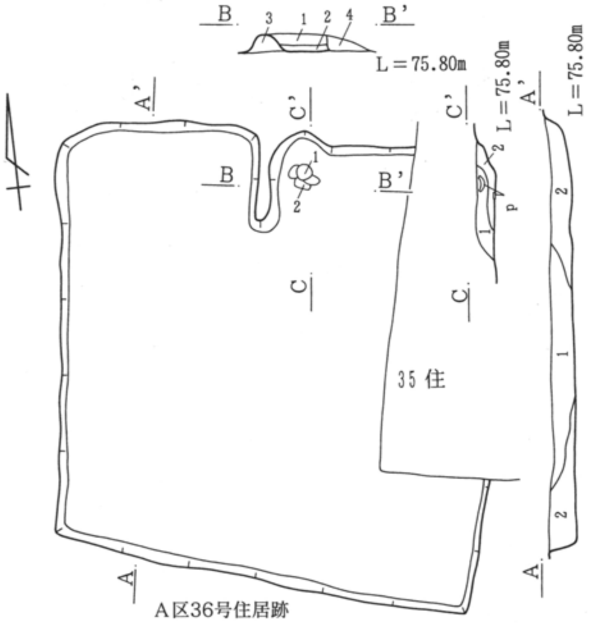
柱穴　なし

貯蔵穴　なし

竈　北壁ほぼ中央に付設され、煙道は壁外に９cm突出する。残存する竈左袖は住居内側に76cmと長く張り出すが、竈右袖は攪乱により殆ど消失している。竈構築材として灰色粘質土が利用されている。

出土遺物　出土遺物は少ないが竈内より長胴甕口縁部片・丸底甕片等を出土している。本住居の時期は出土遺物より古墳時代６世紀前半と思われる。

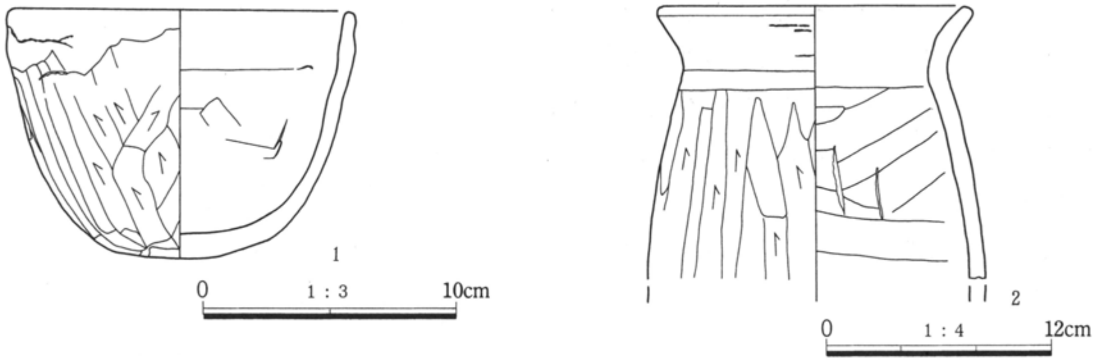
掘り方　ほぼ平坦な掘り方を呈する



A区36号住居跡
１暗黄褐色土　焼土・炭化物少し含む、黄褐色砂質土・黒色土含む
２暗黄褐色土　１層に類似、黄褐色砂質土塊含む
A区36号住居跡竈
１暗黄褐色土　黄褐色砂質土・黒色土の混土、焼土・炭化物少し含む
２暗赤褐色土　炭化物少し含む、焼土多く含む
３褐灰色土　粘質土主体、焼土粒含む
４褐色土　攪乱（現代の耕作土）

0　1：60　2m

第71図　A区36号住居跡



第72図　Ａ区36号住居跡出土遺物

Ａ区10号住居跡

位置　820－500グリッド

規模　東西4.0m、南北4.88mを計り、床面積16.3㎡の長方形を呈する。住居南東隅は調査区外となり未調査。

方位　N－104°－E

重複　なし

壁　残存壁高28cmと確認面より床面まで深く、壁は垂直に掘り込む。また住居覆土は、暗褐色土・黒褐色土等が円弧状、所謂レンズ状堆積をしており自然埋没状況を呈する。

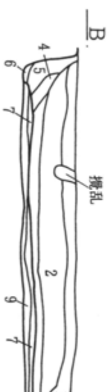
床面　黄褐色砂質土塊を含む土を貼床とし、全体的に締まりは良好、特に竈周辺及び柱穴内側の踏み締まりが強い。竈左壁際の一部と住居北東隅が一段高くなる。幅12cm前後の壁溝が竈以外の４壁下に巡る。

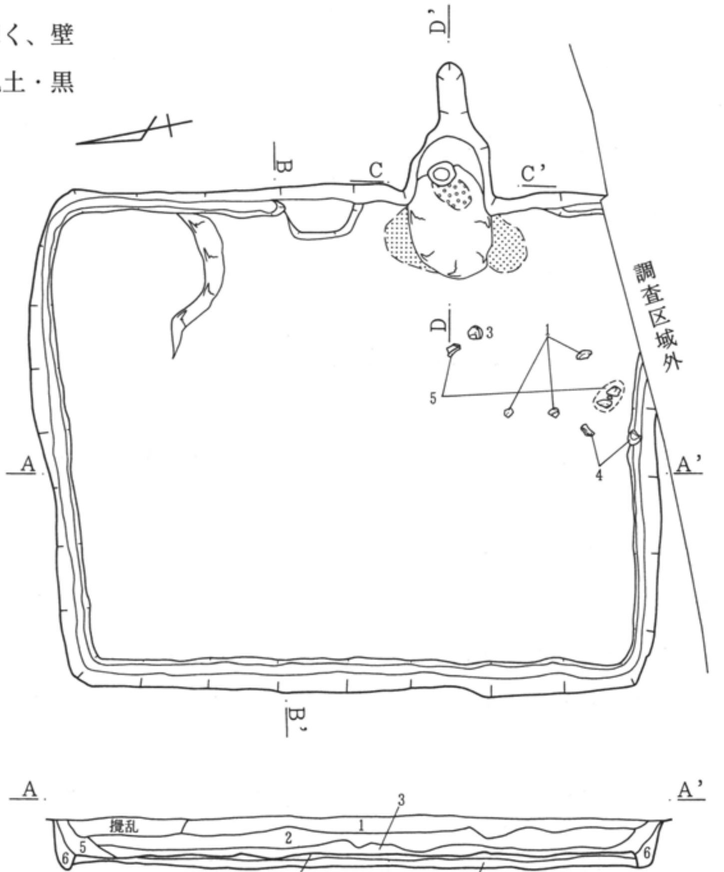
柱穴　なし

貯蔵穴　なし

竈　東壁中央やや南寄りに付設され、煙道は壁外に1.2m突出する。竈覆土に粘性のある黒褐色土層が確認でき竈構築材として粘質土が利用されたことが窺える。

出土遺物　出土遺物は比較的多く、長胴甕口縁部片





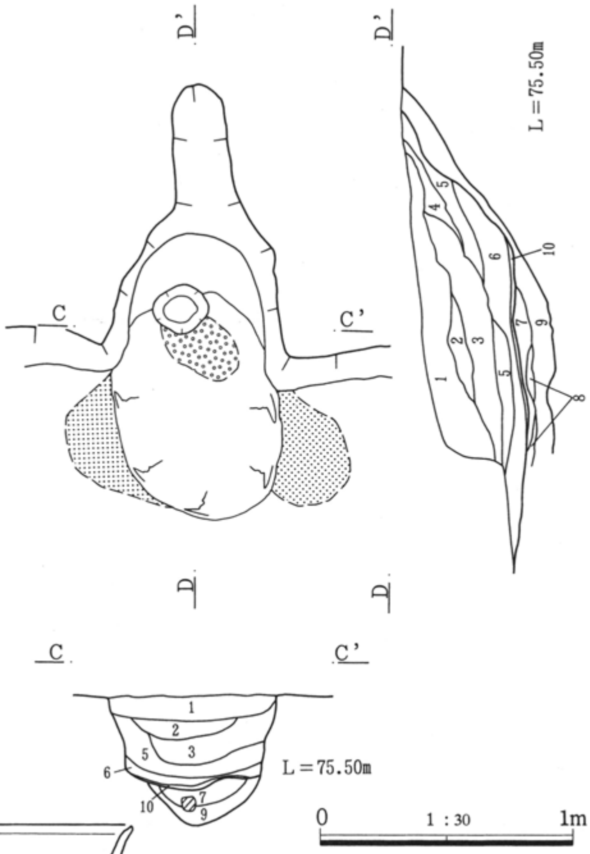
Ａ区10号住居跡
１暗褐色土　砂質・白色軽石多く含む
２暗褐色土　黄褐色砂質土塊・白色軽石含む
３黒褐色土　黄褐色砂質土塊含む
４黒褐色土　黄褐色砂質土塊多く含む
５暗褐色土　黄褐色砂質土粒多く含む
６暗褐色土　暗褐色土塊主体
７黄褐色　　黄褐色砂質土主体
８褐色土　　褐色砂質土塊・黒褐色土塊の混土、非常に堅緻
９黄褐色土　黄褐色砂質土粒・黒褐色土の混土、堅緻

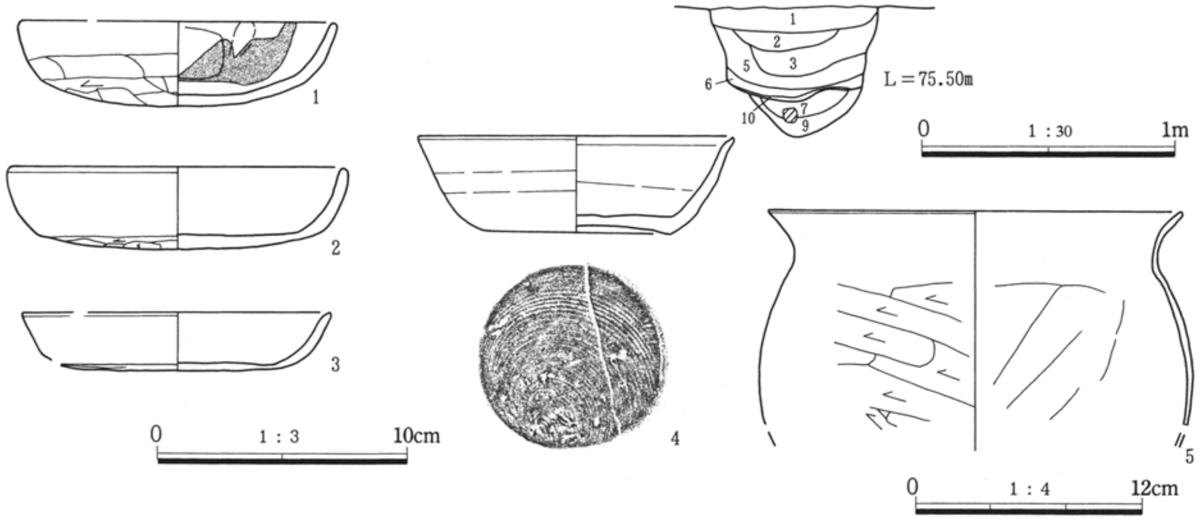
第73図　Ａ区10号住居跡

壺・杯等平安時代の土器が主体をなし、完形品は焚き口・南壁周辺に出土している。該期に関わらないが石器剥片・縄文前期諸磯式土器片等が混入品として出土している。本住居の時期は出土遺物より平安時代９世紀頃と思われる。

掘り方　竈煙道部は一段深く、全体的に平坦に下がる掘り方を呈する。

Ａ区10号住居跡竈
１褐灰色土　粘質土主体、締まり有り
２褐灰色土　粘質、締まり有り
３暗褐色土　焼土粒少し含む
４暗褐色土　焼土粒多く含む
５暗褐色土　焼土粒・灰の混土
６暗褐色土　焼土粒・灰の混土、５層に比べ灰が多い
７赤褐色土　焼土主体
８暗褐色土　黄褐色砂質土塊含む、暗褐色土塊含む（張床）
９暗褐色土　締まりに欠ける、黄褐色砂質土塊含む
10黒灰　　　灰主体





第74図　Ａ区10号住居跡竈、出土遺物

Ａ区12号住居跡

位置　850－480グリッド

規模　長軸4.5m、短軸3.3mを測り、床面積13.1㎡（推定）の縦長長方形を呈する。北壁東側は攪乱により消失している。

方位　Ｎ－86°－Ｅ

重複　北西隅が13号住居と重複し、13号住居が古い。

壁　残存壁高30cm前後と確認面より床面まで深く、壁は垂直に掘り込む。また、住居覆土は暗褐色土等が所謂レンズ状堆積をしており自然埋没状況を呈する。

床面　黄褐色砂質土・焼土・炭化物を塊状に含む土を貼床とし、全体的に締まりは良好、特に竈周辺の踏み締まりが強い。竈右、住居南東隅に不整円形の貯蔵穴と中央西壁際にほぼ円形の床下土坑を検出する。

柱穴　なし

貯蔵穴　貯蔵穴は、竈右側・住居南東隅に位置し上幅88×72cm、深さ44cmを測り、不整円形を呈す

る。床下土坑は、中央西壁際に位置し、径1.2m、深さ26cm、ほぼ円形を呈する。

竈　東壁中央やや南寄りに付設され、煙道は壁外に１m突出する。

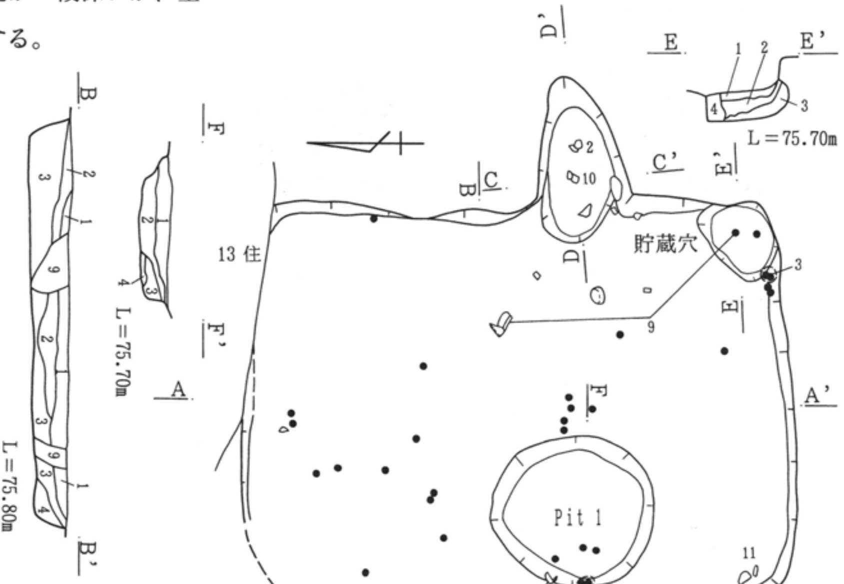
出土遺物　出土遺物は多く平安時代杯・長胴甕を主体とする。本住居に付属する床下土坑からは紡錘車・墨書土器を出土する。該期に関わらないが石器・石器剥片が混入品として出土している。本住居の時期は出土遺物より平安時代９世紀頃と思われる。

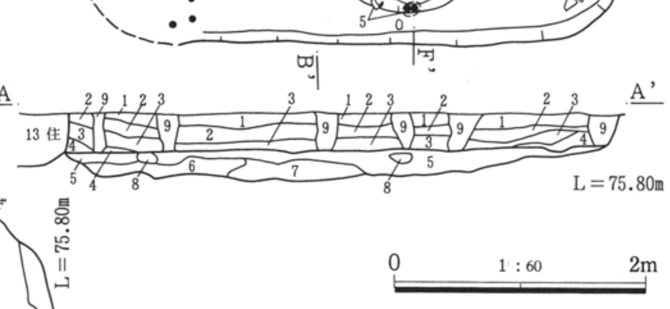
掘り方　竈煙道部と住居南壁付近が一段深いが、全体的にはほぼ平坦な掘り方を呈する。

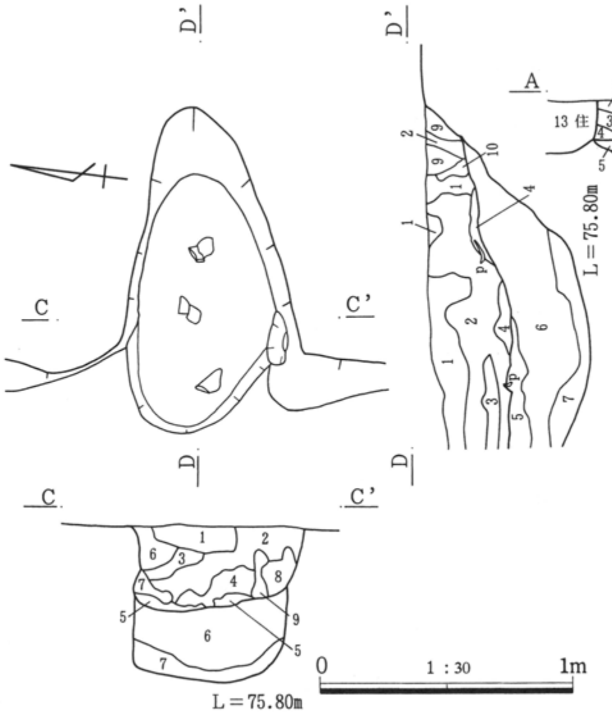
Ａ区12号住居跡
１暗褐色土　　黄褐色砂質土塊・焼土粒・炭化物・白色軽石含む
２暗褐色土　　１層に類似、黄褐色砂質土塊の径が大きい
３暗褐色土　　１・２層より色調が暗く、締まりが強い
４暗褐色土　　黄褐色砂質土粒・塊を多く含む、焼土粒少し含む
５暗黄褐色土　黄褐色砂質土塊多く含む、焼土・炭化物少し含む
６暗黄褐色土　５層に類似、締まりが強い
７暗黒褐色土　５層に類似、黒色土・炭化物が多い
８赤褐色　　　焼土・炭化物ブロック
９攪乱

Ａ区12号住居跡貯蔵穴
１暗褐色土　焼土粒・白色軽石を含む
２暗褐色土　焼土粒・白色軽石・黄褐色砂質土塊を含む
３暗褐色土　焼土塊を多く含む
４攪乱

Ａ区12号住居跡Pit１
１暗褐色土　　焼土粒・炭化物・白色軽石黄褐色砂質土粒・塊を含む
２暗褐色土　　１層に類似、黄褐色砂質土粒の含有量が多い
３暗黄褐色土　１層に類似、黄褐色砂質土塊の含有量が多い
４暗褐色土　　１層に類似、焼土粒・塊の含有量が多い

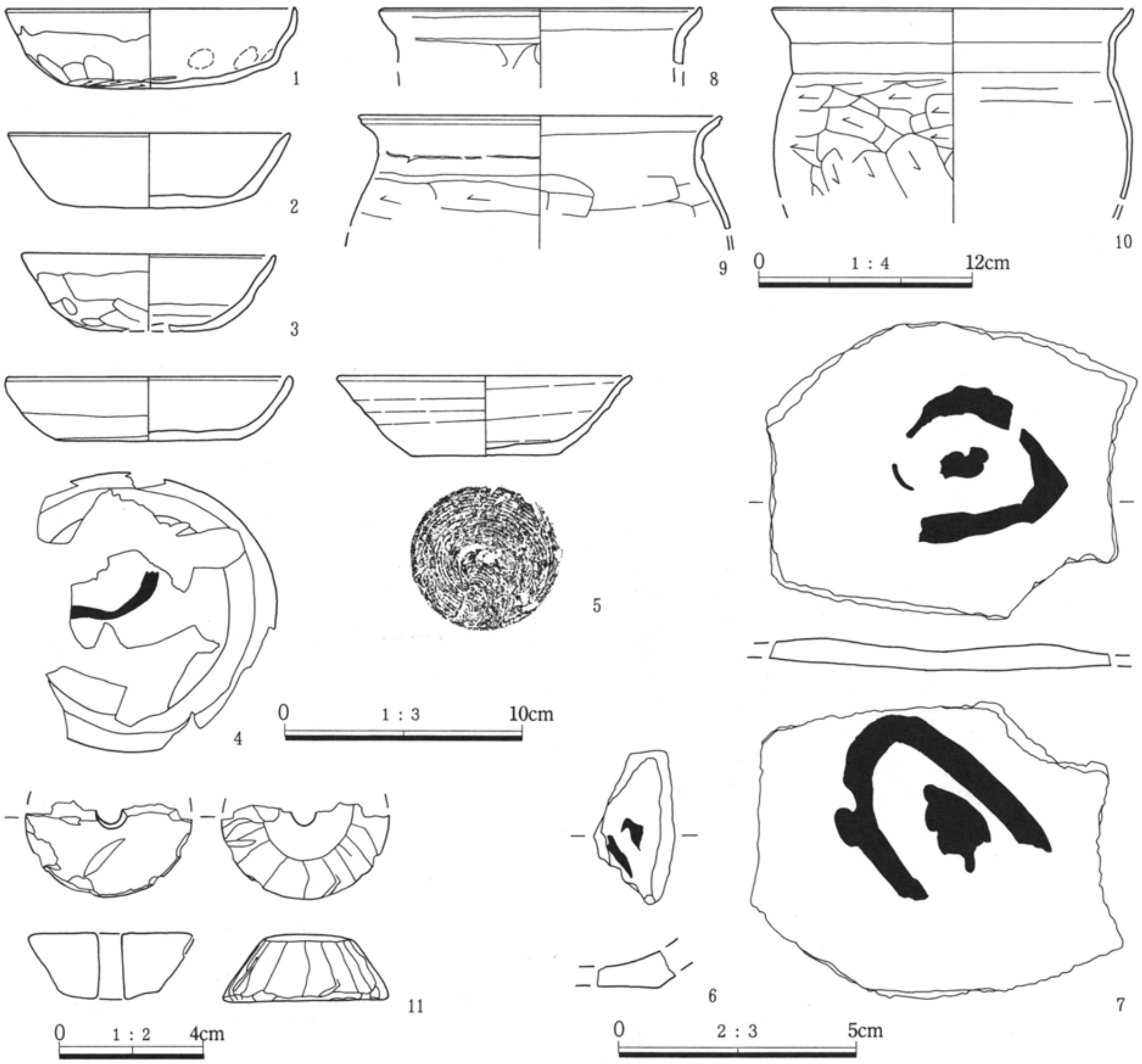






Ａ区12号住居跡竈
１攪乱
２暗褐色土　　焼土粒・白色軽石を少し含む
３暗褐色土　　焼土粒を含む、色調が暗い
４暗褐色土　　焼土塊を多く含む、灰を多く含む
５黒褐色土　　灰主体、炭化物含む
６暗黄褐色土　炭化物・焼土を斑状に多く含む、灰含む
７暗黄褐色土　６層に類似、炭化物・焼土の量が少ない
８暗褐色土　　焼土粒・白色軽石・灰・黄褐色砂質土粒含む
９暗褐色土　　焼土粒少し含む、黄褐色砂質土粒含む
10黄褐色土　　黄褐色砂質土塊

第75図　Ａ区12号住居跡、竈



第76図　A区12号住居跡出土遺物

A区15号住居跡

位置　830−490〜830−480グリッド

規模　長軸4.2m、短軸3.8mを測り、床面積14.9㎡の長方形を呈す。

方位　N−81°−E

重複　なし

壁　壁高残高17cm前後と確認面より床まで浅く、壁は垂直に掘り込む。トレンチャーによる攪乱が夥しく住居覆土断面の分層は不可能であった。

床面　黄褐色砂質土を多量に含む土を貼床とし、全体的に締まりは良好、特に竈周辺の踏み締まりが強い。

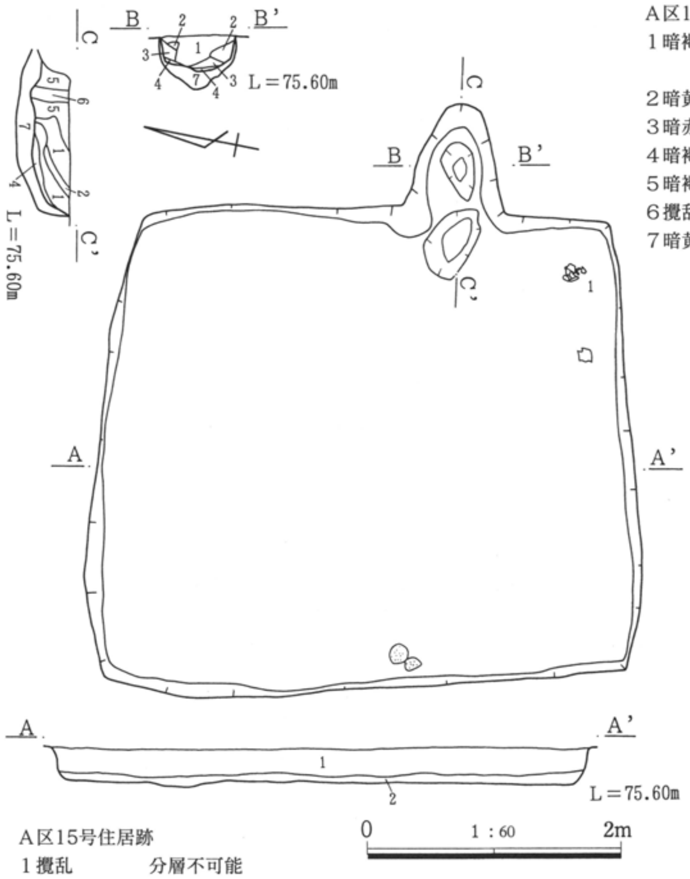
柱穴　なし

貯蔵穴　なし

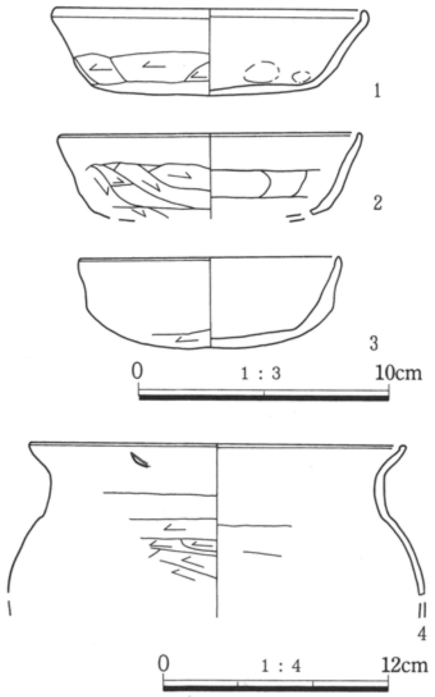
竈　東壁中央やや南寄りに付設され、煙道は壁外に84cm突出する。竈断面には粘質土層が確認でき、構築材として粘質土が使用されたことが窺える。

出土遺物　出土遺物は非常に少ないが、平安時代の杯、長胴甕片が主体である。掘り方よりほぼ完形の杯を出土する。また、明瞭な籾痕が認められる土師器片を1点出土する。本住居の時期は出土遺物より平安時代9世紀頃と思われる。

掘り方　全体的に若干下がるがほぼ平坦である。



A区15号住居跡竈
１暗褐色土　焼土・炭化物を斑状に含む、黄褐色砂質土多く含む、白色軽石僅か含む
２暗黄褐色土　粘質土主体、焼土・炭化物を少し含む
３暗赤褐色土　焼土塊多く含む、炭化物含む
４暗褐色土　黄褐色砂質土主体、焼土含む
５暗褐色土　黄褐色砂質土粒含む、炭化物・焼土粒含む
６攪乱
７暗黄褐色土　黒褐色土塊、黄褐色砂質土塊の混土焼土、炭化物含む



A区15号住居跡
１攪乱　分層不可能
２暗黄褐色土　黄褐色砂質土塊・黒褐色土塊の混土、焼土・炭化物少し含む

第77図　A区15号住居跡、出土遺物

A区16号住居跡

位置　830−480〜820−480グリット

規模　長軸3.4m、短軸2.7mを測り、床面積8.0㎡の長方形を呈す。

方位　N−113°−E

重複　なし

壁　残存壁高30cm前後と確認面より床面まで深く、壁は垂直に掘り込む。また、住居覆土は暗褐色土・褐色土等が所謂レンズ状堆積をしており自然埋没状況を呈する。

床面　黄褐色砂質土を多量に含む土を貼床としほぼ平坦。全体的に締まりは良好、特に竈周辺の踏み締まりが強い。

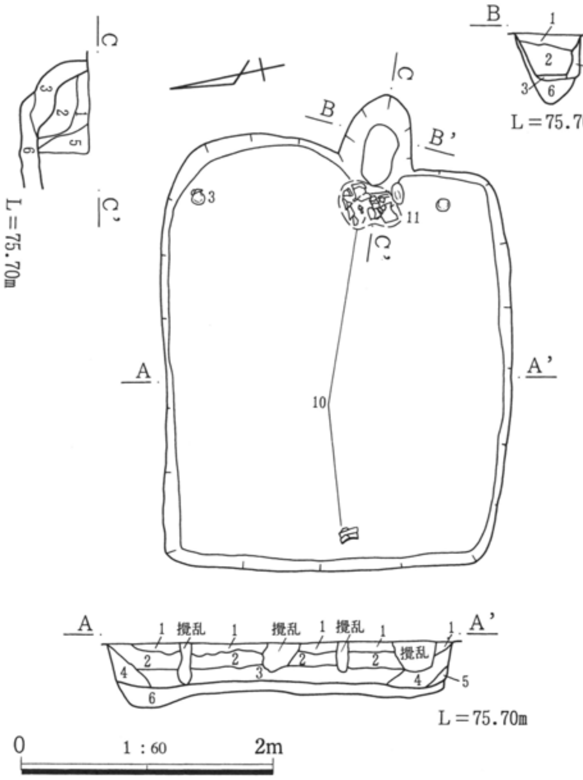
柱穴　なし

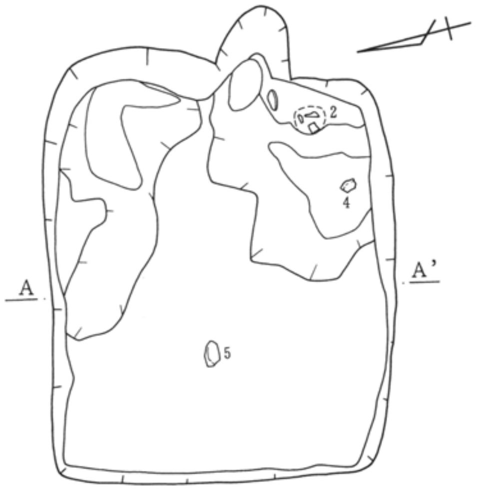
貯蔵穴　なし

竈　東壁中央やや南寄りに付設され、煙道は壁外に52cm突出する。竈右袖付近に検出された人頭大の丸礫は竈袖補強用に使用された石と思われる。また、焚き口付近に広がる甕破片は火床としての土器の再利用であろうか。

出土遺物　出土遺物は比較的多く、竈付近に集中し平安時代の土器が主体をなす。床直上にもほぼ完形の杯やコの字状口縁長胴甕口縁部片を出土している。該期に関わらないが石器剥片、砥石等が混入品として出土している。本住居の時期は出土遺物より平安時代９世紀頃と思われる。

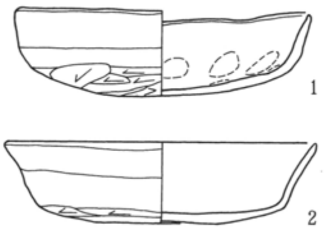
掘り方　竈が付設される東壁際と竈煙道部が深く、他はほぼ平坦な掘り方を呈する。

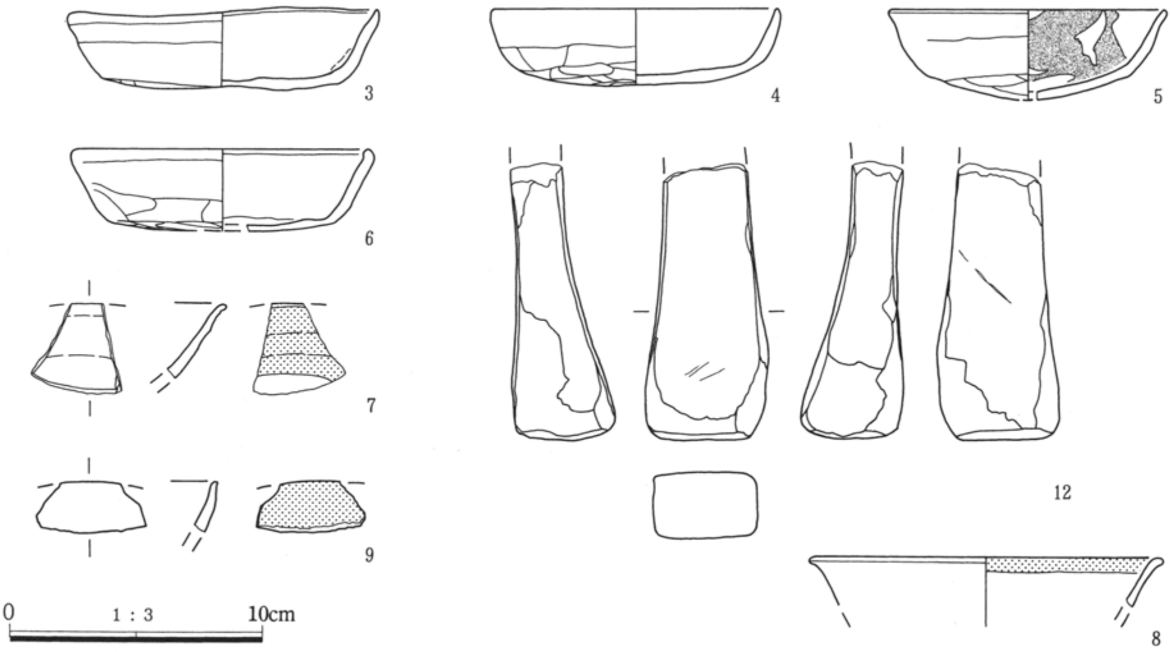




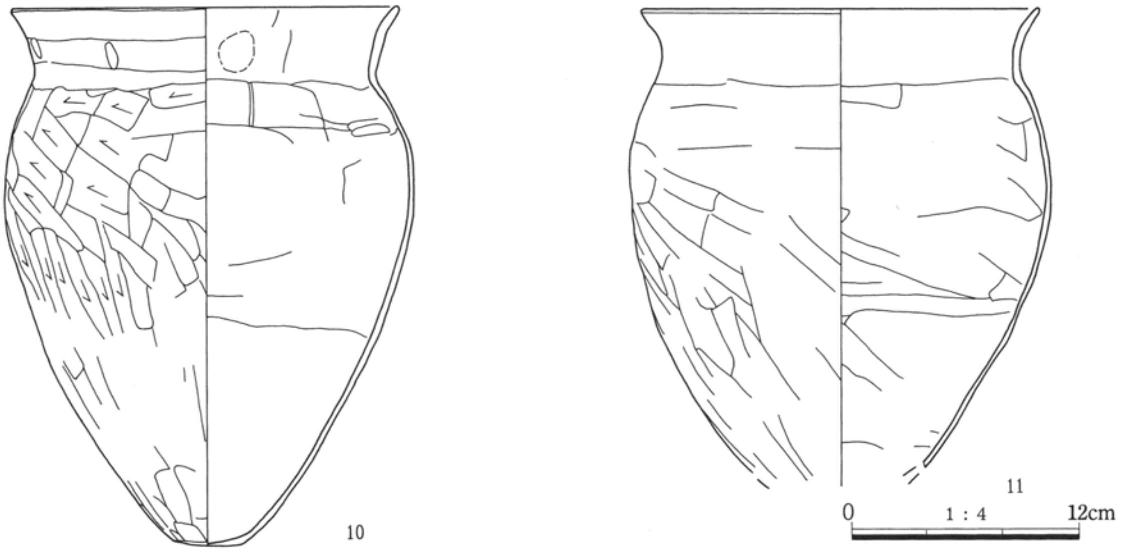
A区16号住居跡
1暗褐色土　　白色軽石・焼土含む、黄褐色砂質土多く含む
2暗褐色土　　白色軽石・焼土含む、黄褐色砂質土含む
3暗赤褐色土　白色軽石・黄褐色砂質土塊含む、
　　　　　　　焼土・炭化物少し含む
4赤褐色土　　白色軽石僅か含む、焼土・黄褐色砂質土塊含む
5攪乱
6褐色土　　　黄褐色砂質土塊多く含む、
　　　　　　　焼土・炭化物少し含む

A区16号住居跡竈
1暗褐色土　　焼土多く含む、黄褐色砂質土塊含む、
　　　　　　　白色軽石少し含む
2暗赤褐色土　焼土塊・炭化物多く含む
3暗褐色土　　焼土少し含む
4攪乱
5暗黄褐色土　黄褐色砂質土主体、焼土塊・炭化物含む
6暗黄褐色土　黄褐色砂質土主体、焼土塊含む、
　　　　　　　炭化物少し含む





第78図　A区16号住居跡、掘り方、出土遺物



第79図　Ａ区16号住居跡出土遺物

Ａ区19号住居跡

殆ど削平されている上にトレンチャーによる攪乱も激しく住居覆土断面分層、竈覆土断面分層は行っていない。

位置　840－480グリッド

規模　長軸4.6m、短軸3.5mを計り、床面積15.8㎡（推定）の長方形を呈す。

方位　Ｎ－96°－Ｅ

重複　南壁が18号住居と重複し、18号住居が新しい。

壁　残存壁高５cm前後と確認面より床面まで浅く殆ど削平されている。壁は垂直に掘り込む。

床面　貼床は無く、掘り方を床としている。ほぼ平坦な床面はやや締まりに欠ける。

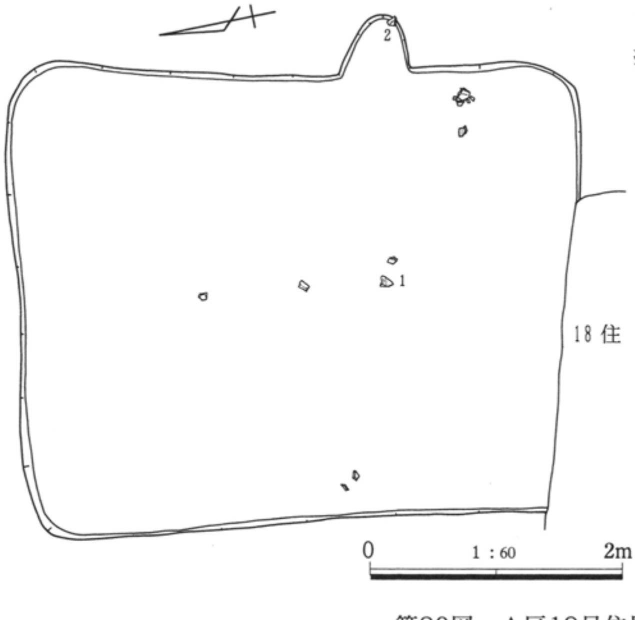
柱穴　なし

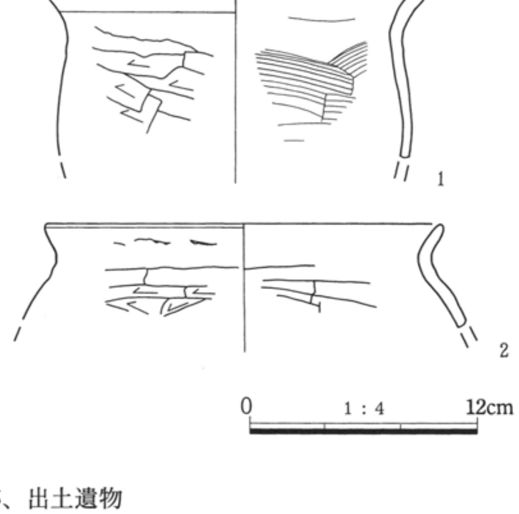
貯蔵穴　なし

竈　東壁中央やや南寄りに付設され、煙道は壁外に48cm突出する。

出土遺物　出土遺物は完形品を含め種類、点数とも少なく、平安時代の杯、甕の小破片が主体をなす。竈内及び床直上より長胴瓶口縁部片が出土している。本住居の時期は出土遺物より平安時代９世紀頃と思われる。

掘り方　ほぼ平坦である。





第80図　Ａ区19号住居跡、出土遺物

A区22号住居跡

位置　830−480～830−470グリッド

規模　長軸4.4m、短軸3.2mを測り、床面積12.7㎡（推定）の長方形を呈する。

方位　N−101°−E

重複　住居北東隅が21号住居と重複し、21号住居が新しい。

壁　残存壁高16cm前後と確認面より床まで浅く、壁は垂直に掘り込まれる。

床面　黄褐色砂質土が多量に混入する土を貼床とし、床面はほぼ平坦で全体的に締まりは良好、特に竈周辺の踏み締まりが強い。

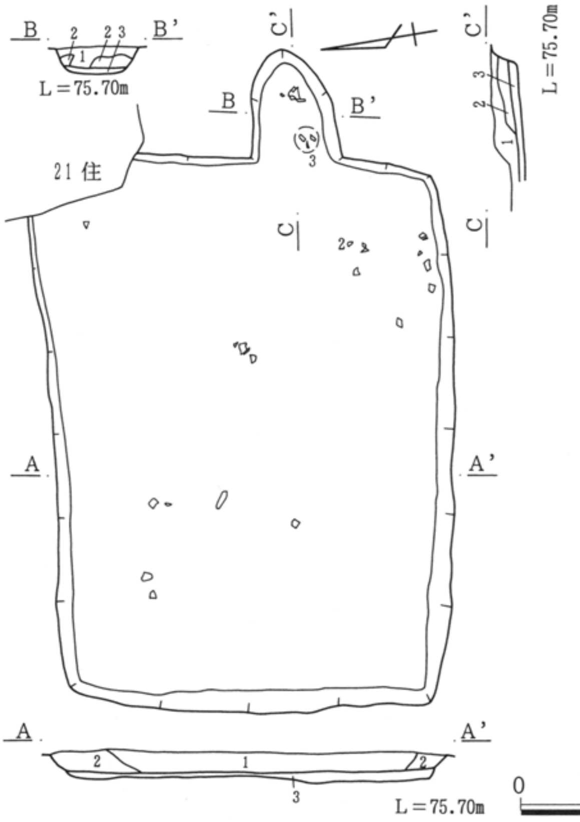
柱穴　なし

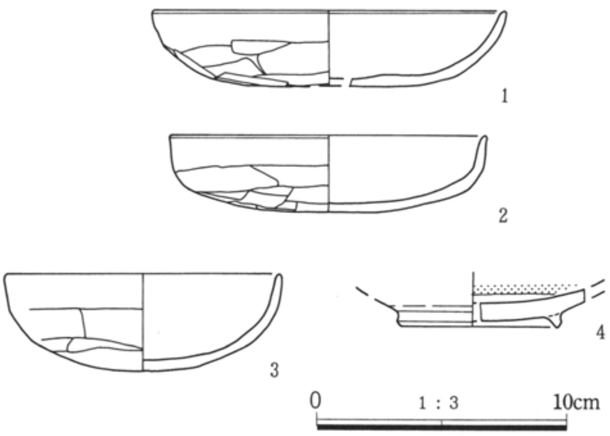
貯蔵穴　なし

竈　東壁中央やや南寄りに付設され、煙道は壁外に約88cm突出する。

出土遺物　出土遺物は少ない。平安時代の杯・甕の小破片が主で、完形・ほぼ完形となるものは無く実測できる遺物も少ない。本住居の時期は出土遺物から平安時代９世紀頃と思われる。

掘り方　煙道部を一段深く、床は全体に下がる掘り方を呈する。





A区22号住居跡
1暗黄褐色土　黒色土・黄褐色砂質土の混土
2暗黄褐色土　1層に類似、黄褐色砂質土塊多く含む
3黄褐色土　黄褐色砂質土粒・塊多く含む、堅緻

A区22号住居跡竈
1暗黄褐色土　黄褐色砂質土塊含む、焼土・炭化物少し含む
2暗赤褐色土　焼土塊・炭化物多く含む、下面灰層
3黄褐色土　黄褐色砂質土主体、堅緻

第81図　A区22号住居跡、出土遺物

A区24号住居跡

位置　830−470グリッド

規模　長軸4.8m、短軸3.5mを測り、床面積15.1㎡の長方形を呈する。

方位　N−103°−E

重複　なし

壁　残存壁高20cmと確認面より床まで比較的深く、壁は垂直に掘り込まれる。

床面　貼床は無く掘り方を直接床とし、ほぼ平坦で全体的に締まりは良好である。

柱穴　なし

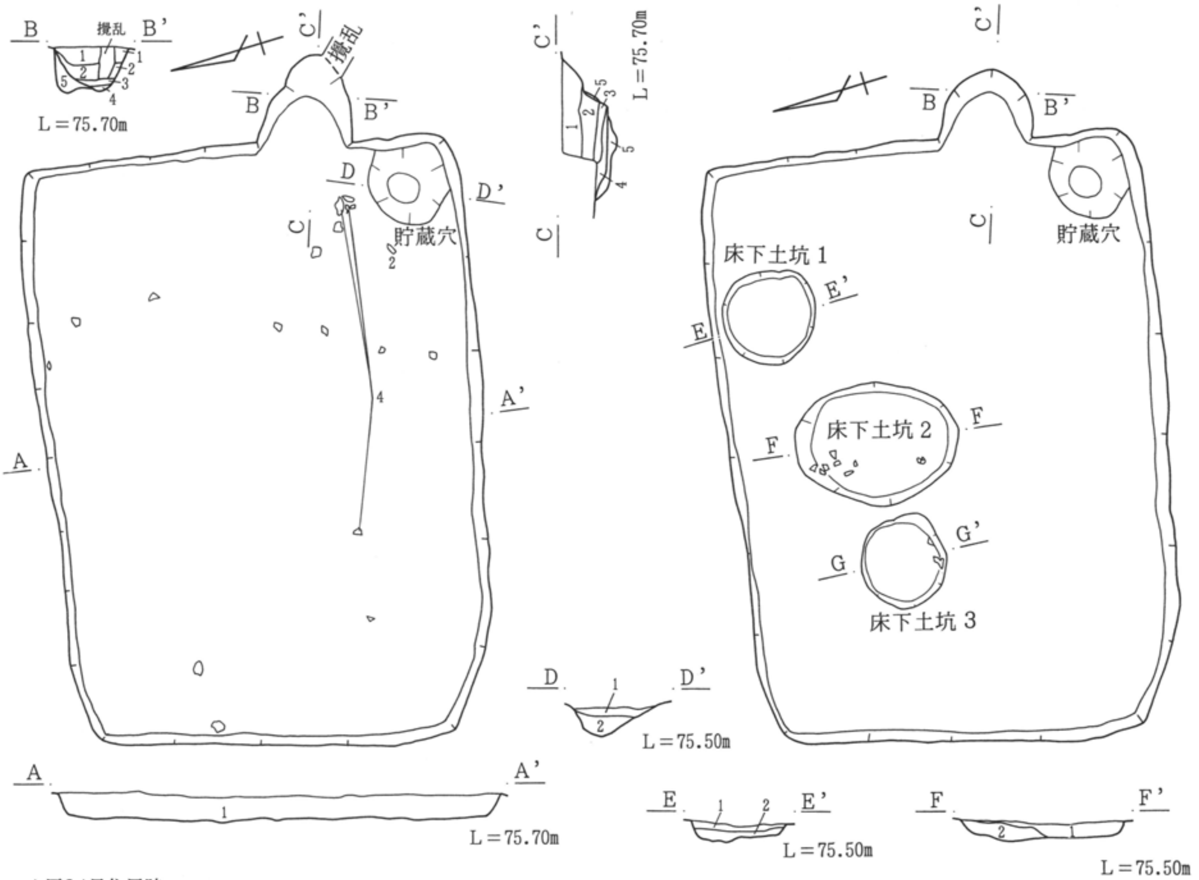
貯蔵穴　竈右、住居南東隅に位置し、上幅62×60cm深さ25cmを測る。形状はほぼ円形を呈する。

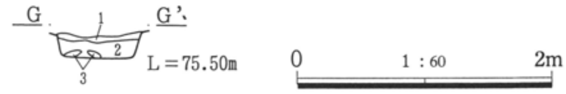
竈　東壁やや南寄りに付設され、煙道は壁外に72cm

突出する。竈断面に灰白色粘質土が層厚に確認でき、竈構築材として粘質土が使用されたことが窺える。

出土遺物　出土遺物は多く平安時代の杯・甕が主体をなす。竈よりコの字状口縁長胴甕口縁部片、貯蔵穴・床下土坑より土師器杯を出土する。本住居の時期は出土遺物より平安時代９世紀頃と思われる。

掘り方　使用面では確認できなかったが、掘り方で３基の浅い円形、楕円形の床下土坑を検出する。１は上幅76×76cm・深さ15cm、２は上幅1×1.3m、深さ9cm、３は上幅75×70cm・深さ18cmを測る。



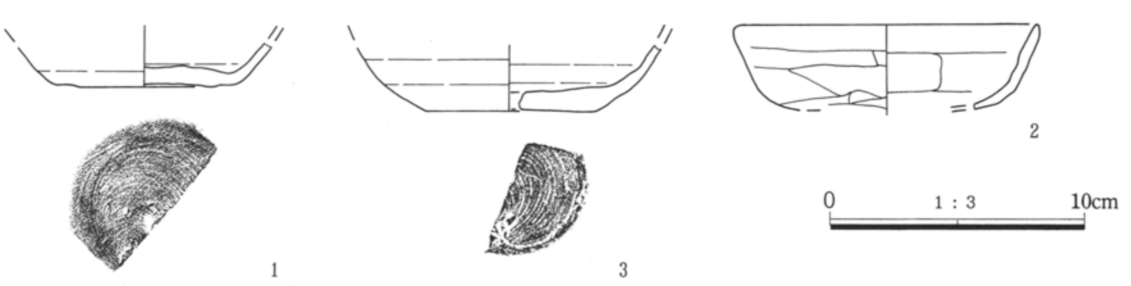


A区24号住居跡
１暗黒褐色土　黄褐色砂質土・黒色土の混土、焼土塊・炭化物・白色軽石少し含む
（トレンチャーの攪乱が激しく分層不可能）

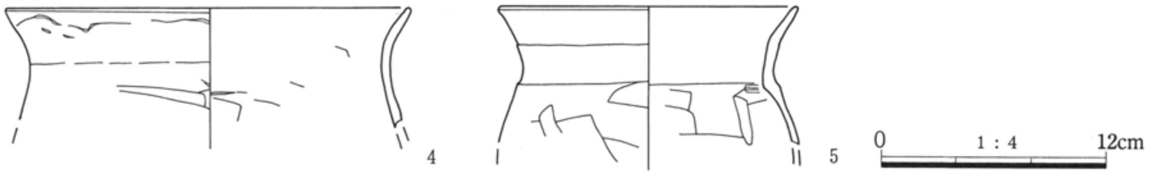
A区24号住居跡竈
１暗黄褐色土　黄褐色砂質土・黒色土の混土
２暗黄褐色土　１層に類似、焼土・炭化物が多く混入
３暗灰白色土　粘質、灰・炭化物多く含む
４暗赤褐色土　焼土・炭化物多く含む
５暗赤褐色土　黄褐色砂質土主体、焼土・炭化物少し含む

A区24号住居跡貯蔵穴
１黒色土　粘質、灰・炭化物多く含む、焼土少し含む
２暗黄褐色土　粘質、黄褐色砂質土主体、焼土・炭化物少し含む

A区24号住居跡床下土坑
１暗赤褐色土　焼土塊・炭化物多く含む
２暗黒褐色土　１層に類似、黄褐色砂質土の含有率が高い
３黒色土　炭化物多く含む



第82図　A区24号住居跡、掘り方、出土遺物



第83図　A区24号住居跡出土遺物

A区26号住居跡

位置　820－470グリッド

規模　長軸3.3m、短軸3.2mを測り、床面積9.9㎡のほぼ正方形を呈する。

方位　N－97.5°－E

重複　なし

壁　残存壁高5cmと確認面より床まで浅く殆ど削平されているが、壁は垂直に掘り込む。尚、東壁・西壁の一部はトレンチにより消失している。

床面　貼床は無く、掘り方を直接床とする。削平が深く覆土断面の分層は不可能であった。

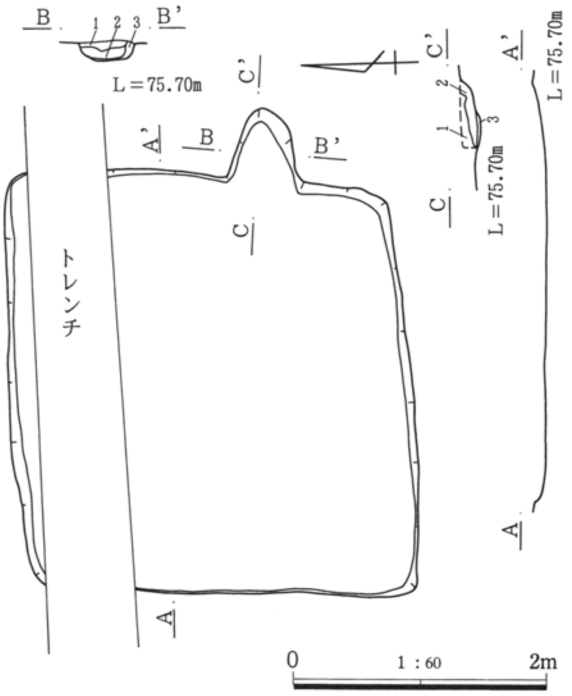
柱穴　なし

貯蔵穴　なし

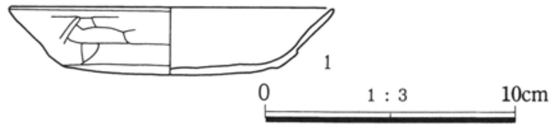
竈　東壁やや南寄りに付設され、煙道は壁外に56cm突出する。

出土遺物　出土遺物は少ない。平安時代の杯、甕を主体とするが、小破片のみで実測しうる土器は僅か土師器杯口縁部だけであった。本住居の時期は出土遺物より平安時代9世紀頃と思われる。

掘り方　竈焚き口部がやや深くなる。



A区26号住居跡竈
1暗黒褐色土　焼土塊・炭化物多く含む、黄褐色砂質土多く混じる
2暗赤褐色土　焼土塊・炭化物多く含む、灰含む
3暗赤褐色土　黄褐色砂質土主体、焼土・炭化物含む



第84図　A区26号住居跡、出土遺物

A区27号住居跡

位置　840－470～830－470グリッド

規模　長軸4.3m、短軸3.2mを測り、床面積12.8㎡の長方形を呈する。

方位　N－107°－E

重複　なし

壁　残存壁高25cm前後と確認面より住居床まで深く、壁は垂直に掘り込まれる。

床面　黄褐色砂質土をブロック状に多く含む土を貼床とし、全体的に踏み締まりは良好、竈周辺及び住居中央部の踏み締まりは強い。

柱穴　なし

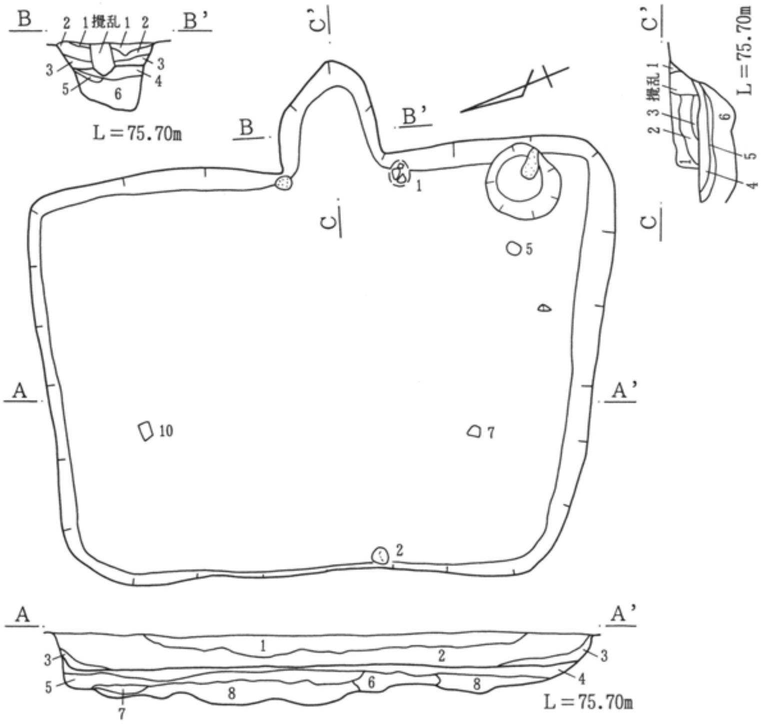
貯蔵穴　使用面では確認できなかったが、掘り方で検出する。竈右側,住居南西隅に位置し上幅60×56cm、深さ26cmのほぼ円形を呈する。

竈　東壁ほぼ中央に付設され、煙道は壁外に80cm突出する。竈袖は検出できなかったが竈覆土に層厚な灰白色粘質土層が確認でき竈構築材として粘質土が使用されたことが窺える。

出土遺物　平安時代の甕、杯の小破片を中心に出土

遺物は多い。西壁際床直上より完形の土師器杯、竈右床直上に土師器杯、須恵器杯が出土している。また、覆土より土垂を１点出土している。本住居は出土遺物より平安時代９世紀頃と思われる。

掘り方　中央部がほぼ長方形状に一段深くなり、黄褐色砂質土や炭化物・焼土等が混入する土で意図的に充填されている。他の住居に比し覆土は層厚で出土土器の点数も多い。

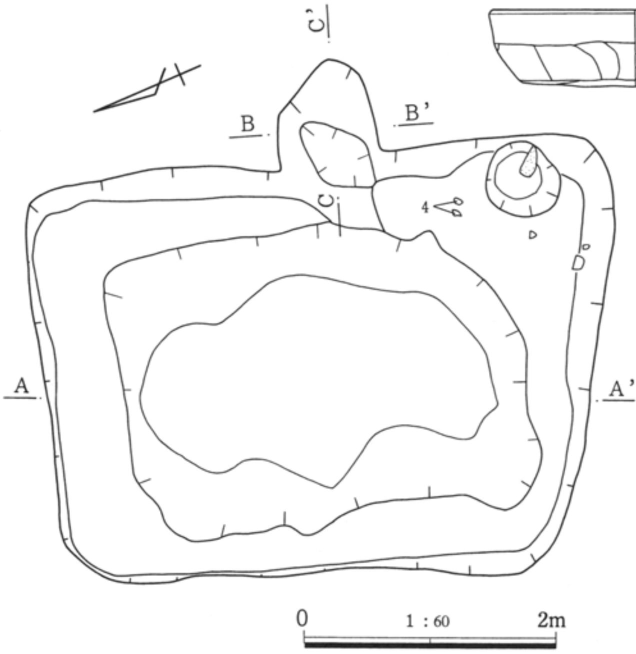


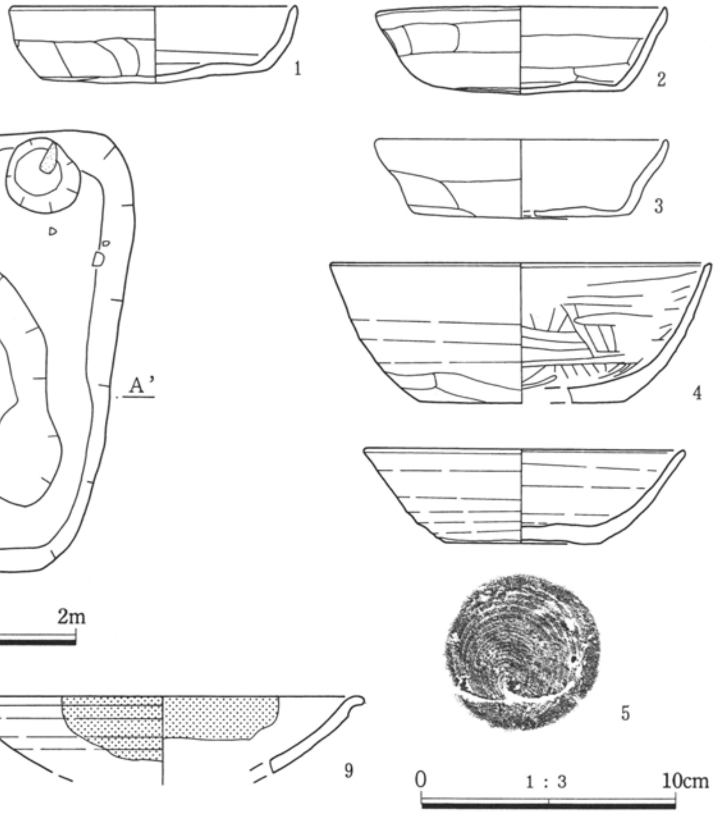
Ａ区27号住居跡

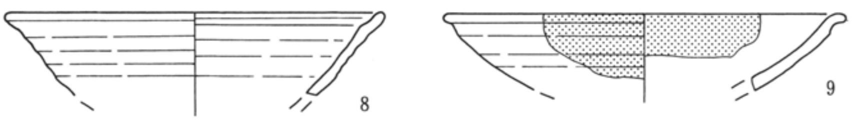
１褐色土	黄褐色砂質土塊主体
２黒褐色土	黒褐色土主体、白色軽石僅か含む
３黒褐色土	黒褐色土主体
４黒褐色土	黄褐色砂質土塊含む、焼土・白色軽石少し含む、非常に堅緻
５黒褐色土	黄褐色砂質土塊多く含む、焼土塊・炭化物含む、色軽石僅か含む
６黄褐色土	黄褐色砂質土塊含む、焼土・炭化物少し含む
７黒色土	焼土・炭化物・灰を塊状に含む、白色軽石僅か含む
８黒褐色土	黄褐色砂質土塊・焼土塊・炭化物塊多く含む、白色軽石僅か含む

Ａ区27号住居跡竈

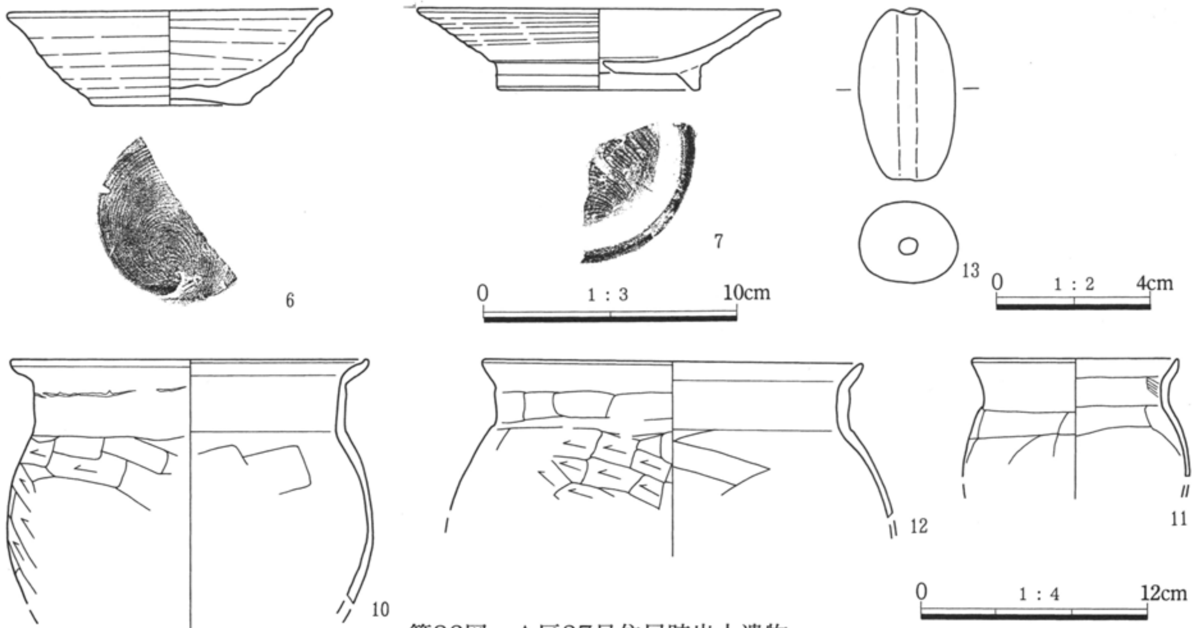
１黄灰色土	灰白色粘質土・黄褐色砂質土混土
２黒色土	黒色土主体
３灰白色	粘質土主体
４黄褐色土	褐色土・焼土・炭化物・灰の混土
５灰黒色土	灰主体、焼土・炭化物含む
６灰黄色土	黄褐色砂質土主体、焼土・炭化物灰含む







第85図　Ａ区27号住居跡、掘り方、出土遺物



第86図　A区27号住居跡出土遺物

A区28号住居跡

位置　850－480グリッド

規模　長軸3.8m、短軸3.1mを測り、床面積10.7㎡の長方形を呈する。

方位　N－85°－E

重複　なし

壁　残存壁高20cm前後と確認面より住居床まで比較的深く、壁は垂直に掘り込まれる。

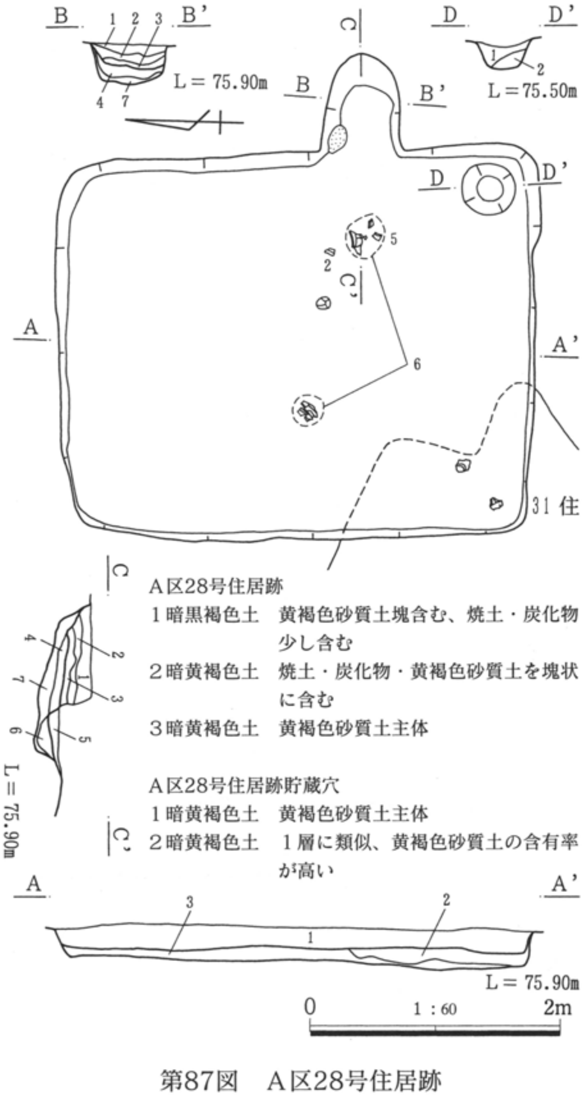
床面　黄褐色砂質土を粒状・塊状に含む貼床は貯蔵穴周辺が厚く、踏み締まりも竈・貯蔵穴周辺が強い。

柱穴　なし

貯蔵穴　使用面では確認できなかったが、掘り方で検出する。竈右側、住居南西隅に位置し上幅44×40cm、深さ27cmを測る。形状はほぼ円形を呈する。

竈　東壁中央やや南寄りに付設され、煙道は壁外に84cm突出する。

A区28号住居跡竈
1暗黄褐色土　黄褐色砂質土主体、焼土・炭化物・白色軽石少し含む
2暗赤褐色土　焼土塊多く含む
3暗灰白色土　灰・炭化物多く含む
4暗黄褐色土　砂質、焼土・炭化物含む
5暗灰色土　炭化物・灰主体、焼土少し含む
6暗灰色土　５層に類似、黄褐色砂質土多く含む
7暗黄褐色土　黄褐色砂質土塊含む、焼土・炭化物含む



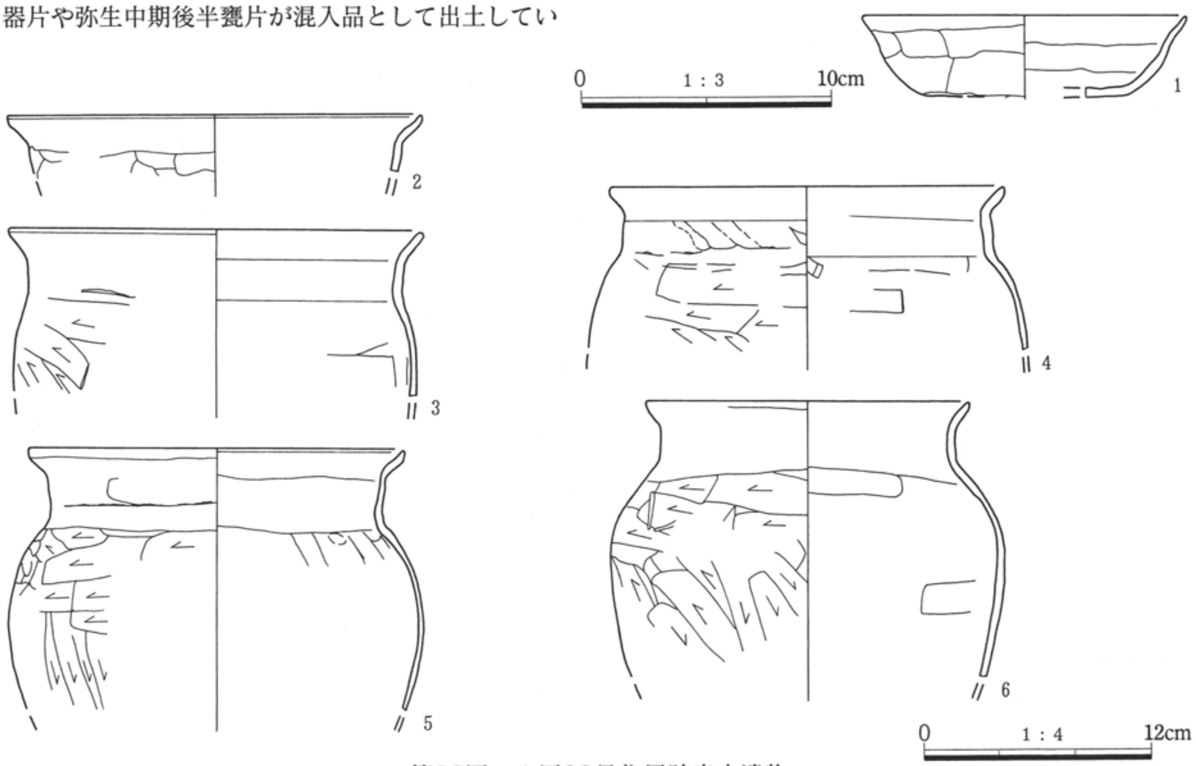
A区28号住居跡
1暗黒褐色土　黄褐色砂質土塊含む、焼土・炭化物少し含む
2暗黄褐色土　焼土・炭化物・黄褐色砂質土を塊状に含む
3暗黄褐色土　黄褐色砂質土主体

A区28号住居跡貯蔵穴
1暗黄褐色土　黄褐色砂質土主体
2暗黄褐色土　１層に類似、黄褐色砂質土の含有率が高い

第87図　A区28号住居跡

出土遺物　平安時代の杯、甕の小破片を中心に出土遺物は比較的多い。竈焚き口付近にコの字状口縁長胴甕口縁部、床直上に長胴甕口縁部、椀高台を出土している。該期に関わらないが縄文草創期爪形文土器片や弥生中期後半甕片が混入品として出土している。本住居は出土遺物より平安時代９世紀頃と思われる。

掘り方　ほぼ平坦な掘り方で竈焚き口から煙道に掛けて一段深い掘り方を呈する。



第88図　Ａ区28号住居跡出土遺物

Ａ区30号住居跡

位置　850－490～840－480グリッド

規模　長軸4.3m、短軸3.2mを測り、床面積12.6㎡の長方形を呈する。

方位　N－87°－E

重複　東壁が31号住居と重複し、31号住居が新しい。

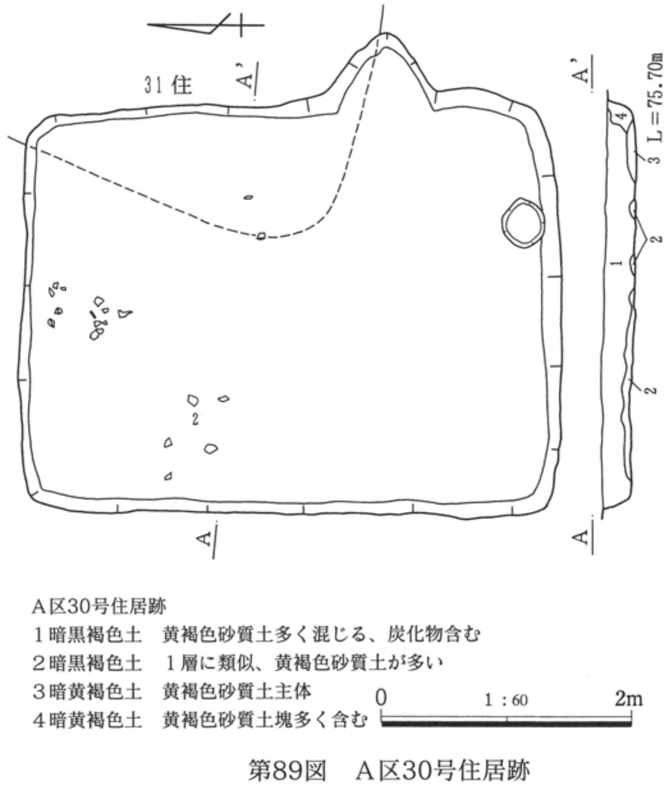
壁　残存壁高20cm前後と確認面より床面まで比較的深く、壁は垂直に掘り込む。

床面　ほぼ平坦、明瞭な貼床は確認できなかったが、全体的に締まりは良好であった。

柱穴　なし

貯蔵穴　貯蔵穴は無かったが、掘り方で中央やや北寄りに径44cm、深さ18cm、円形の床下土坑を検出した。

竈　東壁中央やや南寄りに付設され、煙道は



Ａ区30号住居跡
１暗黒褐色土　黄褐色砂質土多く混じる、炭化物含む
２暗黒褐色土　１層に類似、黄褐色砂質土が多い
３暗黄褐色土　黄褐色砂質土主体
４暗黄褐色土　黄褐色砂質土塊多く含む

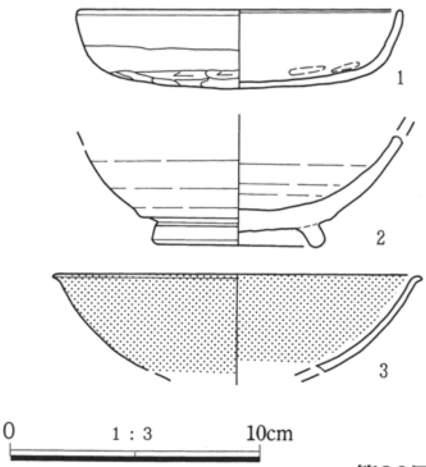
第89図　Ａ区30号住居跡

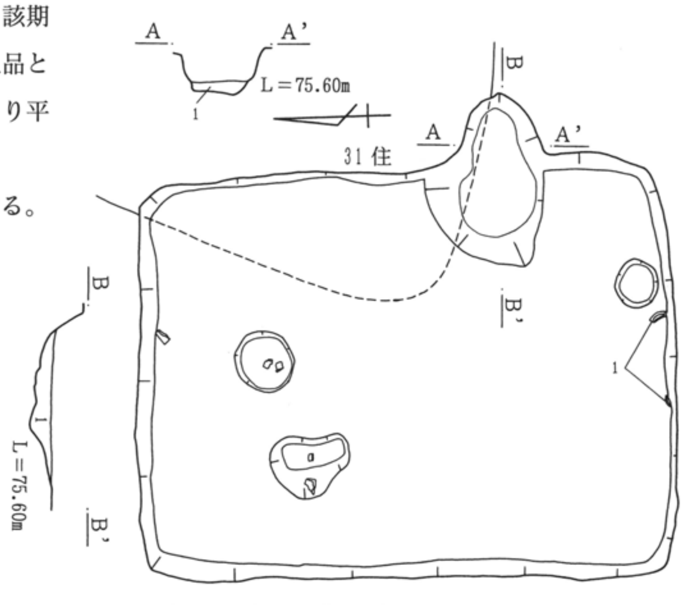
壁外に44cm突出する。

出土遺物　出土遺物は少ないが床直上より須恵器椀高台部片、甕胴部片、掘り方では壁際より杯、貯蔵穴より長胴甕胴部・底部片等を出土している。該期に関わらないが石器剥片、須恵器杯破片が混入品として出土している。本住居の時期は出土遺物より平安時代9世紀頃と思われる。

掘り方　竈煙道部下が一段下がる掘り方を呈する。

また、床下土坑西側に不整形な土坑を検出したが覆土より10世紀代の須恵器椀片が出土しており、本住居に関わる遺構ではない。





A区30号住居跡竈（掘り方）
1暗黄褐色土　黄褐色砂質土・焼土・炭化物含む、灰少し含む

第90図　A区30号住居跡掘り方、出土遺物

A区33号住居跡

位置　860－470～850－470グリッド

規模　長軸2.6m、短軸2.5mを測り、床面積6.2㎡のほぼ正方形を呈する。

方位　N－103°－E

重複　なし

壁　残存壁高13cm前後と確認面より床面まで浅く殆ど削平されている。壁は垂直に掘り込む。

床面　貼床は無く、掘り方を直接床とする。ほぼ平坦であるが踏み締まりは弱い。

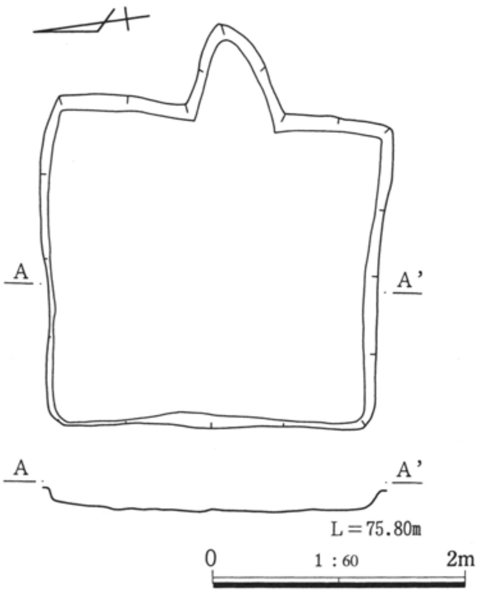
柱穴　なし

貯蔵穴　なし

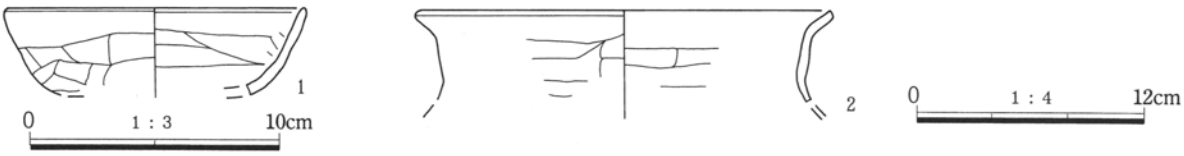
竈　東壁北壁ほぼ中央に付設され、煙道は壁外に68cm突出する。竈周辺はトレンチャーによる攪乱が激しく確認できたのは竈構築面のみで覆土分層は不可能であった。

出土遺物　出土遺物は少ない。竈内・床直上からの出土は無く、遺物は全て覆土からでコの字状口縁甕片や杯口縁部片等の小破片が主である。本住居の時期は出土遺物より平安時代9世紀頃と思われる。

掘り方　貯蔵穴・柱穴等は確認できなかった。



第91図　A区33号住居跡



第92図　Ａ区33号住居跡出土遺物

Ｂ区１号住居跡

位置　830－470～830－460グリッド

規模　縦長長方形を呈すると思われる本住居は、住居中央部分と竈先端部分が残存した。残存する範囲で短軸3.4mを測るが、長軸・床面積は計測不能である。

方位　Ｎ－13.5°－Ｅ

重複　なし

壁　残存壁高30cm前後と確認面より床面まで深く、壁は緩やかに掘り込まれる。

床面　掘り方を直接床とし、北西部及び南側の踏み締まりは良好であった。

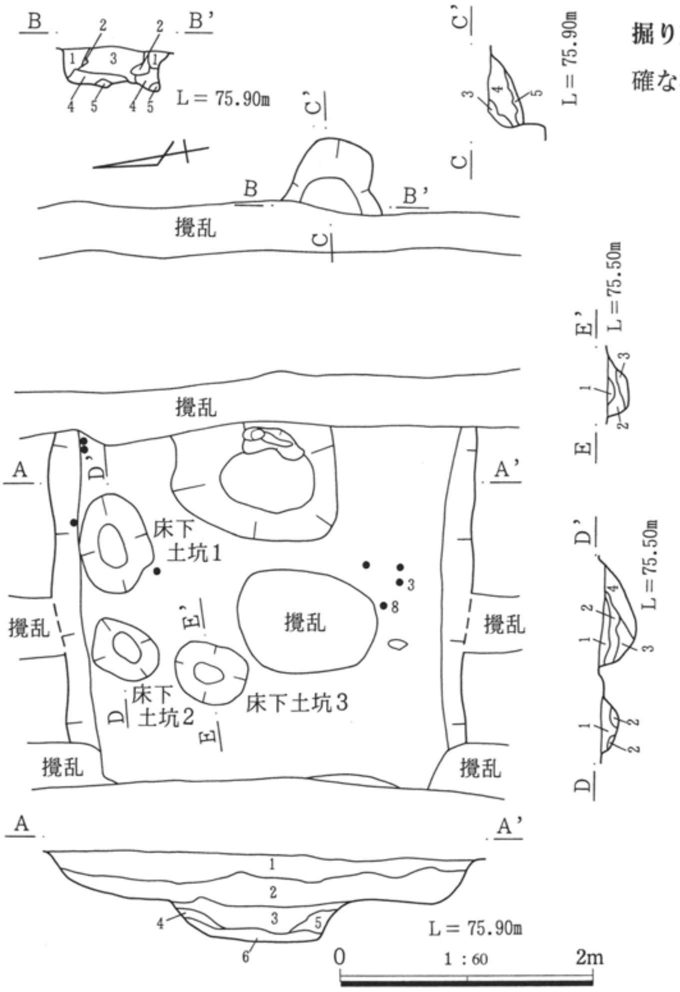
柱穴　なし

貯蔵穴　なし

竈　東壁中央やや南寄りに付設されていると思われるが、攪乱により殆ど消失しており詳細不明である。

出土遺物　出土遺物は多く平安時代の土師器、須恵器を主体とする。床上より長胴瓶口縁部片、須恵器杯・椀、土師器杯、鉄滓を出土している。該期以外の出土遺物は無く、本住居の時期は出土遺物より平安時代９世紀頃と思われる。

掘り方　浅い円形状土坑が不規則に散在するが、明確な柱穴や貯蔵穴は確認できない。



Ｂ区１号住居跡竈
１褐色土　　焼土粒・白色軽石含む
２黒褐色土　焼土塊含む
３黒褐色土　焼土塊・粒多く含む
４黒褐色土　焼土塊含む、白色軽石含む
５黒褐色土　黄褐色砂質土混じる、焼土塊４層より多く含む

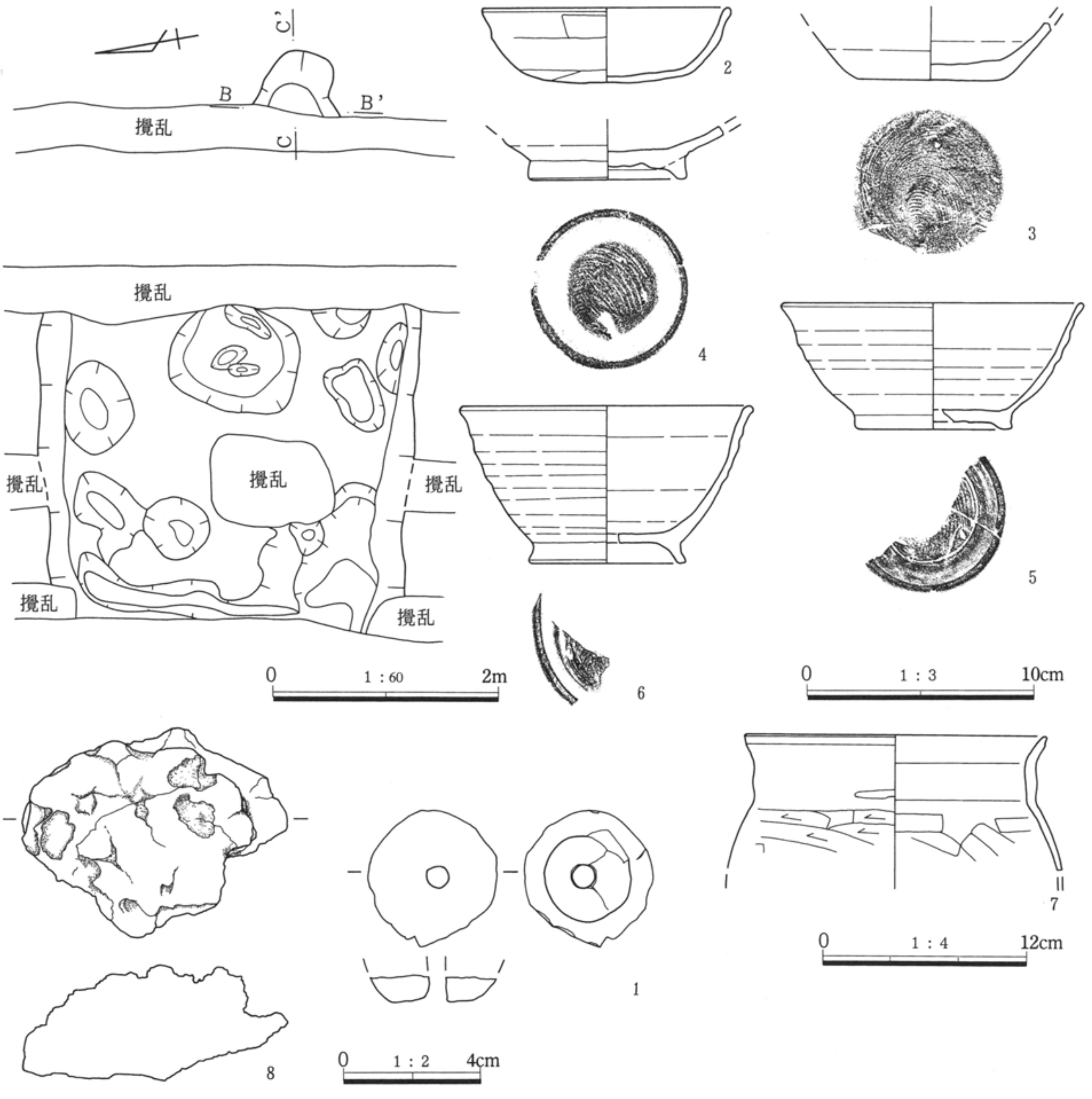
Ｂ区１号住居跡
１黒褐色土　黄褐色砂質土少し混じる、焼土・白色軽石含む
２褐色土　　黄褐色砂質土混じる、白色軽石含む
３黒褐色土　焼土・白色軽石多く含む
４褐色土　　焼土含む、黄褐色砂質土混じる
５暗褐色土　粘性、焼土粒・白色軽石含む
６黒褐色土　焼土粒含む

Ｂ区１号住居跡１号床下土坑
１暗褐色土　黄褐色砂質土塊少し含む
２暗褐色土　黄褐色砂質土塊多く含む
３黒褐色土　黒褐色土主体
４黒褐色土　黄褐色砂質土塊多く含む

Ｂ区１号住居跡２号床下土坑
１黒褐色土　黄褐色砂質土混じる
２暗褐色土　黄褐色砂質土塊多く含む

Ｂ区１号住居跡３号床下土坑
１黄褐色土　黄褐色砂質土塊主体
２暗褐色土　黄褐色砂質土混じる
３暗褐色土　黄褐色砂質塊含む

第93図　Ｂ区１号住居跡



第94図　Ｂ区１号住居跡掘り方、出土遺物

Ｂ区２号住居跡

位置　850－460グリッド

規模　縦長長方形を呈すると思われる本住居は、中央の一部と東壁が残存し長軸５ｍを測る。短軸・床面積は計測不能である。

方位　Ｎ－107゜－Ｅ

重複　なし

壁　残存壁高16cm前後と確認面より床面まで浅く殆ど削平されているが、壁は緩やかに掘り込まれる。西壁は攪乱のため完全に消失している。

床面　貼床は無く掘り方を直接床とし、竈周辺の踏み締まりは強いが、全体的には締まりに欠ける。

柱穴　なし

貯蔵穴　南東隅に位置し長軸70cm超、短軸60cm、深さ16cmを測り、楕円形を呈する。

竈　東壁中央南寄りに付設され、煙道は壁外に55cm突出する。煙道先端付近の底部には補強目的と思われる土器片が貼り付けられていた。

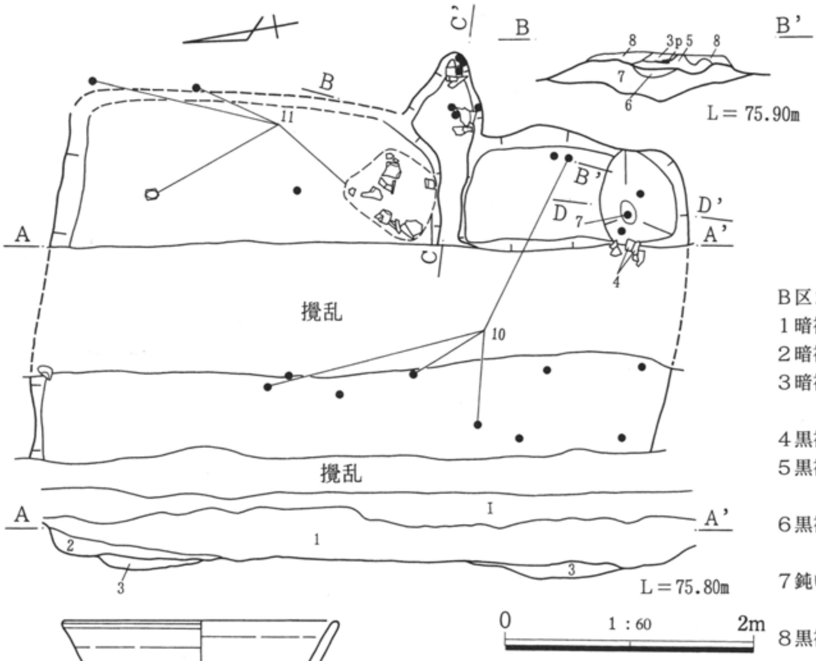
出土遺物　出土遺物は種類・量共に多く、平安時代の土師器、須恵器を主体とする。竈より長胴甕口縁

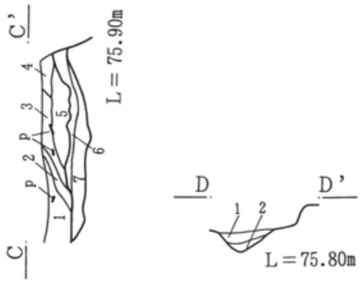
部、床上より鉄鏃茎、須恵器杯・椀、土師器杯・椀、貯蔵穴より須恵器椀を出土する。遺物は何れも９世紀代に比定される土器であるが、１軒の住居にしては遺物量が多く土器の時期差の巾も広い。

掘り方　柱穴は確認できない。

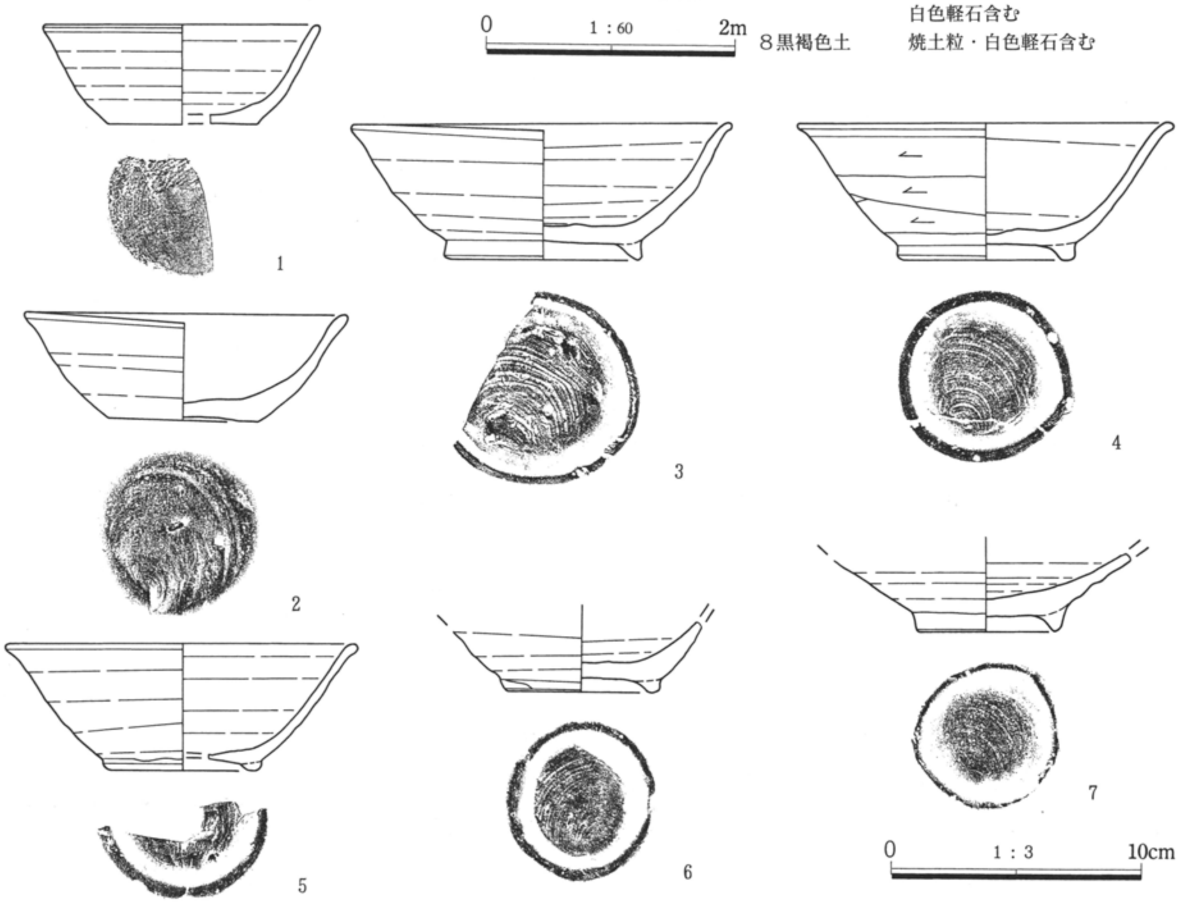
Ｂ区２号住居跡
１黒褐色土　　黄褐色砂質土塊含む、焼土・白色軽石含む
２黒褐色土　　黒味強い、黄褐色砂質土混じる
３暗灰黄色土　黄褐色砂質土塊含む、焼土・炭化物含む

Ｂ区２号住居跡貯蔵穴
１黒褐色土　焼土塊少し含む、黄褐色砂質土塊含む
２黒褐色土　焼土塊多く含む

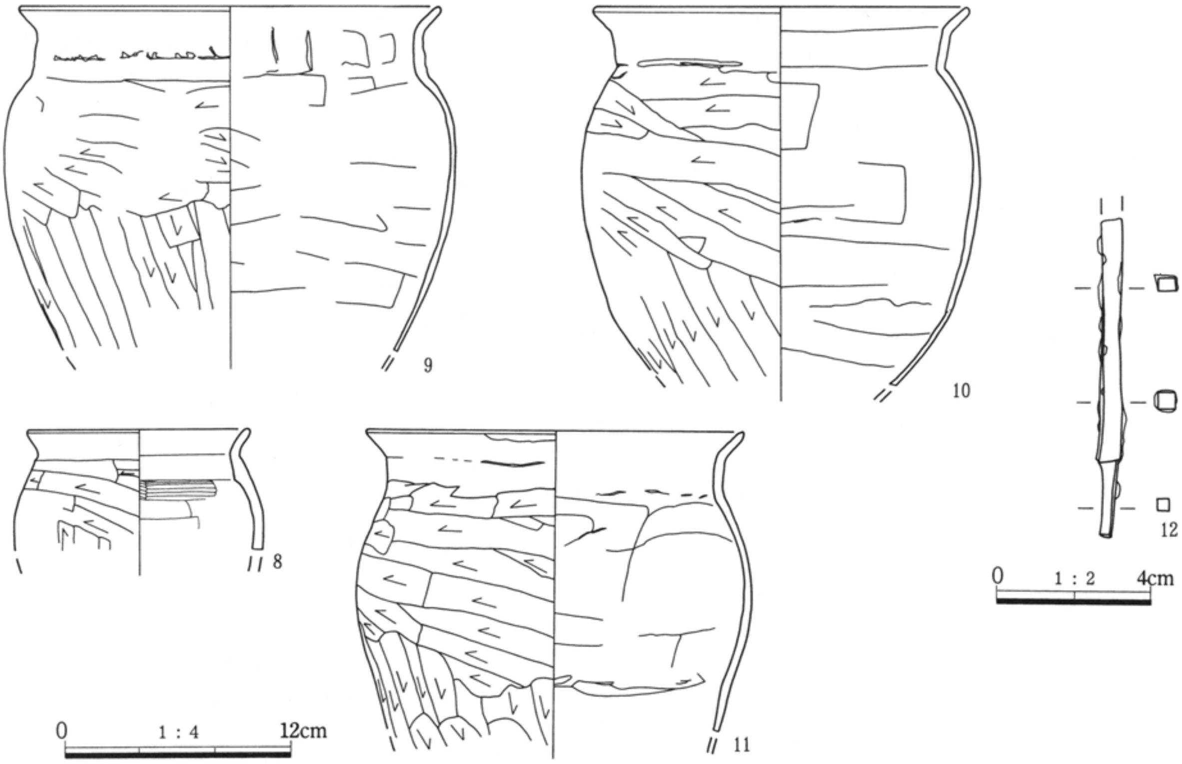




Ｂ区２号住居跡竈
１暗褐色土　　白色軽石多く含む、焼土粒含む
２暗褐色土　　白色軽石含む、焼土粒少し含む
３暗褐色土　　白色軽石・焼土粒含む、黄褐色砂質土塊含む
４黒褐色土　　白色軽石・焼土粒含む
５黒褐色土　　焼土粒・白色軽石・３層の土を塊状に含む
６黒褐色土　　焼土粒・塊多く含む、白色軽石少し含む
７鈍い黄褐色土　黄褐色砂質土塊含む、焼土粒白色軽石含む
８黒褐色土　　焼土粒・白色軽石含む



第95図　Ｂ区２号住居跡、出土遺物



第96図　Ｂ区２号住居跡出土遺物

Ｄ区６号住居跡

位置　840－230～840－220グリッド

規模　長軸4.3m、短軸3.4mを測る。５号溝と重複し住居北側の一部を消失しているため床面積は不明。

方位　Ｎ－90°－Ｅ

重複　北壁が５号溝と重複し、５号溝が新しい。

壁　残存壁高50cm前後と確認面より床面まで深く、壁はほぼ垂直に掘り込む。住居覆土は均一な褐色土で人為的・意図的に埋められた可能性が高い。

床面　貼床は無く掘り方を直接床とし、平坦で全体的に締まりは良好である。

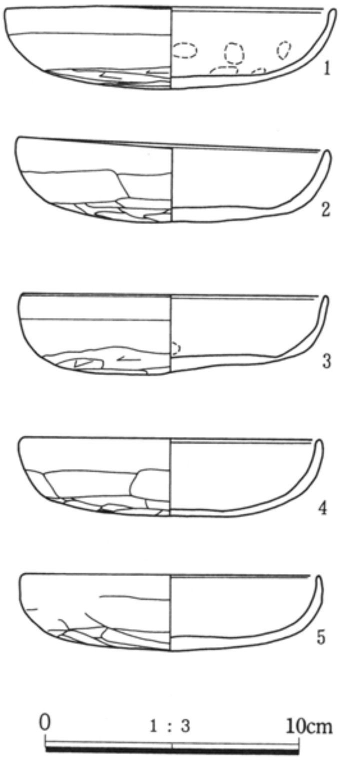
柱穴　なし

貯蔵穴　なし

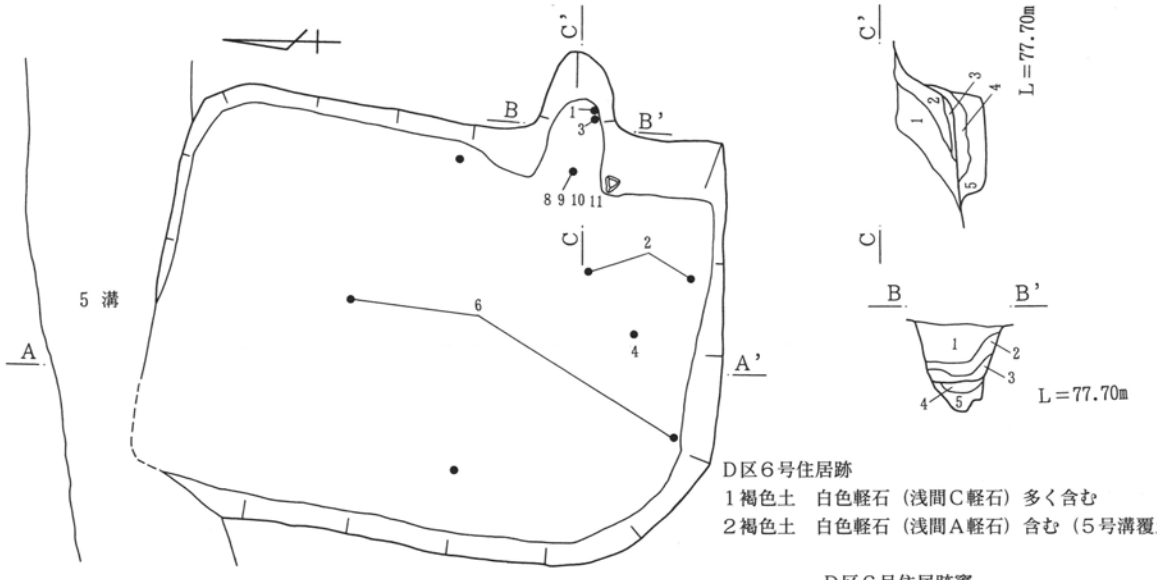
竈　東壁中央やや南寄りに付設され、煙道は壁外に64cm突出する。竈副断面に粘質土が多量に混入する層が確認でき、竈構築材として粘質土が使用されたことが窺える。

出土遺物　出土遺物は多く、平安時代の土師器杯・甕を主体とする。竈内より数個体の長胴甕片、床直上では完形の土師器杯・須恵器杯を出土している。該期に関わらないが石器剥片古墳時代前期土器片を混入品として出土している。本住居の時期は出土遺物より平安時代９世紀頃と思われる。

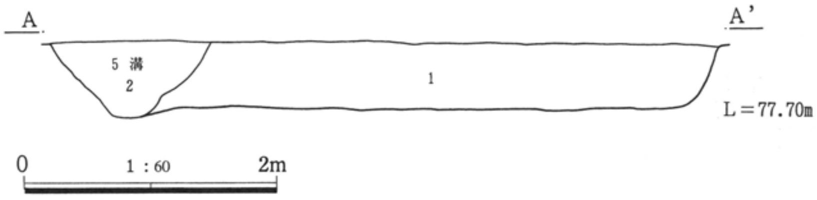
掘り方　竈煙道部掘り方には粘質土が多量に混入する土が充填されている。



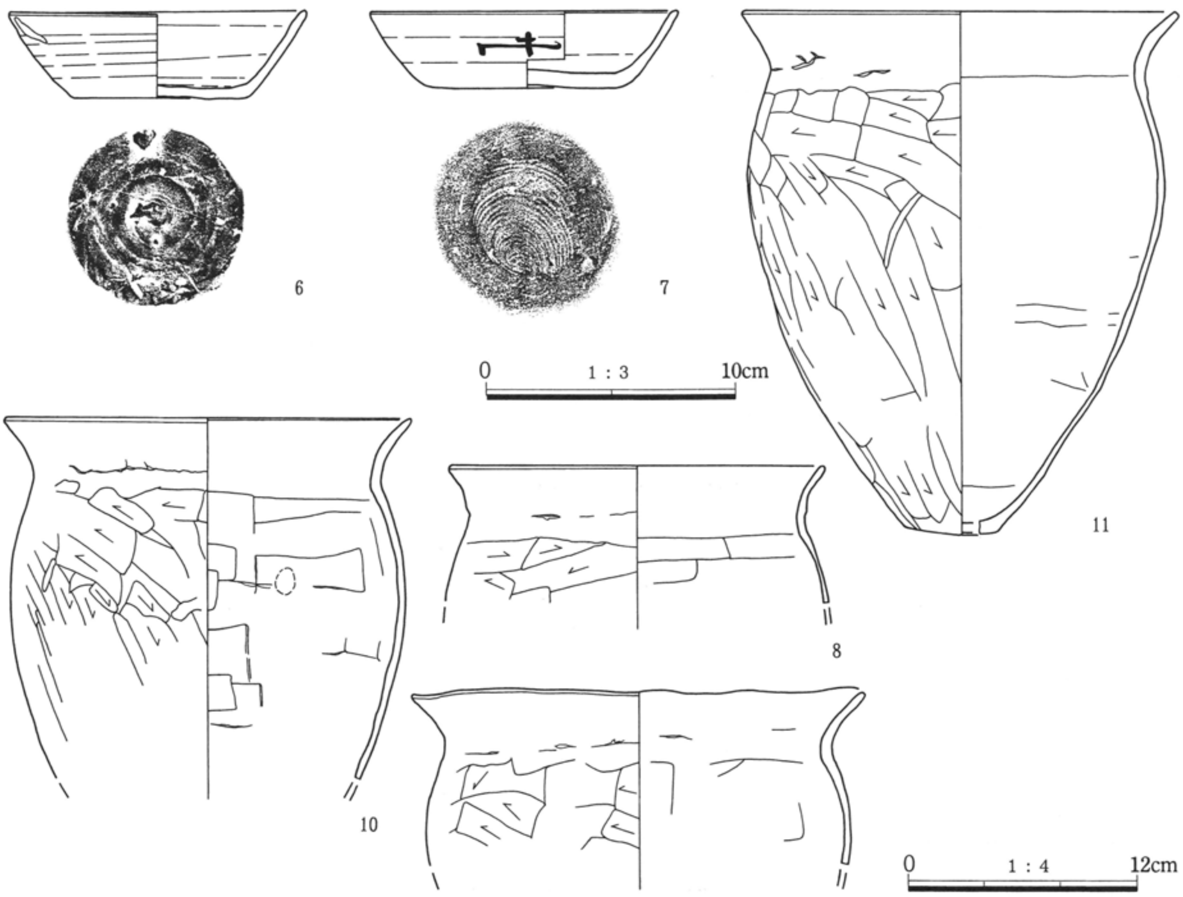
第97図　Ｄ区６号住居跡出土遺物



D区６号住居跡
１褐色土　白色軽石（浅間C軽石）多く含む
２褐色土　白色軽石（浅間A軽石）含む（５号溝覆土）



D区６号住居跡竈
１黒褐色土　　黒褐色土主体
２黄褐色土　　粘質土
３暗赤褐色土　焼土塊主体
４暗赤褐色土　焼土・灰の混土
５黄褐色土　　黄褐色砂質土粒多く混じる
　　　　　　　焼土粒含む



第98図　D区６号住居跡、出土遺物

D区7号住居跡

位置　840－240グリッド

規模　東西南北に十字に走るトレンチにより南壁際は消失している。その為、東西3.3mは計測できるが、南北長、床面積は不明である。

方位　N－103°－E

重複　なし

壁　残存壁高20cm前後と確認面より床面まで比較的深く、壁はほぼ垂直に掘り込む。

床面　貼床は無く掘り方を直接床としており、全体的に締まりは良好である。

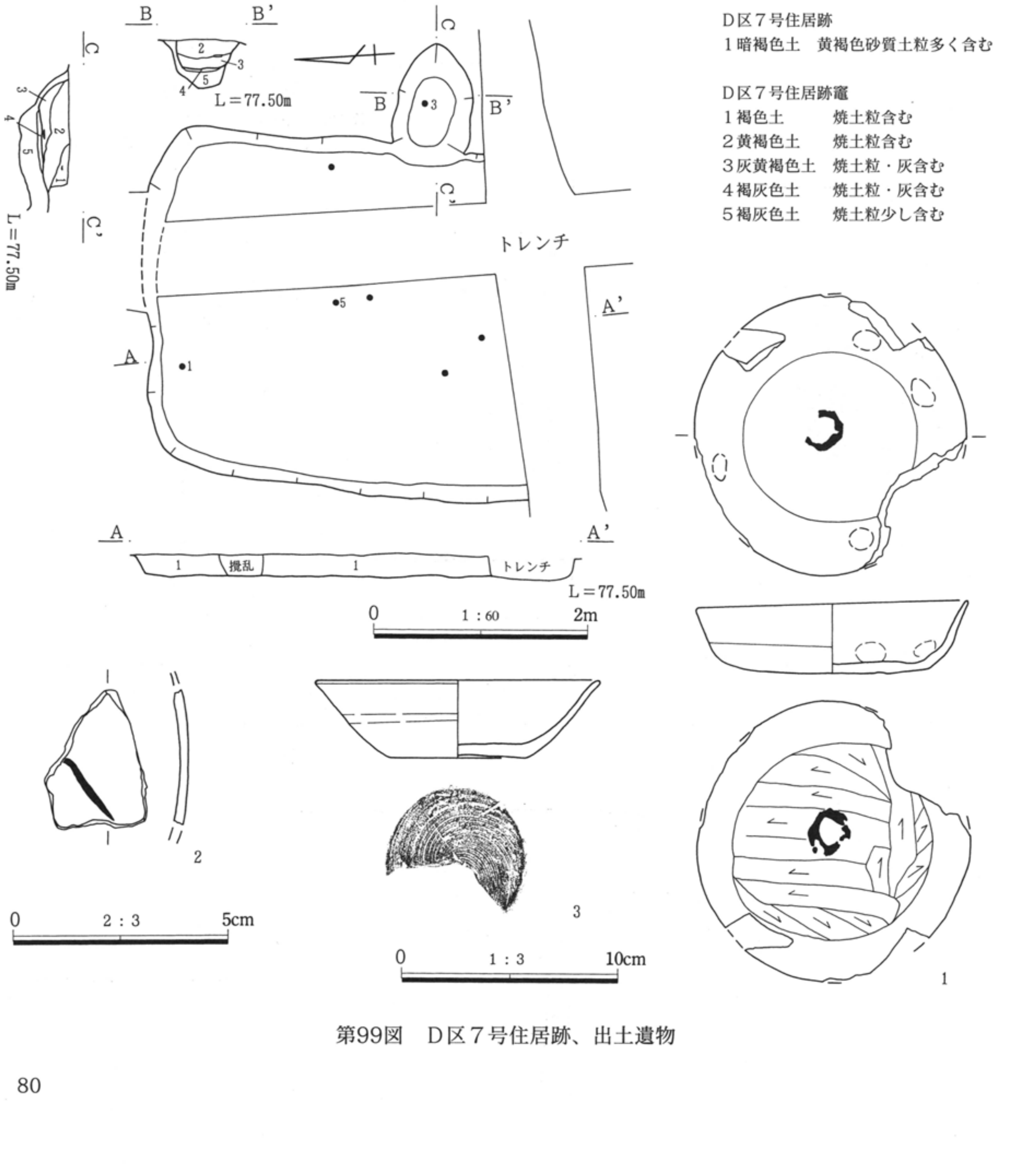
柱穴　なし

貯蔵穴　なし

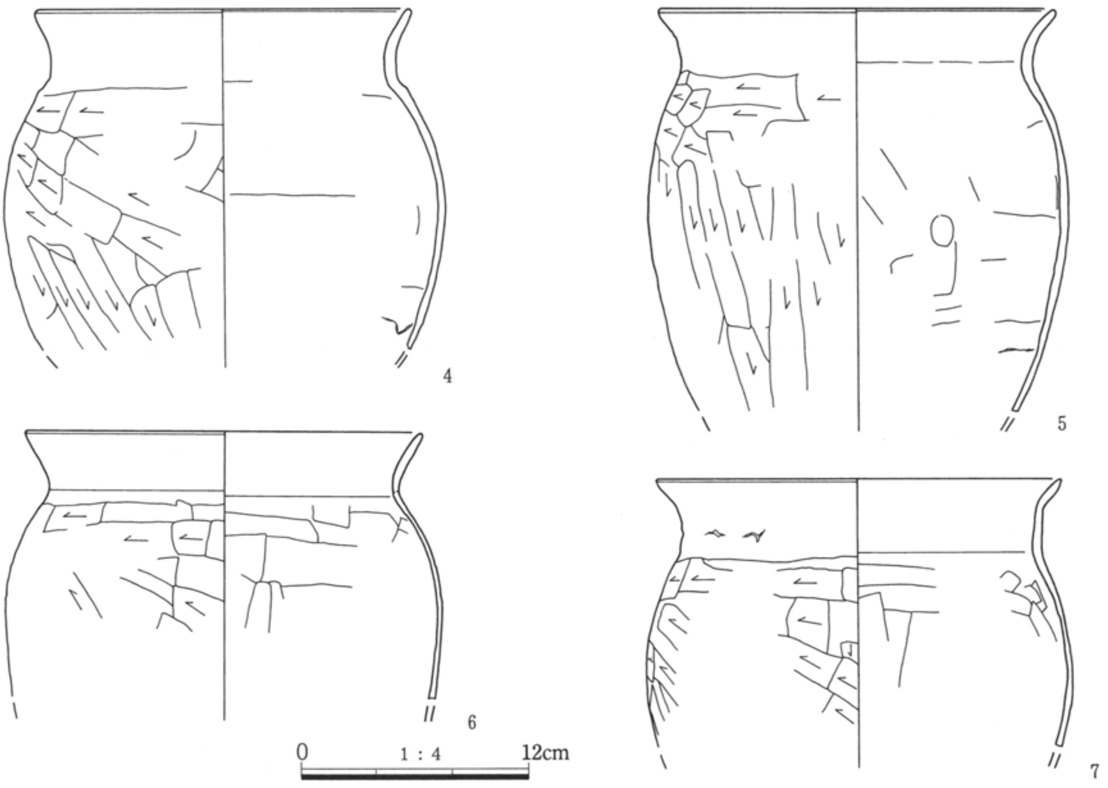
竈　東壁に付設され、煙道は壁外に96cm突出する。

出土遺物　出土遺物は多く、平安時代の杯・甕を主体とする。竈内より数個体相当の土師器長胴甕片、須恵器杯、床直上では土師器杯片・長胴甕片を出土している。一方掘り方より出土する遺物は古墳時代前期が主となる。該期に関わらないが縄文土器片・青磁片が混入品として出土している。本住居の時期は出土遺物より平安時代9世紀頃と思われる

掘り方　煙道部が一段下がるが住居部分はほぼ平坦な掘り方を呈する。



第99図　D区7号住居跡、出土遺物



第100図　D区７号住居跡出土遺物

D区８号住居跡

位置　850－260グリッド

規模　長軸3.9m、短軸2.9mを測り、床面積9.8㎡の長方形を呈する。

方位　N－95°－E

重複　なし

壁　残存壁高20cm前後と確認面より床面まで比較的深く、壁は垂直に掘り込む。

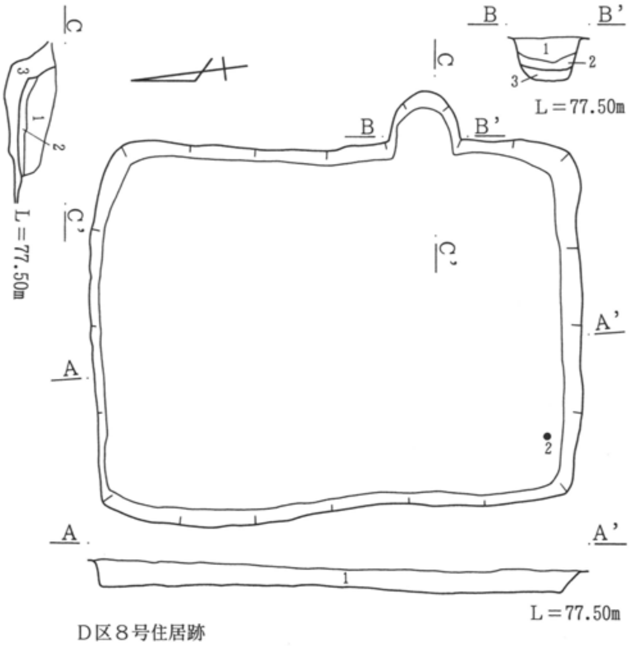
床面　貼床は無く、掘り方を直接床とし全体的に締まりは良好である。

柱穴　なし

貯蔵穴　なし

竈　東壁中央やや南寄りに付設され、煙道は壁外に40cm突出する。

出土遺物　出土遺物は少なく、平安時代の杯、甕を主体とする。竈からは長胴瓶口縁部片、床上からは土師器杯を出土している。該期に関わらないが古墳時代前期の土師器片数点混入品として出土している。本住居の時期は出土遺物より平安時代９世紀頃



D区８号住居跡
1暗褐色土　砂質土主体、白色軽石多く含む

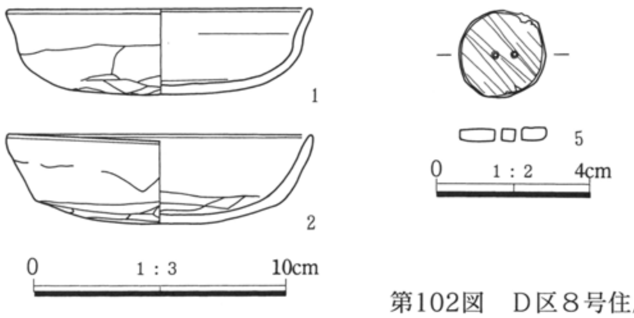
0　1：60　2m

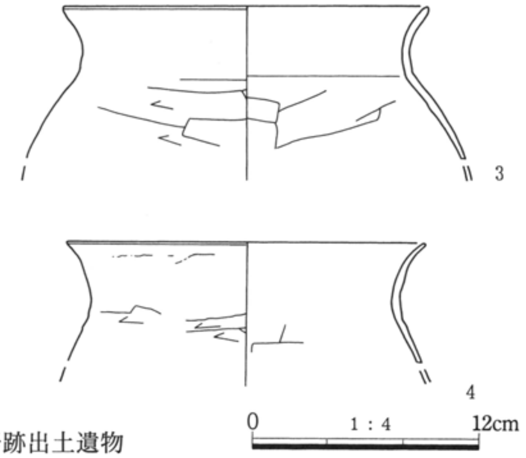
D区８号住居跡竈
1黄褐色土　焼土粒含む
2黒褐色土　焼土粒含む
3暗褐色土　黄褐色砂質土多く含む、焼土粒少し含む

第101図　D区８号住居跡

と思われる。

掘り方　竈煙道部が一段下がる掘り方を呈する。





第102図　D区8号住居跡出土遺物

D区9号住居跡

位置　850－200グリッド

規模　長軸4.3m、短軸4.1mを測る。住居北東隅の約1/4は攪乱により消失しており、床面積は計測不能である。

方位　N－84°－E

重複　ほぼ中央で2号溝と重複し、2号溝が新しい。

壁　残存壁高50cm前後と確認面より床面まで深く、壁はほぼ垂直に掘り込む。

床面　貼床は無く掘り方を直接床とし、全体的に締まりは良好、特に竈周辺の踏み締まりが強い。

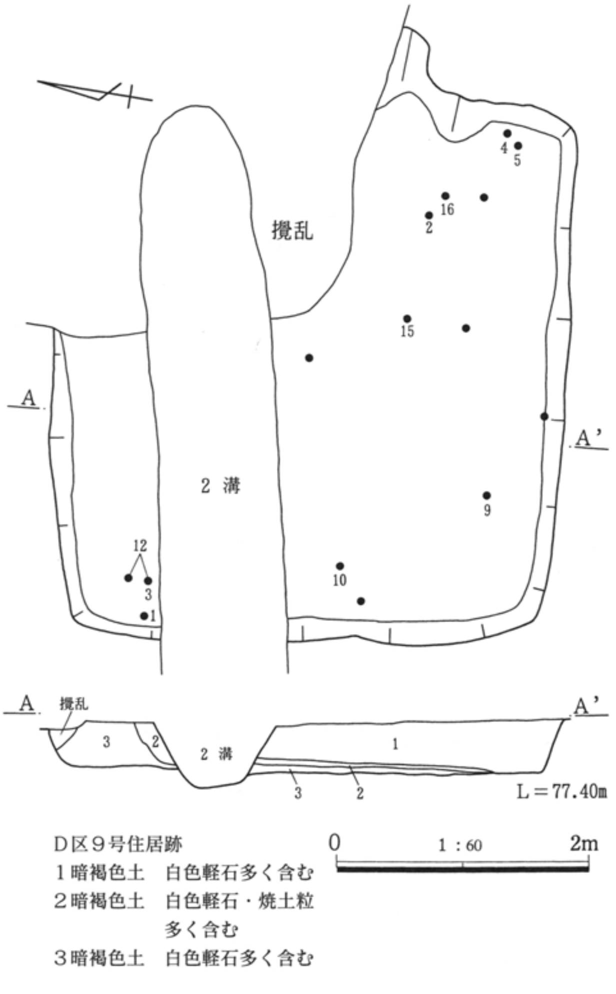
柱穴　なし

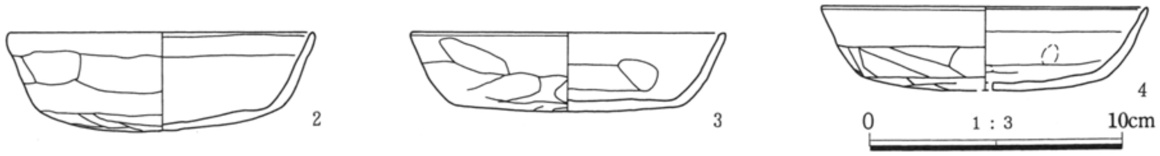
貯蔵穴　なし

竈　東壁中央南寄りに付設されているが、攪乱により殆ど消失しており詳細不明である。

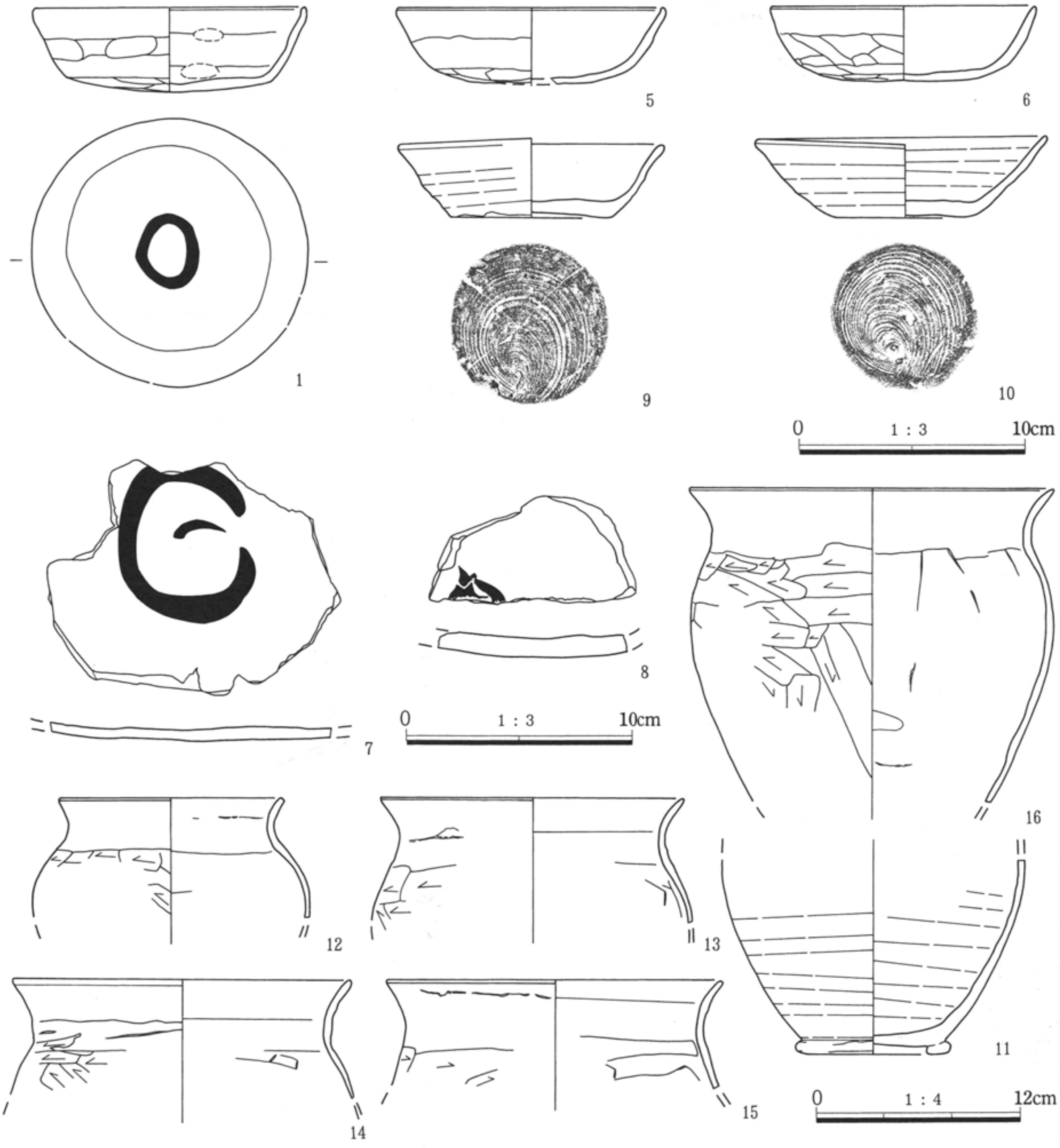
出土遺物　出土遺物は多く平安時代の土師器、須恵器を主体とする。竈焚き口付近より長胴甕片、杯、床上からは数点となる土師器杯、須恵器杯を出土している。該期以外の遺物として石器剥片、古墳時代前期土師器等を出土している。本住居の時期は出土遺物より平安時代9世紀頃と思われる。

掘り方　ほぼ平坦な掘り方を呈する。





第103図　D区9号住居跡、出土遺物



第104図　D区９号住居跡出土遺物

D区10号住居跡

位置　860－200グリッド

規模　長軸3.3m、短軸2.3mを測り、床面積6.8㎡（推定）の長方形を呈する。

方位　N－87°－E

重複　なし

壁　残存壁高５cm前後と確認面より床面まで浅く殆ど削平されている。壁はほぼ垂直に掘り込む。残存状況が極めて悪く住居覆土断面分層は出来ない。

床面　貼床は無く掘り方を直接床とし、周辺の踏み締まりは良好だが、床面の踏み締まりは弱い。

柱穴　なし

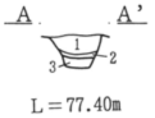
貯蔵穴　なし

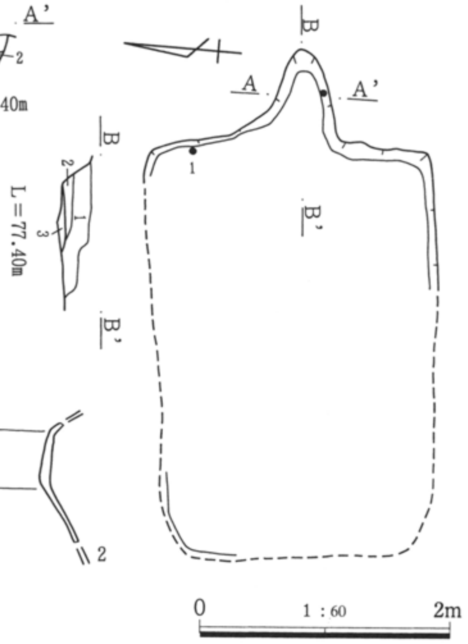
竈　東壁中央やや南寄りに付設され、煙道は壁外に72cm突出する。

出土遺物　出土遺物は非常に少なく平安時代の土師器甕・杯の小破片を主体とする。竈煙道部よりコの字状口縁甕片、床上からは土師器杯を出土している。

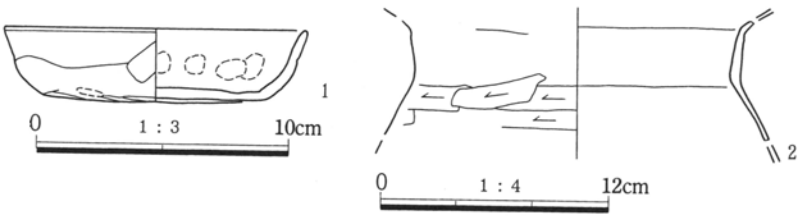
該期以外の遺物として古墳時代土師器片、須恵器片が数点出土している。本住居の時期は出土遺物より平安時代９世紀頃と思われる。

掘り方　竈煙道部分は一段深いが、他はほぼ平坦な掘り方を呈する。





Ｄ区10号住居跡竈
１褐色土　　褐色土主体
２褐灰色土　灰・褐色土の混土、焼土粒含む
３暗褐色土　黒褐色土・黄褐色砂質土の混土



第105図Ｄ区10号住居跡、出土遺物

Ｄ区11号住居跡

位置　860－190グリッド

規模　南北3.3mを測る。北側は攪乱により、中央から南西隅に掛けては土坑や攪乱により大きく破壊されている。住居プランは長方形を呈すると思われるが、東西長、床面積は計測不能である。

方位　N－77°－E

重複　住居中央西寄りで26土坑・27土坑と重複するが、26土坑・27土坑は中・近世の遺構で住居より新しい。

壁　残存状況良好な部分でも残存壁高10cm前後と確認面より床面まで浅く削平が深い。壁はほぼ垂直に掘り込む。

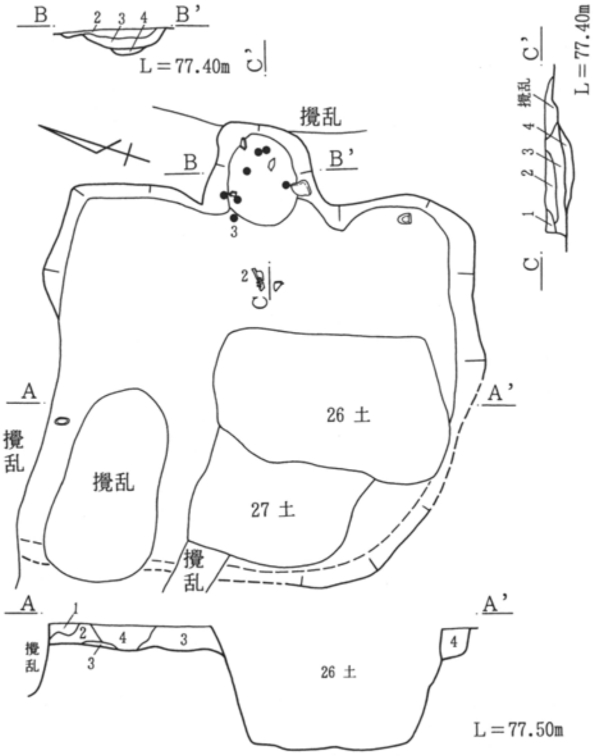
床面　貼床は無く掘り方を直接床とし、竈周辺の踏み締まりは良好である。

柱穴　なし

貯蔵穴　なし

竈　東壁ほぼ中央に付設され、煙道は壁外に60cm

Ｄ区11号住居跡竈
１鈍い黄褐色土　鈍い黄褐色砂質土主体
２黒褐色土　　　焼土粒少し含む
３灰黄褐色土　　粘質
４褐色土　　　　黄褐色砂質土塊含む、焼土粒含む



Ｄ区11号住居跡
１攪乱
２暗褐色土　　　暗褐色土主体
３鈍い黄褐色土　黄褐色砂質土主体、弱粘質
４黒褐色土　　　黒褐色土主体、弱粘質

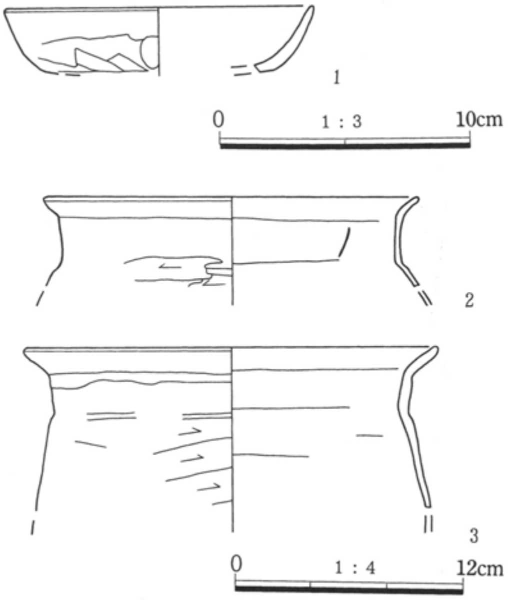
0　1：60　2m

第106図　Ｄ区11号住居跡

以上突出するが、竈先端は攪乱により消失しており全体長は不明。また、竈覆土断面には粘質土層が確認でき竈構築材として粘質土が使用されたことが窺える。

出土遺物　出土遺物は多い。古墳時代後期、平安時代、現代等の土器や陶磁器が混在しているが、主体を成すのは平安時代の土師器甕片・杯片である。竈内からは平安時代のコの字状口縁甕片、覆土からは平安時代の土師器杯片が出土している。本住居の時期は出土遺物より平安時代９世紀頃と思われる。

掘り方　竈煙道部分は一段深いが、他はほぼ平坦な掘り方を呈する。



第107図　Ｄ区11号住居跡出土遺物

Ａ区５号住居跡

位置　850－500グリッド

規模　長軸3.7m、短軸3mを測り、床面積9.1㎡（推定）の縦長長方形を呈する。攪乱により住居北西隅と竈左側や右煙道部が破壊されているうえに現代の農具痕も夥しく、全体的に破壊が著しい。

方位　Ｎ－107°－Ｅ

重複　南壁が８号土坑と重複し、８号土坑が古い。

壁　残存壁高40cmと確認面より床面まで深く、壁は垂直に掘り込む。また、住居覆土は暗褐色土・褐色土等が所謂レンズ状堆積をしており自然埋没状況を呈する。

床面　黄褐色砂質土塊を多量に含む土を貼床とし、全体的に締まりは良好、特に竈周辺及び柱穴内側の踏み締まりが強い。

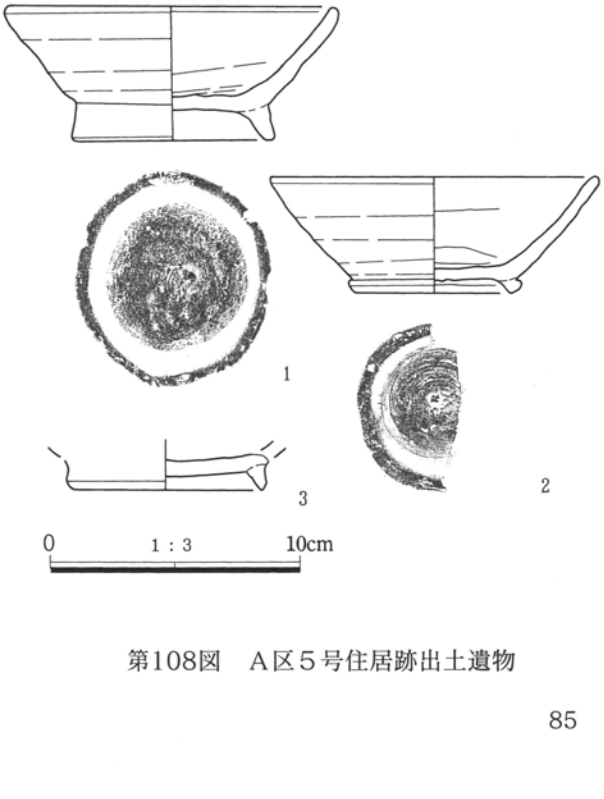
柱穴　なし

貯蔵穴　使用面では確認できなかったが、掘り方で住居中央竈寄りに上幅１×１m、深さ16cmのほぼ円形の床下土坑を検出した。

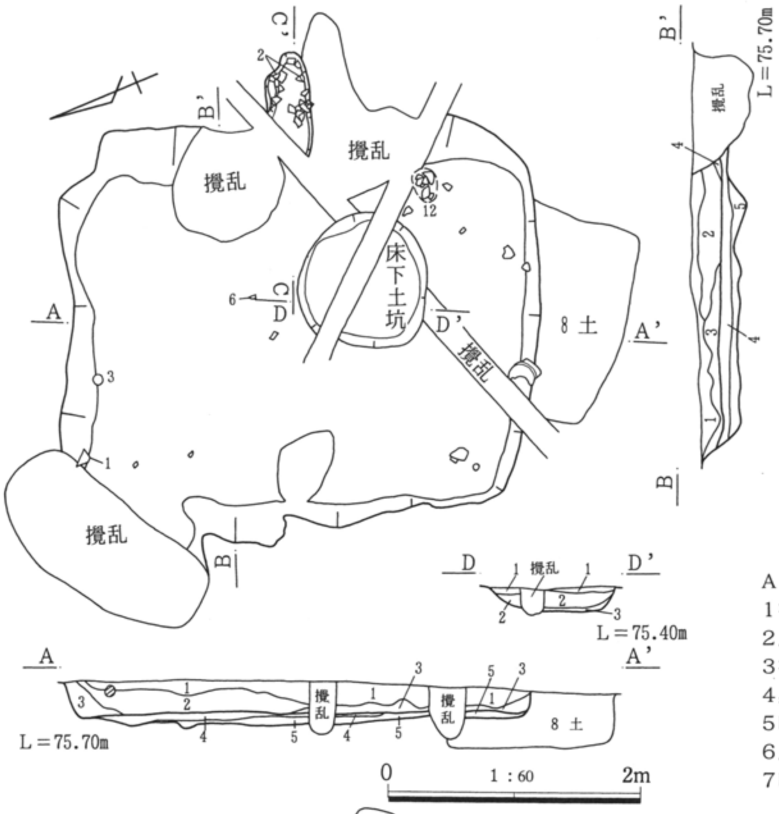
竈　東壁ほぼ中央に付設され、煙道は壁外に64cm突出する。右半分に攪乱が入り確認できない部分もある。

出土遺物　竈内、床直上より遺物は比較的多く出土している。その多くは甕・壺・杯の小破片であるが、高台部を硯に転用している須恵器片も出土している。覆土中では土垂・輪花椀・灰釉陶器・墨書土器の各小破片が出土している。当該住居時期に関わらないが石器剥片・弥生時代中期後半後期の土器片、等も混入品として出土している。本住居は出土遺物より平安時代10世紀頃と思われる。

掘り方　多少の凹凸は目立つが全体的には平坦な掘り方を呈する。



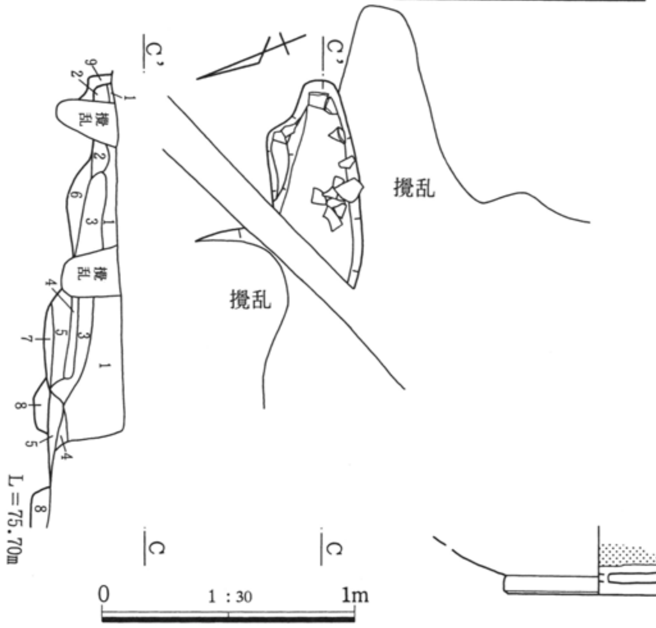
第108図　Ａ区５号住居跡出土遺物

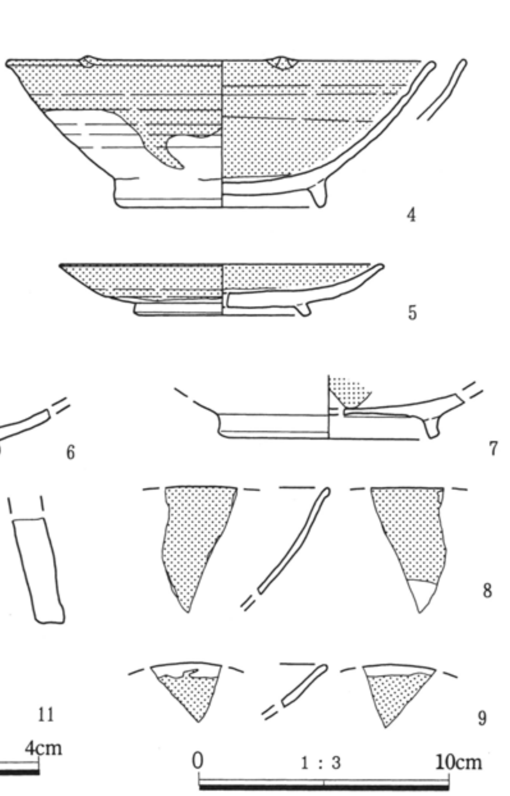


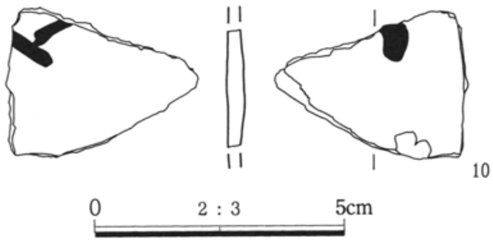
A区5号住居跡
1暗褐色土　黄褐色砂質土粒を多く含む
2暗褐色土　黄褐色砂質土粒を多く含む
　　　　　　黄褐色砂質土塊を少し含む
3褐色土　　黄褐色砂質土多く混じる
4黄褐色土　黄褐色砂質土塊を多く含む
　　　　　　暗褐色土塊を含む、非常に堅緻
5黄褐色土　黄褐色砂質土塊と暗褐色土塊の混土、堅緻

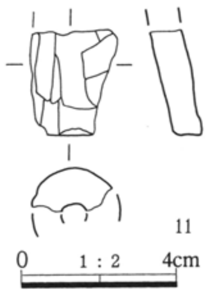
A区5号住居跡床下土坑
1褐色土　　黄褐色砂質土粒・白色軽石を少し含む
2暗褐色土　黄褐色砂質土粒多く含む、黄褐色砂質土塊・白色軽石を少し含む
3褐色土　　黄褐色砂質土粒・白色軽石を多く含む、焼土粒を含む

A区5号住居跡竈
1褐色土　　焼土塊、黄褐色砂質土塊を多く含む
2灰褐色土　焼土粒・黄褐色砂質土粒を多く含む
3褐色土　　黄褐色砂質土粒・白色軽石を少し含む
4黒色土　　焼土・黄褐色砂質土粒を少し含む
5暗褐色土　黄褐色砂質土粒を多く含む
6灰褐色土　焼土塊灰を多く含む
7暗褐色土　焼土塊・炭化物を含む、黄褐色砂質土粒を少し含む
8暗褐色土　黄褐色砂質土粒・白色軽石を少し含む
9明赤褐　　地山黄褐色砂質土が被熱により赤変

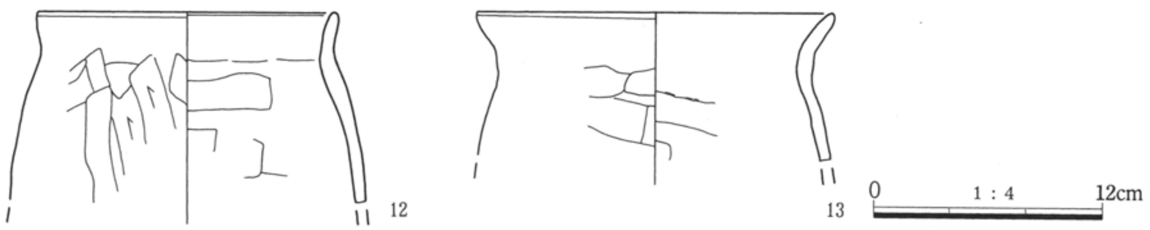








第109図　A区5号住居跡、竈、出土遺物



第110図　Ａ区５号住居跡出土遺物

Ａ区８号住居跡

位置　850－500グリッド

規模　長軸4.2m、短軸2.9mを測り、床面積11.1㎡の長方形を呈する。

方位　N－11°－E

重複　14号土坑と重複し、14号土坑が古い。

壁　残存壁高10cm前後と確認面より床面まで浅く、殆ど削平されている。縦横に入るトレンチャーによる攪乱のため所々壁は寸断されているが、ほぼ垂直に掘り込む。

床面　ほぼ平坦で、全体的に締まりは良好である。

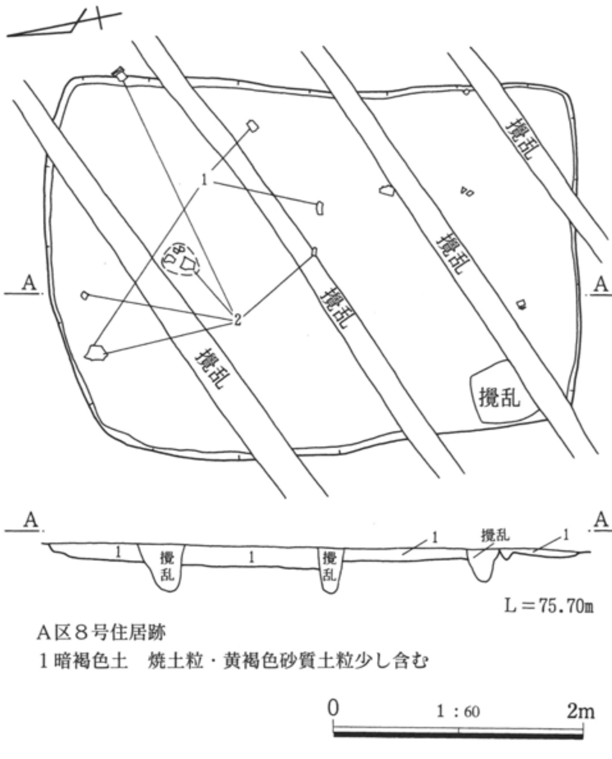
柱穴　なし

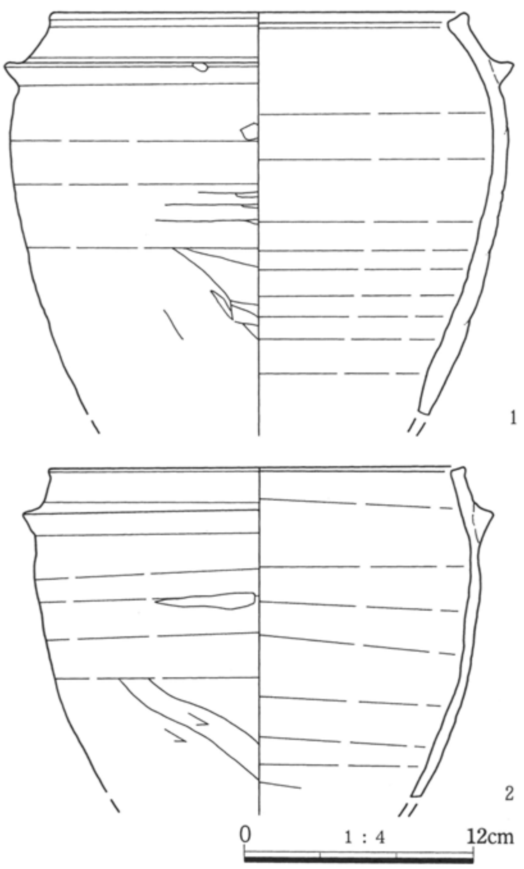
貯蔵穴　なし

竈　削平が深く攪乱も激しく、竈は確認できず存在は不明。

出土遺物　出土遺物は比較的多く、床直上より羽釜口縁部片を数点出土している。古墳時代の土師器杯・甕片も多く出土しているが、これらの土器は重複する古墳時代後期の14号土坑に関わる遺物と思われる。本住居は平安時代10世紀頃と思われる。

掘り方　明瞭な貼床は確認できなかったが、住居中央で重複する14号土坑覆土の１・２層は堅緻であり、８号住居貼床の可能性は高い。





第111図　Ａ区８号住居跡、出土遺物

A区9号住居跡

位置　860−500グリッド

規模　長軸2.7m、短軸2ｍを測り、床面積5.2㎡の長方形を呈する。

方位　N−119.5°−E

重複　なし

壁　残存壁高12cm前後と確認面より床面まで浅く、殆ど削平されている。縦横に入るトレンチャーによる攪乱のため、住居壁は部分的に寸断されていたが、形状はほぼ垂直に掘り込まれていた。

床面　攪乱が激しく床全面の確認は出来なかったが、部分的に残存する床はほぼ平坦で踏み締まりも良好であった。

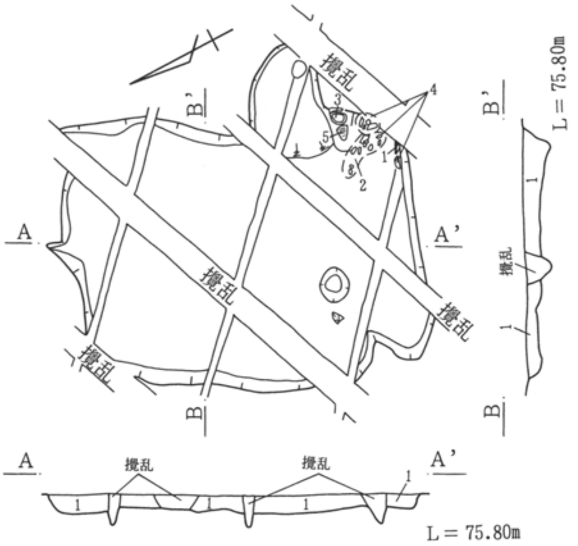
柱穴　なし

貯蔵穴　なし

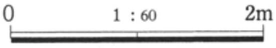
竈　東壁中央やや南寄りに付設され、煙道は壁外に60cm突出する。

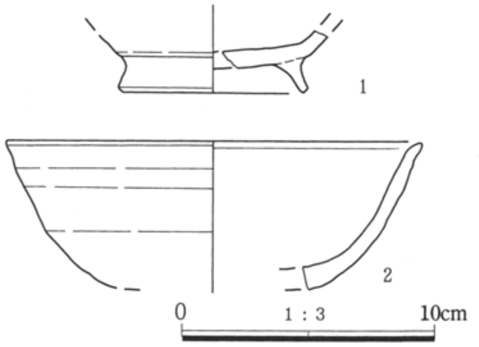
出土遺物　出土遺物は少ない。平安時代の土器が主体をなし床直上より羽釜口縁部小片を出土すが、実測しうるものは無かった。本住居の時期は出土遺物より平安時代10世紀頃と思われる。

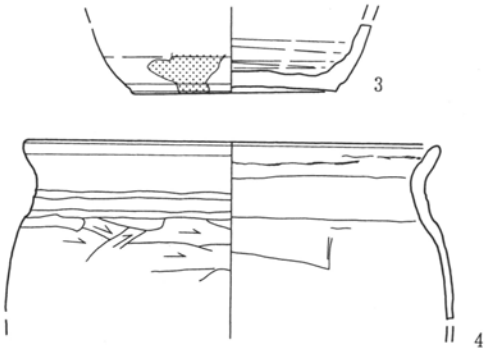
掘り方　貼床は無く、掘り方を直接床とする。

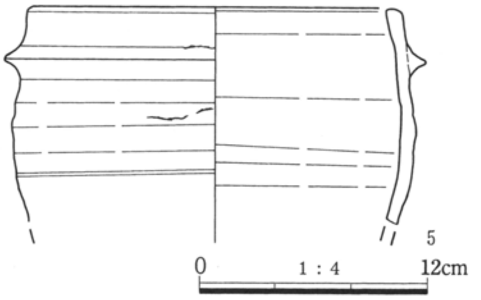


A区9号住居跡
1暗褐色土　黄褐色砂質土塊多く含む、
　　　　　黄褐色砂質土粒・白色軽石少し含









第112図　A区9号住居跡、出土遺物

A区17号住居跡

位置　820−490グリット

規模　住居南側は調査区外となり南北長・床面積は不明。東西長は3ｍを測る。

方位　N−107°−E

重複　なし

壁　残存壁高20cm前後と確認面より床面まで比較的深く、壁は垂直に掘り込む。トレンチャーによる攪乱が夥しく住居覆土断面の分層は不可能であった。

床面　貼床は無くほぼ平坦で、全体的に踏み締まりは良好である。

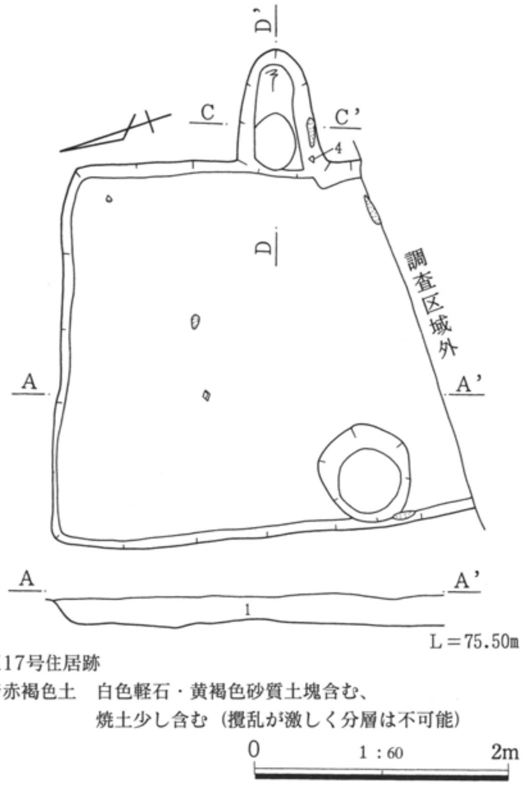
柱穴　なし

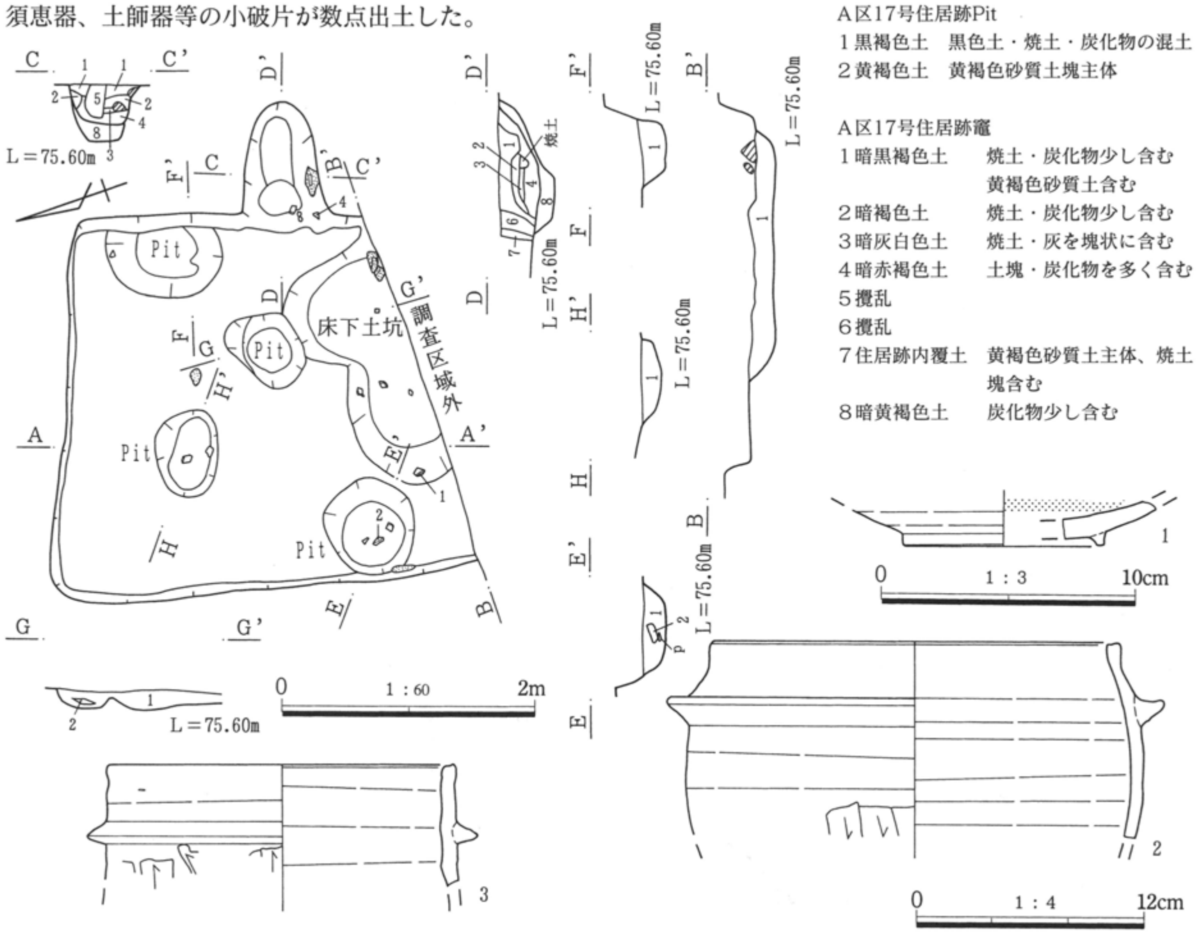
貯蔵穴　使用面では検出できなかったが、掘り方で西壁際に上幅76×72cm、深さ18cm、ほぼ円形の床下土坑を検出する。土坑からは遺物を数点出土している。

竈　東壁に付設され、煙道は壁外に92cm突出する。竈断面には僅かだが粘質土層が確認でき、竈構築材として粘土が使用されたことも考えられる。また、煙道右壁面中断に被熱により赤褐色化した礫も検出されている。

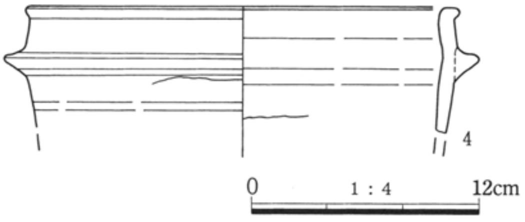
出土遺物　出土点数は少なく小破片が多い。異なる口縁部を持つ羽釜片が出土遺物の主体をなし、内１点は竈内より出土する。床直上より須恵器杯片を出土する。本住居は出土遺物より平安時代10世紀頃の住居と思われる。

掘り方　床下土坑以外に大小４個の不整円形の浅いピットが検出された。掘り方覆土からは灰釉陶器、須恵器、土師器等の小破片が数点出土した。





第113図　Ａ区17号住居跡、掘り方、出土遺物



第114図　Ａ区17号住居跡出土遺物

Ａ区18号住居跡

位置　840－480～830－480グリッド

規模　長軸4.2m、短軸3.5mを測り、床面積13.6㎡の長方形を呈す。

方位　N－107°－E

重複　19号住居と重複し19号住居が古い。

壁　残存壁高30cm前後と確認面より床面まで深く、壁は垂直に掘り込む。

床面　貼床は無くほぼ平坦で、全体的に踏み締まりは良好である。

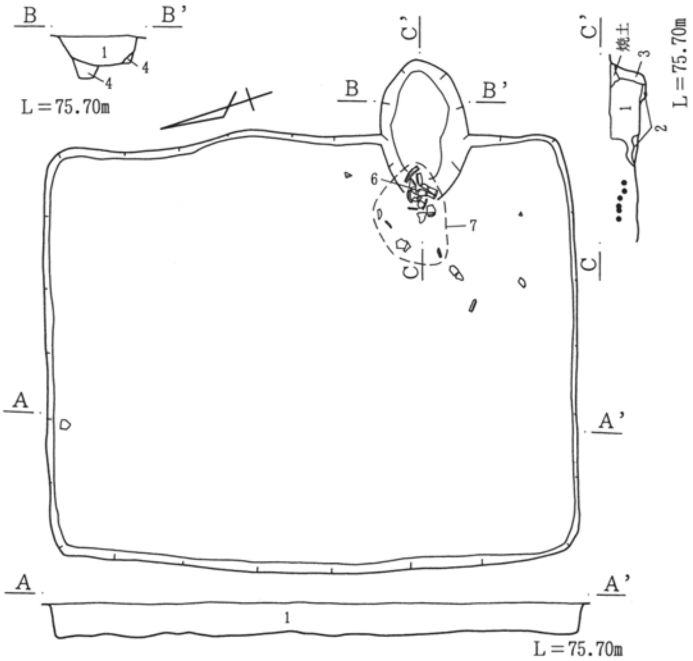
柱穴　なし

貯蔵穴　なし

竈　東壁南寄りに付設され、煙道は壁外に60cm突出する。

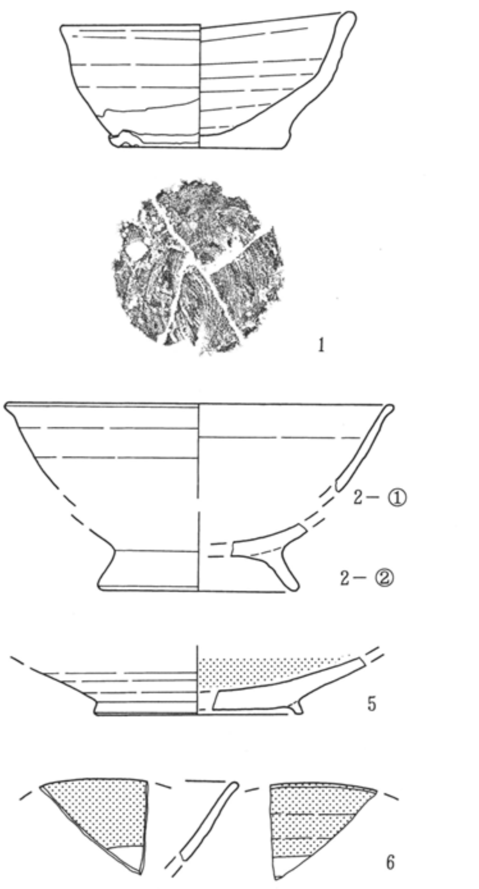
出土遺物　出土遺物は少ないが、竈周辺に須恵器片・土師器片が点在し、ほぼ完形となる羽釜が焚き口より出土している。該期に関わらないが石器、石器剥片等が混入品として出土している。本住居の時期は出土遺物より平安時代10世紀頃と思われる。

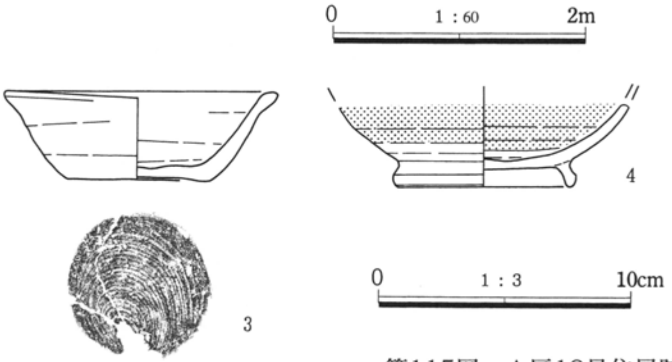
掘り方　ほぼ平坦で、覆土より灰釉陶器片、椀、須恵器杯が出土している。



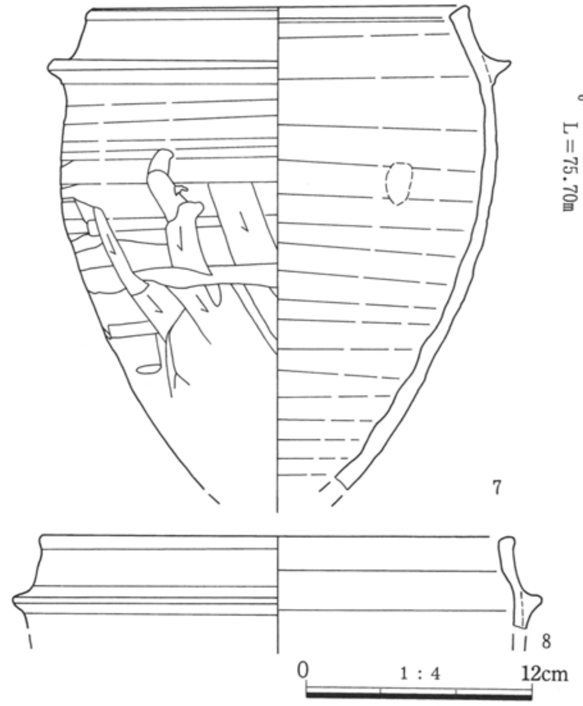
Ａ区18号住居跡
1黄褐色土　黄褐色砂質土主体、白色軽石含む、焼土少し含む

Ａ区18号住居跡竈
1暗黒褐色土　焼土・炭化物少し含む
2暗黄褐色土　焼土塊・炭化物多く含む
3暗黄褐色土　黄褐色砂質土含む、焼土・炭化物含む
4黄褐色土　黄褐色砂質土主体

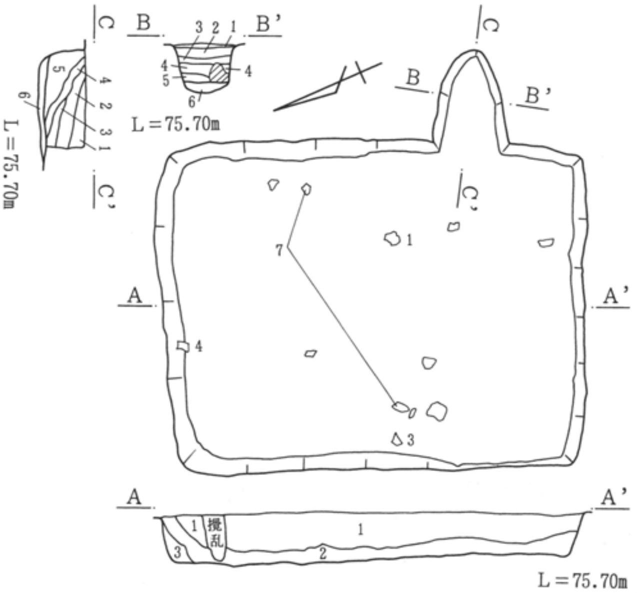




第115図　Ａ区18号住居跡、出土遺物



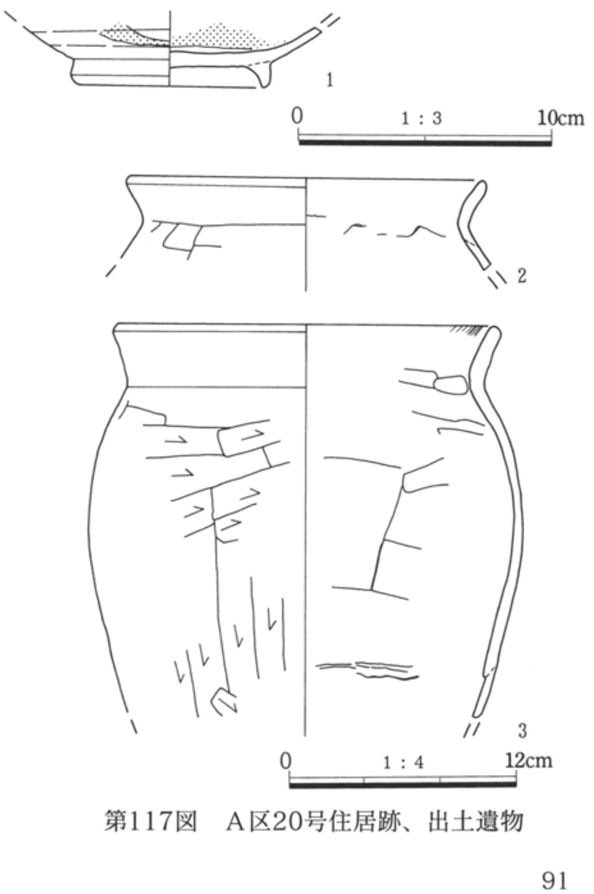
第116図　Ａ区18号住居跡出土遺物



Ａ区20号住居跡
１黄褐色土　黄褐色砂質土主体
２褐色土　黄褐色砂質土塊含む
３黄褐色土　黄褐色砂質土主体

0　1：60　2m

Ａ区20号住居跡竈
１褐色土　焼土塊少し含む
２褐色土　焼土塊多く含む
３赤褐色土　焼土塊主体
４赤褐色土　焼土・黄褐色砂質土の混土
５褐色土　焼土塊少し含む
６黄褐色土　黄褐色砂質土塊・黒褐色土塊の混土（住居跡床面の層）



第117図　Ａ区20号住居跡、出土遺物

Ａ区20号住居跡

位置　840－480～830－470グリッド

規模　長軸3.3m、短軸2.6mを測る、床面積7.7㎡の長方形を呈する。

方位　Ｎ－112°－Ｅ

重複　東壁が21号住居と北壁が37号住居と重複し、21号住居・37号住居が古い。

壁　残存壁高30cm前後と確認面より床面まで深く、壁も垂直に掘り込まれる。

床面　貼床は無く、掘り方を直接床としている。床面はほぼ平坦で全体的に踏み締まりは良好である。

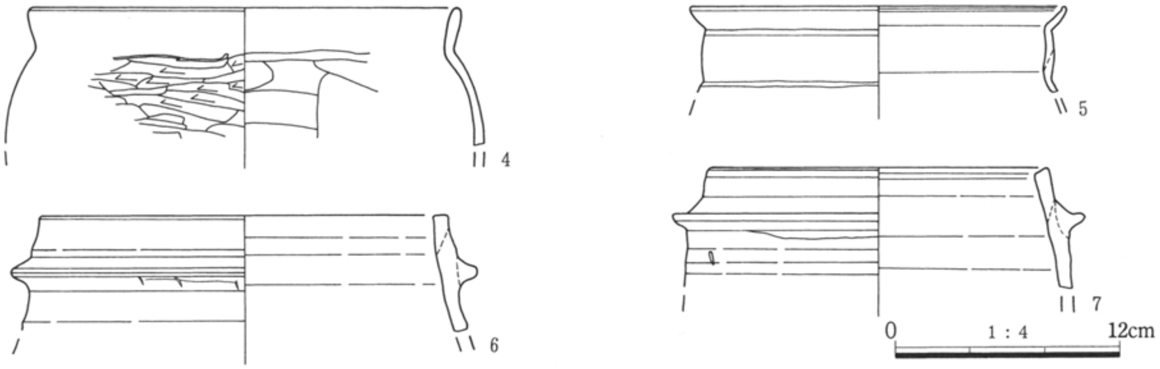
柱穴　なし

貯蔵穴　なし

竈　東壁南寄りに付設され、煙道は壁外に70cm突出する。

出土遺物　出土遺物は甕、杯の小破片を中心に多く、土師器が3/4須恵器が1/4程である。床直上より羽釜口縁部片が数点出土している。石器剥片の混入以外、本住居の該期を逸脱する物は無く、本住居は平安時代10世紀頃と思われる。

掘り方　ほぼ平坦な掘り方を呈する。



第118図　A区20号住居跡出土遺物

A区21号住居跡

位置　840－470～830－470グリッド

規模　長軸4.7m、短軸3.5mを計り、床面積14.6㎡（推定）の長方形を呈する。

方位　N－88.5°－E

重複　西壁が20号住居と重複し20号住居が新しく、北壁が37号住居と重複し37号住居が古い。

壁　残存壁高35cm前後確認面より床まで深く、壁は垂直に掘り込む。

床面　黄褐色砂質土を多量に混入する古い住居の埋土を貼床として利用しており、床面はほぼ平坦である。

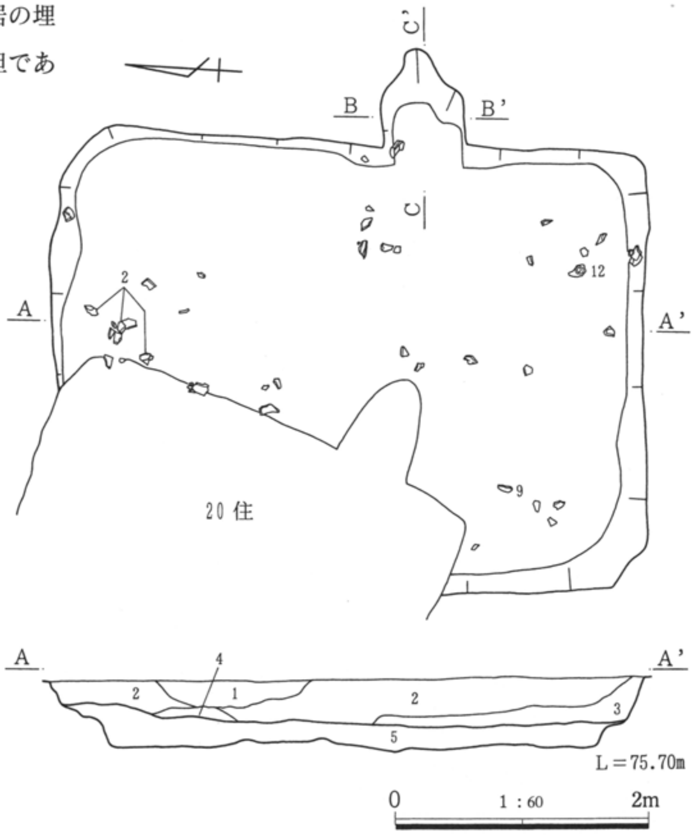
柱穴　なし

貯蔵穴　なし

竈　東壁中央やや南寄りに付設され、煙道は壁外に76cm突出する。竈煙道底には粘質土主体の層が確認でき竈構築材とした粘質土が使用されたことが窺える

出土遺物　出土遺物は多いもののその殆どが小破片であった。接合・復元の結果、ほぼ完形となった土器は須恵器杯・椀類が多く、灰釉陶器片の出土も他の住居に比して顕著である。石器剥片や古墳時代の土師器片も僅か混入するが、出土遺物の主体は10世紀代の甕、杯、椀といった土器であり、本住居の時期は平安時代10世紀頃と思われる。

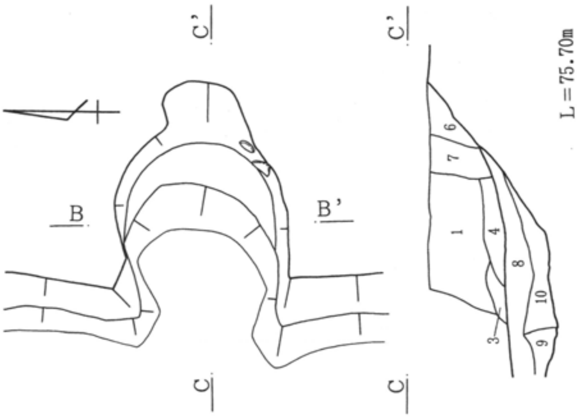
掘り方　床面下約20cmに本住居より一回り小さい縦長長方形の平坦面を検出した。竈部分も２段の段差を有する掘り方となり、下位段は新たに検出した平坦面を浅く掘り込み、灰白色粘質土により充填されていた。この灰白粘質土は古い竈の構築材として

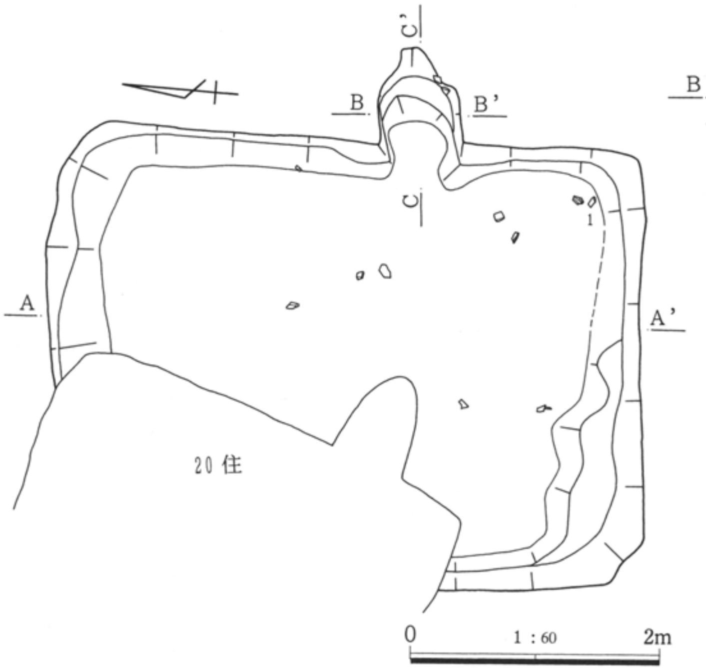


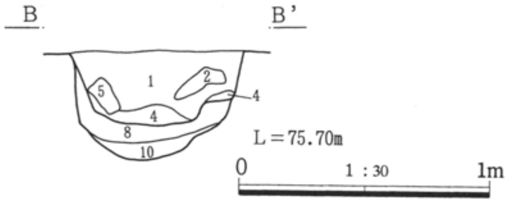
A区21号住居跡
1攪乱
2暗黒褐色土　黄褐色砂質土塊含む、焼土粒・炭化物・白色軽石少し含む
3暗黒褐色土　２層に類似、黄褐色砂質土塊の含有率が低い
4暗黄褐色土　黄褐色砂質土塊・炭化物多く含む
5暗黒褐色土　黄褐色砂質土塊・白色軽石含む

第119図　A区21号住居跡

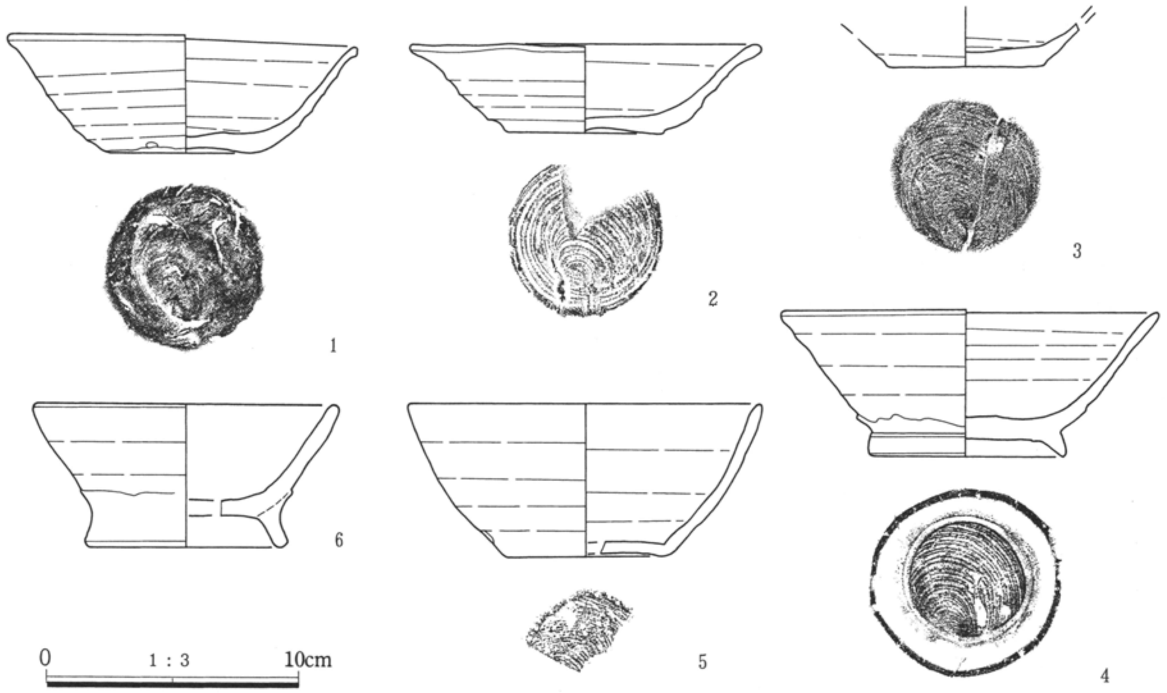
利用された土であろうか。掘り方覆土からは数多くの土器片を出土したが、主体は９世紀代の杯や甕の小破片であった。新たに検出した縦長長方形の遺構はその形状から見て竪穴住居と思われ、重複することなく全体的に一回り大きくしたのが21号住居となっていることから、上の面で検出した21号住居は下の住居の建て替えの可能性も考えられる。



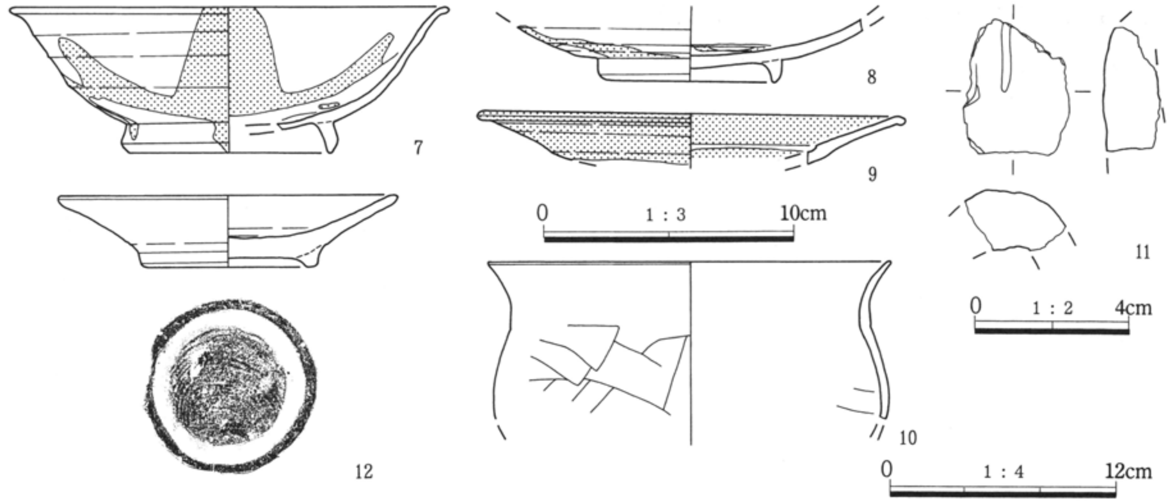




Ａ区21号住居跡竈
１暗黄褐色土　黄褐色砂質土多く混じる、焼土粒・炭化物少し含む
２明黄褐色土　焼土塊
３暗黄褐色土　焼土塊多く含む、黄褐色砂質土粒含む
４暗赤褐色土　焼土粒・塊主体
５明赤褐色土　焼土塊
６明黄褐色土　焼土塊・炭化物多く含む、黄褐色砂質土混じる
７攪乱
８暗灰白色土　焼土・炭化物多く含む
９白色粘質土　粘質土主体、焼土少し含む
10暗黄褐色土　黄褐色砂質土多く含む、焼土・灰炭化物含む



第120図　Ａ区21号住居跡掘り方、竈、出土遺物



第121図　Ａ区21号住居跡出土遺物

Ａ区23号住居跡

位置　830－470～820－470グリッド

規模　長軸3.7m、短軸3.2mを測り、床面積10.8㎡の長方形を呈する。

方位　N－100.5°－E

重複　なし

壁　残存壁高８cm前後と確認面より床面まで浅く殆ど削平されており、壁は垂直に掘り込む。削平が深く、住居覆土断面の分層は出来ない。

床面　貼床は無く、掘り方を直接床とする。床面はほぼ平坦であるが締まりは弱い。

柱穴　なし

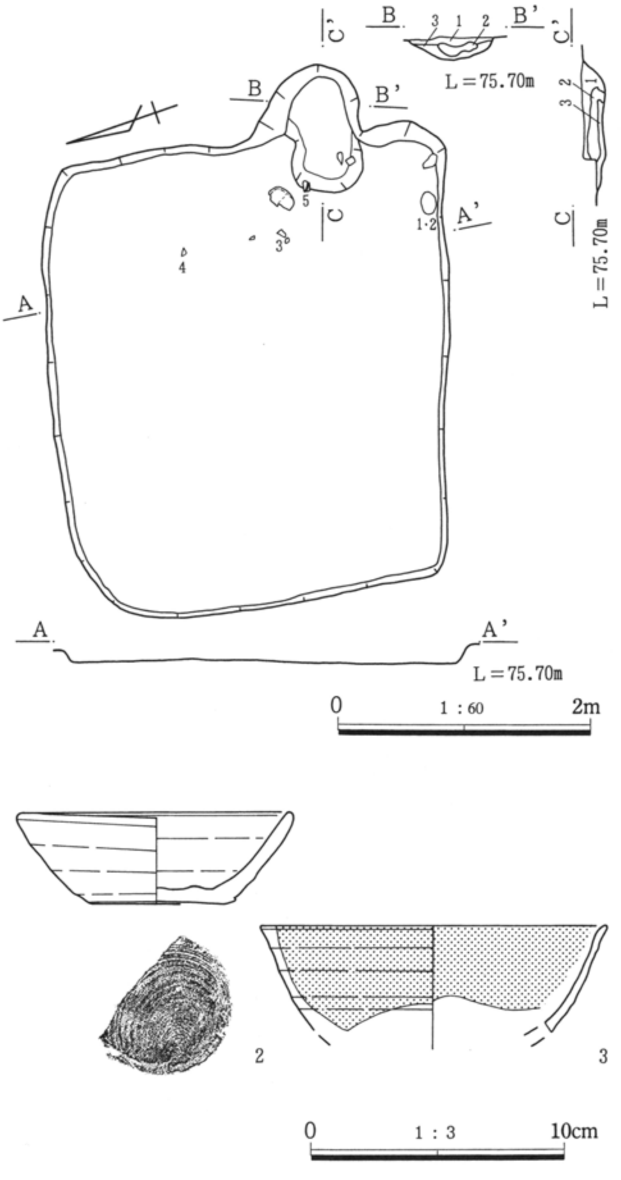
貯蔵穴　なし

竈　東壁やや南寄りに付設され、煙道部分は壁外に54cm突出する。

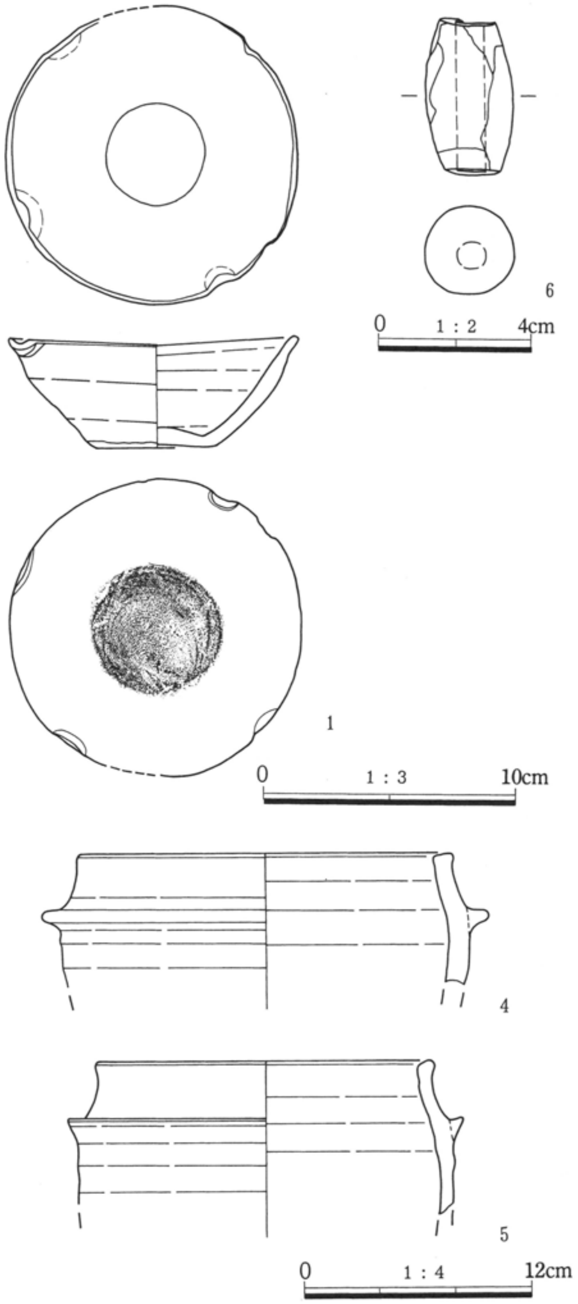
出土遺物　出土遺物は少なく平安時代の杯、甕の小破片が主である。竈周辺より羽釜口縁部片、輪花椀を模し口縁部の一部を窪ませる須恵器椀、床直上では土垂を出土している。本住居の時期は出土遺物より平安時代10世紀頃と思われる。

掘り方　ほぼ平坦で竈焚き口付近が一段低く掘り込まれる。

Ａ区23号住居跡竈
１暗黒褐色土　黄褐色砂質土主体、焼土・炭化物少し含む
２暗赤褐色土　焼土塊・炭化物多く含む
３暗赤褐色土　焼土主体



第122図　Ａ区23号住居跡、出土遺物



第123図　Ａ区23号住居跡出土遺物

Ａ区31号住居跡

本住居は残存状況が極めて悪く、殆ど削平されているうえにトレンチャーによる攪乱も夥しく重複する住居との新旧把握は困難を極めた。結果、本住居より古い28号住居・30号住居を先行して調査することとなり本住居壁の一部を消失している。

位置　850－480～840－480グリッド

規模　長軸3.8m、短軸3.2mを測る。床面積11.5㎡の長方形を呈する。

方位　N－95°－E

重複　北東部が28号住居、南西部が30号住居と重複し、28号住居・30号住居が古い。

壁　残存壁高４cm前後と確認面より床面まで極めて浅く殆ど削平されている。壁は垂直に掘り込むが、北東部・南西部壁は消失している。

床面　ほぼ平坦、明瞭な貼床は確認できない。

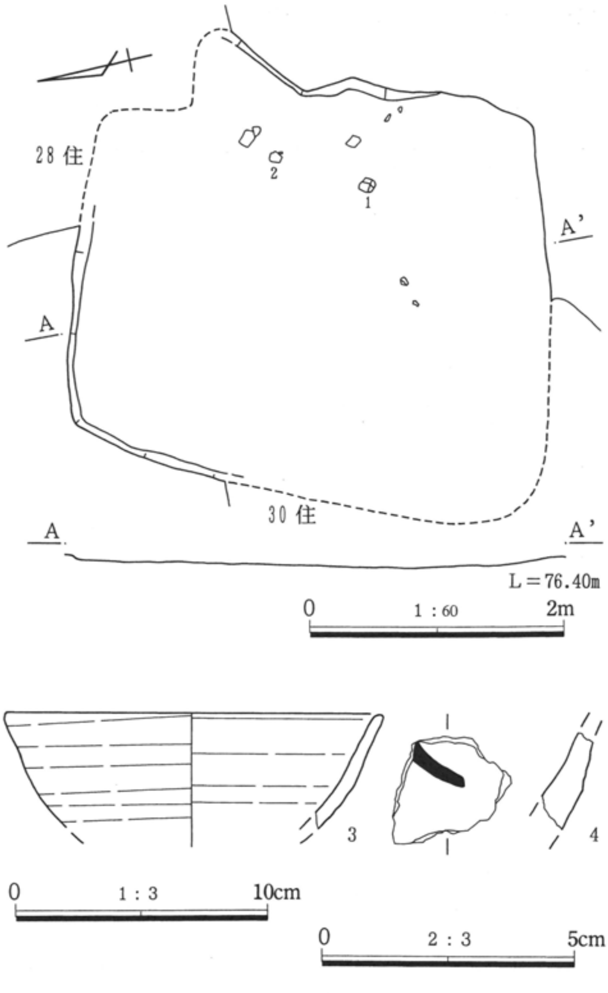
柱穴　なし

貯蔵穴　なし

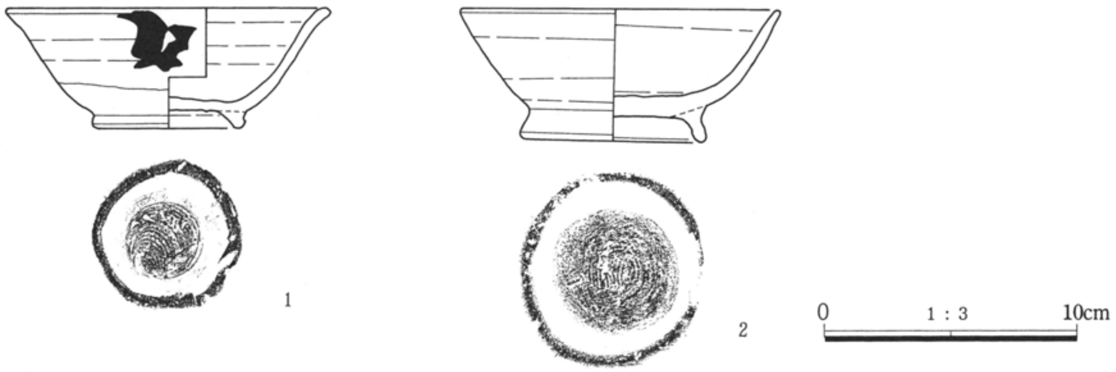
竈　確認できない

出土遺物　出土遺物は少ないが床直上より須恵器椀高台部片、羽釜胴部片等が出土している。本住居の時期は出土遺物より平安時代10世紀頃と思われる。

掘り方　貯蔵穴・柱穴等の施設は確認できなかった。



第124図　Ａ区31号住居跡、出土遺物



第125図　A区31号住居跡出土遺物

A区39号住居跡

本住居は残存状況が悪く殆ど削平されているうえに現代のトレンチャーによる攪乱も夥しく、重複する住居との新旧把握は困難を極めた。その結果、本住居より古い32号住居・29号住居を先行して調査することとなり壁の一部を消失している。

位置　850－480グリッド

規模　東西2.7mを測るが、南北長・床面積は計測できない。

方位　N－126°－E

重複　北側が32号住居、南側が29号住居と重複し、32号住居、29号住居が共に古い。

壁　残存壁高12cm前後と確認面より床面まで浅く、北壁・南壁及び東壁の一部は消失している。住居壁は垂直に掘り込む。

床面　床面はほぼ平坦、明瞭な貼床は確認できなかったが全体的に締まりは良好、竈周辺の踏み締まりは堅緻であった。

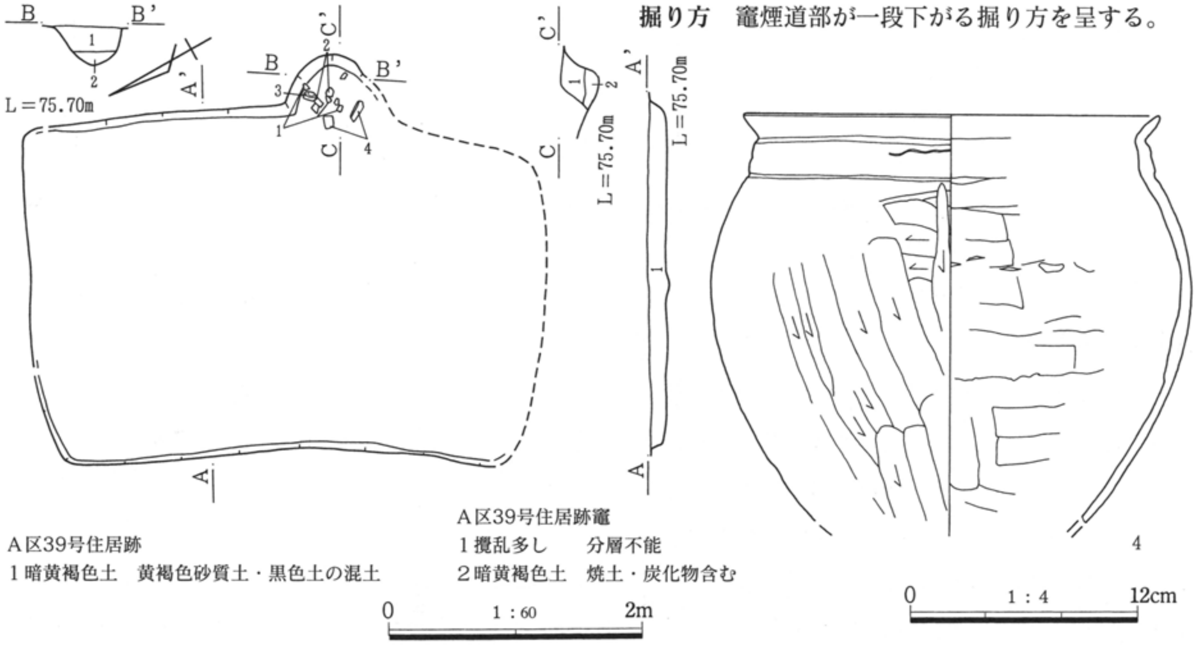
柱穴　なし

貯蔵穴　なし

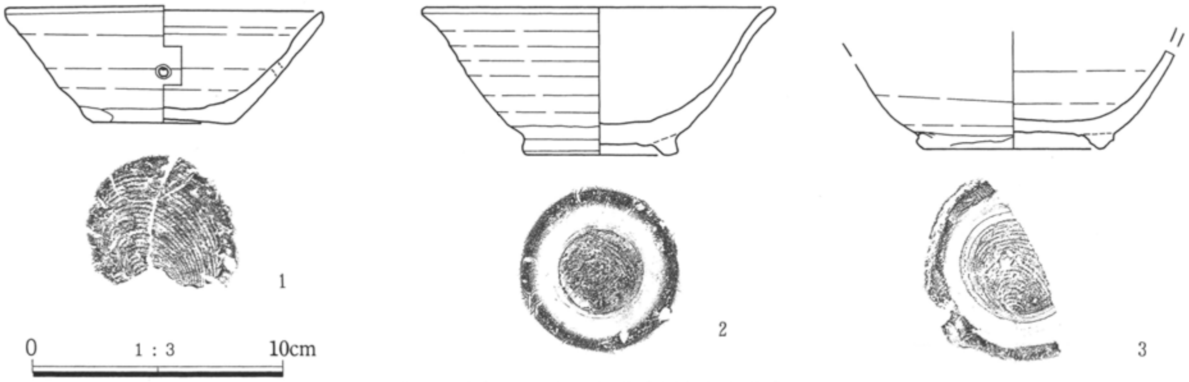
竈　東壁中央やや南寄りに付設され、煙道は壁外に40cm突出する。

出土遺物　出土遺物は少ない。竈内より出土した甕口縁部片は、コの字状口縁甕から土釜への移行過程の土器であろう。また、須恵器椀高台部片・須恵器椀胴部片等も竈内より出土している。本住居の時期は出土遺物より平安時代10世紀頃と思われる。

掘り方　竈煙道部が一段下がる掘り方を呈する。



第126図　A区39号住居跡、出土遺物



第127図　Ａ区39号住居跡出土遺物

Ｂ区３号住居跡

位置　850－460グリッド

規模　東側は道路工事に伴い消失しており、残存するのは住居西側の極一部である。短軸と思われる長さは５ｍを測るが、長軸・床面積は計測不能である。

方位　Ｎ－9°－Ｅ

重複　なし

壁　残存壁高12cm前後と確認面より床面まで浅く殆ど削平されている。壁は緩やかに掘り込まれる。

床面　貼床は無く掘り方を直接床とし、中央部の締まりは良好である。

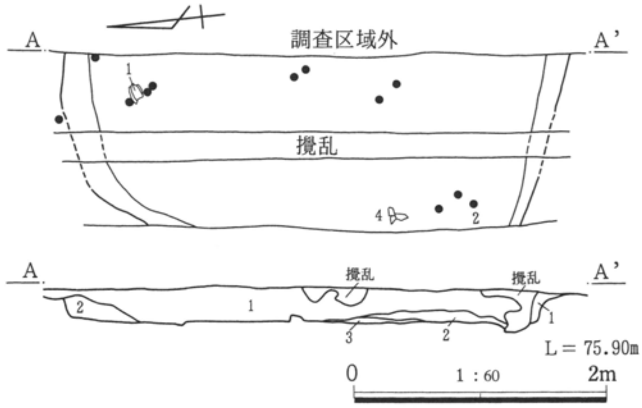
柱穴　なし

貯蔵穴　確認できない

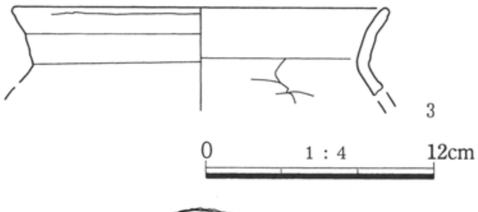
竈　確認できない

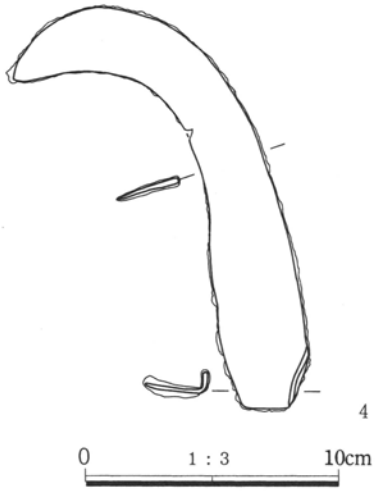
出土遺物　出土遺物は少なく平安時代の土師器、須恵器の小破片を主体とする。床上より鎌、灰釉陶器椀、須恵器椀、土師器長胴瓶等が出土している。該期以外の遺物は無く、本住居の時期は出土遺物より平安時代10世紀頃と思われる。

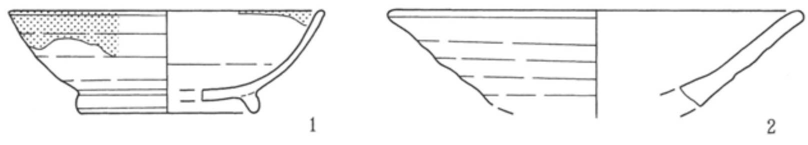
掘り方　柱穴は確認できず、ほぼ平坦な掘り方を呈する。



Ｂ区３号住居跡
１黒褐色土　白色軽石多く含む、焼土・炭化物含む
２暗褐色土　黄褐色砂質土混じる
３黒褐色土　炭化物多く含む







第128図　Ｂ区３号住居跡、出土遺物

Ａ区38号住居跡

位置　840－470～840－460グリッド

規模　住居東側部分は道路下調査時にも確認できない。道路工事に際し削平されたのであろう。残存部分では南北3.8mを測るが、東西長・床面積は不明。

方位　不明

重複　不明

壁　残存壁高16cm前後と確認面より床面まで浅く、壁は垂直に掘り込む。南壁は攪乱のため壁上部は消失している。

床面　直接掘り方調査へ進んだため使用面の確認はしていないが、調査区東壁断面では掘り方を直接床とする平坦な面を確認した。

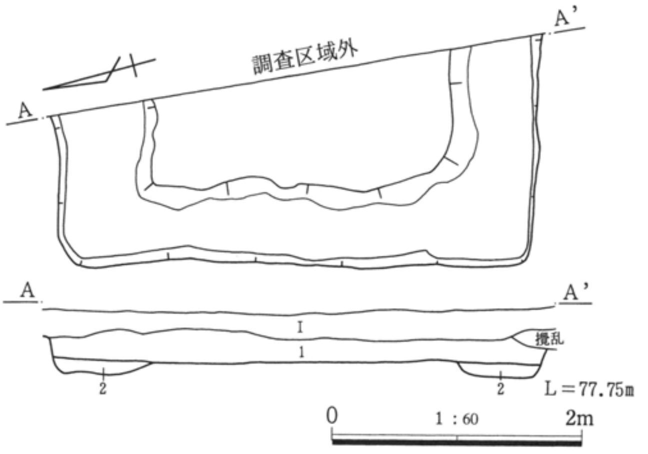
柱穴　不明

貯蔵穴　不明

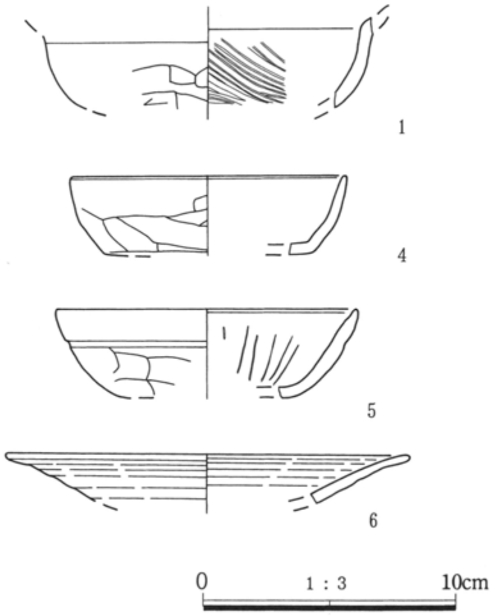
竈　不明

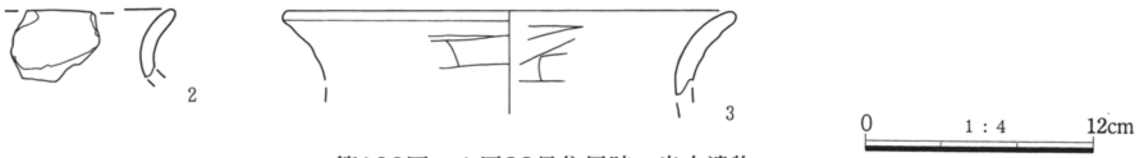
出土遺物　出土遺物は少なく、古墳時代６世紀代から平安時代９世紀代の土師器甕、杯の小破片が混在して出土している。床直上や竈内出土といった時期特定の決め手となる遺物に欠け、本住居の詳細な時期は不明である。現状では古墳時代乃至平安時代の住居としておく。

掘り方　壁際は一段深く掘り下げ、住居中央部はほぼ平坦な掘り方を呈する。



Ａ区38号住居跡
１黒褐色土　白色軽石含む
２暗褐色土　黒褐色土・黄褐色砂質土の混土





第129図　Ａ区38号住居跡、出土遺物

Ｂ区４号住居跡

位置　860－450グリッド

規模　住居西側はAs-B下水田の耕作に伴い消失しており、残存するのは竈を含めた住居東側の一部である。残存する範囲で一方の軸は４mを測るが、他方の軸・床面積は計測不能である。

方位　N－147°－E

重複　なし

壁　残存壁高５cm前後と確認面より床面まで浅く殆ど削平されている。西壁・南壁は確認できない。

床面　ほぼ平坦で、竈周辺に踏み締まりを確認。

柱穴　なし

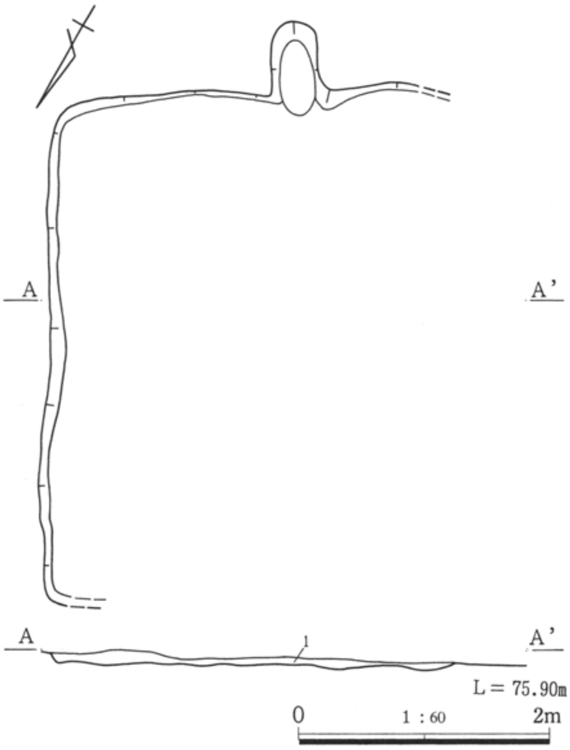
貯蔵穴　なし

竈　東壁に付設されており、煙道は壁外に55cm突出する。

出土遺物　出土遺物は極めて少なく土師器片、須恵器片等数点で実測しうる遺物は無い。本住居跡の時期は出土遺物、住居形態、検出状況等から平安時代と思われるが、詳細な時期は不明である。

掘り方　全体的に一段下がる。堀方を直接床としている。

B区4号住居跡
1黒褐色土　黄褐色砂質土混じる、焼土・炭化物含む



第130図　B区4号住居跡

E区1号住居跡

位置　850－180～840－180グリッド

規模　東西3.92m、南北2.5mを測り、床面積9.1㎡の長方形を呈する。

方位　N－82°－E

重複　なし

壁　残存壁高3cm前後と確認面より床面まで極めて浅く殆ど削平されており、壁も僅かに掘り下がるのみである。

床面　踏み締まりは弱い。

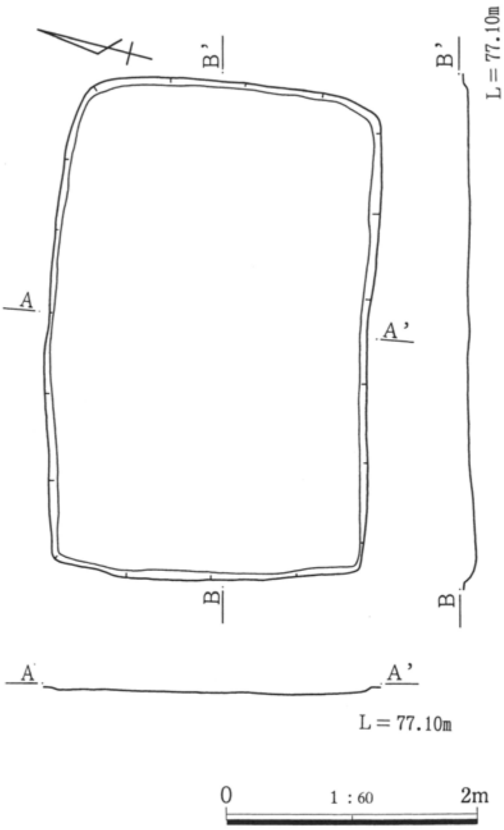
柱穴　なし

貯蔵穴　なし

竈・炉　なし

出土遺物　出土遺物は無く本住居の時期は不明である。中世と思われる3号溝・6号溝と本住居の軸はほぼ平行しており該期の遺構と思われる一方、浅い掘り込みと長方形の住居形態は弥生時代の竪穴住居跡とも考えられる。

掘り方　なし



第131図　E区1号住居跡

(3) 掘立柱建物跡

E区1号掘立柱建物跡

位置　850−170〜840−170グリッド

規模　２×３間の東西棟で長軸約5.3m、短軸約3.8m、梁側の柱間は平均1.96m、桁側の柱間は平均1.84mを測る。柱穴はほぼ柱軸に沿って並ぶが、Ｐ６，Ｐ７がやや北にずれる。

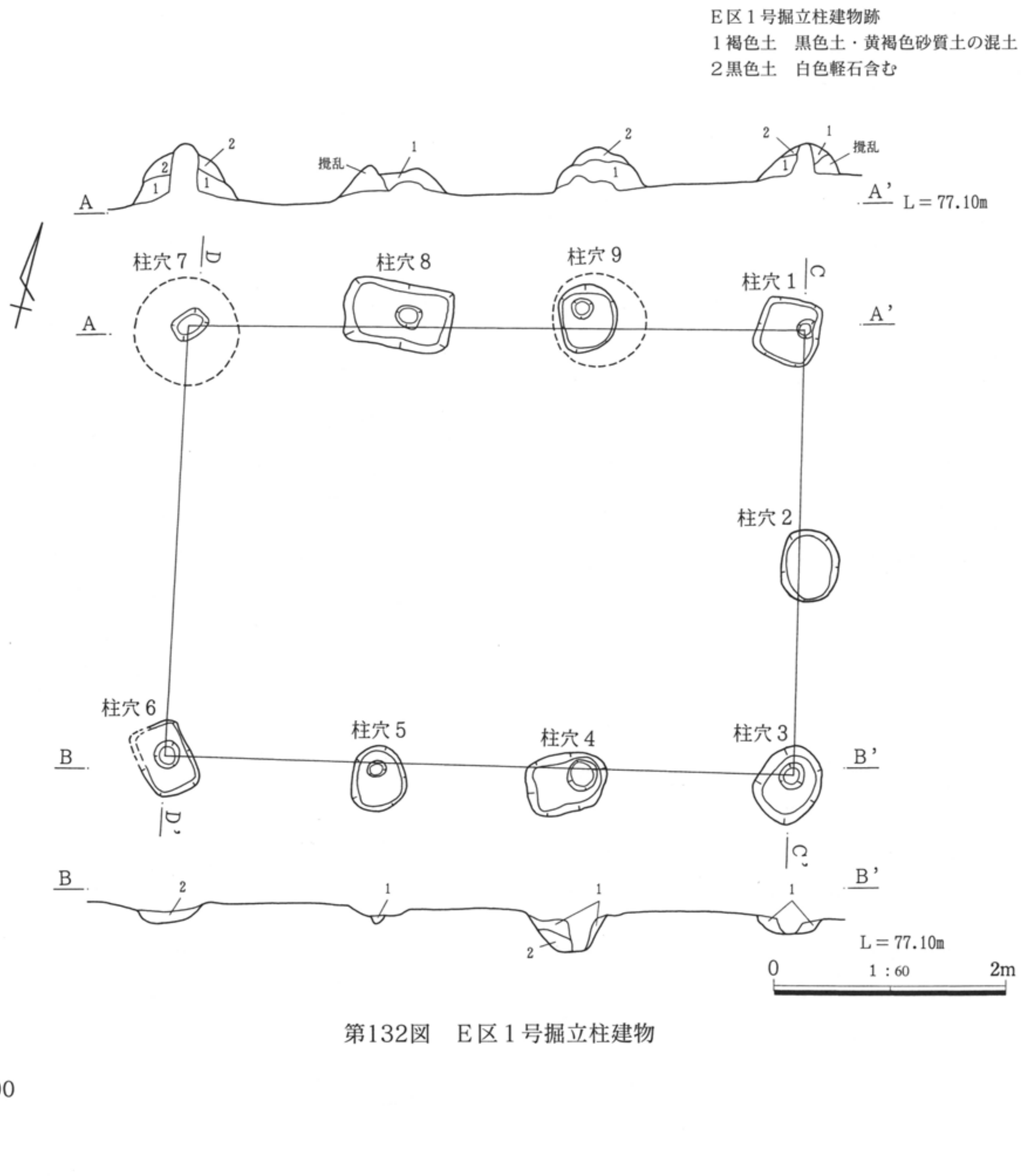
方位　N−83°−E

重複　Ｐ８の東端が一部６号溝と重複するが新旧は不明である。

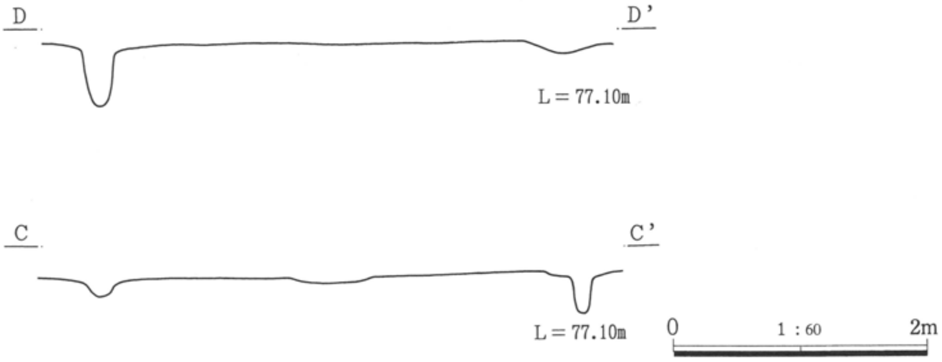
柱穴　柱穴の平面形は方形と円形が半々で深さは平均18.5cmを測る。柱痕が明瞭に確認できるものは少なく、柱穴覆土は白色軽石や黄褐色砂質土が混じる黒色土を主とする。

内部施設　なし。

出土遺物　柱穴形状や柱間の規模は平安時代の掘立柱建物の様相を呈し、調査時の所見でも平安時代との見解を得ている。出土遺物は無く詳細な時期特定は難しいが、本遺構の時期は平安時代と思われる。



第132図　E区１号掘立柱建物



第133図　Ｅ区１号掘立柱建物エレベーション

Ｅ区２号掘立柱建物跡

位置　830－170グリッド

規模　建物の大部分は調査区外となり規模は不明である。柱間は平均1.75mを測る。

方位　不明

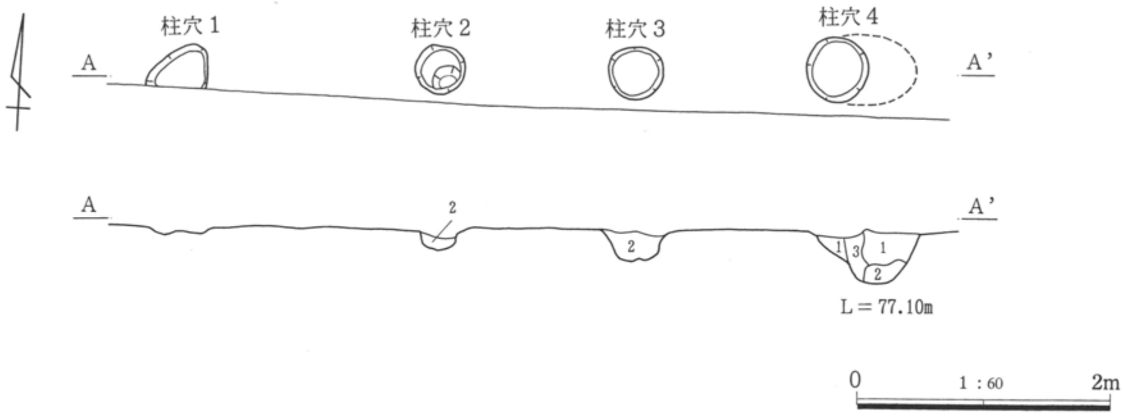
重複　なし。

柱穴　柱穴の平面形は円形で深さは平均25cmを測る。柱痕が明瞭に確認できるものは少なく、柱穴覆土は白色軽石や黄褐色砂質土が混じる黒色土を主とする。

内部施設　なし。

出土遺物　出土遺物は無い上に遺構規模も殆ど不明であるため詳細な時期特定は難しいが、調査時の所見では平安時代の遺構との見解を得ており、平安時代の遺構と思われる。

Ｅ区２号掘立柱建物跡
１黄褐色土　黄褐色砂質土主体
２黒色土　　白色軽石少し含む
３黒褐色土　白色軽石含む



第134図　Ｅ区２号掘立柱建物

（4）水田・畑

水田（As-B下水田）

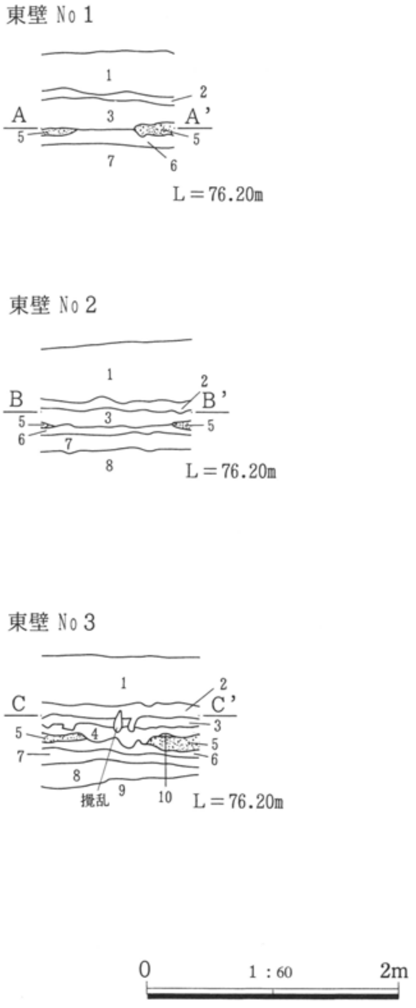
浅間Ｂ軽石一次堆積層直下で検出した水田は、西側Ａ区微高地と東側Ｂ区微高地とに挟まれた緩やかに窪む低地に展開する45区画の水田である。検出された水田の畦畔は幅約50cm、高さ約５cm、僅かに高まりが確認される程度で、水田区画は長軸を東西とする四角形を基本とし、水田面はほぼ平坦で凹凸は少なく、遺物・足跡等は検出されなかった。尚、Ａ区寄りの微高地から低地に掛けての畦畔は一部未検出で水田区画も不明瞭であった。また、調査区中央を東西に走る現道や大小の芋穴、更に１号溝や５号溝等により畦畔は所々寸断されており、完形・ほぼ完全となる区画は10区画に過ぎなかった。前述したように45区画の水田は長方形を基本としつつも、傾斜の強い箇所では小さな水田区画、緩やかな傾斜地では大きな水田区画と、地形に合わせ巧みに形態を変化させていた。この自然地形を巧みに利用した水田は、北から南、微高地から底部に掛けて僅かな高低差をもうけて造成されており、水田比高差は約10cmを測る。水口は都合15箇所検出されたが、小さな水田区画には水口が無く、大きな水田区画には縦横の横畔に１カ所乃至２カ所の水口が確認できた。水田のなかには水口から水口に掛け北西から南東に流れる流水痕を明瞭に把握できた水田もあった。

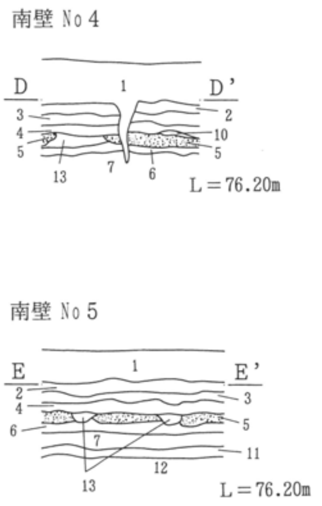
尚、As-B下水田耕土はカクセン石を有する白色軽石が混入する黒色粘質土で、左記粘質土下にはFAをブロック状に含む黒色粘質土、浅間Ｃ軽石を含む黒色粘質土の２層の粘質土層が存在する。各層位毎に自然化学分析を行った結果、稲作可能数値を示すプラントオパール分析値を得たが、調査では畦畔等の水田に関わる明確な遺構を確認することはできなかった。また、浅間Ｃ軽石を含む黒色粘質土下は青緑色粘質シルト層、更に青緑色砂礫層となっていたが、青緑色砂礫層は地表下３ｍ程掘り下げても同様な土質であり、旧地形に関わる自然堆積と判断した。

第２表　水田計測表

No	平面形	長軸 m	短軸 m	面積 ㎡	水田面標高m	湖畔高m	湖畔幅 m	湖畔長				水口有無	主軸方位
								北 m	東 m	南 m	西 m		
1	長方形			(1.04)	76.07	0.04	0.44～0.53		(0.9)	(3.5)			計測不可能
2	長方形	(2.5)	4.1	(10.15)	76.14	0.02	0.44～0.63		(3.4)	4.2	(2.9)		N−25−E
3	長方形	22.3	8.7	(99.47)	76.02	0.08	0.38～0.59		9.5	22.7		有り	N−68−W
4	長方形	7.4	3.6	26.82	76.04	0.04	0.42～0.63	(3.5)	7.6	4.2	7.4	無し	N−22−E
5	長方形	(4.5)	5	(18.38)	75.97	0.06	0.40～0.60	4.2	(4.9)	5.9	(2.1)		N−28−E
6	長方形	17.1	5	73.12	75.97	0.05	0.32～0.44		5.3	17	4.6	有り	N−66−W
7	長方形	6.2	5.8	31.71	75.96	0.1	0.32～0.70	17.5	5.5	6.5	5.7	有り	N−25−E
8	長方形	6.5	4.1	24.27	75.96	0.04	0.34～0.71	5.4	6.2	4.3	7.7	無し	N−15−E
9	長方形			(1.25)	76.1	0.01	0.6	4.2	(1.1)	(2.9)			計測不可能
10	長方形	(3.8)	5.2	(12.29)	76.08	0.03	0.40～0.64		(4.4)	5.7	(1.1)		N−68−W
11	長方形	(9.1)	7.7	(50.62)	75.95	0.03	0.40～0.70		(9.3)	8.3	(4.4)		N−35−E
12	長方形	(8.3)	5.9	(42.34)	75.97	0.05	0.42～0.62		(8.9)		(7.0)	有り	N−23−E
13	長方形	17.7	(8.7)	(139.53)	75.92	0.03	0.34～0.65	5.8	(7.5)		(8.9)	有り	N−67−W
14	長方形	(6.8)	6.6	(38.17)	75.92	0.06	0.52	17.2	(5.5)		(7.5)		N−70−W
15	長方形	4.3	2.7	11.01	75.92	0.07	0.49～0.60	6.3	3	5	3.6		N−90
16	長方形	(8)	(2.9)	(17.29)	76.08	0.01	0.7	4.5	(3.3)				N−70−W
17	長方形	(2.8)	4	(10.52)	76.02	0.07	0.46～0.74	(3.0)	(2.7)		(3.3)		N−28−E
18	長方形	(2.2)	2.5	(4.73)	75.92	0.05	0.48～0.82	5	(1.8)		(2.7)		N−31−E
19	長方形			(3.28)	75.9	0.06	0.71	3.8			(1.8)		N−65−W
20	長方形	7	(1)	(5)	75.86	0.01	0.48～0.63	(3.5)	(1.3)	7.5			計測不可能
21	長方形	14	(1.9)	(22.03)	75.84	0.06	0.45～0.83		(2.2)	14.7	(1.3)	有り	N−65−W
22	長方形			(12.55)	75.84	0.06	0.40～0.60		(2.7)	8	(2.2)	有り	計測不可能
23	長方形	(3)	3.2	(7.55)	75.8	0.03	0.55		(5.1)	3.2	(2.6)		計測不可能
24	長方形	(8.3)	(4.4)	(27.29)	75.8	0.05	0.42～0.64		(10.0)	(6.2)	(9.0)	有り	N−10−E
25	長方形	6.9	4.4	26.19	75.84	0.06	0.42～0.62	5	7.4	3.8	7.6		N−6−W

No	平面形	長軸 m	短軸 m	面積 ㎡	水田面標高m	湖畔高m	湖畔幅 m	湖畔長 北 m	東 m	南 m	西 m	水口有無	主軸方位
26	長方形				75.9	0.02	0.8～1.30		(18.3)	10.5	(18.8)		
27	長方形	12.8	9.8	(107.76)	75.8	0.02	0.7	10	9.6	13.3	10.9		N−71−W
28	長方形	28.4	9.6	(242.70)	75.84	0.04	0.38～0.70	28.5	9.5	28.7	9.2	有り	N−68−W
29	長方形	8.5	3.6	(36.92)	75.87	0.03	0.50～0.70	4.5	(9.0)	(5.6)	9.5	有り	N−21−E
30	長方形	8.7		(46.95)	75.77	0.05	0.39～0.62	(6.5)			(9.0)	有り	N−23−E
31	長方形	11.3	3.8	(37.57)	75.85	0.02	0.31～0.50	3.8			(10.2)		N−0
32	長方形	15.4	8.3	112.89	75.75	0.06	0.62～0.94	16	8.5	15.5	7.5	有り	N−69−W
33	長方形	20.6	7.9	140.62	75.72	0.04	0.40～0.84	21.4	4.9	21.2	8.5	有り	N−70−W
34	長方形	5.4	5.8	29.53	75.73	0.02	0.40～0.68	5	(5.5)	(7.0)	4.9	有り	N−68−W
35	長方形	(10.3)	6.2	(53.33)	75.75	0.03	0.38～0.70			(9.0)	(5.5)		N−71−W
36	長方形	7.6		(20.20)	75.82	0.02	0.62						N−30−E
37	長方形	(17.2)	11.9		75.8	0.03	0.47～1.10	10.5	(18.2)		(17.5)		N−79−E
38	長方形	18	12.1	(185.98)	75.7	0.06	0.44～0.94	13.5	16.7	4.9	(18.2)	有り	N−20−E
39	長方形	(16.6)	7	(82.5)	75.68	0.04	0.44～0.72	3.2	(16.5)		(18.9)	有り	N−6−E
40	長方形	(15.5)	14.2	(183.75)	75.66	0.04	0.42～0.75	(15.2)			(16.5)	有り	N−11−E
41	長方形	8.9	6.3	(53.22)	75.67	0.04	0.48～0.80	(6.2)	(9.2)	(5.2)	(8.2)	有り	N−19−E
42	長方形	(8.4)	10.5	(68.02)	75.68	0.03	0.40～0.80	11.3	(4.9)		(9.2)	有り	N−71−W
43	長方形	(4.2)	3.4	(11.35)	75.67	0.04	0.34～0.76	(3.8)	(2.5)		(4.9)		N−25−E
44	長方形	(3.4)	2.6	(7.6)	75.75	0.08	0.52～0.80		(2.5)				N−27−E
45	長方形		4.2	(6.35)	75.65	0.05	0.55～0.80	4.9	(1.8)		(2.0)		計測不可能

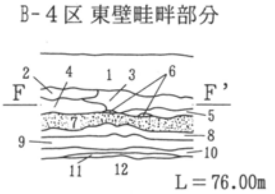


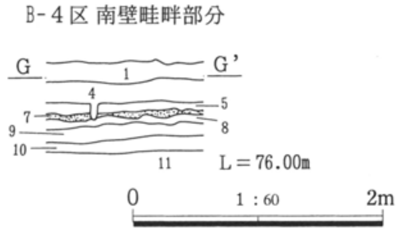


B－3区東壁（A－A'・B－B'・C－C'）
南壁（D－D'・E－E'）畦畔部セクション

1暗褐色土　現代の耕作土
2暗褐色土　1層と3層の混土
3暗褐色土　砂質、砂と小礫主体
4黒褐色土　As-B多く含む
5褐色土　As-B一次堆積層
6黒褐色土　弱粘質、As-B下水田耕作土
7暗褐色土　弱粘質、カクセン石を含む白色軽石含む
8黒褐色土　弱粘質、As-C多く含む
9オリーブ褐　弱粘質、褐灰色土混じる
10紫色　As-B灰堆積層
11暗褐色土　As-C非常に多く含む
12暗褐色土　弱粘質、均一混入物少ない
13褐灰色土　As-Bを多く含む、4層黒褐色土多く混じる

第135図　B－3区東壁、南壁セクション

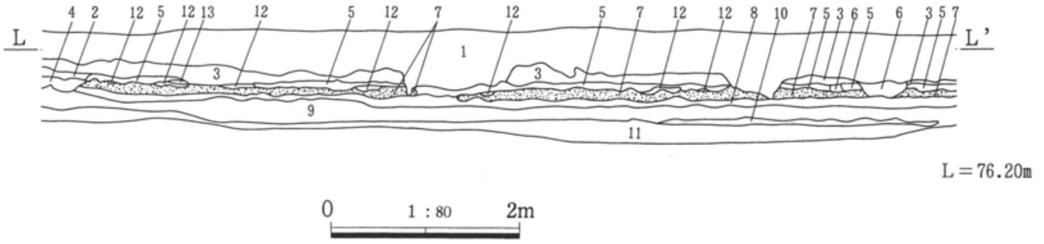




Ｂ－４区東壁（Ｆ－Ｆ'）、南壁（Ｇ－Ｇ'）畦畔部セクション

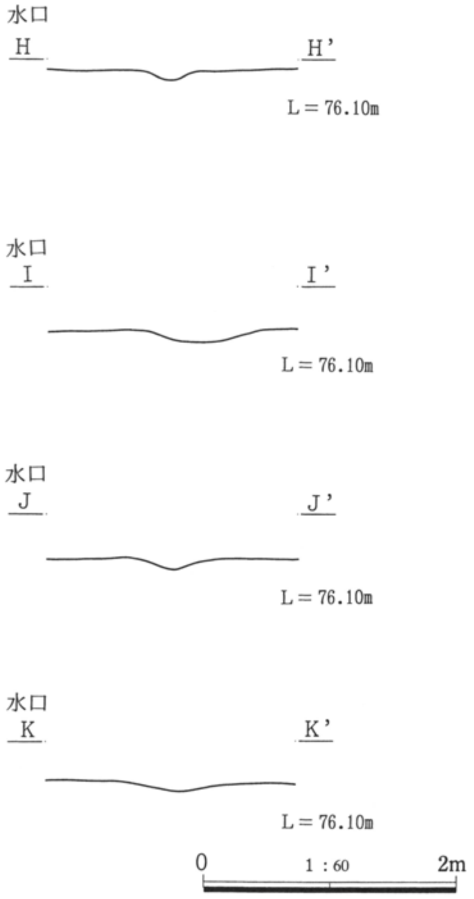
１暗褐色土	現代の耕作土	７黒褐色	As-B一次堆積層
２灰黄褐色土	砂質、砂・小礫多く含む	８黒色土	弱粘質、As-B下水田耕作土
３暗褐色土	砂質、As-B混じる	９暗褐色土	粘質、カクセン石を含む白色軽石多く混じる
４暗褐色土	３層に類似、粘性やや強い	10暗褐色土	粘質、Hr-FAや白色軽石含む
５黒褐色土	砂質、As-B多く含む	11黒褐色土	As-C含む
６青灰色土	As-kk	12黒褐色土	粘質土、鉄分凝着が見られる

第136図　Ｂ－４区東壁、南壁セクション



Ｂ－６区南壁（Ｌ－Ｌ'）畦畔部セクション

１褐色土	現代の耕作土
２褐色土	砂・小礫含む、褐色土多く混じる
３褐色土	砂質、砂・小礫主体
４褐色土	砂質、砂・As-B主体（２号溝）
５黒褐色土	砂質、As-B多く含む
６黒褐色土	３層・５層・７層の混土
７褐色土	As-B一次堆積層
８黒色土	弱粘質、As-B下水田耕作土
９暗褐色土	弱粘質、As-C多く含む
10暗褐色土	As-Cの密度非常に高い
11褐灰色土	弱粘質、均一混入物少ない
12紫色	As-B灰堆積層
13暗青灰色土	As-kk堆積層



第137図　Ｂ－６区南壁セクション、水口エレベーション

第138図　As-B下水田

畑跡（B区第1面）

現道を挟みB－3区、B－4区の浅間B軽石堆積層直上の褐灰色土層面において検出した畑サク痕は、幅20cm前後で明褐色微砂質土により埋没していた。検出されたサク痕は全般的に浅く、縦、横、斜め等の異なる数方向の軸を有し数時期の耕作が考えられた。遺構検出面の褐灰色土層からは灰釉陶器片等が出土したがサク覆土からの出土遺物は無く、本遺構の明確な時期特定は難しい。

第139図　第1面畑跡

(5) 溝

B区5号溝

As-B下水田の東端、微高地の西縁辺部に構築された5号溝は確認全長約47.50m、上幅約80cm、深さ約10cmを測る。溝は、As-B軽石・As-B灰・砂を多量に含む褐色土により埋没し、壁は緩やかに立ち上がる断面U字形を呈する。芋穴や1号溝により所々寸断されているが、畦畔と並行するかのように緩やかに蛇行しながら調査区をほぼ南北に縦断していた。溝からは縄文時代から平安時代に至る遺物が出土したが、出土遺物の主体は平安時代であり本溝の時期は平安時代末頃と思われる。尚、本溝によりAs-B下水田畦畔は壊されており、水田と同時に存在したとは考え難い。

D区1号溝

調査区東端で検出した1号溝は、確認全長約29.37m、上幅約160cm、深さ約30cm、比高差約21cmを測り、壁は緩やかに掘り込まれた断面U字形の溝である。溝底部の比高差は約21cmを測り、北側が深く南側が浅い。溝は調査区内で東西・南北に直角の折れを繰り返し一端は南側調査区外へ、他端は東側E区へ続く様相を呈したが、E区では確認できなかった。途中3号溝、5号溝と重複しており5号溝より新しが、3号溝との新旧は把握できなかった。溝からは古墳時代土師器片、平安時代土師器片・須恵器片、中世土師器片、土垂等が出土しており、遺物から判断して本溝の時期は中世と思われる。

D区2号溝

D区中央付近で東西に走る2号溝は、確認全長約42.75m、上幅約90cm、深さ約45cm、溝底部はほぼ平坦、壁は緩やかに掘り込まれた断面U字形の溝である。途中2号住居跡、9号住居跡と重複し、2号住居跡、9号住居跡共に2号溝より古い。2号溝の西端は直角に折れ南へ延びる様相を呈するものの、延長部分は検出されなかった。また、E区へ続くと思われる東側延長部分も検出できなかった。遺物は古墳時代土師器片、平安時代土師器片、須恵器片、中世土師器片、石椀片等が混在して出土している。出土遺物から本溝の時期は中世と思われる。

D区3号溝

東壁際で検出した3号溝は、確認全長約18.75m、上幅約120cm、深さ約50cmを測り、底面はほぼ平坦、壁は急角度に掘り込まれた断面逆台形状の溝である。調査区内で5号溝・1号溝と重複、5号溝は本溝より古いが、1号溝との新旧は把握できなかった。この3号溝はD区中央855－195グリット付近で直角に東へ折れE区へと続き、E区内で6号溝と重複する。溝からは古墳時代の土師器片、平安時代の土師器片・須恵器片、中世土師器片等が混在して出土している。本溝の時期は出土遺物より中世と思われる。

D区5号溝

D区中央に東西に検出した5号溝は、確認全長約53.00m、上幅約80cm、深さ約50cmを測り、壁は急傾斜に掘り込まれた断面逆台形状を呈する溝である。溝西端は直角に南へ折れ更に続く様相を呈するものの延長部分は確認できなかった。また、E区へと続く溝東延長部分もその東端はE区6号溝と重複後は確認できなかった。溝底部の比高差は約31cmを測り全体的に西が浅く東が深い。他遺構との重複は、D区では61号土坑、62号土坑、6号住居、1号溝、3号溝と重複し、6号住居は本遺構より古いが、他は全て本遺構より新しい。E区では6号溝と重複し6号溝が新しい。溝からは砥石、墨書土器片の他、古墳時代土師器片、平安時代土師器片、須恵器片、中世土器片等が混在して出土している。本溝の時期は出土遺物より中世と思われる。

D区6号溝

調査区北壁際で検出した6号溝は、確認全長約3.37m、上幅約70cm、深さ約15cmを測り、溝底

部はほぼ平坦で壁は緩やかに掘り込まれた断面U字形の溝である。ほぼ南北に走る溝の南延長部分は確認できなかった。溝からの出土遺物は中世土師器片を主体とし、該期以外の遺物は確認されない。遺物から判断して本遺構の時期は中世と思われる。

D区7号溝

Ｄ区北壁際で検出した７号溝は、確認全長約4.12m、上幅108cm、深さ27cmを測り、壁は緩やかに掘り込まれる。ほぼ南北に走行を持ち、溝底部も南へ行くに従い深くなる。途中、本遺構より新しい28土坑、29号土坑と重複、更に南へと延びる様相を呈するものの延長部分は確認できなかった。出土遺物は無く、本溝の時期は不明である。

E区1号溝

北西から南東に走行を持つ１号溝は、確認全長約21.25m、上幅96cm、深さ76cmを測り、壁は急傾斜に掘り込まれた断面Ｖ字形の溝である。２号溝と重複する箇所に行くに従い徐々に広く深くなるが、重複後は溝延長部は確認できなかった。溝からは古墳時代から中世に至る土器片が混在して出土しているが、主体を成すのは中世であり出土遺物から判断して本遺構の時期は中世と思われる。尚、接合復元の結果、本溝出土内耳鍋片とＥ区６号溝出土内耳鍋片は同一個体となったことから、１号溝と６号溝は同時に存在した可能性が高いと考えられる。

E区2号溝

調査区中央を東西に走る２号溝は、確認全長約20.12m、上幅176cm、深さ20cm、溝底部はほぼ平坦で壁は緩やかに掘り込まれる断面U字形の溝である。中央付近で本溝より新しい１号溝と重複し隣接するＤ区へと続くが、２号住居と重複後は延長部を確認できなかった。溝からは古墳時代から中世に至る土器片が混在して出土しているが、その主体をなすのは中世で、溝底部よりほぼ完形となる播鉢を出土する。本溝の時期は出土遺物より中世と思われる。

E区3号溝

Ｄ区３号溝の延長と思われる本溝は、Ｅ区では確認全長約15.00m、上幅約88cm、深さ約30cmを測り、壁は緩やかに掘り込まれる断面Ｕ字の形状を呈する。溝底部はほぼ平坦で比高差は認められない。本区での遺物の出土は無かった。

E区5号溝

Ｄ区５号溝の延長と思われる本溝は、Ｅ区では確認全長約15.75m、上幅約56cm、深さ約22cmを測り、壁は急傾斜に掘り込まれる断面Ｖ字の形状を呈する。溝底部はほぼ平坦だが、東へ行くに従い徐々に深くなる。本調査区では出土遺物は無かった。

E区6号溝

調査区東壁際で検出した６号溝は、確認全長約21.25m、上幅200cm、深さ80cmを測り、壁は急傾斜に掘り込まれる断面逆台形を呈する溝である。溝底部の比高差は約20cmを測り、南へ行くに従い徐々に深くなるが、全体的にはほぼ平坦である。溝覆土は締まりに欠ける暗褐色土、黒褐色土で、覆土より数個体の内耳鍋片を出土した。Ｅ区１号溝出土内耳鍋片と本溝出土内耳鍋片が同一個体となることから、１号溝と６号溝は同時期に存在したと推察される。本遺構の時期は出土遺物より中世と思われる。

B区2号溝

Ｂ－５区中央を３号溝と並行し南北に走る２号溝は黄褐色砂質土粒を含む褐色土により埋没し、確認全長約3.25m、上幅約60cm、深さ18cmを測り、壁は緩やかに立ち上がる断面U字形を呈する。ほぼ中央で東へ屈曲し４号溝と重複、２号溝が新しい。また、並行して走る３号溝は同時期の溝と思われる。溝からは近世の瓦、焙烙鍋、砥石等の小片を出土する。該期以外の土器は無く、本溝の時期は近世と思われる。

B区３号溝

Ｂ－５区中央を２号溝と並行し南北に走る３号溝は黄褐色砂質土塊を含む褐色土により埋没し、確認全長約27.50m、上幅約80cm、深さ８cmを測り、壁は緩やかに立ち上がる断面U字形を呈する。ほぼ中央付近で東へ屈曲し４号溝と重複、３号溝が新しい。本溝も水路として利用されたのではなく区画溝と思われる。溝からの出土遺物は無いが、並行する２号溝構とは同時期の遺構と考えられ、近世に構築された溝と思われる。

E区４号溝

Ｅ区東壁際で検出した４号溝は、確認全長約7.50m、上幅約48cm、深さ約10cmを測り、壁は緩やかに掘り込まれる断面U字形を呈する溝である。溝底部の比高差は22cmを測り東が深く西へ行くに従い浅くなり、西延長部は確認できなかった。溝からに出土遺物は無く、本溝の時期は不明である。

B区７号溝

As-B下水田耕作土下で検出した７号溝は、確認全長約16.37m、幅約80cm、深さ約５cmを測り、壁は緩やかな断面U字形の溝である。北西から南東に軸を持つ本溝は、南へ行くにつれ徐々に深くなり溝覆土にはAs-Cと砂が多量に含まれていた。溝の南延長部分は確認できず、部分的に地山との境も不明瞭であった。本溝が検出された黒色粘質土層のプラントオパール数値は稲耕作数値を示しており、この面で水田耕作が行われていた可能性は高く、この７号溝が何らかの人為的な痕跡と考えられなくもない。現状ではAs-B下水田より古いと言えるが、土器等の出土遺物は無く詳細な時期は不明である。

B区６号溝

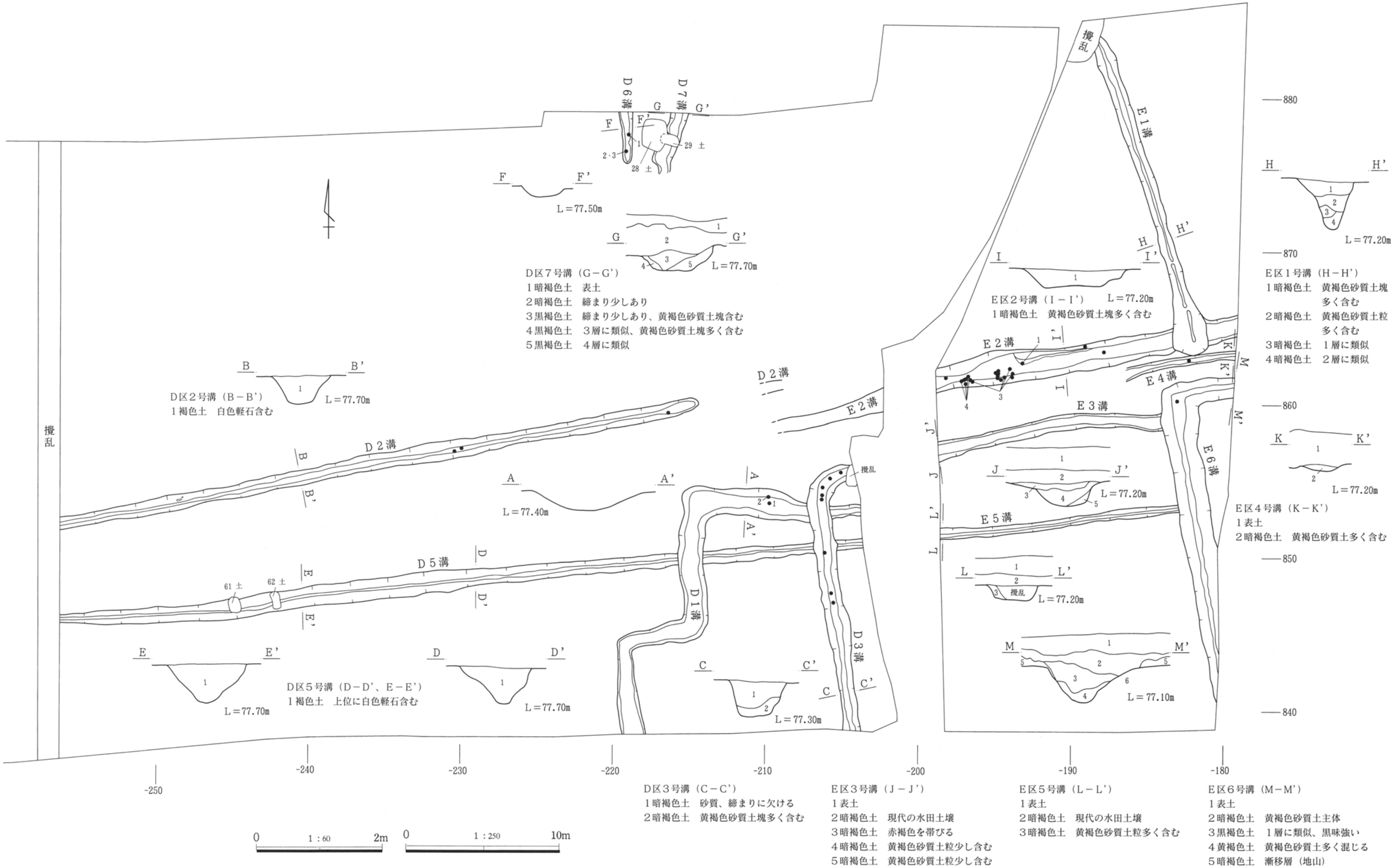
７号溝の西側に検出した６号溝は、確認全長約8.25m、幅約60cm、深さ約３cmを測り、７号溝と平行するように北西から南東方向に走る。断面U字形を呈するが非常に浅く輪郭は７号溝以上に不鮮明であった。溝覆土にはAs-cと砂が多量に混入していた。溝巾、深さ、覆土等は並行する７号溝に類似しており、水田耕作等に関わる何らかの遺構の可能性は考えられそうである。遺構の時期はAs-B下水田より古いものの７号溝同様出土遺物は無く特定は難しい。

B区１号溝

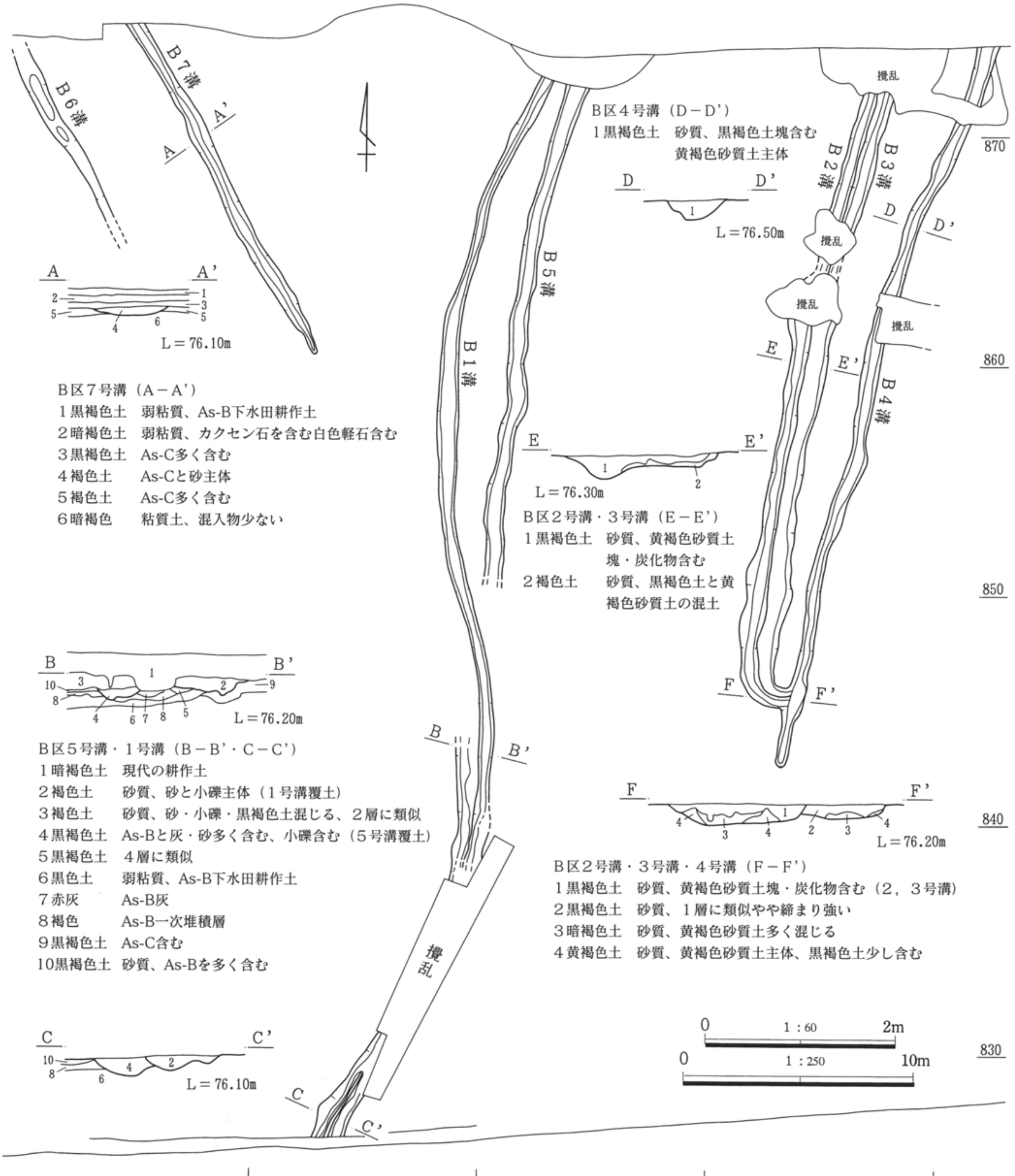
微高地西縁辺部をほぼ南北に走る１号溝は、As-B軽石一次堆積層下で検出された水田の東端畦畔と並行するかのように緩やかに蛇行している。溝は砂礫主体の砂質褐色土により埋没し、確認全長約48.50m、溝幅約60cm、深さ約15cmを測り、壁は緩やかに立ち上がる断面U字形を呈する。この溝により、As-B下水田東端畦畔及び平安時代に造られたと思われる５号溝が一部破壊されている。溝からの出土遺物は無く明確な時期特定は難しいが、As-B下水田及び５号溝より新しい。

B区４号溝

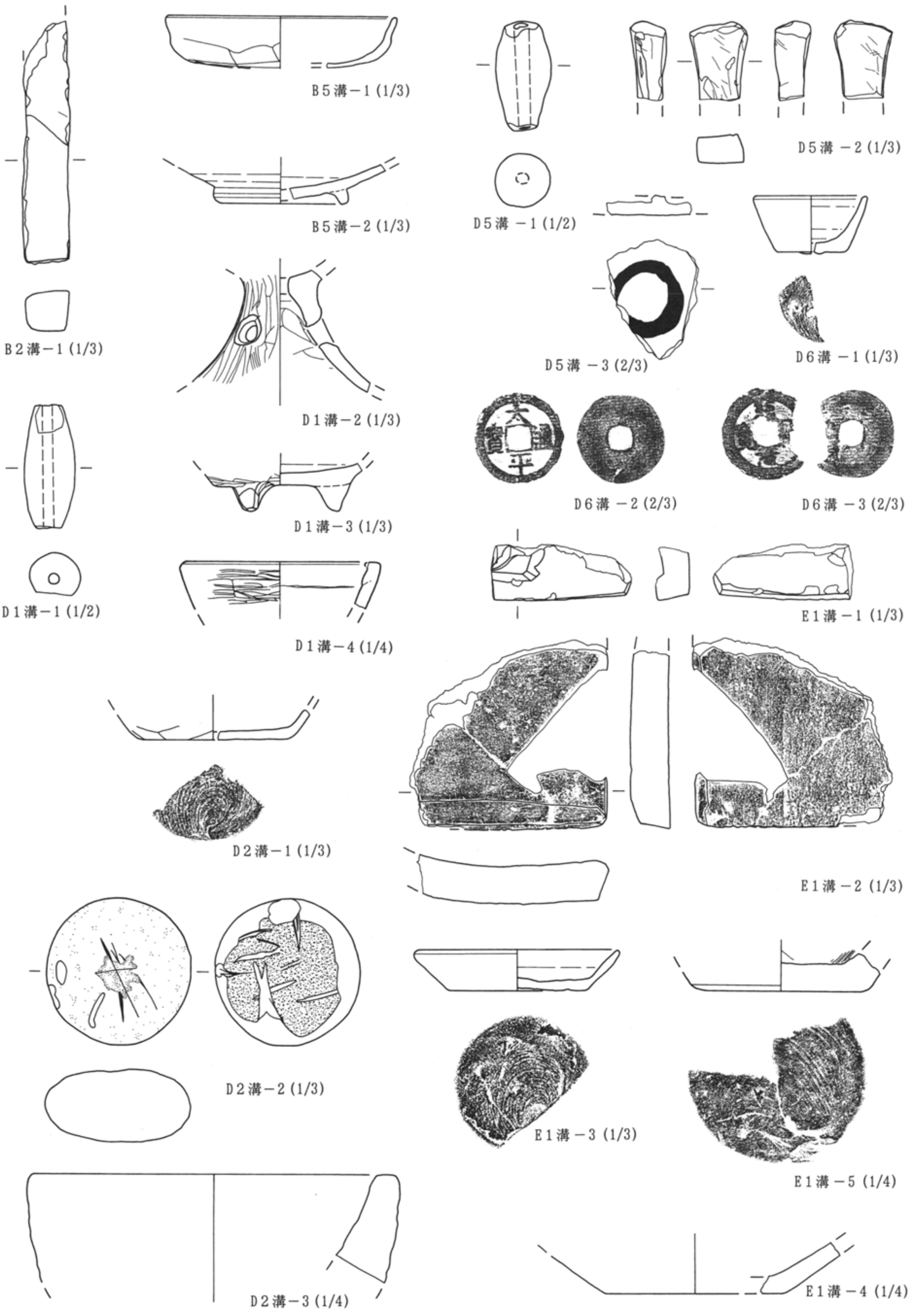
Ｂ－５区中央を南北に走る４号溝は黄褐色砂質土塊を含む褐色土により埋没し、確認全長約32.75m、上幅約60cm、深さ10cm、壁は緩やかに立ち上がる断面U字形を呈する。本溝は所謂水路ではなく区画溝と思われる。溝からの出土遺物は無く明確な時期特定は難しいが、調査区中央付近で近世と推定される２号溝、３号溝と重複し、２号溝、３号溝が新しいことから中・近世の溝と思われる。


D区7号溝（G－G'）
1暗褐色土　表土
2暗褐色土　締まり少しあり
3黒褐色土　締まり少しあり、黄褐色砂質土塊含む
4黒褐色土　3層に類似、黄褐色砂質土塊多く含む
5黒褐色土　4層に類似
L＝77.50m
L＝77.70m
D区2号溝（B－B'）
1褐色土　白色軽石含む
L＝77.70m
L＝77.40m
D区5号溝（D－D'、E－E'）
1褐色土　上位に白色軽石含む
L＝77.70m
L＝77.70m
L＝77.30m
E区2号溝（I－I'）　L＝77.20m
1暗褐色土　黄褐色砂質土塊多く含む
E区1号溝（H－H'）
1暗褐色土　黄褐色砂質土塊多く含む
2暗褐色土　黄褐色砂質土粒多く含む
3暗褐色土　1層に類似
4暗褐色土　2層に類似
L＝77.20m
L＝77.20m
E区4号溝（K－K'）
1表土
2暗褐色土　黄褐色砂質土多く含む
L＝77.20m
L＝77.20m
L＝77.10m
D6溝
D7溝
D2溝
D5溝
D1溝
D3溝
E1溝
E2溝
E3溝
E4溝
E5溝
E6溝
撹乱
61土
62土
28土
29土
880
870
860
850
840
-250
-240
-230
-220
-210
-200
-190
-180
D区3号溝（C－C'）
1暗褐色土　砂質、締まりに欠ける
2暗褐色土　黄褐色砂質土塊多く含む
E区3号溝（J－J'）
1表土
2暗褐色土　現代の水田土壌
3暗褐色土　赤褐色を帯びる
4暗褐色土　黄褐色砂質土粒少し含む
5暗褐色土　黄褐色砂質土粒少し含む
E区5号溝（L－L'）
1表土
2暗褐色土　現代の水田土壌
3暗褐色土　黄褐色砂質土粒多く含む
E区6号溝（M－M'）
1表土
2暗褐色土　黄褐色砂質土主体
3黒褐色土　1層に類似、黒味強い
4黄褐色土　黄褐色砂質土多く混じる
5暗褐色土　漸移層（地山）
6黄褐色土　黄褐色砂質土主体（地山）
0　1：60　2m
0　1：250　10m

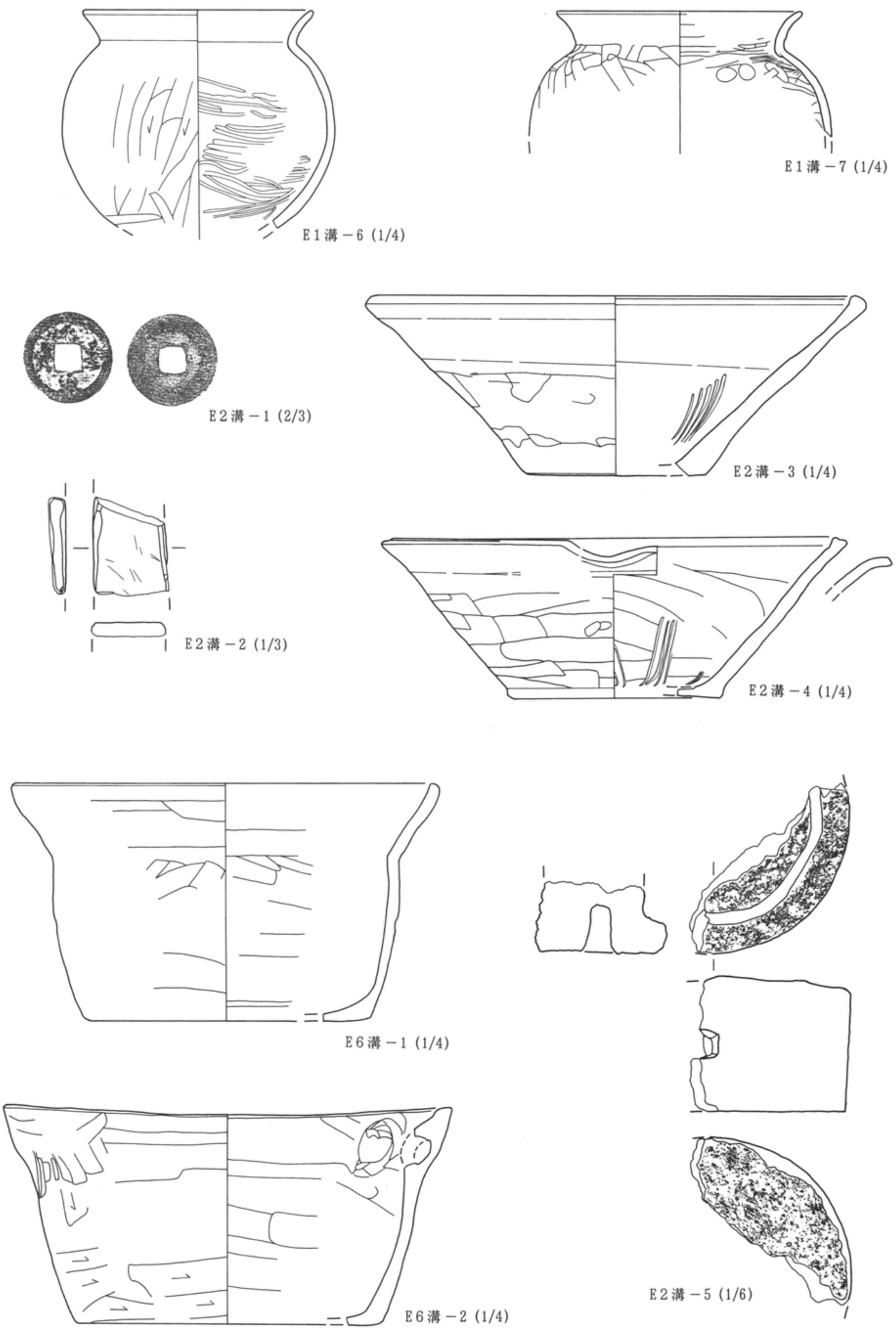
第140図　D、E区溝



第141図　B区１、２、３、４、５、６、７号溝



第142図　溝出土遺物（1）

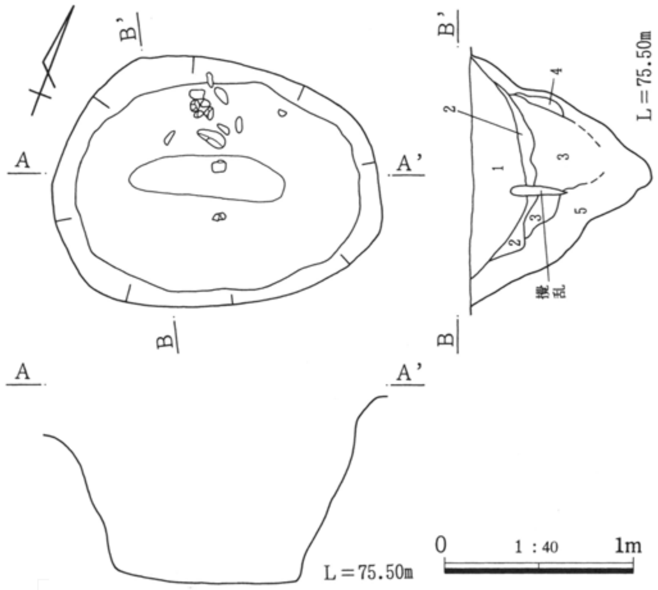


第143図　溝出土遺物（2）

(6)　土坑・墓壙

A区３号土坑

楕円形を呈し、上幅176×132cm、深さ100cmを測る。覆土は白色細粒や黄褐色砂質土を含む黒褐色土を主体とする。壁面は緩やかに掘り込まれ、底面はほぼ平坦である。調査所見では縄文時代の陥穴との見解を得ているが、土器等の出土遺物は無く詳細な時期は不明である。



A区３号土坑
１黒褐色土　砂質、白色軽石多く含む
２暗褐色土　黄褐色砂質土塊含む
３黒褐色土　白色軽石含む、締まり強い
４黄褐色土　黄褐色砂質土塊
５黒褐色土　淡白色土混じる

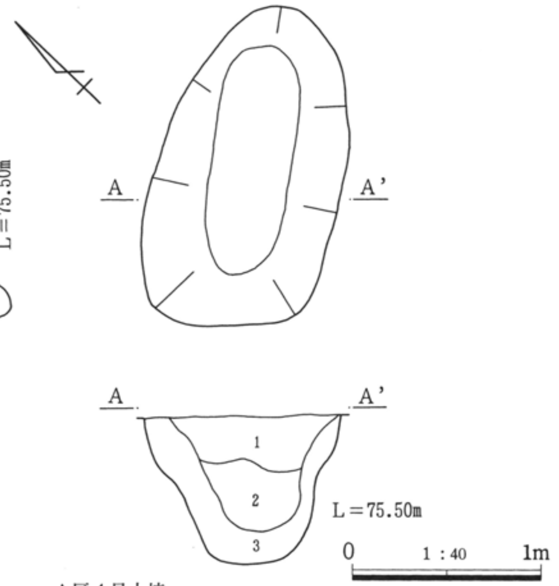
第144図　A区３号土坑

D区５号土坑

長方形を呈し、上幅100×80cm、深さ38cmを測り、壁は緩やかに立ち上がる。黄褐色砂質土塊を含む黒褐色土により埋没し、覆土より古墳時代土師器片を出土した。該期以外の遺物は無く、本土坑の時期は古墳時代４世紀頃と思われる。

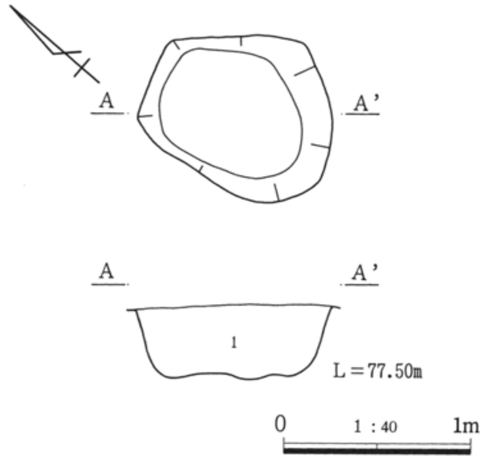
A区４号土坑

楕円形を呈し、上幅180×110cm、深さ76cmを測る。覆土は白色細粒や黄褐色砂質土を含む黒褐色土を主体とする。壁面は緩やかに掘り込まれ、底面はほぼ平坦である。調査所見では縄文時代の陥穴との見解を得ているが、出土遺物は無く詳細な時期は不明である。本土坑は南側で検出した３号土坑と、規模、主軸方向共に類似する。



A区４号土坑
１暗褐色土　砂質、白色軽石多く含む
２黒褐色土　白色軽石含む、締まり強い
３黒褐色土　淡白色土混じる

第145図　A区４号土坑

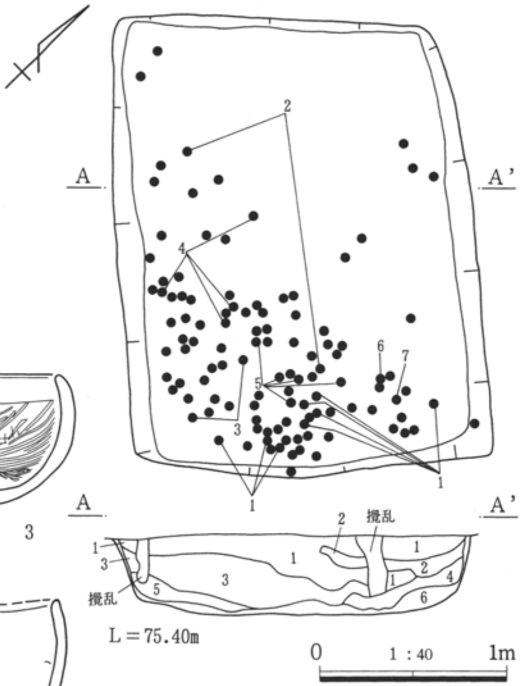


D区５号土坑
１黒褐色土　ほぼ均一な砂質土、黄褐色砂質土塊混じる

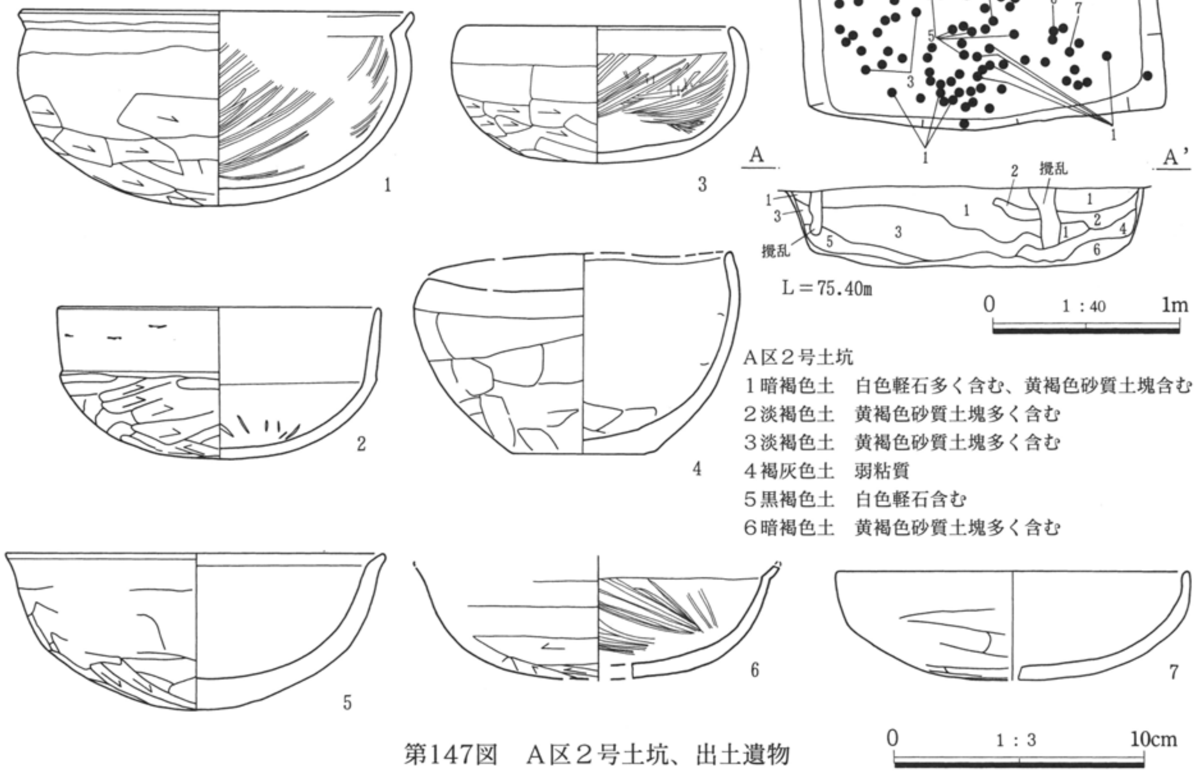
第146図　D区５号土坑

A区2号土坑

　ほぼ長方形を呈し、上幅240×190cm、深さ40cmを測る。覆土は白色軽石や黄褐色砂質土を含む暗褐色土を主体とする。壁面はほぼ垂直に掘り込まれ、底面はほぼ平坦である。出土遺物は多く、古墳時代の土師器杯・甕が主体をなす。本土坑の時期は出土遺物から古墳時代後期と考えられる。



A区2号土坑
1暗褐色土　白色軽石多く含む、黄褐色砂質土塊含む
2淡褐色土　黄褐色砂質土塊多く含む
3淡褐色土　黄褐色砂質土塊多く含む
4褐灰色土　弱粘質
5黒褐色土　白色軽石含む
6暗褐色土　黄褐色砂質土塊多く含む

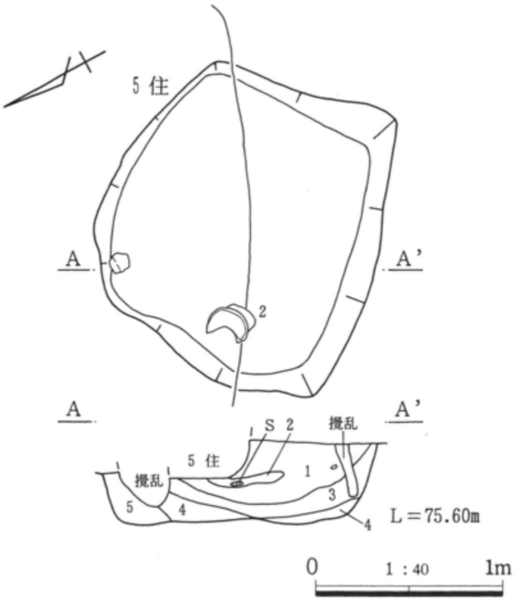


第147図　A区2号土坑、出土遺物

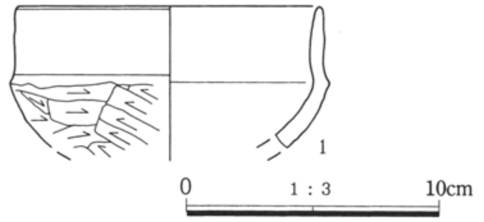
A区8号土坑

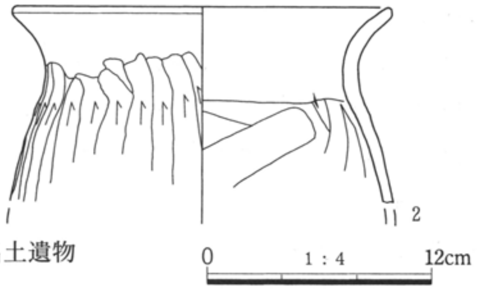
　A区5号住居と重複し5号住居より古い。ほぼ正方形を呈し、上幅150×140cm、深さ44cmを測る。覆土は浅間C軽石を多く含み黄褐色砂質土が混入する暗褐色土を主体とする。壁面は垂直に掘り込まれ、底面は平坦である。出土遺物として古墳時代の土師器杯・甕の口縁部片が数点出土している。出土遺物が少なく断定しがたいが、本土坑の時期は古墳時代後期頃と思われる。

A区8号土坑
1暗褐色土　砂質、浅間C軽石多く含む
2暗褐色土　1層に類似、やや締まりが強い
3暗褐色土　黄褐色砂質土塊含む、
4暗褐色土　黄褐色砂質土塊含む、3層に比べ色調が暗い
5黒褐色土　締まりに欠ける



第148図　A区8号土坑

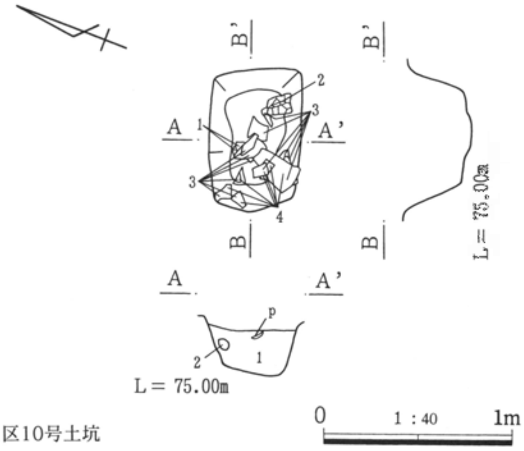




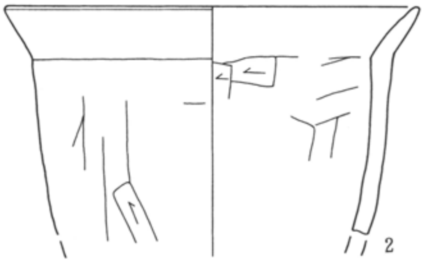
第149図　A区８号土坑出土遺物

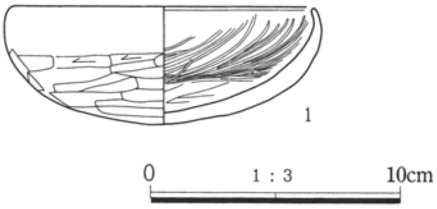
A区10号土坑

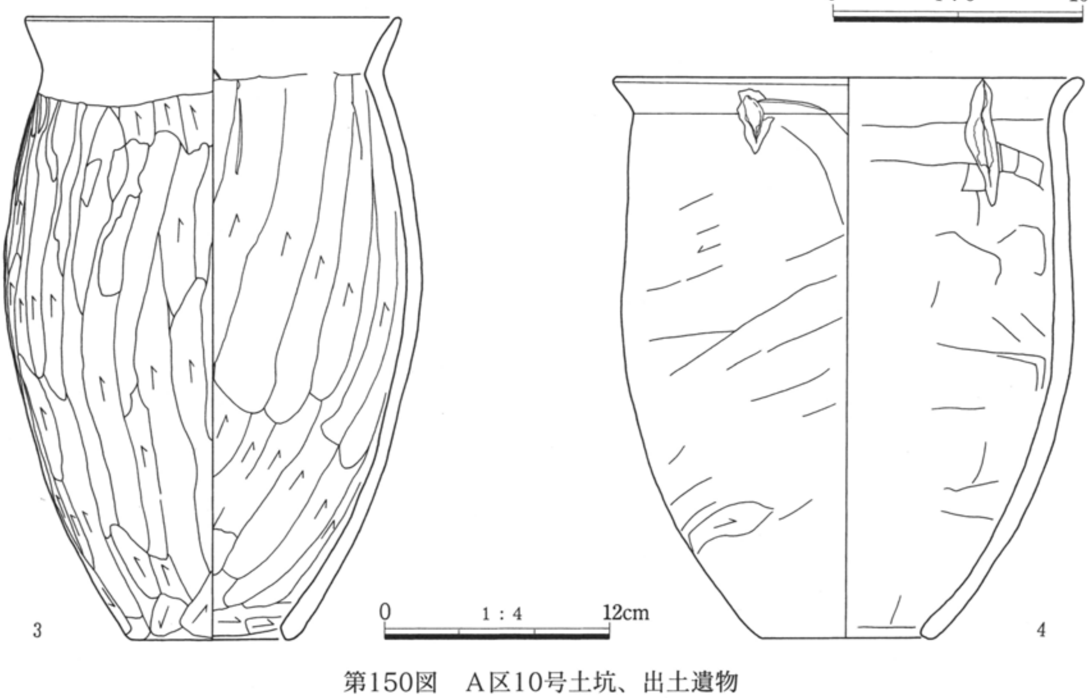
長方形を呈し、150×100cm、深さ70cmを測る。覆土は多量な炭化米を混入する暗褐色土を主体とする。壁面はほぼ垂直に掘り込まれ、底面は僅かな凹凸を持つ。出土遺物は種類・点数とも多く、長胴瓶、甑、杯等の古墳時代後期の土器が主体を成す。該期以外の器の出土は無く、本土坑の時期は古墳時代後期と思われる。



A区10号土坑
１暗褐色土　炭化物多く含む
２黄褐色土　黄褐色砂質土塊



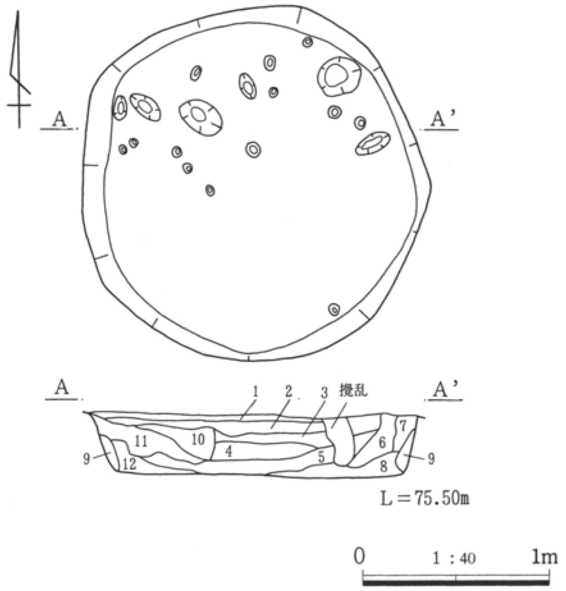




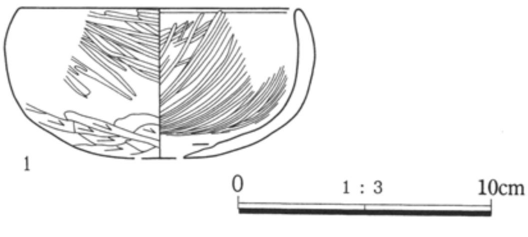
第150図　A区10号土坑、出土遺物

Ａ区14号土坑

Ａ区８号住居と重複し８号住居より古い。径190cm、深さ32cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれ底面平坦・円柱状の土坑である。覆土は黄褐色砂質土を粒状・塊状に含む暗褐色土や褐色土が主で、不規則・不連続な土層堆積が見られ、人為的な埋没状況を呈する。出土遺物は古墳時代の杯・甕の小破片を主体とし数点も少ないが、該期以外の土器の混入は無い。本土坑の時期は出土遺物より古墳時代後期頃と思われる。



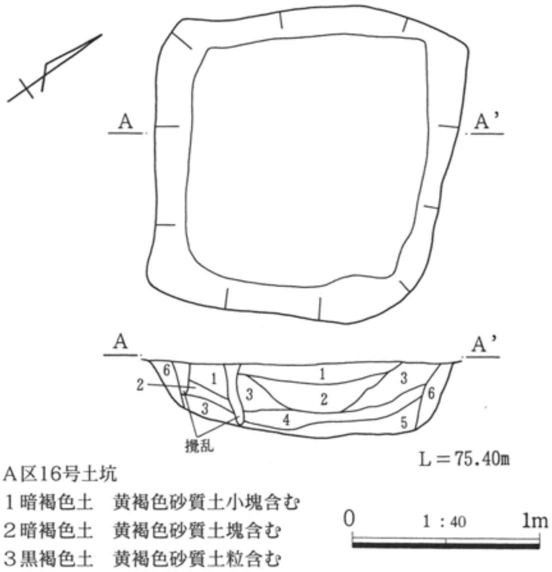
Ａ区14号土坑
1淡黄褐色土　暗褐色土多く混じる、非常に堅緻（８号住居跡床）
2淡黄褐色土　暗褐色土混じる、堅緻（８号住居跡掘り方覆土）
3暗褐色土　黄褐色砂質土塊少し含む
4暗褐色土　黄褐色砂質土塊含む
5灰褐色土　黄褐色砂質土塊少し含む
6褐色土　黄褐色砂質土塊含む
7褐色土　黄褐色砂質土塊主体
8明褐色土　黄褐色砂質土粒含む
9黄褐色土　黄褐色土主体（壁崩落土）
10暗褐色土　黄褐色砂質土塊多く混じる
11暗褐色土　黄褐色砂質土塊・黄褐色砂質土塊の混土
12暗褐色土　黄褐色砂質土塊含む黄褐色砂質土主体
　暗褐色土混じる



第151図　Ａ区14号土坑、出土遺物

Ａ区16号土坑

Ａ区７号住居東側に位置する。平面形はほぼ正方形を呈し、長軸1.6m・短軸1.5m・深さ40cmを測る。黄褐色砂質土や白色細粒軽石を含む暗褐色土を覆土の主体としほぼ垂直に掘り込まれる。出土遺物は古墳時代の土師器杯・甕の小破片が数点と少なく、該期以外の出土遺物は無い。遺物は少ないが該期以外の遺物の混入は無く、本土坑の時期は古墳時代後期頃と思われる。

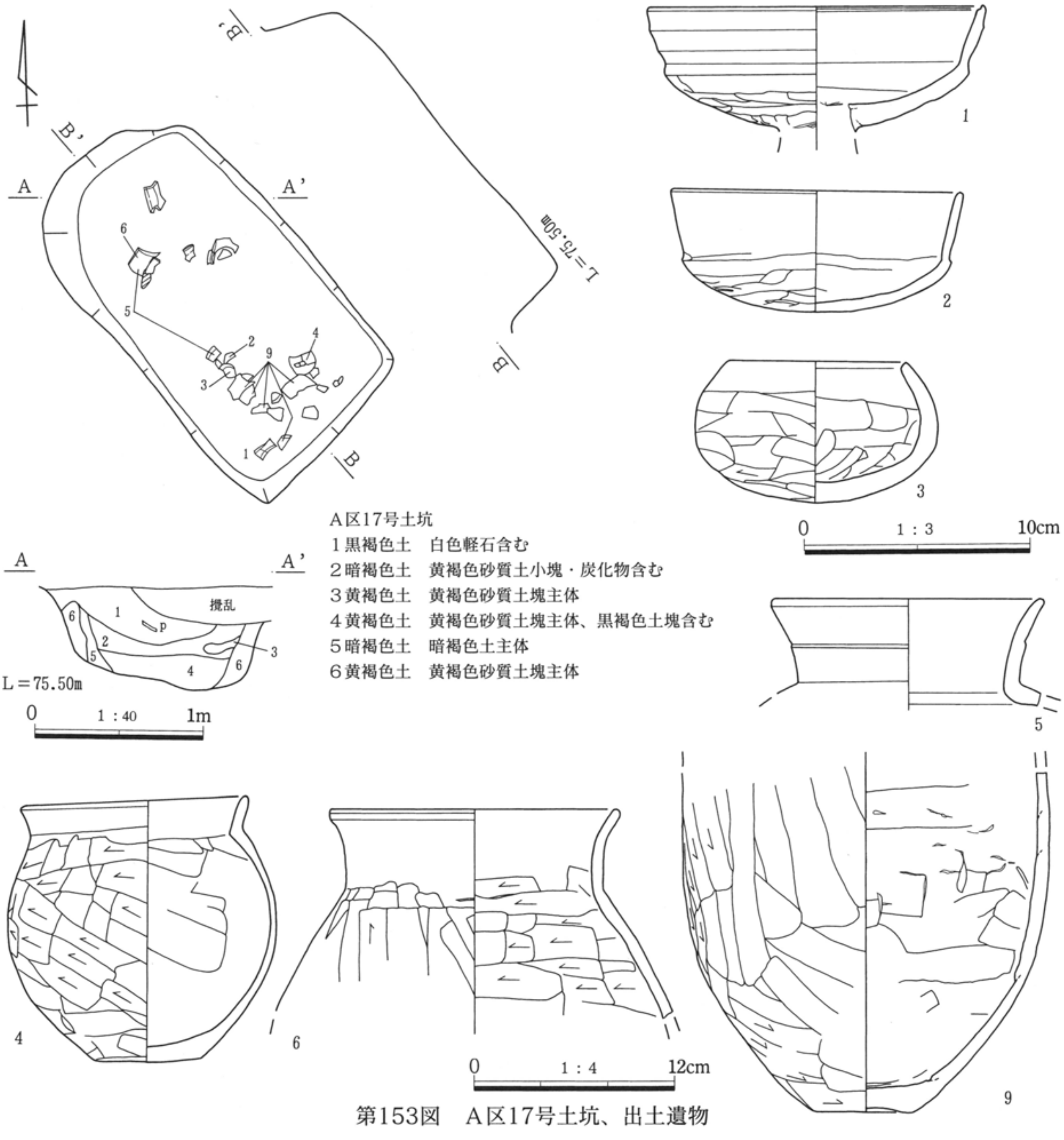


Ａ区16号土坑
1暗褐色土　黄褐色砂質土小塊含む
2暗褐色土　黄褐色砂質土塊含む
3黒褐色土　黄褐色砂質土粒含む
4黒褐色土　白色軽石含む
5黄褐色土　黄褐色砂質土塊主体
6黄褐色土　黄褐色砂質土主体

第152図　Ａ区16号土坑

Ａ区17号土坑

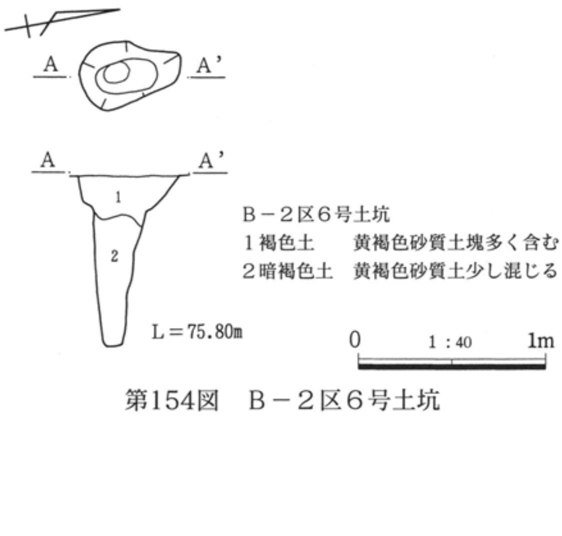
Ａ区11号住居南側に位置する。平面形は長方形を呈し、長軸4.5m、短軸2.5m、深さ60cmを測り底面は平坦な掘り方を呈する。覆土は黄褐色砂質土を粒状・塊状に含む暗褐色土を主体とし、ほぼ垂直に掘り込まれる。出土遺物は多く古墳時代後期の遺物が主体を成し、覆土中位層に甕片が集中して出土した。該期以外の遺物の混入は無く、本土坑の時期は古墳時代後期と思われる。



第153図　A区17号土坑、出土遺物

B－２区６号土坑

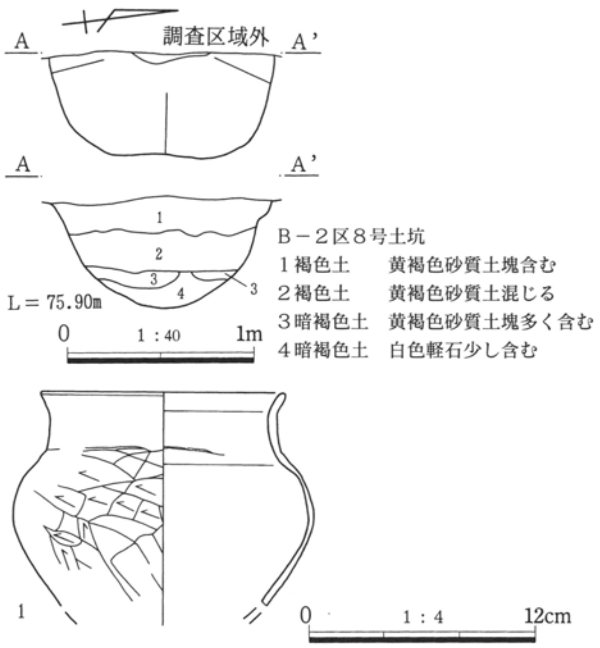
不整方形を呈し、上幅56×32cm、深さ60cmを測り、壁ほぼ垂直に掘り込まれる。形状から柱穴と思われる。遺物は土師器片が少々、大部分は平安時代の長胴瓶片、杯片が占めるが実測しうる遺物は無い。本土坑の時期は平安時代９世紀頃と思われる。



第154図　B－２区６号土坑

B－２区８号土坑

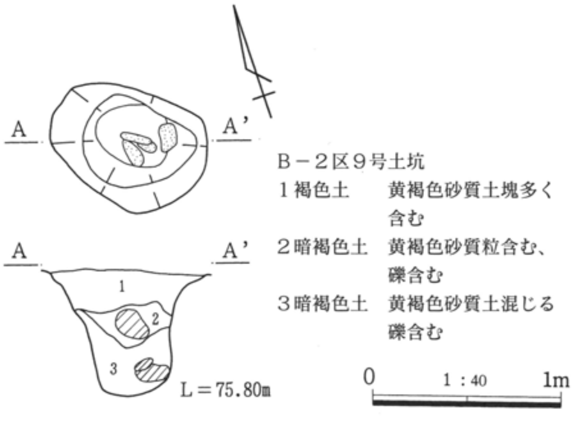
方形の土坑と思われるが、西側は攪乱により消失している。長さ120cm、深さ60cmを測り、壁は擂り鉢状に掘り込まれる。遺物は平安時代の長胴甕片、杯片を主体とし、該期以外の遺物は無い。本土坑の時期は平安時代９世紀頃と思われる。



第155図　B－２区８号土坑、出土遺物

B－２区９号土坑

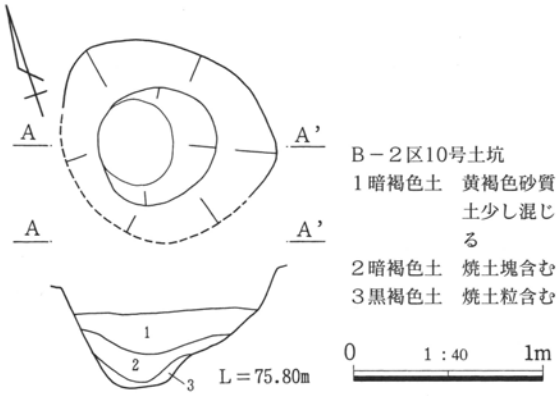
楕円形を呈し、上幅80×60cm、深さ64cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。底部及び覆土に数個の丸礫が混入する。出土遺物が無く時期特定は難しいが、As-B下水田耕作土を除去して検出されており水田より古い。



第156図　B－２区９号土坑

B－２区10号土坑

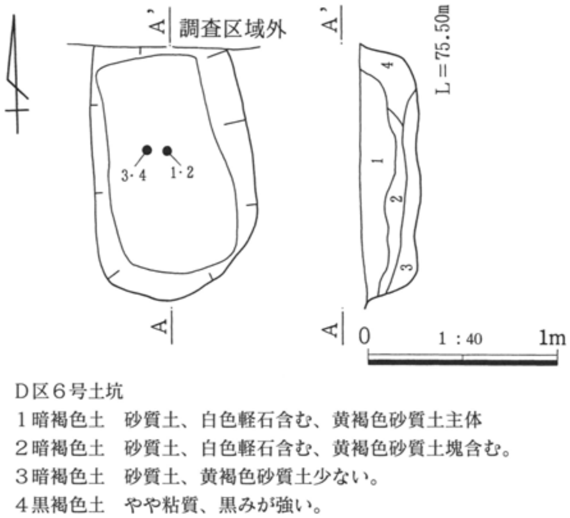
不整円形を呈し、上幅120×100cm、深さ60cmを測り、壁は擂鉢状に緩やかに掘り込まれる。底部付近に焼土塊が多く混入する。出土遺物は古墳時代から平安時代に至る土器片が混在するが実測しうる遺物は無い。本土坑の詳細な時期は不明であるが、As-B下水田耕作土を除去して検出されており水田より古い。



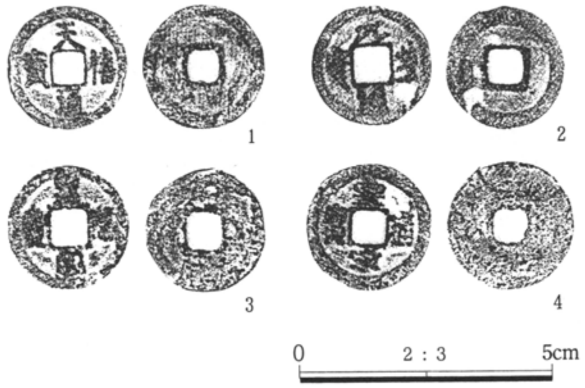
第157図　B－２区10号土坑

D区６号土坑

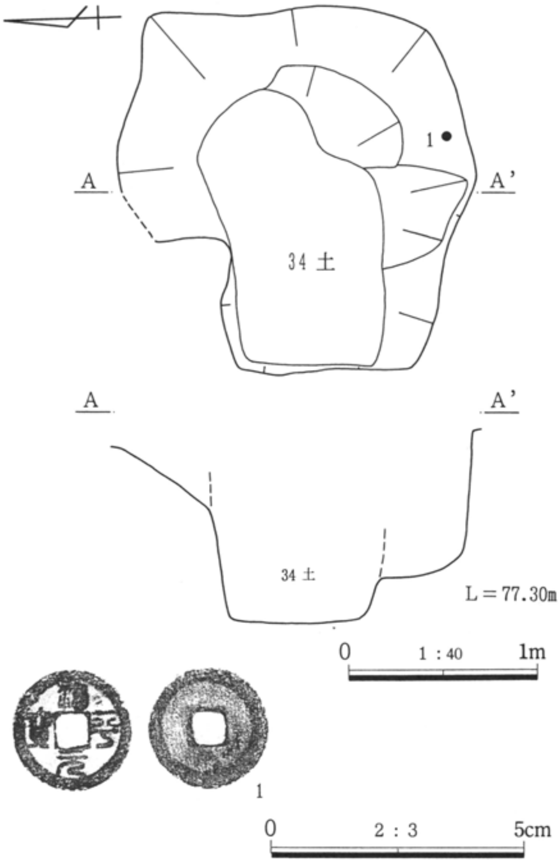
長方形を呈し、上幅112×80cm、深さ32cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。黄褐色砂質土塊を含むオリーブ褐灰色土を埋土とする。人骨は確認できなかったが、底部より皇宋通宝、天禧通宝、元祐通宝の北宋銭を出土した。本墓壙の時期は遺構形状や出土遺物より中世と思われる。



第158図　D区６号土坑



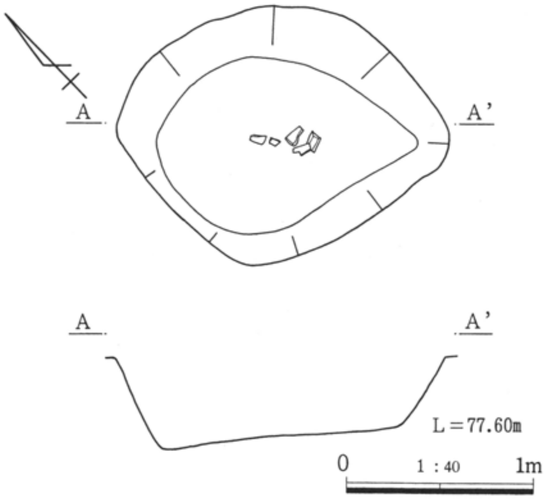
第159図　Ｄ区６号土坑出土遺物



第161図　Ｄ区60号土坑、出土遺物

Ｄ区55号土坑

Ｄ区１号住居と重複し、55号土坑が新しい。方形を呈し、上幅140×136cm、深さ約50cmを測り、壁は緩やかに掘り込まれる。遺物は内耳鍋と思われる小片を含め中世の土器片を主体とするが、実測し得る遺物は無かった。重複する住居からの混入と思われる土師器片も数点出土した。本遺構の時期は出土遺物から判断し中世と思われる。



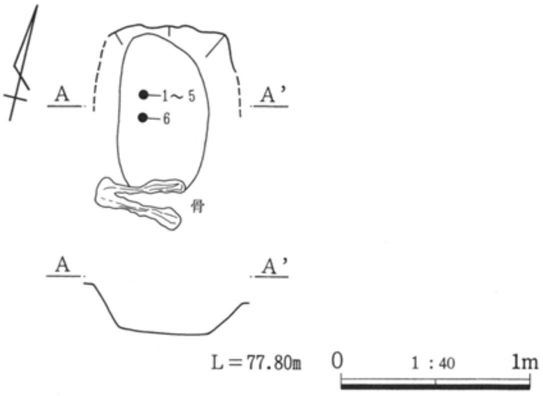
第160図　Ｄ区55号土坑

Ｄ区60号土坑

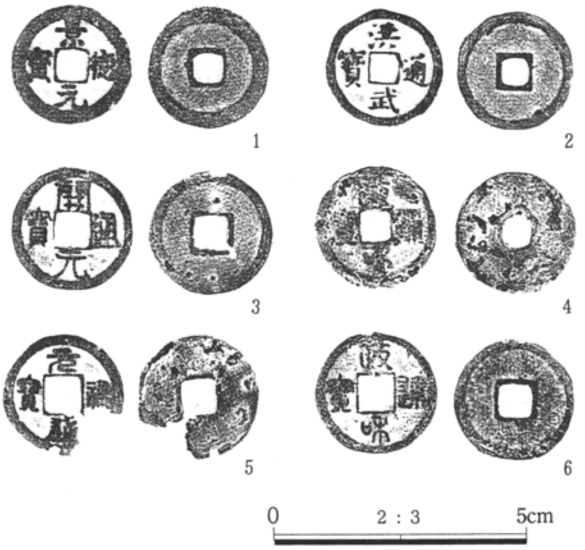
34号土坑と重複し、中央西側部分を消失しているが、長方形を呈すると思われ上幅190×120cm、深さ84cmを測る。壁は緩やかに掘り込まれる。底部より北宋の治平元寶を出土した。出土遺物や形状から中世の墓壙と思われる。

Ｄ区61号土坑

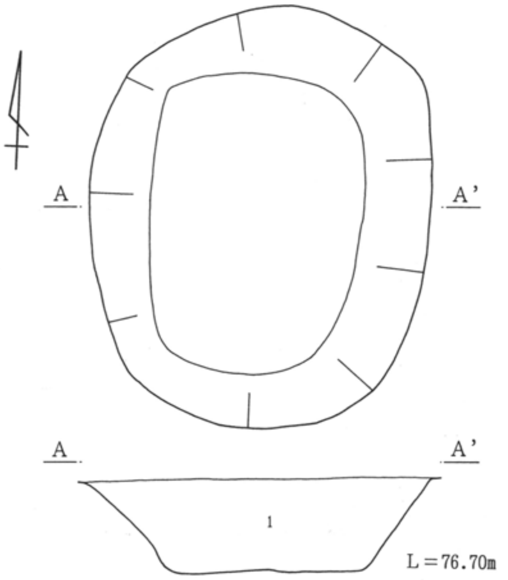
５号溝と重複し５号溝より新しいと思われるが、同時に調査したため規模は不明。確認面より底部まで約24cmを測り、底部中央に人骨、底部北側に明銭（洪武通宝）、北宋銭（政和通宝）等の古銭６枚が集中して出土した。本墓壙の時期は出土遺物より中世と思われる。



第162図　Ｄ区61号土坑



第163図　D区61号土坑出土遺物



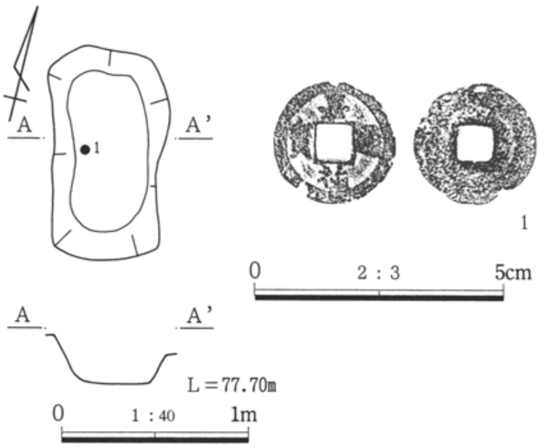
B－5区1号土坑
1褐色土　砂質、黄褐色砂質土粒
　　　　白色軽石少し含む

0　1：40　1m

第165図　B－5区1号土坑

D区62号土坑

5号溝と重複し、5号溝より新しい。長方形を呈し、上幅135×95cm、深さ28cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。底部北側と中央南寄りに人骨、底部中央付近に北宋銭（嘉祐通宝）を出土した。本墓壙の時期は出土遺物より中世と思われる。



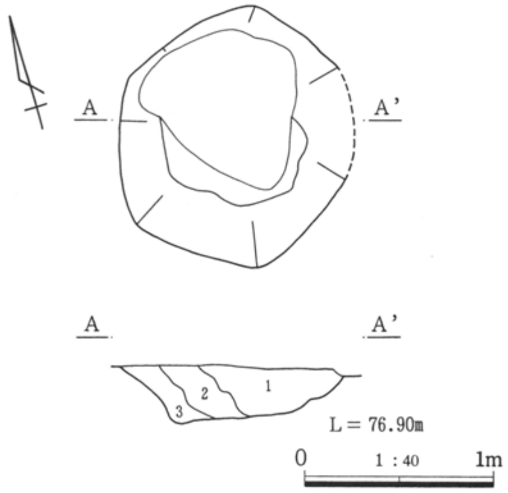
第164図　D区62号土坑、出土遺物

B－5区1号土坑

長方形を呈し上幅224×176cm、深さ60cmを測り、底面は平坦で壁は緩やかに掘り込まれる。遺物は陶器、陶磁器、瓦等の近世の遺物を主体とする。本土坑の時期は出土遺物より近世と思われる。

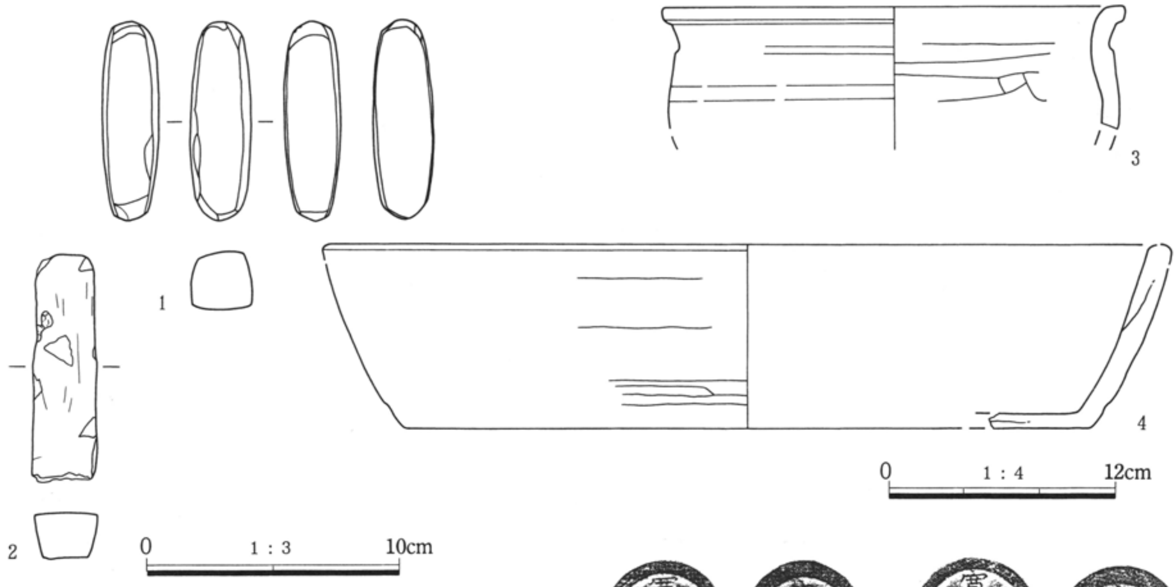
B－5区2号土坑

ほぼ円形を呈し、径130cm、深さ28cmを測り、壁は緩やかに掘り込まれる。覆土断面には少なくとも2時期の掘直しが確認できた。出土遺物は近世を主体とし該期以外の遺物は確認されない。本土坑の時期は近世と思われる。

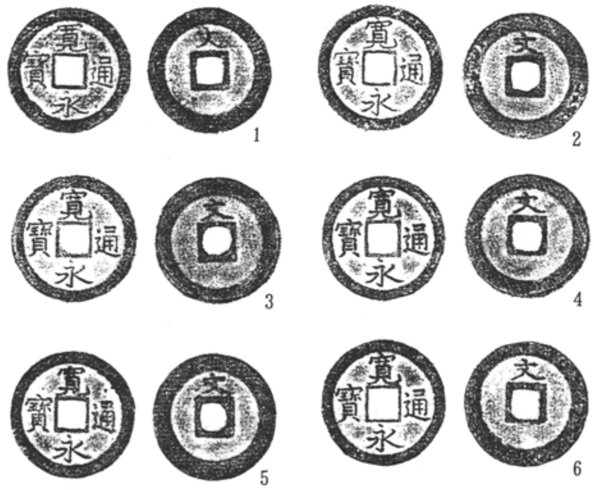


B－5区2号土坑
1褐色土　　黄褐色砂質土主体
2暗褐色土　黒褐色土多く混じる、黄褐色砂質土粒含む
3褐色土　　1層に類似

第166図　B－5区2号土坑

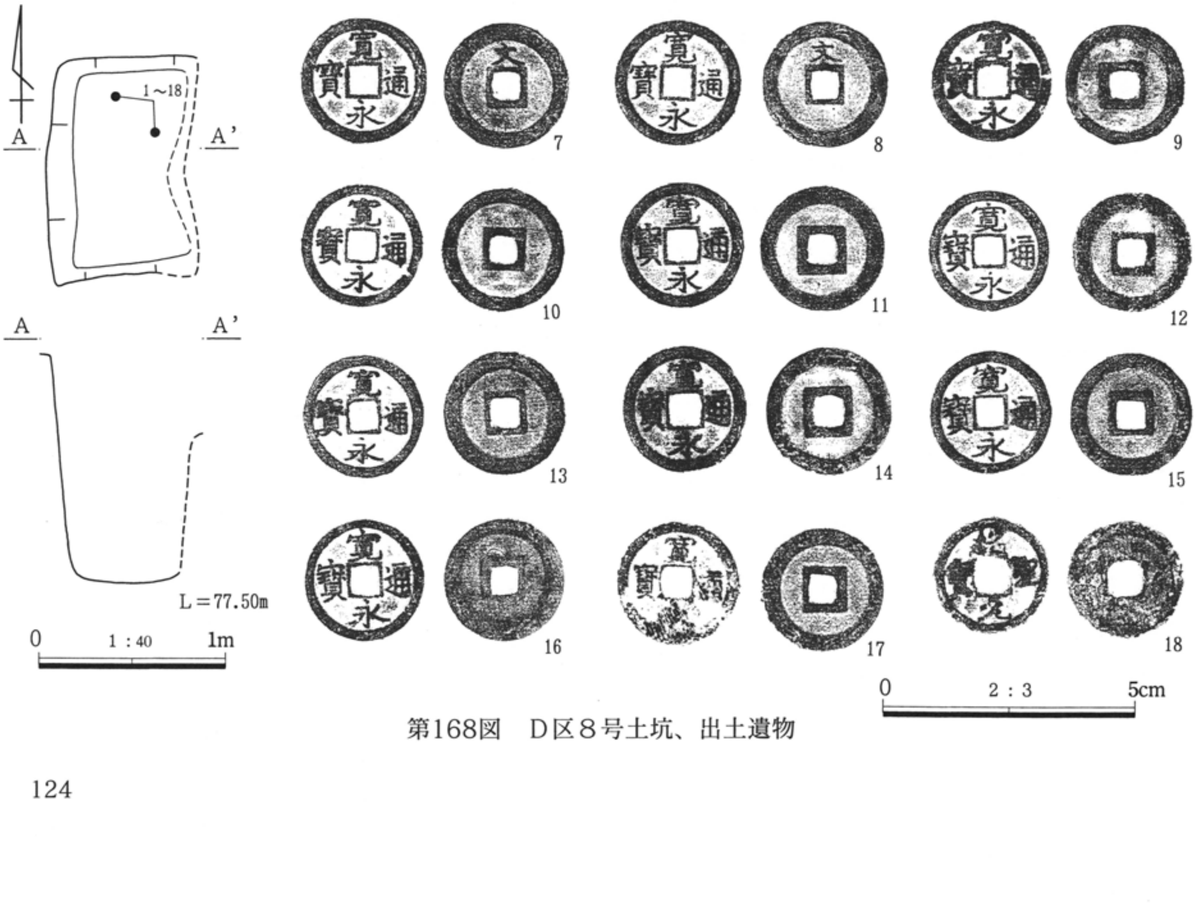


第167図　B－5区2号土坑出土遺物



D区8号土坑

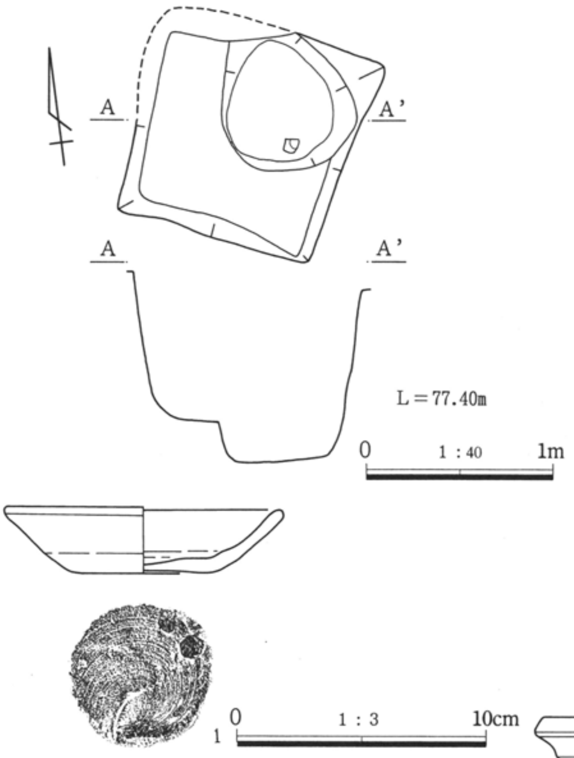
58土坑と重複し東壁は消失しているが、ほぼ正方形を呈すると思われ上幅110×108cm、深さ148cmを測る。壁はほぼ垂直に掘り込まれる。底部より布が付着し互いに凝着する12枚のを含め合計18枚の寛永通宝を出土した。本墓壙の時期は出土遺物より近世と思われる。



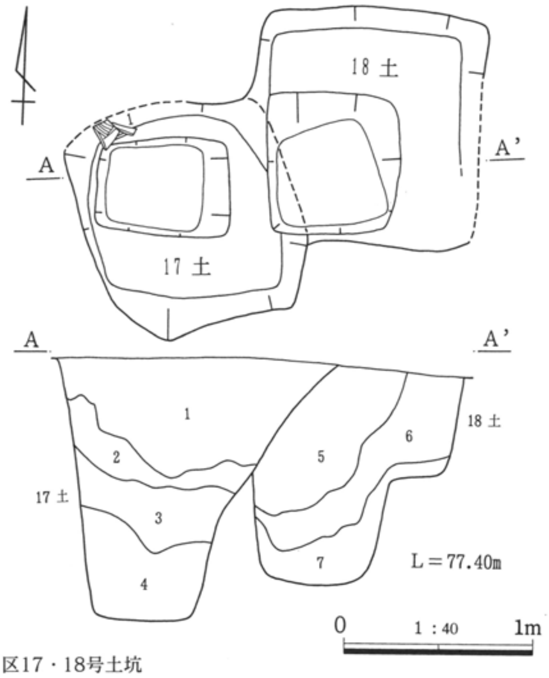
第168図　D区8号土坑、出土遺物

D区11号土坑

ほぼ正方形を呈し、上幅120×108cm、深さ75cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。底部北東隅は円形状（径約68cm）に20cm程一段深くなり、底部より完形の土器（かわらけ）を出土した。本墓壙の時期は出土遺物より近世と思われる。



第169図　D区11号土坑、出土遺物



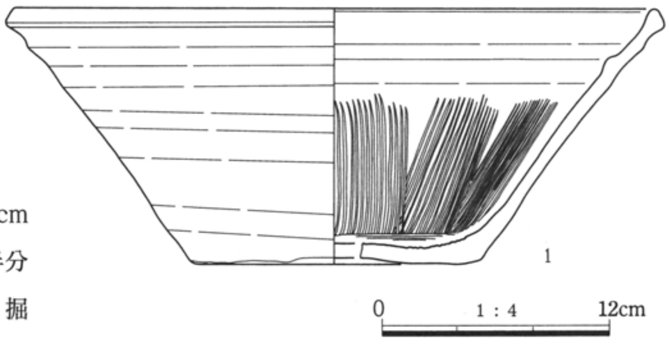
D区17・18号土坑

1オリーブ褐色土	砂質、中礫少し含む
2灰オリーブ褐色土	砂質、黄褐色砂質土混じる
3黒褐色土	2層土を塊状に含む、中礫少し含む
4黒褐色土	3層より明るい、中礫少し含む
5オリーブ褐色土	砂質、礫多く含む
6黒褐色土	砂質、大小礫多く含む
7暗オリーブ褐色土	砂質、礫含む

第170図　D区17、18号土坑

D区17号土坑

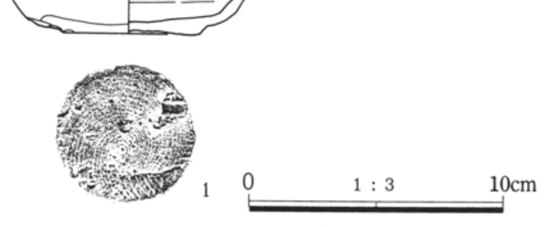
ほぼ正方形を呈し上幅120×108cm、深さ80cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。底部北半分は方形状（72×48cm）に深さ52cm程一段深く掘られており、底部より擂鉢を出土した。本墓壙の時期は、出土遺物より近世と思われる。



第171図　D区17号土坑出土遺物

D区18号土坑

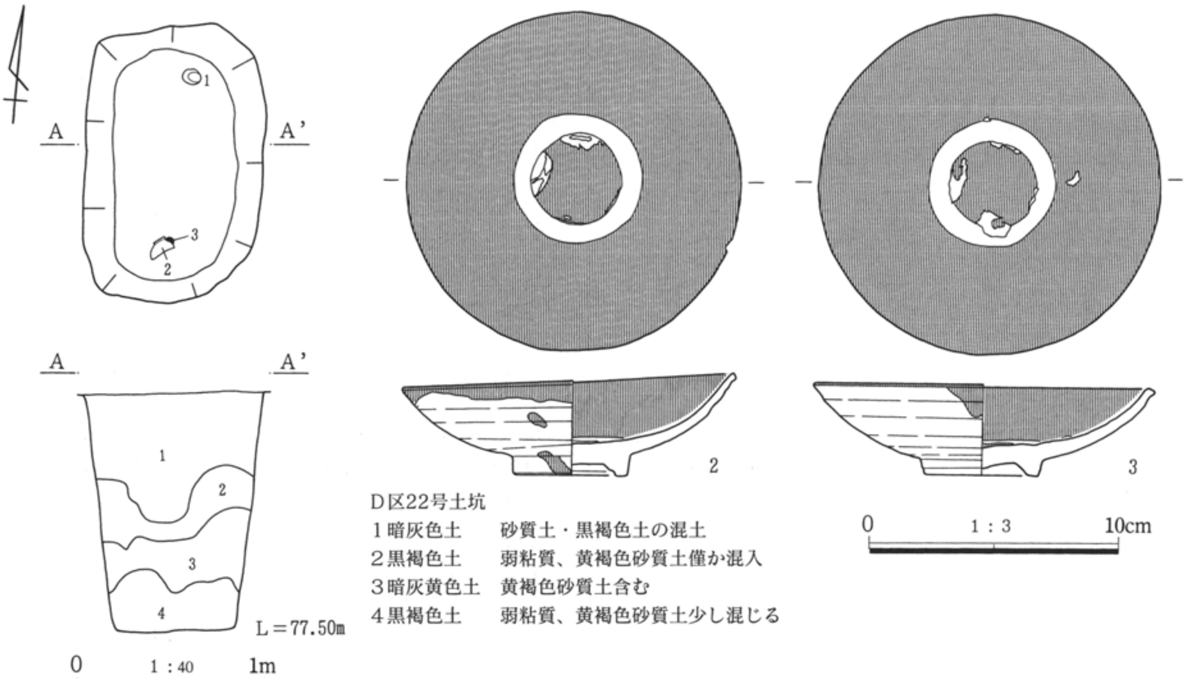
ほぼ正方形を呈し上幅100×100cm、深さ60cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。底部南西隅が方形状（72×72cm）に深さ57cm程一段深く掘られており、そこより土器（かわらけ）を出土した。本墓壙の時期は、形状や出土遺物から判断して近世と思われる。



第172図　D区18号土坑出土遺物

D区22号土坑

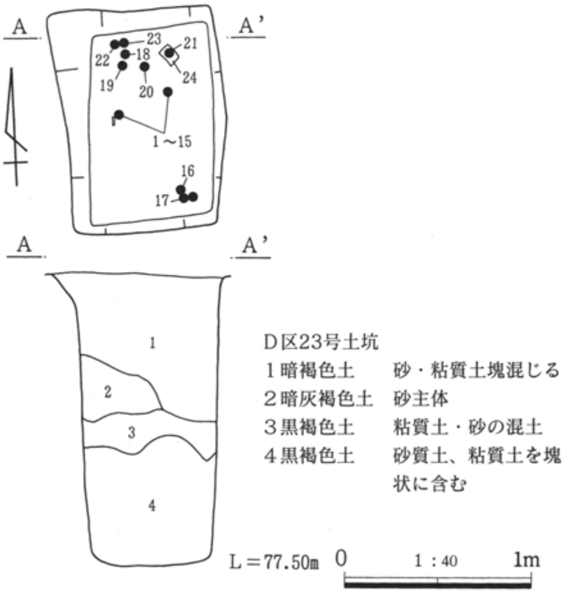
長方形を呈し、上幅144×116cm、深さ125cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。覆土は黄褐色砂質土を含む暗褐色土を主体とする。底部より江戸後期薩摩焼き「皿」や「かわらけ」を出土した。本土坑の時期は出土遺物より近世と思われる。



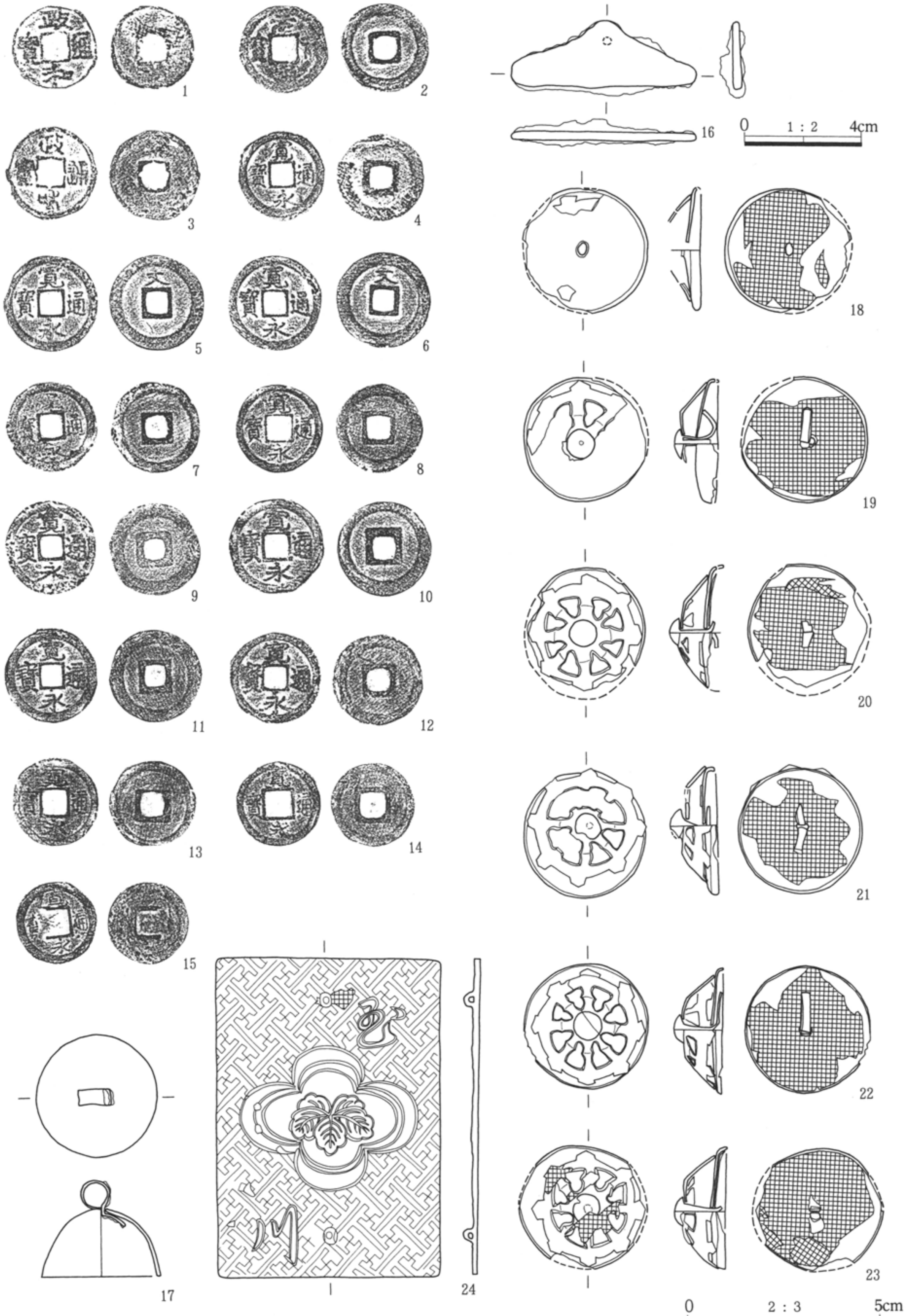
第173図　D区22号土坑、出土遺物

D区23号土坑

長軸を南北に待つ長方形を呈し、上幅116×84cm、深さ155cmを測る。壁はほぼ垂直に掘り込まれ、底面はほぼ平坦である。人骨は確認できなかったが、北西隅に裏面に金糸が残存する飾り金具を6点、北東隅に方形青白銅製鏡を1点、南東隅に火打金と銅製鉦を各1点、中央付近には布が付着し互いに凝着した15枚の古銭（寛永通宝12、政和通宝2、元祐通宝1）と数点の漆小剥片を出土した。本墓壙の時期は出土遺物より近世と思われる。



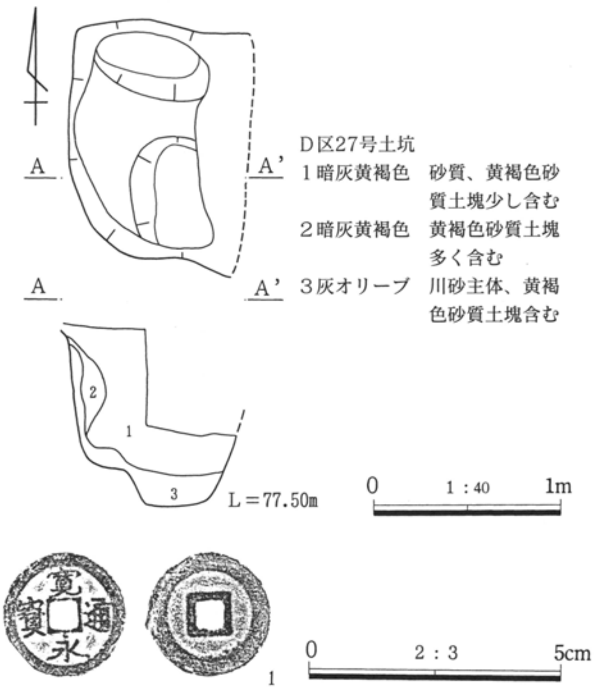
第174図　D区23号土坑



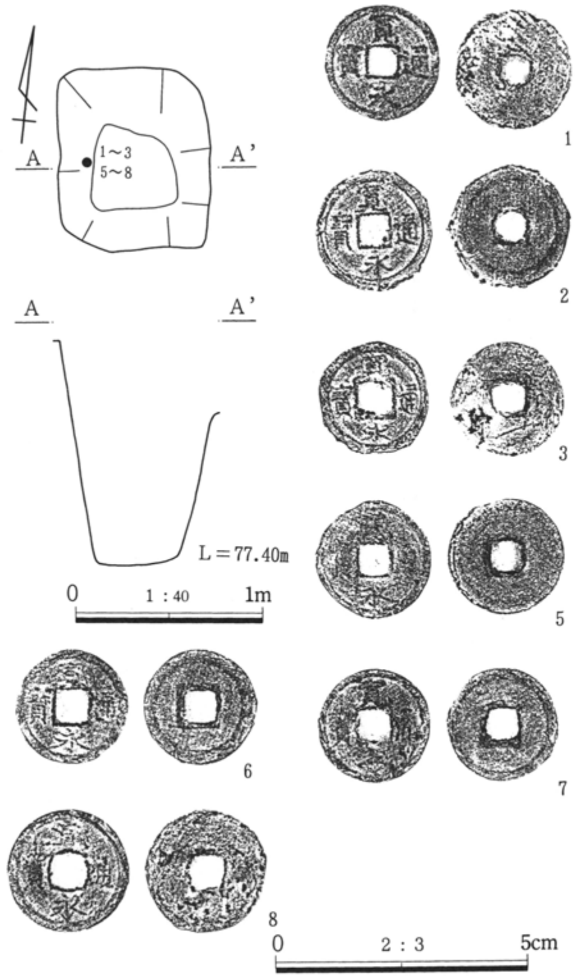
第175図　D区23号土坑出土遺物

D区27号土坑

長方形を呈し上幅120×84cm、深さ93cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。覆土より寛永通宝を出土した。本土坑の時期は、出土遺物より近世と思われる。



第176図　D区27号土坑、出土遺物



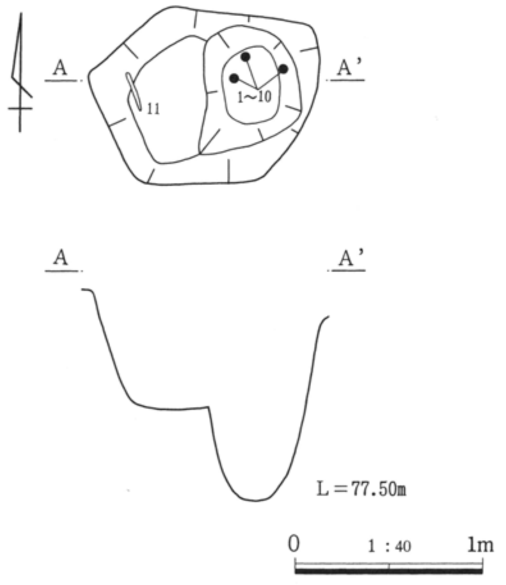
第177図　D区31号土坑、出土遺物

D区31号土坑

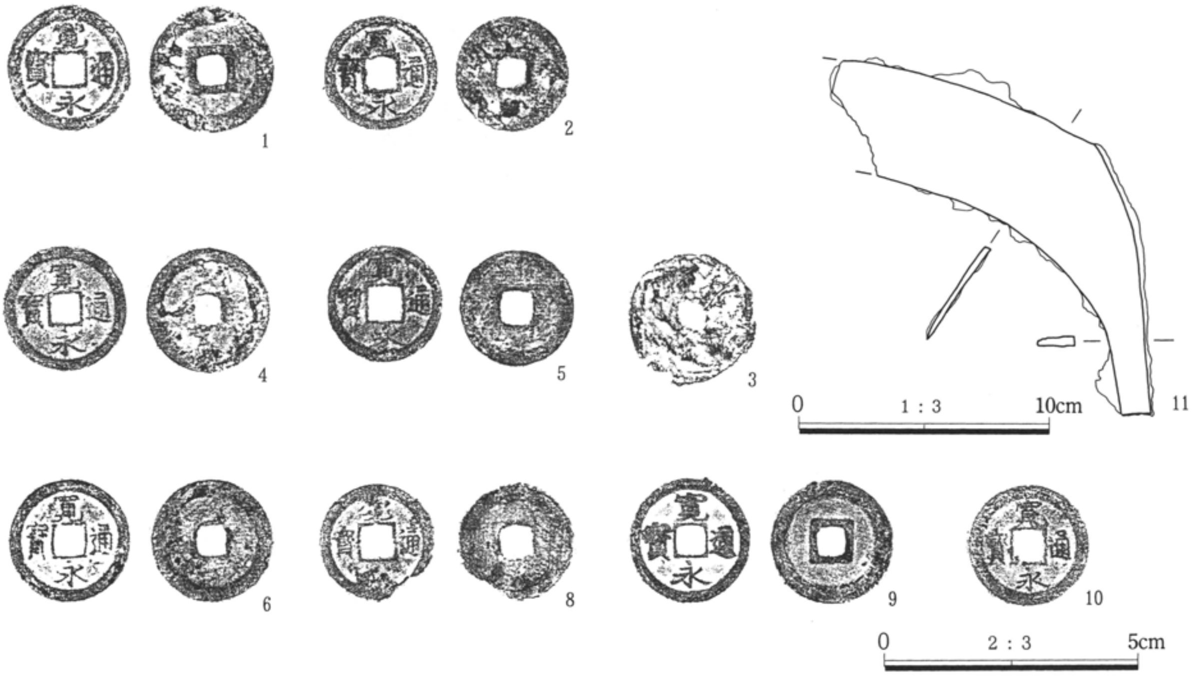
ほぼ正方形を呈し、上幅98×80cm、深さ115cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。底部より人骨の一部と布が付着している寛永通宝を出土した。本墓壙の時期は出土遺物より近世と思われる。

D区33号土坑

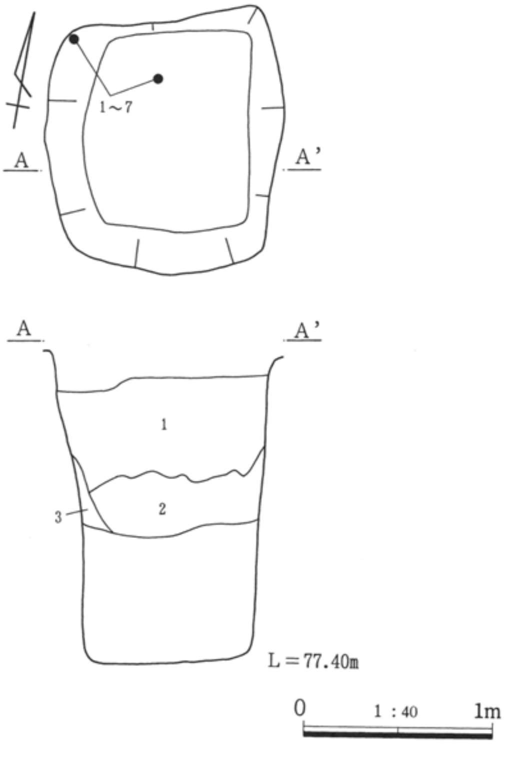
２基の土坑が重複したかのような不整方形を呈する。浅い箇所が上幅90×60cm、深さ61cmを測り、東側の深い箇所が上幅60×52cm、深さ111cmを測る。低い箇所の底部より鎌、深い箇所の底部に布が残存し互いに凝着した古銭を含め10枚の寛永通宝を出土した。本墓壙の時期は出土遺物より近世と思われる。



第178図　D区33号土坑

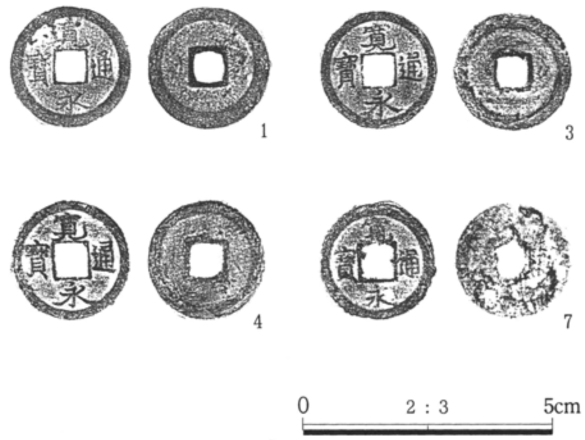


第179図　D区33号土坑出土遺物



D区35号土坑

ほぼ正方形を呈し、上幅130×118cm、深さ158cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込む。底部より布が付着し互いに凝着した古銭を含め７枚（内３枚は結晶付着のため拓本不可）の寛永通宝を出土した。本墓壙の時期は、出土遺物より近世と思われる。

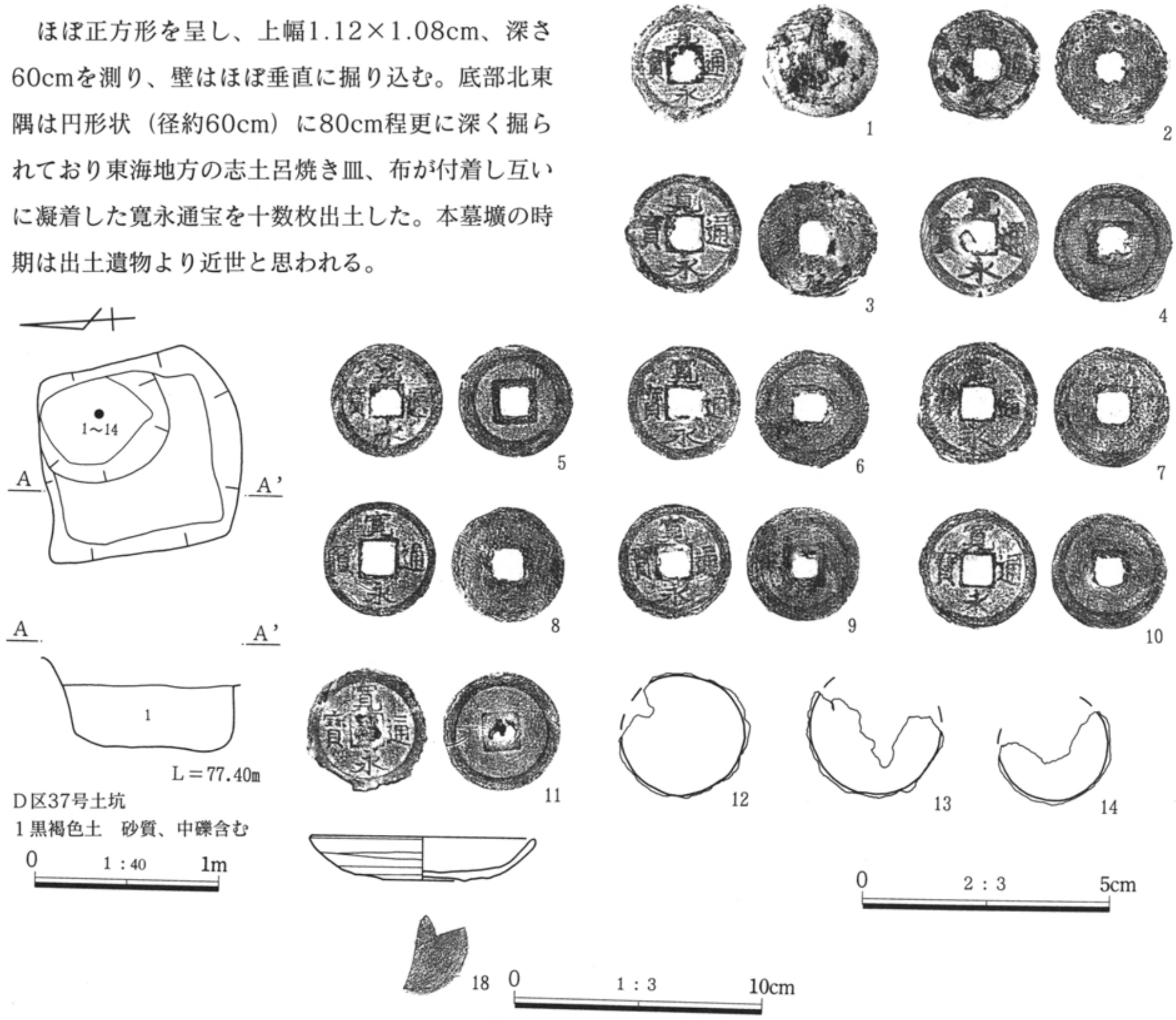


D区35号土坑
１暗灰黄褐色土　黄褐色砂質土主体、黒褐色土少し混じる
２黒褐色土　川砂主体、黄褐色砂質土混じる
３黄褐色土　黄褐色砂質土主体

第180図　D区35号土坑、出土遺物

D区37号土坑

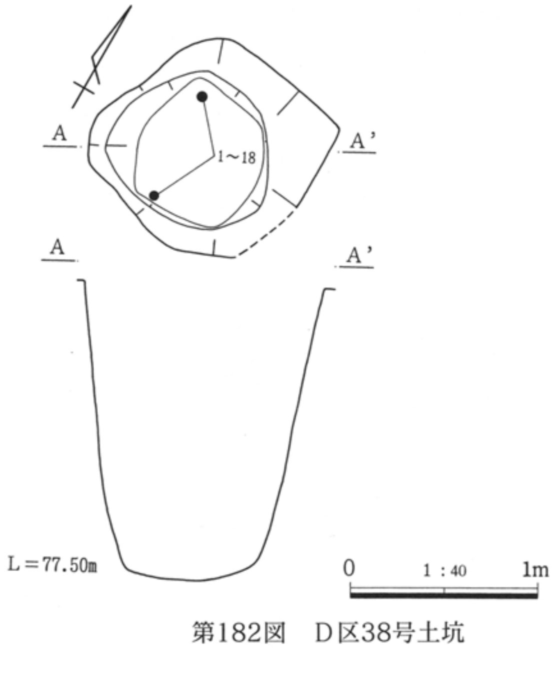
ほぼ正方形を呈し、上幅1.12×1.08cm、深さ60cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込む。底部北東隅は円形状（径約60cm）に80cm程更に深く掘られており東海地方の志土呂焼き皿、布が付着し互いに凝着した寛永通宝を十数枚出土した。本墓壙の時期は出土遺物より近世と思われる。



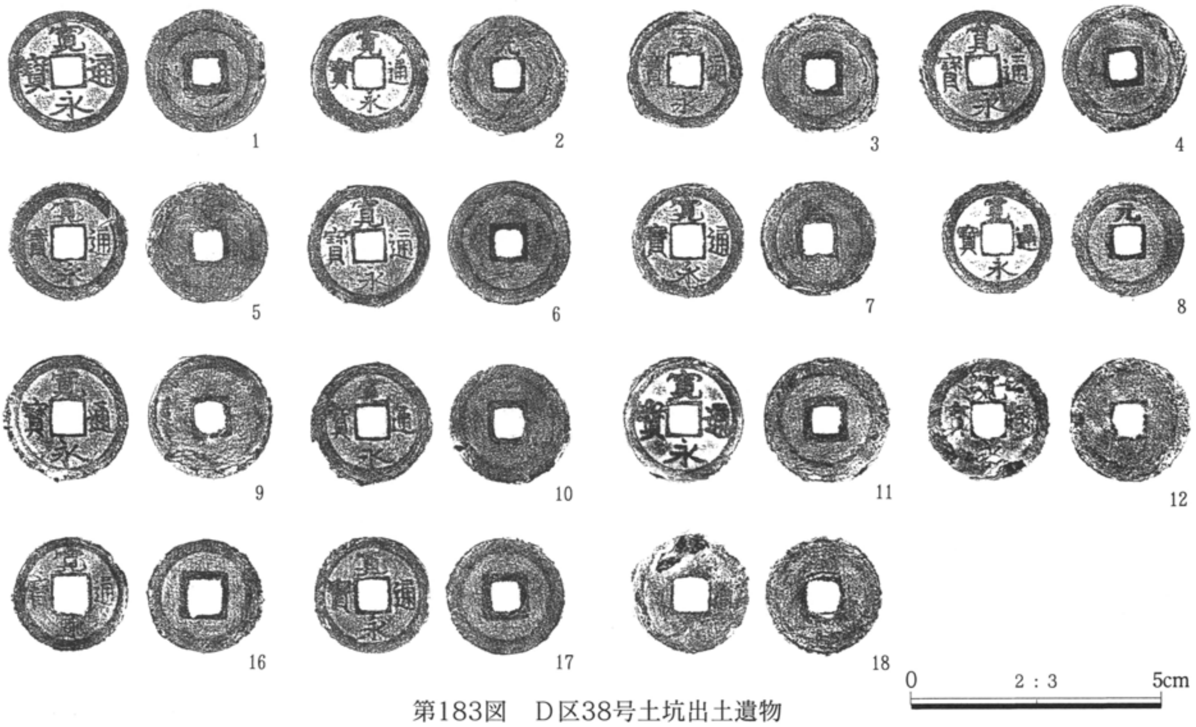
第181図　D区37号土坑、出土遺物

D区38号土坑

ほぼ正方形を呈し、上幅108×104cm、深さ155cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込む。覆土より江戸時代の擂鉢、口縁部片、底部より布が付着し互いに凝着した十数枚の寛永通宝を出土した。本墓壙の時期は出土遺物より近世と思われる。



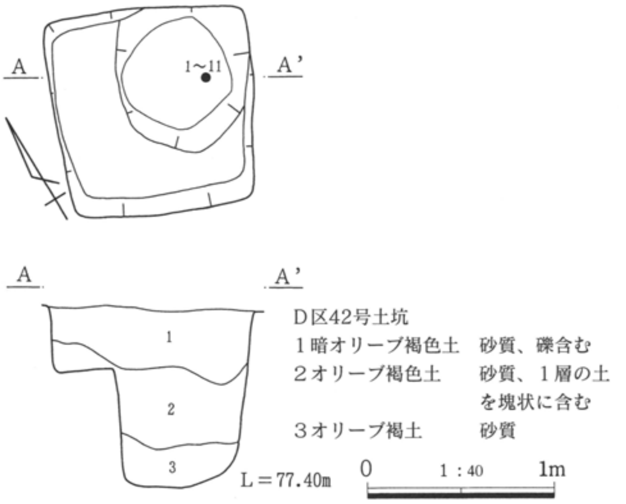
第182図　D区38号土坑

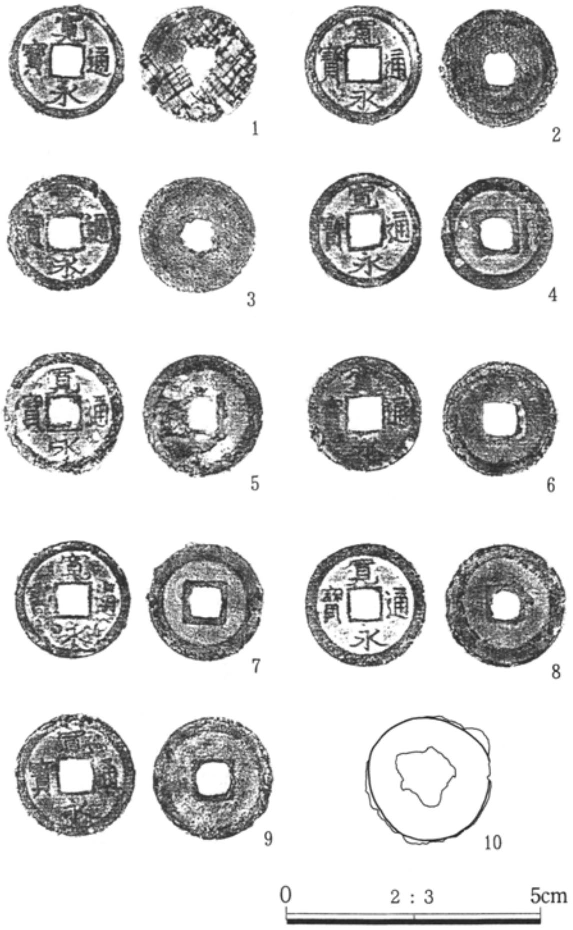


第183図　D区38号土坑出土遺物

D区42号土坑

　ほぼ正方形を呈し、上幅108×100cm、深さ34cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。底部北東隅は方形状（76×68cm）に58cm程一段深くなり、底部より布が付着し互いに凝着した十数枚の寛永通宝を出土した。本墓壙の時期は出土遺物より近世と思われる。

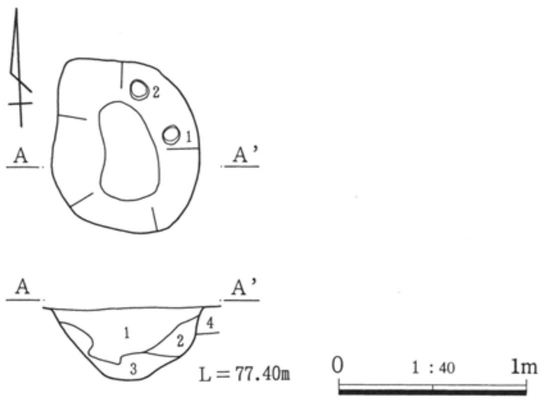




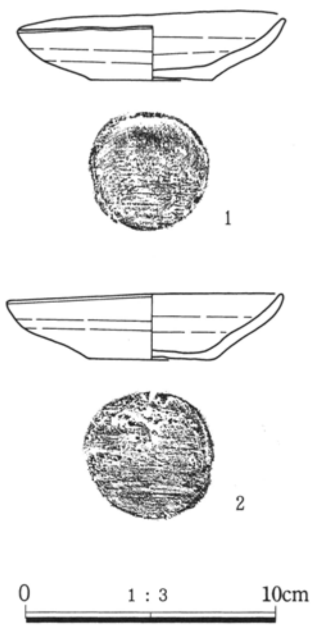
第184図　D区42号土坑、出土遺物

D区43号土坑

D区14号住居と重複し、楕円形を呈する。上幅92×84cm、深さ約26cmを測り、壁面は緩やかに掘り込まれる。覆土は黄褐色砂質土粒・塊を多く含む暗黄灰色土を主体とする。底部より完形の江戸時代後期の土器（かわらけ）を出土した。本土坑の時期は出土遺物より近世と思われる。



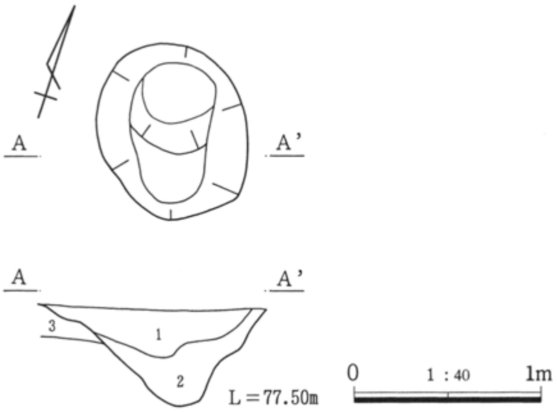
D区43号土坑
１暗灰黄褐色土　砂質、黄褐色砂質土多く混じる
２オリーブ褐色　黄褐色砂質土塊多く含む
３オリーブ褐色　黄褐色砂質土小塊均一に含む
４　　　　　　　14号住居跡覆土



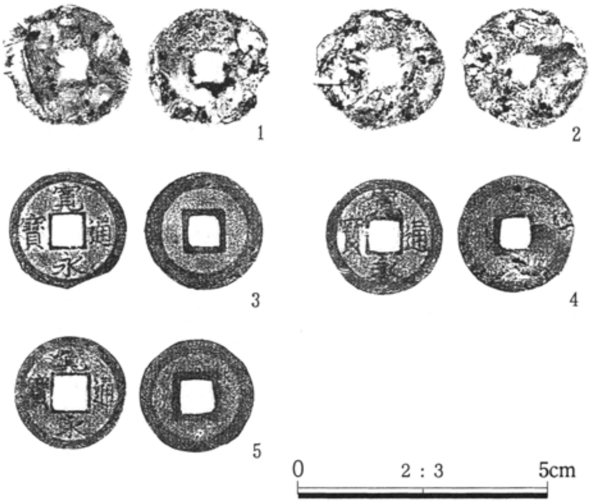
第185図　D区43号土坑、出土遺物

D区44号土坑

ほぼ正方形を呈し、上幅92×80cm、深さ30cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。底部北東隅は径48cmの円形状に26cm程一段深くなり、底部より５枚の寛永通宝を出土した。本墓壙の時期は出土遺物より近世と思われる。



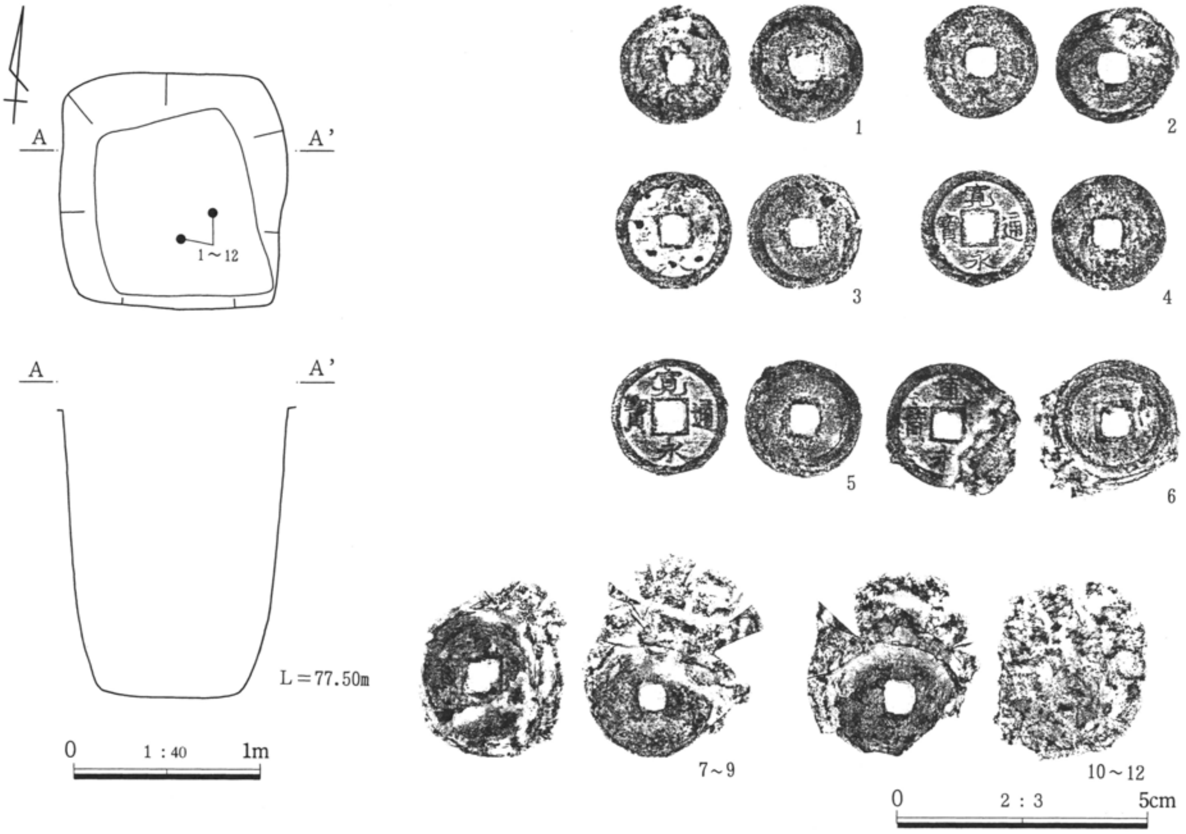
D区44号土坑
１暗灰黄褐色土　砂質、黄褐色砂質土塊少し含む
２黒褐色土　　　白色軽石含む、黄褐色砂質土混じる
３暗褐色土　　　D区12号住居跡覆土



第186図　D区44号土坑、出土遺物

D区52号土坑

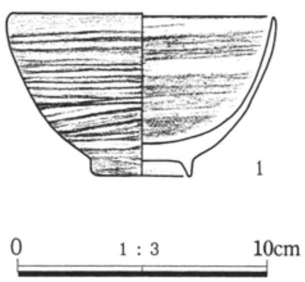
ほぼ正方形を呈し上幅124×120cm、深さ154cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。底部より互いに凝着した13枚の寛永通宝を出土した。本墓壙の時期は、出土遺物より近世と思われる。

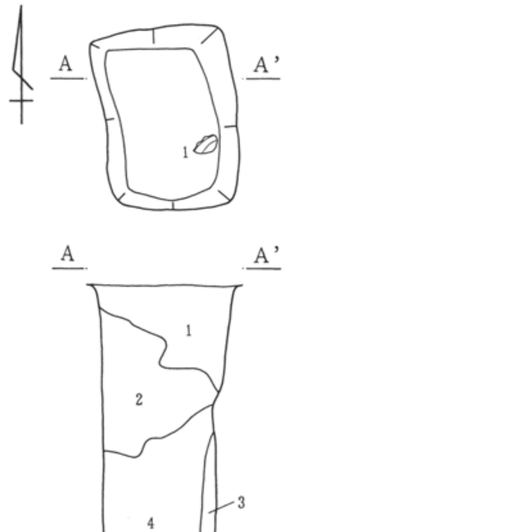


第187図　D区52号土坑、出土遺物

D区53号土坑

長方形を呈し上幅96×72cm、深さ140cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。底部北半分は方形（50×40cm）に、深さ21cm程一段深く掘り下げられており、底部より江戸後期唐津焼き椀を出土した。本墓壙の時期は出土遺物より近世と思われる。



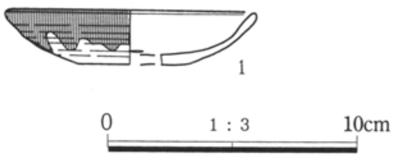


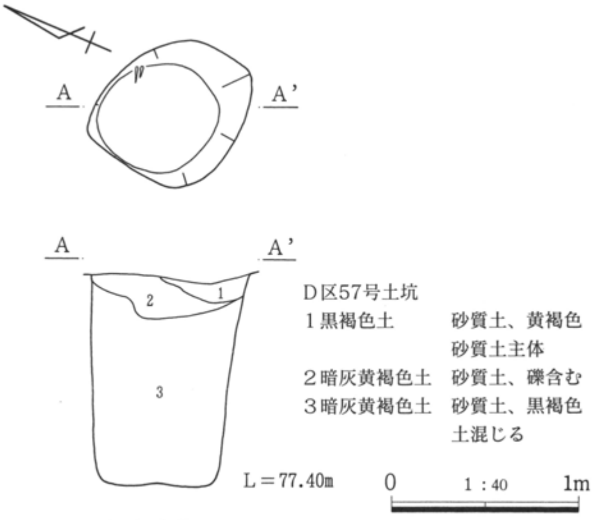
D区53号土坑
1黒褐色土　黄褐色砂質土混じる
2暗灰黄褐色土　川砂主体、黄褐色砂質土塊含む
3灰色　川砂・黒色土の混土
4暗灰黄褐色土　黒褐色土・暗灰黄褐色土の混土

第188図　D区53号土坑、出土遺物

D区57号土坑

ほぼ正方形を呈し、上幅80×72cm、深さ112cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。砂質暗灰黄褐色土により埋没し、底部より人骨の一部と陶磁器の皿を出土した。本墓壙の時期は出土遺物より近世と思われる。

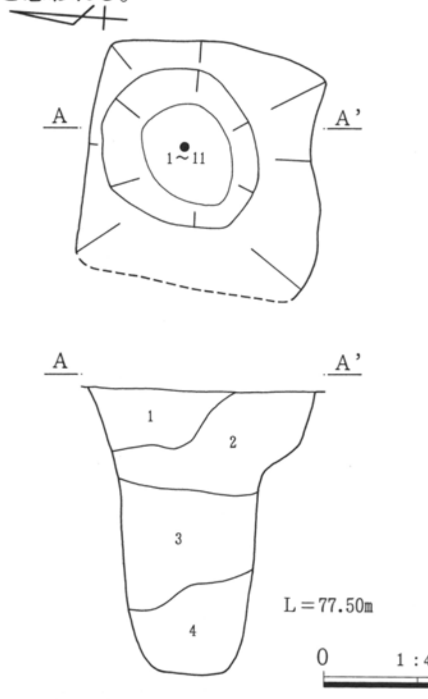




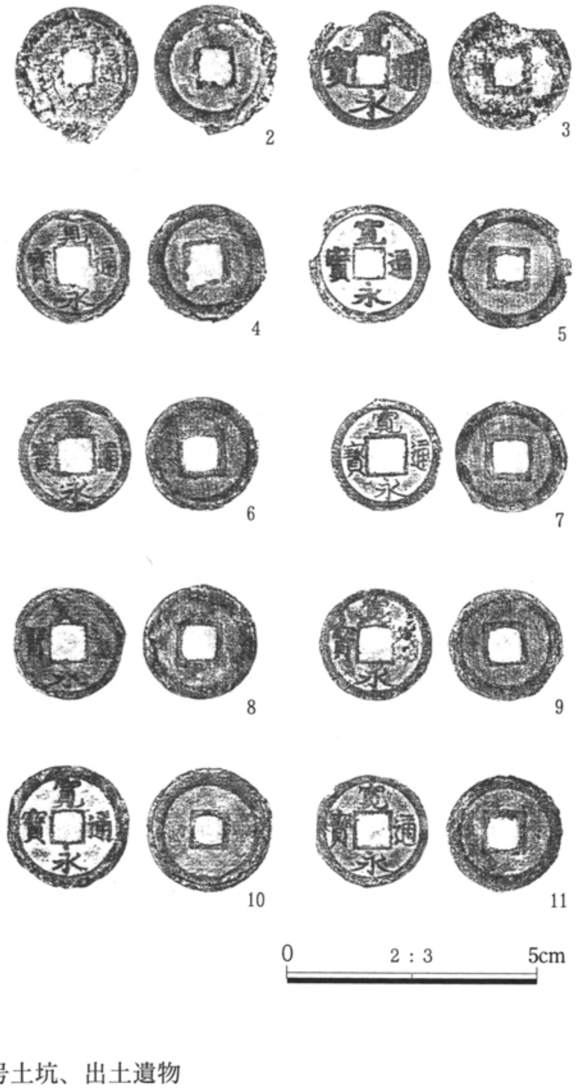
第189図　D区57号土坑、出土遺物

D区58号土坑

８号土坑と重複し西壁は消失しているが、ほぼ正方形を呈すると思われ、上幅112×96cm、深さ150cmを測る。壁はほぼ垂直に掘り込まれる。底部より人骨の一部と布が遺存し互いに凝着する寛永通宝を出土した。本墓壙の時期は出土遺物より近世と思われる。



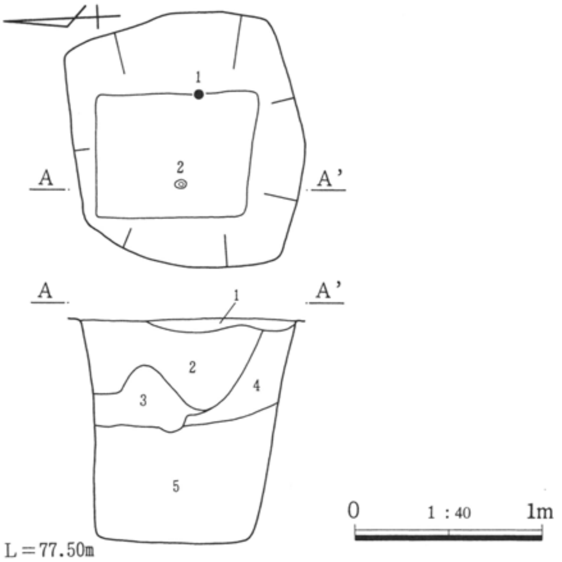
D区58号土坑
1黒褐色土　砂質土、黄褐色砂質土粒・塊含む、白色軽石含む
2黒褐色土　砂質土、大きめの黄褐色砂質土塊含む
3黒褐色土　砂質土、大きめの黄褐色砂質土塊多く含む
4黄灰色土　黒褐色土多く混じる、灰白色シルト塊含む。



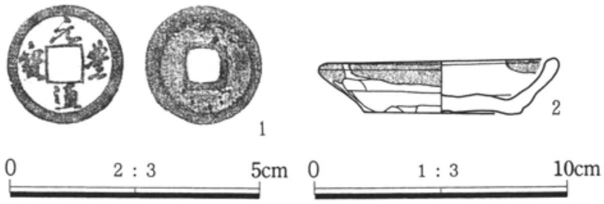
第190図　D区58号土坑、出土遺物

D区59号土坑

ほぼ正方形を呈し、上幅116×112cm、深さ115cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。遺物は土坑底部に灯明皿に使用された土器と北宋の元祐通宝を出土している。本墓廣の時期は出土遺物から判断して近世と思われる。



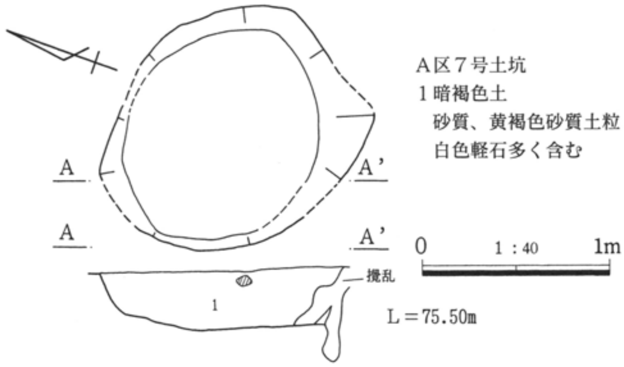
D区59号土坑
1黒褐色土　砂質土、黄褐色砂質土粒・塊多く含む
2黒褐色土　砂質土、黄褐色砂質土塊多く含む
3黒褐色土　砂質土、黄褐色砂質土粒・塊多く含む
4暗灰黄色土　黄褐色砂質土と黒褐色土の混土
5黒褐色土　やや粘質で黒みが強い、黄褐色砂質土粒・塊含む



第191図　D区59号土坑、出土遺物

A区7号土坑

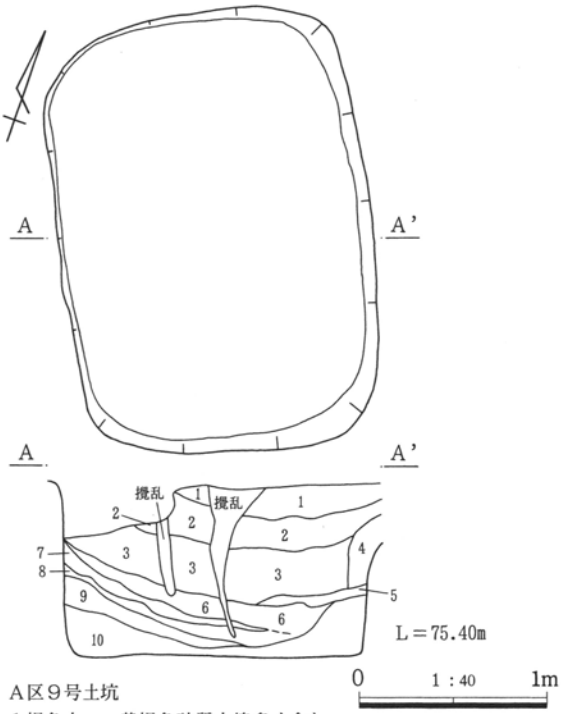
A区7号住居と重複し7号住居より新しい。ほぼ円形を呈し、上幅150×120cm、深さ32cmを測る。細粒軽石・黄褐色砂質土を多く含む暗褐色土を覆土とする。壁面は緩やかに掘り込まれる。出土遺物が無く、時期は不明である。



第192図　A区7号土坑

A区9号土坑

A区7号住居と重複し7号住居より新しい。平面形はほぼ長方形を呈し、上幅230×170cm、深さ90cmを測る。黄褐色砂質土が多く混入する暗褐色土を主体とする土により埋没し、壁面は垂直に掘り込まれ、底面は平坦である。土坑からの出土遺物は極めて少なく土師器小片が数点であった。出土遺物が少なく明確な時期は不明である。

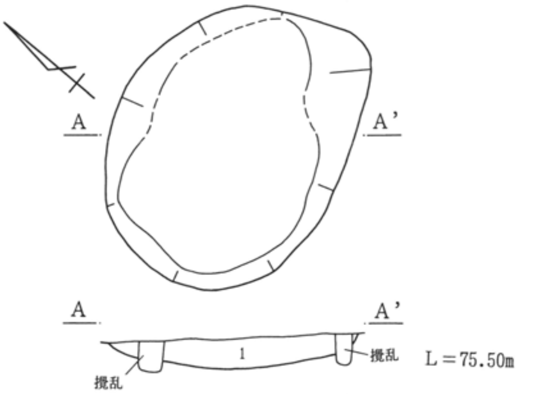


A区9号土坑
1褐色土　黄褐色砂質土塊多く含む
2暗褐色土　黄褐色砂質土塊含む
3暗褐色土　黄褐色砂質土粒・塊、白色軽石多く含む
4暗褐色土　7号住居跡3層土斑状に混入、黄褐色砂質土塊含む
5黒褐色土　黄褐色砂質土塊含む
6黒褐色土　黄褐色砂質土塊含む
7褐色土　黄褐色砂質土粒主体
8黒褐色土　黄褐色砂質土粒多く含む
9褐色土　黄褐色砂質土粒主体
10黒褐色土　黄褐色砂質土粒多く含む

第193図　A区9号土坑

A区13号土坑

楕円形を呈し、上幅160×120cm、深さ10cmを測る。覆土は白色細粒軽石を多く含む砂質暗褐色土である。壁面は緩やかに掘り込まれる。出土遺物が無く、時期は不明である。

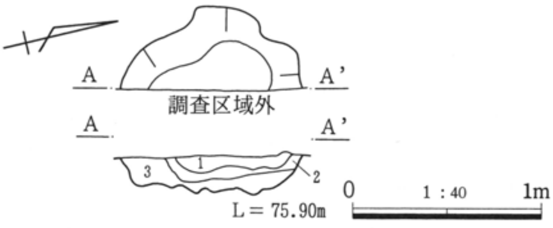


A区13号土坑
1黒褐色土　砂質、白色軽石多く含む

第194図　A区13号土坑

B－2区1号土坑

ほぼ円形を呈すると思われるが、東側は攪乱により消失しており、長さ100cm、深さ20cmを測る。壁は緩やかに掘り込まれ底部はほぼ平坦である。出土遺物は無く、本土坑の時期は不明である。



B－2区1号土坑
1褐色土　　黄褐色砂質土混じる
2暗褐色土　白色軽石含む
3暗褐色土　黄褐色砂質土少し混じる、白色軽石少し含む

第195図　B－2区1号土坑

B－2区7号土坑

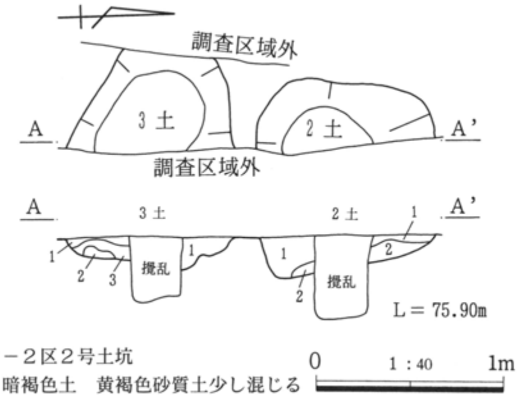
円形を呈すると思われるが、東側は攪乱により消失しており、長さ40cm、深さ68cmを測る。形状から柱穴と思われる。遺物は無く、本土坑の時期は不明である。

B－2区2号土坑

方形を呈すると思われるが、東側は攪乱により消失し中央にも大きく攪乱が入る。残存する部分で長さ92cm、深さ20cmを測る。壁は緩やかに掘り込まれ底部はほぼ平坦である。出土遺物は無く、本土坑の時期は不明である。

B－2区3号土坑

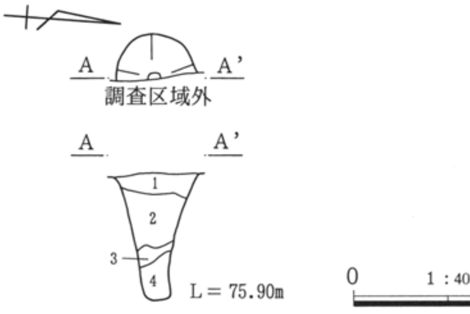
方形を呈すると思われるが、東側は攪乱により消失し中央にも大きく攪乱が入る。残存する部分で長さ94,5cm、深さ16cmを測る。壁は緩やかに掘り込まれ底部はほぼ平坦である。出土遺物は無く、本土坑の時期は不明である。



B－2区2号土坑
1暗褐色土　黄褐色砂質土少し混じる
2褐色土　　黄褐色砂質土多く混じる、白色軽石含む

B－2区3号土坑
1暗褐色土　黄褐色砂質土少し混じる
2暗褐色土　黄褐色砂質土混じる
3褐色土　　黄褐色砂質土多く混じる

第196図　B－2区2、3号土坑

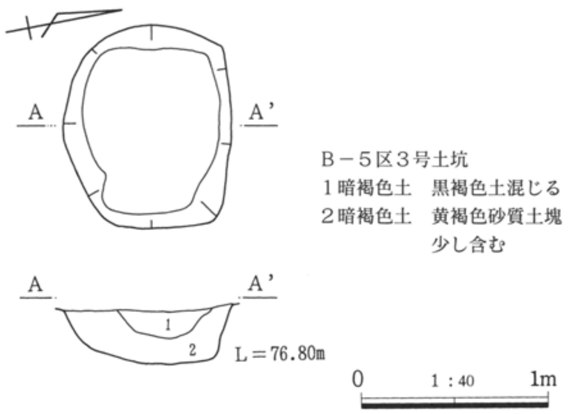


B－2区7号土坑
1褐色土　　黄褐色砂質土塊多く含む
2暗褐色土　白色軽石含む、黄褐色砂質土混じる
3暗褐色土　黄褐色砂質土塊少し含む
4暗褐色土　やや粘質

第197図　B－2区7号土坑

Ｂ－５区３号土坑

長方形を呈し上幅108×92cm、深さ28cmを測り、底面は平坦で壁は緩やかに掘り込まれる。丸礫を出土する以外、土器等の遺物は無く本土坑の時期は不明である。



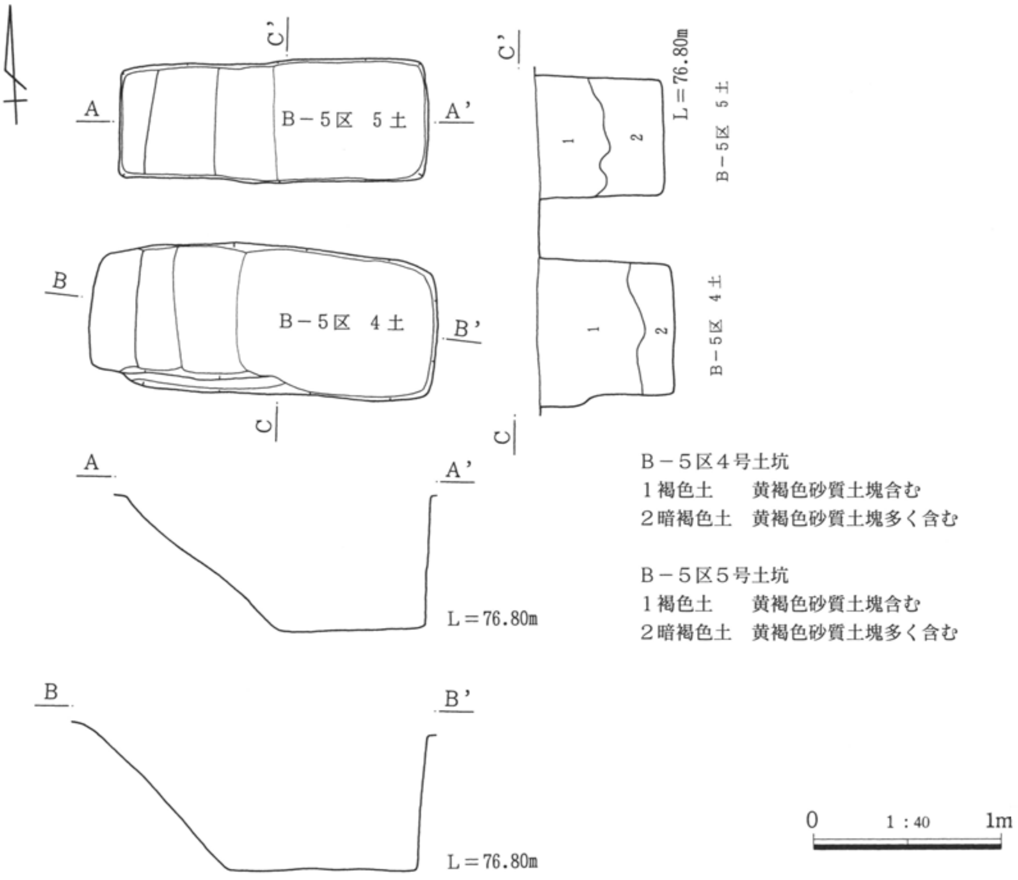
第198図　Ｂ－５区３号土坑

Ｂ－５区４号土坑

東西に長い長方形を呈し、上幅180×72cm、深さ72cmを測る。入り口と思われる西壁は土坑底部まで約45度の角度で傾斜するが、他の３壁は垂直に掘り込まれている。出土遺物は無いが、近接する９号土坑と形状が類似しており、ほぼ同時期、近世から近代に掛けての遺構と思われる。農作物等の貯蔵用施設であろうか。

Ｂ－５区５号土坑

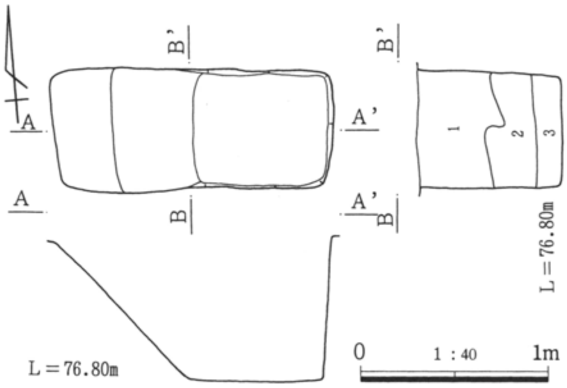
東西に長い長方形を呈し、上幅160×60cm、深さ64cmを測る。入り口と思われる西壁は土坑底部まで約45度の角度で傾斜するが、他の３壁は垂直に掘り込まれている。出土遺物は無いが、近接する９号土坑と形状が類似しており、ほぼ同時期、近世から近代に掛けての遺構と思わる。農作物等の貯蔵用施設であろうか。



第199図　Ｂ－５区４、５号土坑

B－5区6号土坑

東西に長い長方形を呈し、上幅160×80cm、深さ76cmを測る。入り口と思われる西壁は土坑底部まで約45度の角度で傾斜するが、他の3壁は垂直に掘り込まれている。出土遺物は無いが、近接する9号土坑と形状が類似しており、ほぼ同時期、近世から近代に掛けての遺構と思わる。農作物等の貯蔵用施設であろう。

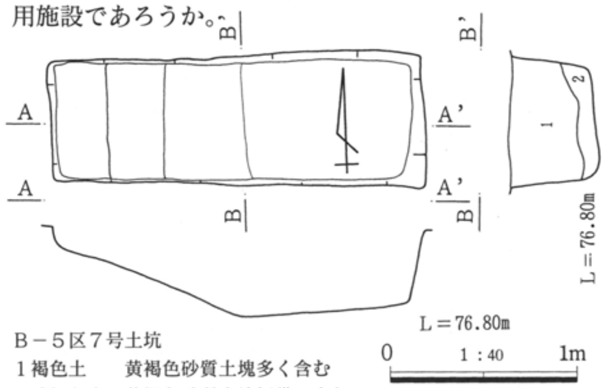


B－5区6号土坑
1褐色土　　黄褐色砂質塊大・小多く含む
2暗褐色土　黄褐色砂質粒少し含む
3黒褐色土　やや粘質

第200図　B－5区6号土坑

B－5区7号土坑

東西に長い長方形を呈し、上幅200×72cm、深さ48cmを測る。入り口と思われる西壁は8cm程ほぼ垂直に掘り込まれ、そこから土坑底部まで緩やかに傾斜しているが、他の3壁は垂直に掘り込まれている。他の土坑同様出土遺物は無いが、近接する9号土坑と形状が類似しており、ほぼ同時期の近世から近代に掛けての遺構と思われる。農作物等の貯蔵用施設であろうか。

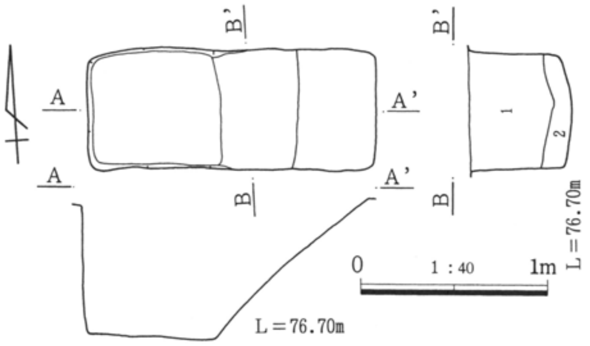


B－5区7号土坑
1褐色土　　黄褐色砂質土塊多く含む
2暗褐色土　黄褐色砂質土塊極僅か含む

第201図　B－5区7号土坑

B－5区8号土坑

東西に長い長方形を呈し、上幅156×60cm、深さ68cmを測る。入り口と思われる東壁は土坑底部まで約45度の角度で傾斜するが、他の3壁は垂直に掘り込まれている。出土遺物は無いが、近接する10号土坑と形状が類似しており、ほぼ同時期、近世から近代に掛けての遺構と思われる。農作物等の貯蔵用施設であろうか。

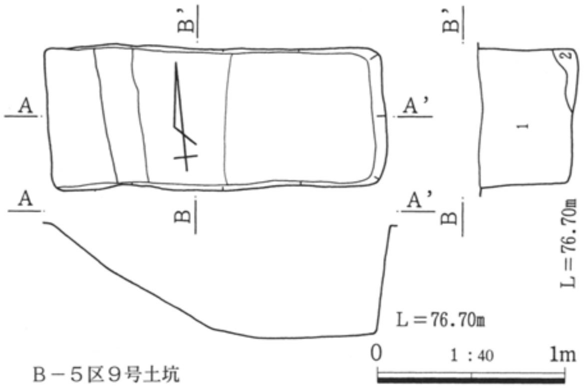


B－5区8号土坑
1褐色土　　黄褐色砂質土塊大・小多く含む
2暗褐色土　黄褐色砂質土塊少し含む

第202図　B－5区8号土坑

B－5区9号土坑

東西に長い長方形を呈し、上幅176×72cm、深さ44cmを測る。入り口と思われる西壁は土坑底部まで緩やかに傾斜するが、他の3壁は垂直に掘り込まれている。覆土より江戸後期陶磁器片を出土する。明確な時期確定は難しいが近世から近代に掛けての遺構と思われる。形状の似る他の土坑同様、農作物等の貯蔵用施設であろうか。

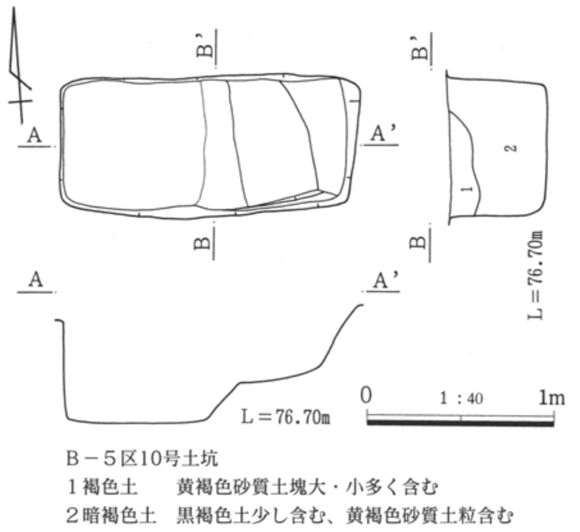


B－5区9号土坑
1褐色土　　黄褐色砂質土塊多く含む
2暗褐色土　黄褐色砂質土塊極僅か含む

第203図　B－5区9号土坑

B－5区10号土坑

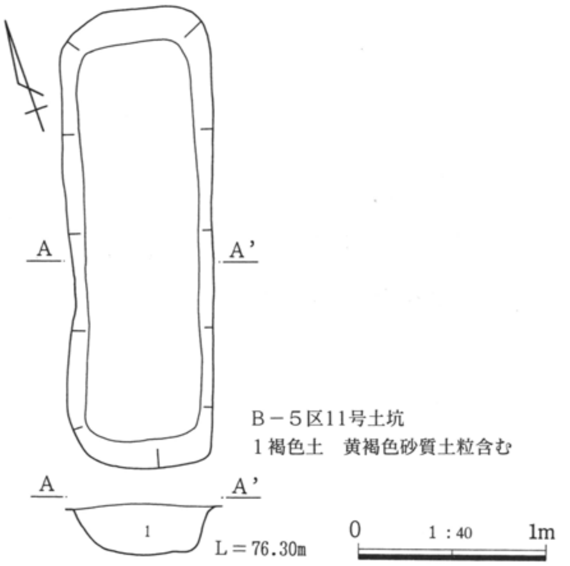
東西に長い長方形を呈し、上幅150×72cm、深さ56cmを測る。入り口と思われる東壁は土坑底部まで階段状に下がるが、他の３壁は垂直に掘り込まれている。覆土より江戸後期陶磁器片を出土する。明確な時期確定は難しいが近世から近代に掛けての遺構と思われる。農作物等の貯蔵用施設であろうか。



第204図　B－5区10号土坑

B－5区11号土坑

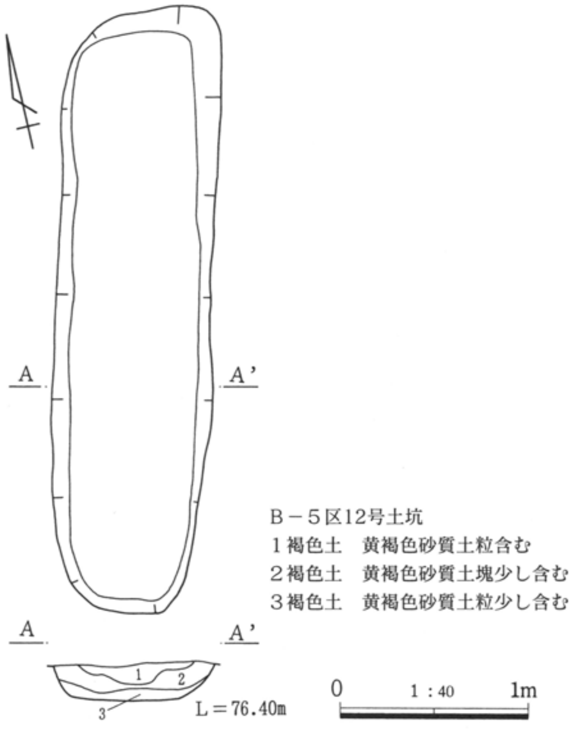
ほぼ南北に長い長方形を呈し、上幅240×80cm、深さ24cmを測る。壁は緩やかに掘り込まれる。覆土より江戸後期陶磁器片を出土する。明確な時期確定は難しいが近世から近代に掛けての遺構と思われる。農作物等の貯蔵用施設であろうか。



第205図　B－5区11号土坑

B－5区12号土坑

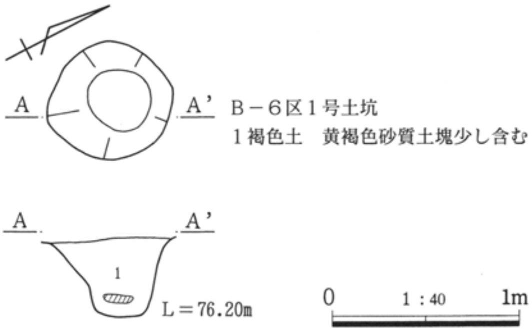
ほぼ南北に長い長方形を呈し、上幅316×80cm、深さ20cmを測る。壁は緩やかに掘り込まれる。出土遺物は無いが、隣接する11号土坑に類似しており、11号土坑同様近世から近代に掛けての農作物等の貯蔵用施設であろうか。



第206図　B－5区12号土坑

B－6区1号土坑

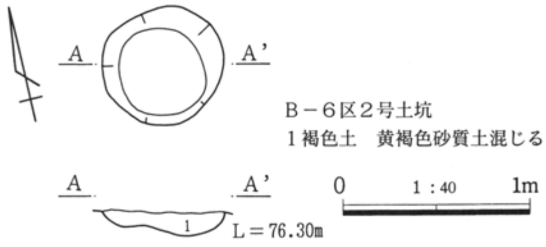
ほぼ円形を呈し、径60cm前後、深さ40cmを測り、壁は角度を強く掘り込まれる。出土遺物は無く本土坑の時期は不明である。



第207図　B－6区1号土坑

B－6区2号土坑

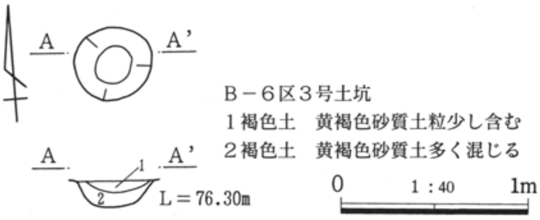
径60×64cm、深さ8cmの浅い円形状の土坑である。壁は緩やかに掘り込まれ、黄褐色砂質土が多く混入する土で埋没する。出土遺物は無く本土坑の時期は不明である。



第208図　B－6区2号土坑

B－6区3号土坑

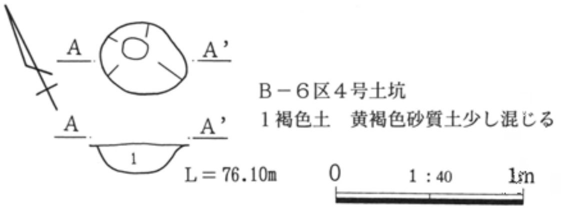
ほぼ円形を呈し、径約40cm、深さ28cmを測り、壁は緩やかに掘り込まれる。出土遺物は無く本土坑の時期は不明である。



第209図　B－6区3号土坑

B－6区4号土坑

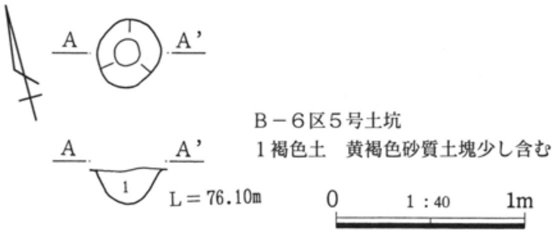
径40×48cm、深さ16cmのほぼ円形状の土坑である。壁は緩やかに掘り込まれ、黄褐色砂質土が多く混入する土で埋没する。出土遺物は無く本土坑の時期は不明である。



第210図　B－6区4号土坑

B－6区5号土坑

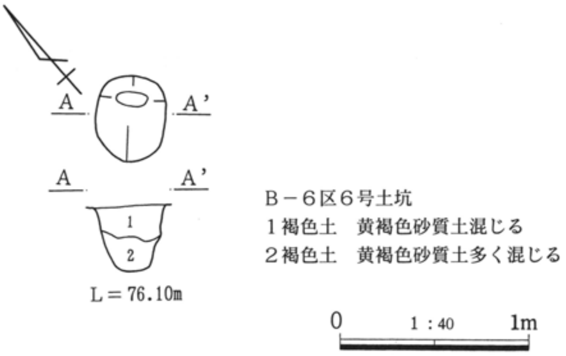
ほぼ円形を呈し、径約36cm、深さ16cmを測り、壁は急角度に掘り込まれる。出土遺物は無く本土坑の時期は不明である。



第211図　B－6区5号土坑

B－6区6号土坑

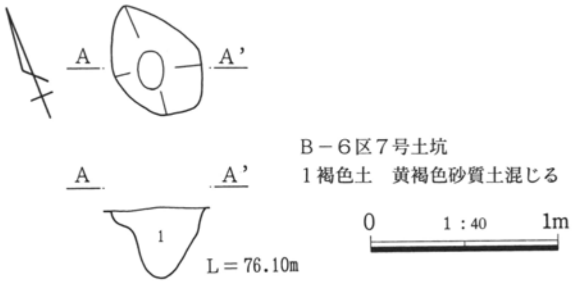
径40×36cmの楕円形を呈し、深さ32cmと掘り込みは深い。黄褐色砂質土が多く混入する砂質土により埋没する。出土遺物は無く本土坑の時期は不明である。



第212図　B－6区6号土坑

B－6区7号土坑

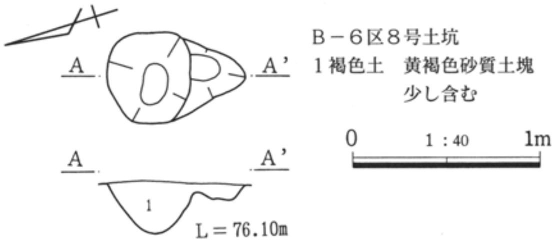
径60×40cmの不整形を呈し、壁は急角度に掘り込まれる最深部は36cmを測る。黄褐色砂質土が多く混入する砂質土により埋没、出土遺物は無く本土坑の時期は不明である。



第213図　B－6区7号土坑

B－6区8号土坑

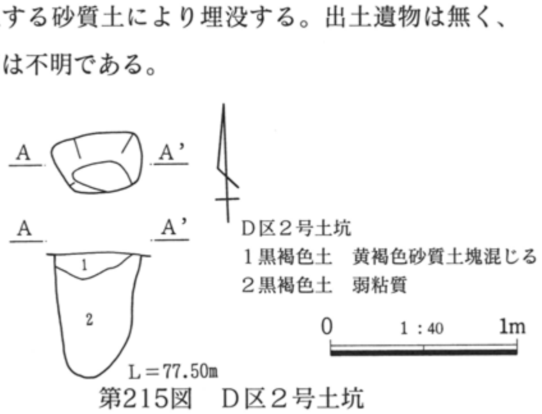
ほぼ円形を呈し、径約44cm、深さ28cmを測り、壁は緩やかに掘り込まれる。黄褐色砂質土が多く混入する土により埋没、出土遺物は無く本土坑の時期は不明である。



第214図　B－6区8号土坑

D区2号土坑

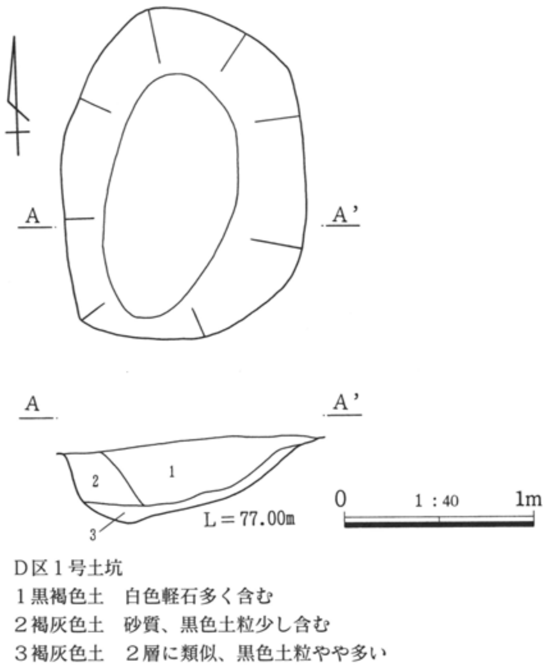
ほぼ正方形を呈し上幅65×60cm、深さ44cmを測る。壁はほぼ垂直に掘り込まれ、黄褐色砂質土が混入する砂質土により埋没する。出土遺物は無く、時期は不明である。



第215図　D区2号土坑

D区1号土坑

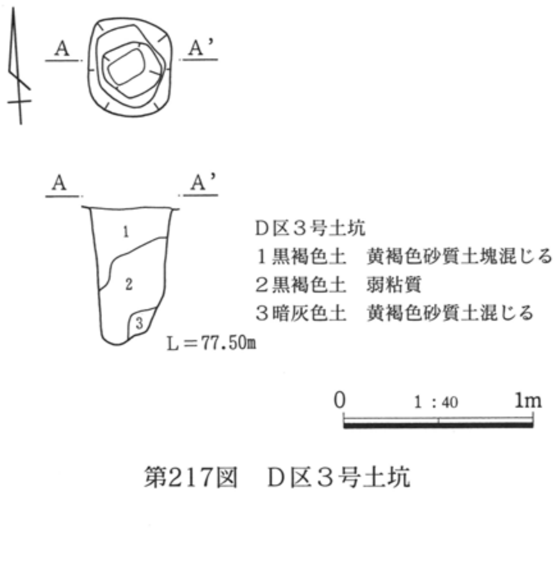
楕円形を呈し上幅176×136cm、深さ26cmを測る。緩やかに掘り込まれ、底部はほぼ平坦、白色軽石を多く含む黒褐色土等により埋没する。出土遺物は無く、時期は不明である。



第216図　D区1号土坑

D区3号土坑

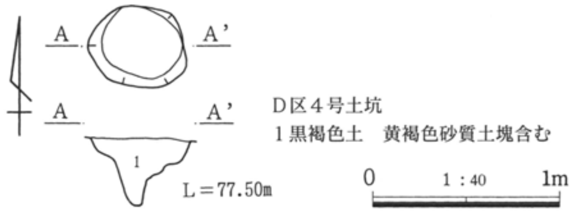
ほぼ正方形を呈し上幅40×40cm、深さ70cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。形状から柱穴と思われるが、出土遺物は無く時期は不明である。



第217図　D区3号土坑

D区4号土坑

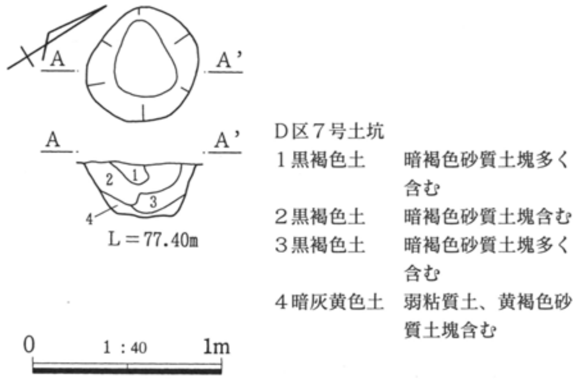
長方形を呈し上幅60×44cm、深さ34cmを測る。壁は緩やかに掘り込まれ、底部は凹凸が顕著である。出土遺物は無く、時期は不明である。



第218図　D区4号土坑

D区7号土坑

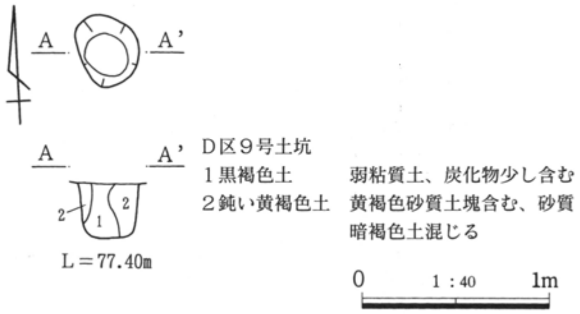
不整円形を呈し、上幅60×56cm、深さ30cmを測り、壁は急角度に掘り込まれる。出土遺物が無く、時期は不明である。



第219図　D区7号土坑

D区9号土坑

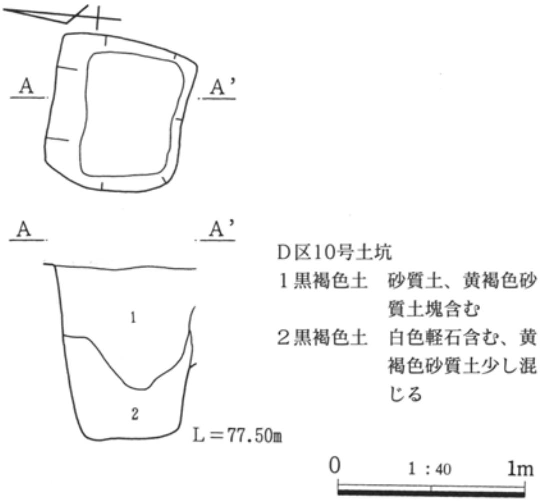
ほぼ円形を呈し上幅40×32cm、深さ30cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。出土遺物が無く、時期は不明である。



第220図　D区9号土坑

D区10号土坑

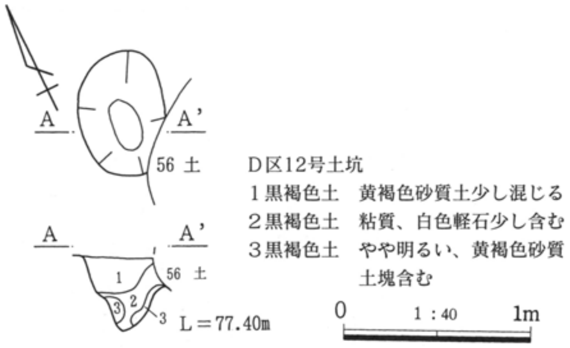
ほぼ正方形を呈し、上幅80×68cm、深さ92cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。底部に人骨が確認でき墓壙と思われるが、土器や古銭等の出土は無く時期は不明である。



第221図　D区10号土坑

D区12号土坑

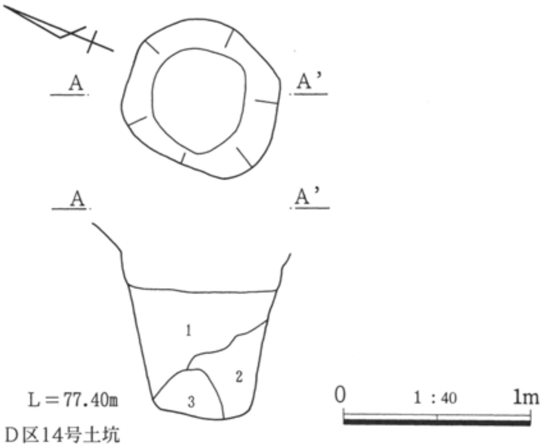
楕円形を呈し、上幅64×44cm、深さ37cmを測り、壁は急角度に掘り込まれる。出土遺物が無く、時期は不明である。



第222図　D区12号土坑

D区14号土坑

13号住居と重複し、13号住居が古い。ほぼ正方形を呈し上幅80×80cm、深さ80cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。底部に人骨を確認するが、出土遺物が無く、本墓壙の時期は不明である。

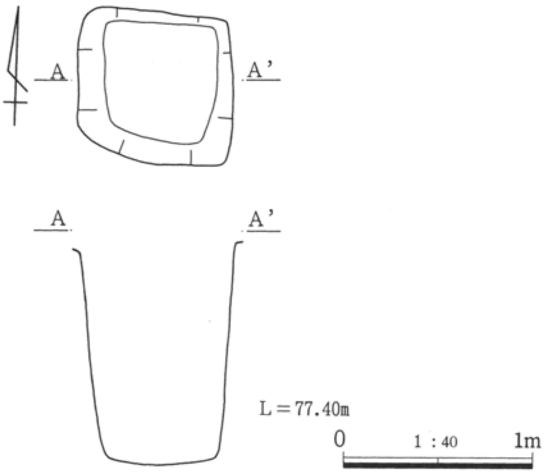


D区14号土坑
1黄褐色土　　　　黒褐色土塊・黄褐色砂質土塊含む
2オリーブ褐色土　黄褐色砂質土多く混じる
3オリーブ褐色土　黄褐色砂質土少し混じる

第223図　D区14号土坑

D区15号土坑

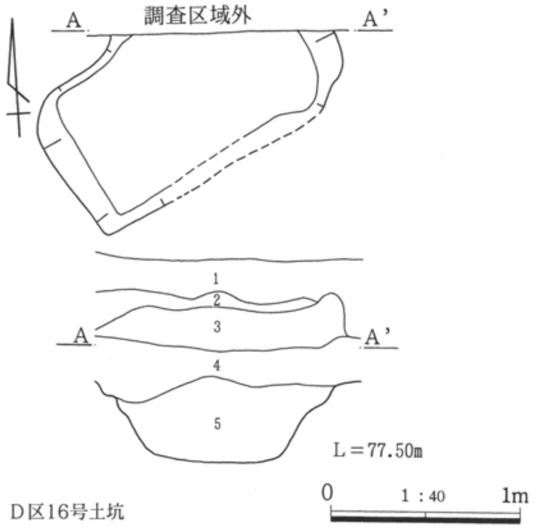
ほぼ正方形を呈し上幅84×80m、深さ115cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。出土遺物が無く、時期は不明である。



第224図　D区15号土坑

D区16号土坑

長方形を呈し、上幅160×80cm、深さ39cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。黄褐色砂質土塊を含むオリーブ褐灰色土を埋土とする。出土遺物が無く、時期は不明である。

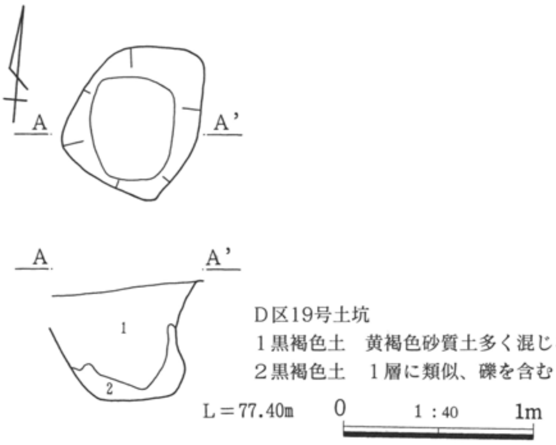


D区16号土坑
1黒褐色土　　表土
2黒褐色土　　黒色土含む
3明暗褐色土　暗褐色土と黄褐色砂質土の混土
4暗褐色土　　中礫多く含む、白色軽石含む
5暗褐色土　　黄褐色砂質土塊含む（16号土坑）

第225図　D区16号土坑

D区19号土坑

ほぼ正方形を呈し上幅80×70cm、深さ59cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。出土遺物が無く、時期は不明である。

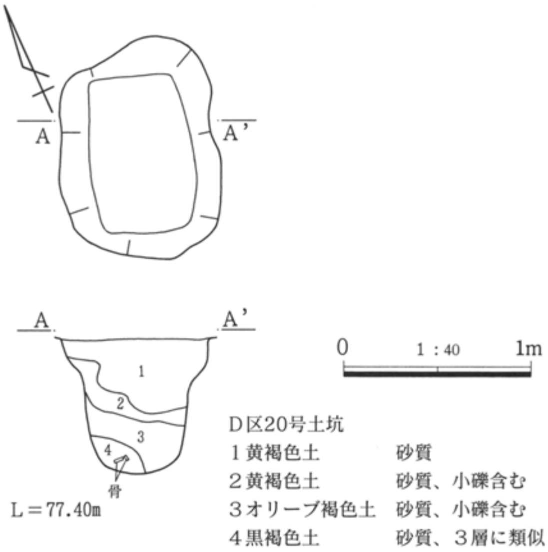


D区19号土坑
1黒褐色土　黄褐色砂質土多く混じる
2黒褐色土　1層に類似、礫を含む

第226図　D区19号土坑

D区20号土坑

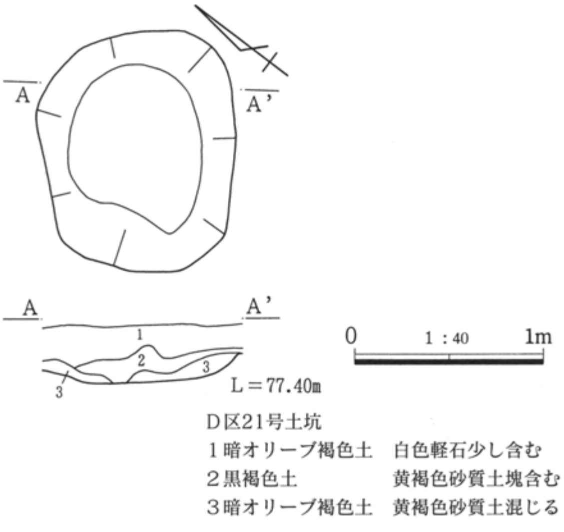
長方形を呈し上幅116×84cm、深さ65cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込む。底部に人骨を確認するが、出土遺物が無く時期は不明である。



第227図　D区20号土坑

D区21号土坑

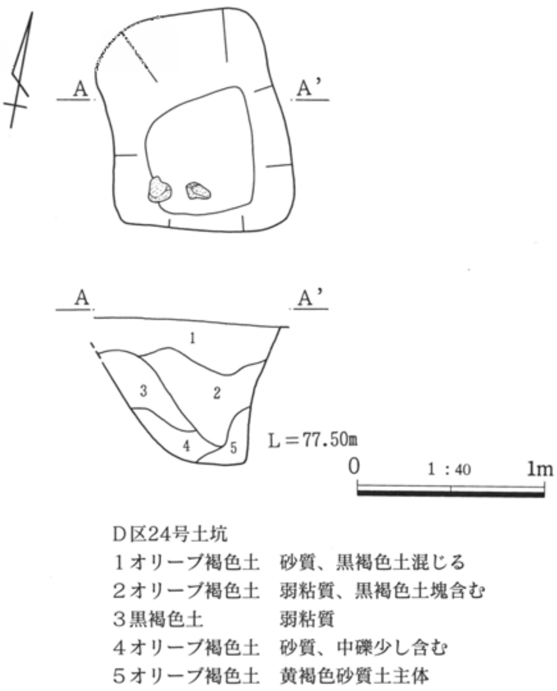
長方形を呈し、上幅128×104cm、深さ13cmを測り、壁は緩やかに掘り込まれる。覆土は黄褐色砂質土を含む暗褐色土を主体とする。古墳時代から平安時代に至る土師器小片を数点出土したが、明確な時期は不明である。



第228図　D区21号土坑

D区24号土坑

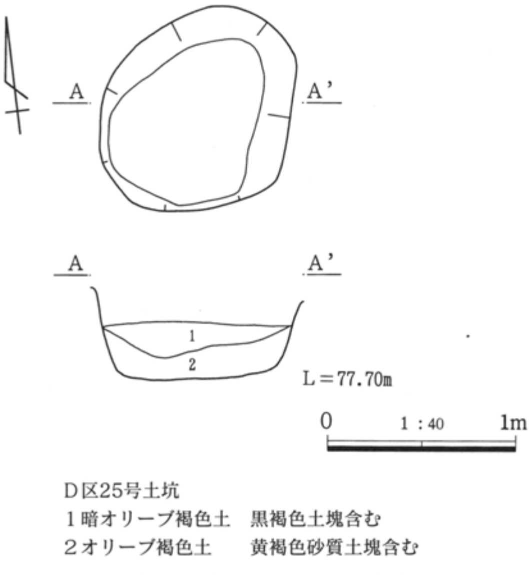
ほぼ正方形を呈し上幅116×92cm、深さ69cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。出土遺物は無く、時期は不明である。



第229図　D区24号土坑

D区25号土坑

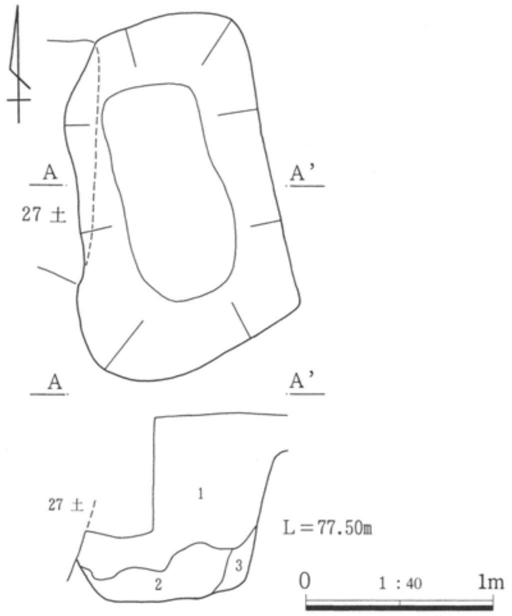
楕円形を呈し上幅120×104cm、深さ28cmを測る。壁は緩やかに掘り込まれ、底部は平坦である。出土遺物は無く、時期は不明である。



第230図　D区25号土坑

D区26号土坑

長方形を呈し上幅188×116cm、深さ75cmを測り、壁は緩やかに立ち上がる。11号住居、27土坑と重複し、11号住居が古く、27号土坑は新しい。黄褐色砂質土塊を含むオリーブ褐色土等により人為的な埋没状況を呈する。出土遺物は極めて少なく土師器片2点のみであった。時期特定の決め手に欠け本土坑の明確な時期は不明である。



D区26号土坑
1オリーブ褐色土　砂質、礫含む
2黒褐色土　弱粘質土、黄褐色砂質土・シルト質土の混土
3暗灰黄褐色土　壁崩落土、黄褐色砂質土主体

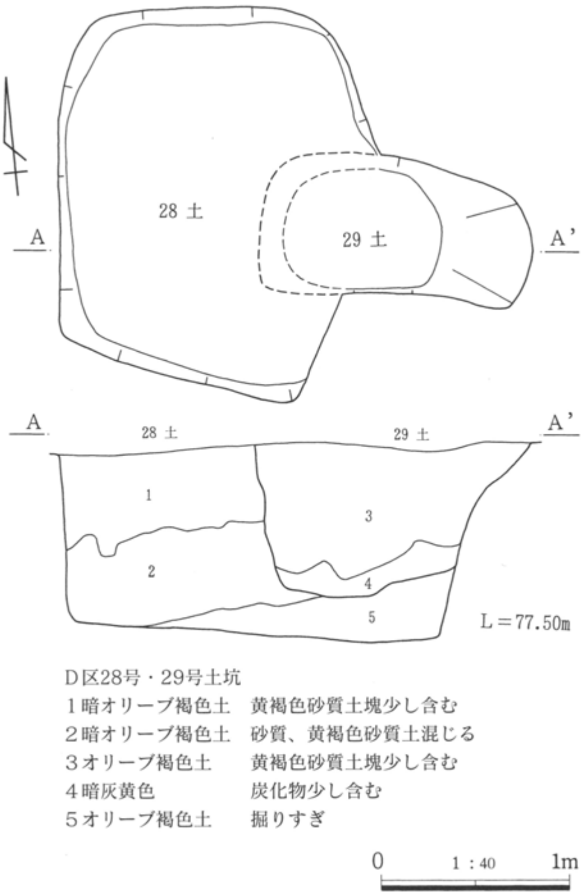
第231図　D区26号土坑

D区28号土坑

7号溝と29号土坑と重複し、7号溝が古く、29号土坑は新しい。長方形を呈し上幅200×160cm、深さ約95cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。覆土は砂質オリーブ色土を主体とする。遺物は古墳時代から近世に至る遺物が混在して出土したが、出土遺物に質的・量的な偏りは無く、時期特定は難しい。

D区29号土坑

7号溝、28号土坑と重複し、7号溝、28号土坑が共に古い。方形の土坑だが、重複する28号土坑により西壁上半面は消失している。確認できる範囲で上幅144×64cm、深さ約106cmを測り、壁は垂直に掘り込まれる。覆土は黄褐色砂質土塊を含む暗黄褐色土を主体とする。遺物は古墳時代から近世に至る遺物が混在して出土した。出土遺物に質的・量的な偏りは無く、時期特定は難しい。

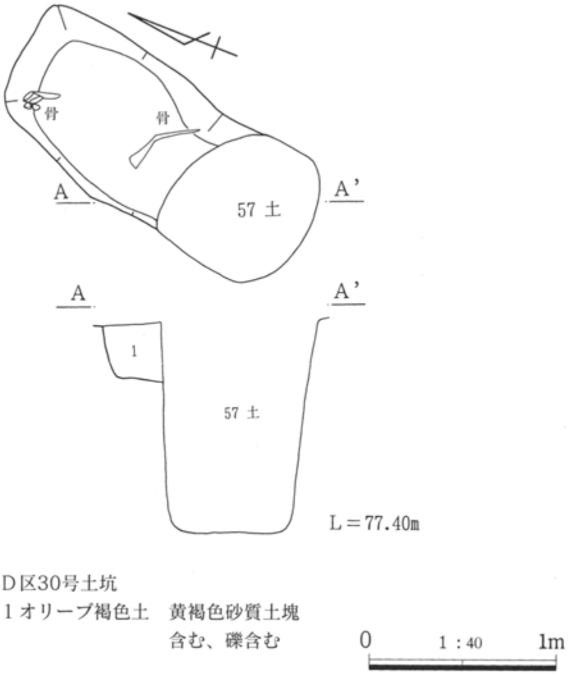


D区28号・29号土坑
1暗オリーブ褐色土　黄褐色砂質土塊少し含む
2暗オリーブ褐色土　砂質、黄褐色砂質土混じる
3オリーブ褐色土　黄褐色砂質土塊少し含む
4暗灰黄色　炭化物少し含む
5オリーブ褐色土　掘りすぎ

第232図　D区28、29号土坑

D区30号土坑

重複する57号土坑により南側は一部消失しているが、32号土坑と同規模の墓壙であったと推察される。確認される範囲で短軸72cm、深さ32cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。黄褐色砂質土塊を含むオリーブ褐灰色土を埋土とする。底部に大腿骨を確認したが、それ以外の出土遺物は無い。土坑形状は本遺跡で検出した中世の墓壙に類似するが、時期特定に結びつく遺物を欠き時期決定は難しい。

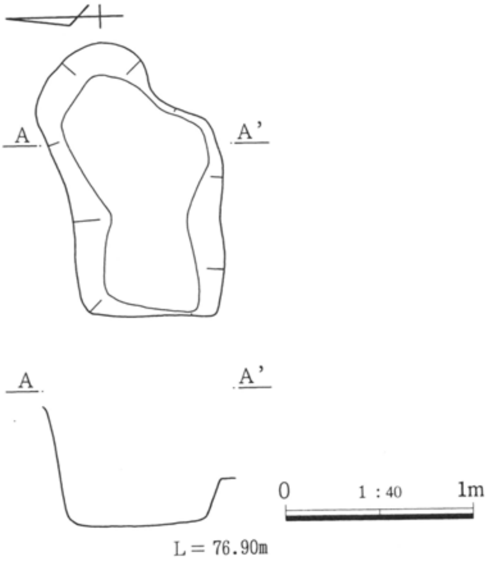


D区30号土坑
1オリーブ褐色土　黄褐色砂質土塊
含む、礫含む

第233図　D区30号土坑

D区34号土坑

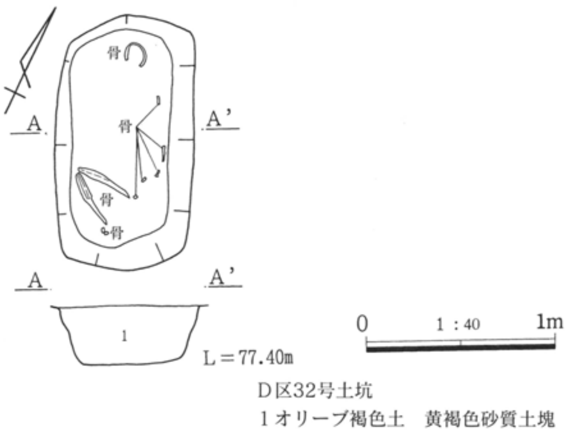
不整型方形を呈し上幅128×100cm、深さ118cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込む。近世の墓壙と思われるが出土遺物が無く明確な時期は不明。平面形状から１基以上の墓壙が存在した可能性は高い。



第235図　D区34号土坑

D区32号土坑

長方形を呈し、上幅132×72cm、深さ29cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込む。黄褐色砂質土塊を含むオリーブ褐灰色土を埋土とする。底部に屈葬された人骨を検出する。確認された人骨は頭部・脚の一部ではあるが頭を北、顔は西向きに埋葬されていた。土坑形状は本遺跡で検出した中世の墓壙に類似するが、時期特定に結びつく遺物を欠き詳細な時期決定は難しい。

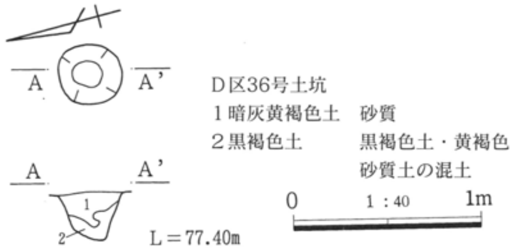


D区32号土坑
1オリーブ褐色土　黄褐色砂質土塊
含む、礫含む

第234図　D区32号土坑

D区36号土坑

ほぼ円形を呈し、径32cm、深さ24cmを測る。壁は急角度に掘り込まれる。形状から柱穴と思われるが、出土遺物は無く、時期は不明である。

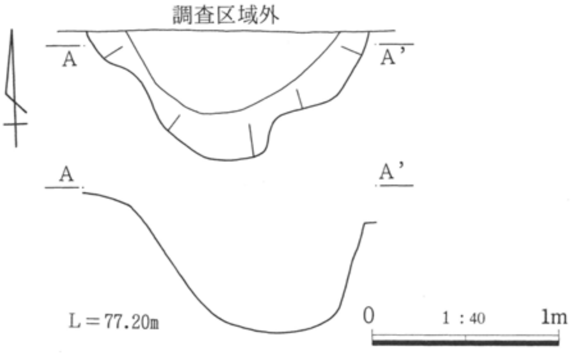


D区36号土坑
1暗灰黄褐色土　砂質
2黒褐色土　　　黒褐色土・黄褐色
　　　　　　　　砂質土の混土

第236図　D区36号土坑

D区39号土坑

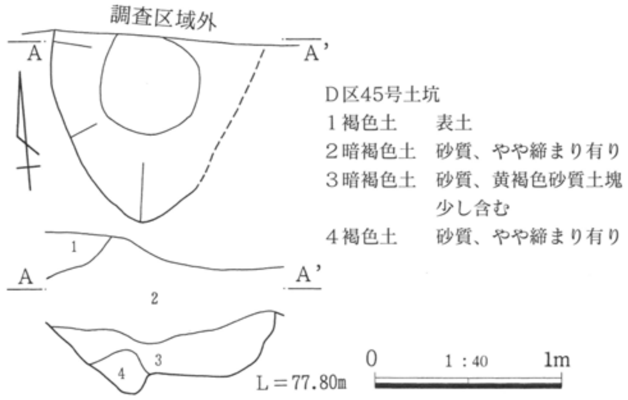
ほぼ正方形を呈すると思われるが、北半分は調査区外となり未確認である。深さ98cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込む。古墳時代から近世に至る土器小片が数点出土したが、明確な時期は不明である。



第237図　D区39号土坑

D区45号土坑

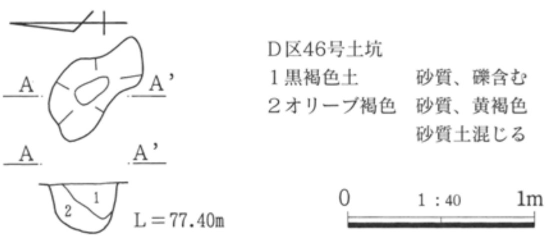
土坑北側は調査区外となり確認できない。検出した範囲では上幅108×100cm、深さ28cmを測る。壁は緩やかに掘り込まれ、底部は平坦である。出土遺物は無く時期は不明である。



第238図　D区45号土坑

D区46号土坑

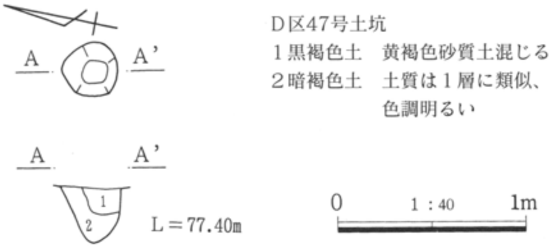
不整形を呈し上幅60×28cm、深さ25cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれ、底部は凹凸が顕著である。出土遺物は無く時期は不明である。



第239図　D区46号土坑

D区47号土坑

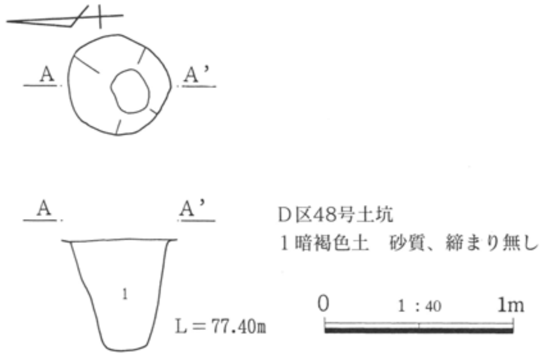
ほぼ円形を呈し径28cm、深さ25cmを測り、壁は急角度に掘り込まれる。形状から柱穴と思われるが、出土遺物が無く時期は不明である。



第240図　D区47号土坑

D区48号土坑

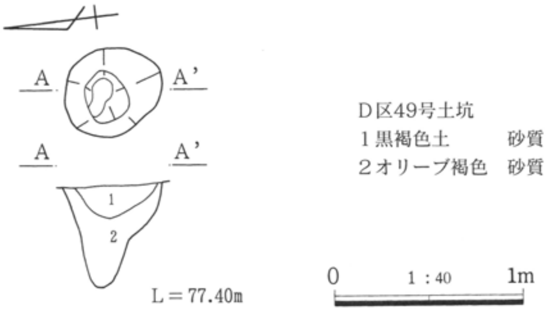
ほぼ円形を呈し径56cm、深さ58cmを測り、壁は急角度に掘り込まれる。形状から柱穴と思われるが、出土遺物が無く時期は不明である。



第241図　D区48号土坑

D区49号土坑

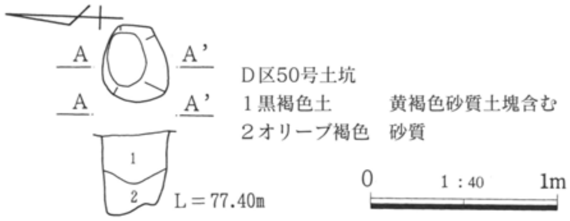
方形を呈し上幅56×44cm、深さ53cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。形状から柱穴と思われるが、出土遺物が無く時期は不明である。



第242図　D区49号土坑

D区50号土坑

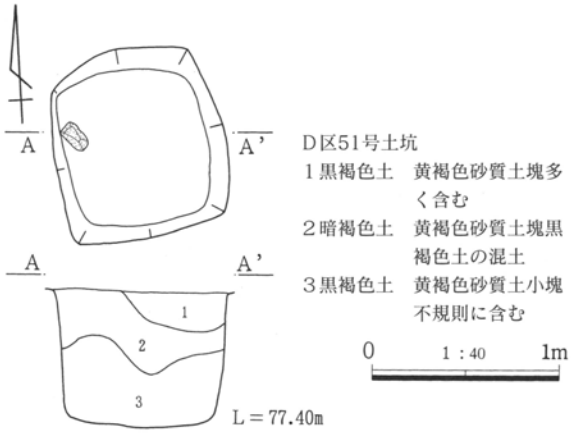
方形を呈し上幅40×32cm、深さ40cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。形状から柱穴と思われるが、出土遺物が無く時期は不明である。



第243図　D区50号土坑

D区51号土坑

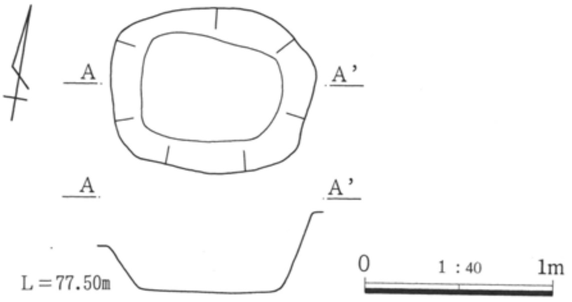
ほぼ正方形を呈し上幅100×92cm、深さ80cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。形状から墓壙と思われるが、出土遺物が無く時期は不明である。



第244図　D区51号土坑

D区54号土坑

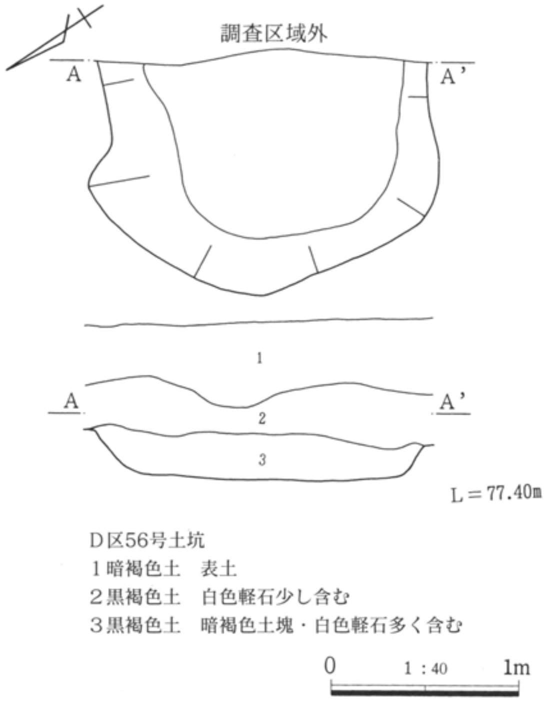
長方形を呈し上幅112×88cm、深さ31cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれる断面。出土遺物は無く、時期は不明である。



第245図　D区54号土坑

D区56号土坑

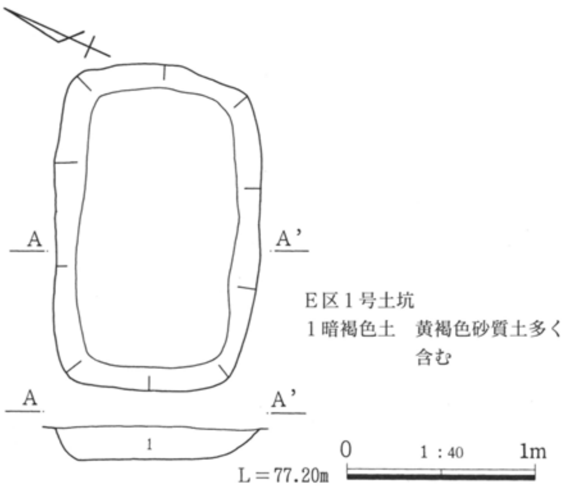
南側は調査区域外となり確認出来ない。検出された範囲で軸長170cm、深さ17cmを測る。壁は緩やかに掘り込まれ、底部はほぼ平坦である。出土遺物は無く時期は不明である。



第246図　D区56号土坑

E区１号土坑

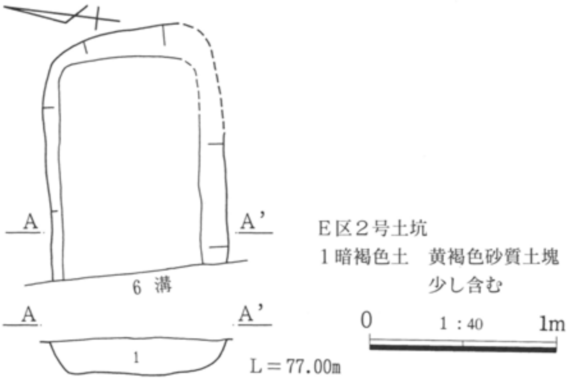
長方形を呈し、上幅172×108cm、深さ16cmを測る。壁はほぼ垂直に掘り込まれ、全体に赤みを帯びた黒褐色土により埋没する。土師器小片１点出土したが、、明確な時期特定は難しい。



第247図　E区１号土坑

Ｅ区２号土坑

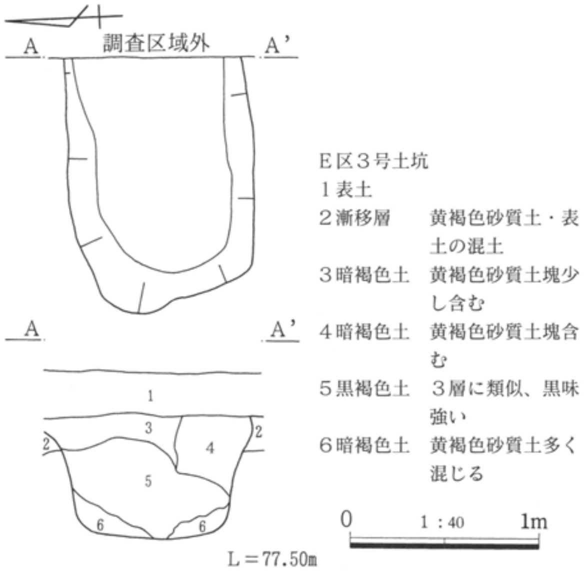
重複する６号溝により土坑西側は消失している。６号溝との新旧は不明。本遺構は長方形を呈すると思われ、確認できた範囲で短軸92cm、深さ17cmを測る。壁はほぼ垂直に掘り込まれ、締まりに欠ける黄褐色砂質土塊を含む暗褐色土により埋没する。９世紀代の須恵器杯小破片を出土したが、明確な時期特定は難しい。



第248図　Ｅ区２号土坑

Ｅ区３号土坑

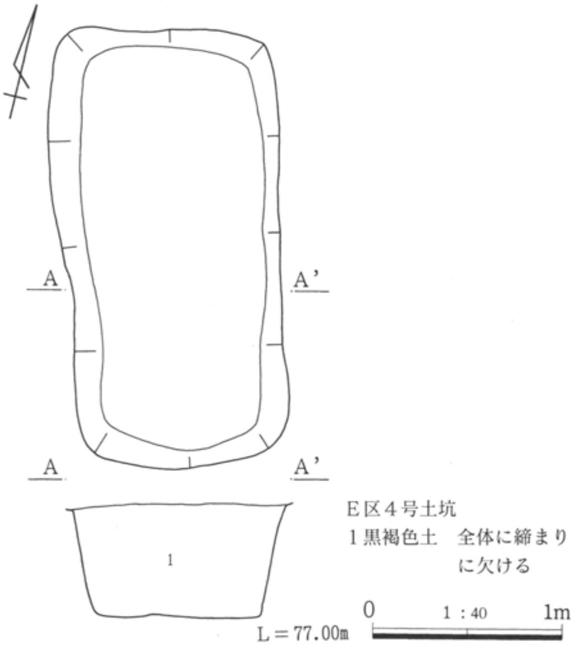
東側は調査区外となり確認できない。長方形を呈すると思われ、確認できた範囲で短軸100cm、深さ44cmを測る。壁はほぼ垂直に掘り込まれ、締まりに欠ける黄褐色砂質土粒・塊を含む暗褐色土により埋没する。土師器小破片を数点出土したが、明確な時期特定は難しい。



第249図　Ｅ区３号土坑

Ｅ区４号土坑

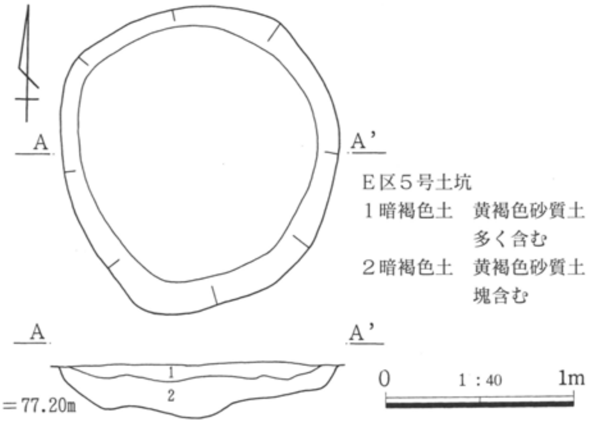
長方形を呈し、上幅230×96cm、深さ62cmを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれ、締まりに欠ける暗褐色土により埋没する。土坑からは古墳時代から平安時代に至る土師器小破片が混在して出土したが、出土遺物に時期的な偏りは無く、明確な時期特定は難しい。



第250図　Ｅ区４号土坑

Ｅ区５号土坑

ほぼ円形を呈し、径154cm、深さ20cmを測る。壁は緩やかに掘り込まれ、黄褐色砂質土が混入する暗褐色土により埋没する。出土遺物が無く時期特定は難しい。



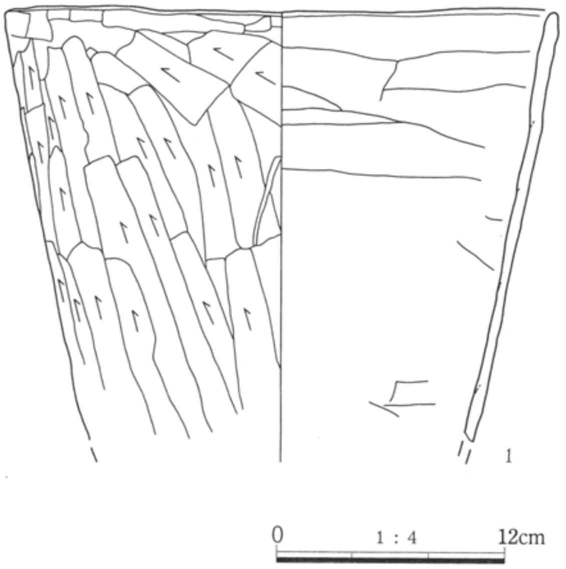
第251図　Ｅ区５号土坑

(7) 縄文晩期〜弥生初頭の(土器埋置)土坑

C区1号土坑

調査区東部にあたるC区864−329グリッドで検出された。平面形は不整円形で、検出面での規模は径1.2×1.0mを測る。ただし、倒木痕の埋没土を掘り込んでいるため明確な掘り込み面は確認できなかった。土層断面の記録によれば、1層部分が、それ以下の2・3層と明瞭に分層できることから、この部分のみが本来の土坑に相当する可能性が高く、2・3層は倒木痕埋土と考えておきたい。従って、深さも検出面から56cmまで掘削したが、本来は20cm弱の深さだったと考えられよう。

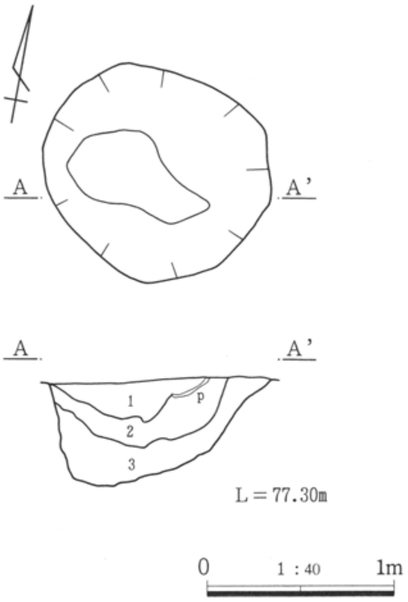
埋没土は、明るい色調の砂質土で、人為的堆積の可能性については明らかにし得なかった。



出土した土器は図示した深鉢1点のみである。口縁から体部下半にかけての約1/3程の大型破片が、内面を上に向けて横たわった状態で出土している。1層が土坑埋土とすれば、出土レベルから外面が底面に接していたと考えて差し支えない。欠損部の観察によれば、やや風化していることから近〜現代の破損とは考えにくいが、遺構検出面となる地山の2次堆積ローム層の上位堆積面層は、後生に削平された可能性が高く、本土坑の上半分とともに、土器の上位部分が削平によって失われたとの推測もできよう。

土器は、直線的に開く深鉢形で、口縁は小さな凹凸が目立つ。外面は縦位〜斜位の粗いケズリで整形しており、口縁のみ横位のナデを行っている。内面は、擦痕をほとんど残さない丁寧な横位のナデを施し器面を平滑に仕上げている。外面の一部に黒斑が見られるが、煤などの二次的被熱痕は認められない。時期は、晩期末葉から弥生前期の中に含まれると考えたい。晩期では藤岡市谷地遺跡、前期では藤岡市白石大御堂遺跡に類例が見られる。ただし、尾島町阿久津宮内遺跡例のように、県東南部では中期前半でも類似する深鉢が残ることが判明している。下限を下げて考えるべきかもしれない。

(大木紳一郎)



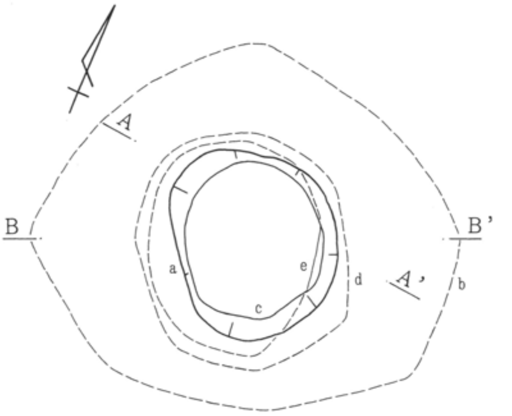
C区1号土坑
1暗褐色土　砂質、白色軽石（径0.1〜0.3mm）含む
2黒褐色土　砂質、白色軽石（径0.1〜0.3mm）含む
3暗褐色土　砂質

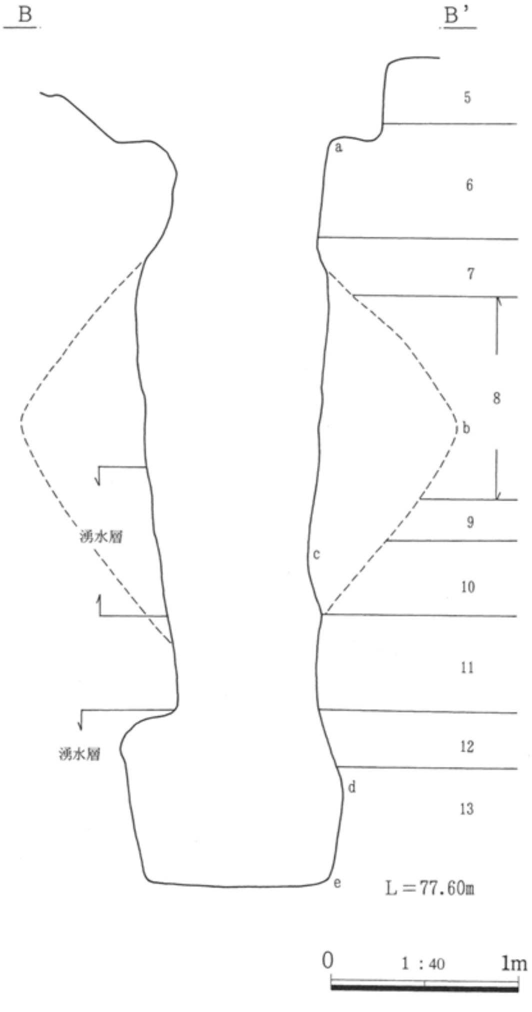
第252図　C区1号土坑、出土遺物

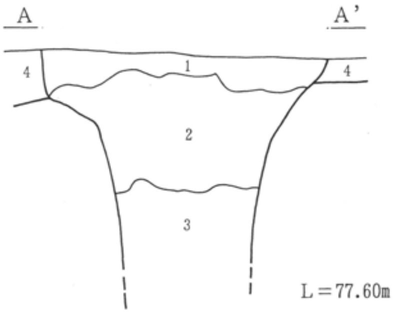
(8) 井戸

D区1号井戸

12号住居と重複し12号住居より新しい。形状は径96cmの地山井筒円筒型を呈し最深部は一回り広くなり、底部まで約4.3mを測る。井戸埋土は自然埋没状況を呈する箇所と人為的埋没状況を呈する箇所と明らかに埋没状況が異なる状況が看取られ、少なくとも2度の掘り直しが考えられた。湧水層は上位・下位の2層確認でき、GLマイナス210cmから290cmの灰色砂質シルト層からは少量、GLマイナス340cmより下の褐灰色礫混じり砂質層からは多量に湧出した。井戸掘削時の湧水量は毎分70リットルであった。下位の湧水層下は一回り広く掘られており、底部周囲には桶乃至木枠の痕跡が確認できた。この最深部付近は黄褐色砂質土・灰褐色砂質土による土で自然埋没していた。おそらくこの形状が当初構築された井戸と考えられる。再度、掘り直された井戸は底部まで円形筒状となり深さ3.3mを測るが、黒灰色砂質土等による人為的・意図的に埋められていた。この1号井戸からの出土遺物は無く、本遺構の時期は不明である。







D区1号井戸

1暗黄褐色土	砂質、黄褐色砂質土塊含む
2黒褐色土	弱粘質土、砂・黄褐色砂質土塊・黒褐色土の混土
3黒褐色土	2層に類似、砂質土の混入少ない
4暗褐色土	炭化物少し含む、黄褐色砂質土混じる（12住覆土）
5黒褐色土	地山、黒褐色土
6黄褐色土	地山、黄褐色ハードローム
7褐灰色土	地山、褐灰色ソフトローム
8不明	地山、
9灰色土	地山、灰色砂質シルト
10灰色土	地山、灰色シルト
11黒色土	地山、黒色土
12褐灰色土	地山、褐灰色中砂質土
13灰褐色土	地山、灰褐色円礫混り砂

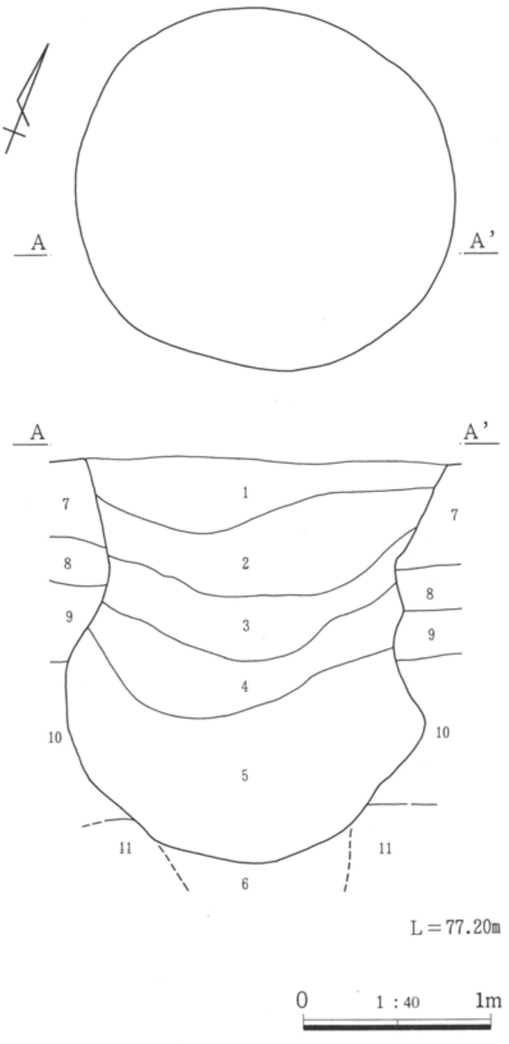
第253図　D区1号井戸

Ｅ区１号井戸

径200cm前後の円形を呈する。確認面下184cm付近より湧水が激しくなり、底部まで調査は不可能であった。覆土は黒褐色土、黒色土を互層とする。出土遺物が無く時期特定は難しい。

Ｅ区１号井戸

１黒褐色土	黒褐色土主体
２黒色土	黒色土主体
３黒褐色土	黒色土塊含む
４黒褐色土	３層に類似
５黒褐色土	壁際に４層土多く混入
６黒色土	黒色土主体
７黄褐色土	砂質
８黄褐色土	砂質
９灰黄褐色土	砂質
10灰黄褐色土	ラミナ状に黒色砂質土含む（10層下面より湧水）
11灰黄色土	粘質土



第254図　Ｅ区１号井戸

（9）遺構外出土遺物

萩原遺跡　縄文時代の石器

麻生敏隆

本遺跡からは陥穴と思われる２基の土坑以外縄文時代の遺構は検出されていない。遺物はすべて遺構外からの出土である。ここでは特徴的な石器として24点を抽出した。器種の内訳は、打製石鏃、打製石斧、削器、石核の４種類である。

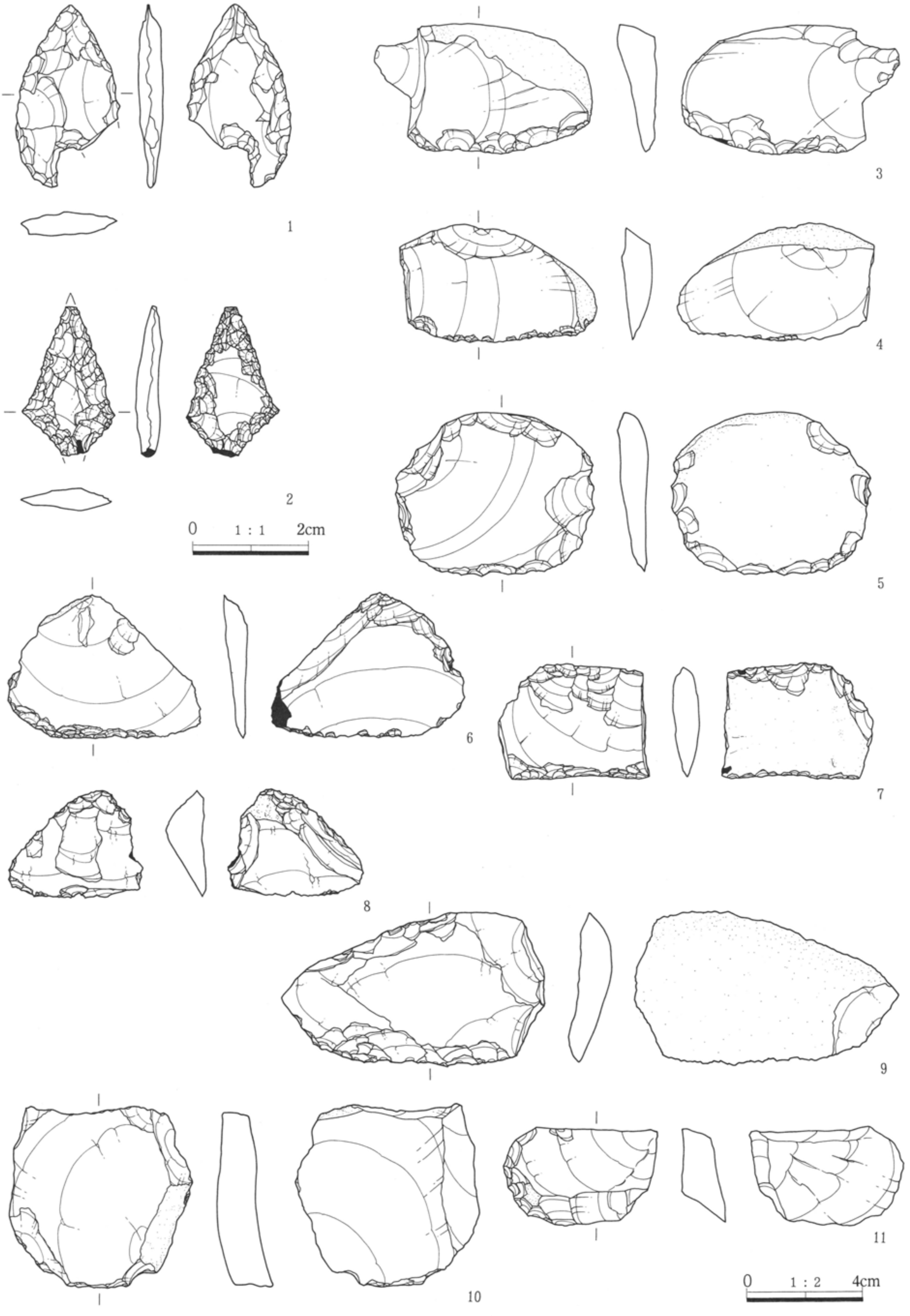
打製石鏃（第254図－１・２、写真ＰＬ－110）２点出土している。形状から無茎のＩ類と有茎のII類に大きく区分できる。石材は共に黒色頁岩である。

削器（第254図－３～11、第255図－12・13、写真ＰＬ－110）総数11点出土している。削器としての調整が加えられた位置から、一縁辺のみに調整を施すＩ類、三つの縁辺や二つの縁辺にわたって調整を施すII類、周縁部に対して掻器状に調整を施すIII類の三つに区分する。さらに、調整の様子から縁辺の両面に調整を施すａ、片面のみに施すｂとに区分する。12と13は個々の剥離面が削器としてはやや大きいことから、あるいは石核の可能性もある。石材は黒色頁岩10点、黒色安山岩１点である。

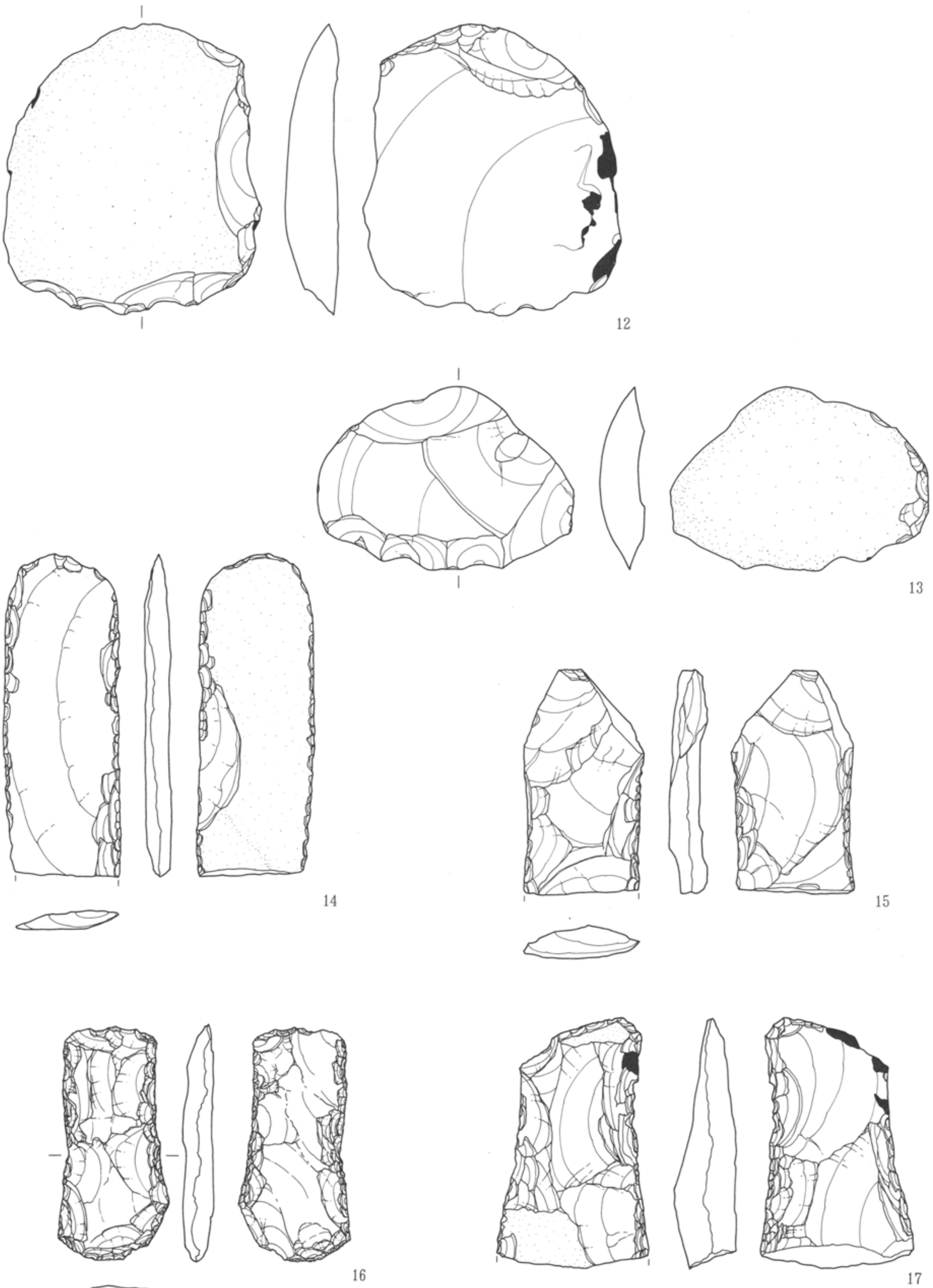
打製石斧（第255図－14～17、第256図－18～20、写真ＰＬ－110,111）総数７点出土している。従来の形状区分に従って、短冊形と撥形の二つに分類する。両側縁が平行な短冊形がＩ類、頭部側が平行でほぼ中央から刃部側にかけて開く撥形をII類とし、断面の厚さが薄く、横から見て側縁がほぼ中央に位置する資料をａ、断面が肉厚で横から見て側縁が片側に寄り、刃部が片刃となる資料をｂとに区分する。石材は黒色頁岩４点、粗粒輝石安山岩１点、灰色安山岩１点、変質玄武岩１点である。

石核（第256図－21・22、第257図－23・24、写真ＰＬ－111）４点出土している。形状から分割面や素材の主要剥離面を打面とするＩ類、周縁から求心的な剥片剥離を施す円盤状をII類とし、分割のための剥離面や礫面を打面とするａ、打面転位により前段階の剥片剥離面を打面とするｂとに区分する。21は個々の剥片剥離面が小さいことから削器とも考えられるが、削器のための調整とするには粗すぎる。24は裏面側の一部の剥離面が剥片剥離のためのものとも考えられるので、あるいはIIｂ類の可能性もある。石材は黒色頁岩２点、粗粒輝石安山岩１点、黒色安山岩１点である。

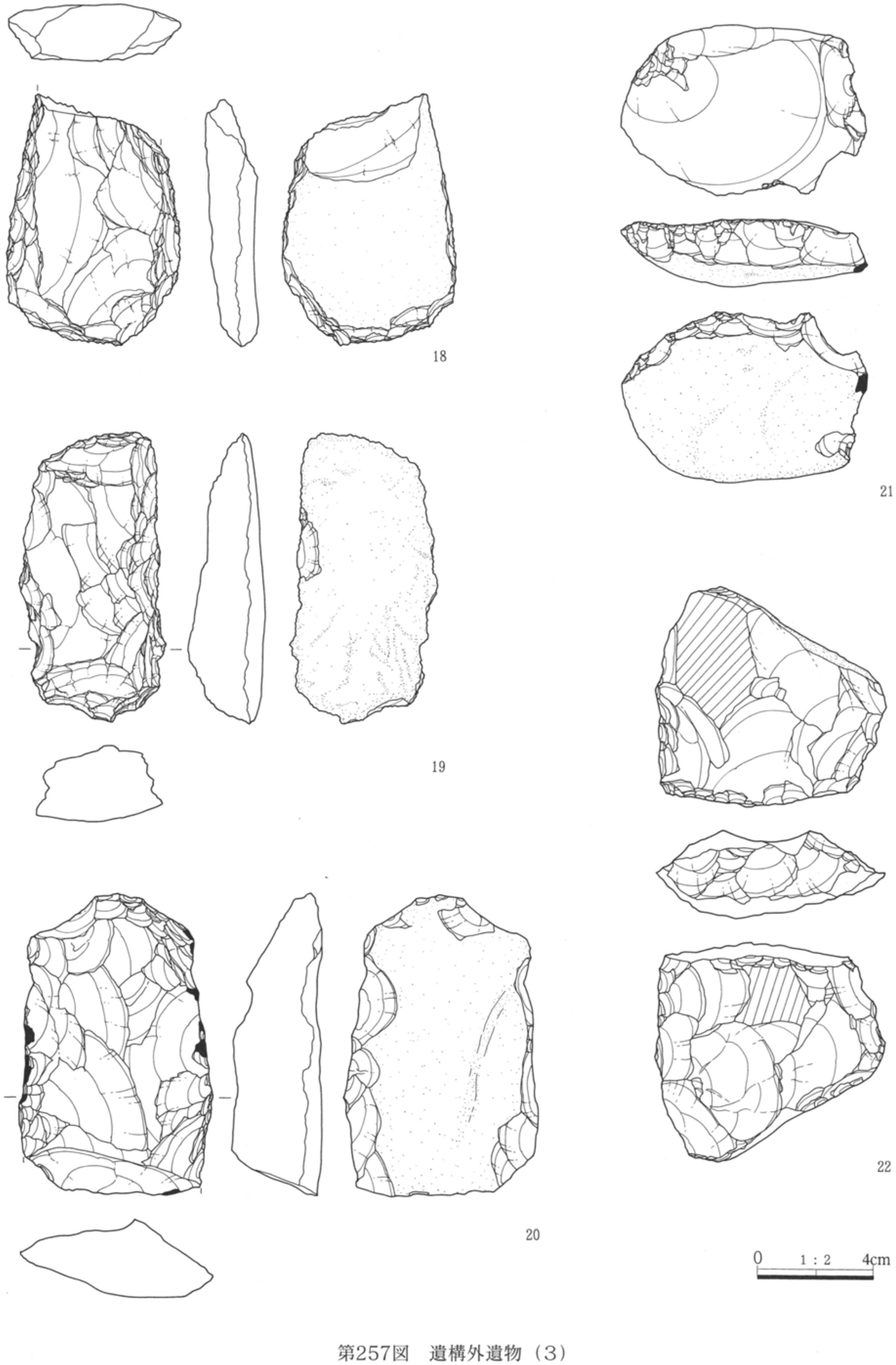
本遺跡から出土している縄文土器は、草創期後半の押圧縄文から爪形文、早期前半の撚糸文、前期後半の諸磯ｂ・ｃ式と十三菩提式、中期後半の加曽利Ｅ式、後期前半の称名寺式・堀之内式、後期後半とまちまちであるが、最も点数が多いのは前期の諸磯式であることから、石器についてもこの時期が多い可能性がある。実際には、石器は土器ほどに細かな変遷を示さないために、明確な時期判定には用いたりすることが難しいものの、個々の石器をよくみると、「く」の字状の鋭い返しのある有茎の打製石鏃や、分割礫や礫面を打面とする輪切り状の剥片素材の削器の存在から、おそらくは前期の時期が主体と考えられる。また、本遺跡周辺の前橋市二之宮町や飯土井町、伊勢崎市波志江町に所在する遺跡からは、縄文時代前期を中心に早期～中期の時期の遺構・遺物が出土しており、この考えを補強する材料でもある。



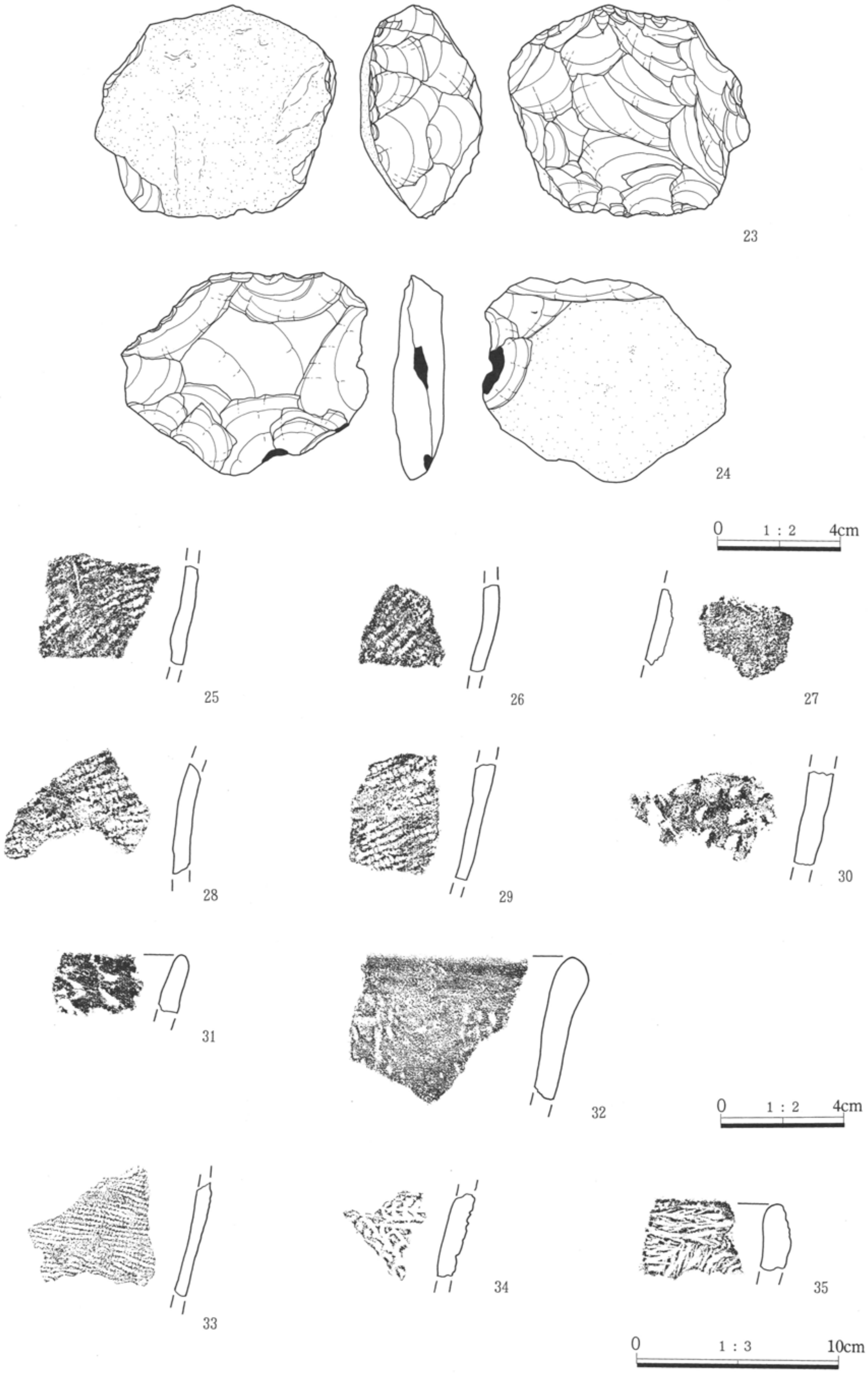
第255図　遺構外遺物（1）



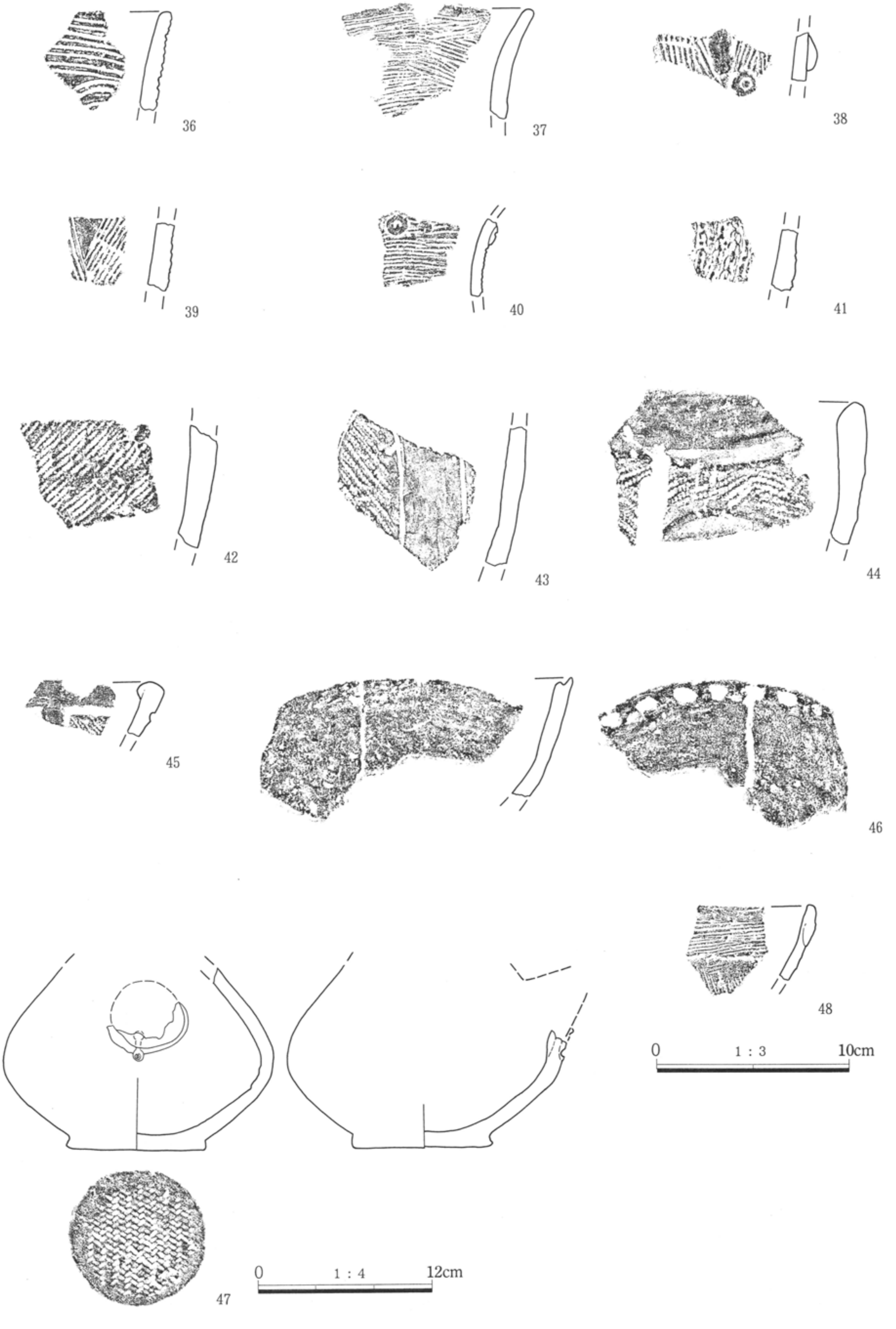
第256図　遺構外遺物（2）



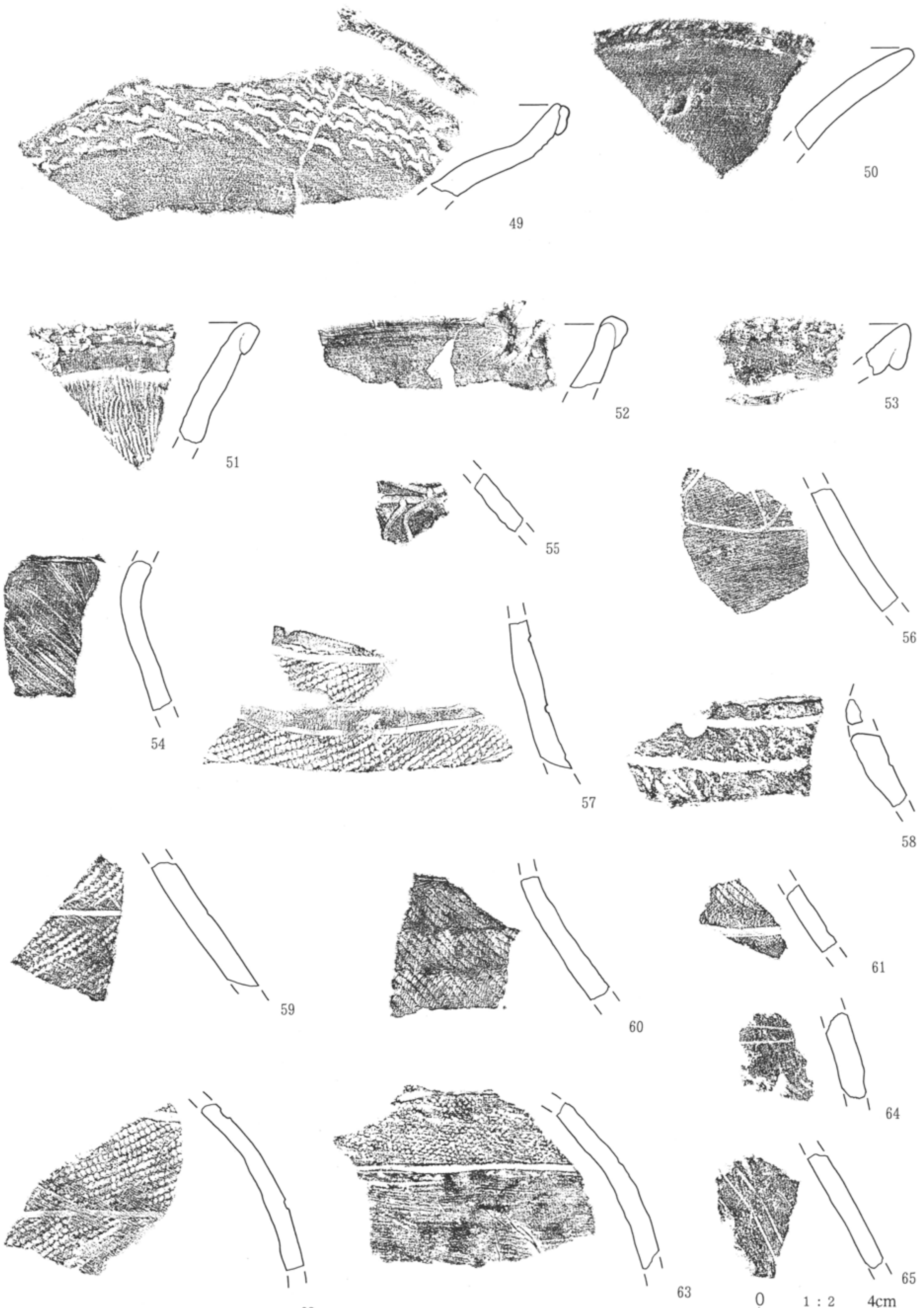
第257図　遺構外遺物（3）



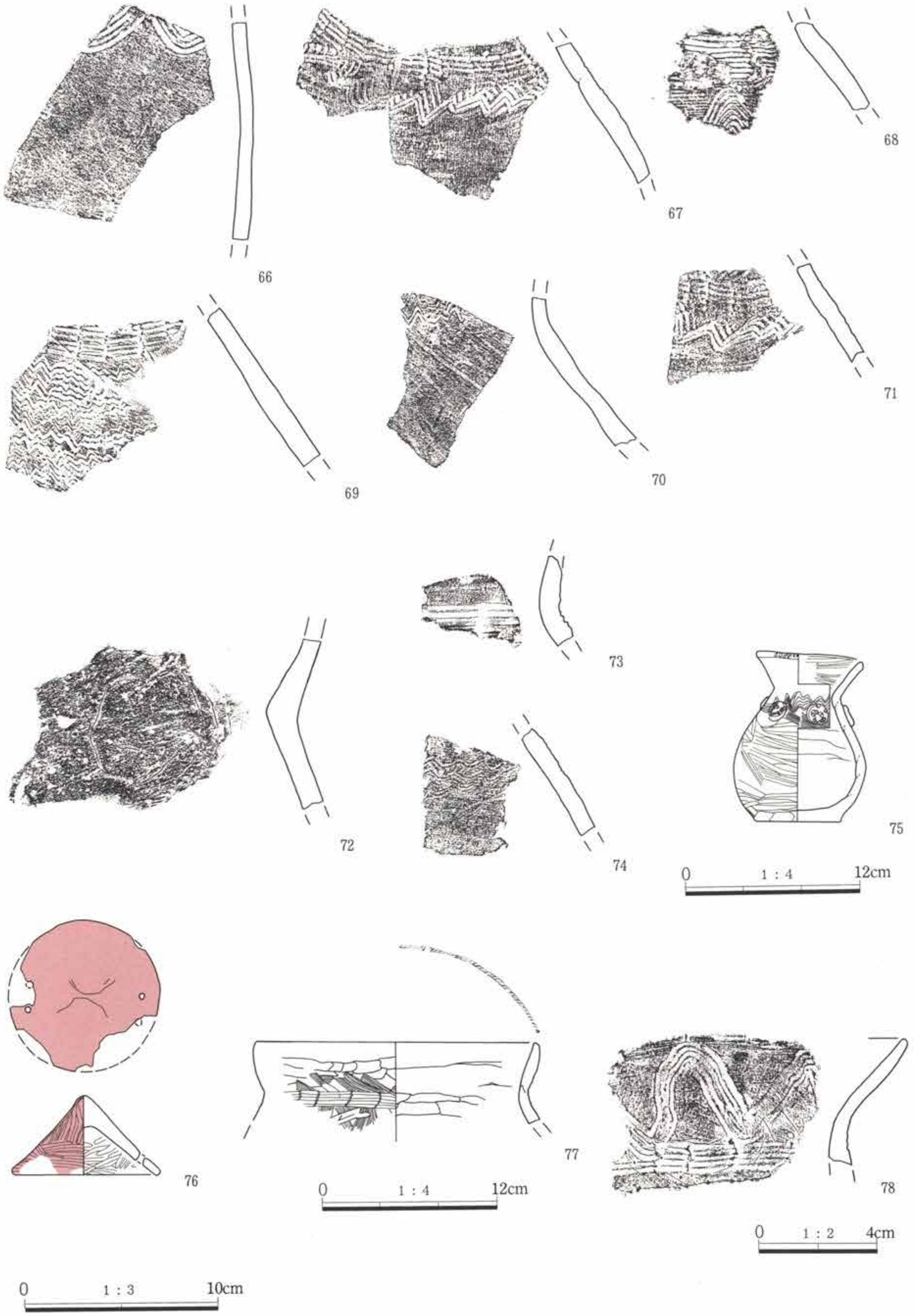
第258図　遺構外遺物（4）



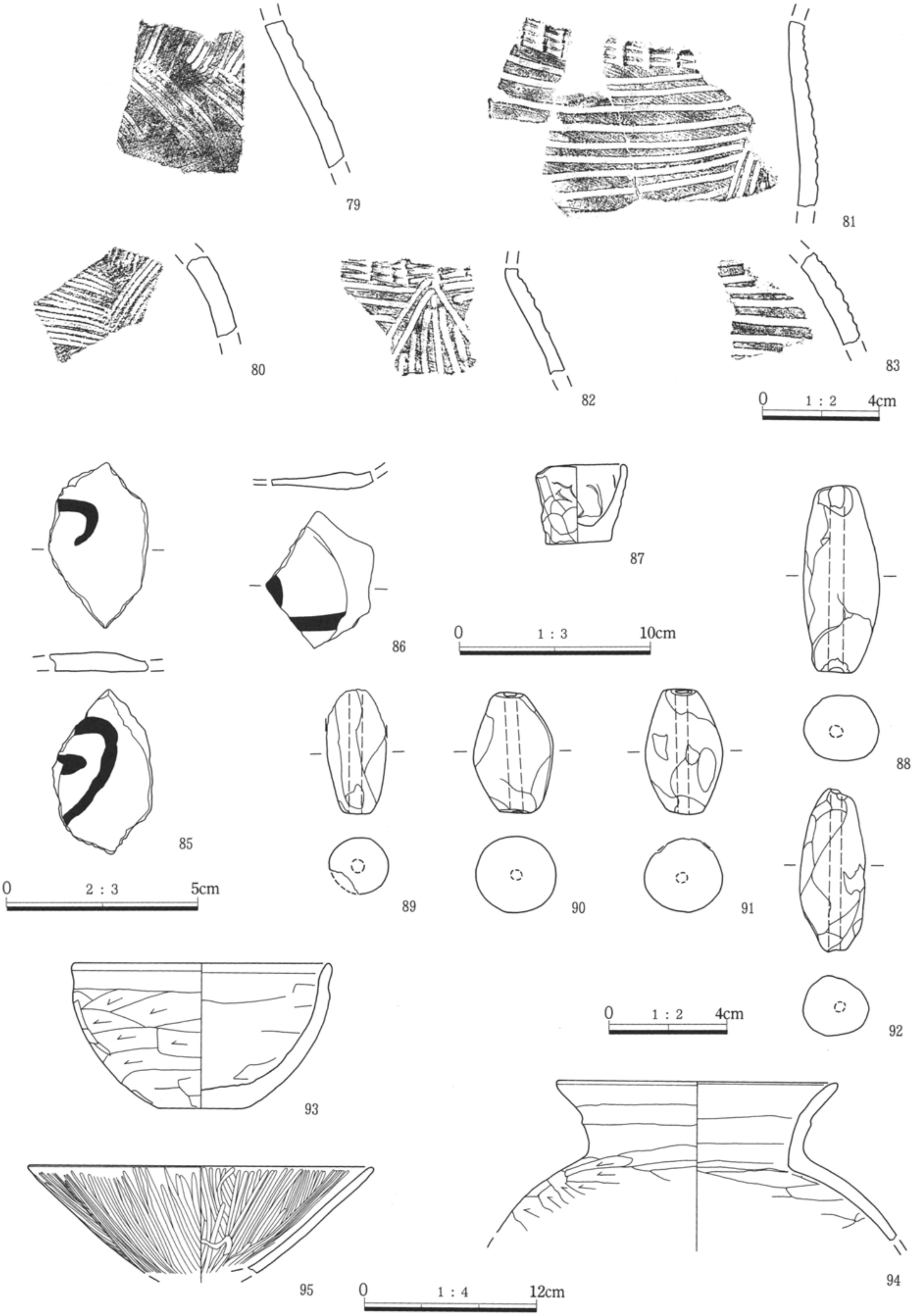
第259図　遺構外遺物（5）



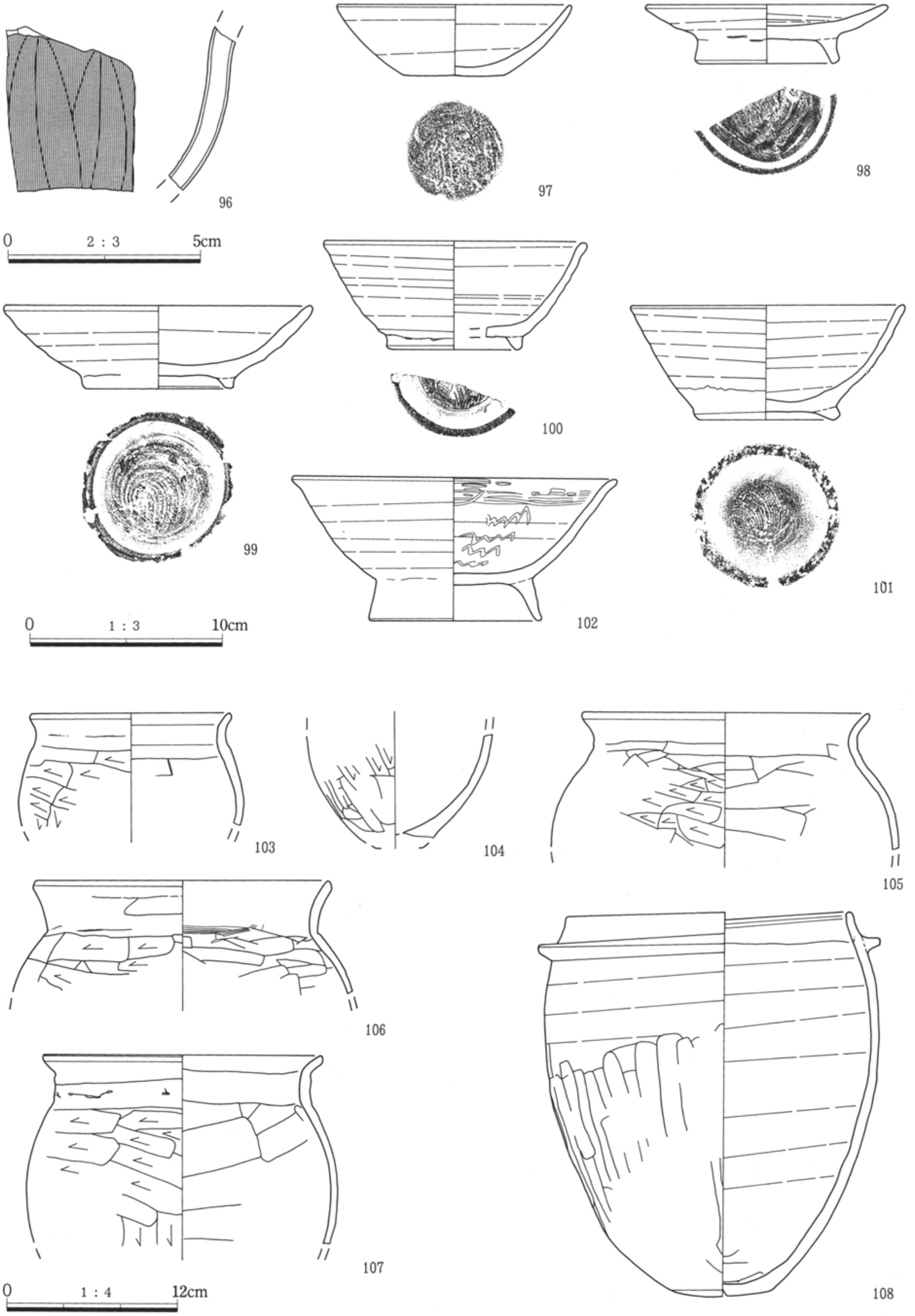
第260図　遺構外遺物（6）



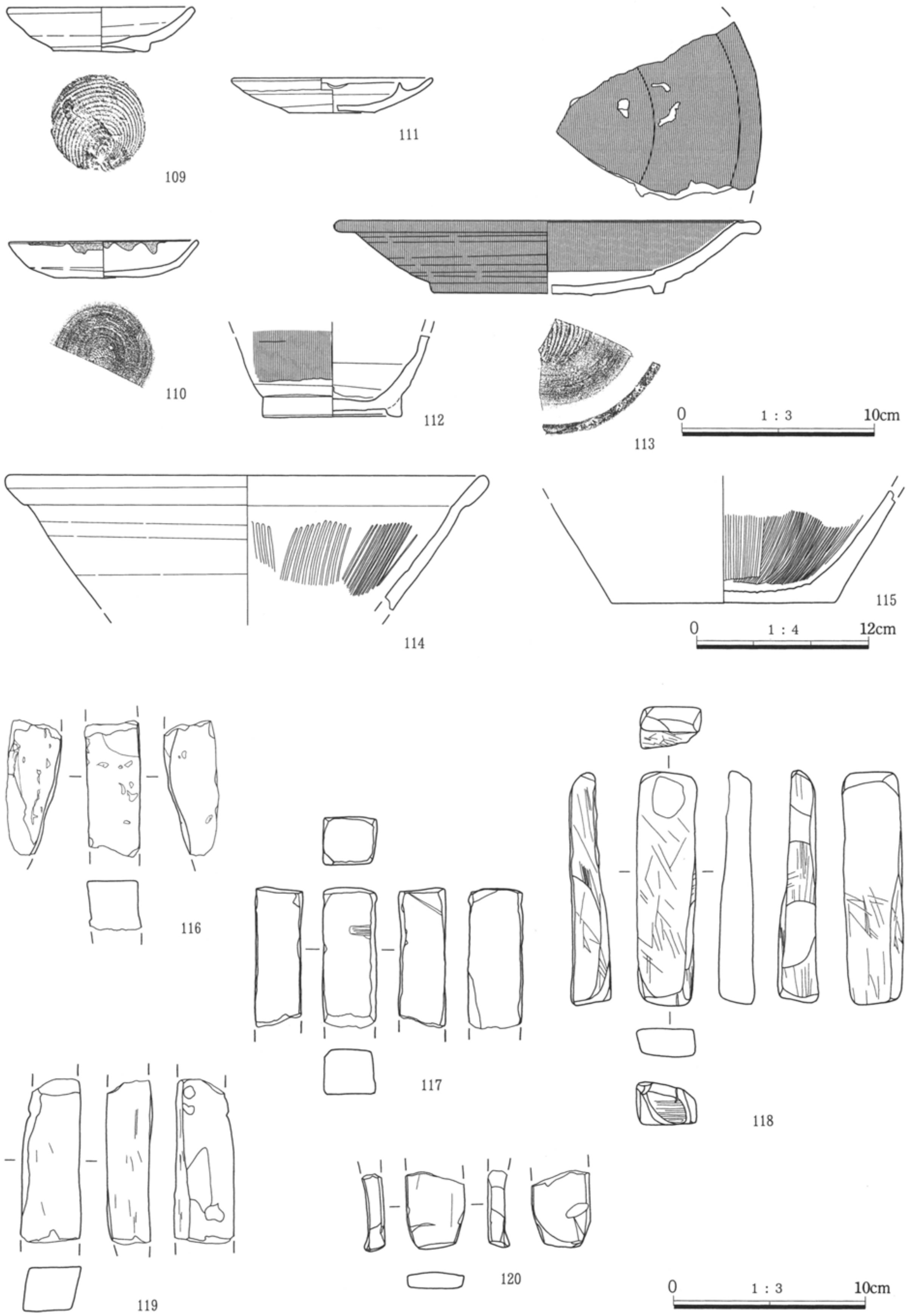
第261図　遺構外遺物（7）



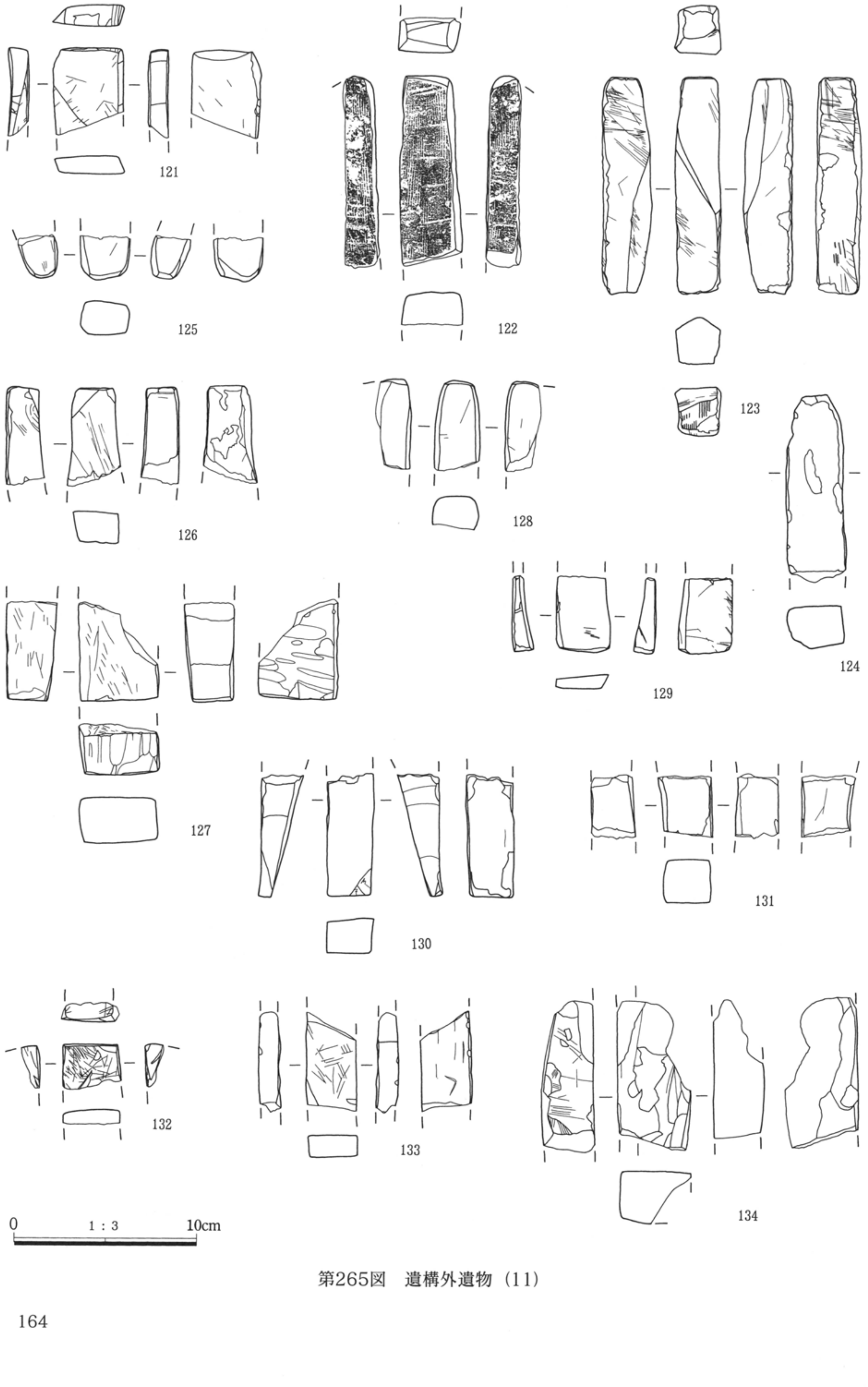
第262図　遺構外遺物（8）



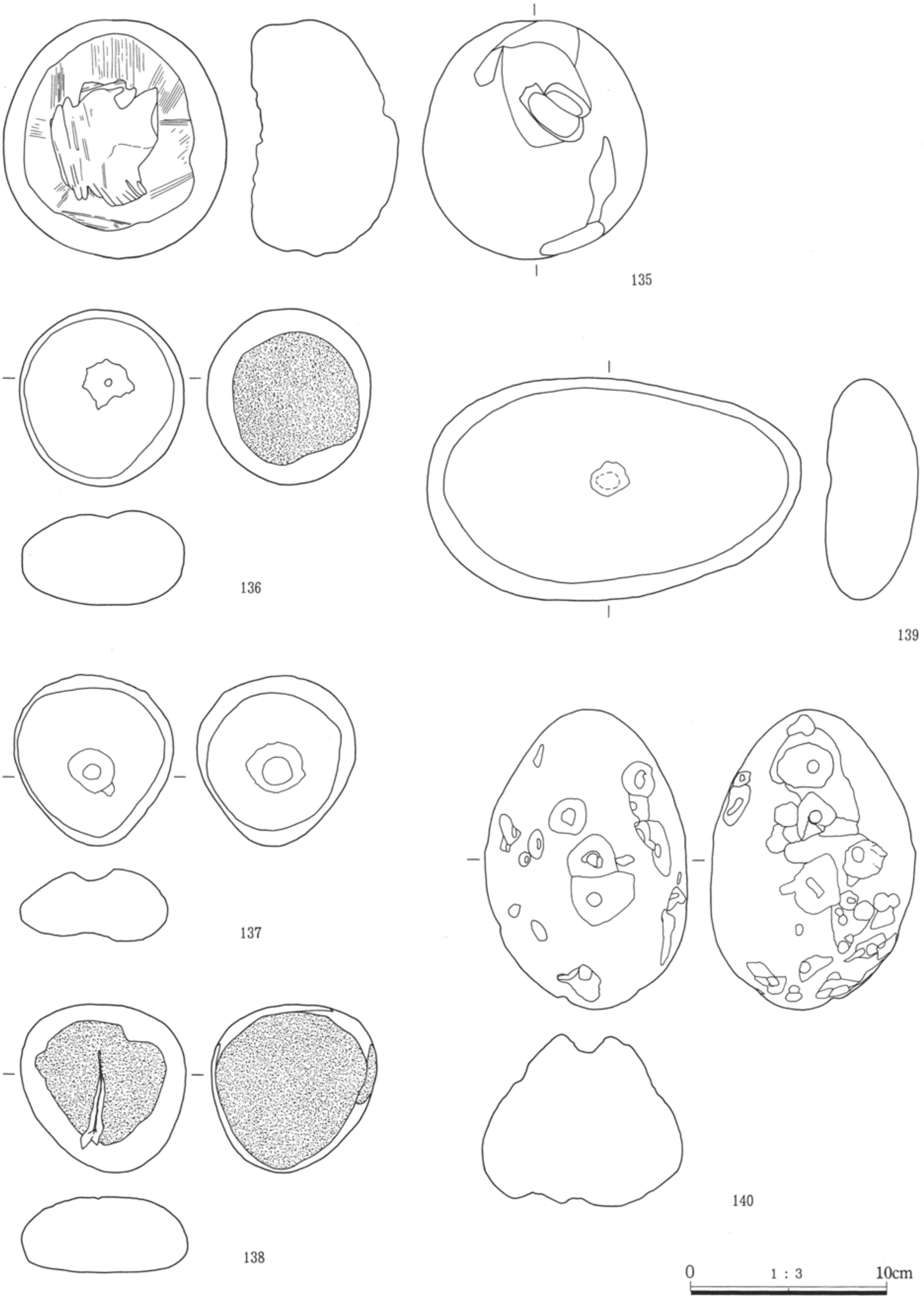
第263図　遺構外遺物（9）



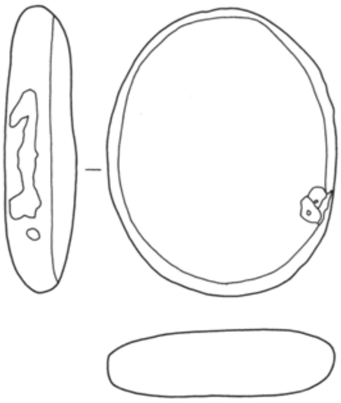
第264図　遺構外遺物（10）



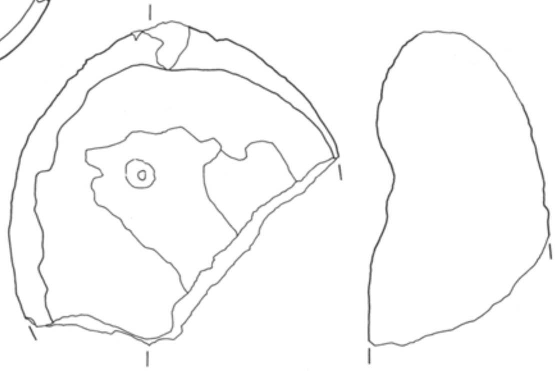
第265図　遺構外遺物（11）



第266図　遺構外遺物（12）

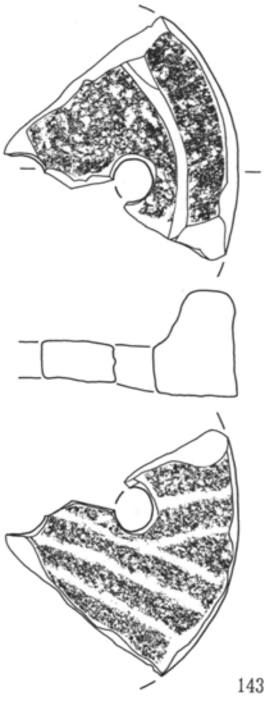


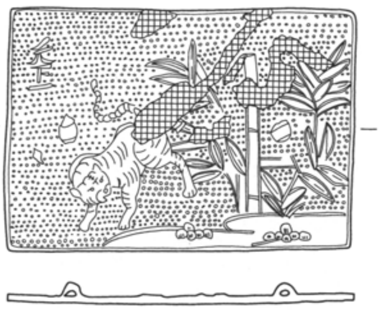
141



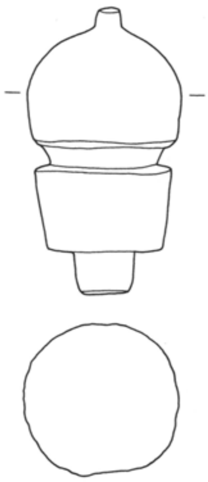
0　1：3　10cm

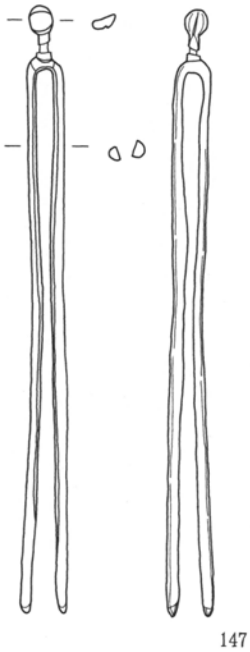
142





146



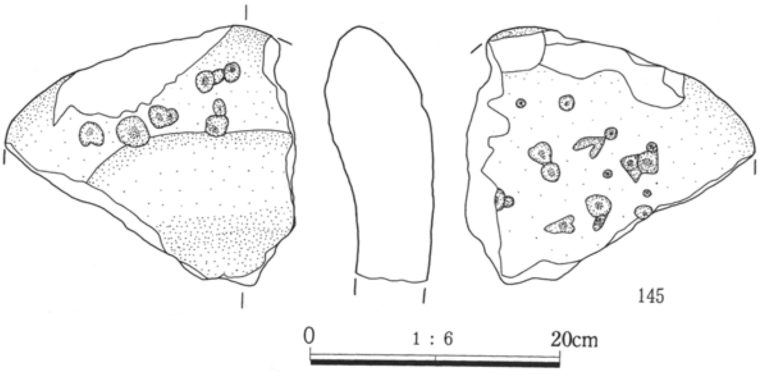


144

0　1：8　24cm

143

148



145

147

0　1：6　20cm

0　2：3　5cm

第267図　遺構外遺物（13）

(10) 萩原遺跡遺物観察表

A区4号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第15図 No１ ＰＬ－72	弥生土器 壺	床直	頸 底部 2/5	口 底　8.0 高	①細粒砂 ②全体にまだら ③暗灰黄	刷毛目整形の後外面胴部ヘラ磨き。内面胴部下半ヘラ磨き上半ヘラナデ。頸部上位に２条の横沈線、下位に横沈線と波状文の組み合わせ。施文具は太さ２mm弱の棒状具。底面研磨。	底面は使用による摩滅

A区11号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第16図 No１ ＰＬ－72	弥生土器 無頸壺	床直	口縁 底部 3/5	口 (8.6) 底　5.6 高 11.7	①白岩片、角礫顕著 ②黒斑多くまだら ③褐灰	口唇内側に面取り。体上位やや張り出す。口縁から体上半に横位縄文を４帯重ねる。原体ＬＲ＋Ｌ。縄文帯上端には端部が押擦。口縁に２ヶ１対の穿孔。無紋部粗い研磨。内面、底ヘラナデ。	底面は使用による摩滅
第16図 No２ ＰＬ－72	弥生土器 短頸壺	床直	ほぼ 完形	口 11 底　6.7 高 15.5	①河原砂多い ②体一部に黒斑 ③黄褐色	口縁はヘラによるカットで波状とする。胴中位に細いヘラによる横位矢羽根文を廻らす。頸部に２ヶ一対の緊縛孔を穿つ。口縁内面と施文体を除く外面に赤彩のち研磨。内面は横位刷毛目。	
第16図 No３ ＰＬ－72	弥生土器 壺	床直	頸 底部 2/5	口 底　8.4 高	①白岩片、粗～細砂 ②外面胴部煤付着 ③外面：鈍い黄褐 　内面：黒色	頸部から肩に４条以上のヘラ描波状文。胴上半以上を赤彩した可能性有り。無文部を研磨。内面ヘラナデ。	

A区37号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第17図 No１ ＰＬ－72	弥生土器 壺	覆土	肩 小片	口 底 高	①輝石多い粗～細砂 ②黒斑ムラ多い ③R鈍い黄橙	上下端を横沈線で画し、中間を７条平行の断続する横沈線で充填。下端沈線の下位に矢羽根状描法による鋸歯文を描く。無文部は刷毛目のち研磨。内面ナデ。	Ⅳ期 栗林式新
第17図 No２ ＰＬ－72	弥生土器 壺	Ａ区 表採	肩 小片	口 底 高	①輝石多い ②部分黒斑 ③鈍い黄橙	やや太い沈線（幅2mm）の矢羽根状描法による鋸歯文。無文部は刷毛目のち研磨。内面ナデ。	No１と同一個体

A区13号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第18図 No１ ＰＬ－72	土師器 杯	覆土	口縁 胴 4/5	口　9.5 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	外面体部刷毛目後ナデ。内面体部ヘラ磨き、口縁部内外面横ナデ。	
第18図 No２ ＰＬ－72	土師器 坩	床下 土坑	口縁 底部 3/5	口 13.0 底　2.5 高　6.5	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR赤	底部に径2.4cm程の円形窪み。体部・口縁部内外面はヘラ磨き。内外全面に赤彩痕が認められる。	
第18図 No３ ＰＬ－72	土師器 坩	覆土	口縁 底部 3/5	口 11.4 底　3.6 高　8.1	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	底部に径3.4cm程の円形窪み。体部・口縁部の内外面に弱い刷毛目。口唇部内外面横ナデ。	
第19図 No４ ＰＬ－72	土師器 坩	覆土	口縁 底部 3/5	口 12.0 底　3.0 高　7.3	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR橙	外面体部弱い刷毛目。内面体部ナデ。口縁部内外面横ナデ、内面に弱い刷毛目が残る。	
第19図 No５ ＰＬ－72	土師器 器台	掘り 方	ほぼ 完形	口　7.4 底　8.8 高　5.7	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	杯部外面ヘラ磨き後横ナデ。杯部内面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ磨き。脚部内面ナデ。	
第19図 No６ ＰＬ－72	土師器 高坏	床直	ほぼ 完形	口 12.3 底　6.6 高　7.8	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	杯部・脚部共外面ヘラ磨き。杯部内面ヘラ磨き。脚部内面ナデ。	
第19図 No７ ＰＬ－73	土師器 台付甕	貯蔵 穴	ほぼ 完形	口　9.2 底　7.8 高 14.2	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR鈍い赤褐	外面胴部刷毛目。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ、部分的に弱い刷毛目を残す。脚部内外面刷毛目。	
第19図 No８ ＰＬ－73	土師器 甕	覆土	口縁 底部 3/5	口 11.7 底　5.0 高 13.6	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	底部僅かに内側に窪む。外面胴部ヘラ磨き。内面胴部ヘラナデ。口縁部外面ヘラ磨き。口縁部弱い刷毛目と粗いヘラ磨き。	
第19図 No９ ＰＬ－73	土師器 甕	床直	口縁 1/5	口 16.5 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR赤	外面胴部ヘラ磨き。内面胴部ナデ。口縁部内外面ヘラ磨き。胴部外面及び口縁部内外面に赤彩。	
第19図 No10 ＰＬ－73	土師器 甕	覆土	口縁 1/5	口 12.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	外面頸部に弱い刷毛目。外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口唇部内外面横ナデ。	
第19図 No11 ＰＬ－73	土師器 甕	貯蔵 穴	口縁 胴 小片	口 16.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5Y黄灰	外面胴部ヘラ削り後、ヘラ磨き。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	

A区13号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第19図 No12 ＰＬ－73	土師器 壺	覆土	口縁 小片	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	口縁部内外面横ナデ。端部にヘラによる等間隔な刻みを施す。	
第19図 No13 ＰＬ－73	土師器 台付甕	覆土	底部 小片	口 底　9.6 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	内外面正放射状のヘラ磨き。	
第19図 No14 ＰＬ－73	砥石	覆土	部分	長 (4.5) 幅　2.3 厚　2.4	砥沢石	手持ち砥。４面使用。端部欠損。	重さ32.93g

A区14号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第20図 No１ ＰＬ－73	土師器 甕	覆土	小片	口14.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR明黄褐	外面ヘラ削り。内面刷毛目。口縁部内外面横ナデ。	
第20図 No２ ＰＬ－73	土師器 甕	掘り方覆土	口縁 1/5	口13.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第20図 No３ ＰＬ－73	土師器 甕	貯蔵穴	口縁 小片	口11.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	口縁部内外面に刷毛目。口唇部は刷毛目後横方向のナデが認められる。	

A区25号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第23図 No１ ＰＬ－73	土師器 鉢	床直	口縁 底部 3/5	口11.7 底　4.4 高　8.5	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	底部肉厚平底。口縁非水平。外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第23図 No２ ＰＬ－73	土師器 甕	床直	口縁 底部 4/5	口10.7 底　6.8 高17.5	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR橙	底部平底。全体的に器形は歪む。外面胴部上半面から口縁部は刷毛目後ナデ、下半面ヘラ磨き。内面ヘラナデ。口唇部内外面横ナデ。	

D区１号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第26図 No１ ＰＬ－73	土製 銅鏡 模造品	覆土	ほぼ 完形	口　2.8 底 高	焼物	手捏ね成形。焼きは土師器質。上面に紐を模した１対の突起を有するが端部は欠損。	
第26図 No２ ＰＬ－73	土師器 坩	覆土	口縁 底部 3/5	口11.3 底　2.8 高　7.4	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	底部中央の円形窪み外面ヘラ削り。外面胴部下半面ヘラ磨き、胴部上半面から口縁部に掛けて弱い刷毛目、口唇部横ナデ。内面口縁部横・斜め方向のナデ、胴部・底部ナデ、ヘラ痕僅かに残る。	胴部に人為的な穿孔、底部に円形窪み
第26図 No３ ＰＬ－73	土師器 高坏か	掘り方	底部 2/5	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	脚部に上下２対、計４個の円形穿孔。外面脚部ヘラ磨き。内面脚部ヘラナデ。	
第26図 No４ ＰＬ－73	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口14.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	外面胴部刷毛目。内面胴部ヘラナデ、頸部に刷毛目痕を残す。口縁部内外面横ナデ。	
第26図 No５ ＰＬ－73	土師器 台付甕	覆土	口縁 小片	口15.2 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR浅黄橙	外面胴部ヘラ削り後刷毛目。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	

D区２号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第28図 No１ ＰＬ－74	土師器 器台	覆土	ほぼ 完形	口　8.5 底10.2 高　8.1	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR明黄褐	杯部内外面ヘラ磨き。脚部内外面ヘラ磨き。	
第28図 No２ ＰＬ－74	土師器 パレススタイル壺	覆土	胴 小片	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③外7.5YR鈍い橙内5YR明赤褐	外面胴部に沈線による鋸歯文と刷毛目を施し、沈線内部は赤色塗彩。	模様拓本
第28図 No３ ＰＬ－74	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR浅黄橙	折り返し口縁。外面胴部は縦方向の弱い刷毛目。外面胴部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	

D区３号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第30図 No１ ＰＬ－74	土師器 坩	覆土	底部 小片	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	底部外面に円形の窪みを持つ。	

D区３号竪穴住居跡

図 番 号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第30図 No２ ＰＬ－74	土師器 器台	床直	ほぼ 完形	口 8.2 底 12.8 高 8.9	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	脚部に上下２対、計４個の円形穿孔。杯部外面底部に弱い刷毛目。杯部内面ナデ。口唇部内外面横ナデ。脚部外面ヘラ磨き。脚部内面横方向のナデ。	
第30図 No３ ＰＬ－74	土師器 台付甕	覆土	口縁 小片	口 15.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄褐	外面胴部刷毛目。内面頸部に指頭痕。口縁部内外面横ナデ。	
第30図 No４ ＰＬ－74	土師器 甕	床直	口縁 小片	口 16.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR黄灰	外面全面縦方向の刷毛目。内面胴部横方向のヘラ削り。口縁部外面横ナデ、内面横方向の粗いヘラ磨き。	
第30図 No５ ＰＬ－74	土師器 甕	覆土	底部 小片	口 底 9.6 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR灰黄	外面に縦方向の弱い刷毛目。内面に横方向の弱い刷毛目。	
第30図 No６ ＰＬ－74	土師器 甕	覆土	底部 小片	口 底 7.2 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	底部肉厚平底。外面刷毛目後磨き。内面刷毛目。底部外面に木葉痕。	底部拓本

D区４号竪穴住居跡

第31図 No１ ＰＬ－74	土師器 椀	覆土	ほぼ 完形	口 10.0 底 4.8 高 5.2	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄褐	外面体部ヘラ削り。内面体部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第31図 No２ ＰＬ－74	土師器 小型坩	覆土	ほぼ 完形	口 11.2 底 4.4 高 8.4	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR橙	底部平底。外面ヘラ磨き。内面ヘラ磨き。口縁部に赤彩の痕跡。	
第31図 No３ ＰＬ－74	土師器 坩	覆土	ほぼ 完形	口 14.7 底 2.8 高 11.6	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	底部平底。外面ヘラ磨き。内面ヘラ磨き。外面底部から口縁部に掛けて煤付着。	
第31図 No４① ＰＬ－74	土師器 坩	覆土	口縁 底部 3/5	口 12.6 底 4.1 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR赤褐"	底部平底。外面ヘラ磨き。内面口縁部ヘラ磨き、胴部ナデ。口縁部内外面、胴部外面に赤彩。	口縁①，底部② 個々に掲載
第31図 No４② ＰＬ－74	土師器 坩	覆土	口縁 底部 3/5	口 12.6 底 4.1 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR赤褐	底部平底。外面ヘラ磨き。内面口縁部ヘラ磨き、胴部ナデ。口縁部内外面、胴部外面に赤彩。	
第31図 No５ ＰＬ－74	土師器 坩	覆土	口縁 小片	口 13.5 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	口縁部外面下位にヘラ削り痕を残し正放射状のヘラ磨き。内面全面に正放射状のヘラ磨き。	
第31図 No６ ＰＬ－75	土師器 台付甕	覆土	口縁 小片	口 17.4 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR橙	外面胴部刷毛目。内面胴部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第31図 No７ ＰＬ－75	土師器 甕	覆土	口縁 胴 2/5	口 18.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR明黄褐	外面胴部刷毛目。内面胴部ナデ、頸部付近に弱い刷毛目と指頭痕が認められる。口縁部内外面刷毛目後横ナデ。	
第32図 No８ ＰＬ－75	土師器 台付甕	覆土	口縁 胴 3/5	口 16.4 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR鈍い橙	外面胴部刷毛目。内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第32図 No９ ＰＬ－75	土師器 台付甕	覆土	口縁 底部 4/5	口 底 5.6 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	外面胴部ヘラ削り後刷毛目。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。脚部外面刷毛目、内面ヘラナデ指ナデ。	口縁①，底部② 個々に掲載

D区５号竪穴住居跡

第33図 No１ ＰＬ－75	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口 26.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	口縁部外面横ナデ、内面ナデ後ヘラ磨き。	
第33図 No２ ＰＬ－75	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口 17.0 底 高 4.4	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR灰黄褐	折り返し口縁。外面ヘラ磨き。口縁部外面横ナデ、内外面ヘラ磨き。	
第34図 No３ ＰＬ－75	土師器 台付甕	床直	ほぼ 完形	口 19.5 底 10.6 高 31.4	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い褐	外面胴部ヘラ削り後刷毛目。内面胴部ナデ、部分的に指頭痕を残す。口縁部内外面横ナデ。脚部外面刷毛目、内面ヘラナデ、指ナデ。	

D区12号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第36図 No 1 PL−76	土師器 ミニチュア	覆土	口縁 底部 2/5	口 8.1 底 3.4 高 5.1	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR浅黄橙	手捏ね成形。外面胴部ヘラ削り。内面胴部指ナデ。口縁部指頭による成・整形。	
第36図 No 2 PL−76	土師器 高坏	床直	口縁 底部 3/5	口 18.8 底 14.2 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	杯部外面は横方向のヘラ磨き、内面は斜放射状のヘラ磨き。脚部外面は正放射状のヘラ磨き、内面全面に弱い刷毛目。	口縁①，底部②は個々に掲載
第36図 No 3 PL−76	土師器 台付甕	覆土	底部	口 底 8.5 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い褐	外面刷毛目、内面ナデ。	
第36図 No 4 PL−76	土師器 甕	床直	口縁 小片	口 16.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	折り返し口縁。外面刷毛目後磨き。口縁部内外面横ナデ後、内面ヘラ磨き。内面胴部に刷毛目。	

D区13号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第37図 No 1 PL−76	土師器 蓋	覆土	上部 2/5	口 9.5 底 3.9 高 4.8	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR灰黄褐	外面ヘラ削り。内面刷毛目後ナデ。口縁部内面横ナデ。	
第37図 No 2 PL−76	土師器 器台	覆土	ほぼ 完形	口 7.05 底 高 7.9	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄褐	杯部外面は横方向のヘラ磨き、内面は正放射状のヘラ磨き。脚部外面は正放射状のヘラ磨き、内面はヘラナデ。	
第37図 No 3 PL−76	土師器 甕	覆土	口縁 底部 3/5	口 16.1 底 5.4 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄褐	外面下半面ヘラ削り、上半面刷毛目後ナデ。内面ヘラナデ、頸部に指頭痕。口縁部内外面横ナデ、内面に刷毛目痕。底部肉厚平底、外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	上部①，底部②個々に掲載
第38図 No 4 PL−76	土師器 甕	覆土	口縁 胴 2/5	口 14.3 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR灰黄褐	外面胴部ヘラ削り後刷毛目。内面胴部ナデ。口縁部内外面横ナデ。頸部ヘラ先調整。	
第38図 No 5 PL−76	土師器 直口壺	覆土	口縁 底部 2/5	口 底 5.6 高 23.6	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR灰黄褐	底部平底。外面胴部・口縁部共にヘラ磨き。内面胴部ヘラナデ。口縁部内面ヘラ磨き。	

D区14号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第39図 No 1 PL−77	土師器 器台	覆土	底部	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR赤褐	脚部外面は縦方向のヘラ磨き、頸部外面は横方向のヘラ磨き。脚部内面はヘラナデ後に指ナデ。	
第39図 No 2 PL−77	土師器 台付甕	床直	1/5 脚部	口 底 10.6 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	S字口縁台付甕脚部。脚部外面刷毛目。脚部内面ナデ、端部折り返し。	
第39図 No 3 PL−77	土師器 台付甕	床直	口縁 小片	口 19.3 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	外面胴部刷毛目。内面胴部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	

E区2号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第40図 No 1 PL−77	土師器 器台	覆土	底部 小片	口 底 10.0 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面弱い刷毛目。内面ヘラナデ。	
第40図 No 2 PL−77	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口 10.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR赤褐	外面ヘラ削り。内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。	

A区1号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第43図 No 1 PL−77	土師器 杯	竈	完形	口 13.6 底 高 5.5	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面横方向のナデ。	
第43図 No 2 PL−77	土師器 杯	竈掘り方	完形	口 12.5 底 高 5.6	①細粒砂 ②底部外面黒斑 ③2.5YR明赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第43図 No 3 PL−77	土師器 杯	覆土	ほぼ 完形	口 12.1 底 高 5.4	①細粒砂 ②外面底部黒斑 ③7.5YR鈍い橙	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデの後、底部正放射状の磨き。	
第43図 No 4 PL−77	土師器 杯	竈掘り方	口縁 底部 2/5	口 11.8 底 高 5.7	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	

A区１号住居跡

図 番 号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第43図 No５ ＰＬ−77	土師器 杯	竈	口縁 底部 2/5	口12.0 底 高　5.3	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR橙	底部肉厚平底気味。外面底部へラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第43図 No６ ＰＬ−77	土師器 杯	竈	口縁 底部 3/5	口12.0 底　3.3 高　5.9	①細粒砂 ②外面底部黒斑 ③10YR鈍い黄橙	底部肉厚平底気味。外面底部へラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第43図 No７ ＰＬ−77	土師器 杯	竈	口縁 小片	口13.0 底 高	①粗粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	外面体部へラ削り。内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第43図 No８ ＰＬ−77	土師器 椀	竈	完形	口13.8 底　6.6 高　6.7	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	底部平底気味。外面底部から体部はへラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第43図 No９ ＰＬ−77	土師器 甕	竈	完形	口12.6 底　7.2 高11.8	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	底部肉厚ベタ高台状。外面底部から胴部は横から斜めのへラ削り。内面胴部へラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第43図 No10 ＰＬ−77	土師器 壺	床直	ほぼ 完形	口 胴部径 13.4 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	底部丸底。外面胴部下半分へラ削り、上半分は横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第43図 No11 ＰＬ−78	土師器 甕	竈	ほぼ 完形	口15.2 底　6.2 高18.4	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	底部平底。外面胴部横方向のへラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面胴部横方向のへラナデ。	
第43図 No12 ＰＬ−78	土師器 甕	竈	口縁 底部 3/5	口17.8 底　6.0 高15.5	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	底部平底。外面胴部へラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第43図 No13 ＰＬ−78	土師器 甕	竈	口縁 底部 4/5	口16.4 底　8.6 高10.6	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	底部肉厚ベタ高台状。外面底部から体部はへラ削り。内面全面へラナデ。口縁部内外面横ナデ	
第43図 No14 ＰＬ−78	土師器 甑	竈	口縁 底部 3/5	口15.4 底　5.4 高　9.7	①細粒砂 ②外面底部黒斑 ③10YR鈍い黄橙	底部平底。外面底部から体部はへラ削り。内面全面へラナデ。口縁部内外面横ナデ	
第43図 No15 ＰＬ−78	土師器 甕	竈	口縁 小片	口14.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	外面胴部へラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面胴部横方向のナデ。	
第43図 No16 ＰＬ−78	土師器 甕	竈	口縁 胴 2/5	口15.7 底　6.6 高16.5	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	底部肉厚ベタ高台状。外面胴部へラ削り。口縁部内外面横ナデ,外面には粘土輪積痕残る。内面胴部ナデ。	
第43図 No17 ＰＬ−78	土師器 甕	竈	口縁 底部 3/5	口14.5 底 高20.7	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	底部肉厚平底。外面胴部へラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面胴部へラナデ。	
第44図 No18 ＰＬ−78	土師器 甑	竈	口縁 底部 3/5	口 底10.8 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR鈍い黄	外面胴部下方向のへラ削り。内面胴部へラナデ。	

A区２号竪穴住居跡

第46図 No１ ＰＬ−78	土師器 杯	住居 竈	口縁 胴 3/5	口12.6 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	外面底部へラ削り。内面底部ナデの後正放射状のへラ磨き。口縁部内外面横ナデ。	
第46図 No２ ＰＬ−78	土師器 杯	覆土	口縁 小片	口13.4 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	外面底部へラ削り。内面底部ナデの後正放射状のへラ磨き。口縁部内外面横ナデ。	
第46図 No３ ＰＬ−78	土師器 杯	覆土	口縁 小片	口13.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	外面体部へラ削り。内面体部ナデの後斜放射状のへラ磨き。口縁部内外面横ナデ。	
第46図 No４ ＰＬ−78	土師器 椀	覆土	口縁 小片	口10.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	外面体部へラ削り。内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第46図 No５ ＰＬ−78	土師器 器台	覆土	底部 小片	口 底10.6 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	脚部外面ナデの後縦方向のへラ磨き。脚部内面へラナデ、指ナデ。	

A区２号住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第46図 No６ ＰＬ－78	土師器 甕	床直	口縁 小片	口26.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第46図 No７ ＰＬ－78	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口　9.8 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR赤褐	外面横ナデ。内面横方向のヘラナデ。	
第46図 No８ ＰＬ－78	土師器 甑	覆土	底部 小片	口 底12.0 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	

A区３号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第48図 No１ ＰＬ－79	土師器 杯	竈	口縁 底部 1/5	口11.2 底　5.0 高　4.1	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	外面底部ヘラ削り。内面底部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第48図 No２ ＰＬ－79	土師器 杯	竈	口縁 底部 1/5	口12.9 底 高　4.9	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面底部横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第48図 No３ ＰＬ－79	土師器 ミニチュア	貯蔵穴	完形	口　4.0 底　2.3 高　3.7	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い橙	手捏ね成形。胴部内外面ヘラナデ、指ナデ。	
第48図 No４ ＰＬ－79	土師器 甑	竈	底部 1/5	口 底10.1 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	
第48図 No５ ＰＬ－79	土師器 甕	床直	底部 1/5	口 底　5.1 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	底部肉厚平底。外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。	底部外面に木葉痕を残す

A区６号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第51図 No１ ＰＬ－79	土師器 杯	覆土	ほぼ 完形	口10.0 底 高　5.1	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面ヘラナデ後に横方向のナデ体部に指頭痕。口縁部内外面横ナデ。	
第51図 No２ ＰＬ－79	土師器 杯	覆土	口縁 小片	口14.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③５ＹＲ赤褐	外面体部ヘラ削り。内面ナデ後に斜放射状のヘラ磨き。口縁部内外面横ナデ。	
第51図 No３ ＰＬ－79	土師器 杯	覆土	口縁 胴 2/5	口15.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面体部ヘラ削り。内面ナデ後に斜放射状のヘラ磨き。口縁部内外面横ナデ。	
第51図 No４ ＰＬ－79	土師器 杯	覆土	口縁 小片	口11.2 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	外面体部ヘラ削り。内面ナデ後に斜放射状のヘラ磨き。	
第51図 No５ ＰＬ－79	土師器 杯	覆土	口縁 小片	口13.2 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR橙	外面体部ヘラ削り。内面ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第51図 No６ ＰＬ－79	土師器 杯	貯蔵穴	口縁 小片	口11.6 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面ヘラナデ後に横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第51図 No７ ＰＬ－79	須恵器 蓋	覆土	口縁 底部 1/5	口12.0 底 高	①細粒砂 ②還元焔 ③2.5YR黄灰	外面回転ヘラ削り。内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第51図 No８ ＰＬ－79	土師器 杯	覆土	ほぼ 完形	口11.8 底 高　5.8	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR赤褐	外面底部ヘラ削り。内面ヘラナデ後に横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第51図 No９ ＰＬ－79	土師器 杯	覆土	口縁 底部 4/5	口12.2 底 高　4.9	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面ヘラナデ後に横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第51図 No10 ＰＬ－79	土師器 杯	覆土	ほぼ 完形	口12.2 底 高　5.2	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	外面底部ヘラ削り。内面ヘラナデ後に横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第52図 No11 ＰＬ－79	土師器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口12.7 底 高　5.4	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR赤褐	外面底部ヘラ削り。内面底部正放射状の粗いヘラ磨き。口縁部内外面横ナデ。	

A区６号住居跡

図 番 号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第52図 No12 ＰＬ－79	土師器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口11.8 底 高　5.3	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	外面底部ヘラ削り。内面ヘラナデ後に横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第52図 No13 ＰＬ－79	土師器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口12.5 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り、口縁部横ナデ。内面全面横方向のナデ。	
第52図 No14 ＰＬ－79	土師器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口12.8 底 高　5.1	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面ヘラナデ後に横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第52図 No15 ＰＬ－80	土師器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口13.4 底 高　4.5	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第52図 No16 ＰＬ－80	土師器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口12.6 底 高　5.4	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	外面底部ヘラ削り。内面ヘラナデ、底部内面指頭痕。口縁部内外面横ナデ。	
第52図 No17 ＰＬ－80	土師器 杯	覆土	口縁 底部 2/5	口12.1 底 高　4.3	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面横ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第52図 No18 ＰＬ－80	土師器 杯	覆土	口縁 底部 1/5	口12.1 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR橙	外面底部ヘラ削り。内面横ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第52図 No19 ＰＬ－80	土師器 杯	覆土	口縁 底部 1/5	口14.2 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR橙	外面底部ヘラ削り。内面横ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第52図 No20 ＰＬ－80	土師器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口15.7 底 高　7.6	①細粒砂 ②酸化焔底部黒斑 ③5YR橙	外面底部ヘラ削り。内面正放射状のヘラ磨き。口縁部内外面横ナデ。	
第52図 No21 ＰＬ－80	土師器 ミニチュア	覆土	ほぼ 完形	口　9.8 底 高　6.6	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い橙	手捏ね成形。底部肉厚平底。外面体部ヘラ削り。内面体部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第52図 No22 ＰＬ－80	土師器 鉢	覆土	口縁 底部 3/5	口 底　4. 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	底部肉厚平底。外面底部ヘラ削り。内面ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第52図 No23 ＰＬ－80	土師器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口10.0 底　3.2 高　4.4	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	底部肉厚平底。外面底部ヘラ削り。内面ヘラナデ、体部指頭痕。口縁部内外面横ナデ。	
第52図 No24 ＰＬ－80	土師器 甕	覆土	口縁 胴 2/5	口14.3 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR鈍い橙	外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第52図 No26 ＰＬ－80	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口18.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	外面ヘラ削り。内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第52図 No27 ＰＬ－80	土師器 甕	覆土	口縁 胴 2/5	口16.1 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	外面頸部下方向、胴部上方向のヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第53図 No28 ① ＰＬ－81	土師器 甑	覆土	口縁	口26.1 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR鈍い橙	外面胴部縦下方向のヘラ削り。内面胴部ナデ後、縦方向のヘラ磨き。口縁部内外面横ナデ。	口縁①，底部②は個々に写真撮影
第53図 No28 ② ＰＬ－81	土師器 甑	覆土	底部	口 底10.0 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR鈍い橙	外面胴部縦下方向のヘラ削り。内面胴部ナデ後、縦方向のヘラ磨き。口縁部内外面横ナデ。	
第52図 No29 ＰＬ－80	土師器 甕	覆土	口縁 胴 小片	口20.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR浅黄	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第53図 No30 ＰＬ－80	土師器 甕	覆土	口縁 胴 3/5	口19.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	

A区6号住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第53図 No31 ＰＬ－80	土師器 甑	覆土	口縁 底部 2/5	口22.4 底 9.4 高21.7	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR浅黄	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第52図 No33 ＰＬ－80	土師器 支脚か	覆土	小片 2/5	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR赤	内外面に輪積痕残る。外面粗いヘラ削り。内面全面に指頭痕。全体的に粗雑な造り。	
第52図 No34 ＰＬ－80	土師器 椀	覆土	口縁 底部 3/5	口11.7 底 6.9 高 7.4	①粗粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	底部肉厚平底。外面体部ヘラ削り。内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第52図 No35 ＰＬ－81	土師器 甕	覆土	口縁 胴 3/5	口14.5 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部上方向のヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面胴部ヘラナデ。	
第52図 No36 ＰＬ－81	土師器 甕	竈	口縁 胴 3/5	口16.1 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い褐	外面胴部主に上方向のヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面胴部ヘラナデ。	
第52図 No37 ＰＬ－81	土師器 甕	床直	口縁 胴 3/5	口15.1 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	外面胴部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面胴部ヘラナデ。	
第53図 No38 ＰＬ－81	土師器 甕	竈	口縁 底部 3/5	口19.1 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	外面胴部縦上方向のヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面胴部ヘラナデ。	
第53図 No39 ＰＬ－81	土師器 甑	覆土	ほぼ 完形	口25.8 底 9.8 高33.6	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	外面胴部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面胴部ヘラナデ。	
第53図 No40 ＰＬ－81	土師器 甕	竈	口縁 底部 2/5	口17.6 底 高16.1	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	底部平底。外面胴部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面胴部ヘラナデ。	

A区7号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第54図 No１ ＰＬ－82	土師器 杯	覆土	口縁 底部 4/5	口13.0 底 高 4.5	①細粒砂 ②外面底部黒斑 ③5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面底部ヘラナデ後横ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第54図 No２ ＰＬ－82	土師器 杯	竈	口縁 小片	口12.2 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR橙	外面底部ヘラ削り。内面底部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	口縁部に布状痕
第54図 No３ ＰＬ－82	土師器 ミニチュア	覆土	口縁 小片	口 7.6 底 高 4.1	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	手捏ね成形。外面体部ヘラ削り、体部に指頭痕。内面体部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第55図 No４① ＰＬ－82	土師器 甕	竈	口縁 底部 2/5	口17.4 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	底部平底。外面胴部下位は下方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	口縁①，底部②個々に写真掲載
第55図 No４② ＰＬ－82	土師器 甕	竈	口縁 底部 2/5	口 底 5. 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	底部平底。外面胴部下位は下方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第55図 No５ ＰＬ－82	土師器 甕	覆土	口縁 底部 2/5	口15.2 底 5.6 高23.2	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	底部平底。底部と口縁は水平とならず器形は歪む。外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第55図 No６ ＰＬ－82	土師器 甕	竈	ほぼ 完形	口18.6 底 5.5 高34.0	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	底部平底。外面胴部下位は下方向、上位は上方向のヘラ削り。内面胴部はヘラ横ナデ。口縁部内外面横ナデ。	

A区29号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第56図 No１ ＰＬ－82	土師器 杯	竈	ほぼ 完形	口13.6 底 高 5.7	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	外面底部ヘラ削り。内面横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	内面に部分的に煤付着
第56図 No２ ＰＬ－82	土師器 杯	竈	ほぼ 完形	口11.9 底 高 5.7	①細粒砂 ②酸化焔・底部黒斑 ③5YR鈍い赤褐	外面底部ヘラ削り。内面ナデの後、斜放射状のヘラ磨き。口縁部内外面横ナデ。	
第56図 No３ ＰＬ－82	土師器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口15.8 底 高 7.1	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面ナデの後、体部にヘラ磨き。口縁部内外面横ナデ。	

A区29号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第56図 No4 PL－82	土師器 杯	覆土	口縁 小片	口11.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	外面底部へラ削り。内面ナデの後、斜放射状のヘラ磨き。口縁部内外面横ナデ。	
第56図 No5 PL－82	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口15.8 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR赤褐	外面胴部縦方向のヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第57図 No6 PL－82	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口20.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YT橙	外面胴部横方向のヘラ削り。内面胴部ヘラナデ、刷毛目状の削痕を残す。口縁部内外面横ナデ。	
第57図 No7 PL－83	土師器 甕	竈	口縁 底部 4/5	口18.2 底 7.0 高32.2	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	底部肉厚平底。外面胴部上方向、底部付近下方向のヘラ削り。内面胴部縦方向のヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第57図 No8 PL－83	土師器 甕	覆土	口縁 底部 3/5	口14.5 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	外面胴部縦方向のヘラ削り。内面胴部縦方向のヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	

A区32号竪穴住居跡

第61図 No1 PL－83	土師器 杯	覆土	ほぼ 完形	口12.8 底 高 4.8	①細粒砂 ②外面底部黒斑 ③10R赤	底部丸底。外面底部ヘラ削り、外面口縁部横ナデ。内面底部から口縁部ナデの後、中位より口縁部に掛けて斜放射状の丁寧なヘラ磨き。	
第61図 No2 PL－83	土師器 杯	床直	口縁 底部 3/5	口11.8 底 高 4.9	①細粒砂 ②外面底部黒斑 ③2.5YR橙	底部丸底。外面底部ヘラ削り、外面口縁部横ナデ。内面底部から口縁部ナデの後、中位より口縁部に掛けて斜放射状の丁寧なヘラ磨き、口縁部は摩滅気味。	
第61図 No3 PL－83	土師器 杯	床直	口縁 底部 3/5	口12.0 底 高 5.9	①細粒砂 ②外面底部黒斑 ③5YR橙	底部丸底。外面底部ヘラ削り、外面口縁部横ナデ。内面底部から口縁部ナデの後、中位より口縁部に掛けて斜放射状の丁寧なヘラ磨き。	
第62図 No4 PL－83	土師器 杯	床直	口縁 底部 3/5	口12.2 底 高 4.9	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い橙	底部丸底。外面底部ヘラ削り、外面口縁部横ナデ。内面底部から口縁部ナデ後、中位に斜放射状のヘラ磨き。	
第62図 No5 PL－83	土師器 杯	床直	口縁 底部 3/5	口12.4 底 高 4.6	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第62図 No6 PL－83	土師器 杯	床直	完形	口 8.2 底 高 5.3	①細粒砂 ②内外面黒斑多し ③5YR鈍い赤褐	底部肉厚丸底。外面底部ヘラ削り、外面口縁部横ナデ。内面底部から口縁部ナデの後、中位より口縁部に掛けて横・斜放射状のヘラ磨き。	
第62図 No7 PL－83	土師器 杯	床直	完形	口10.0 底 高 6.4	①細粒砂 ②外面底部黒斑 ③10R赤	底部丸底。外面底部ヘラ削り、外面胴部指ナデ、口縁部横ナデ。内面全面ナデの後、全面に斜放射状ヘラ磨き、底部は摩滅気味。	
第62図 No8 PL－83	土師器 杯	覆土	ほぼ 完形	口13.4 底 高 4.9	①細粒砂 ②内外面底部黒斑 ③5YR橙	底部丸底。外面底部ヘラ削り、外面口縁部横ナデ。内面全面ナデの後、中位より口縁部に掛けて斜放射状の丁寧なヘラ磨き。	
第62図 No9 PL－83	土師器 杯	床直	ほぼ 完形	口13.0 底 高 5.4	①細粒砂 ②内面底部黒斑 ③2.5YR明赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第62図 No10 PL－83	土師器 杯	覆土	完形	口12.6 底 高 5.2	①細粒砂 ②内面全面黒斑 ③2.5YR明赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り、外面口縁部横ナデ。内面全面ナデの後、中位より口縁部に掛けて斜放射状の丁寧なヘラ磨き。	
第62図 No11 PL－83	土師器 杯	床直	ほぼ 完形	口13.8 底 高 5.4	①細粒砂 ②外面底部黒斑 ③2.5YR明赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り、外面口縁部横ナデ。内面全面ナデの後、中位より口縁部に掛けて斜放射状のヘラ磨き。	
第62図 No12 PL－83	土師器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口13.6 底 高 6.0	①細粒砂 ②外面側部黒斑 ③2.5YT明赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り、外面口縁部横ナデ。内面全面ナデの後、中位より口縁部に掛けて斜放射状のヘラ磨き。	
第62図 No13 PL－84	土師器 杯	床直	口縁 底部 1/5	口13.2 底 高 5.5	①細粒砂 ②外面底部黒斑 ③2.5YR明赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り、外面口縁部横ナデ。内面全面ナデの後、中位より口縁部に掛けて斜放射状のヘラ磨き。	
第62図 No14 PL－84	土師器 杯	覆土	口縁 底部 4/5	口14.0 底 高 5.5	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り、外面口縁部横ナデ。内面全面ナデの後、中位より口縁部に掛けて斜放射状の丁寧なヘラ磨き。	

A区32号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第62図 No15 PL－84	土師器 杯	覆土	ほぼ 完形	口14.2 底 高 4.9	①細粒砂 ②外面底部黒斑 ③2.5YR明赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り、外面口縁部横ナデ。内面全面ナデの後、中位より口縁部に掛けて斜放射状の丁寧なヘラ磨き。	
第62図 No16 PL－84	土師器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口13.4 底 高 5.0	①細粒砂 ②外面側面黒斑 ③5YR橙	底部丸底。外面底部ヘラ削り、外面口縁部横ナデ。内面全面ナデの後、中位より口縁部に掛けて斜放射状の丁寧なヘラ磨き。	
第62図 No17 PL－84	土師器 杯	床直	完形	口11.4 底 高 6.2	①細粒砂 ②内面底部黒斑 ③2.5YR明赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り、外面口縁部横ナデ。内面全面ナデの後、中位より口縁部に掛けて斜放射状の丁寧なヘラ磨き。	
第62図 No18 PL－84	土師器 杯	床直	完形	口11.7 底 高 5.9	①細粒砂 ②外面側部黒斑 ③7.5YR鈍い橙	底部丸底。外面底部ヘラ削り、外面口縁部横ナデ。内面全面ナデの後、中位より口縁部に掛けて斜放射状の丁寧なヘラ磨きだが、摩滅気味。	
第62図 No19 PL－84	土師器 杯	床直	口縁 底部 3/5	口16.4 底 高 7.6	①細粒砂 ②内外面側部黒斑 ③2.5YR明赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り、外面口縁部横ナデ。内面全面ナデの後、中位より口縁部に掛けて斜放射状の丁寧なヘラ磨き。	
第62図 No20 PL－84	土師器 杯	覆土	口縁 底部 4/5	口12.4 底 高 5.2	①細粒砂 ②外面底部黒斑 ③5YR明赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第62図 No21 PL－84	土師器 杯	床直	口縁 底部 3/5	口 9.8 底 高 7.1	①細粒砂 ②外面底部黒斑 ③5YR鈍い赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第62図 No22 PL－84	土師器 杯	床直	ほぼ 完形	口13.8 底 高 5.4	①細粒砂 ②外面側部黒斑 ③5YR赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第62図 No23 PL－84	土師器 杯	床直	ほぼ 完形	口12.4 底 高 5.2	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第62図 No24 PL－84	土師器 杯	覆土	ほぼ 完形	口12.2 底 高 6.0	①細粒砂 ②外面口縁部黒斑 ③2.5YR橙	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第62図 No25 PL－84	土師器 杯	覆土	ほぼ 完形	口12.4 底 高 5.5	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第62図 No26 PL－84	土師器 杯	覆土	口縁 底部 4/5	口13.0 底 高 6.5	①細粒砂 ②内面底部黒斑 ③2.5YR鈍い赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第62図 No27 PL－84	土師器 杯	覆土	ほぼ 完形	口12.2 底 高 4.6	①細粒砂 ②外面底部黒斑 ③2.5YR橙	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第62図 No28 PL－84	土師器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口13.0 底 高 6.5	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR鈍い赤橙	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第62図 No29 PL－84	土師器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口11.6 底 高 5.5	①細粒砂 ②外面底部黒斑 ③2.5YR明赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第62図 No30 PL－84	土師器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口11.6 底 高 5.6	①細粒砂 ②外面底部黒斑 ③5YT橙	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第63図 No31 PL－85	土師器 杯	床直	口縁 底部 4/5	口11.4 底 高 5.1	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR鈍い赤橙	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第63図 No32 PL－85	土師器 杯	覆土	ほぼ 完形	口12.6 底 高 5.7	①細粒砂 ②外面底部黒斑 ③5YR橙	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第63図 No33 PL－85	土師器 杯	覆土	口縁 底部 4/5	口14.4 底 高 5.7	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	

A区32号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第63図 No34 ＰＬ－85	土師器 杯	床直	口縁 底部 4/5	口16.8 底 高　8.5	①細粒砂 ②酸化焔 ③10R赤	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第63図 No35 ＰＬ－85	土師器 杯	覆土	口縁 底部 4/5	口15.6 底　2.5 高　8.4	①細粒砂 ②外全面黒斑 ③2.5YR鈍い赤褐	底部肉厚平底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第63図 No36 ＰＬ－85	土師器 鉢	覆土	口縁 底部 4/5	口12.4 底　2.0 高　7.4	①細粒砂 ②外面底部黒斑 ③2.5YR鈍い赤褐	肉厚気味、底部平底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面全面ナデ。	
第63図 No37 ＰＬ－85	土師器 無頸壺	覆土	口縁 底部 3/5	口11.2 底　6.4 高　9.1	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	底部肉厚平底気味。口縁部に外径６mm・内径４mmの穿孔。外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	小形のため本文掲載は1/3縮尺
第63図 No38 ＰＬ－85	土師器 蓋	床直	上部 2/5	口 天　4.2 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR橙	外全面ヘラ削り、内全面ナデ。天外面木葉痕。	天外面拓本
第63図 No39 ＰＬ－85	土師器 高坏	竈支脚	ほぼ 完形	口14.2 底10.6 高　9.7	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5R赤褐	杯部外面はヘラ削り、外面口縁部横ナデ。杯部内面は全面ナデの後、中位より口縁部に掛けて斜放射状のヘラ磨き。脚部内外面共ナデ。	
第63図 No40 ＰＬ－85	土師器 甕	覆土	口縁 底部 3/5	口13.6 底　6.4 高18.8	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	底部平底。口縁部は模倣杯状の形態を成す。外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第63図 No41 ＰＬ－85	土師器 甕	覆土	ほぼ 完形	口13.0 底 高17.7	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄褐	底部肉厚丸底。胴部成形・調整は粗雑。外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第63図 No42 ＰＬ－85	土師器 甕	貯蔵穴	ほぼ 完形	口15.2 底　7.1 高19.1	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR鈍い赤褐	底部肉厚平底。外面胴部下方向のヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第63図 No43 ＰＬ－86	土師器 甕	覆土	口縁 1/5	口18.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部外面刷毛目、内面に横方向の弱い刷毛目。口唇部内外面横ナデ。	
第63図 No44 ＰＬ－86	土師器 甕	掘り方	口縁 胴 3/5	口14.6 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第63図 No45 ＰＬ－87	土師器 甕	覆土	口縁 胴 3/5	口17.4 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	外面胴部上位は斜め下方向のヘラ削り後に斜め上方向に粗いヘラ削り、胴部下位は横方向のヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面胴部横ナデ、粘土輪積痕残る。	
第64図 No46 ＰＬ－87	土師器 甕	覆土	口縁 胴 2/5	口19.6 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第64図 No47 ＰＬ－86	土師器 甕	竈	ほぼ 完形	口15.6 底　7.7 高30.4	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	底部肉厚平底。外面胴部上半面に弱い刷毛目、下半面はヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第64図 No48 ＰＬ－86	土師器 甑	覆土	口縁 底部 4/5	口25.2 底10.3 高32.2	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	外面胴部上半面弱い刷毛目、下半面下方向のヘラ削り。内面胴部全面にヘラ磨き。口縁部外面横ナデ、内面に弱い刷毛目。	
第63図 No49 ＰＬ－86	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口21.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	外面体部にヘラ削りによる弱い刷毛目が残る。内面体部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第64図 No50 ＰＬ－86	土師器 甕	覆土	口縁 胴 3/5	口27.2 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第63図 No51 ＰＬ－88	須恵器 甕	覆土	口縁 小片	口45.0 底 高	①細粒砂 ②還元焔 ③5YR黒	口縁部内外面共に叩きしめの後、横方向のナデ。	
第64図 No52 ＰＬ－87	須恵器 甕（小）	覆土	口縁 底部 4/5	口 底 高	①細粒砂 ②還元焔 ③灰白～灰	外面全面に叩き締め痕を残し、肩部に自然釉が架かる。内面全面ナデ。口縁部は段を有し、内外面横方向のナデを施す。頸部外面に窯印と思われる沈線文様を刻む。	

A区32号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第65図 No53 ＰＬ－87	須恵器 甕（大）	覆土	ほぼ 完形	口 底 高	①細粒砂 ②還元焔 ③灰白～灰	胴部外面は部分的に格子文様の叩き締めが残り、肩部全面に自然釉が架かる。胴部内面は全面にナデを施しており、部分的に僅かに青海波痕が残存する。口縁部は段を有し、外面に僅かに叩き締め痕を残し、内面全面ナデ調整、一部自然釉が架かる。	
第64図 No54 ＰＬ－87	須恵器 甕（大）	覆土	口縁 胴 3/5	口 底 高	①細粒砂 ②還元焔 ③灰白～灰	外面胴部は全面に格子文様の叩き締めを施し、肩部に自然釉が残る。内面胴部は全面丁寧なナデ調整。口縁部は段を有し外面に波状文を描き、内面はナデ調整を施す。	
第65図 No55 ＰＬ－88	石製模造品	覆土	完形	長　3.5 幅　2.1 厚　0.35	滑石	左側片が弧を描き、右側片が直線の平面で径２mmの穿孔を施す。横断面扁平。表裏に削痕有り。	重さ5.37g
第65図 No56 ＰＬ－88	砥石	覆土	完形	口　5.7 底　3.5 高	砥沢石	手持ち砥。上部に径４mmの穿孔。４面使用。各面に整形による削痕が残る。	重さ43.94g

A区34号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第66図 No１ ＰＬ－88	須恵器 蓋	覆土	口縁 底部 2/5	口13.1 底　8.3 高　4.8	①細粒砂 ②還元焔 ③2.5YR灰黄褐	ロクロ成形。底部・体部共に著しく摩滅。	
第66図 No２ ＰＬ－88	土師器 甕	床直	口縁 胴 小片	口15.2 底 高	①細砂粒 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	外面胴部上方向のヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	

A区35号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第68図 No１ ＰＬ－88	土師器 杯	竈	ほぼ 完形	口12.1 底 高　4.15	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口唇部内外面横ナデ。内面体部斜方向のヘラ磨き。	
第68図 No２ ＰＬ－88	土師器 杯	覆土	口縁 底部 2/5	口12.1 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR鈍い褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り。内面ナデの後、体部に斜放射状のヘラ磨き。口縁部内外面横ナデ。	
第69図 No３ ＰＬ－88	土師器 杯	竈	口縁 底部 2/5	口12.8 底 高　4.2	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面体部斜放射状のヘラ磨き。	
第69図 No４ ＰＬ－88	土師器 杯	覆土	口縁 底部 2/5	口12.6 底 高　4.15	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR黒	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面体部斜放射状のヘラ磨き。	
第69図 No５ ＰＬ－88	土師器 杯	竈	口縁 底部 4/5	口14.1 底 高　5.2	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面体部斜方向のヘラ磨き。	
第69図 No６ ＰＬ－88	土師器 杯	竈	口縁 底部 4/5	口12.5 底 高　6.05	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面体部斜方向のヘラ磨き。	
第70図 No７ ＰＬ－88	土師器 杯	覆土 堀方	口縁 底部 3/5	口13.7 底 高　5.4	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面体部斜方向のヘラ磨き。	
第70図 No８ ＰＬ－88	土師器 杯	覆土 堀方	口縁 底部 2/5	口11.1 底 高　5.5	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面ナデ。	
第70図 No９ ＰＬ－88	土師器 杯	覆土	口縁 底部 1/5	口14.7 底 高　5.05	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り。内面ナデの後、体部に斜放射状のヘラ磨き。口縁部内外面横ナデ。	
第70図 No10 ＰＬ－88	土師器 杯	竈	完形	口11.4 底 高　6.0	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR赤褐	外面底部ヘラ削り。内面底部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第70図 No11 ＰＬ－88	土師器 杯	竈	ほぼ 完形	口12.9 底 高　6.0	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面底部ナデ。口縁部内外面横ナデと思われるが全体的に摩滅気味。	
第70図 No12 ＰＬ－88	土師器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口11.3 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部ヘラ削り。内面底部ナデ後、粗いヘラ磨き。口縁部内外面横ナデ。	

A区35号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第70図 No13 PL−88	土師器 杯	覆土	口縁 底部 1/5	口 14.85 底 高 5.45	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	底部丸底。外面底部ヘラ削り。内面底部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第70図 No14 PL−89	土師器 甕	覆土	口縁 底部 4/5	口 15.8 底 4.2 高 30	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	口縁①，底部②個々に写真掲載
第70図 No15 PL−88	石製模造品	覆土	ほぼ 完形	長 2.35 幅 2.4 高 0.4	滑石	ほぼ円形の平面で径約2mmの2穴の穿孔。横断面扁平。表裏に削痕。	重さ3.47g

A区36号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第72図 No1 PL−89	土師器 鉢	竈	口縁 底部 3/5	口 13.8 底 高 9.7	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	外面胴部縦方向のヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第72図 No2 PL−89	土師器 甕	竈	口縁 胴部 1/5	口 16.6 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	外面胴部縦方向のヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	

A区10号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第74図 No1 PL−89	土師器 杯	覆土	ほぼ 完形	口 12.6 底 高 3.3	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	外面底部ヘラ削り。内面ナデ、底部から体部に指頭痕。口縁部内外面横ナデ。	内面体部煤付着
第74図 No2 PL−89	土師器 杯	竈	口縁 底部 2/5	口 13.5 底 10.8 高 3.2	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	外面底部ヘラ削り。内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第74図 No3 PL−89	土師器 杯	覆土	口縁 底部 1/5	口 12.2 底 9.4 高 2.3	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR明褐	外面底部ヘラ削り。内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第74図 No4 PL−89	須恵器 杯	覆土	ほぼ 完形	口 12.6 底 7.3 高 3.8	①粗粒砂 ②還元焔 ③5YR灰白	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。外面底部に回転糸切り痕。	
第74図 No5 PL−89	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口 22.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	

A区12号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第76図 No1 PL−89	土師器 杯	覆土	ほぼ 完形	口 12.2 底 4.1 高 3.3	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面ナデ、底部から体部に掛けて指頭痕を残す。口唇部内外面横ナデ。	
第76図 No2 PL−89	土師器 杯	竈	ほぼ 完形	口 11.85 底 8.4 高 3.1	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い褐	外面底部ヘラ削り。内面ナデ。口唇部内外面横ナデ。	
第76図 No3 PL−89	土師器 杯	床直	口縁 小片	口 10.4 底 6.0 高 3.2	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い褐	体部は浅い窪みを有し、内側に僅か湾曲する。外面底部ヘラ削り。内面横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第76図 No4 PL−89	土師器 杯	床下 土坑	口縁 底部 1/5	口 12.1 底 高 2.5	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面ナデ。口唇部内外面横ナデ。	底部外面に墨書
第76図 No5 PL−89	須恵器 杯	床直	口縁 底部 3/5	口 12.3 底 6.2 高 3.3	①粗粒砂 ②還元焔 ③N5灰	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。外面底部に回転糸切り痕僅か残す。	
第76図 No6 PL−90	土師器 杯	覆土	小片	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	内面に墨書らしき有機質の黒線。	
第76図 No7 PL−90	土師器 杯	覆土	小片	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	底部内外面に墨書	
第76図 No8 PL−89	土師器 甕	掘り方 床下 土坑	口縁 小片	口 18.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	口縁部内外面横ナデ。	

A区12号竪穴住居跡

図 番 号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第76図 No９ ＰＬ−89	土師器 甕	堀方	口縁 小片	口20.2 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部ヘラ削り。内面ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第76図 No10 ＰＬ−90	土師器 甕	竈	口縁 小片	口20.1 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第76図 No11 ＰＬ−90	紡錘車	ピッ ト１ 覆土	1/2	高　2.4 径　4.6	蛇紋岩	上面に削痕。下面は部分的に欠損。側面に整形痕を残す。	重さ22.35g

A区15号竪穴住居跡

図 番 号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第77図 No１ ＰＬ−90	土師器 杯	覆土	ほぼ 完形	口12.5 底　8.8 高　3.3	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	外面底部ヘラ削り。内面ナデ、底部から体部に指頭痕。口縁部内外面横ナデ。	
第77図 No２ ＰＬ−90	土師器 杯	覆土	口縁 小片	口12.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	外面底部ヘラ削り。内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第77図 No３ ＰＬ−90	土師器 杯	覆土	口縁 底部 1/5	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	外面底部ヘラ削り。内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第77図 No４ ＰＬ−90	土師器 甕	甕	口縁 小片	口20.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR赤褐	外面胴部ヘラ削り。内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
No５ ＰＬ−90	土師器 甕	甕	底部 小片	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	底部外面に籾痕を残す	写真掲載のみ。

A区16号竪穴住居跡

図 番 号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第78図 No１ ＰＬ−90	土師器 杯	覆土	ほぼ 完形	口11.7 底10.2 高　3.3	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い褐	口縁非水平。外面底部ヘラ削り、口縁部横ナデ。内面全面横ナデ、底部に指頭痕。	
第78図 No２ ＰＬ−90	土師器 杯	堀方	口縁 底部 4/5	口12.4 底　9.7 高　3.2	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り、口縁部横ナデ。内面全面横ナデ、底部に指頭痕。	
第78図 No３ ＰＬ−90	土師器 杯	床直	口縁 底部 4/5	口12.4 底　9.0 高　3.25	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い褐	口縁非水平。外面底部から体部に掛けてヘラ削り、口唇部横ナデ。内面全面横ナデ、底部から体部に掛けて指頭痕。	
第78図 No４ ＰＬ−90	土師器 杯	堀方	口縁 底部 2/5	口11.2 底10.0 高　3.0	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い褐	外面底部ヘラ削り。内面横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第78図 No５ ＰＬ−90	土師器 杯	堀方	口縁 底部 1/5	口10.8 底　8.0 高　3.35	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	外面底部ヘラ削り。内面横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	内面に煤付着。
第78図 No６ ＰＬ−90	土師器 杯	堀方	口縁 底部 1/5	口11.6 底　8.8 高　3.2	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い褐	外面底部ヘラ削り。内面横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第78図 No７ ＰＬ−90	灰釉陶器 椀	覆土	口縁 小片	口 底 高	①細粒砂 ②還元焔 ③2.5Y灰黄	ロクロ成形。体部外面に施釉。	
第78図 No８ ＰＬ−90	灰釉陶器 椀	覆土	口縁 小片	口 底 高	①細粒砂 ②還元焔 ③2.5Y灰黄	ロクロ成形。口唇部は僅か外反し、内面に施釉。	
第78図 No９ ＰＬ−90	灰釉陶器 椀	覆土	口縁 小片	口 底 高	①細粒砂 ②還元焔 ③2.5Y灰黄	ロクロ成形。内面に施釉。	
第79図 No10 ＰＬ−90	土師器 甕	竈	ほぼ 完形	口20.6 底　3.7 高28.3	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第79図 No11 ＰＬ−91	土師器 甕	竈	ほぼ 完形	口21.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	

A区16号住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第78図 No12 PL－91	砥石	覆土	部分 3/5	長(10.9) 幅　4.7 厚　2.6	砥沢石	置き砥。4面使用。端部欠損。	重さ230.04g

A区19号竪穴住居跡

第80図 No1 PL－91	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口20.2 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第80図 No2 PL－91	土師器 甕	竈	口縁 小片	口21.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部にヘラナデの跡を残す。口縁部内外面横ナデ。	

A区22号竪穴住居跡

第81図 No1 PL－91	土師器 杯	竈	口縁 底部 1/5	口14.0 底 高　3.0	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	外面底部ヘラ削り。内面底部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第81図 No2 PL－91	土師器 杯	覆土	口縁 底部 1/5	口12.6 底 高　3.1	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR橙	外面底部ヘラ削り。内面底部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第81図 No3 PL－91	土師器 杯	竈	口縁 底部 小片	口 底 高　3.8	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い褐	外面底部ヘラ削り。内面底部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第81図 No4 PL－91	灰釉陶器 皿	覆土	底部 小片	口 底　6.2 高　1.5	①細粒砂 ②還元焔 ③2.5YR灰白	ロクロ成形。回転ヘラ削り。三日月条高台は稜を持つ。内面体部に施釉。	光ヶ丘1号 窯式期

A区24号竪穴住居跡

第82図 No1 PL－91	土師器 杯	貯蔵 穴	底部 小片	口 底　5.7 高　1.7	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。底部に回転糸切り痕を僅か残す。	
第82図 No2 PL－91	土師器 杯	床直	口縁 小片	口12.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面底部ナデ。	
第82図 No3 PL－91	須恵器 杯	床下 土坑	底部 小片	口 底　7.6 高　2.6	①細粒砂 ②還元焔 ③5YR灰白	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。底部に回転糸切り痕を僅か残す。	底部拓本
第83図 No4 PL－91	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口21.5 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR明褐	外面胴部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面胴部ヘラナデ。	
第83図 No5 PL－91	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口16.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	外面胴部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面胴部ナデ。	

A区26号竪穴住居跡

第84図 No1 PL－91	土師器 杯	覆土	口縁 底部 1/5	口12.7 底　5.0 高　2.7	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い褐	外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面底部ナデ。	

A区27号竪穴住居跡

第85図 No1 PL－91	土師器 杯	堀方	ほぼ 完形	口11.4 底　9.0 高　3.0	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	底部に歪み。外面底部ヘラ削り。内面底部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第85図 No2 PL－91	土師器 杯	覆土	完形	口11.4 底　8.0 高　3.4	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	底部に歪み。外面底部ヘラ削り。内面横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第85図 No3 PL－91	土師器 杯	覆土	口縁 小片	口11.6 底　8.4 高　3.1	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	外面底部ヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面ナデ。	
第85図 No4 PL－91	土師器 椀	堀方	口縁 底部 2/5	口15.0 底　4.0 高　5.5	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い橙	底部肉厚平底。外面上半面ロクロ痕、下半面ヘラ削り。内面黒色処理を施し、全面ヘラ磨き。	
第85図 No5 PL－91	須恵器 杯	床直	口縁 底部 3/5	口12.7 底　6.2 高　3.7	①粗粒砂 ②還元焔 ③2.5YR灰黄	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。外面底部に僅かに回転糸切り痕を残す。	

A区27号竪穴住居跡

図 番 号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第86図 No6 PL−91	須恵器 杯	覆土	口縁 底部 2/5	口13.0 底 6.2 高 3.7	①粗粒砂 ②還元焔 ③10YR鈍い黄橙	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。外面底部に回転糸切り痕を残す。	
第86図 No7 PL−91	須恵器 皿	床直	口縁 底部 2/5	口14.4 底 8.0 高 3.2	①粗粒砂 ②還元焔 ③5Y灰	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。付け高台。外面底部に僅かに回転糸切り痕を残す。	
第85図 No8 PL−91	須恵器 椀	覆土	口縁 小片	口12.0 底 高	①細粒砂 ②還元焔 ③10YR鈍い黄橙	ロクロ成形。口唇部僅かに外反する。	
第85図 No9 PL−91	灰釉陶器 皿	覆土	口縁 小片	口16.0 底 高	①細粒砂 ②還元焔 ③7.5YR灰	ロクロ成形。口唇部外反、体部内外に施釉。	
第86図 No10 PL−92	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口19.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第86図 No11 PL−91	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口11.0 底 高	①細粒砂 ②粗粒砂 ③5YR鈍い赤褐	外面底部ヘラ削り。内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第86図 No12 PL−92	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口20.2 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第86図 No13 PL−91	土製 土垂	覆土	ほぼ 完形	長 4.5 幅 2.55 孔 0.5	焼物	全出土例の中では太い土錘。質は土師器質。端部一部欠損。	

A区28号竪穴住居跡

第88図 No1 PL−92	土師器 杯	竈	口縁 底部 1/5	口12.7 底 7.6 高 3.2	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い褐	体部は強いナデにより僅か内側に湾曲する。外面底部ヘラ削り。内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第88図 No2 PL−92	土師器 甕	堀方	口縁 小片	口21.8 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面にヘラ削りが認められ、口縁部は内外面横ナデ。	
第88図 No3 PL−92	土師器 甕	堀方	口縁 1/5	口22.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第88図 No4 PL−92	土師器 甕	覆土	口縁 1/5	口20.9 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部ヘラ削り。コの字状口縁部に等間隔に斜方向のヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第88図 No5 PL−92	土師器 甕	覆土	口縁 1/5	口20.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第88図 No6 PL−92	土師器 甕	覆土	口縁 1/5	口17.1 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	

A区30号竪穴住居跡

第90図 No1 PL−92	土師器 杯	堀方	口縁 底部 3/5	口12.9 底10.7 高 3.1	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR明赤褐	外面底部から体部に掛けてヘラ削り、口唇部横ナデ。内面横方向のナデ。	
第90図 No2 PL−92	須恵器 椀	床直	底部 2/5	口 底 6.3 高 4.3	①細粒砂 ②還元焔 ③2.5YR灰黄	ロクロ成形。付け高台下端部は平坦。回転糸切り後、ナデ。	
第90図 No3 PL−92	灰釉陶器 椀	覆土	口縁 小片	口14.6 底 高	①細粒砂 ②還元焔 ③2.5Y灰白	ロクロ成形。体部内外面に施釉。	

A区33号竪穴住居跡

第92図 No1 PL−92	土師器 杯	覆土	口縁 小片	口12.0 底 高	①細砂粒 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い褐	外面体部ヘラ削り。内面体部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	

A区33号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第92図 No2 PL−92	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口22.2 底 高	①細砂粒 ②酸化焔 ③5YR鈍い橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	

B区1号竪穴住居跡

第94図 No1 PL−92	紡錘車	床下 土坑	部分	高 (0.8) 径 3.8	頁岩	上面一部欠損。下面全欠損。	重さ12.14g
第94図 No2 PL−92	土師器 杯	床下 土坑	口縁 底部 4/5	口11.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	外面底部ヘラ削り。内面底部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第94図 No3 PL−92	須恵器 杯	覆土	底部 胴	口 底 6.6 高	①粗粒砂 ②還元焔 ③N灰	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。底部外面に回転糸切り痕を残す。	底部拓本
第94図 No4 PL−92	須恵器 椀か	覆土	底部 胴 2/5	口 底 7.0 高	①細粒砂 ②還元焔 ③2.5YR鈍い黄	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。付け高台下端部平坦。底部外面に回転糸切り痕を僅か残す。	
第94図 No5 PL−92	須恵器 椀	覆土	口縁 底部 2/5	口14.4 底 7.0 高 6.5	①細粒砂 ②還元焔 ③7.5YR灰	ロクロ成形。外面体部にロクロ痕。付け高台下端部平坦。外面底部に僅かに回転糸切り痕を残す。	底部拓本
第94図 No6 PL−92	須恵器 椀	床下 土坑	口縁 底部 2/5	口13.0 底 7.0 高 6.9	①粗粒砂 ②還元焔 ③7.5灰	ロクロ成形。外面体部にロクロ痕。付け高台下端部平坦。外面底部中央に回転糸切り痕を残す。	
第94図 No7 PL−92	土師器 甕	床下 土坑	口縁 小片	口17.9 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR褐	外面胴部横方向のヘラ削り。内面胴部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第94図 No8 PL−92	鉄	覆土	塊	長 5.8 厚 7.8 重 149g	鉄製	不明	

B区2号竪穴住居跡

第95図 No1 PL−93	土師器 杯	覆土	口縁 底部 1/5	口11.0 底 5.9 高 3.9	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	ロクロ成形。外面体部にロクロ痕。付け高台の調整は粗雑。外面底部中央に僅かに回転糸切り痕を残す。	底部拓本
第95図 No2 PL−93	須恵器 杯	覆土	ほぼ 完形	口12.8 底 6.0 高 4.3	①細粒砂 ②酸化焔・還元焔 ③10YR鈍い黄橙	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。糸切り後ナデ、底部に僅かに回転糸切り痕を残す。	
第95図 No3 PL−93	須恵器 椀	覆土	口縁 底部 3/5	口15.6 底 7.8 高 5.4	①粗粒砂 ②還元焔 ③N灰	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。付け高台。外面底部に回転糸切り痕を僅か残す。	
第95図 No4 PL−93	須恵器 椀	覆土	口縁 底部 3/5	口14.8 底 7.1 高 5.4	①粗粒砂 ②還元焔 ③5Y灰	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。付け高台。外面底部に回転糸切り痕を僅か残す。	
第95図 No5 PL−93	須恵器 椀	覆土	口縁 底部 1/5	口14.0 底 5.8 高 5.0	①粗粒砂 ②還元焔 ③2.5YR灰白	ロクロ成形。外面体部にロクロ痕。外面底部に回転糸切り痕を僅か残す。	
第95図 No6 PL−93	須恵器 椀	覆土	底部 胴 2/5	口 底 5.7 高 2.8	①粗粒砂 ②還元焔 ③2.5YR灰白	ロクロ成形。成形時ロクロ左回転。付け高台の調整は粗雑。外面底部に回転糸切り痕を僅か残す。	底部拓本
第95図 No7 PL−93	須恵器 椀	覆土	底部 胴 2/5	口 底 5.6 高	①粗粒砂 ②還元焔 ③2.5YR鈍い黄	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。外面体部にロクロ痕。付け高台。外面底部に回転糸切り痕を僅か残す。	
第96図 No8 PL−93	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口11.8 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ナデ、頸部に刷毛目調整。口縁部内外面横ナデ。	
第96図 No9 PL−93	土師器 甕	覆土	口縁 胴 1/5	口22.2 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR橙	頸部に輪積痕を残す。外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第96図 No10 PL−93	土師器 甕	竈	口縁 胴 2/5	口20.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR明黄褐	胴部は丸く膨らむ。外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラ磨き。口縁部内外面横ナデ。	

B区２号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第96図 No11 ＰＬ－93	土師器 甕	竈	口縁 胴 3/5	口20.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第96図 No12 ＰＬ－93	鉄鏃	覆土	茎 3/5	長 (8.4) 幅 0.5 重	鉄製	先端欠損。茎は残存する箇所で長さ２cm、一辺0.3cmを測る。	

D区６号竪穴住居跡

第97図 No１ ＰＬ－93	土師器 杯	覆土	完形	口13.1 底 高 2.2	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面磨き、底部から体部に指頭痕。口縁部内外面横ナデ。	
第97図 No２ ＰＬ－93	土師器 杯	床直	ほぼ 完形	口12.2 底 9.9 高 3.2	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第97図 No３ ＰＬ－93	土師器 杯	竈	口縁 底部 3/5	口12.4 底 高 3.1	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	外面底部ヘラ削り。内面ナデ、底部から体部に指頭痕。口縁部内外面横ナデ。	
第97図 No４ ＰＬ－93	土師器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口11.9 底10.2 高 3.05	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い橙	外面底部ヘラ削り。内面横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第97図 No５ ＰＬ－93	土師器 杯	覆土	口縁 底部 2/5	口16.5 底10.4 高 3.0	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第98図 No６ ＰＬ－94	須恵器 杯	床直	ほぼ 完形	口11.6 底 6.9 高 3.55	①細粒砂 ②還元焔 ③N灰5/	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。回転ヘラ切り、外面底部無調整。	
第98図 No７ ＰＬ－94	須恵器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口12.2 底 7.2 高 3.0	①細粒砂 ②還元焔 ③5YR灰	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。外面体部に墨書。外面底部に僅かに回転糸切り痕を残す。	
第98図 No８ ＰＬ－94	土師器 甕	竈	口縁 小片	口20.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	外面胴部斜方向のヘラ削り。内面胴部横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第98図 No９ ＰＬ－94	土師器 甕	竈	口縁 小片	口24.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第98図 No10 ＰＬ－94	土師器 甕	竈	口縁 胴 2/5	口21.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	外面胴部斜方向のヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第98図 No11 ＰＬ－94	土師器 甕	竈	口縁 底部 4/5	口23.0 底 4.8 高27.5	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR橙	外面胴部斜方向のヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	

D区７号竪穴住居跡

第99図 No１ ＰＬ－95	土師器 杯	床直	口縁 底部 4/5	口12.6 底 9.3 高 3.3	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ、体部に指頭痕。口縁部内外面横ナデ。	底部内外面に「○」の墨書。
第99図 No２ ＰＬ－95	土師器 甕か	竈	小片	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	内面に墨書らしき黒線が認められる。	墨書土器
第99図 No３ ＰＬ－94	須恵器 杯	竈	口縁 底部 2/5	口13.2 底 高 3.6	①粗粒砂 ②還元焔 ③N灰	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。外面底部に回転糸切り痕。	
第100図 No４ ＰＬ－94	土師器 甕	竈	口縁 胴 1/5	口20.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第100図 No５ ＰＬ－94	土師器 甕	床直	口縁 胴 1/5	口21.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第100図 No６ ＰＬ－94	土師器 甕	住居 覆土	口縁 胴 1/5	口21.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	

D区７号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第100図 No７ ＰＬ－95	土師器 甕	覆土	口縁 胴 2/5	口21.5 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	

D区８号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第102図 No１ ＰＬ－95	土師器 杯	覆土	口縁 底部 2/5	口12.2 底 高　3.4	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	外面底部ヘラ削り。内面底部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第102図 No２ ＰＬ－95	土師器 杯	床直	口縁 底部 4/5	口12.2 底 高　3.5	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面底部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第102図 No３ ＰＬ－95	土師器 甕	竈	口縁 小片	口19.4 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部横方向のヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第102図 No４ ＰＬ－95	土師器 甕	竈	口縁 小片	口19.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部横方向のヘラ削り。内面胴部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第102図 No５ ＰＬ－95	石製 模造品	覆土	完形	長　2.3 幅　2.35 厚　0.35	滑石	円形気味の平面で２穴の穿孔。断面扁平。表裏に削痕を残す。	重さ3.19g

D区９号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第104図 No１ ＰＬ－95	土師器 杯	覆土	ほぼ 完形	口12.0 底　9.0 高　3.7	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR橙	外面底部ヘラ削り。内面ナデ。口唇部内外面横ナデ。	外面底部に 「○」の墨書
第103図 No２ ＰＬ－95	土師器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口12.0 底　9.5 高　3.95	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い褐	外面底部ヘラ削り。内面横方向のナデ、体部に指頭痕。口縁部内外面横ナデ。	
第103図 No３ ＰＬ－95	土師器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口12.2 底　9.0 高　3.15	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	外面底部ヘラ削り。内面ナデ。体部内外面に指頭痕を残す。口唇部内外面横ナデ。	
第103図 No４ ＰＬ－95	土師器 杯	覆土	口縁 底部 2/5	口11.0 底　9.6 高　3.3	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR褐	外面底部ヘラ削り。内面横方向のナデ、底部から体部に掛けて指頭痕。口縁部内外面横ナデ。	外面底部に 「○」の墨書
第104図 No５ ＰＬ－95	土師器 杯	覆土	口縁 底部 2/5	口11.8 底　8.5 高　3.4	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	外面底部ヘラ削り。内面ナデ。口唇部内外面横ナデ。	
第104図 No６ ＰＬ－95	土師器 杯	覆土	口縁 底部 1/5	口11.65 底　9.2 高　2.3	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	外面底部ヘラ削り。内面ナデ。口唇部内外面横ナデ。	
第104図 No７ ＰＬ－95	土師器 杯	覆土	底部 小片	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	外面底部ヘラ削り。内面底部に墨書。	墨書土器
第104図 No８ ＰＬ－95	土師器 杯	覆土	底部 小片	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	内面底部に墨書。	墨書土器
第104図 No９ ＰＬ－95	須恵器 杯	床直	口縁 底部 3/5	口11.6 底　7.0 高　3.5	①粗粒砂 ②還元焔 ③N7灰白	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。外面底部に回転糸切り痕を残す。	
第104図 No10 ＰＬ－95	須恵器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口12.7 底　6.0 高　3.6	①粗粒砂 ②還元焔 ③5Y灰	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。外面底部に回転糸切り痕を残す。	
第104図 No11 ＰＬ－96	須恵器 鉢	覆土	底部 胴 1/5	口 底　8.8 高	①細粒砂 ②還元焔 ③7.5Y灰	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。付け高台は幅広・扁平。外面体部及び内面底部に部分的に自然釉付着。外面底部に回転糸切り痕僅かに残す。	
第104図 No12 ＰＬ－96	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口13.4 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第104図 No13 ＰＬ－96	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口18.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	

D区９号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第104図 No14 ＰＬ−96	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口20.1 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第104図 No15 ＰＬ−96	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口20 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第104図 No16 ＰＬ−96	土師器 甕	覆土	口縁 胴 1/5	口21.6 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	

D区10号竪穴住居跡

第105図 No１ ＰＬ−96	土師器 杯	覆土	口縁 底部 3/5	口12.0 底 高 2.9	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	外面底部ヘラ削り。内面横方向のナデ、底部から体部に掛けて指頭痕を残す。口縁部内外面横ナデ。	
第105図 No２ ＰＬ−96	土師器 甕	竈	口縁 小片	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	

D区11号竪穴住居跡

第107図 No１ ＰＬ−96	土師器 杯	覆土	口縁 小片	口12.2 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	外面底部ヘラ削り。内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第107図 No２ ＰＬ−96	土師器 甕	竈	口縁 小片	口22.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	小破片のため、内面頸部を基準線とする。
第107図 No３ ＰＬ−96	土師器 甕	竈	口縁 小片	口19.9 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。デ。	

A区５号竪穴住居跡

第108図 No１ ＰＬ−96	須恵器 椀	住居 堀方 覆土	口縁 底部 4/5	口13.2 底 8.0 高 5.3	①細粒砂 ②還元焔 ③10YR鈍い黄橙	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。付け高台下端部はやや丸みを帯びる。底部に回転糸切り痕を僅か残す。	
第108図 No２ ＰＬ−96	須恵器 椀	竈	口縁 底部 1/5	口13.0 底 6.8 高 4.6	①細粒砂 ②酸化焔・還元焔 ③10YR鈍い黄橙	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。付け高台下端部は平坦。底部に回転糸切り痕僅か残す。	底部拓本
第108図 No３ ＰＬ−96	須恵器 椀	覆土	底部 1/5	口 底 7.6 高	①細粒砂 ②還元焔 ③2.5YR灰黄	上部欠損。ロクロ成形。付け高台下端部は平坦、底部中央に回転糸切り痕を残す。高台底部は硯に転用される。	
第109図 No４ ＰＬ−96	灰釉陶器 椀	覆土	口縁 底部 3/5	口17.0 底 8.5 高 5.8	①細粒砂 ②還元焔 ③7.5Y灰白	輪花椀。ロクロ成形。口縁部内外に漬け掛け施釉。三日月状高台は丸味を帯びる。	大原２号窯式期
第109図 No５ ＰＬ−96	灰釉陶器 皿	竈	口縁 底部 1/5	口12.8 底 7.0 高 2.0	①細粒砂 ②還元焔 ③5YR灰白	ロクロ成形。角高台。体部内外面に施釉。	光ヶ丘１号窯式期
第109図 No６ ＰＬ−96	灰釉陶器 皿	床直	底部 1/5	口 底 7.4 高	①細粒砂 ②還元焔 ③2.5YR灰黄	ロクロ成形。角高台。体部内面に施釉。	光ヶ丘１号窯式期
第091図 No７ ＰＬ−96	灰釉陶器 椀	覆土	底部 小片	口 底 8.8 高	①細粒砂 ②還元焔 ③2.5YR灰白	ロクロ成形。三日月状高台は稜を持つ。内面体部に施釉。	光ヶ丘１号窯式期
第109図 No８ ＰＬ−97	灰釉陶器 椀	覆土	口縁 小片	口 底 高	①細粒砂 ②還元焔 ③7.5灰白	ロクロ成形。内外面に施釉。	
第109図 No９ ＰＬ−96	灰釉陶器 椀	覆土	口縁 小片	口 底 高	①細粒砂 ②還元焔 ③7.5灰白	ロクロ成形。体部内外面に施釉。	
第109図 No10 ＰＬ−97	土師器 杯	竈	底部 小片	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	底部内外面に墨書。	墨書土器

A区５号竪穴住居跡

図 番 号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第109図 No11 ＰＬ－97	土師器 土垂	掘り 方	小片	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔・還元焔 ③2.5Y黄橙	片面・片側欠損。外面に成形痕。	
第110図 No12 ＰＬ－96	土師器 甕	床直	口縁 小片	口16.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第110図 No13 ＰＬ－96	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口19.1 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	

A区８号竪穴住居跡

図 番 号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第111図 No１ ＰＬ－97	須恵器 羽釜	床直	口縁 胴 小片	口22.0 底 高	①粗粒砂 ②酸化焔・還元焔 ③10YR鈍い黄橙	外面胴部下半面に粗い斜方向のヘラ削り。	
第111図 No２ ＰＬ－97	須恵器 羽釜	床直	口縁 胴 3/5	口22.1 底 高	①細粒砂 ②還元焔 ③2.5YR灰黄	外面胴部に輪積痕と斜め下方向のヘラ削り。内面胴部横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	

A区９号竪穴住居跡

図 番 号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第112図 No１ ＰＬ－97	須恵器 椀	床直	底部 小片	口 底　7.1 高　2.4	①粗粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	ロクロ成形。付け高台。	
第112図 No２ ＰＬ－97	須恵器 椀	覆土	口縁 胴 2/5	口16.4 底 高	①細粒砂 ②酸化焔・還元焔 ③10YR灰黄褐	ロクロ成形。外面体部に僅かなロクロ痕。口唇部僅かに外反。内面ナデ。	
第112図 No３ ＰＬ－97	灰釉陶器 手付瓶	覆土	底部 1/5	口 底10.8 高	①細粒砂 ②還元焔 ③2.5Y灰黄	ロクロ成形。底部は釉剥ぎされ、外面中央のみ円形状の釉を残す。底部内面に口縁部からの釉落ちを残す。	
第112図 No４ ＰＬ－97	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口22.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第112図 No５ ＰＬ－97	須恵器 羽釜	覆土	口縁 小片	口20.0 底 高	①粗粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄褐	外面胴部に輪積痕。内面胴部横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	

A区17号竪穴住居跡

図 番 号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第113図 No１ ＰＬ－97	灰釉陶器 椀	ピッ ト 覆土	底部 小片	口 底　7.7 高　1.75	①細粒砂 ②還元焔 ③2.5YR灰白	ロクロ成形。角高台。体部内面に施釉。	光ヶ丘１号 窯式期
第113図 No２ ＰＬ－97	須恵器 羽釜	竈	口縁 小片	口21.9 底 高	①粗粒砂 ②酸化焔・還元焔 ③7.5YR鈍い橙	外面胴部に輪積痕を残し、下方向のナデ。内面胴部及び口縁部内外面は横ナデ。	
第113図 No３ ＰＬ－97	須恵器 羽釜	覆土	口縁 小片	口18.5 底 高	①粗粒砂 ②還元焔 ③2.5YR灰白	外面胴部は縦方向のヘラナデ。内面胴部は横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第114図 No４ ＰＬ－97	須恵器 羽釜	竈	口縁 小片	口23.0 底 高	①粗粒砂 ②酸化焔 ③5Y灰オリーブ	外面胴部に輪積痕を残す。内面胴部及び口縁部内外面は横ナデ。	

A区18号竪穴住居跡

図 番 号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第115図 No１ ＰＬ－97	須恵器 杯	堀方	ほぼ 完形	口11.3 底　6.5 高　5.35	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR浅黄橙	ロクロ成形。口縁部非水平、器形も歪む。外面底部は摩滅し、回転糸切り痕を僅か残す。	
第115図 No２ ＰＬ－97	須恵器 椀	覆土	口縁 底部 小片	口15.4 底 高	①細粒砂 ②酸化焔・還元焔 ③10YR鈍い黄橙	ロクロ成形。体部内面黒色処理。	口縁①，底部② 個々に写真掲載
第115図 No３ ＰＬ－97	須恵器 椀	堀方	ほぼ 完形	口10.6 底　5.6 高　3.5	①粗粒砂 ②還元焔 ③2.5YR灰黄	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。外面底部に回転糸切り痕を残す。	
第115図 No４ ＰＬ－97	灰釉陶器 椀	掘り 方	底部 1/5	口 底　6.9 高　3.2	①細粒砂 ②還元焔 ③2.5YR灰白	ロクロ成形。回転ヘラ削り。三日月状高台は稜を持つ。体部内外面に施釉。	光ヶ丘１号 窯式期

A区18号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第115図 No5 PL－97	灰釉陶器 皿	掘り 方	底部 1/5	口 底 7.9 高 2.2	①細粒砂 ②還元焔 ③2.5YR灰白	ロクロ成形。回転ヘラ削り。角高台。内面全面に施釉。	黒笹14号 窯式期
第115図 No6 PL－98	灰釉陶器 椀	竈	口縁 小片	口 底 高	①細粒砂 ②還元焔 ③2.5Y灰黄	ロクロ成形。体部内外面に施釉。	
第116図 No7 PL－98	須恵器 羽釜	竈	ほぼ 完形	口20.3 底 高	①粗粒砂 ②酸化焔・還元焔 ③7.5YR鈍い褐	外面胴部は横方向のナデ、中位より下に粗い斜方向のヘラ削り。内面はナデを施す。	
第116図 No8 PL－98	須恵器 羽釜	堀方	口縁 小片	口25.1 底 高	①粗粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	外面口縁部及び鍔下は横方向のナデ、内面も横方向のナデ。	

A区20号竪穴住居跡

第117図 No1 PL－98	灰釉陶器 皿	覆土	底部 2/5	口 底 8.0 高	①細粒砂 ②還元焔 ③7.5Y灰白	ロクロ成形。回転ヘラ削り。三日月状高台は稜を持つ。体部内外面に施釉。	光ヶ丘1号 窯式期
第117図 No2 PL－98	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口19.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第117図 No3 PL－98	土師器 甕	床直	口縁 小片	口20.6 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第118図 No4 PL－98	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口23.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第118図 No5 PL－98	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口20.0 底 高	①細砂粒 ②酸化焔 ③5YR橙	口縁部内外面横ナデ。	
第118図 No6 PL－98	須恵器 羽釜	覆土	口縁 小片	口21.6 底 高	①粗粒砂 ②還元焔 ③5Y灰白	鍔部水平。外面胴部横方向のヘラ削り。口縁部内外面横ナデ。内面胴部横ナデ。	
第118図 No7 PL－98	須恵器 羽釜	床直	口縁 小片	口18.0 底 高	①粗粒砂 ②酸化焔・還元焔 ③7.5YR鈍い橙	外面胴部鍔下にロクロ痕を残す。内面胴部横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	

A区２１号竪穴住居跡

第120図 No1 PL－98	須恵器 杯	覆土 掘り 方	ほぼ 完形	口13.9 底 5.9 高 4.8	①粗粒砂 ②還元焔 ③2.5YR灰黄	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。糸切り後ナデ、底部に回転糸切り痕を僅か残す。	
第120図 No2 PL－98	須恵器 杯	覆土	口縁 底部 4/5	口13.9 底 6.4 高 3.6	①粗粒砂 ②還元焔 ③2.5YR黄灰	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。外面底部に回転糸切り痕を残す。	
第120図 No3 PL－98	須恵器 杯	覆土	底部 1/5	口 底 6.1 高 1.7	①細粒砂 ②還元焔・酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。外面底部に回転糸切り痕を僅か残す。	底部拓本
第120図 No4 PL－98	須恵器 椀	覆土	口縁 底部 4/5	口15.0 底 8.8 高 5.8	①粗粒砂 ②酸化焔・還元焔 ③7.5YR鈍い褐	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。付け高台下端部は丸味を帯びる。外面底部に回転糸切り痕を僅か残す。	
第120図 No5 PL－98	須恵器 椀	竈	口縁 底部 2/5	口14.0 底 6.6 高 6.0	①粗粒砂 ②還元焔 ③2.5YR灰黄	ロクロ成形。外面底部に僅かに回転糸切り痕を残す。	
第120図 No6 PL－98	須恵器 椀	覆土	口縁 底部 小片	口12.1 底 7.5 高 5.6	①細粒砂 ②酸化焔・還元焔 ③10YR灰黄褐	ロクロ成形。付け高台下端部は平坦。外面体部に僅かなロクロ痕。内面体部ナデ。	
第121図 No7 PL－98	灰釉陶器 椀	覆土 床下 土坑	口縁 底部 2/5	口17.4 底 8.0 高 5.7	①細粒砂 ②還元焔 ③5Y灰白	ロクロ成形。三日月状高台は稜を持つ。口唇部は僅かに外反し、体部内外面及び内面底部に施釉。	光ヶ丘1号 窯式期
第121図 No8 PL－98	灰釉陶器 皿	覆土	底部 1/5	口 底 6.6 高	①細粒砂 ②還元焔 ③7.5YR灰オリーブ	ロクロ成形。三日月条高台は稜を持つ。体部内外面及び内面底部に施釉。	光ヶ丘1号 窯式期

A区21号住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第121図 No9 PL－99	灰釉陶器 段皿	床直	口縁 小片	口17.0 底 高	①細砂粒 ②還元焔 ③5YR灰白	ロクロ成形。口唇部僅かに外反。体部内外面に施釉、内面に輪状重ね焼き痕を残す。	光ヶ丘1号窯式期
第121図 No10 PL－99	土師器 甕	床下 土坑	口縁 小片	口23.4 底 高	①細砂粒 ②酸化焔 ③5YR橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第121図 No11 PL－99	羽口	覆土	小片	口 底 高	①粗粒砂 ②酸化焔 ③10YR褐灰	円筒形。側面は還元され褐灰色化する。	
第121図 No12 PL－99	須恵器 皿	覆土	口縁 底部 2/5	口13.5 底 7.0 高 2.8	①粗粒砂 ②還元焔 ③2.5YR灰黄	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。付け高台。底部に回転糸切り痕を僅か残す。	

A区23号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第123図 No1 PL－99	須恵器 杯	堀方	ほぼ 完形	口11.5 底 4.8 高 4.4	①粗粒砂 ②還元焔 ③10YR鈍い黄橙	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。口唇部は全体的に不規則に歪むが、ほぼ等間隔に4カ所輪花椀を模したと思われる窪みを造る。外面底部に回転糸切り痕を僅か残す。	
第122図 No2 PL－99	須恵器 杯	堀方	口縁 底部 3/5	口10.9 底 5.6 高 3.65	①粗粒砂 ②還元焔 ③2.5YR暗灰黄	ロクロ成形。成形時ロクロ左回転。外面底部に回転糸切り痕を残す。	
第122図 No3 PL－99	灰釉陶器 椀	掘り 方	口縁 小片	口11.8 底 高	①細粒砂 ②還元焔 ③5YR灰白	ロクロ成形。体部内外面に施釉。	
第123図 No4 PL－99	須恵器 羽釜	床直	口縁 小片	口28.0 底 高	①粗砂粒 ②還元焔 ③10YR灰白	外面胴部に輪積痕を残す。口縁部内外面横及び胴部横ナデ。	
第123図 No5 PL－99	須恵器 羽釜	床直	口縁 小片	口19.6 底 高	①粗砂粒 ②酸化焔・還元焔 ③10YR明赤褐	外面胴部に輪積痕を残す。口縁部内外面横及び胴部横ナデ。	
第123図 No6 PL－99	土製 土垂	覆土	完形	長 4.05 幅 2.3 孔 0.75	焼物	全出土例の中では太い土錘。質は土師器質。	

A区31号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第125図 No1 PL－99	須恵器 椀	覆土	口縁 底部 3/5	口12.9 底 高	①細砂粒 ②還元焔・酸化焔 ③7.5鈍い褐	ロクロ成形。成形時ロクロ左回転。付け高台下端部は平坦。底部に回転糸切り痕を残す。	外面体部に墨跡
第125図 No2 PL－99	須恵器 椀	覆土	口縁 底部 2/5	口12.7 底 7.4 高 5.3	①粗粒砂 ②還元焔 ③10YR灰黄褐	ロクロ成形。成形時ロクロ左回転。付け高台下端部は丸味を帯びる。底部に回転糸切り痕を僅か残す。	
第124図 No3 PL－99	須恵器 椀	覆土	口縁 小片	口13.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔・還元焔 ③10YR灰黄褐	ロクロ成形。	
第124図 No4 PL－99	土師器 器形不明	覆土	小片	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い橙	外面に墨書。	

A区39号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第127図 No1 PL－99	須恵器 杯	竈	口縁 底部 2/5	口12.6 底 5.6 高 4.6	①粗粒砂 ②酸化焔・還元焔 ③7.5YR鈍い褐	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。体部中位に径3mmの円形穿孔。外面底部に回転糸切り痕を残す。	
第127図 No2 PL－99	須恵器 椀	竈	口縁 底部 3/5	口14.0 底 6.2 高 5.8	①細粒砂 ②還元焔 ③2.5YR灰黄	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。付け高台。底部に回転糸切り痕を僅か残す。	
第127図 No3 PL－99	須恵器 椀	竈	胴 底部 2/5	口 底 7.1 高 3.85	①細粒砂 ②酸化焔・還元焔 ③7.5YR鈍い橙	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。付け高台は歪みが激しい。外面底部中央に回転糸切り痕を残す。	底部拓本
第126図 No4 PL－99	土師器 甕	竈	口縁 胴 1/5	口21.9 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR灰白	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	

B区３号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第128図 No１ PL－99	灰釉陶器 椀	覆土	口縁 底部 2/5	口12.4 底 7.0 高 4.0	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR灰白	ロクロ成形。三日月状高台は丸味を帯びる。口唇部内外面に漬け施釉。	大原２号窯式期
第128図 No２ PL－99	須恵器 杯	覆土	口縁 小片	口16.4 底 高	①細粒砂 ②酸化焔・還元焔 ③10YR灰黄褐	ロクロ成形。外面体部にロクロ痕。内面体部ナデ。	
第128図 No３ PL－99	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口20.0 底 高 4.1	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	内面胴部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第128図 No４ PL－99	鎌	覆土	ほぼ 完形	長11.0 幅 2.5 厚 0.2	鉄製	刃部は湾曲し長さ15cmを測る。	

A区38号竪穴住居跡

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第129図 No１ PL－100	土師器 杯	覆土	口縁 小片	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面ナデの後、斜放射状のヘラ磨き。	
第129図 No２ PL－100	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	口縁部内外面横ナデ。	
第129図 No３ PL－100	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口24.0 底 高	①細砂粒 ②酸化焔 ③2.5YR橙	口縁部内外面横ナデ。	
第129図 No４ PL－100	土師器 杯	覆土	口縁 小片	口11.0 底 高	①細砂粒 ②酸化焔 ③5YR橙	外面底部ヘラ削り。内面体部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第129図 No５ PL－100	土師器 杯	覆土	口縁 小片	口12.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	外面底部ヘラ削り。内面横方向のナデの後、細く粗い縦方向のヘラ磨き。口縁部内外面横ナデ。	
第129図 No６ PL－100	須恵器 皿	覆土	口縁 2/5	口16.0 底 高	①細砂粒 ②還元焔 ③2.5YR暗灰黄	ロクロ成形。口唇部僅かに外反する。	

B区５号溝

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第142図 No１ PL－100	土師器 杯	覆土	口縁 底部 1/5	口12.0 底 高 2.6	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	外面底部ヘラ削り。内面底部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第142図 No２ PL－100	灰釉陶器 皿か	覆土	底部 小片	口 底 7.0 高 2.1	①細粒砂 ②還元焔 ③2.5YR灰黄	ロクロ成形。付け高台下端部は僅かに丸味を帯びる。底部に僅かな回転糸切り痕。	

D区１号溝

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第142図 No１ PL－100	土製 土垂	覆土	ほぼ 完形	長 (4.3) 幅 1.8 孔 0.3	焼物	全出土例の中では細い土錘。質は土師器質。両端部欠損。	
第142図 No２ PL－100	土師器 器台	覆土	脚部 1/5	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	脚部外面正放射状のヘラ磨き。脚部内面ヘラナデ。	杯部欠損。
第142図 No３ PL－100	軟質陶器 香炉	覆土	底部 小片	口 底 7.0 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR橙	脚部手捏ね成形。外面体部ヘラ磨き。内面底部にロクロ痕を残す。	
第142図 No４ PL－100	軟質陶器 火鉢か	覆土	口縁 小片	口14.0 底 高	①細粒砂 ②還元焔 ③暗灰	口唇部内端剥落。ロクロ成形。外面体部横方向のヘラ磨き。内面体部ロクロ痕。	

D区２号溝

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第142図 No１ PL－100	土師器 杯	覆土	胴 底部 小片	口 底 8.0 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	ロクロ成形。成形時ロクロ左回転。底部外面に回転糸切り痕を残す。	底部拓本
第142図 No２ PL－100	擦り石	覆土	完形	長 7.6 幅 7.55 厚 3.75	粗流輝石安山岩	側面に比し表裏面は滑らか、１面に不整形な窪み。	重さ279.86g

D区２号溝

図 番 号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第142図 No３ ＰＬ－100	石鉢	覆土	口縁 小片	口25.4 底 高	粗流輝石安山岩	残存部位は端部平坦な口縁部のみであるが、形状から口縁部に最大径を持つと思われる。	重さ366.24g

D区５号溝

図 番 号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第142図 No１ ＰＬ－100	土製 土垂	覆土	ほぼ 完形	長 3.8 幅 1.9 孔 0.4	焼物	全出土例の中では細い土錘。質は土師器質。両端部欠損。	
第142図 No２ ＰＬ－100	砥石	覆土	小片	長 (4.1) 幅 3.0 厚 1.85	蛇紋岩	手持ち砥。４面使用。両端欠損。	重さ30.17g
第142図 No３ ＰＬ－100	土師器 杯	覆土	小片	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR鈍い赤褐	片面に墨書	墨書土器

D区６号溝

図 番 号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第142図 No１ ＰＬ－100	かわらけ	覆土	口縁 底部 小片	口 6.0 底 3.6 高 3.0	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR橙	ロクロ成形。底部に回転糸切り痕を僅か残す。	底部拓本
第142図 No２ ＰＬ－100	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.43 厚 0.09 重 1.84	銅製	太平通寶	北宋 977年
第142図 No３ ＰＬ－100	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.45 厚 0.15 重 2.47	銅製	太平通寶	北宋 977年

E区１号溝

図 番 号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第142図 No１ ＰＬ－100	瓦	覆土	小片	口 底 高	① ② ③	軒平瓦の端部。蓮華文と思われる。	
第142図 No２ ＰＬ－100	平瓦	覆土	小片	口 底 高	① ② ③	平瓦の端部。側面ヘラ削り。内面端部に面取り。布目確認できない。	
第142図 No３ ＰＬ－100	かわらけ	覆土	底部 胴 3/5	口10.6 底 3.6 高 2.1	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	ロクロ成形。成形時ロクロ右回転。底部に回転糸切り痕を僅か残す。	
第142図 No４ ＰＬ－100	軟質陶器 鉢	覆土	底部 胴 小片	口 底12.6 高	①粗粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR橙	外面体部指ナデ。	
第142図 No５ ＰＬ－101	焼締陶器 擂鉢	覆土	底部 小片	口 底12.0 高	①粗粒砂 ②還元焔 ③7.5YR鈍い褐	体部に８条１単位の目を間隔を空けて刻む。成形時ロクロ右回転、外面底部に回転糸切り痕を残す。	
第143図 No６ ＰＬ－101	土師器 甕		口縁 胴 2/5	口16.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ナデの後、横方向のヘラ磨き。口縁部内外面横ナデ。	
第143図 No７ ＰＬ－101	土師器 甕	覆土	口縁 胴 1/5	口17.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR灰黄褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ナデ、肩部から頸部に掛けて横方向のヘラ磨き、部分的に指頭痕を残す。口縁部内外面横ナデ。	

E区２号溝

図 番 号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第143図 No１ ＰＬ－101	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.42 厚 0.16 重 2.79	銅製	元祐通宝	北宋 1093年
第143図 No２ ＰＬ－101	砥石	覆土	小片	長 (3.9) 幅 5.0 厚 (8.5)	珪質粘板岩	手持ち砥か。現状では１面使用。両端及び下面欠損。	重さ21.00g
第143図 No３ ＰＬ－101	焼締陶器 擂鉢	覆土	口縁 胴 2/5	口34.6 底12.4 高12.4	①粗粒砂 ②還元焔 ③2.5YR黄褐	体部は直線的に開く。体部に５目１単位の粗い目が２対、計４カ所に刻まれる。底部付近は使用による摩滅が認められる。	
第143図 No４ ＰＬ－101	焼締陶器 擂鉢	覆土	口縁 底部 3/5	口22.4 底14.2 高11.1	①粗粒砂 ②還元焔 ③10YR鈍い黄橙	体部は直線的に開き、口縁部は僅か外反し片口が設けられる。体部から底部に４目１単位の目が粗く等間隔に刻まれる。底部付近は使用による摩滅が認められる。	

E区2号溝

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第143図 No5 PL－101	石臼	覆土	口縁 底部 1/5	最大径 厚	粗流輝石安山岩	上面及び底面は比較的丁寧な整形。側面に方形の挽木穴の一部を残す。挽面は摩耗し目は残らない。	重さ94.34g

E区6号溝

第143図 No1 PL－101	軟質陶器 内耳鍋	覆土	口縁 底部 小片	口 29.6 底 30.0 高 16.4	①細粒砂 ②還元焔 ③5YR黒褐	口縁部は外反し、内面に稜を持つ。外面胴部ヘラ削り。内面胴部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第143図 No2 PL－101	軟質陶器 内耳鍋	覆土	口縁 底部 2/5	口 31.0 底 21.0 高 15.1	①粗粒砂 ②酸化焔 ③10YR黒褐	深鍋。口縁部端平坦。耳部のある位置のみ外面張り出す。外面胴部ヘラ削り。内面ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	

B区2号溝

第142図 No1 PL－101	砥石	覆土	部分	長(12.6) 幅 2.3 厚 2.15	砥沢石	手持ち砥。1面使用、両側面・裏面の仕上げは粗雑。端部欠損。	

A区2号土坑

第147図 No1 PL－102	土師器 杯	覆土	ほぼ 完形	口 15.7 底 高 7.7	①細粒砂 ②外面底部黒斑 ③5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面全面ナデ後、体部に斜放射状ヘラ磨き。口縁部内外面横ナデ。	
第147図 No2 PL－102	土師器 杯	覆土	ほぼ 完形	口 12.8 底 高 6.0	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面底部ヘラナデ調整後横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第147図 No3 PL－102	土師器 杯	覆土	口縁 底部 4/5	口 10.8 底 高 5.4	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR橙	外面底部ヘラ削り。内面全面ナデ後、体部に丁寧な斜放射状ヘラ磨き。口縁部内外面横方向のナデ。	
第147図 No4 PL－102	土師器 杯	覆土	口縁 底部 4/5	口 12.8 底 5.6 高 8.0	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	底部平底。口縁非水平。外面体部ヘラ削り。内面体部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第147図 No5 PL－102	土師器 杯	覆土	口縁 底部 2/5	口 15.0 底 高 6.2	①粗粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR鈍い橙	外面底部ヘラ削り。内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第147図 No6 PL－102	土師器 杯	覆土	口縁 小片	口 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面全面ナデ後、体部に丁寧な斜放射状ヘラ磨き。口縁部内外面横方向のナデ。	
第147図 No7 PL－102	土師器 杯	覆土	口縁 小片	口 14.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面に極僅かにヘラ磨き痕。口縁部内外面横方向のナデ。	

A区8号土坑

第149図 No1 PL－102	土師器 杯	覆土	口縁 小片	口 12.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	外面底部ヘラ削り。内面底部横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第149図 No2 PL－102	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口 20.2 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	外面胴部上方向のヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	

A区10号土坑

第150図 No1 PL－103	土師器 杯	覆土	ほぼ 完形	口 12.3 底 高 4.6	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR橙	底部丸底。外面底部ヘラ削り、外面口縁部横ナデ。内面全面ナデの後、中位より口縁部に掛けて斜放射状のヘラ磨き。	
第150図 No2 PL－103	土師器 甕	覆土	口縁 小片	口 22.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR褐灰	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第150図 No3 PL－102	土師器 甑	覆土	口縁 底部 2/5	口 20.0 底 9.0 高 32.3	①細粒砂 ②酸化焔 ③7.5YR橙	外面胴部上方向のヘラ削り。内面胴部上方向のヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第150図 No4 PL－102	土師器 甕	覆土	口縁 胴 2/5	口 25.5 底 9.0 高 29.5	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
A区14号土坑							
第151図 No１ ＰＬ－103	土師器 杯	覆土	口縁 底部 1/5	口11.1 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面ヘラ削り後、口縁部ヘラ磨き。内面ナデ後、体部に丁寧な斜放射状のヘラ磨き。	
A区17号土坑							
第153図 No１ ＰＬ－103	土師器 高坏	覆土	杯部 1/5	口14.8 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③2.5YR明赤褐	外面体部下位は浅く窪み、緩やかな段を有する。外面底部ヘラ削り。内面底部は浅い段を有し、横方向のナデ。口縁部内外面横ナデ。	脚部欠損。
第153図 No２ ＰＬ－103	土師器 杯	覆土	口縁 底部 1/5	口12.8 底 高 5.8	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面底部ヘラ削り。内面底部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第153図 No３ ＰＬ－103	土師器 椀	覆土	口縁 底部 3/5	口 8.0 底 高 6.3	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	底部丸底。外面体部ヘラ削り。内面体部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第153図 No４ ＰＬ－103	土師器 甕	覆土	ほぼ 完形	口13.6 底 6.4 高15.7	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	底部肉厚平底。外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第153図 No５ ＰＬ－103	土師器 甕	覆土	口縁 1/5	口16.2 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	口縁部内外面横ナデ。	
第153図 No６ ＰＬ－103	土師器 甕	覆土	口縁 1/5	口17.2 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	外面胴部上方向のヘラ削り。内面胴部横方向のヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	
第153図 No９ ＰＬ－103	土師器 甕	覆土	底部 胴 2/5	口 底 5.6 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	底部肉厚平底、僅か内側に窪む。外面胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ、輪積痕を残す。	
Ｂ－２区８号土坑							
第155図 No１ ＰＬ－103	土師器 甕	覆土	口縁 胴 1/5	口13.0 底 高	①細粒砂 ②酸化焔 ③5YR明赤褐	外面胴部ヘラ削り。内面胴部ナデ。口縁部内外面横ナデ。	
D区６号土坑							
第159図 No１ ＰＬ－103	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.53 厚 0.15 重 2.97	銅製	天禧通寶	北宋 1108年
第159図 No２ ＰＬ－103	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.46 厚 0.14 重 2.94	銅製	元祐通宝	北宋 1093年
第159図 No３ ＰＬ－103	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.5 厚 0.13 重 2.58	銅製	皇宋通宝	北宋 1039年
第159図 No４ ＰＬ－103	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.59 厚 0.13 重 3.10	銅製	皇宋通宝	北宋 1039年
D区60号土坑							
第161図 No１ ＰＬ－103	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.43 厚 0.13 重 2.94	銅製	治平元宝	北宋 1064年
D区61号土坑							
第163図 No１ ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.44 厚 0.13 重 3.03	銅製	景得元寶	４枚凝着して出土 北宋 1005年
第163図 No２ ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.38 厚 0.15 重 3.59	銅製	洪武通寶	４枚凝着して出土 明 1368年
第163図 No３ ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.52 厚 0.14 重 3.00	銅製	開元通寶	４枚凝着して出土 唐 621年
第163図 No４ ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.44 厚 0.18 重 3.77	銅製	政和通寶	４枚凝着して出土 北宋 1111年

D区61号土坑

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第163図 No５ ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.45 厚 0.17 重 2.45	銅製	元祐通寳	北宋 1093年
第163図 No６ ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.48 厚 0.14 重 3.04	銅製	政和通寳	北宋 1111年

D区62号土坑

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第164図 No１ ＰＬ－103	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.75 厚 0.12 重 2.71	銅製	嘉祐通寳	北宋 1057年

Ｂ－５区８号土坑

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第167図 No１ ＰＬ－104	砥石	覆土	完形	長 7.85 幅 2.4 厚 2.25	砥沢石	手持ち砥。４面使用。	重さ65.45g
第167図 No２ ＰＬ－104	砥石	覆土	破片	長 (8.9) 幅 2.5 厚 1.85	砥沢石	手持ち砥。１面使用、２面削り。両端欠損。	重さ71.32g
第167図 No３ ＰＬ－104	軟質陶器 甕	覆土	口縁 小片	口24.6 底 高	①粗粒砂 ②酸化焔・還元焔 ③10YR浅黄橙	内外面にロクロ痕。	
第167図 No４ ＰＬ－104	軟質陶器 鍋	覆土	口縁 底部 1/5	口 底18.3 高	①粗粒砂 ②還元焔 ③N灰	浅鍋。内外面共に丁寧な成形。	

D区８号土坑

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第168図 No１ ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.54 厚 0.14 重 3.56	銅製	寛永通宝（文銭）	背紋「文」
第168図 No２ ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.54 厚 0.13 重 3.7	銅製	寛永通宝（文銭）	背紋「文」
第168図 No３ ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.54 厚 0.14 重 3.67	銅製	寛永通宝（文銭）	背紋「文」
第168図 No４ ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.56 厚 0.14 重 3.11	銅製	寛永通宝（文銭）	背紋「文」
第168図 No５ ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.54 厚 0.11 重 3.14	銅製	寛永通宝（文銭）	背紋「文」
第168図 No６ ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.55 厚 0.14 重 3.25	銅製	寛永通宝（文銭）	背紋「文」
第168図 No７ ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.55 厚 0.14 重 3.69	銅製	寛永通宝（文銭）	12枚凝着、布付着状態で出土。背紋「文」
第168図 No８ ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.55 厚 0.15 重 4.14	銅製	寛永通宝（文銭）	12枚凝着、布付着状態で出土。背紋「文」
第168図 No９ ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.43 厚 0.16 重 3.42	銅製	寛永通宝	12枚凝着、布付着状態で出土。
第168図 No10 ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.48 厚 0.13 重 3.37	銅製	寛永通宝（古寛永）	12枚凝着、布付着状態で出土。
第168図 No11 ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.53 厚 0.12 重 3.01	銅製	寛永通宝（古寛永）	12枚凝着、布付着状態で出土。

D区８号土坑

図番号 写真図版	種類 器種	出土 位置	残存 状態	量目 (cm, g)	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
第168図 No12 ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.42 厚 0.14 重 3.47	銅製	寛永通宝（古寛永）	12枚凝着、布付着状態で出土。
第168図 No13 ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.47 厚 0.14 重 3.77	銅製	寛永通宝（古寛永）	12枚凝着、布付着状態で出土。
第168図 No14 ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.56 厚 0.12 重 3.17	銅製	寛永通宝（古寛永）	12枚凝着、布付着状態で出土。
第168図 No15 ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.46 厚 0.15 重 4.39	銅製	寛永通宝（古寛永）	12枚凝着、布付着状態で出土。
第168図 No16 ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.43 厚 0.12 重 3.02	銅製	寛永通宝（古寛永）	12枚凝着、布付着状態で出土。
第168図 No17 ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.46 厚 0.13 重 2.71	銅製	寛永通宝（古寛永）	12枚凝着、布付着状態で出土。
第168図 No18 ＰＬ－104	古銭	覆土	ほぼ 完形	径 2.33 厚 0.15 重 2.49	銅製	紹聖元寳（北宋 1094年）	12枚凝着、布付着状態で出土。

D区11号土坑

第169図 No１ ＰＬ－104	かわらけ	覆土	完形	口 11.2 底 2.8 高 2.6	①粗粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	ロクロ成形。成形時ロクロ左回転。底部外面に回転糸切り痕を残す。	底部拓本

D区17号土坑

第171図 No１ ＰＬ－105	焼締陶器 擂鉢	覆土	口縁 底部 2/5	口 35.0 底 15.4 高 23.5	①粗粒砂 ②還元焔 ③7.5YR鈍い褐	口縁部は段を有し、体部は直線的に開く。15状一単位の細かい目が放射状に刻まれる。内部底部付近に使用による摩滅が認められる。	

D区18号土坑

第172図 No１ ＰＬ－104	かわらけ	覆土	口縁 底部 3/5	口 10.0 底 2.75 高 2.9	①粗粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	ロクロ成形。成形時ロクロ左回転。底部外面に回転糸切り痕を残す。	底部拓本

D区22号土坑

第173図 No１ ＰＬ－105	かわらけ	覆土	完形	口 9.6 底 2.8 高 2.5	①細粒砂 ②酸化焔 ③10YR鈍い黄橙	ロクロ成形。成形時ロクロ左回転。底部外面に回転糸切り痕を残す。	底部拓本
第173図 No２ ＰＬ－105	陶器 皿	覆土	完形	口 13.3 底 4.6 高 4.2	①細粒砂 ②還元焔 ③10Yオリーブ黒	ロクロ成形。削りだし高台。外面長石釉、内面銅緑釉、内底蛇の目状の釉剥ぎ。内底にトチン痕残る。	
第173図 No３ ＰＬ－105	陶器 皿	覆土	完形	口 13.5 底 4.6 高 3.6	①細粒砂 ②還元焔 ③7.5Y暗オリーブ	ロクロ成形。削りだし高台。外面長石釉、内面銅緑釉、内底蛇の目状の釉剥ぎ。内底にトチン痕残る。	

D区23号土坑

第175図 No１ ＰＬ－105	古銭	覆土	完形	径 2.24 厚 0.14 重 2.21	銅製	政和通寳（北宋 1111年）	２枚凝着、布付着状態で出土。
第175図 No２ ＰＬ－105	古銭	覆土	完形	径 2.48 厚 0.12 重 2.54	銅製	元祐通宝（北宋 1093年）	３枚凝着、布付着状態で出土。
第175図 No３ ＰＬ－105	古銭	覆土	完形	径 2.46 厚 0.14 重 3.02	銅製	政和通寳（北宋 1111年）	３枚凝着、布付着状態で出土。
第175図 No４ ＰＬ－105	古銭	覆土	完形	径 2.54 厚 0.15 重 3.24	銅製	寛永通宝（新寛永）	５枚凝着、布付着状態で出土。
第175図 No５ ＰＬ－105	古銭	覆土	完形	径 2.31 厚 0.14 重 2.6	銅製	寛永通宝（文銭）	５枚凝着、布付着状態で出土。背紋「文」